

公益財団法人鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（48）

東九州自動車道建設（志布志 IC ～鹿屋串良 JCT 間）に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

かす が ぼり い せき 春日堀遺跡 2

～縄文時代早期編～

（志布志市有明町）

第 2 分冊

2022年 3月

鹿児島県教育委員会
公益財団法人鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター

第2分冊 本文目次

第Ⅲ章 調査の成果……………	1	6 重複遺構……………	180
第1節 遺構……………	1	7 その他の遺構……………	285
5 集石……………	1		

第2分冊 挿図目次

第1図 28号集石・出土遺物……………	2	第32図 388, 401, 408号集石・出土遺物……………	33
第2図 40号集石……………	3	第33図 411, 417, 421号集石・417, 421号集石出土遺物……………	34
第3図 60号集石・出土遺物……………	4	第34図 428, 430号集石・428号集石出土遺物……………	35
第4図 69, 70, 74号集石……………	5	第35図 1号集石……………	36
第5図 85号集石・出土遺物……………	6	第36図 2, 3, 5, 6号集石……………	37
第6図 102号集石①……………	7	第37図 7, 8号集石……………	38
第7図 102号集石②……………	8	第38図 10, 11, 12, 13号集石……………	39
第8図 102号集石③……………	9	第39図 14号集石……………	40
第9図 102号集石④・出土遺物……………	10	第40図 16, 17, 18, 19, 20号集石……………	41
第10図 105, 116, 119号集石……………	11	第41図 21, 22号集石・出土遺物……………	42
第11図 144号集石……………	12	第42図 23号集石①・出土遺物……………	43
第12図 144号集石出土遺物……………	13	第43図 23号集石②……………	44
第13図 146号集石……………	14	第44図 23号集石③……………	45
第14図 146号集石出土遺物……………	15	第45図 24, 25, 26号集石・26号集石出土遺物……………	46
第15図 147号集石①・出土遺物……………	16	第46図 27号集石……………	47
第16図 147号集石②……………	17	第47図 29号集石・出土遺物……………	48
第17図 147号集石③……………	18	第48図 30, 31号集石・31号集石出土遺物……………	49
第18図 150, 176号集石……………	19	第49図 32号集石・出土遺物……………	50
第19図 168号集石・出土遺物……………	20	第50図 34号集石・出土遺物……………	51
第20図 182, 184号集石……………	21	第51図 35, 36号集石・36号集石出土遺物……………	52
第21図 194, 203号集石・194号集石出土遺物……………	22	第52図 37号集石……………	53
第22図 215号集石……………	23	第53図 38号集石……………	54
第23図 215号集石出土遺物……………	24	第54図 39, 42号集石……………	55
第24図 231号集石……………	25	第55図 41号集石……………	56
第25図 235, 238号集石・238号集石出土遺物……………	26	第56図 43号集石……………	57
第26図 248, 259, 264号集石・248, 264号集石出土遺物……………	27	第57図 47号集石……………	58
第27図 268, 273, 274, 279号集石・ 273, 279号集石出土遺物……………	28	第58図 44, 45, 46, 48, 49号集石・48号集石出土遺物……………	59
第28図 283, 286, 291, 292, 293, 295号集石・ 295号集石出土遺物……………	29	第59図 50, 51, 52号集石・51号集石出土遺物……………	60
第29図 299, 311, 335, 339, 344号集石・ 344号集石出土遺物……………	30	第60図 55, 56号集石・出土遺物……………	61
第30図 345, 352, 356, 357, 361号集石・ 352, 356, 361号集石出土遺物……………	31	第61図 57, 58号集石・58号集石出土遺物……………	62
第31図 363, 376, 379号集石・363, 379号集石出土遺物……………	32	第62図 61号集石……………	63
		第63図 64, 65号集石・65号集石出土遺物……………	64
		第64図 66, 67, 68, 72, 73, 76号集石……………	65
		第65図 77, 79号集石・79号集石出土遺物……………	66
		第66図 83, 84, 86号集石・84, 86号集石出土遺物……………	67

第67回	88, 89, 90, 91, 92号集石・91号集石出土遺物	68	第103回	227, 228号集石・出土遺物	104
第68回	93, 94, 95, 96, 97号集石・ 94, 96, 97号集石出土遺物	69	第104回	229号集石・出土遺物	105
第69回	98, 100, 101号集石・100, 101号集石出土遺物	70	第105回	230号集石・出土遺物	106
第70回	106号集石	71	第106回	232, 233, 234号集石	107
第71回	104, 107号集石	72	第107回	236号集石	108
第72回	108号集石・出土遺物	73	第108回	236号集石出土遺物①	109
第73回	109, 110, 113, 114, 115号集石・ 114号集石出土遺物	74	第109回	236号集石出土遺物②	110
第74回	117, 118, 120, 121, 122号集石・ 118, 120号集石出土遺物	75	第110回	237号集石・出土遺物	111
第75回	123, 124, 126, 127, 128, 129号集石・ 124号集石出土遺物	76	第111回	239, 240号集石	112
第76回	133, 134号集石	77	第112回	242, 244号集石・244号集石出土遺物	113
第77回	139号集石	78	第113回	246号集石	114
第78回	135号集石・139号集石出土遺物	79	第114回	246号集石出土遺物①	115
第79回	138, 140, 141号集石・141号集石出土遺物	80	第115回	246号集石出土遺物②	116
第80回	142号集石・出土遺物	81	第116回	246号集石出土遺物③	117
第81回	143号集石・出土遺物	82	第117回	247, 249号集石・247号集石出土遺物	118
第82回	145号集石・出土遺物	83	第118回	250, 251, 252, 253, 254号集石・ 253号集石出土遺物	119
第83回	149, 151, 152, 156号集石	84	第119回	255, 256, 258, 260, 261号集石・ 261号集石出土遺物	120
第84回	157, 158号集石	85	第120回	265, 266, 267, 270, 271号集石・ 267, 270号集石出土遺物	121
第85回	159, 160号集石・160号集石出土遺物	86	第121回	272, 275, 276, 277, 278号集石・ 272号集石出土遺物	122
第86回	163, 165号集石・出土遺物	87	第122回	281, 282, 284, 285, 287, 288号集石・ 281号集石出土遺物	123
第87回	166号集石・出土遺物	88	第123回	289, 290, 294, 296, 297, 298号集石	124
第88回	167, 171, 172, 173号集石	89	第124回	300, 302, 303, 304, 305号集石・ 304号集石出土遺物	125
第89回	174, 175, 178号集石	90	第125回	306, 307, 308, 309号集石・ 307, 309号集石出土遺物	126
第90回	179, 180, 183, 185, 188号集石・ 183号集石出土遺物	91	第126回	310, 313, 314, 315, 316, 317, 320号集石・ 310, 313, 315号集石出土遺物	127
第91回	189, 190号集石	92	第127回	319, 321, 322, 324号集石・出土遺物	128
第92回	195, 197号集石・195号集石出土遺物	93	第128回	325, 326, 327, 328, 329号集石・ 329号集石出土遺物	129
第93回	198, 200, 202号集石・200号集石出土遺物	94	第129回	331, 332, 334号集石・331号集石出土遺物	130
第94回	206号集石・出土遺物	95	第130回	336, 337, 338号集石・出土遺物	131
第95回	208, 209, 210号集石・208, 210号集石出土遺物	96	第131回	340, 341, 342, 343号集石・ 340, 341, 343号集石出土遺物	132
第96回	211, 212, 213号集石・212号集石出土遺物	97	第132回	346, 347, 348, 350, 351, 353号集石・ 348号集石出土遺物	133
第97回	214号集石	98			
第98回	216号集石・出土遺物	99			
第99回	217, 219号集石	100			
第100回	220, 222, 225号集石	101			
第101回	223号集石	102			
第102回	224号集石	103			

第133図	355, 358, 360, 364号集石・364号集石出土遺物	134	第163図	221, 226号集石・226号集石出土遺物	164
第134図	365, 366, 367, 368, 369号集石・ 365, 366号集石出土遺物	135	第164図	241, 243, 245, 257, 262, 263号集石・ 241, 245, 262号集石出土遺物	165
第135図	370, 371, 372, 373号集石・ 370, 373号集石出土遺物	136	第165図	269, 280, 301, 312, 318, 323号集石・ 318, 323号集石出土遺物	166
第136図	374, 375, 378, 380, 381, 382, 383号集石・ 375号集石出土遺物	137	第166図	330, 349, 359, 377, 415, 422, 433号集石・ 349, 433号集石出土遺物	167
第137図	384, 385, 386, 387, 389, 390, 391, 392号集石・ 384, 392号集石出土遺物	138	第167図	重複遺構1	181
第138図	393, 394, 395, 396, 397, 398号集石・ 393号集石出土遺物	139	第168図	重複遺構1出土遺物	182
第139図	399, 400, 402, 403, 404, 405, 406号集石・ 399, 402号集石出土遺物	140	第169図	重複遺構2	183
第140図	407, 409, 410, 412, 413, 416号集石・ 407号集石出土遺物	141	第170図	重複遺構3・出土遺物	184
第141図	418, 419, 420, 423, 424, 425号集石・ 419号集石出土遺物	142	第171図	重複遺構4・周辺ピット	185
第142図	426, 427, 429, 431, 432, 434号集石・ 426, 429号集石出土遺物	143	第172図	重複遺構4(5号竪穴建物跡)遺物出土状況・ 周辺ピット断面図	186
第143図	177, 187号集石・187号集石出土遺物	144	第173図	重複遺構4出土遺物①	187
第144図	196号集石・出土遺物	145	第174図	重複遺構4出土遺物②	188
第145図	199, 333号集石・出土遺物	146	第175図	重複遺構4出土遺物③	189
第146図	354, 362, 414号集石・414号集石出土遺物	147	第176図	重複遺構5	190
第147図	4号集石	148	第177図	重複遺構5出土遺物	191
第148図	9号集石・出土遺物	149	第178図	重複遺構6	192
第149図	15, 33, 53号集石	150	第179図	重複遺構7	193
第150図	54, 59, 62号集石	151	第180図	重複遺構7出土遺物①	194
第151図	63, 71, 75, 78, 80, 81号集石・ 81号集石出土遺物	152	第181図	重複遺構7出土遺物②	195
第152図	82, 87, 99, 103, 111号集石・ 103, 111号集石出土遺物	153	第182図	重複遺構8・出土遺物	196
第153図	112, 125号集石	154	第183図	重複遺構9・出土遺物	197
第154図	130, 131号集石・出土遺物	155	第184図	重複遺構10・出土遺物①	198
第155図	132号集石・出土遺物	156	第185図	重複遺構10出土遺物②	199
第156図	136号集石・出土遺物	157	第186図	重複遺構11	200
第157図	137, 148, 153, 154号集石・148号集石出土遺物	158	第187図	重複遺構11出土遺物	201
第158図	155, 161, 162号集石・155, 161号集石出土遺物	159	第188図	重複遺構12・出土遺物	202
第159図	164号集石・出土遺物	160	第189図	重複遺構13・出土遺物	203
第160図	169, 170, 181, 186号集石・186号集石出土遺物	161	第190図	重複遺構14, 15・出土遺物	204
第161図	191, 192, 193号集石・192号集石出土遺物	162	第191図	重複遺構16・出土遺物	205
第162図	201, 204, 205, 207, 218号集石	163	第192図	重複遺構17	206
			第193図	重複遺構17出土遺物	207
			第194図	重複遺構18・出土遺物	208
			第195図	重複遺構19・出土遺物	209
			第196図	重複遺構20	210
			第197図	重複遺構20出土遺物	211
			第198図	重複遺構21・出土遺物	212
			第199図	重複遺構22	213

第200図 重複遺構23・出土遺物	214	第236図 重複遺構70・出土遺物	251
第201図 重複遺構24・出土遺物	215	第237図 重複遺構71・出土遺物	252
第202図 重複遺構25・出土遺物	216	第238図 重複遺構72・出土遺物	253
第203図 重複遺構26, 27・重複遺構27出土遺物	217	第239図 重複遺構73, 74・重複遺構73出土遺物	254
第204図 重複遺構28, 29, 30・重複遺構30出土遺物	218	第240図 重複遺構75	255
第205図 重複遺構31, 32・重複遺構31出土遺物	219	第241図 重複遺構75出土遺物	256
第206図 重複遺構33	220	第242図 重複遺構76・出土遺物	257
第207図 重複遺構34	221	第243図 重複遺構78	258
第208図 重複遺構35	222	第244図 重複遺構78出土遺物	259
第209図 重複遺構37・重複遺構35, 37出土遺物	223	第245図 重複遺構77・280号土坑遺物出土状況	260
第210図 重複遺構36・出土遺物	224	第246図 重複遺構79・重複遺構77, 79出土遺物	261
第211図 重複遺構38, 40	225	第247図 重複遺構81	262
第212図 重複遺構39	226	第248図 重複遺構80・重複遺構81出土遺物	263
第213図 重複遺構41	227	第249図 重複遺構82, 83・重複遺構83出土遺物	264
第214図 重複遺構41出土遺物①	228	第250図 重複遺構84, 85・重複遺構85出土遺物	265
第215図 重複遺構41出土遺物②	229	第251図 重複遺構86	266
第216図 重複遺構41出土遺物③・重複遺構42	230	第252図 重複遺構87・出土遺物	267
第217図 重複遺構43	231	第253図 重複遺構88, 89・重複遺構88出土遺物	268
第218図 重複遺構44・出土遺物	233	第254図 重複遺構90, 91・重複遺構91出土遺物	269
第219図 重複遺構45・出土遺物	234	第255図 重複遺構93・出土遺物	270
第220図 重複遺構46, 47・重複遺構47出土遺物	235	第256図 重複遺構92	271
第221図 重複遺構48, 49・出土遺物	236	第257図 重複遺構94・重複遺構92出土遺物	272
第222図 重複遺構50, 52・出土遺物	237	第258図 重複遺構95・出土遺物	273
第223図 重複遺構51・出土遺物	238	第259図 重複遺構96・出土遺物	274
第224図 重複遺構53, 54・重複遺構54出土遺物	239	第260図 重複遺構97・出土遺物	275
第225図 重複遺構55	240	第261図 重複遺構98, 99・出土遺物	276
第226図 重複遺構56・出土遺物	241	第262図 重複遺構100・出土遺物	277
第227図 重複遺構57, 58・重複遺構58出土遺物	242	第263図 重複遺構101・出土遺物	278
第228図 重複遺構59・出土遺物	243	第264図 重複遺構102・出土遺物	279
第229図 重複遺構60, 61・重複遺構61出土遺物	244	第265図 重複遺構103・出土遺物	280
第230図 重複遺構62・出土遺物	245	第266図 重複遺構104	281
第231図 重複遺構63, 64・重複遺構64出土遺物	246	第267図 重複遺構104出土遺物①	282
第232図 重複遺構65・出土遺物	247	第268図 重複遺構104出土遺物②	283
第233図 重複遺構66, 67・重複遺構66出土遺物	248	第269図 集積, 1号ピット, 集積出土遺物	285
第234図 重複遺構68・出土遺物	249	第270図 41号, 50号ピット	286
第235図 重複遺構69・出土遺物	250		

第三章 調査の成果

第1節 遺構

5 集石

集石は、434基が検出された。発掘調査時点において、密接する複数のまとまりを1つとして認識したものや、隣接する土坑を集石の一部として作図するなど周辺の状況に応じて記録している。整理作業では、これらの現場判断を尊重して可能な限り分解せずに掲載した。また、単独の土坑として記録されているが、ポイント等で照会した結果集石の下部に位置する土坑類は、集石と一体をなすものと見なし整理作業で合成して掲載している。

一方、発掘調査時点で集石下部土坑として実測した土坑で、上面の状況などを検討し、その結果礫を含まないと判断できたものについては土坑で掲載することとした。このような作業を経て、形状と礫の密集度合いで細分を行った。

1類は、掘り込みがあるものである。礫が密集するもの(1a類)と散在するもの(1b類)とに細分した。掘り込みは、形状が円形や楕円形状を呈し、壁面立ち上がり急なものや、緩やかで断面形状がすり鉢状を呈するものなど幅広い形状が認められた。

2類は、掘り込みが確認できなかったものである。礫が比較的密集するもの(2a類)と散在するもの(2b類)とに細分した。

集石を構成する礫は、石材や重量、円磨度分析を実施し、その結果を基に観察表をまとめた。これを総重量と総数で比較すると、全体的な傾向として50g以下の小礫を多用していることが見える。その一方で、300gを超える礫の使用が顕著な一群も見られた。この両者が帰属時期による差なのか、用途や集石のライフサイクルの差なのかは明確に出来なかった。集石を構成する石材には凝灰岩と砂岩を用い、わずかに花崗岩を有するものがある。凝灰岩と砂岩がほぼ同じ割合で構成されるものや、凝灰岩優位なもの、砂岩優位なものに分類できた。これは、この地域の河床礫に両者が混在していることを表していると思われ、集石礫の石材採集が近隣の河床に求められていたことを示すものと思われる。

集石内遺物について述べたい。当遺跡では、土器などの遺物と共に多数の礫が出土した。これらは、密集するものの他に散在しつつもある程度のまとまりとして認識可能な状況もあった。このため、発掘調査では、散在しているものについても集石として括り、記録類の作成を行っている。報告書作成においては、これを踏まえつつ作業を進めたが、遺物について掲載するにあたり、改めて検討を行った。すなわち、写真と図面類などから、集石として認定した後、礫に密接して出土した遺物や、集石下部の土坑内から出土したことが確認できた遺物を集

石内遺物とし、集石周辺で出土している集石内遺物とされたものは、包含層遺物として掲載することとした。この結果、各遺構図面内に土器や石器等が記録されているものでも図化していないものもある。

(1) 集石1a類

28号集石(第1図)

C-26区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×95cmの略円形プランで、礫は、土坑内を中心に4m×4mの範囲に広がる。構成礫は、土坑底面には見られず、底面より10cm程度上で収まる。総数は175点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点であるが、いずれも小破片のため図化は困難であった。石器は1点が出土し、これを図化した。面中央部に敲打等による明確な凹みが形成されている。

40号集石(第2図)

D-27区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、95cm×90cmの円形プランで、構成礫は、総数222点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

60号集石(第3図)

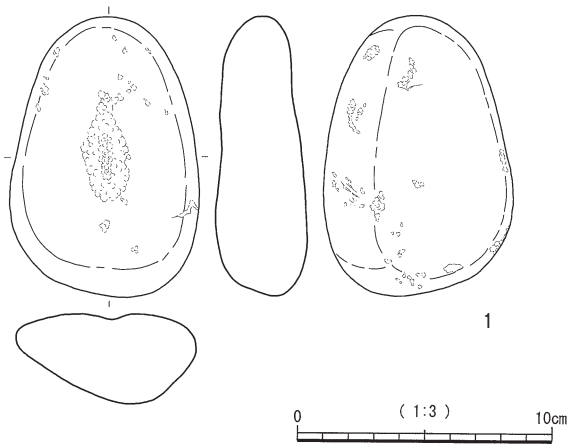
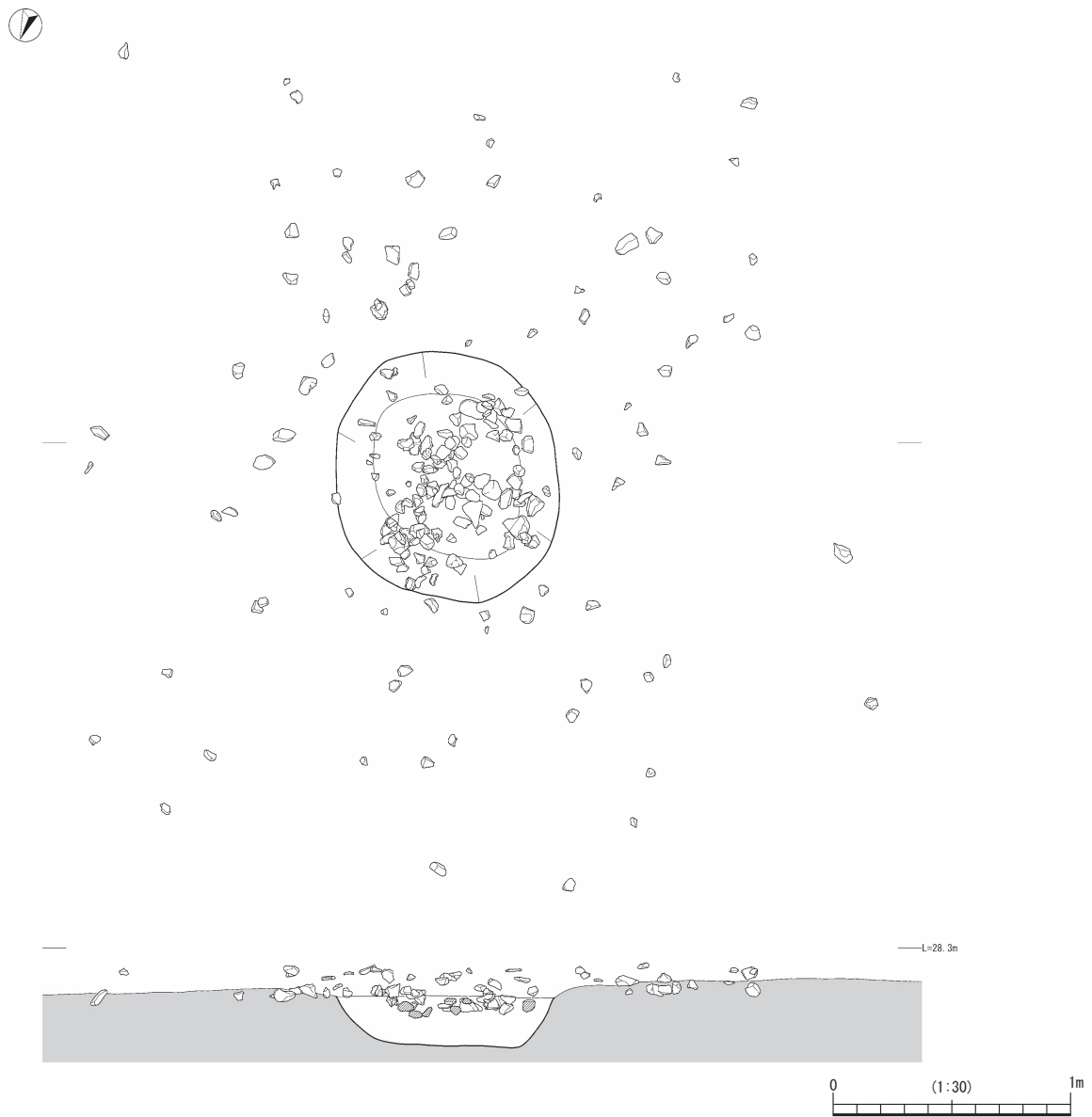
F-28区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、330cm×270cmの大型円形プランで、中央が深く、外周部分では緩やかになる。礫は、この比較的浅い部分に多い傾向が見られ、土坑の底面に礫は確認されなかった。構成礫は、総数502点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器7点で、このうち土器3点を図化した。いずれも小破片である。9号竪穴建物跡と8号竪穴建物跡の上面に重なる。掘り込み等が不明なため、単体で存在していたのか竪穴建物跡埋土中の礫であるのかははっきりしない。

69号集石(第4図)

B-30区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×85cmの楕円形プランで、礫は、土坑内を中心に1.4m×1.2mの範囲に広がる。構成礫は、総数172点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

70号集石(第4図)

B-30区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、125cm×105cmの楕円形プランで、礫は、土坑内にはほぼ収まる。構成礫は、総数221点で、



第1図 28号集石・出土遺物

石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

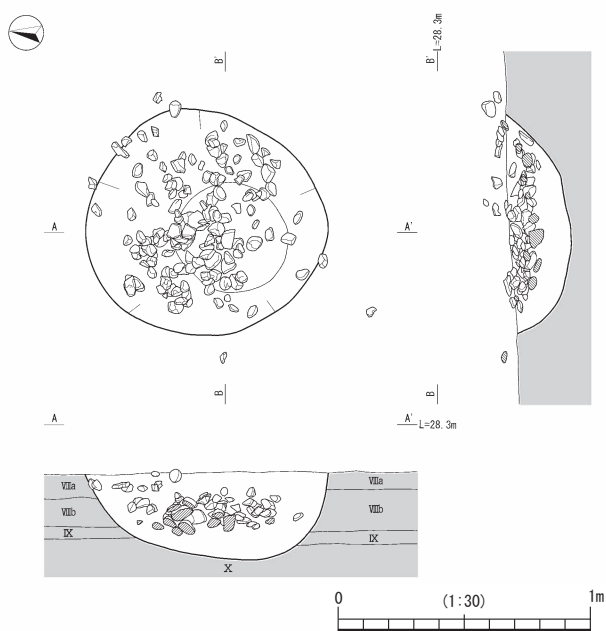
74号集石 (第4図)

C-30・31区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×65cmの略円形プランで、大型の礫が集中する部分は、35cm程度の2段掘り状を呈する。構成礫は、総数22点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

85号集石 (第5図)

F-30・31区Ⅷb層で検出した。礫の検出の後に土坑

40号集石



第2図 40号集石

を確認した。土坑は、130cm×110cmの楕円形プランを呈する。礫は、長軸4m、短軸3mの範囲に広がる。構成礫は、総数433点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器6点と石器1点で、このうち土器3点、石器1点を図化した。6は口縁部がやや内弯し、瘤状の突起が縦位と横位に添付される。文様は貝殻刺突文を全面に施すことから、11類に該当する。8は石鏃で脚部を欠損する。

102号集石 (第6～9図)

E-32・33区Ⅷ層で検出した。礫の検出と同時に複数の土坑も確認された。礫の集中域は2箇所あり、各々独立している可能性もあったが、現場段階で一連のものとして調査し図化していった。土坑は、5基あり、土坑①は略円形プランで135cm×120cm、土坑②は円形プランで65cm×65cm、土坑③は円形プランで110cm×110cm、土坑④は円形プランで75cm×55cm、土坑⑤は大型の円形プランで、内部に楕円形の2段掘りを呈し、検出面で345cm×325cmを測る。礫は、これらの掘り込み以外に、土坑②と③の間に集中域①として150cm程度のまとまりが、土坑⑤の東側に300cm程度のまとまりがある。土坑③は検出面から50cm程度の深さがあり特徴的である。構成礫は、総数1082点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器15点、石器3点で、石器は、磨製石斧1点、磨石片1点、石皿片1点で、このうち土器4点を図化した。いずれも小破片である。

105号集石 (第10図)

G-32区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、検出面での直径が100cmの円形プランで、部分的にわずかであるが2段掘り状を呈する場所がある。礫は、2m×1mの範囲に広がり、土坑外も認められるが、比較的土坑内に集中する。構成礫は、総数104点で、石材はわずかに砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

116号集石 (第10図)

F-33区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、65cm×65cmの円形プランで、礫は、この土坑内に密集して検出され、周辺1.5mの範囲にも広がりが見られた。構成礫は、総数69点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが、小破片のため図化は困難であった。石器は石皿片2点が出土している。

119号集石 (第10図)

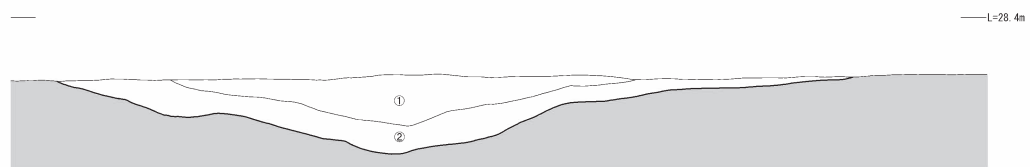
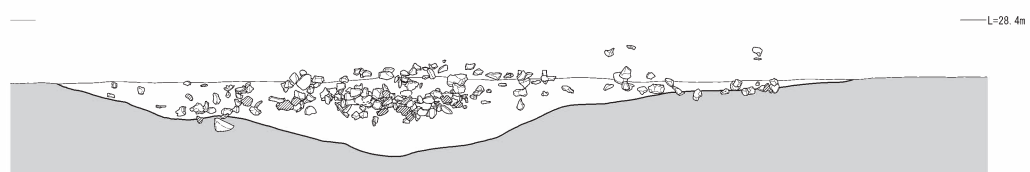
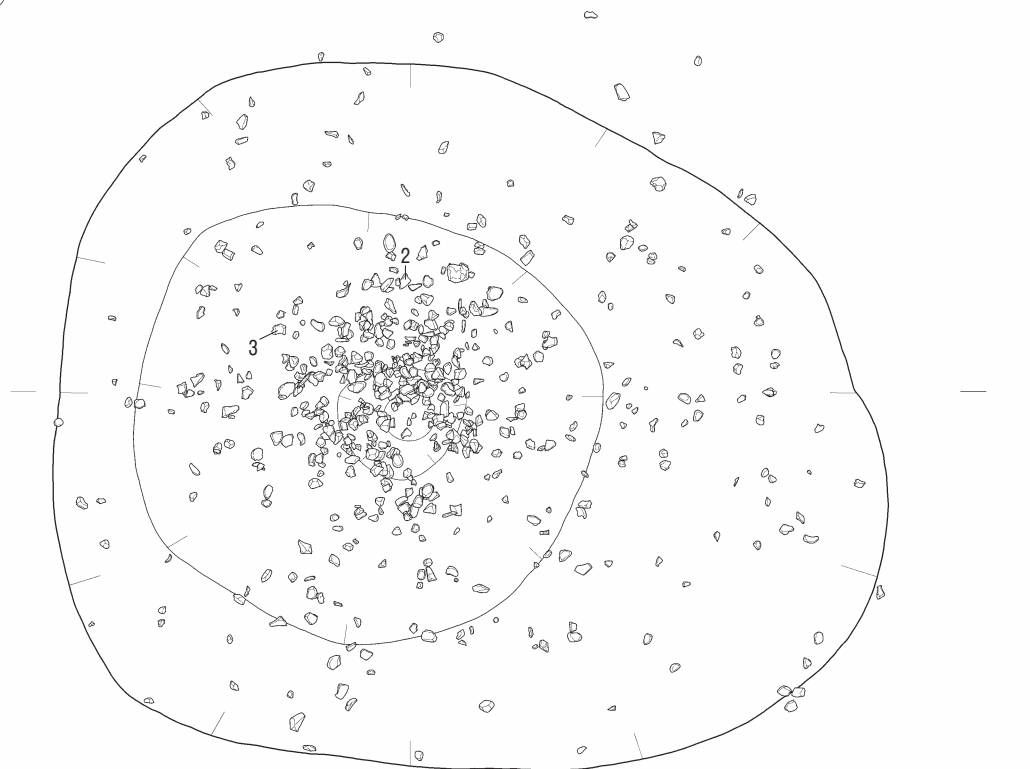
B-33区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、50cm×45cmの略円形プランで、礫は、土坑底面まで密な状態で、この土坑内にはほぼ収まる。構成礫は、総数58点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは石器2点で、いずれも小破片である。石器は、磨石片1点と石皿片1点が出土している。

144号集石 (第11・12図)

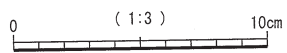
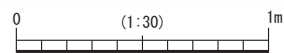
F-35区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×100cmの円形プランで、礫は、4mの範囲に広がる。構成礫は、総数263点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは土器12点で、このうち土器8点を図化した。

146号集石 (第13・14図)

F-34・35区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは、礫を取り上げた後に確認することが出来た。礫は、5m×5mの範囲に広がっているが、60cm四方の狭い範囲に礫の集中があり、この中には大型の礫が伴う。ここから東側へ土坑が延びており、150cm×75cmの楕円形プランを呈する。構成礫は、総数217点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器5点、石器8点で、このうち石器3点を図化した。石器8点の内訳は、剥片2点、磨製石斧片1点、磨石片3点、石皿片2点である。21が磨製石斧の基部片で、22は不定形礫の側面に明瞭な磨りや敲きにより面が形成される。23は石皿類で形状から2B類に分類した。

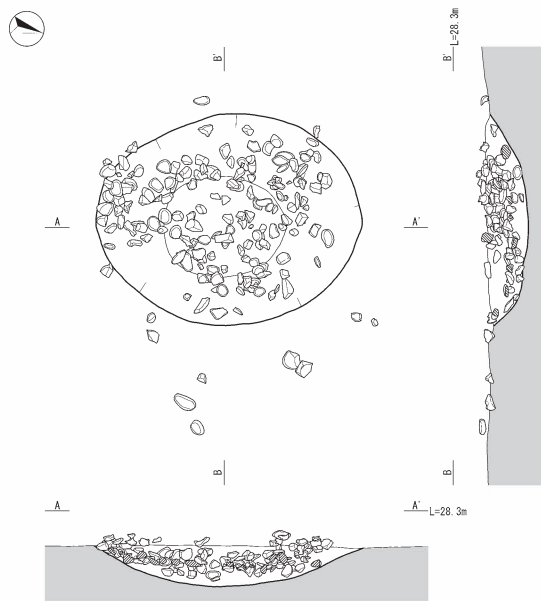


- ①黒褐色土
- ②暗黒褐色土

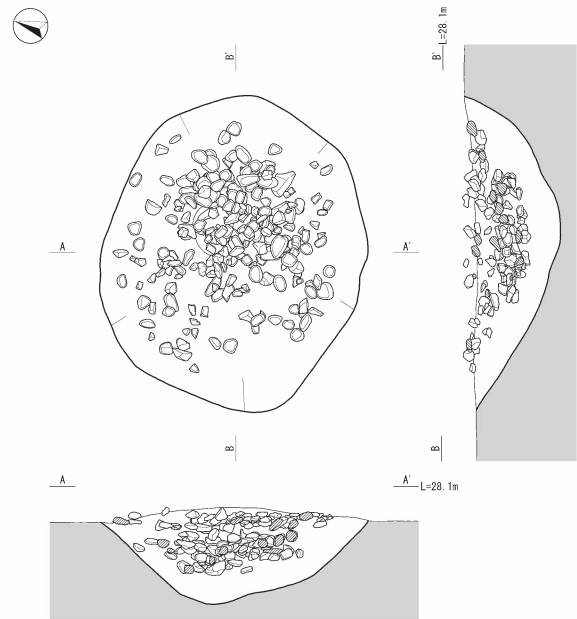


第3図 60号集石・出土遺物

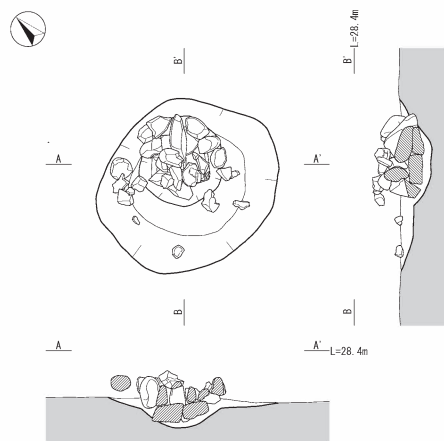
69号集石



70号集石



74号集石



遺構 0 (1:30) 1m

第4図 69, 70, 74号集石

147号集石 (第15~17図)

F-35区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に複数の土坑も確認された。土坑は、いずれも円形で6基確認された。現場では、これらを一連のものとして捉え、調査し図化していった。土坑①は70cm×50cm、土坑②は55cm×50cm、土坑③は70cm×70cm、土坑④は60cm×55cm、土坑⑤は5cm×50cm、土坑⑥は70cm×65cmであった。礫は、これら土坑周辺の5mの範囲に広がる。構成礫は、総数204点で、石材はわずかに凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点であるが、小破片のため図化は困難であった。石器は1点が出土し、これを図化した。24は磨石類3類に属する。

150号集石 (第18図)

E・F-35区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×100cmの円形プランで、礫は、この土坑内に収まる。構成礫は、総数111点で、石材は圧倒的に砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

176号集石 (第18図)

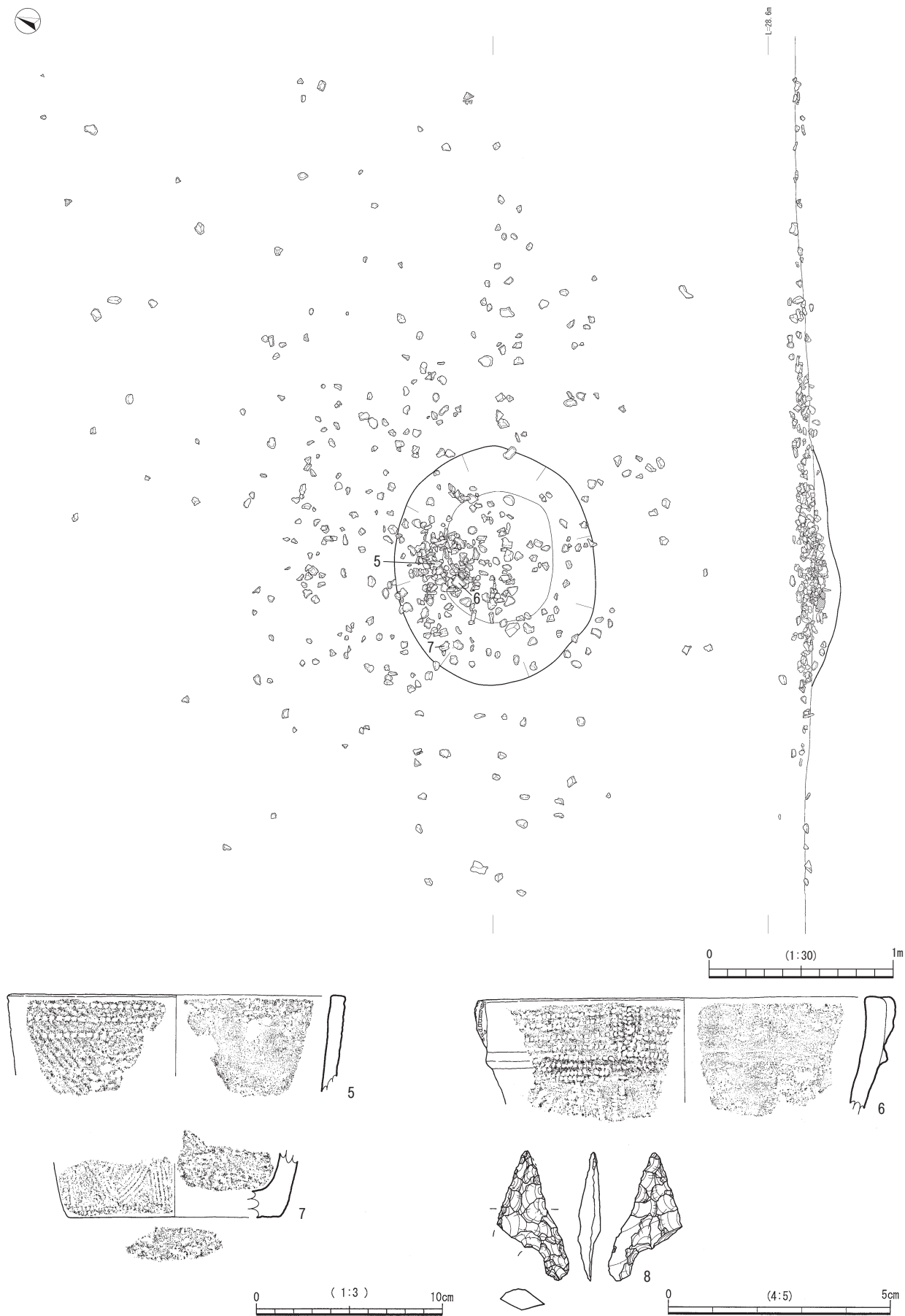
B-36区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×100cmの円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数239点で、大きさが揃っている。円形に敷き詰められた状態で床面近くまで礫の出土が見られた。石材はわずかに凝灰岩が多い傾向にある。集石内遺物は確認できなかった。

168号集石 (第19図)

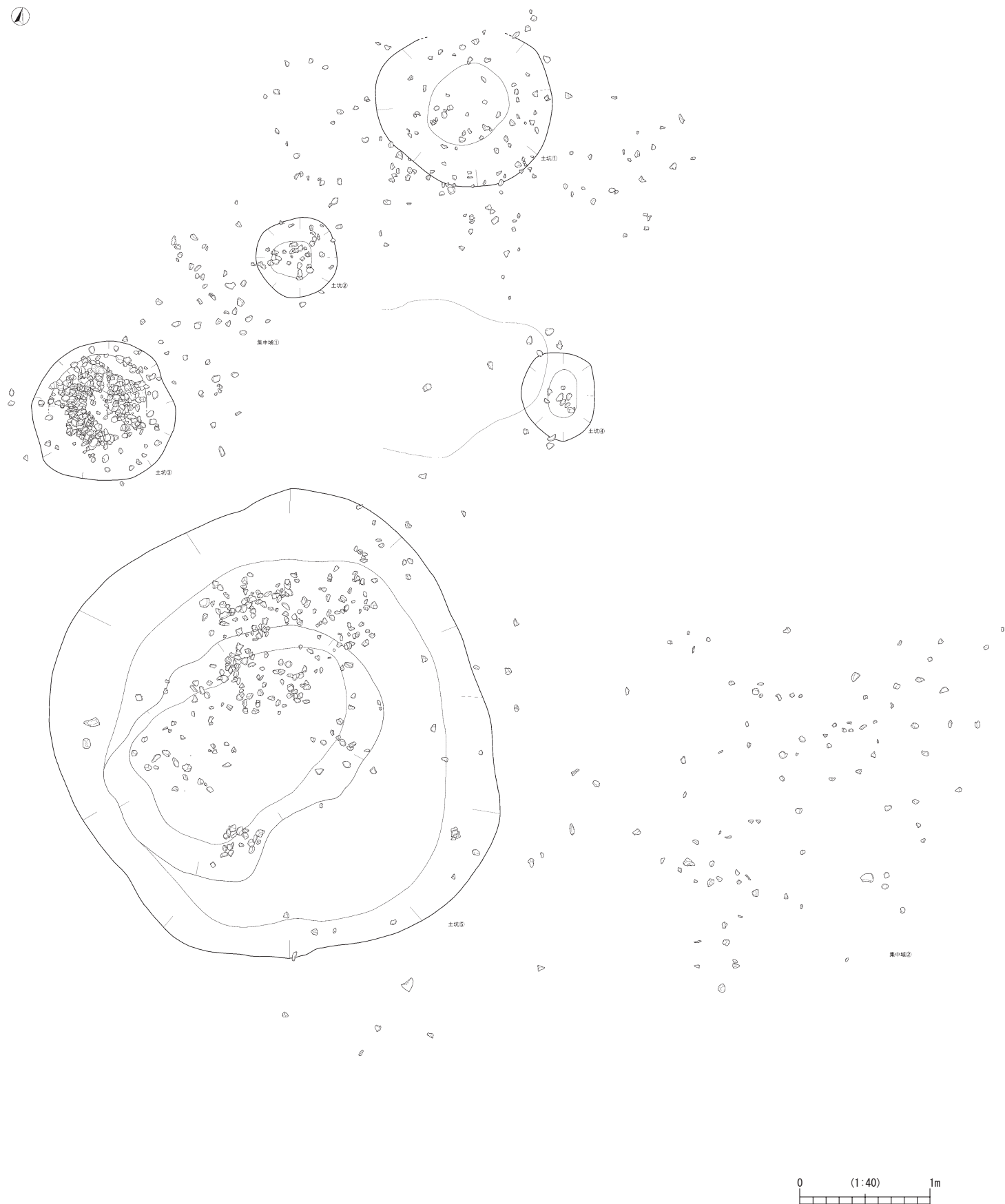
E-35・36区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、70cmの円形プランで、礫は、2.8mの範囲に広がる。構成礫は、総数189点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点と石器3点で、石器は使用痕剥片1点、磨製石斧片1点、石皿片1点である。このうち土器1点、石器1点を図化した。26は使用痕のある剥片である。

182号集石 (第20図)

C-36・37区Ⅷa層上位で検出されており、他の集石

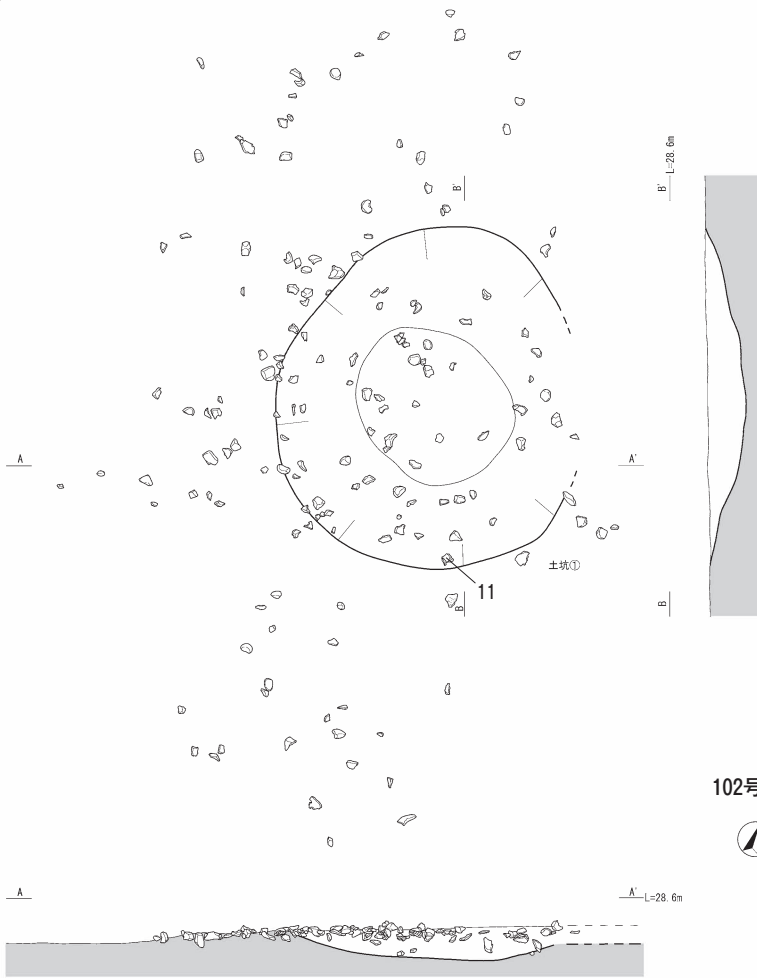


第5図 85号集石・出土遺物

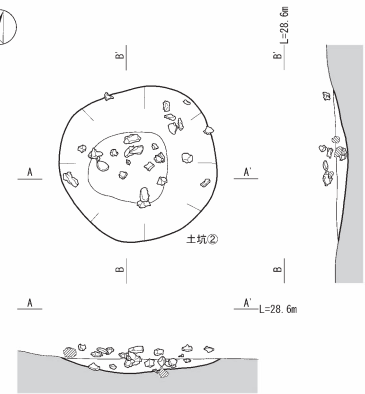


第6图 102号集石①

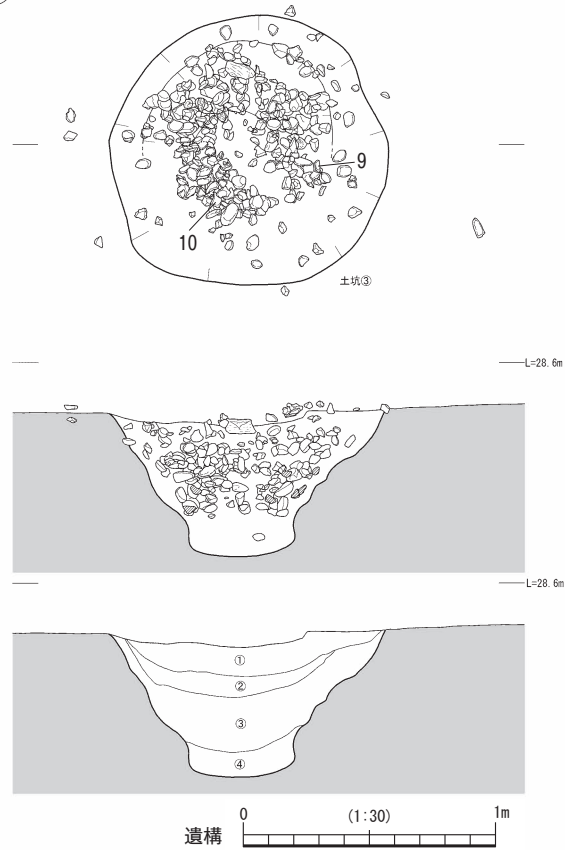
102号集石 土坑①



102号集石 土坑②

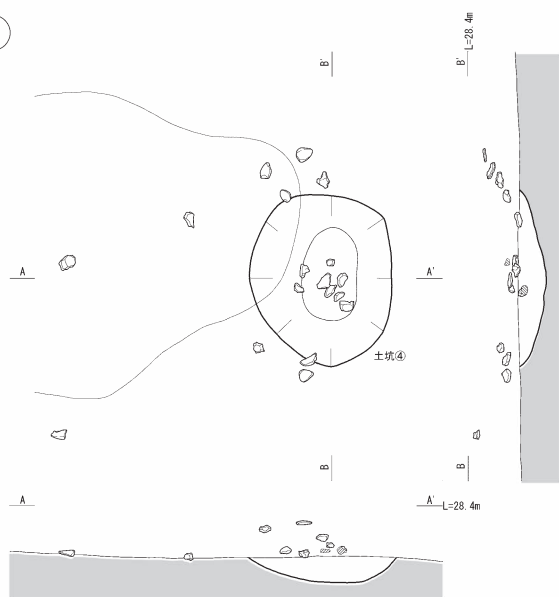


102号集石 土坑③

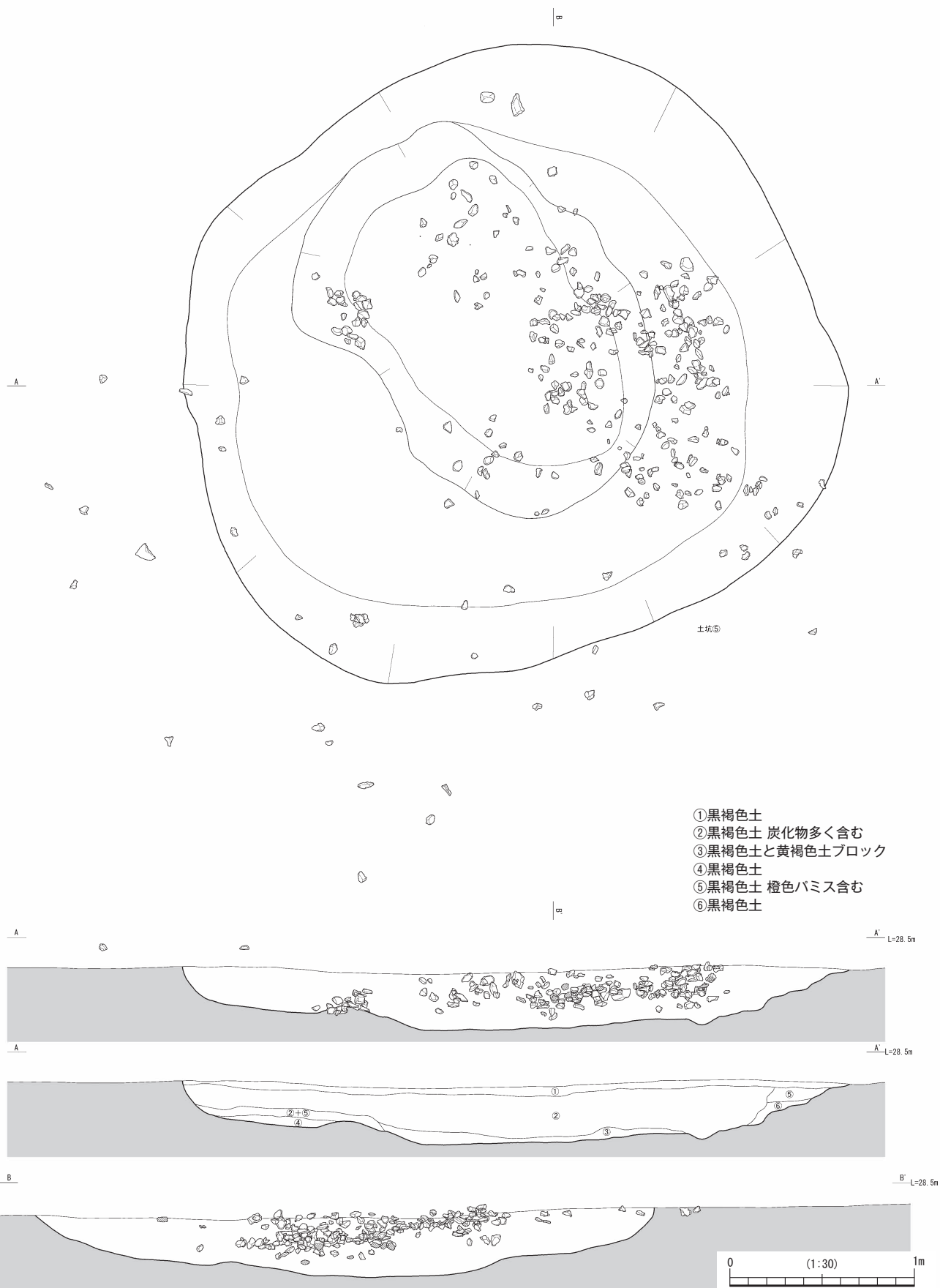


- 土坑③埋土
 ① 黑褐色土
 ② 黑褐色土
 炭化物含む
 ③ 黑色土
 ④ 黑褐色土

102号集石 土坑④

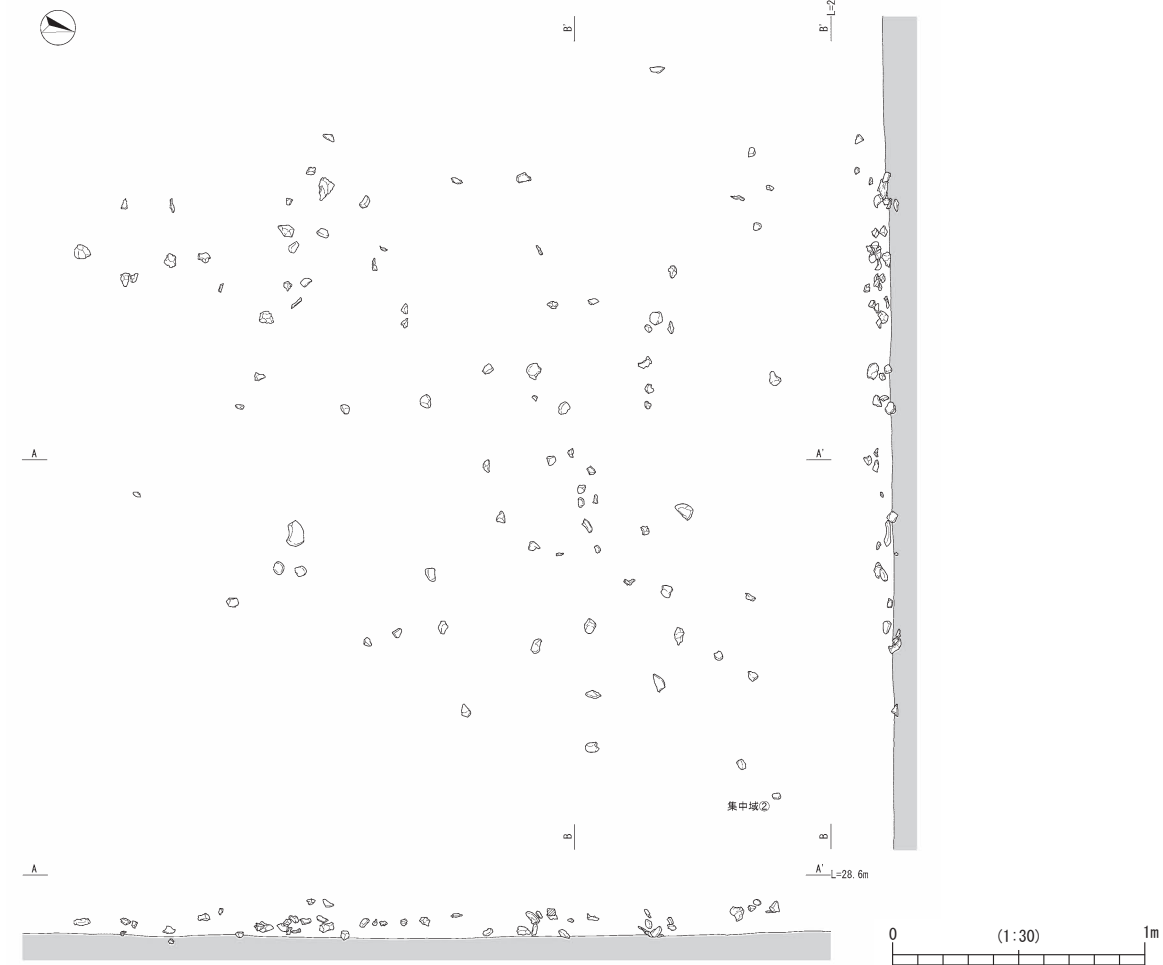


第7图 102号集石②

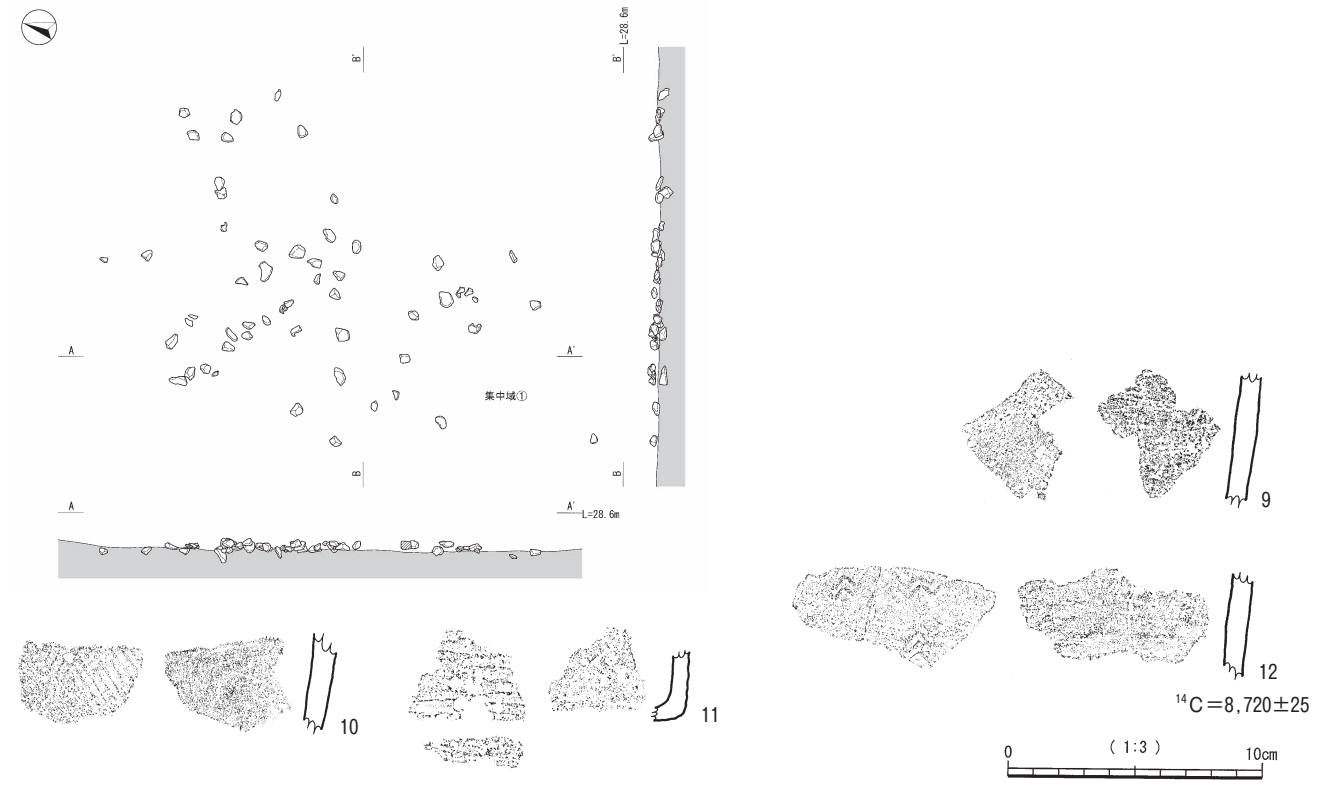


第8図 102号集石③

102号集石 集中域②

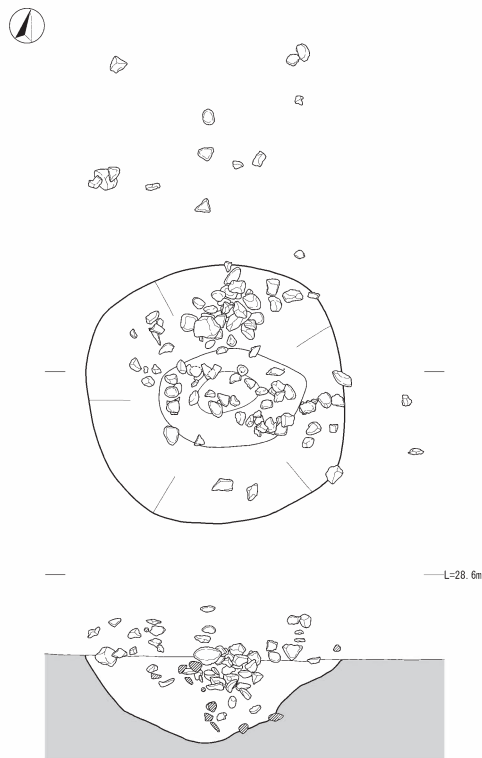


102号集石 集中域①

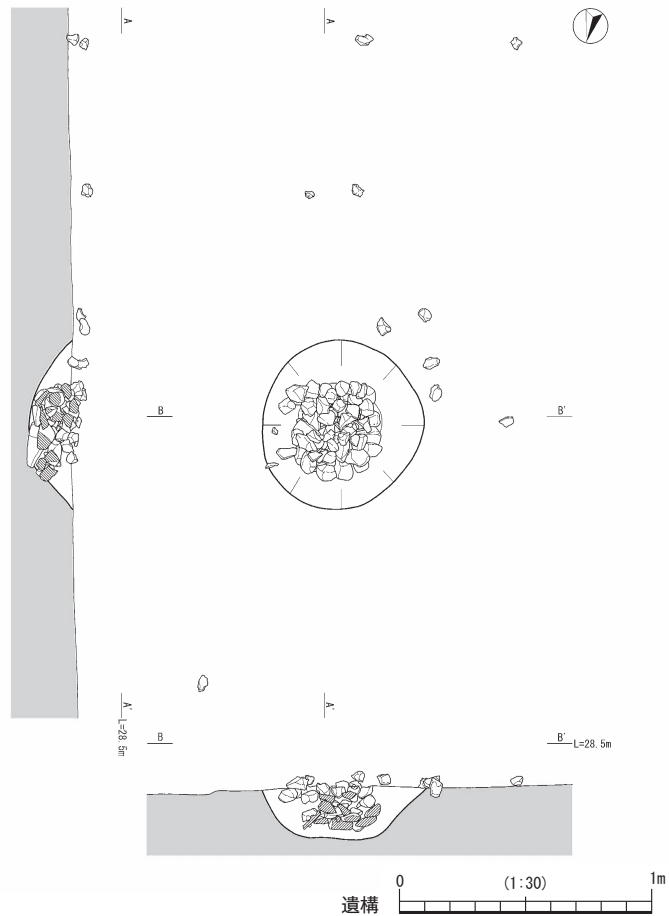


第9图 102号集石④・出土遺物

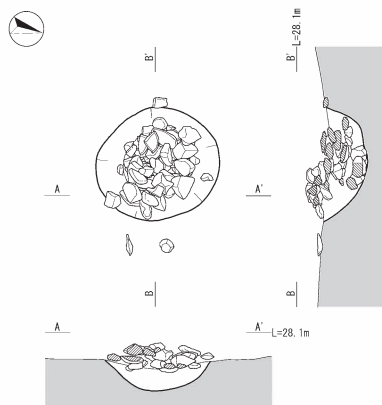
105号集石



116号集石



119号集石



第10図 105, 116, 119号集石

より確実に時期が新しい。Ⅷ a 層上面を数cm掘り下げた時点で直径約1mの円形プランを検出した。検出時は礫は見えておらず、土坑が集石か判別できない状況であったが、確認のため埋土をわずかに掘り下げたところ多数の礫が出土したため、集石と認定した。礫が多かった為、埋土の半掘は不可能と判断し、掘り込み内の礫検出を優先した。埋土はⅧ a 上位層であった。構成礫は直径約10cm前後の砂岩円礫である。基本的に全て同類の礫であり、選別して使用している可能性がある。掘り込みは深く、底面に近づくにつれ多量の炭化物がみられた。構成礫は、総数300点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物

は確認できなかった。

184号集石 (第20図)

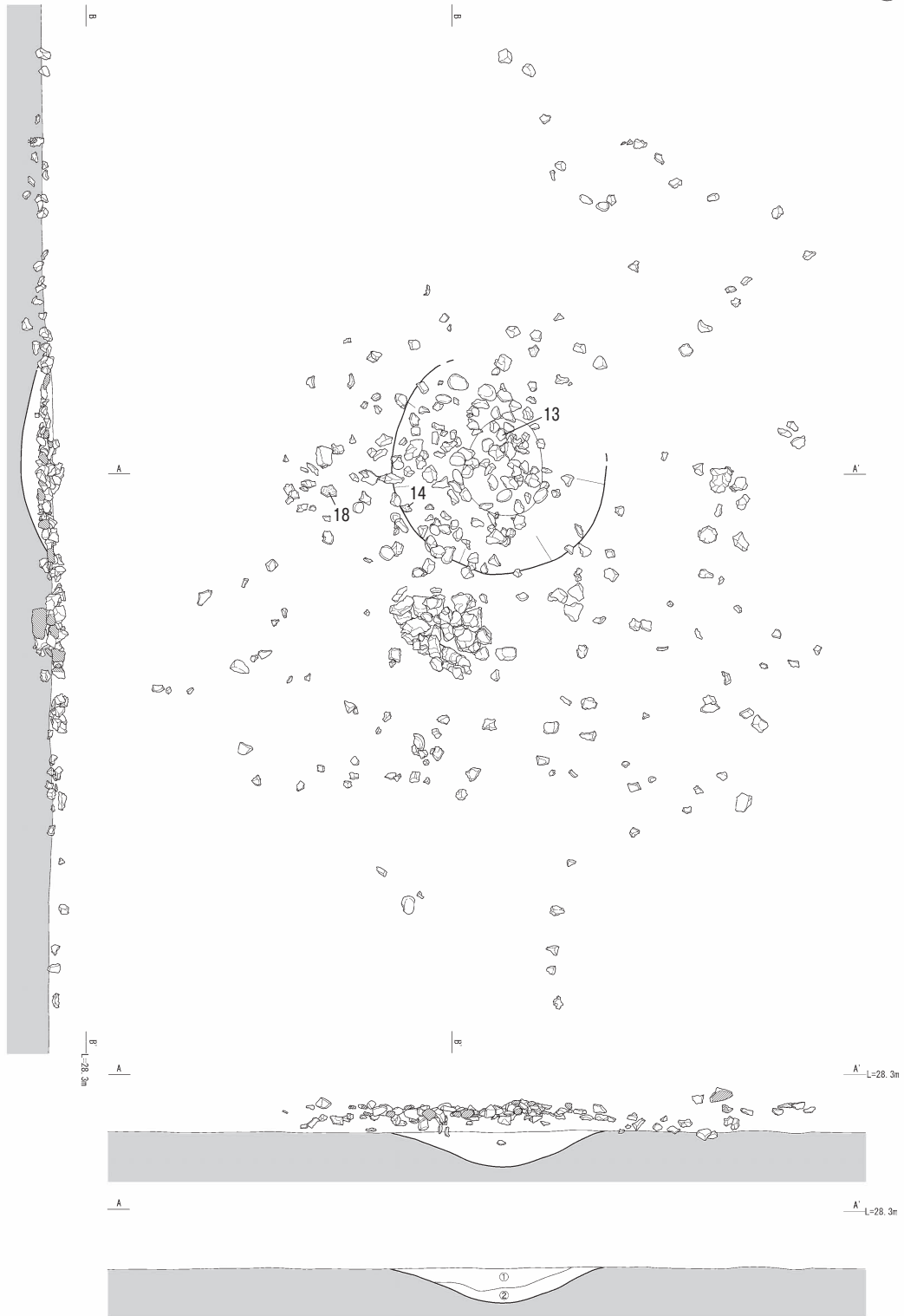
C-36区Ⅷ b 層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、120cm×105cmの楕円形プランで、礫は、この土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数351点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

194号集石 (第21図)

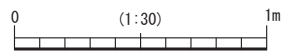
E-36・37区Ⅷ b 層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×95cmの円形プランで、礫は、この土坑周辺の4m×3mの範囲に広がる。構成礫は、総数148点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器7点、石器2点で、このうち土器1点を図化した。いずれも小破片である。石器は磨石片2点が出土している。

203号集石 (第21図)

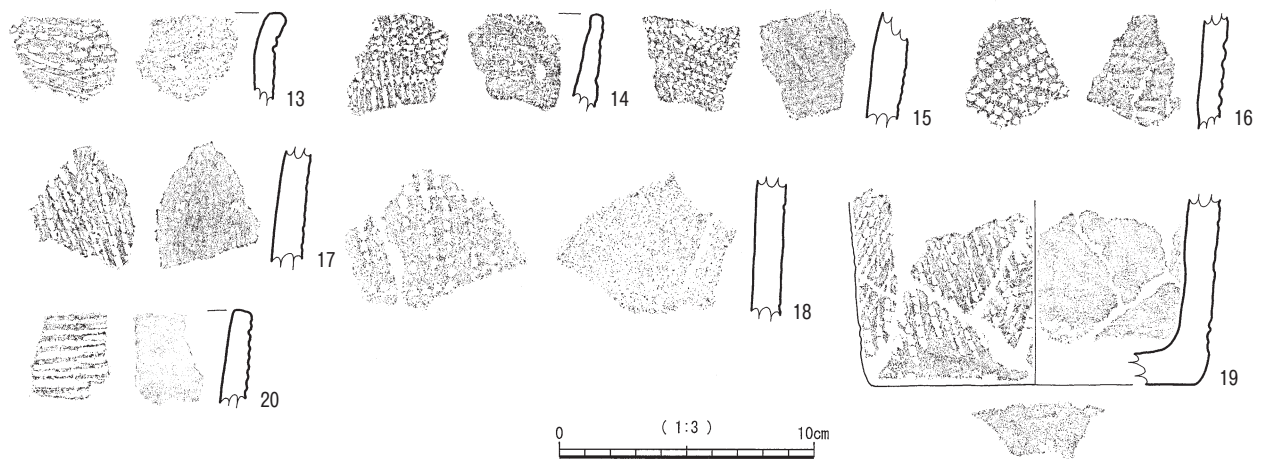
F-36区Ⅷ b 層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、50cm程度の円形プランで、南側は



- ① 黑色土
- ② 黑褐色土



第11图 144号集石



第12図 144号集石出土遺物

十分に検出できなかった。礫は、1.7mの範囲に広がる。構成礫は、総数42点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

215号集石 (第22・23図)

F・G-36区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、4基確認され、これらは一連のものとして調査し図化していった。土坑①は80cm×80cmの円形プランで、土坑②は140cm×95cmの楕円形プランである。土坑②は検出面から40cm程度の深さがある。土坑③は100cmの円形プランで、土坑④は85cm×75cmの略円形プランである。礫は、これら土坑周辺の5m四方の範囲に広がる。構成礫は、総数344点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点でこのうち2点を図化した。206号集石と接合関係にある。石器は1点が出土し、1点を図化した。欠損のため全体の形状が不明のため、5類として掲載している。

231号集石 (第24図)

F-36・37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、隣接して2基が確認され、当初は別の集石として認識していたが、近接している点や周辺の礫の検出状況などから一連の集石として記録を作成した。南側の土坑①は130cm×120cm、北側の土坑③は、105cm×100cmでいずれも略円形である。土坑③は楕円形の土坑②を切っている。土坑①・②の断面形状がすり鉢状を呈する。礫は、4m×2.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数329点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点で、いずれも小破片で図化できなかった。

235号集石 (第25図)

F-37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×80cmの略円形プランで、礫は、3m×2mの範囲に散在するが、土坑内に比較的多くが密集している。構成礫は、総数83点で、石材はわずかに凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが、小破片のため図化は困難であった。

238号集石 (第25図)

F-37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、125cm×110cmの円形プランで、礫は、4.0m×2.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数505点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器9点、石器1点で、このうち土器1点を図化した。いずれも小破片である。石器は石皿片1点が出土している。

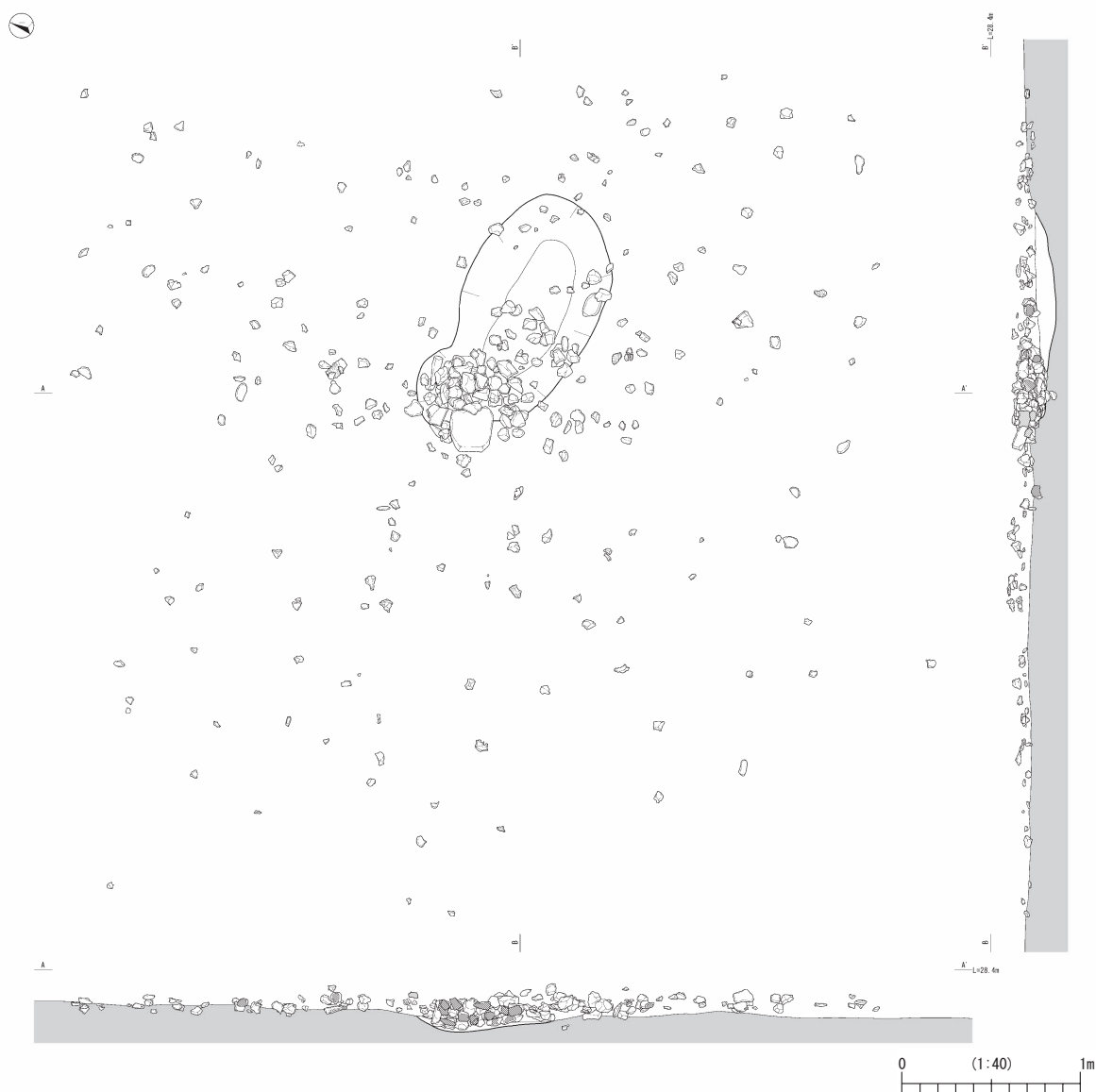
248号集石 (第26図)

E-37区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×85cmの楕円形プランで、礫は、この土坑検出時点で東西方向に比較的集中し、中央部分が疎な状況であった。周辺まで捉えると、礫は約3m四方に広がる。構成礫は、総数180点で、石材は凝灰岩と砂岩が同一量である。集石内遺物と判断したものは、土器3点であるが、小破片のため図化は困難であった。石器は石皿片1点が出土し、このうち1点を図化した。32は石皿類の欠損で2B類に属する。

259号集石 (第26図)

A-37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、50cm×50cmの円形プランで、礫は、

146号集石



第13図 146号集石

土坑とその周辺に比較的大型礫が集まる。構成礫は、総数12点で、すべてが砂岩であった。集石内遺物は確認できなかった。

264号集石 (第26図)

B-38区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、95cm×70cmの楕円形プランで、礫は、土坑中央部分により集中する。構成礫は、総数98点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は石器が1点が出土し、これを図化した。石皿類2B類に属する。

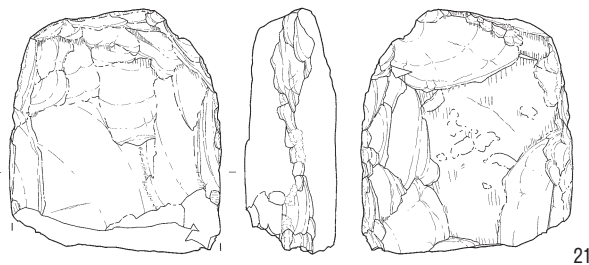
268号集石 (第27図)

D-38区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も

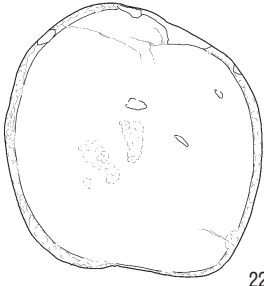
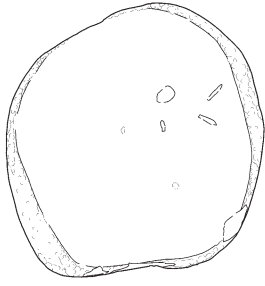
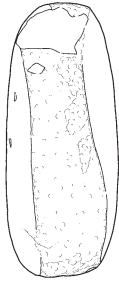
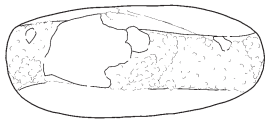
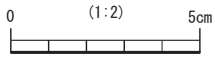
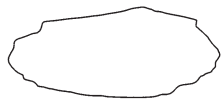
確認された。土坑は、145cm×110cmの楕円形プランで、2段掘りとなる。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数248点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点であるが小破片のため図化は困難であった。

273号集石 (第27図)

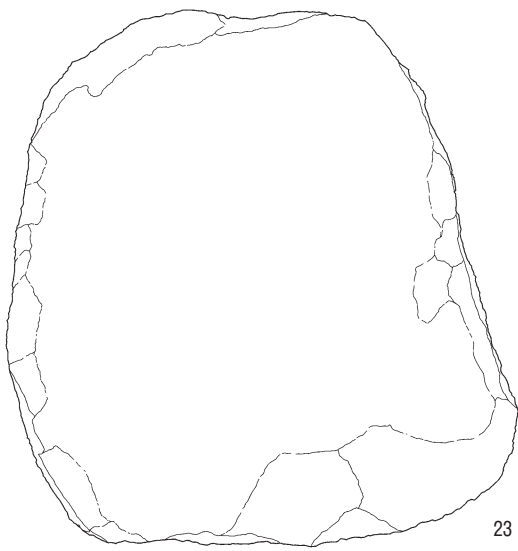
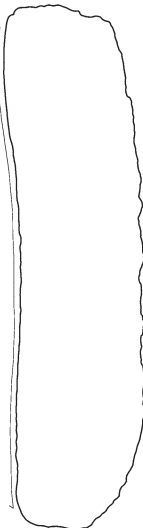
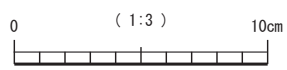
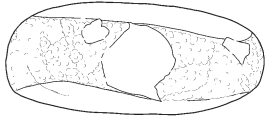
E-38区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×75cmの略円形プランで、礫は、土坑内に密集して収まる。構成礫は、総数109点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは石器1点で、これを図化した。不定型な礫を素材とした磨石で磨石類E類として掲載した。384号土坑を切る。



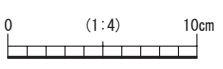
21



22

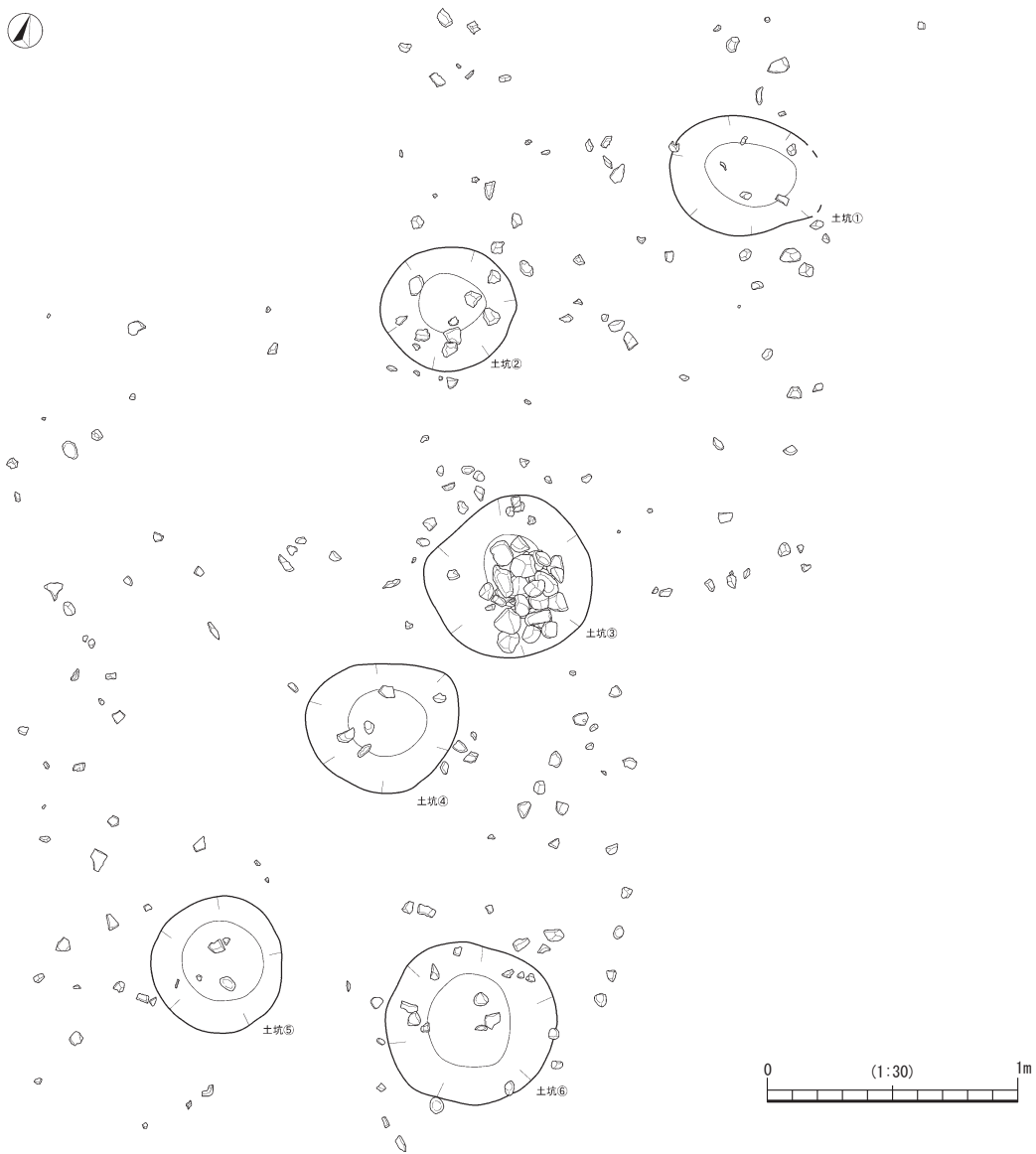


23



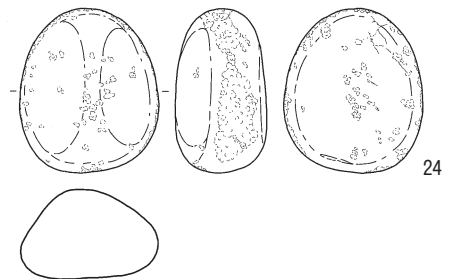
第14図 146号集石出土遺物

147号集石



274号集石 (第27図)

E-38区Ⅸ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、120cm×110cmの略円形プランで、底面付近には1cm大の炭化物が多く認められた。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数251点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点であるが小破片のため図化は困難であった。

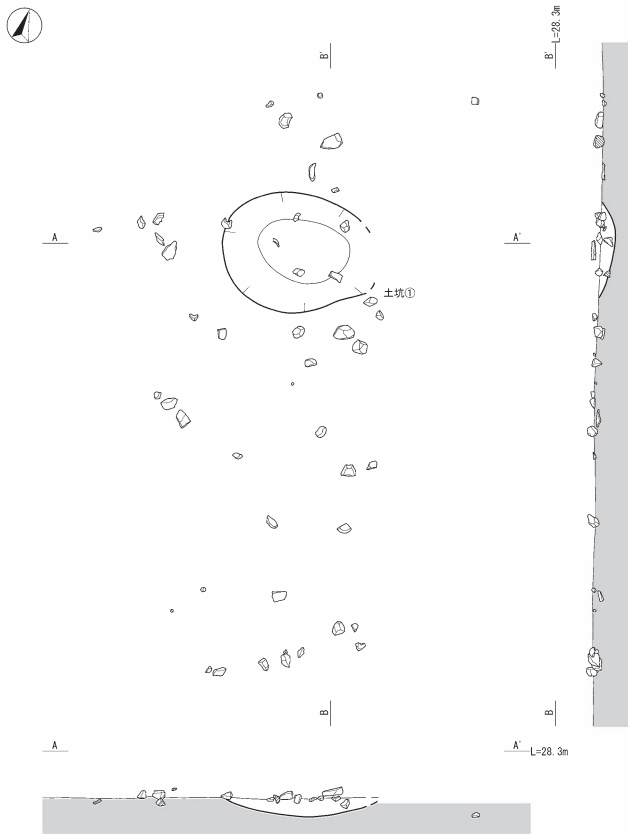


279号集石 (第27図)

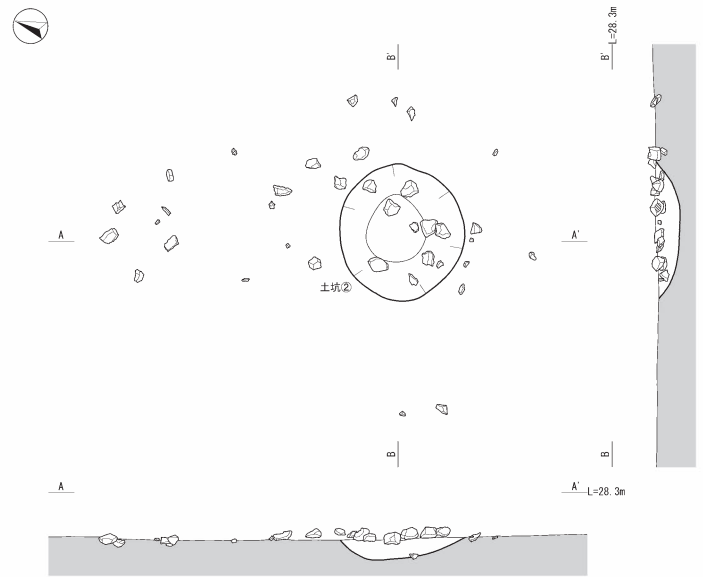
E・F-38区Ⅹ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、125cm×125cmの円形プランで、礫は、土坑内に比較的密集してまとまる。構成礫は、総数201点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器1点を図化した。いずれも小破片である。

第15図 147号集石①・出土遺物

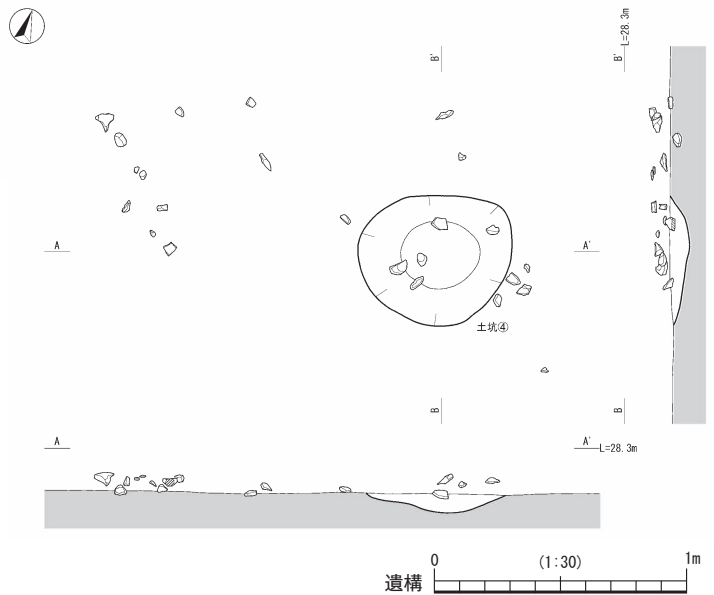
147号集石 土坑①



147号集石 土坑②



147号集石 土坑④



147号集石 土坑③



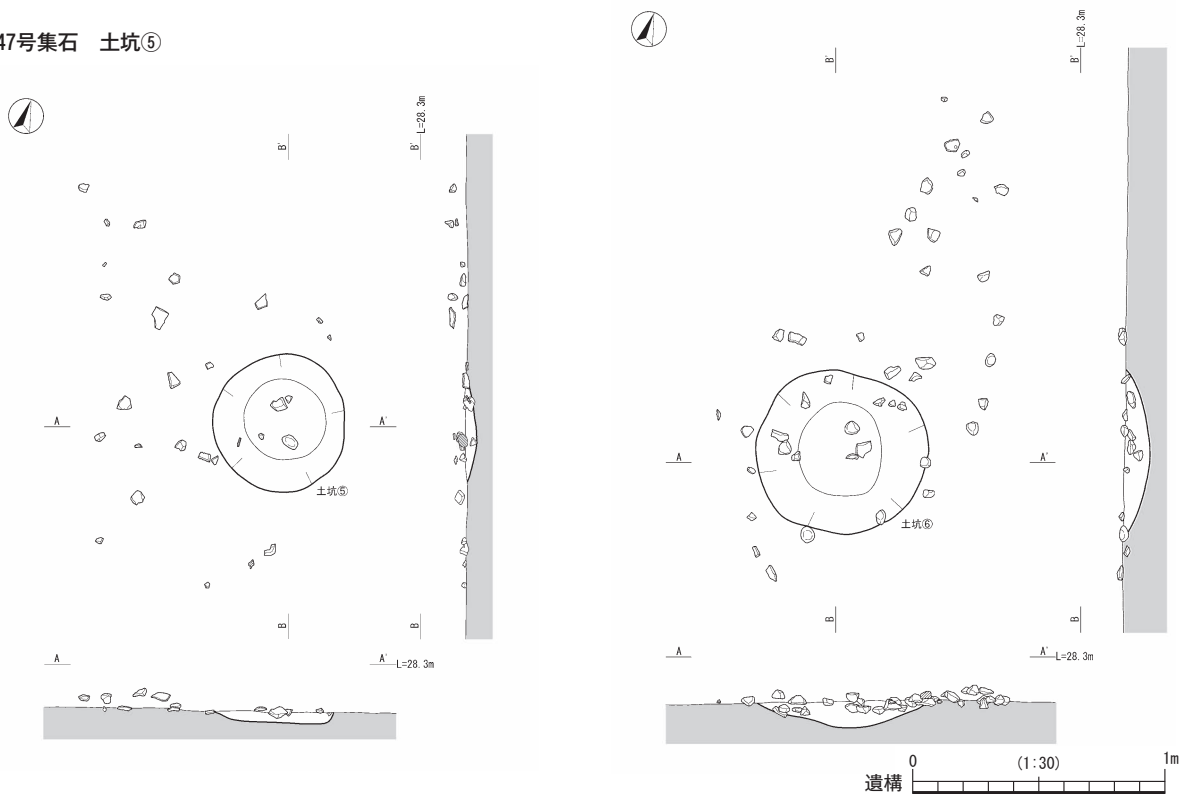
第16図 147号集石②

283号集石 (第28図)

F-38区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×95cmの略円形プランで、検出面から底面までが45cmと深い。礫は、土坑内に密集してまとまっている。構成礫は、総数230点で、石材は凝灰岩と砂岩とが同量である。底面から上位20cm程度の範囲に炭化物の集中が見られた。集石内遺物と判断したものは、土器3点であるが小破片のため図化は困難であった。299号集石・300号集石と切り合い関係にあり、これらの中で最も深い。

147号集石 土坑⑥

147号集石 土坑⑤



第17図 147号集石③

286号集石 (第28図)

F-38区Ⅸ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×75cmの略円形プランで、礫は、土坑内に比較的密集してまとまっており、底面付近には見られない。構成礫は、総数110点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。195号土坑を切る。

291号集石 (第28図)

G-39区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、調査区外へと延びているため全体形状は不明であるが、長軸105cmの楕円形プランが想定される。礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数213点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

292号集石 (第28図)

F・G-39区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、130cm×110cmの楕円形プランで、断面が浅いすり鉢状を呈し、礫は、この土坑内に密集して出土し、総数150点で石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

293号集石 (第28図)

F・G-39区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、125cm×105cmの楕円形プランで、礫は、土坑とその周辺0.3mの範囲に広がる。構成礫は、総数154点で、土坑中心部に集中する。石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

295号集石 (第28図)

F-39区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、130cm×110cmの楕円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数92点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点でこれを図化した。

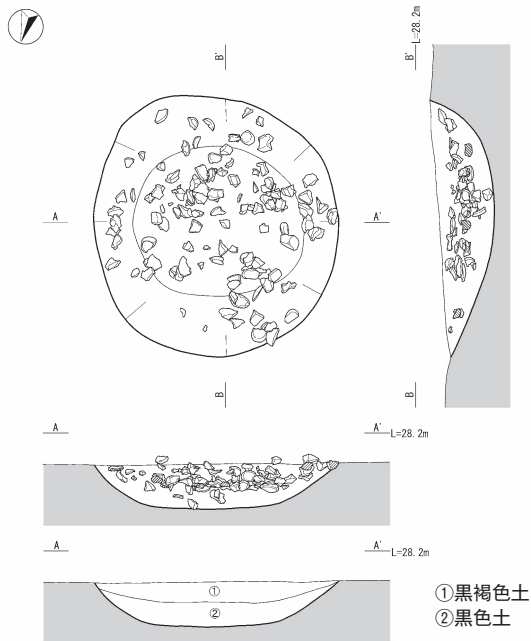
299号集石 (第29図)

F-38・39区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、120cm×105cmの楕円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数123点で、石材は砂岩が優位である。土坑底面からの出土は見られなかった。集石内遺物は確認できなかった。

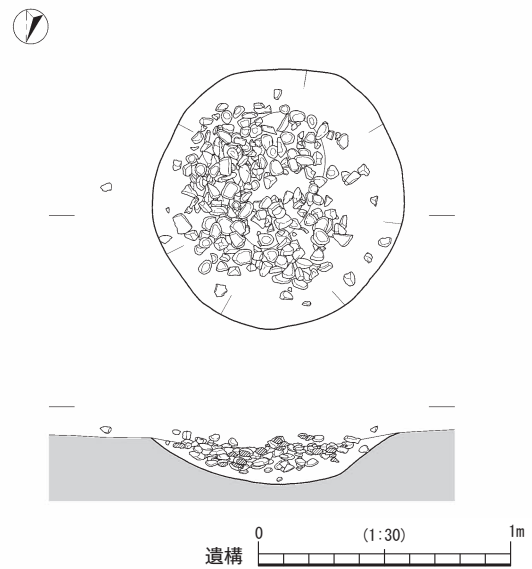
311号集石 (第29図)

E-39区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も

150号集石



176号集石



第18図 150, 176号集石

確認された。土坑は、100cm×75cmの楕円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数86点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、磨石片1点が出土している。下部で219号土坑が検出された。

335号集石 (第29図)

D-39区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×80cmの楕円プランで、礫は、この土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数176点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

339号集石 (第29図)

C-39区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×80cmの略円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数49点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。集石底面より20cm下位で113号連穴土坑が検出されている。

344号集石 (第29図)

B-39区Ⅷa層で検出した。検出時点では、当初土坑プランが先に確認され、その後に礫を確認し集石とした。土坑は、115cm×115cmの円形プランで、検出面から底面まで40cmと深い。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、

総数354点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは土器3点で、このうち土器1点を図化した。

345号集石 (第30図)

B-39区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×95cmの略円形プランで、礫は、この土坑内にほぼ収まる。構成礫は、土坑内に密接して総数232点確認できた。石材はわずかに凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

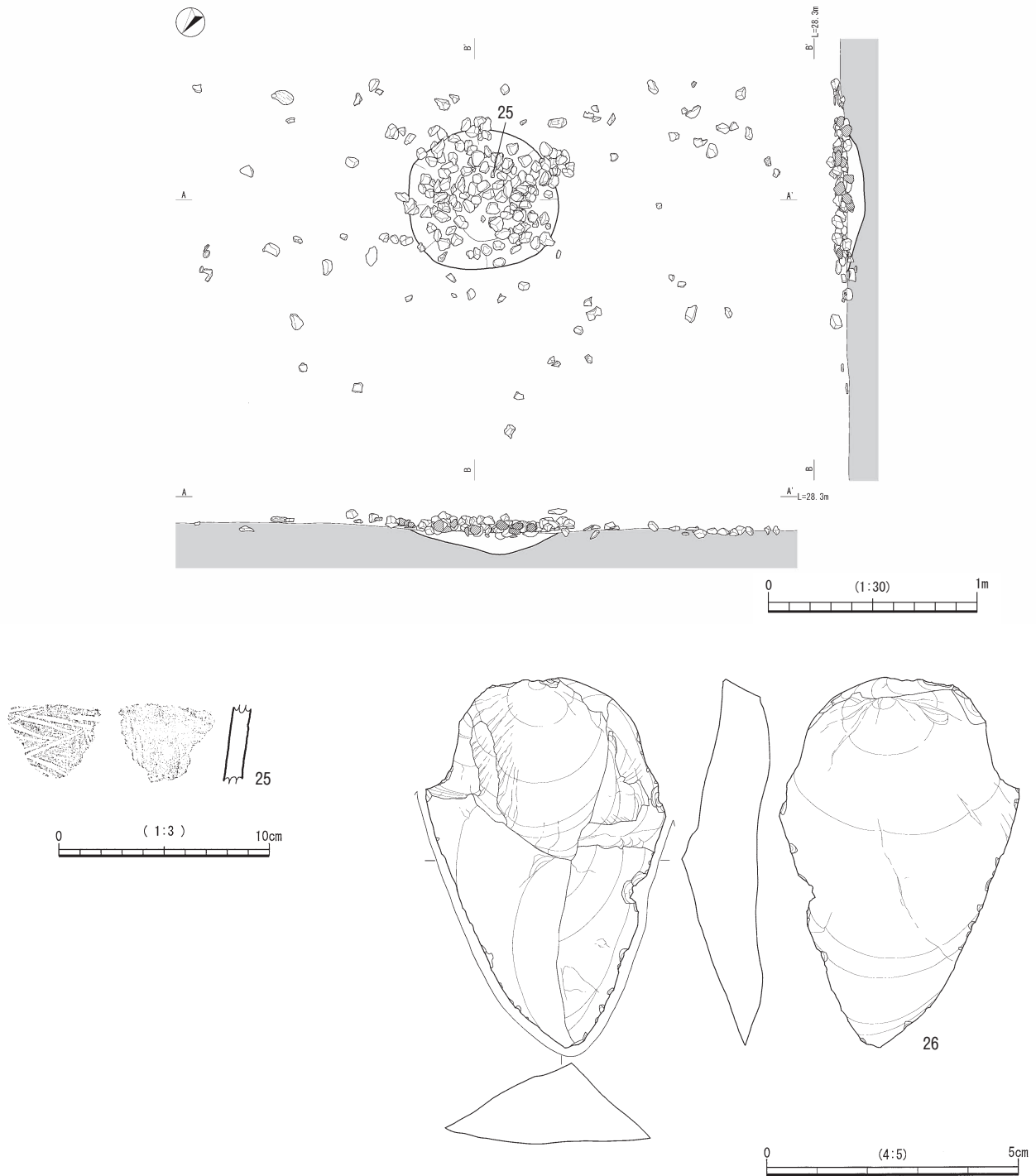
352号集石 (第30図)

B-40区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×75cmの円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数33点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを図化した。床面完掘後15cm下で287号土坑を検出した。

356号集石 (第30図)

B-40区Ⅹ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、95cm×90cmの略円形プランで、検出面から底面までが35cmとやや深い。礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数150点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土

168号集石



第19図 168号集石・出土遺物

器1点を図化した。いずれも小破片である。

岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

357号集石 (第30図)

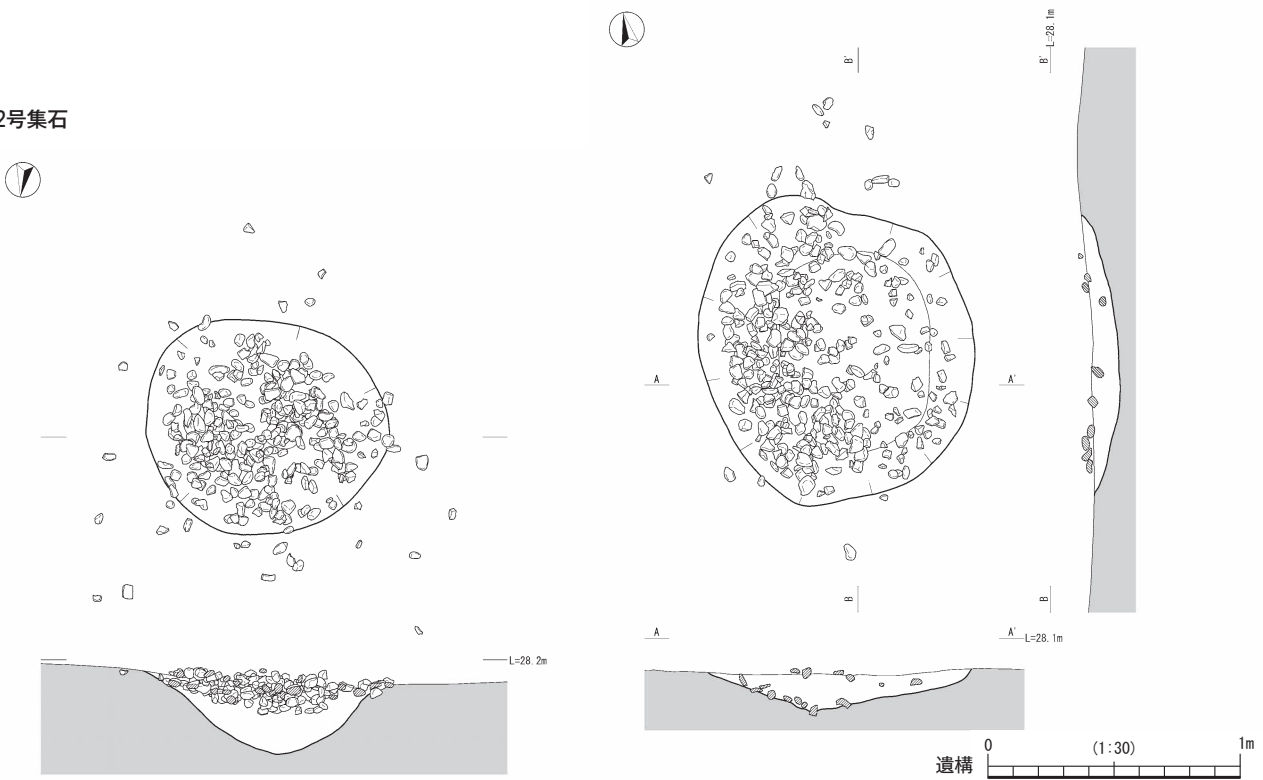
B-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、45cm×40cmの略円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数10点で、石材は砂

361号集石 (第30図)

C-40区Ⅹ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×85cmの円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まり、底面には長辺30cmの大型礫が検出

184号集石

182号集石



第20図 182, 184号集石

され、構成礫は、総数131点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは石器2点で、いずれも磨石で、このうちの1点を図化した。41は磨・敲石類3類に属する。408号集石との位置関係などから、408号集石と一連の可能性もあり、検出不足の可能性も否定できない。305号土坑を切る。

363号集石 (第31図)

C-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、95cm×95cmの円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数181点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、石器2点で、石器の内訳は磨石1点と石皿片1点で、このうち1点を図化した。42は磨・敲石類3類に属する。面中央部に敲打等による凹みが形成されている。

376号集石 (第31図)

D-40区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、155cm×85cmの楕円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数195点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。下部で328号土坑が検出された。

379号集石 (第31図)

D-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、125cm×105cmの楕円形プランで、検出面から底面まで35cmとやや深い。礫は、土坑内にはほぼ収まる。構成礫は、総数91点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器5点で、このうち土器1点を図化した。426号集石と接合関係にある。

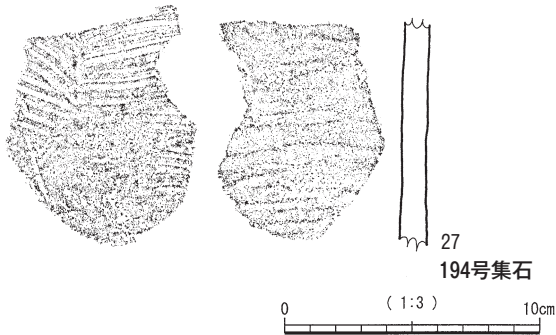
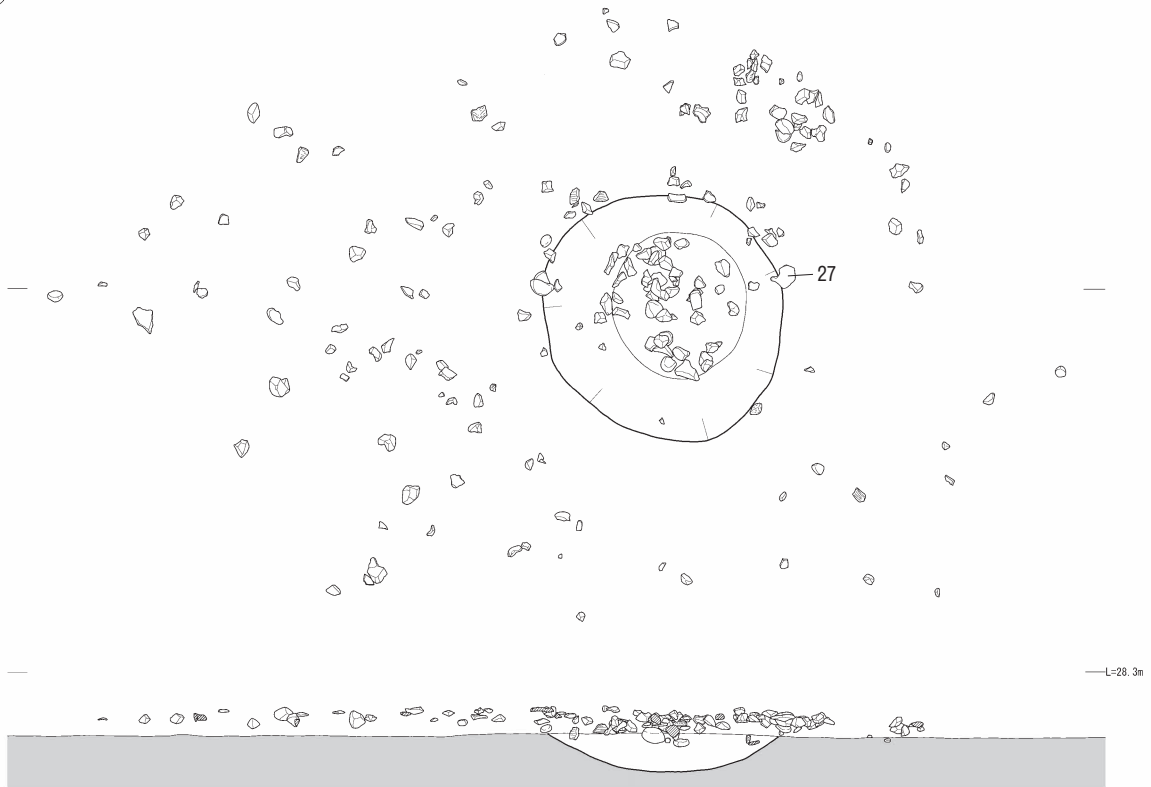
388号集石 (第32図)

E-40区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、70cm×65cmの略円形プランで、礫は、土坑検出面に比較的集中して底面からの出土は少なく、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数74点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点、石器1点で、このうち土器1点を図化した。いずれも小破片である。石器は、磨・敲石片1点が出土している。

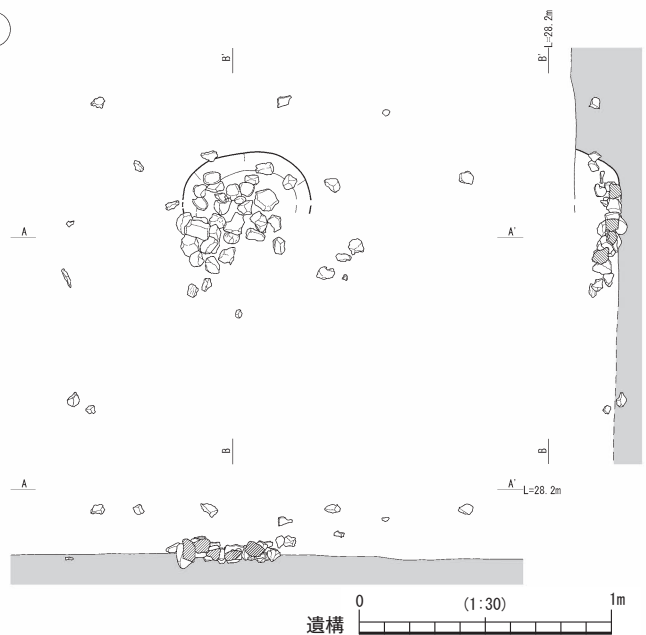
401号集石 (第32図)

F-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、115cm×115cmの円形プランで、検出面から底面までが50cmと深い。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数241点で、石材は砂岩が優位である。

194号集石



203号集石



床面付近は5cm大の炭化物が多くみられる。集石内遺物と判断したものは、土器4点で、このうち土器3点を図化した。いずれも小破片である。400号集石に隣接し、348号土坑と351号土坑を切る。

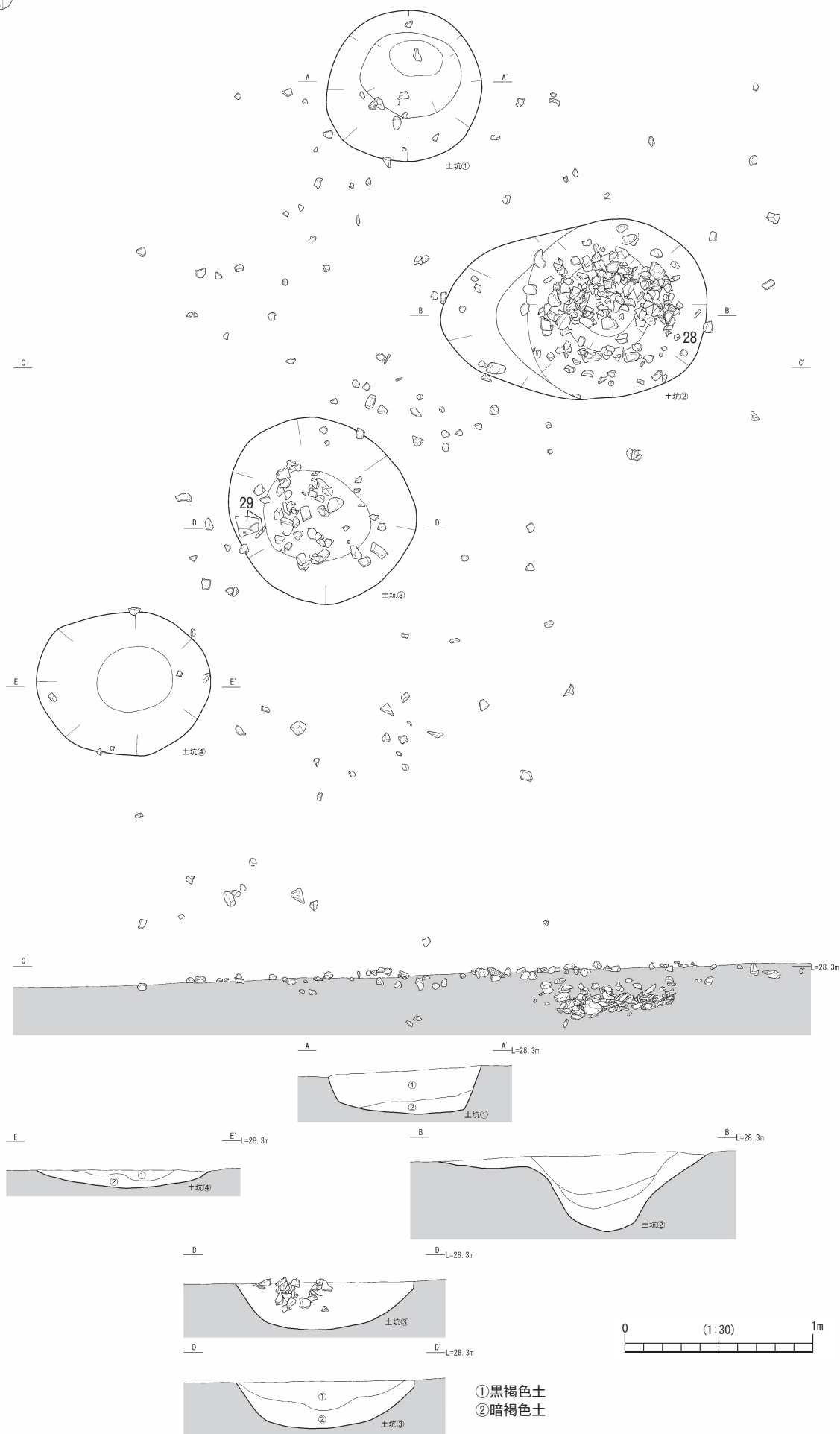
408号集石 (第32図)

F-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、130cm×125cmの略円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数114点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点で、このうち土器2点を図化した。下に409号集石が30cmのレベル差で検出される。

第21図 194, 203号集石・194号集石出土遺物

411号集石 (第33図)

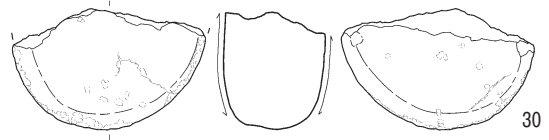
G-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×65cmの楕円形プランで、礫



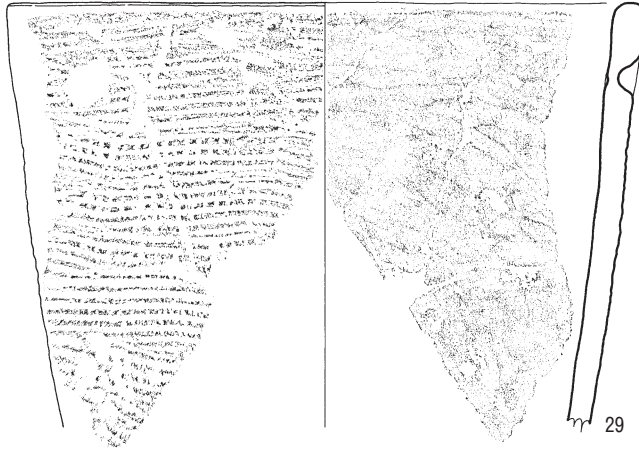
第22图 215号集石



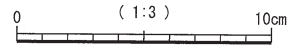
28



30



29



第23図 215号集石出土遺物

は、土坑内に収まる。構成礫は、総数74点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

417号集石 (第33図)

F-41区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。当初2基の集石の切り合いとしていたが、一連のものとして図化した。土坑①は、95cm×80cmの楕円形プランで、土坑②は土坑①に切られ、105cm×85cmの楕円形プランである。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数107点で、25cm大の凝灰岩が中心部に2点ある。石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点で、このうち土器1点を図化した。

421号集石 (第33図)

E-41区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×95cmの略円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数95点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器1点を図化した。

428号集石 (第34図)

D-41区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、150cm×125cmの略円形プランで、検出面から底面まで45cmと深い。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数513点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器13点、石器1点で、このうち土器3点、石器1点を図化した。55はトロトロ

石器である。382号土坑と374号土坑を切る。

430号集石 (第34図)

D-40・41区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×110cmの円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数269点で、上部の礫と底面の礫との間に明確なレベルさが認められた。全体的には礫の形状等に差はなく石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点、石器1点で、土器は小破片のため図化は困難であった。石器は石皿片1点が出土している。

(2) 集石1b類

1号集石 (第35図)

E-6区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、2.2m×1.7mの楕円形プランで、底面からの立ち上がりは比較的強い。礫は、この土坑内に集中するほか、土坑外1.5mの範囲にまで広がる。構成礫は、総数56点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

2号集石 (第36図)

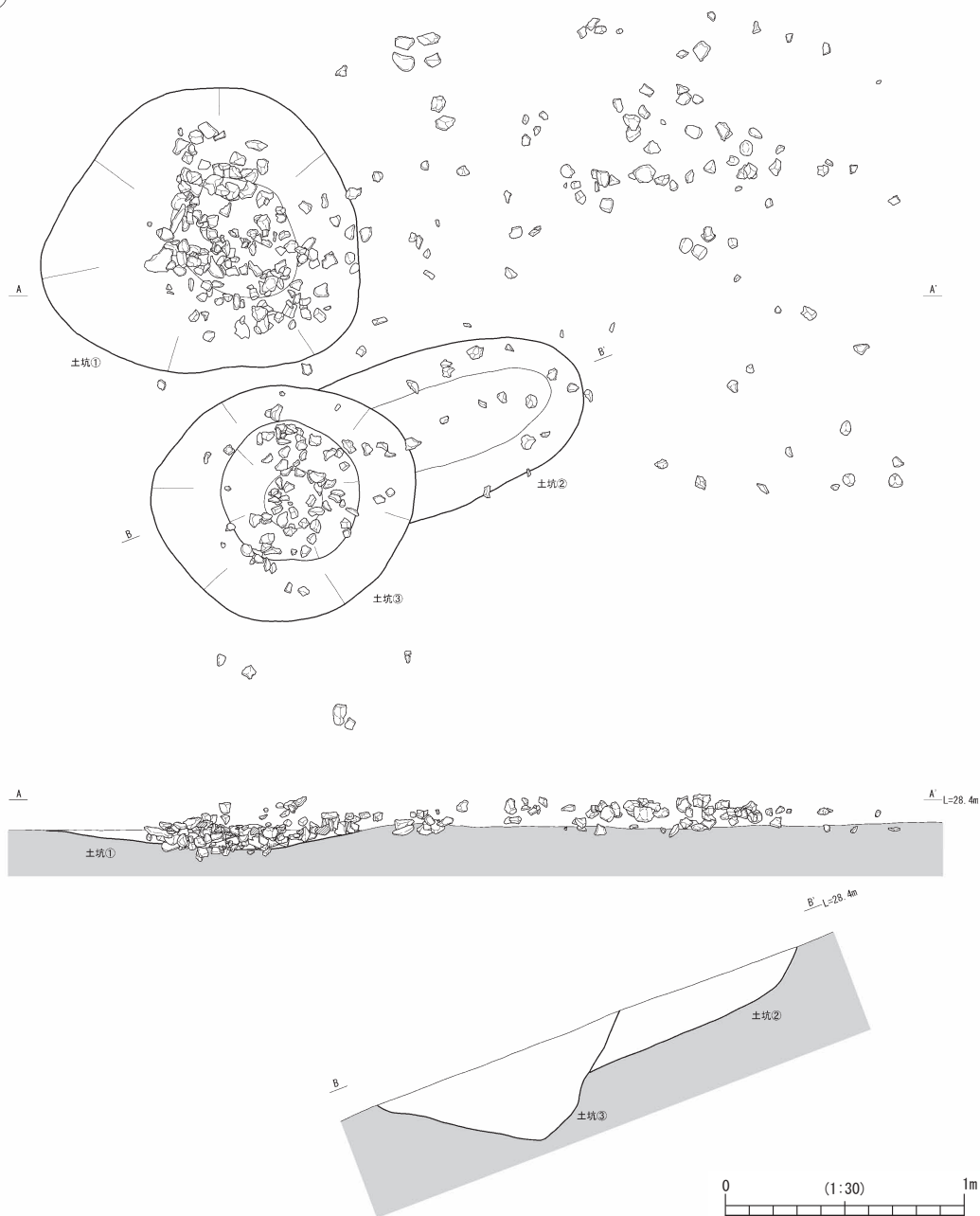
B-12区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、130cm×105cmの楕円形プランで、断面形状がすり鉢状を呈する。礫は、土坑周辺の2m四方に散在する。構成礫は、総数25点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが、小破片のため図化は困難であった。

3号集石 (第36図)

E-12区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、135cm×120cmの略楕円プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数24点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

5号集石 (第36図)

A・B-13・14区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時



第24図 231号集石

に土坑も確認された。土坑は、先行トレンチにより一部検出できなかったが残存長120cmで検出面から底面までが比較的浅い。礫は、土坑周辺に散在し、総数8点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

6号集石 (第36図)

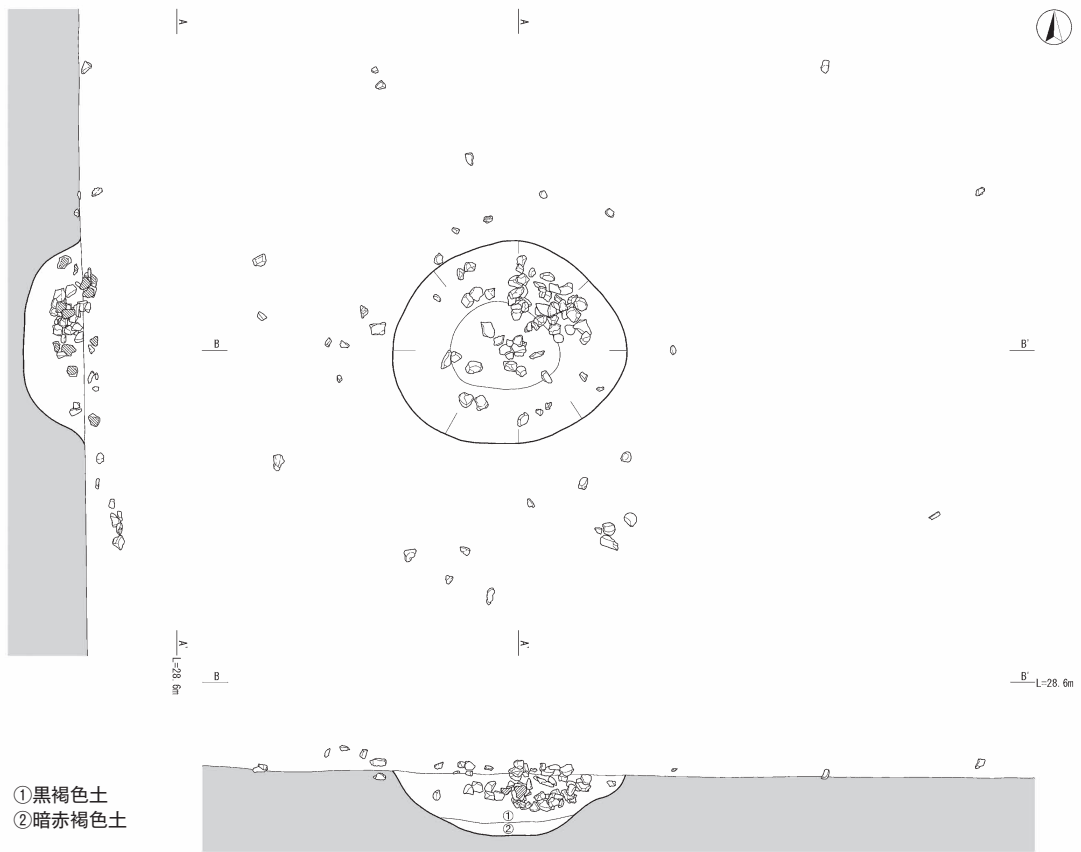
F-15区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も

確認された。土坑は、形状の半分のみ確認することが出来た、円形プランを想定した。礫は、この土坑内及び周辺に散在している。構成礫は、総数18点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

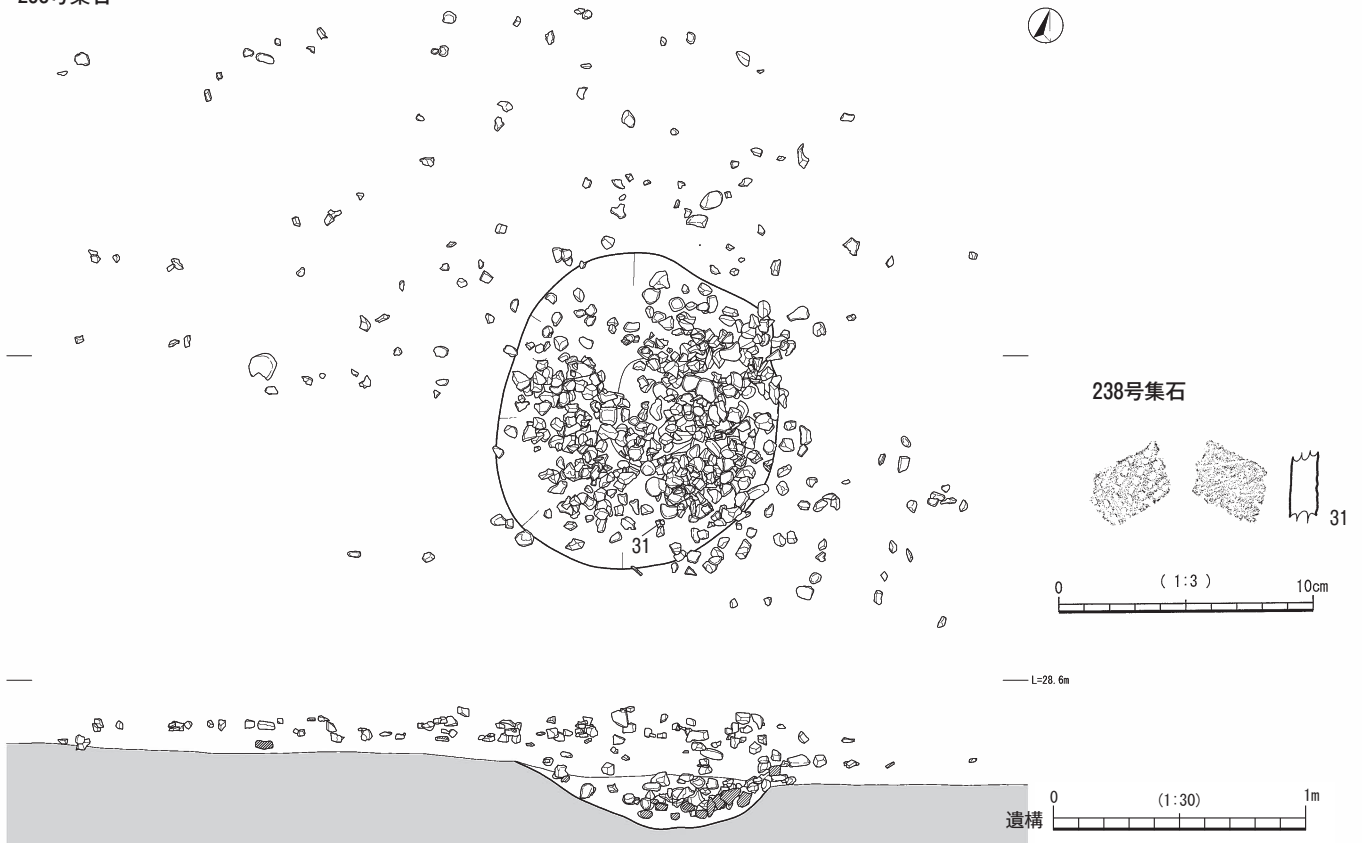
7号集石 (第37図)

E-15区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、70cm×60cmの略円形プランで、底

235号集石



238号集石

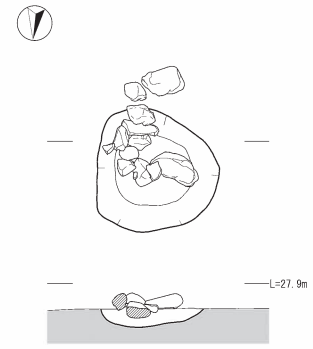


第25図 235, 238号集石・238号集石出土遺物

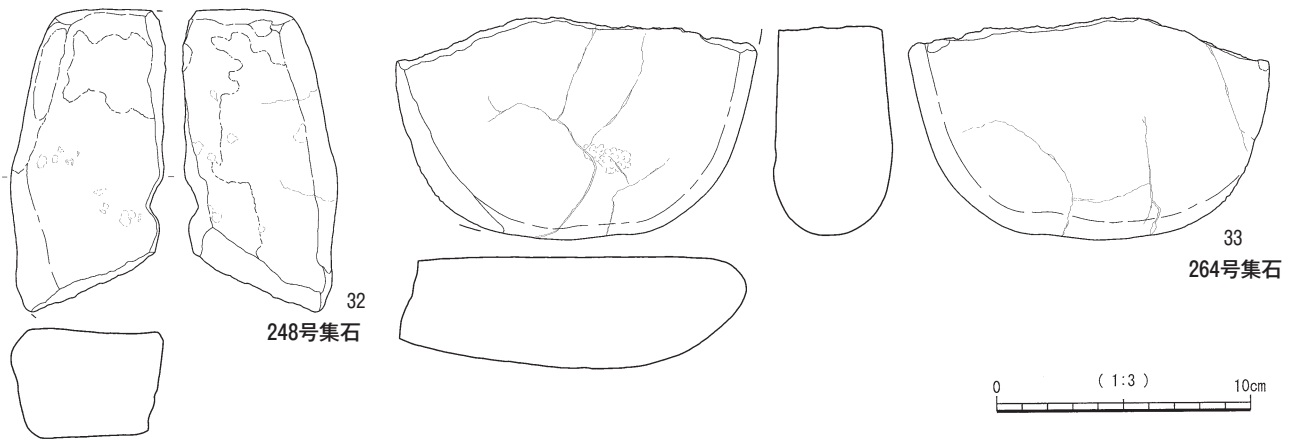
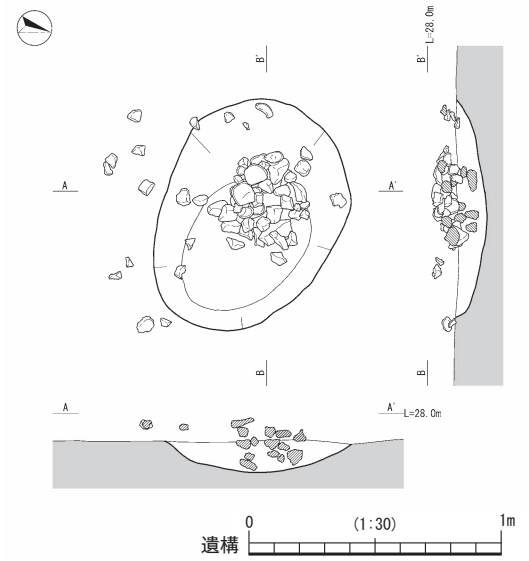
248号集石



259号集石



264号集石



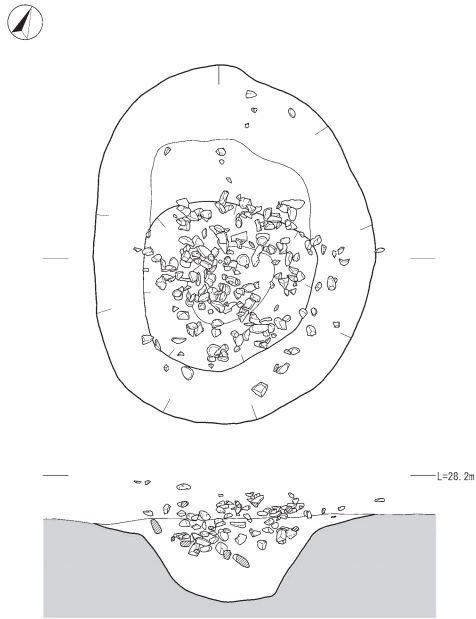
第26図 248, 259, 264号集石・248, 264号集石出土遺物

面がやや不安定である。礫は、土坑周辺3mの範囲に散在する。構成礫は、総数15点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

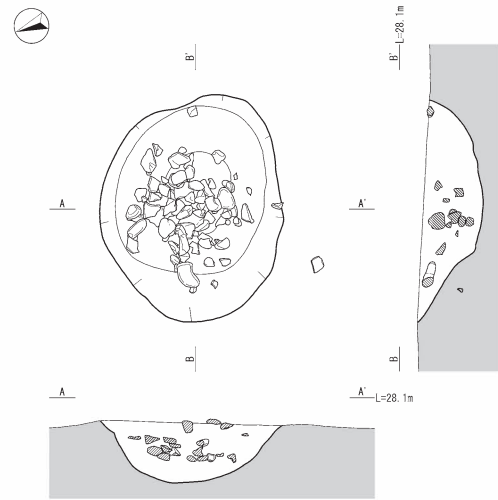
8号集石 (第37図)

A・B-15区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に隣接して土坑が確認され、一連の集石として調査を実施した。土坑は、75cm×65cmの楕円形プランで、一部を先行トレンチにより検出できなかった。礫は、2m×2mの

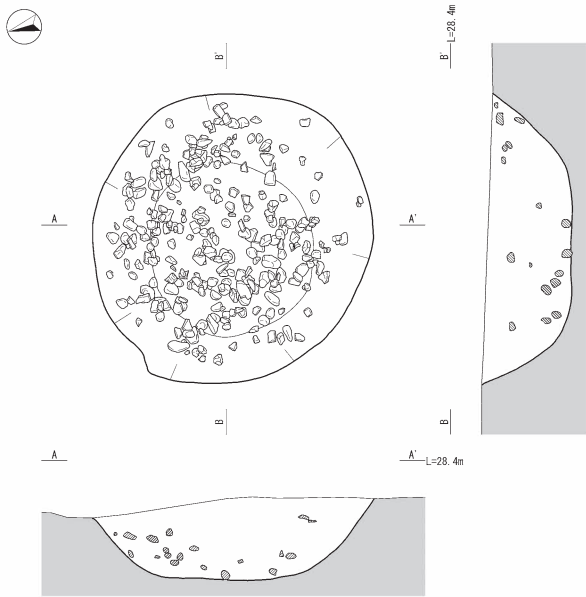
268号集石



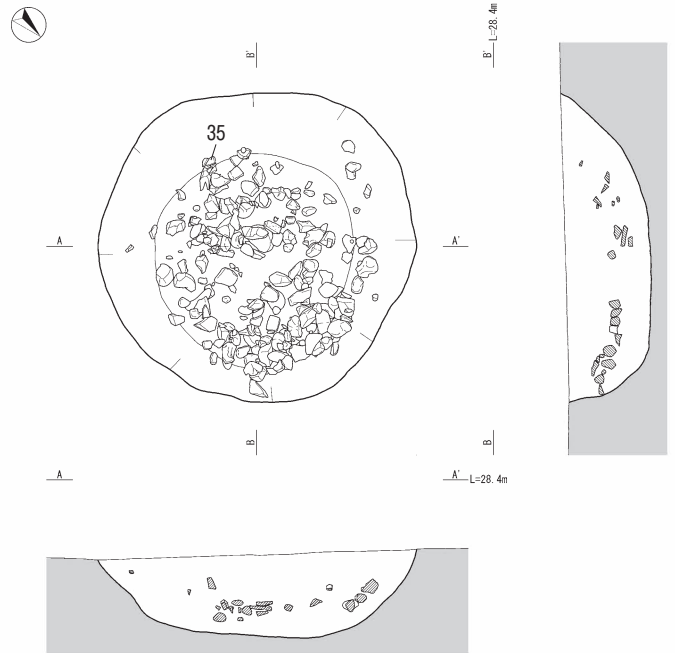
273号集石



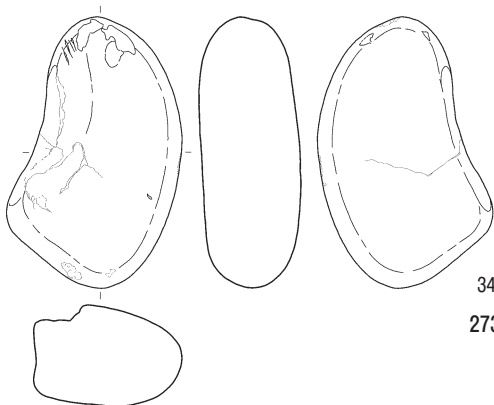
274号集石



279号集石



遺構 0 (1:30) 1m



34

273号集石



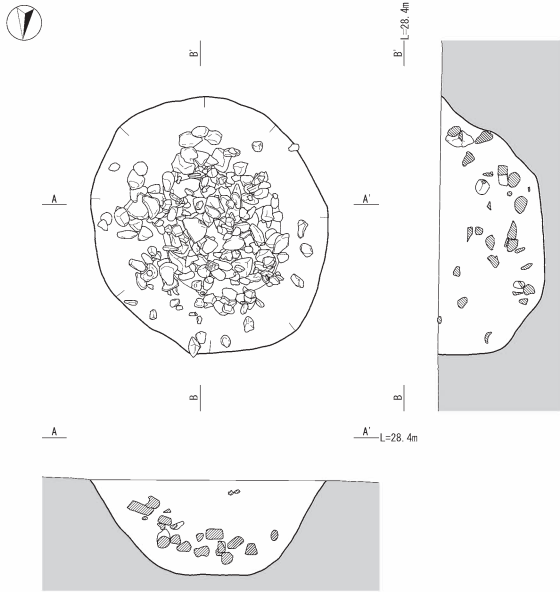
35

279号集石

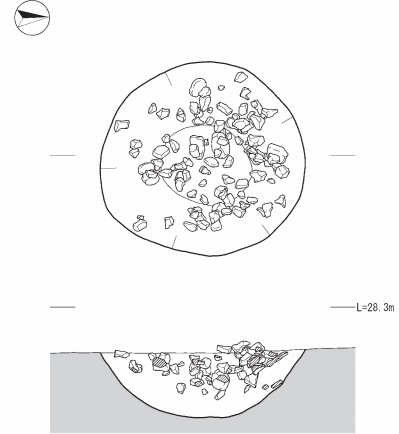
0 (1:3) 10cm

第27図 268, 273, 274, 279号集石・273, 279号集石出土遺物

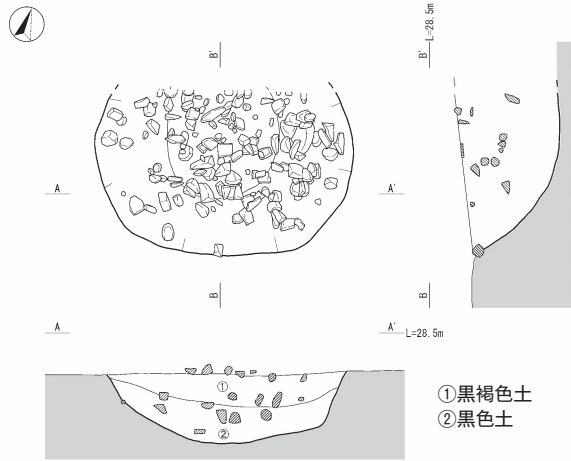
283号集石



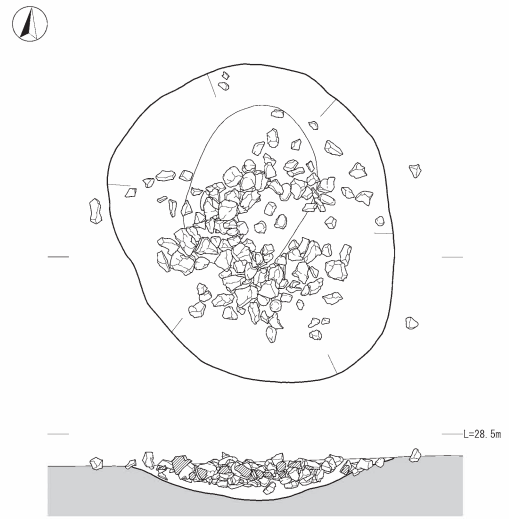
286号集石



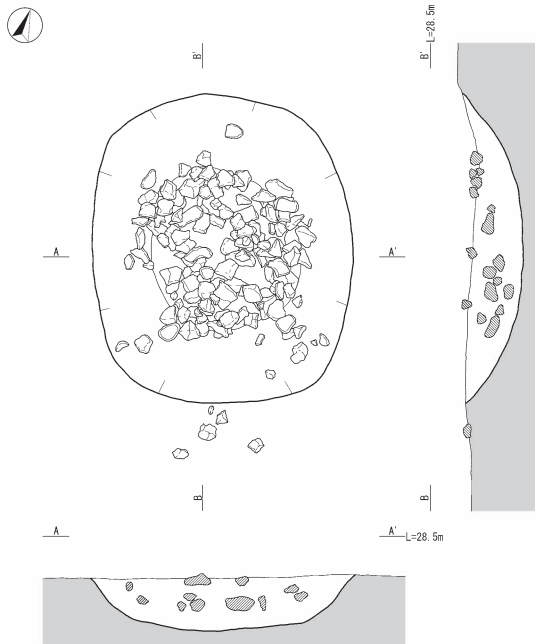
291号集石



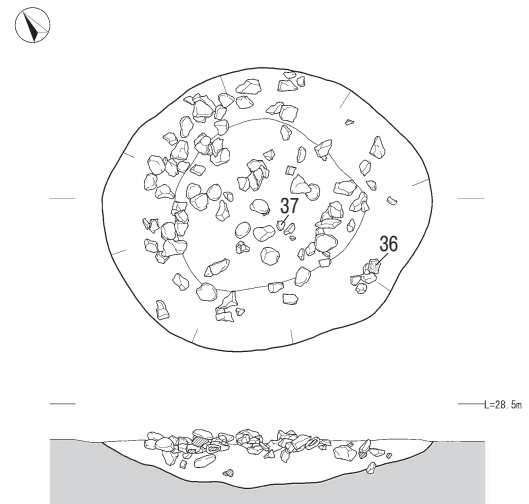
292号集石



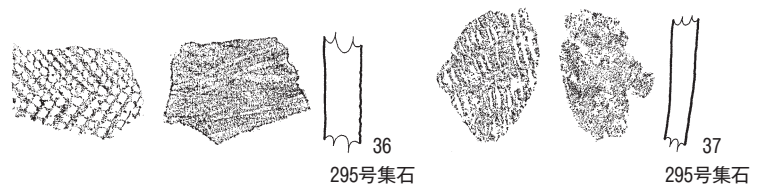
293号集石



295号集石



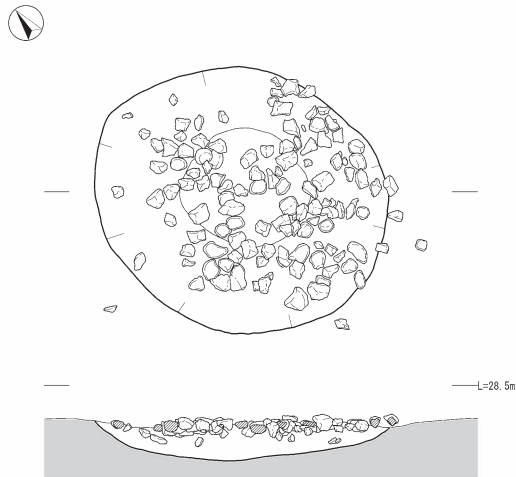
遺構 0 (1:30) 1m



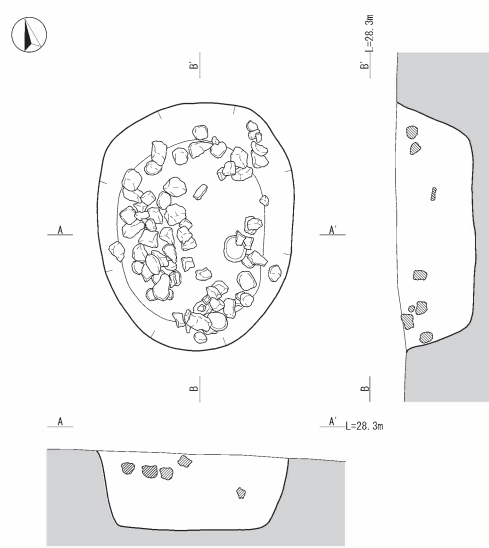
第28図 283, 286, 291, 292, 293, 295号集石・295号集石出土遺物

0 (1:3) 10cm

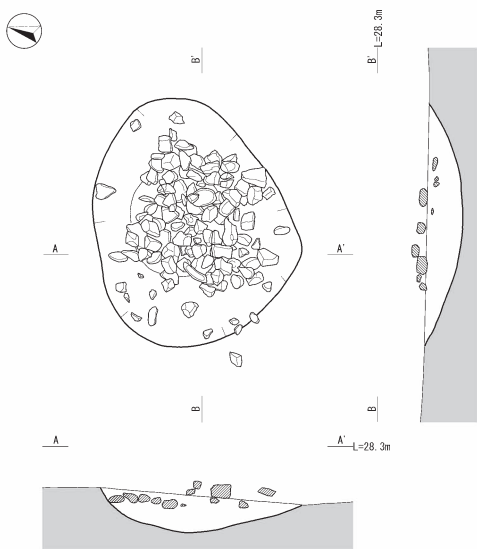
299号集石



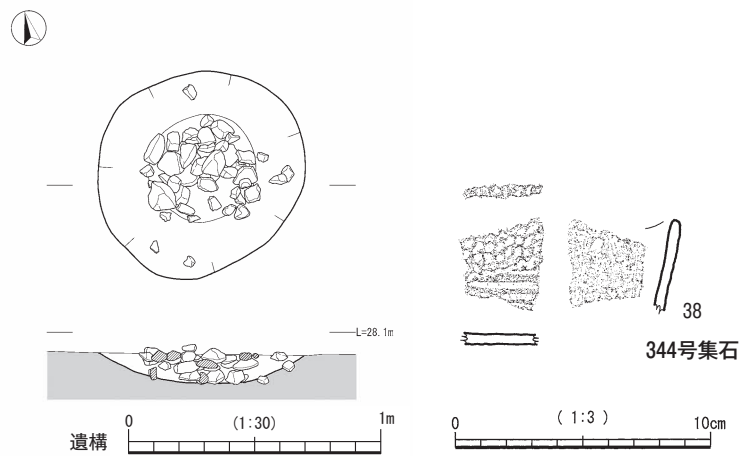
311号集石



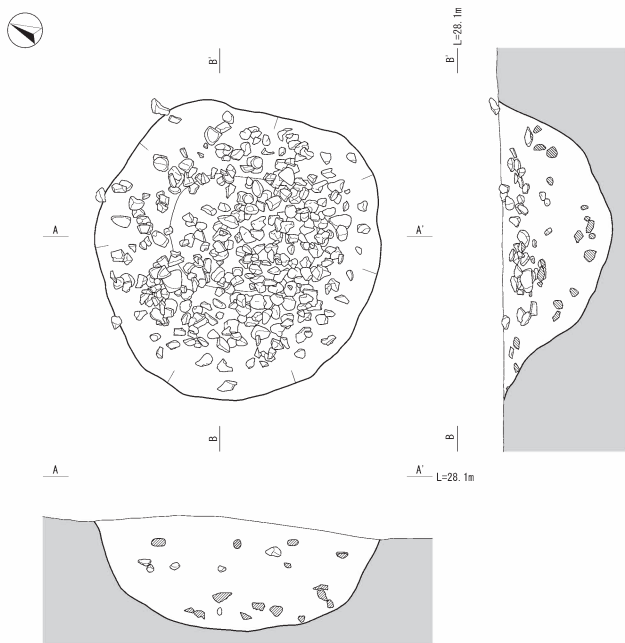
335号集石



339号集石



344号集石



範囲に広がる。構成礫は、総数10点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

10号集石 (第38図)

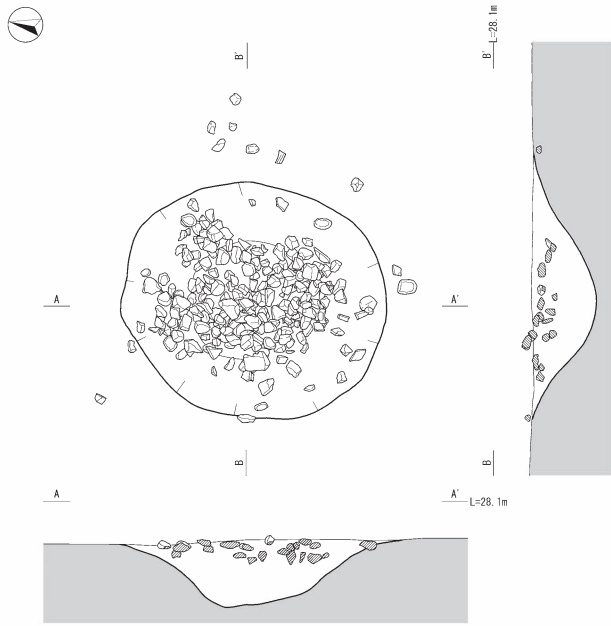
F-17区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、1.4m×1.2mの楕円形プランである。土坑の断面形状はややすり鉢状を呈する。構成礫は、総数32点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

11号集石 (第38図)

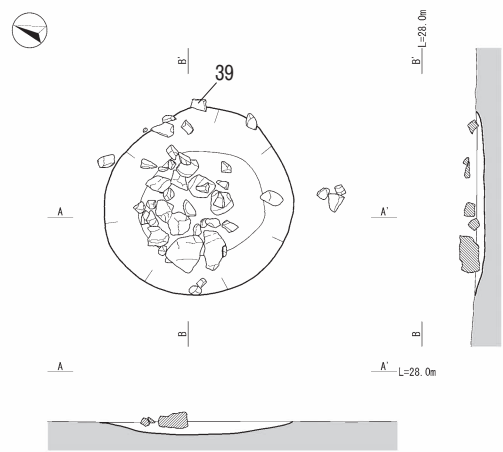
E-19区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、115cm×105cmの略円形プランで、検出面から底面までが極めて浅い。礫は、土坑内に収まり、総数22点確認できた。石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

第29図 299, 311, 335, 339, 344号集石・344号集石出土遺物

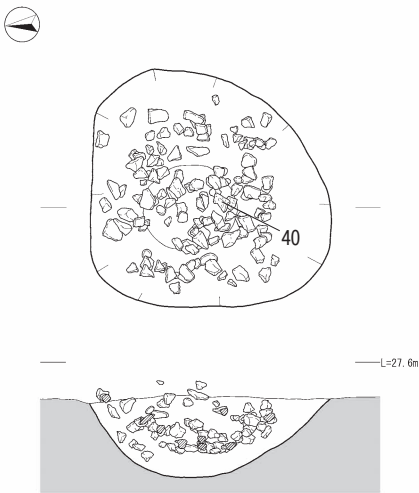
345号集石



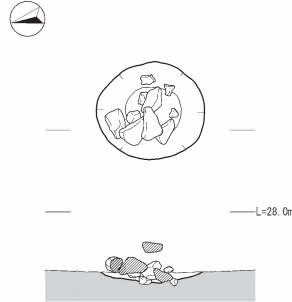
352号集石



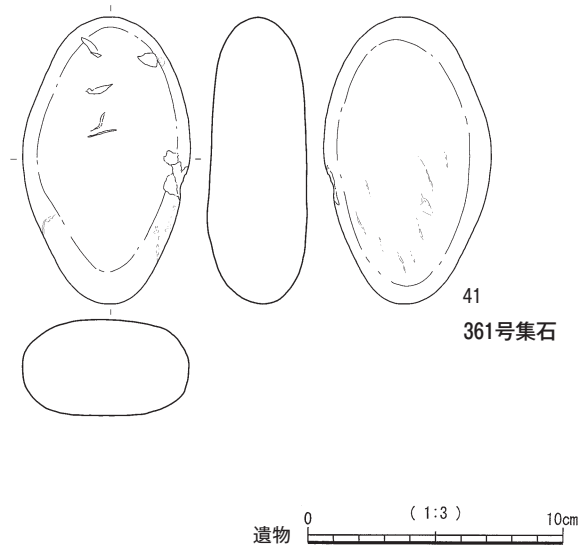
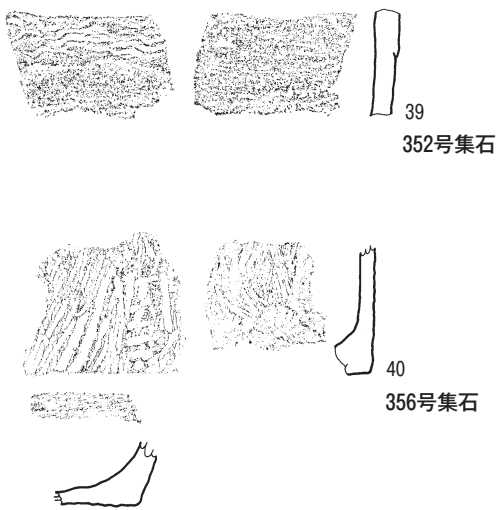
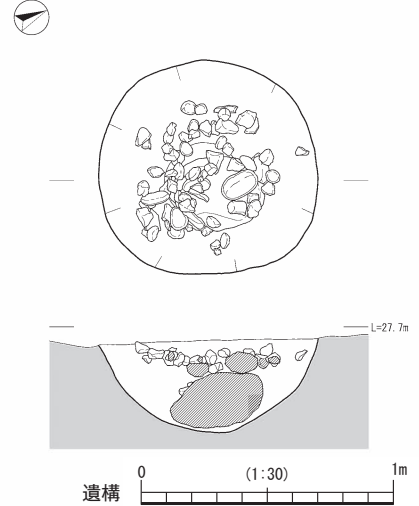
356号集石



357号集石

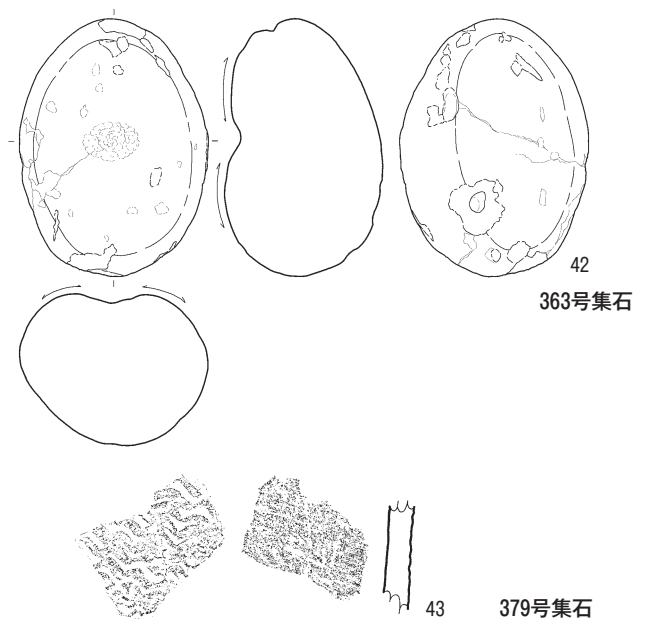
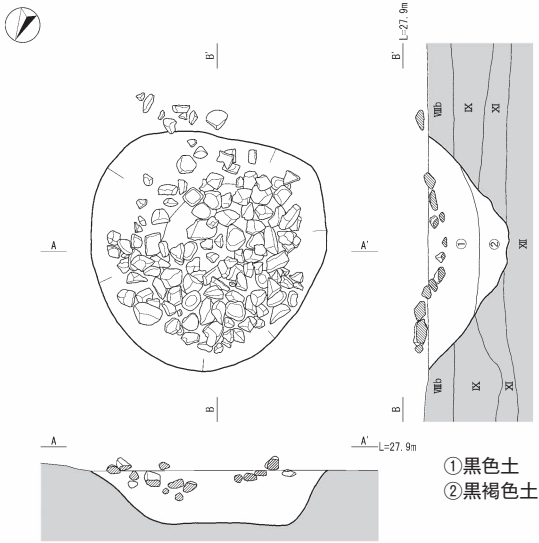


361号集石

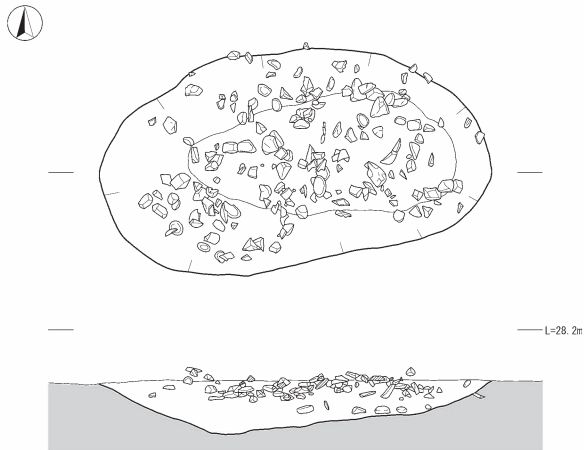


第30图 345, 352, 356, 357, 361号集石 · 352, 356, 361号集石出土遺物

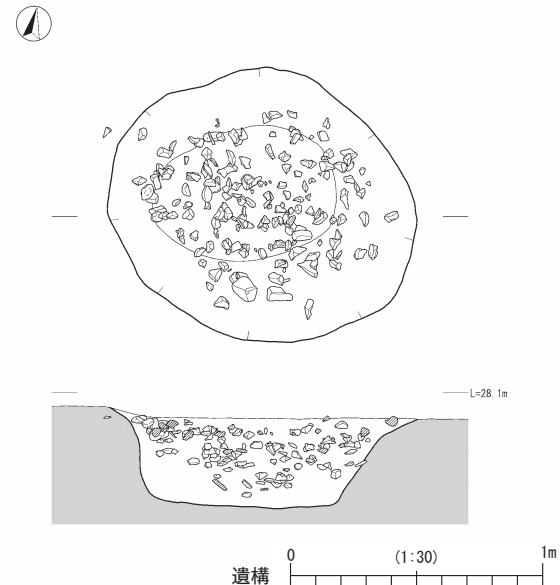
363号集石



376号集石



379号集石



12号集石 (第38図)

D-19区IX層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、65cm×60cmの略円形プランで、礫は、この土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数21点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

13号集石 (第38図)

F-20区IX層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×85cmの楕円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数15点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

14号集石 (第39図)

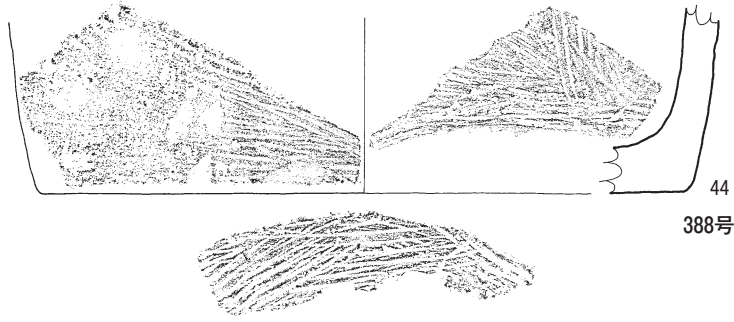
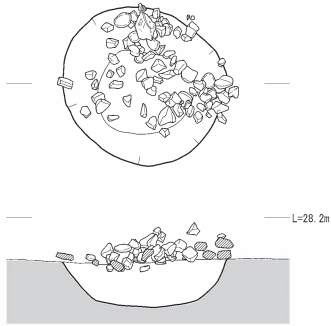
G-20・21区IX層で検出した。礫の検出の後に土坑を確認した。土坑は、1.4m程離れているが2基確認され、75cm×70cmの円形プランで2段掘りのもの(土坑①)とやや不定形な80cm×60cmの楕円形プラン(土坑②)である。礫は、長軸6m、短軸4mの範囲に広がる。構成礫は、総数354点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

16号集石 (第40図)

B-22区IX層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×70cmの楕円形プランで、礫は、

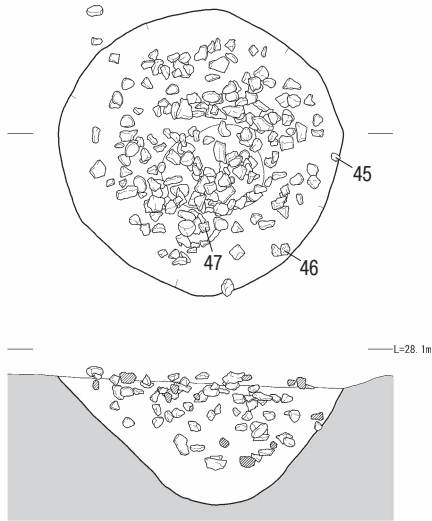
第31図 363, 376, 379号集石・363, 379号集石出土遺物

388号集石

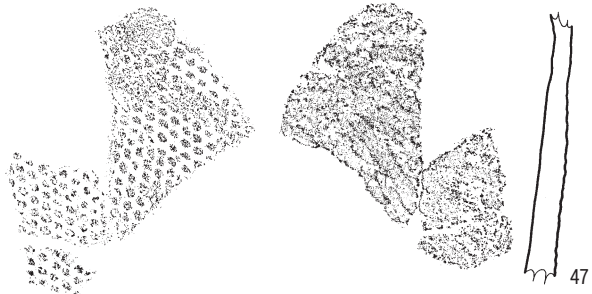


388号集石

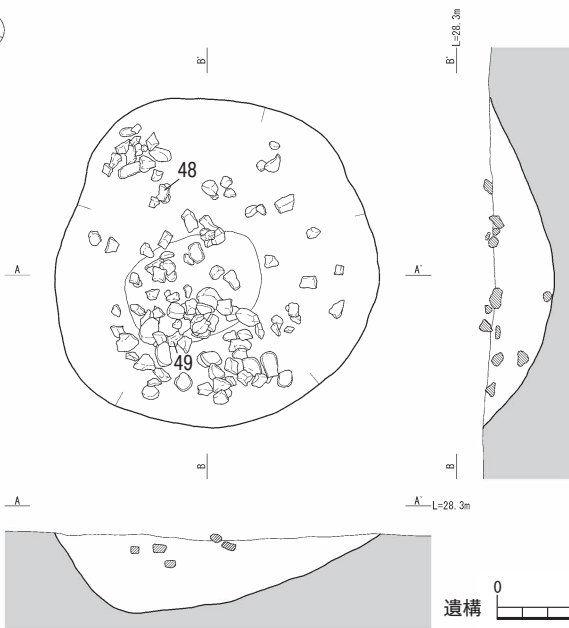
401号集石



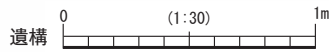
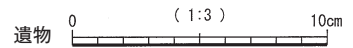
45~47: 401号集石



408号集石

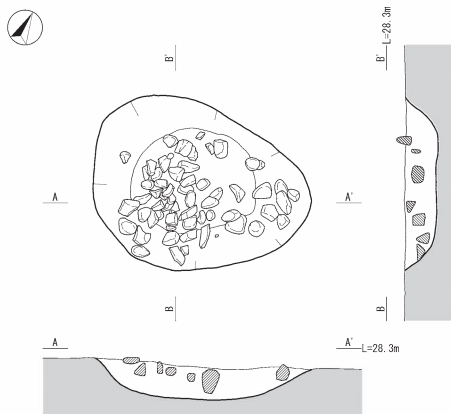


48, 49: 408号集石

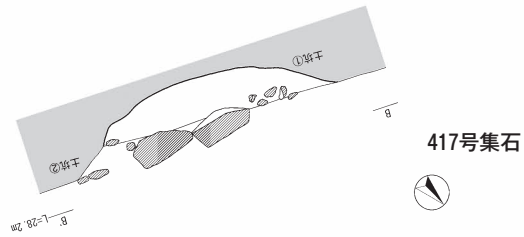
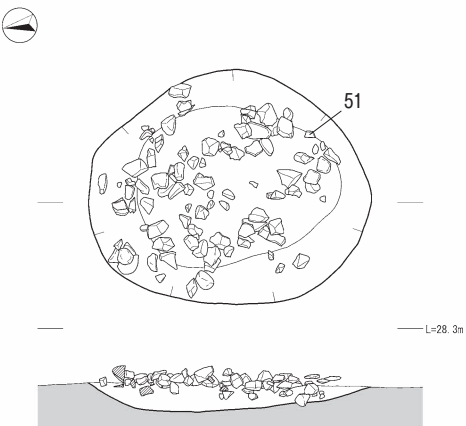


第32図 388, 401, 408号集石・出土遺物

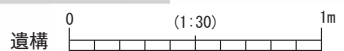
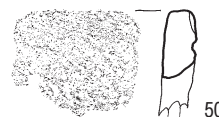
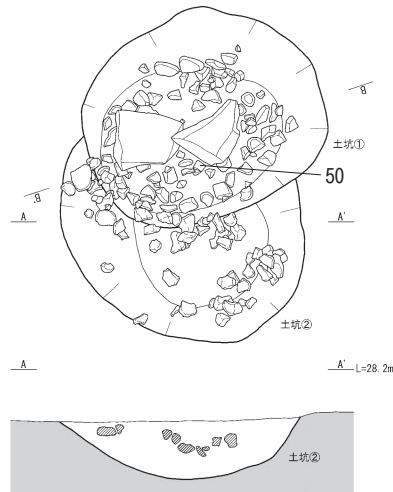
411号集石



421号集石

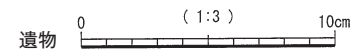


417号集石



417号集石

421号集石



第33図 411, 417, 421号集石・417, 421号集石出土遺物

ほぼ土坑内に収まるが、数点が周辺でも確認された。構成礫は、総数18点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

17号集石 (第40図)

E・F-22区IX層で検出した。礫の検出の後に土坑を確認した。土坑は、140cm×80cmの楕円形プランで、土坑内の北西部分に50cm程度の円形プランの深掘り箇所がある。調査時点では、礫の掘り抜き痕の可能性も想定して調査を進めたが、詳細を明らかにすることは出来なかった。礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数10点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

18号集石 (第40図)

F-22区VIII b層で検出した。礫の検出の後に土坑を確認した。土坑は、プランの半分程度しか把握できなかったが、70cm程度の円形を呈すると思われる。礫は、ほぼ

土坑内に収まる。構成礫は、総数14点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

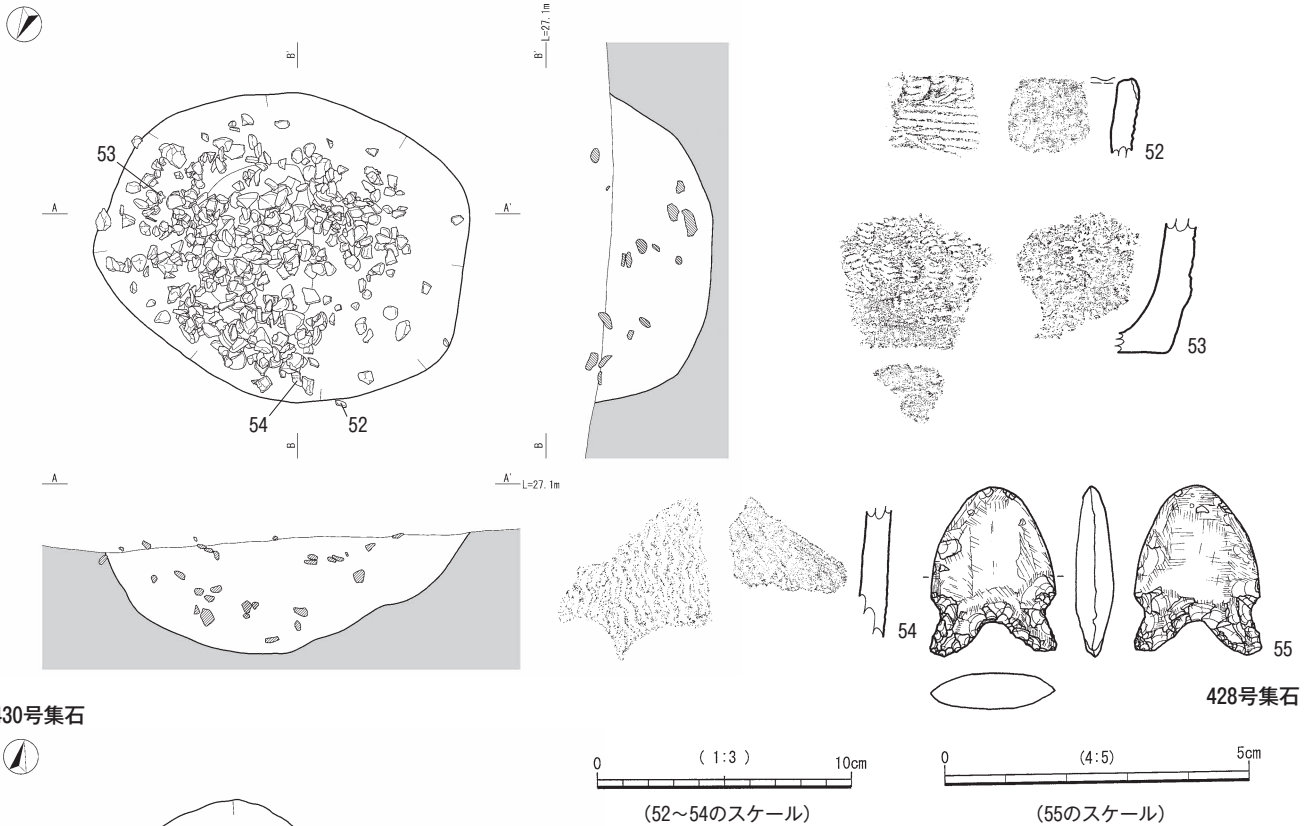
19号集石 (第40図)

B-23区VIII層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×50cmの楕円形プランである。礫は、ほぼ土坑内に収まる。構成礫は、総数15点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

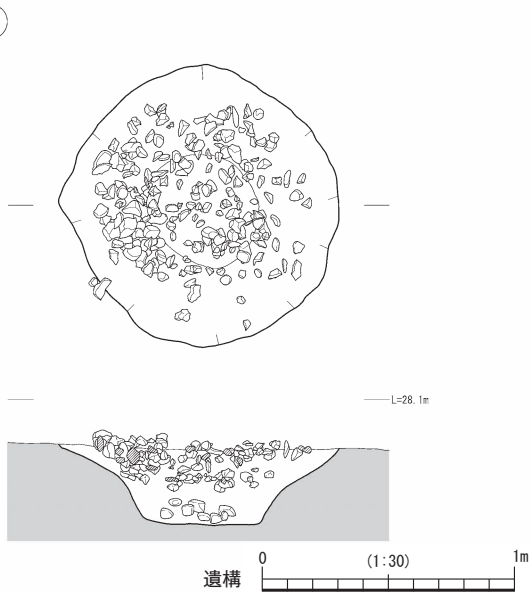
20号集石 (第40図)

B-24区VIII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、120cm×100cmの略円形プランで、礫は、この土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数25点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

428号集石



430号集石



第34図 428, 430号集石・428号集石出土遺物

21号集石 (第41図)

C-24・25区Ⅸ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、2基確認され土坑①は105cm×95cmの円形プランで、土坑②は100cm×80cmの略円形プランである。本来は個別の遺構の可能性もあったが、現場で一連のものとして調査し図化していった。礫は、土坑内にはほぼ収まる。構成礫は、総数16点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは土器1点で、これを図化した。231号集石と接合関係にある。

22号集石 (第41図)

D-24区Ⅸ層で検出した。当初土坑として調査を進め、礫の状況から集石として掲載することとしたため、構成礫等のデータは作成していない。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×70cmの略円形プランで、集石内遺物と判断したものは、土器1点で、これを図化した。

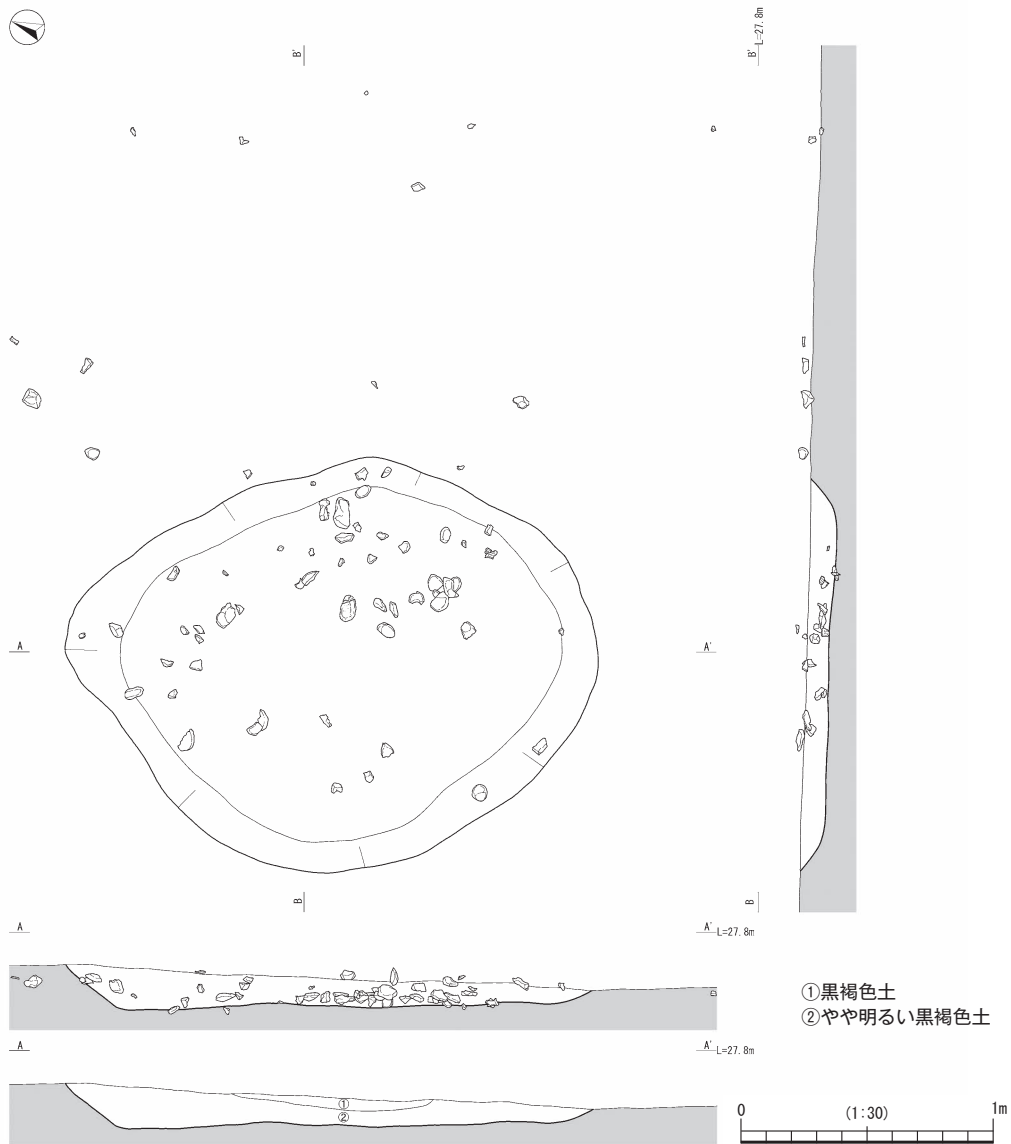
23号集石 (第42~44図)

D-24・25区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に複数の土坑も確認された。土坑は、3基あり土坑①は90cm×85cmの略円形プランで、土坑②は125cm×110cmの楕円形、土坑③は135cm×130cmの円形プランである。土坑③の西には礫の集中域①がある。これらは、単独の集石とも考えたが、現場で一連のものとして判断し、調査し図化していった。構成礫は、総数129点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器7点、石器1点で、石器は石皿片である。このうち土器1点を図化した。土坑の床面直下で12号土坑を検出している。可能性として、この集石と掘り込みは、12号土坑の上部構造である可能性も否定できない。

24号集石 (第45図)

C-25区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も

1号集石



第35図 1号集石

確認された。土坑は、80cm×75cmの略円形プランで、底面は平坦で立ち上がりが強い。礫は、土坑内の5点のみで、集石とするか判断に迷ったが、現場の判断を尊重した。石材は砂岩のみである。集石内遺物は確認できなかった。

25号集石 (第45図)

C-25・26区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cmの円形プランで、浅いすり鉢状の断面を呈する。礫は、3.5m×2.5mの範囲に広がる。土坑内底面に接する礫は見られなかった。構成礫は、総数92点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

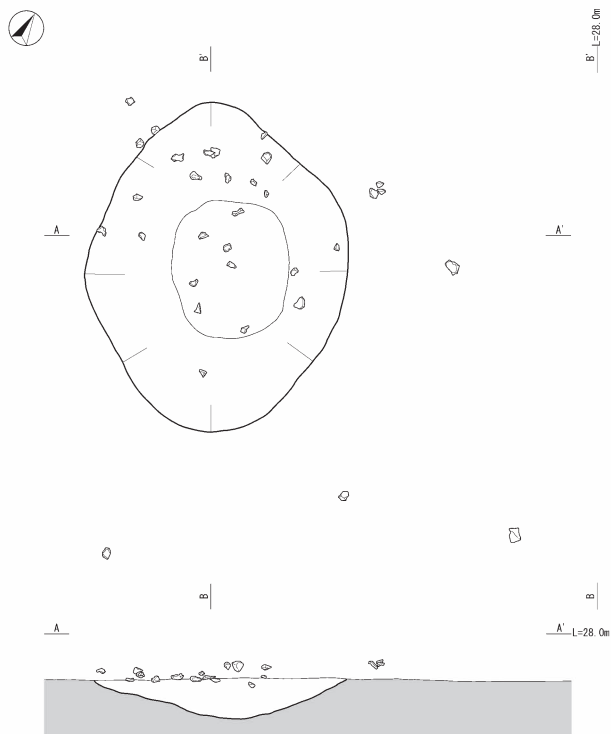
26号集石 (第45図)

B・C-25・26区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に隣接して土坑が確認され、一連の集石として記録した。土坑は、長軸で85cmあり、検出面の状況から楕円形プランを呈すると思われた。礫は、この土坑周辺約2mに広がる。構成礫は、総数12点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器10点で、このうち土器2点を図化した。いずれも小破片である。

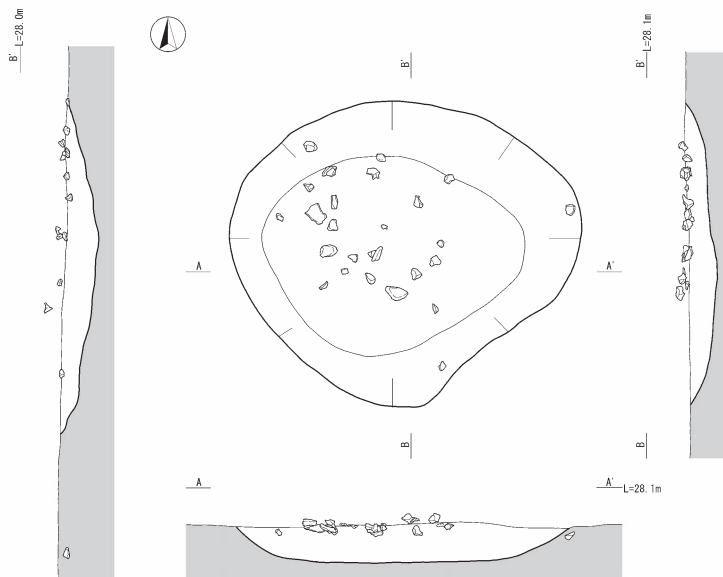
27号集石 (第46図)

B-25区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、115cm×75cmの楕円形プランで、礫は、3m四方に広がる。構成礫は、総数31点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土

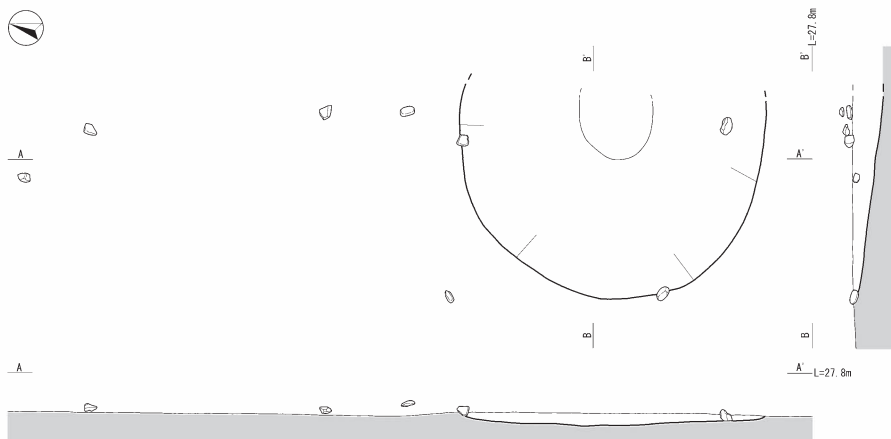
2号集石



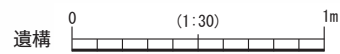
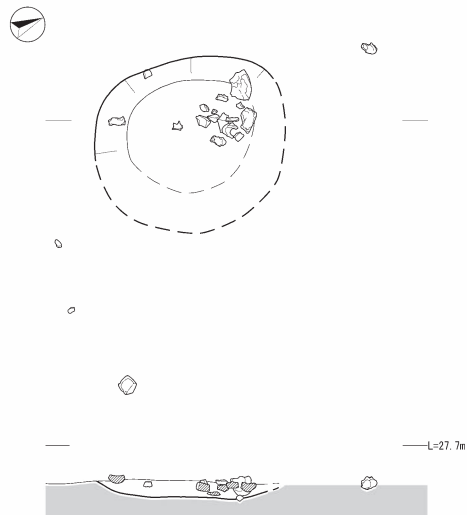
3号集石



5号集石



6号集石



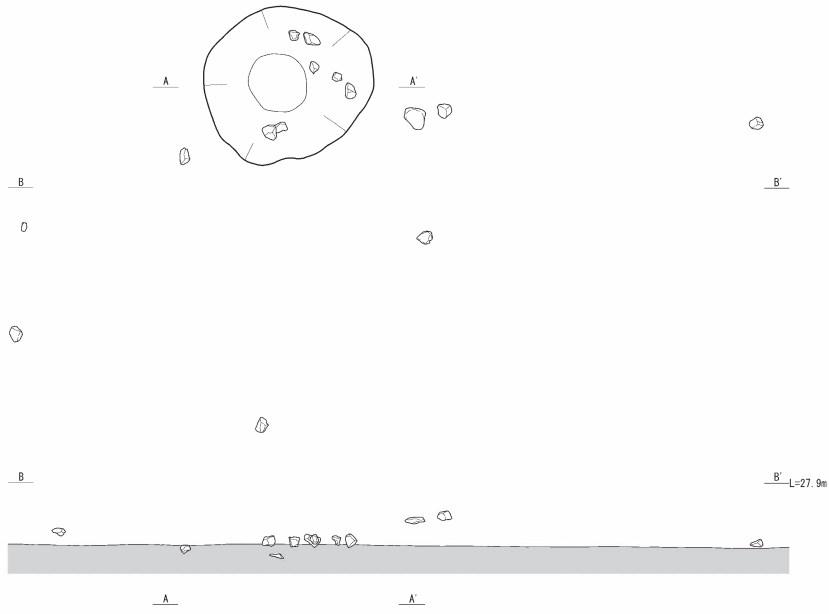
器3点であるが、小破片のため図化は困難であった。

29号集石 (第47図)

D-26区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×75cmの略円形プランで、礫は、5m×5mの範囲に広がる。構成礫は、総数70点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器5点で、このうち土器1点を図化した。いずれも小破片である。

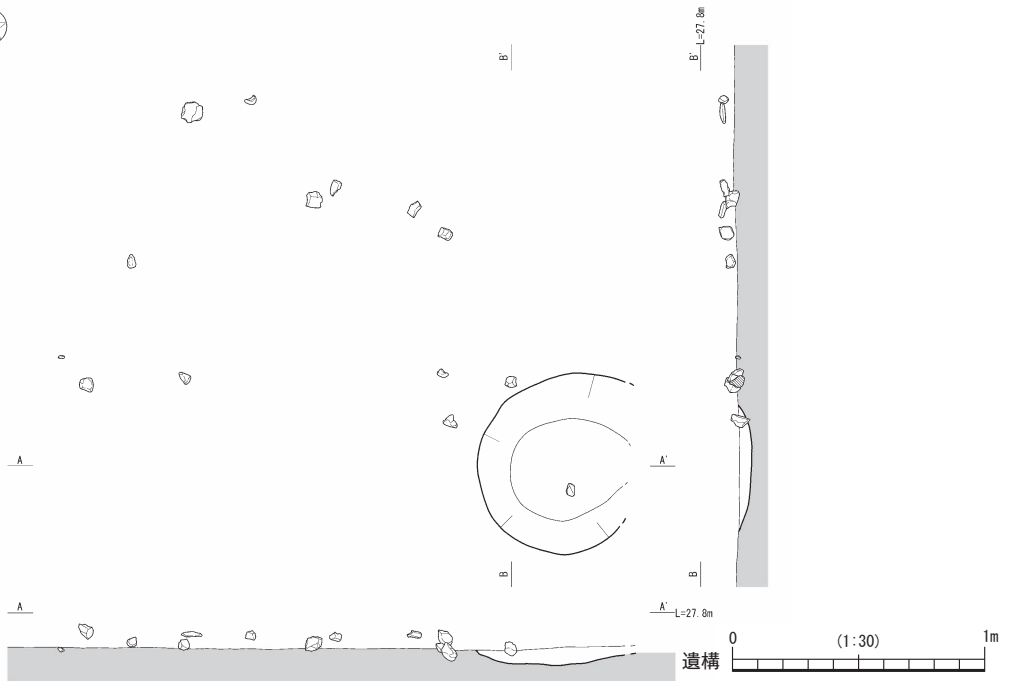
第36図 2, 3, 5, 6号集石

7号集石



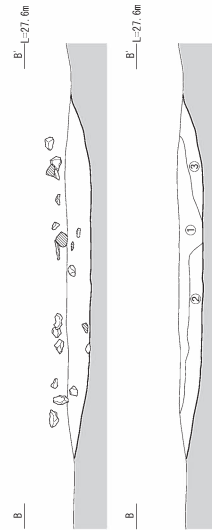
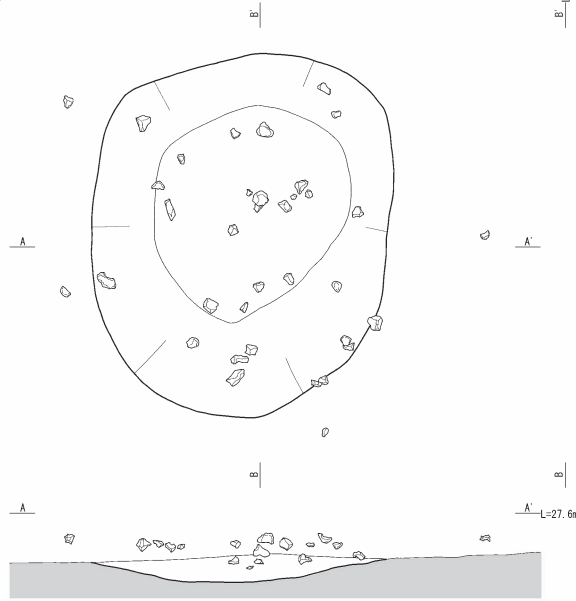
- ① 黒褐色土
- ② 黒褐色土 白色バミス多い

8号集石



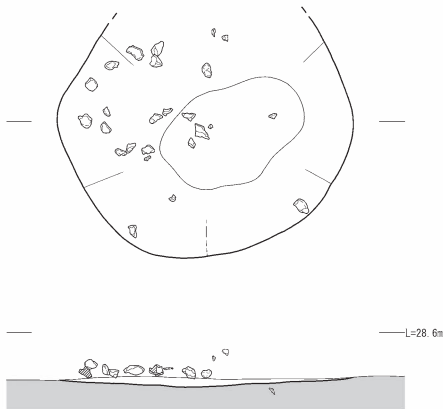
第37図 7, 8号集石

10号集石

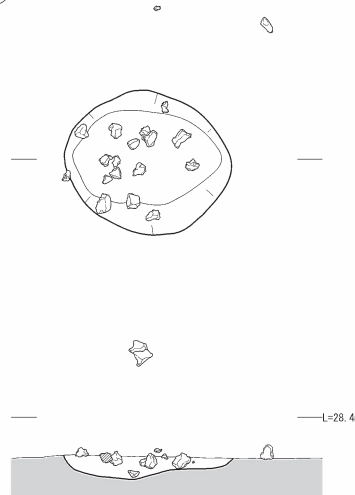


- ① 黒褐色土
- ② 黒褐色土 黄色パミス粒やや大きい

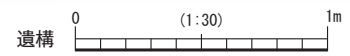
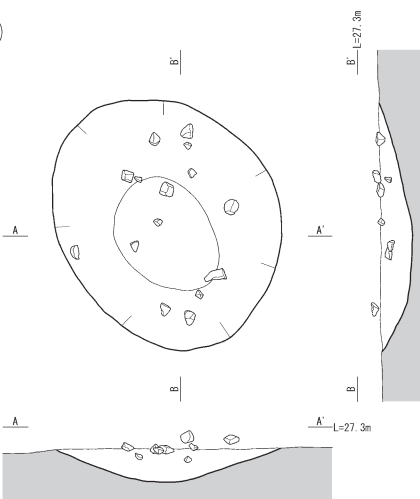
11号集石



12号集石



13号集石



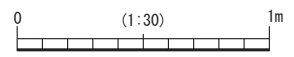
30号集石 (第48図)

D・E-26区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×95cmの略円形プランで、礫は、土坑を中心に1.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数34点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

31号集石 (第48図)

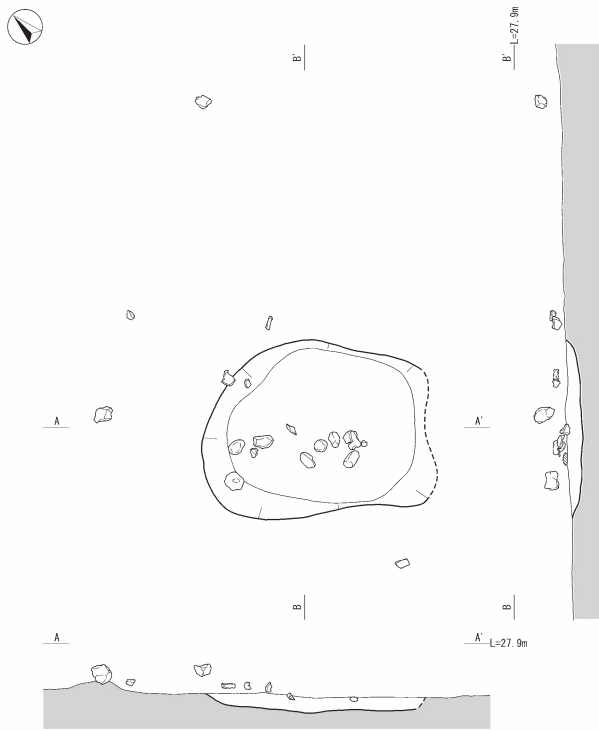
E-26区Ⅸ層で検出した。礫の検出の後に土坑を確認

第38図 10, 11, 12, 13号集石

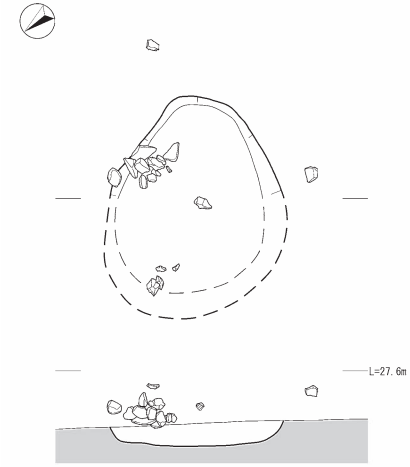


第39图 14号集石

16号集石



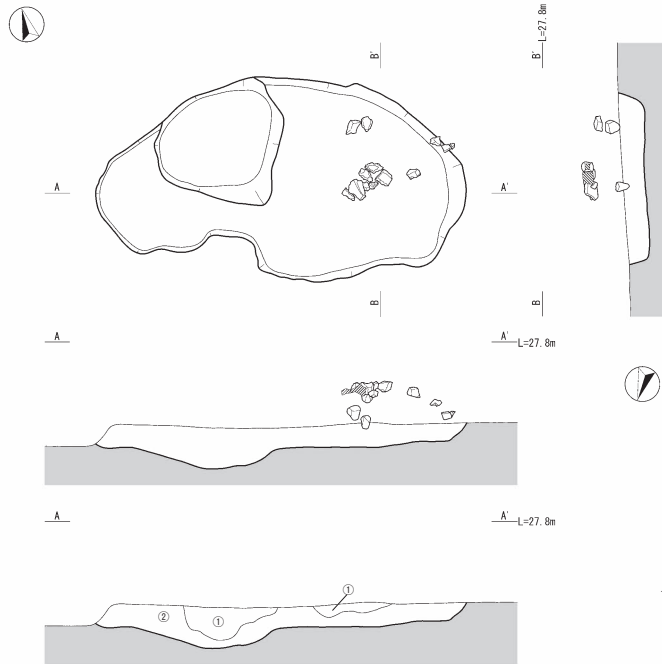
18号集石



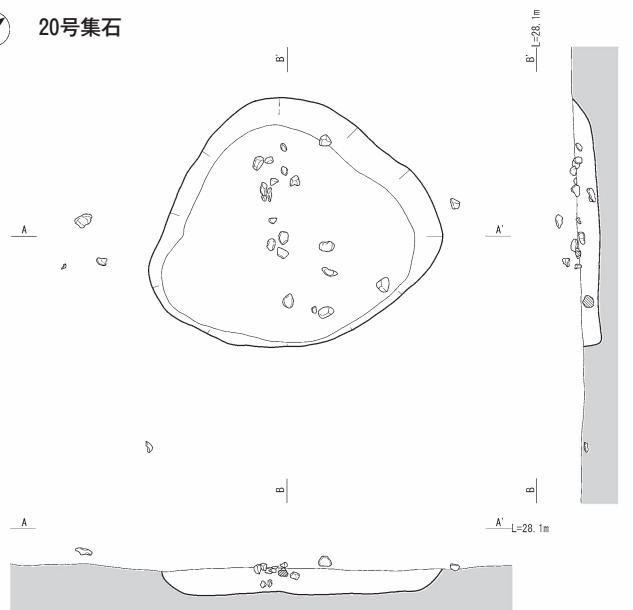
19号集石



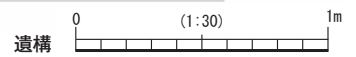
17号集石



20号集石

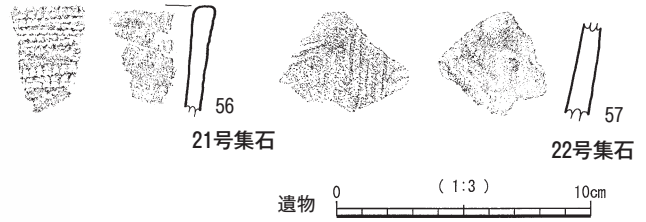
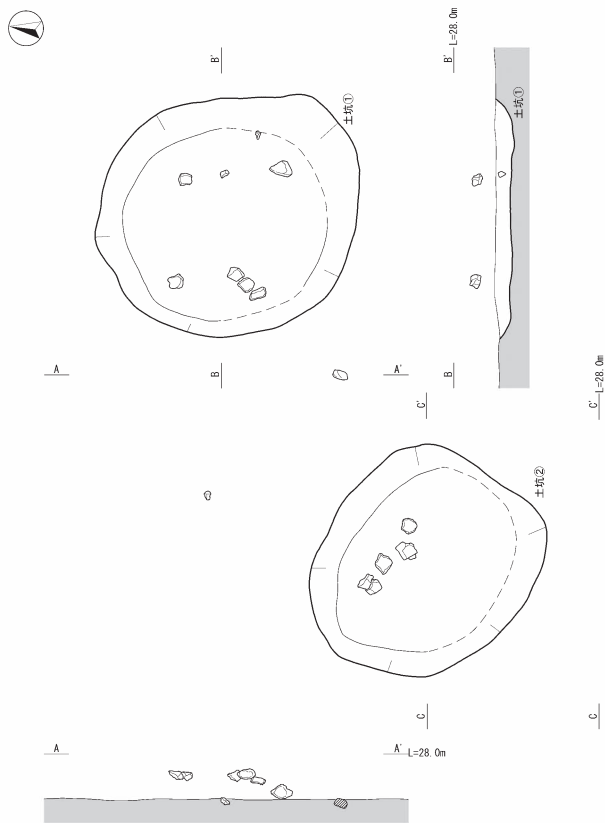


- ① 黒褐色土
- ② 褐色土

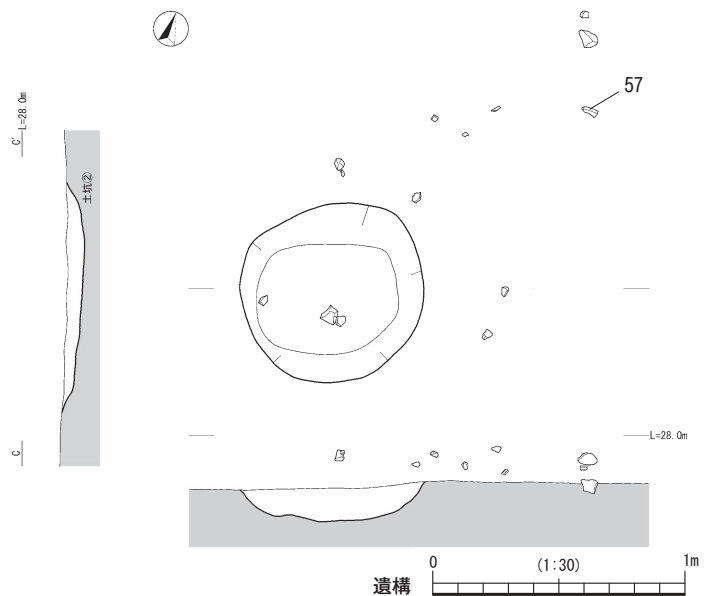


第40図 16, 17, 18, 19, 20号集石

21号集石



22号集石



第41図 21, 22号集石・出土遺物

した。土坑は、先行トレンチにより一部が検出できなかったが、円形プランを呈すると思われる、残存する最大長は80cmある。礫は、土坑周辺を含め2.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数21点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点で、これを図化した。

32号集石 (第49図)

E・F-26・27区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、集石周辺に11基確認され、一連のものとの認識で調査し図化した。土坑は、円形ないし楕円形プランで、礫は、4.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数244点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点、石器1点で、このうち土器1点を図化した。

34号集石 (第50図)

F-25・26区Ⅸ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。これらを、一連の集石として現場で判断して調査図化していった。土坑は、礫の周辺で7基が確認され、円形ないし楕円形プランで、礫は、4mの範囲

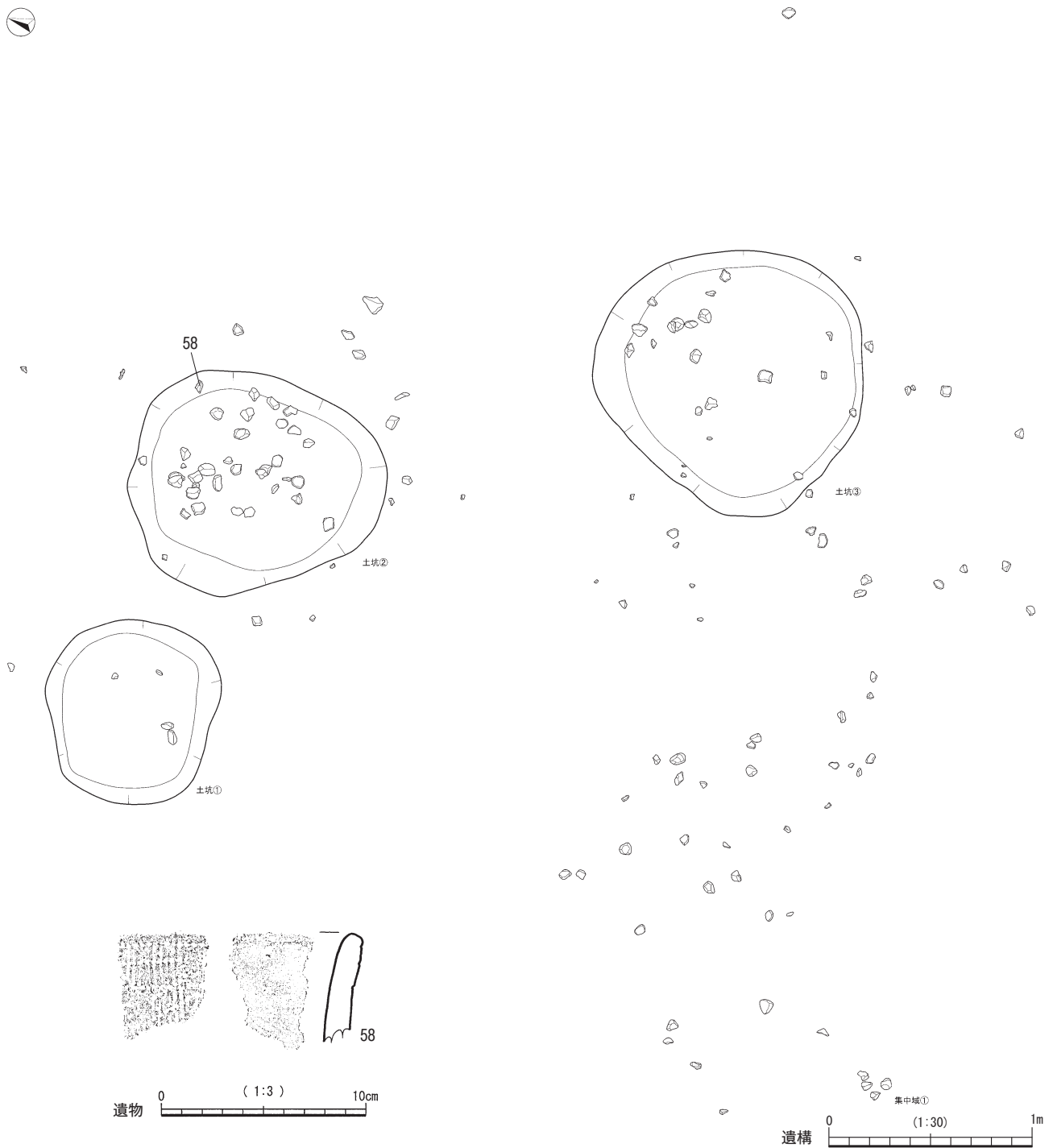
に広がる。構成礫は、総数65点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器5点で、このうち土器1点を図化した。

35号集石 (第51図)

F-26区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、一部先行トレンチで上面プランを把握できなかったが、概ね85cm程度の円形プランが想定される。礫は、土坑の南側に散在し、総数33点確認された。石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

36号集石 (第51図)

E-27区Ⅸ層で検出した。礫の検出の後に土坑を確認した。礫の散在状況から2基の土坑が関連すると想定して記録した。土坑は、いずれも楕円形プランで、140cm×95cmと100cm×85cmを測る。礫は、4m×2.5mの範囲に散在する。構成礫は、総数63点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器1点を図化した。



第42図 23号集石①・出土遺物

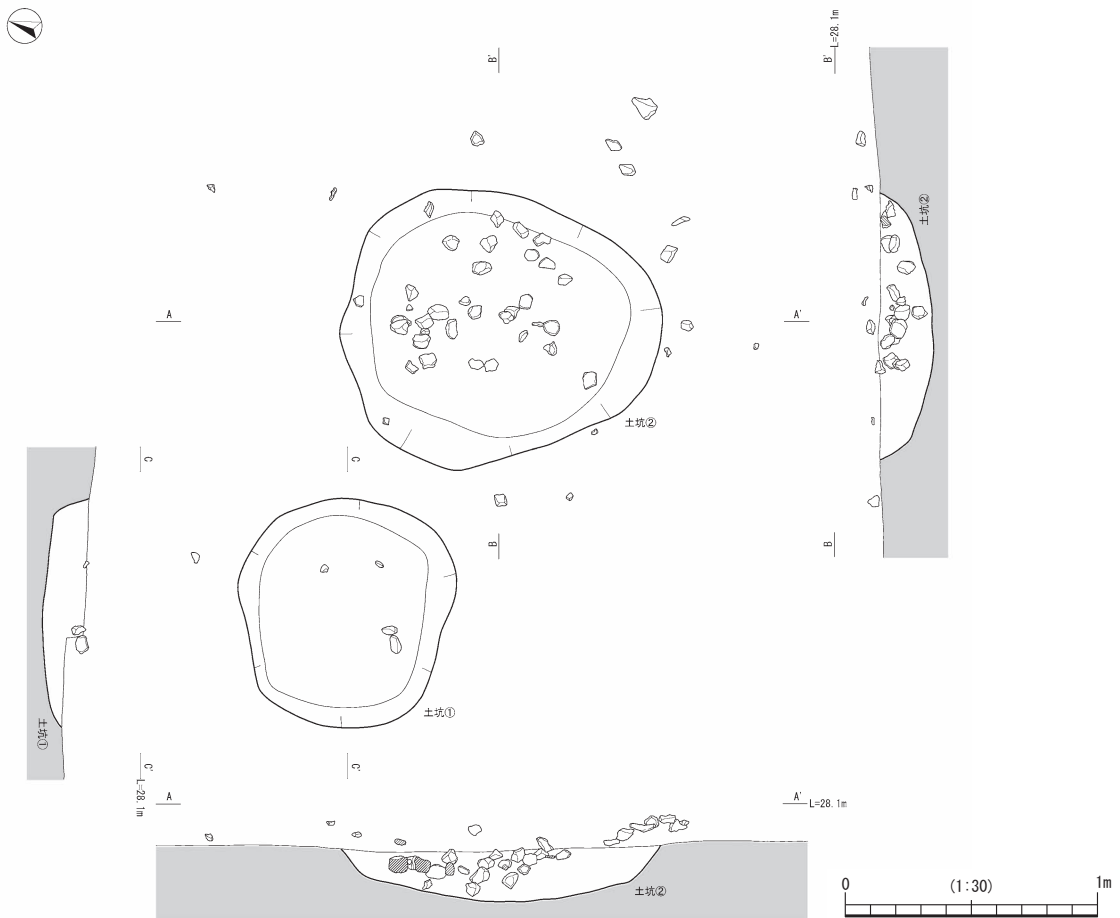
37号集石 (第52図)

E-27区IX層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、3基が隣接して検出され、いずれも円形プランである。礫はまばらで、比較的大きめの土坑上面にわずかに集中する。構成礫は、総数15点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

38号集石 (第53図)

E-27区IX層で検出した。礫の検出と同時に7基の土坑も確認された。土坑は、円形ないし楕円形プランで、礫集中から2m離れている土坑⑦についても一連の遺構として認定しており、現場での判断を尊重してここに掲載した。土坑①は120cm、土坑②は70cmの長軸で、全体像は不明である。土坑③は95cm×75cmの楕円形プランで

23号集石 土坑②



第43図 23号集石②

上面に礫が比較的多く集まる。土坑④は60cm×50cmと小型の円形プランで、上面に礫がやや集中する。土坑⑤は100cm×90cmの略円形で、土坑上面に礫が集中する。土坑⑥は、集中域からやや離れてわずかに礫が出土する。85cm×75cmの略円形プランで、断面形状が浅いすり鉢状を呈する。土坑⑦は集中域から離れて検出され、75cm×75cmの円形プランを呈する。礫は、これら土坑周辺の4m×3mの範囲に広がる。構成礫は、総数143点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

39号集石 (第54図)

E-27区Ⅸ層で検出した。礫の検出の後に土坑を確認した。関連すると現場で判断した土坑は3基あり、内1基は、先行トレンチにより全体を把握できなかった。1基は円形プランで、80cm×75cmあり、もう1基は楕円形プランで125cm×100cmを測る。構成礫は、総数22点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

42号集石 (第54図)

D-27区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×85cmの略円形プランで、礫は、この土坑内に収まる。構成礫は、総数45点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

41号集石 (第55図)

D-27区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、185cm×125cmの不定形プランで、礫は、土坑を中心に4.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数156点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、磨石片1点である。

43号集石 (第56図)

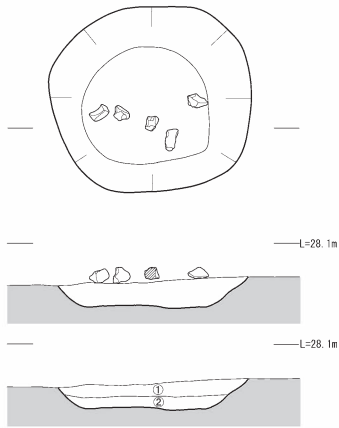
D-27区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、65cm×60cmの円形プランで、礫は、この土坑北側4mの範囲に広がる。構成礫は、総数642点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

23号集石 土坑③



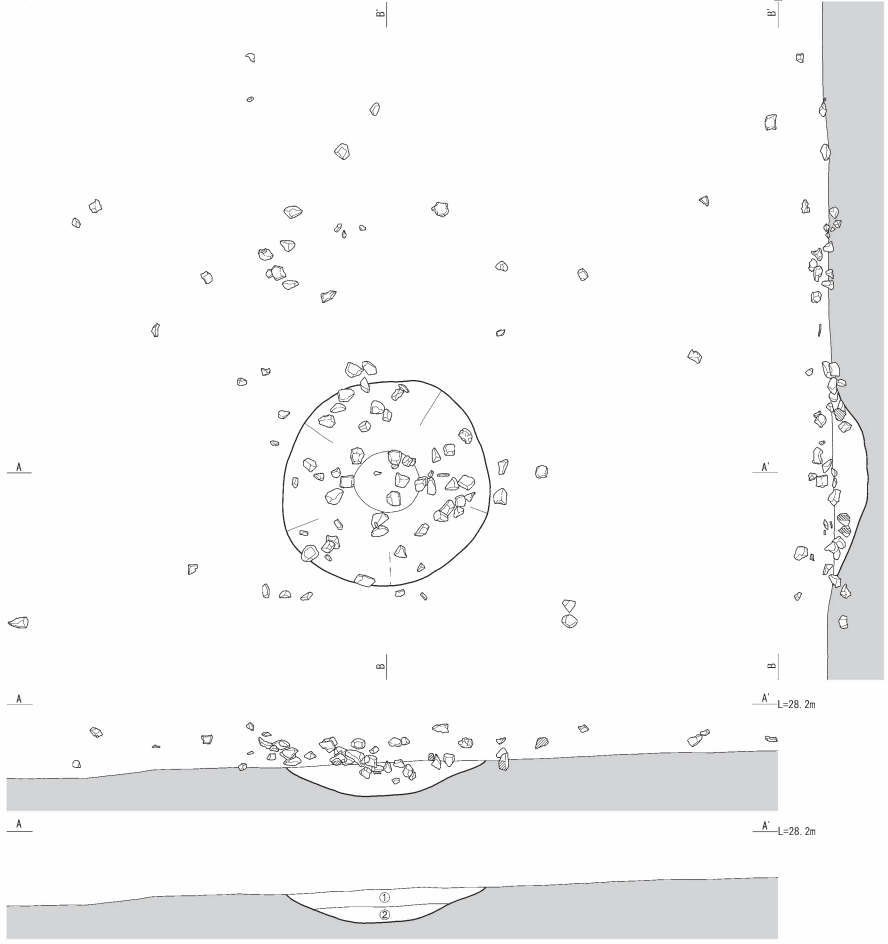
第44図 23号集石③

24号集石



- ① 黒褐色土
- ② 灰褐色土

25号集石

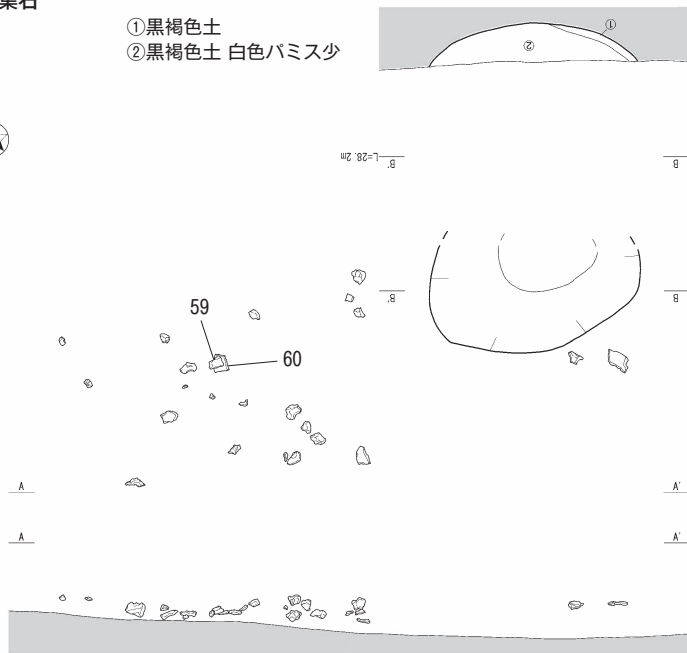


- ① 黒褐色土
- ② 黒褐色土 しまり強

26号集石



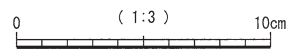
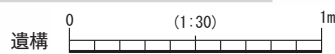
- ① 黒褐色土
- ② 黒褐色土 白色パミス少



26号集石

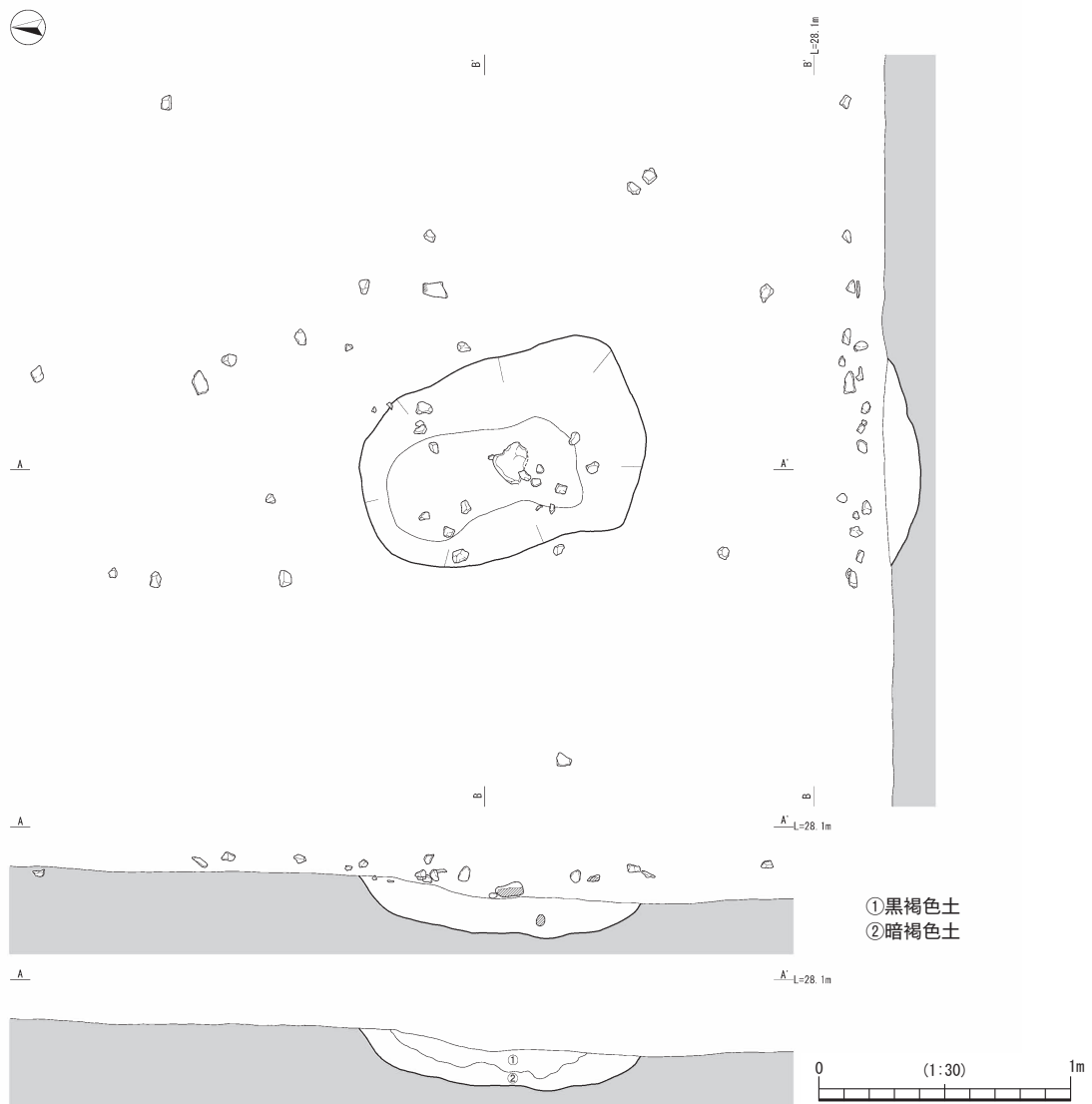


26号集石



第45図 24, 25, 26号集石・26号集石出土遺物

27号集石



第46図 27号集石

47号集石 (第57図)

B-27・28区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、130cm×110cmの楕円形プランで、礫は、この土坑西側に広がり、5.5m×4.5m程度の範囲を集石のまとまりとした。構成礫は、総数106点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

44号集石 (第58図)

B・C-27区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×75cmの円形プランで、礫は、この土坑外30cm付近まで広がる。構成礫は、総数12点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

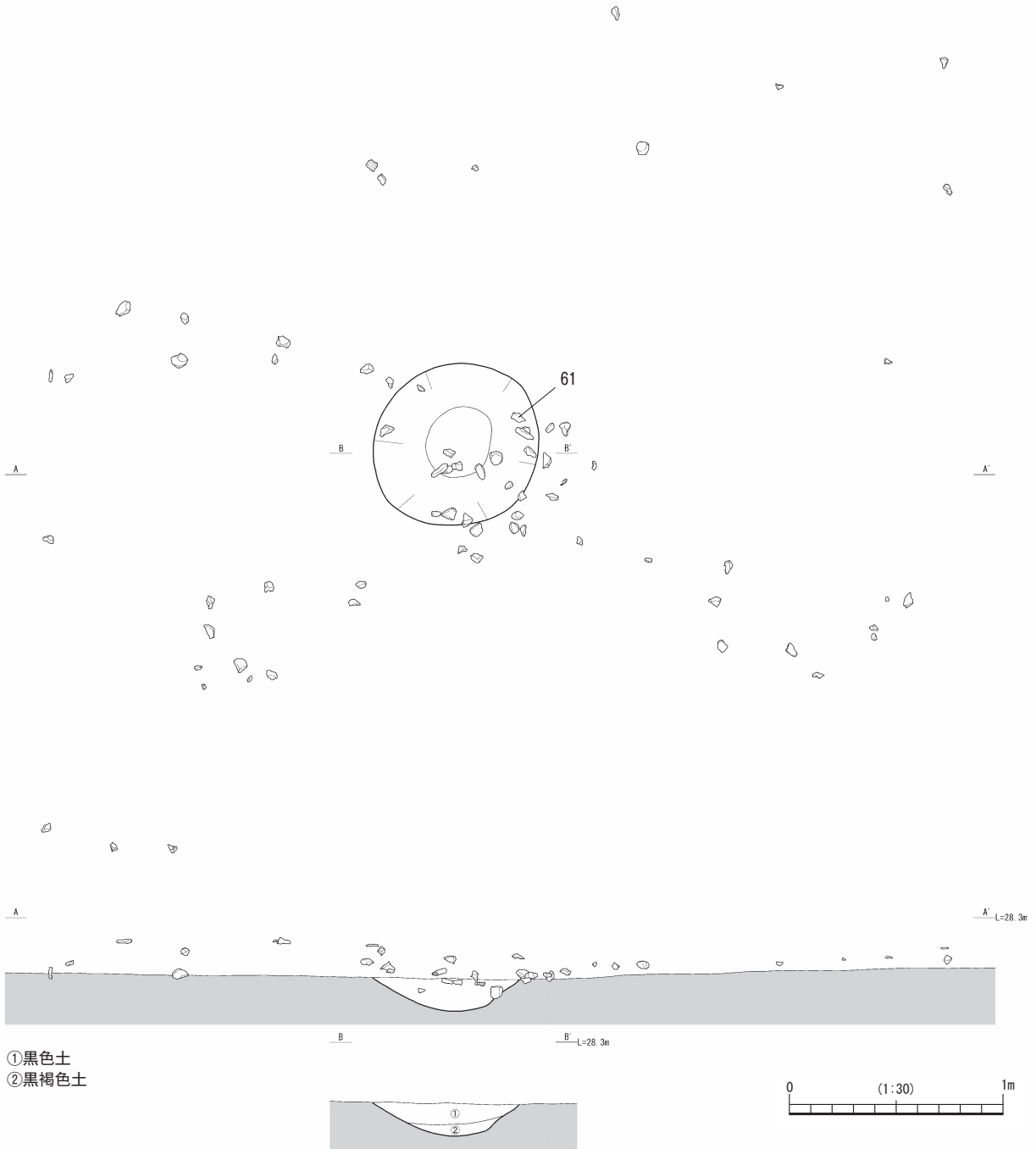
45号集石 (第58図)

B-27区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×75cmの円形プランで、検出面から底面まで25cmとやや深い。礫は、1.2m×1mの範囲に広がる。構成礫は、総数12点で、石材は凝灰岩と砂岩とが同量である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが、小破片のため図化は困難であった。

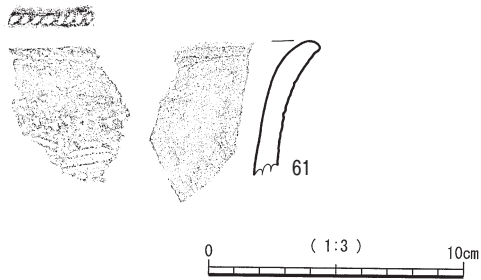
46号集石 (第58図)

B-27区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×85cmの楕円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数69点で、石材はわずかに砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器7点であるが、いずれも小破片のため図化は困難であった。

29号集石



- ① 黒色土
- ② 黒褐色土

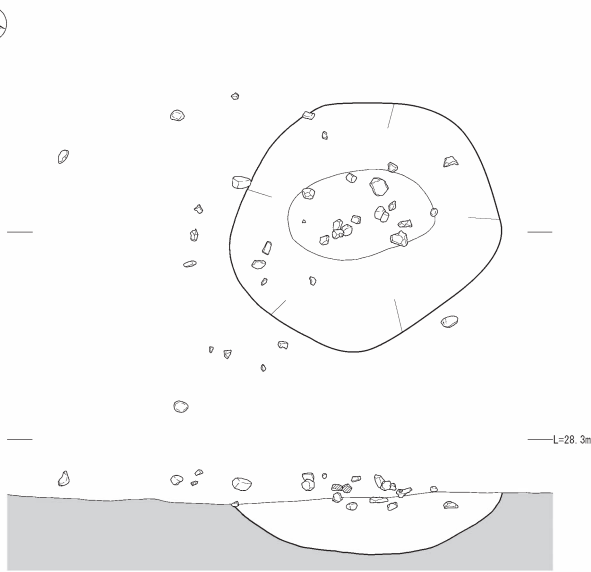


第47図 29号集石・出土遺物

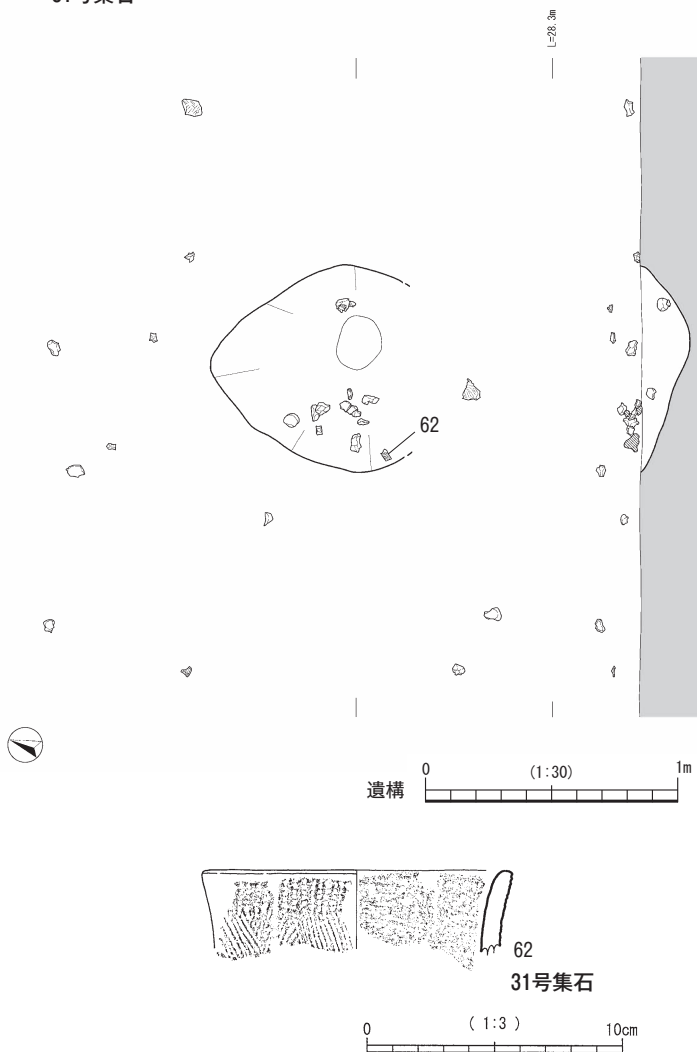
48号集石 (第58図)

B-28区Ⅸ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×75cmの円形プランで、礫は、2mの範囲に広がる。構成礫は、総数19点で、石材は凝灰岩と砂岩が同量である。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを図化した。

30号集石



31号集石



49号集石 (第58図)

B-28区Ⅸ層で検出した。当初土坑として調査を進めたため、構成礫等のデータは作成していない。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、略円形プランで、集石内遺物は確認できなかった。

50号集石 (第59図)

B-28区Ⅸ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×85cmの楕円形プランで、構成礫は、総数9点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

51号集石 (第59図)

C-28区Ⅷb層で検出した。当初土坑として調査を進め、礫の状況から集石として掲載することとしたため、構成礫等のデータは作成していない。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×85cmの略円形プランで、集石内遺物と判断したものは土器1点で、これを図化した。67は、口縁部が直行し、口唇部が平坦面を有する。内面は剥落が激しく、詳細ははっきりとしない。

52号集石 (第59図)

D-28区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、円形プランで、35cm×30cmの略円形で、その東側には1.5m×1.3mの範囲にシミ状の痕跡も確認できた。礫は、4m×3mの範囲に広がる。構成礫は、総数65点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが、小破片のため図化は困難であった。

55号集石 (第60図)

E・F-28・29区Ⅸ層で検出した。礫の検出の後に土坑を確認した。土坑は、楕円形プランで、小型の円形プランが切り合うように確認されたが、詳細は把握できなかった。礫は、土坑外に広がっており、1.5m×1mの範囲に散在する。構成礫は、総数22点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点で、これを図化した。

56号集石 (第60図)

E・F-28区Ⅸ層で検出した。礫の検出の後に土坑を確認した。土坑は、3基が切り合うように確認され、90cm×80cm、80cm×75cm、100+a×75cmの円形プランを呈する。礫は、2m×1mの範囲に散在し、構成礫は、総数23点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは土器1点で、これを図化した。

第48図 30, 31号集石・31号集石出土遺物



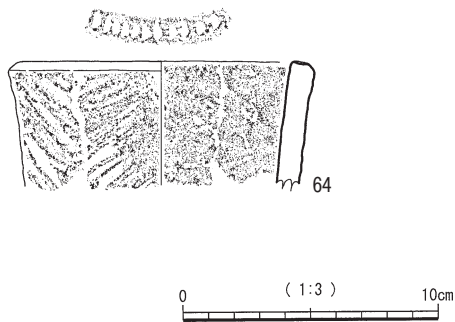
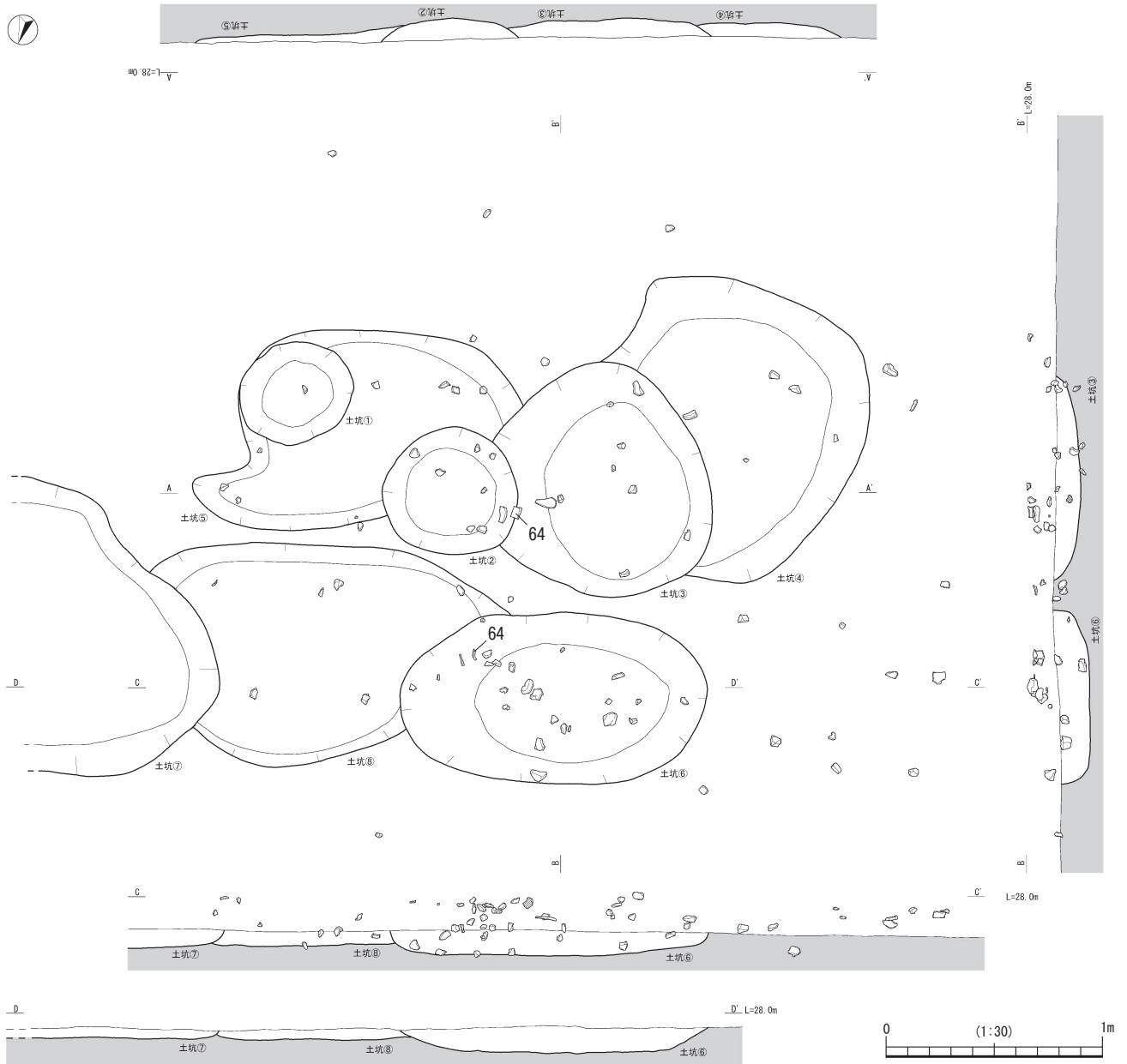
第49図 32号集石・出土遺物

57号集石 (第61図)

F-28区Ⅱ層で検出した。礫の検出と同時に複数の土坑も確認された。土坑は、楕円形と円形プランが切り合っ

ており、隣接して3基の円形土坑も確認された。現場では、これらを一連の集石として記録している。礫は、土坑群の北側2.5m×1.5mの範囲に散在している。構成礫

34号集石



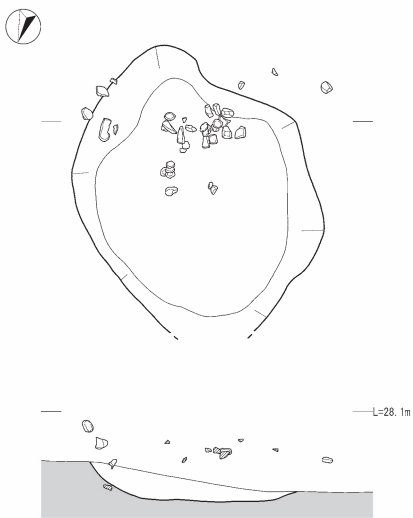
第50図 34号集石・出土遺物

は、総数37点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点で、小破片のため図化は困難であった。

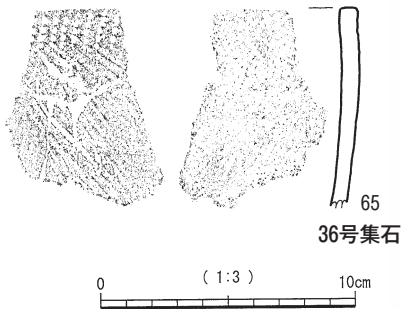
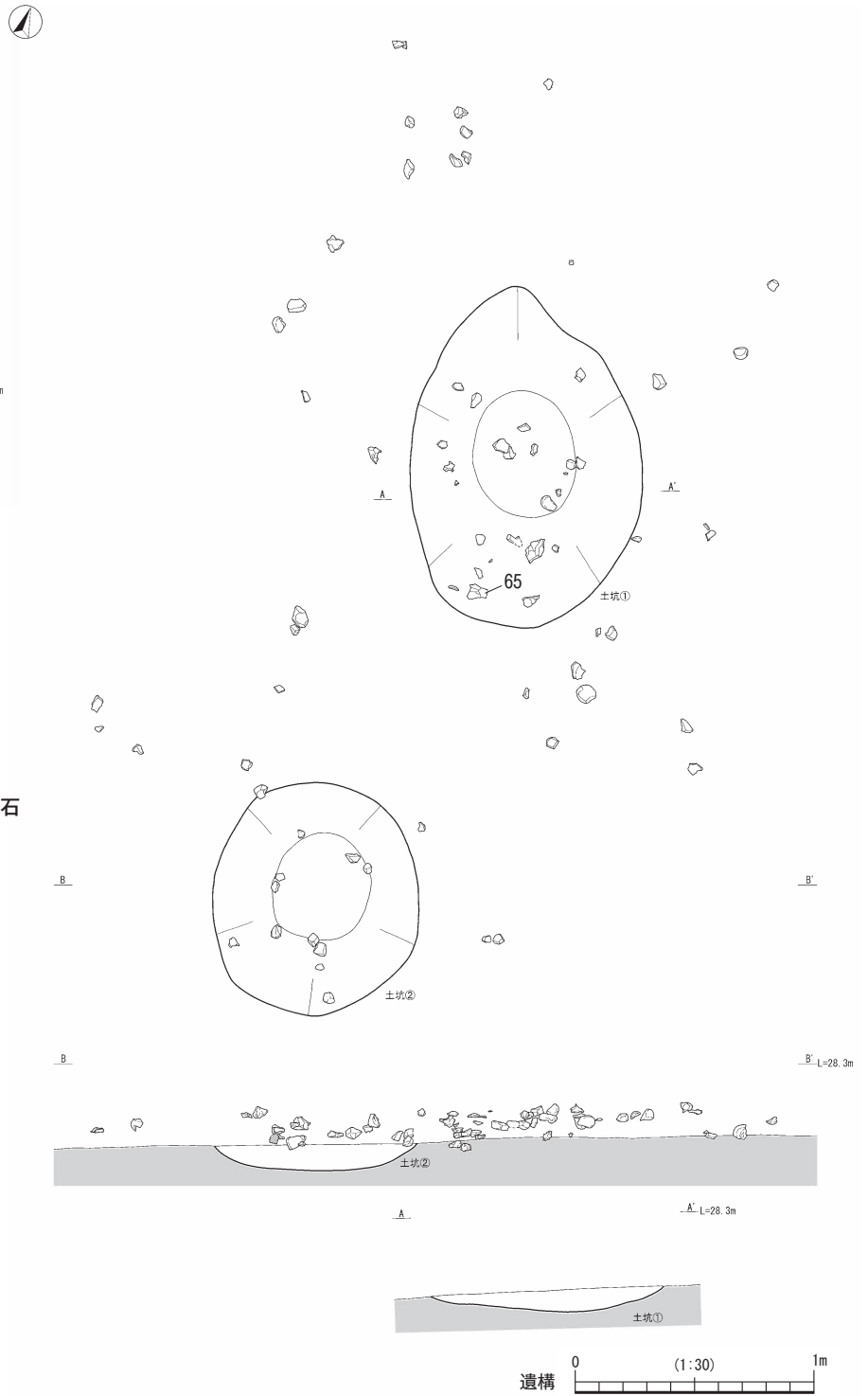
58号集石 (第61図)

F-28区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑を確認した。土坑は、83cm×80cmの円形プランを呈する。土坑の立ち上がりはやや緩やかである。礫は、ほぼ土坑内に収まる。構成礫は、総数51点で、石材はわずかに凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは土器1点で、これを図化した。

35号集石



36号集石



36号集石

第51図 35, 36号集石・36号集石出土遺物

61号集石 (第62図)

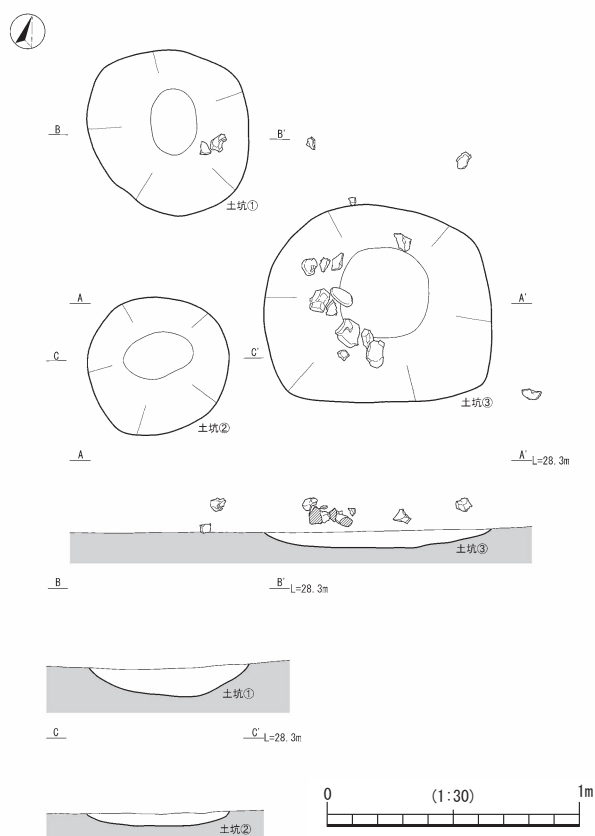
G-29区Ⅸ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、直径1mの円形プランで、底面からの立ち上がりがしっかりとしている。礫は、この土坑の上面及び周辺に2.5m×2mの範囲に広がる。構成礫は、

総数49点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

64号集石 (第63図)

E-29区Ⅹ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確

37号集石



第52図 37号集石

認められた。円形プランの土坑が2基切り合っている。礫は、2m×2.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数39点で、石材はわずかに凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

65号集石 (第63図)

E-29区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、楕円形プランで150cm×100cmを測り、検出面でわずかにくびれる形状が認められた。礫は、この土坑の上位10cm程度に集中する傾向があるが、土坑プランのおよそ70cm外まで広がっている。構成礫は、総数75点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点、石器1点で、これを図化した。72は磨製石鏃で正三角形を呈し、縁辺の加工痕が残っている。

66号集石 (第64図)

B-29区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、円形プランで浅い。礫は、土坑周辺に広がる。構成礫は、総数98点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

67号集石 (第64図)

A・B-29区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、調査区外へと延びるため全体形状は不明である。礫は、この土坑内に収まる構成礫は、総数28点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

68号集石 (第64図)

B-30区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×80cmの略円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数6点で、石材は全て砂岩である。集石内遺物は確認できなかった。

72号集石 (第64図)

C-30区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×80cmの略円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数14点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

73号集石 (第64図)

C-30区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×85cmの楕円形プランで、礫は、わずかながら土坑外にも見られる。構成礫は、総数16点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

76号集石 (第64図)

D-30区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×75cmの略円形プランで、掘り込みは、検出面から底面まで5cm程度と浅い。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数17点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

77号集石 (第65図)

D-30・31区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、50cm×50cmの円形プランで、土坑外30cm程度まで広がる。構成礫は、総数23点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

79号集石 (第65図)

E-30区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×90cmの円形プランで、礫は、3m×3mの範囲に広がる。構成礫は、総数147点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点、石器1点で、このうち土器1点、石器1点を図化した。74は磨製石斧の基部である。

38号集石



第53図 38号集石

83号集石 (第66図)

G-31区Ⅷ層で検出した。当初土坑として調査を進め、礫の状況から集石として掲載することとしたため、構成礫等のデータは作成していない。土坑は、140cm×130cmの円形プランで、集石内遺物は確認できなかった。

84号集石 (第66図)

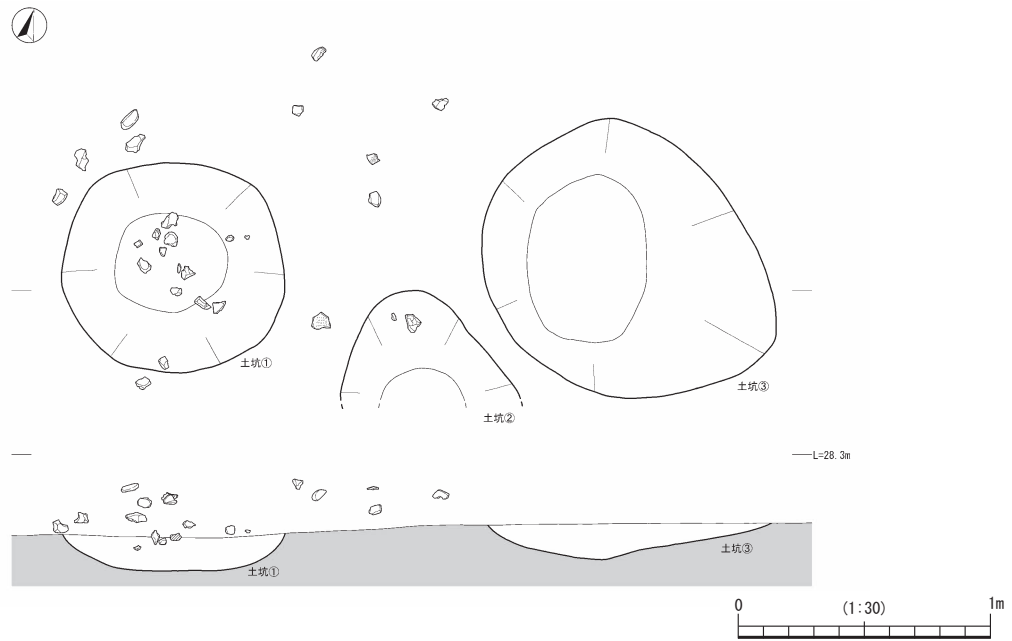
G-31区Ⅷ層で検出した。当初土坑として調査を進め、礫の状況から集石として掲載することとしたため、構成礫等のデータは作成していない。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、120cm×110cmの略円形プランで、

礫は土坑内に収まる。集石内遺物と判断したものは、土器1点で、これを図化した。いずれも小破片である。

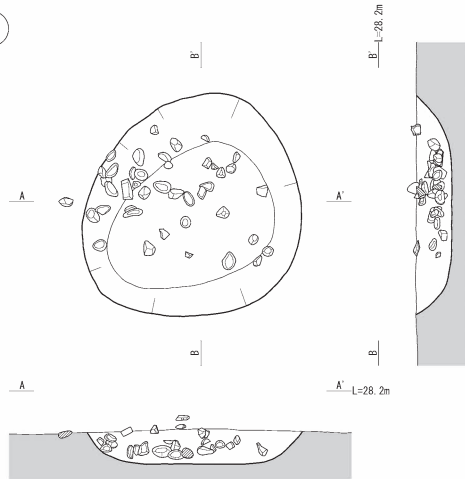
86号集石 (第66図)

E-31区Ⅷb層で検出した。礫の検出の後に土坑を確認した。土坑は、90cm×75cmの円形プランで断面はやや不規則である。礫は、長軸3.3m、短軸3mの範囲に広がる。構成礫は、総数61点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点で、このうち土器1点を図化した。

39号集石



42号集石



第54図 39, 42号集石

90号集石 (第67図)

C-31区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×85cmの略楕円形プランで、礫は、ほぼ土坑内に収まる。構成礫は、総数24点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点であるが小破片のため図化は困難であった。

91号集石 (第67図)

C-31区VIII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×80cmの円形プランで、礫の出土は、ほぼこの土坑内に収まる。構成礫は、総数29点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であり、これを掲載した。

92号集石 (第67図)

C-31区VIII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×70cmの略円形プランで、礫は、ほぼこの土坑内に収まるが、1.2m×1mの範囲に広がる。構成礫は、総数36点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

93号集石 (第68図)

B・C-31区VIII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、135cm×120cmの楕円形プランで、礫は、土坑外40cmまで広がる。構成礫は、総数86点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

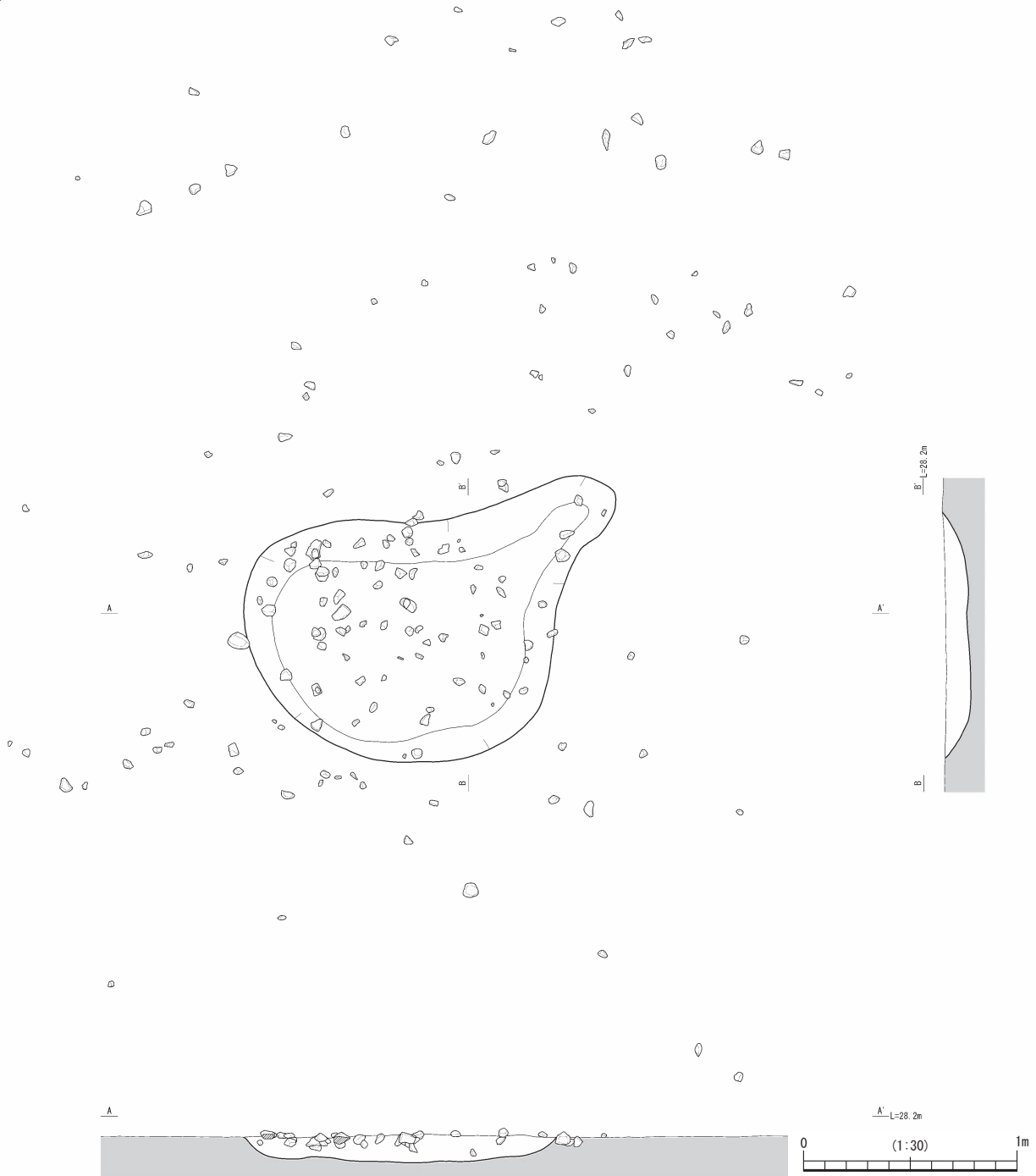
88号集石 (第67図)

C-31区VIII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×70cmの楕円形プランで、礫は、土坑内を中心に2m×1mの範囲に広がる。構成礫は、総数56点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

89号集石 (第67図)

C-31区VIII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×100cmの略円形プランで、礫は、ほぼこの土坑内に収まる。構成礫は、総数49点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

41号集石



第55図 41号集石

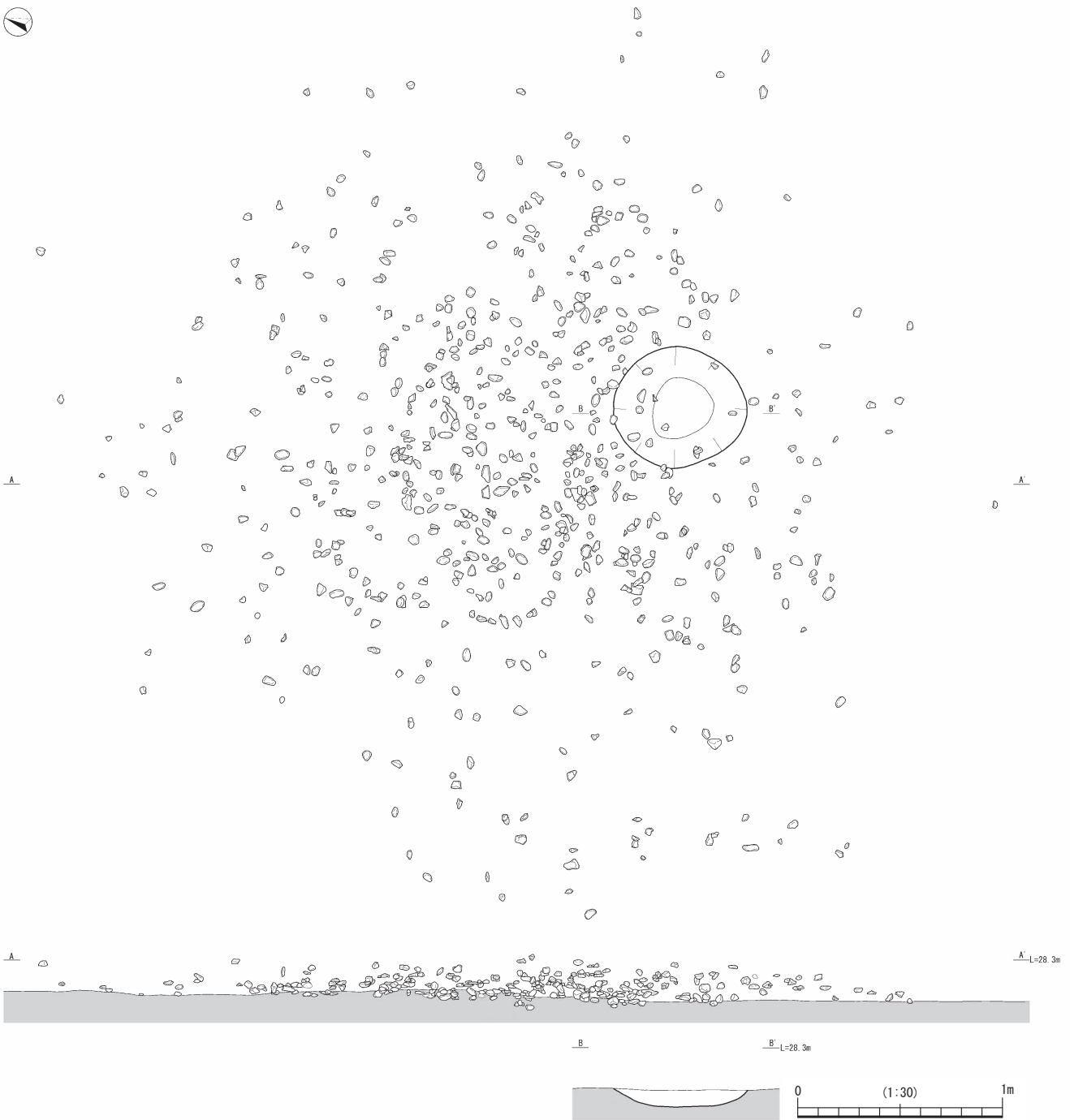
94号集石 (第68図)

D-32区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、135cm×90cmの楕円形プランで、礫は、2.2m×1.3mの範囲に広がる。構成礫は、総数127点で、全体的に土坑検出面より5cm程度上位に集中する。石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断した

ものは、土器1点でこれを図化した。

95号集石 (第68図)

C・D-32区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、125cm×110cmの楕円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数148点で、



第56図 43号集石

石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

構成礫は、総数18点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを図化した。

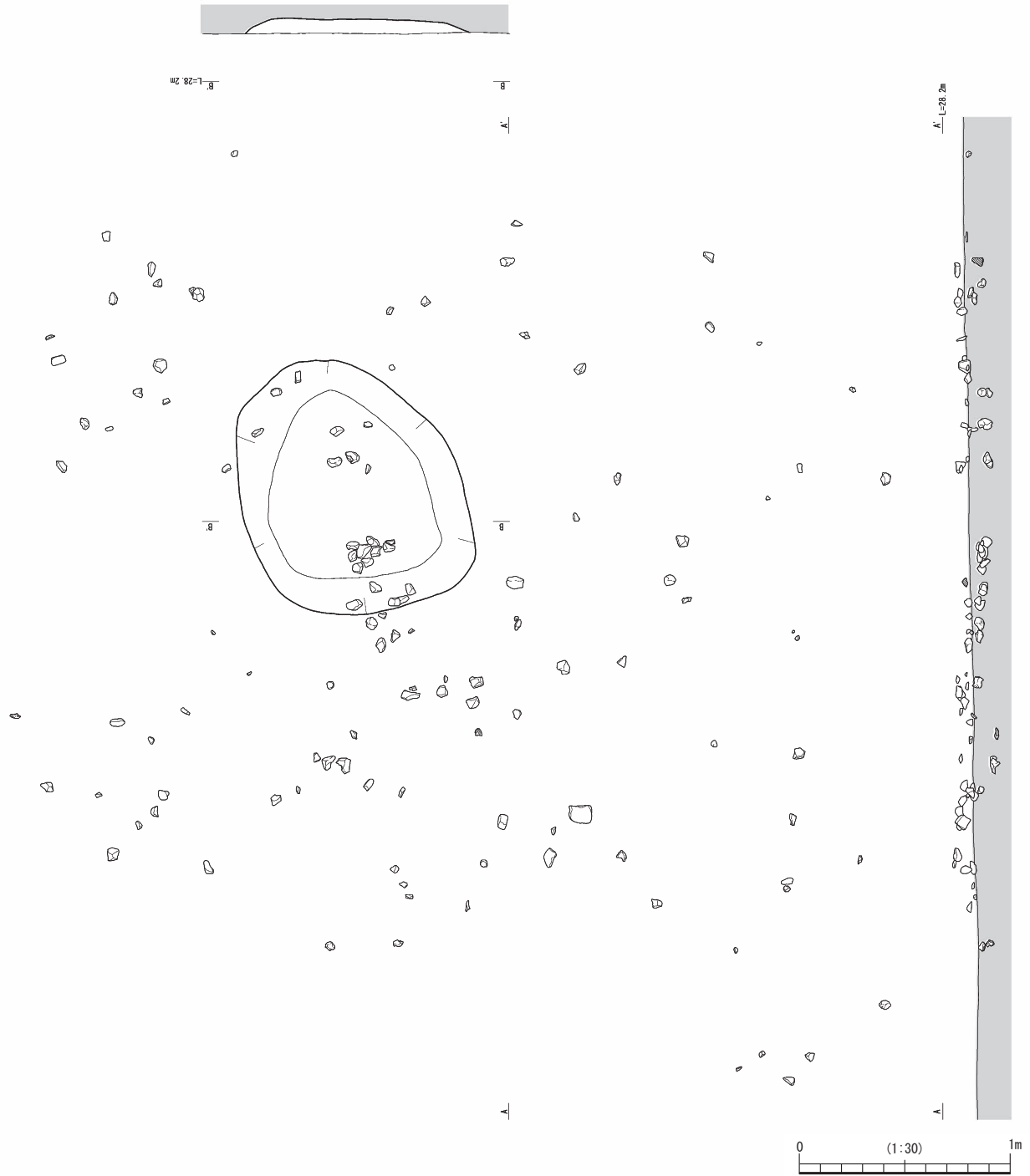
96号集石 (第68図)

C-32区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×88cmの略円形プランで、断面は浅いすり鉢状を呈する。礫は、ほぼ土坑内に収ま

97号集石 (第68図)

C-31・32区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×90cmの略円形プランで、

47号集石



第57図 47号集石

礫は、1.5m×0.8mの範囲に広がる。構成礫は、総数24点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを図化した。石器は石皿片が1点出土している。

坑も確認された。土坑は、95cm×85cmの略円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数44点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

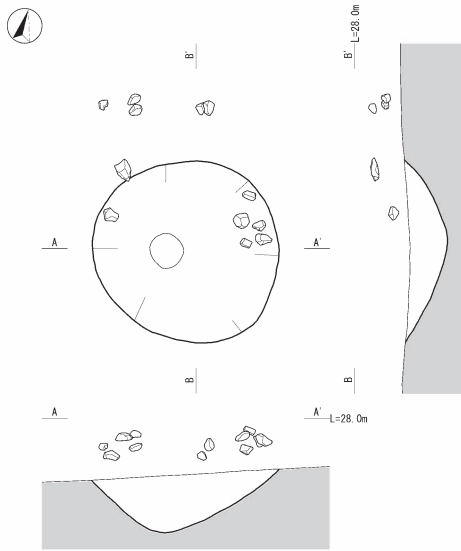
98号集石 (第69図)

C・D-32区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土

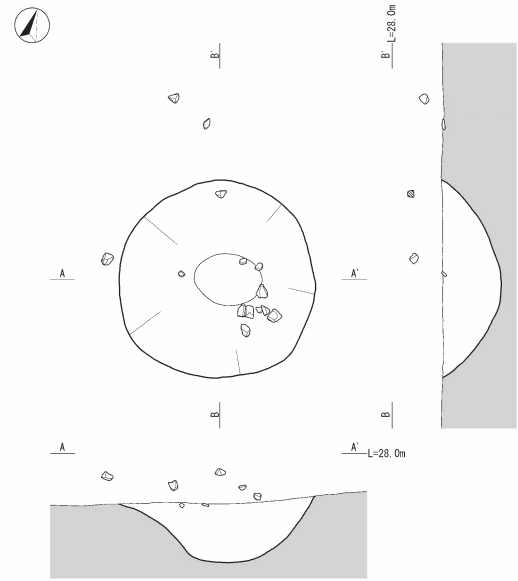
100号集石 (第69図)

C-32区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も

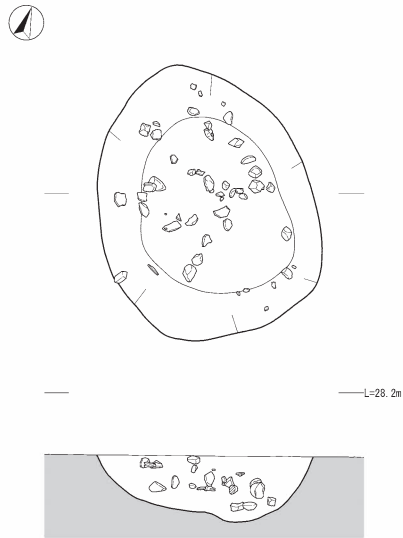
44号集石



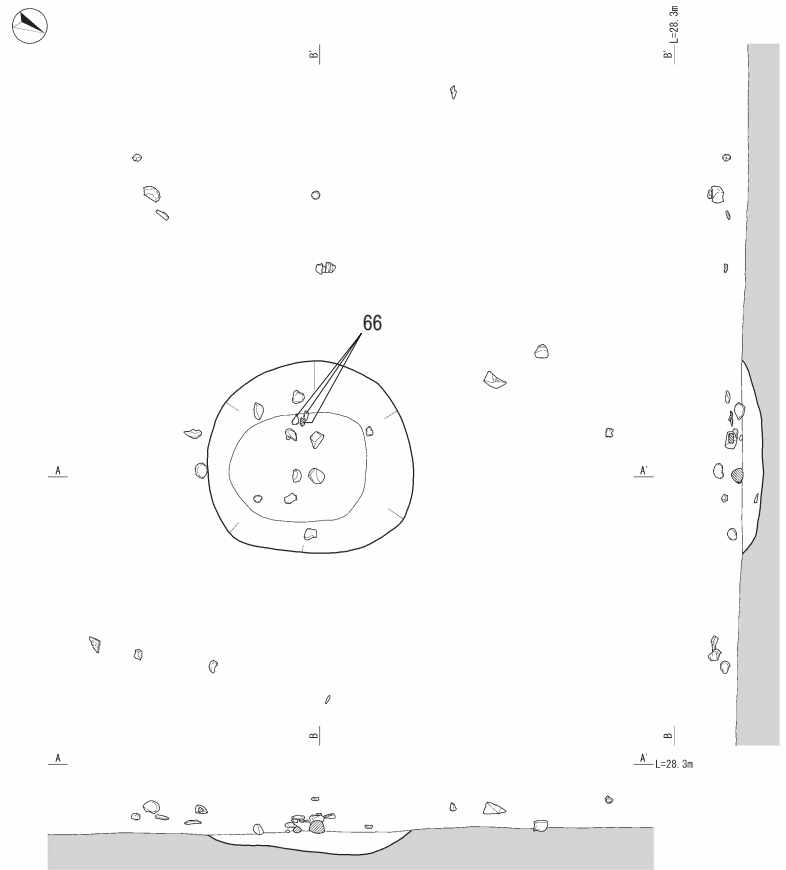
45号集石



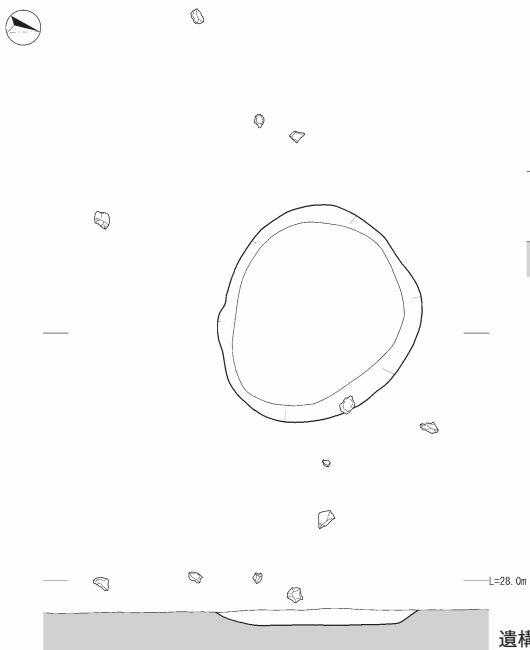
46号集石



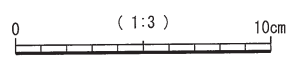
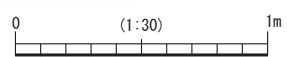
48号集石



49号集石

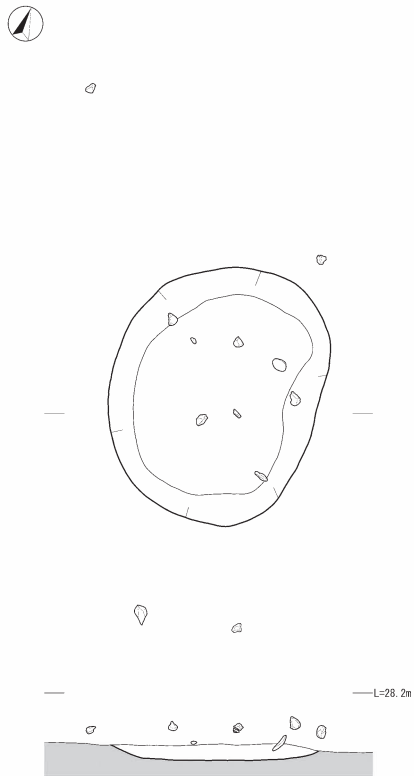


遺構

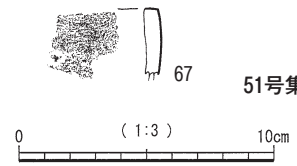
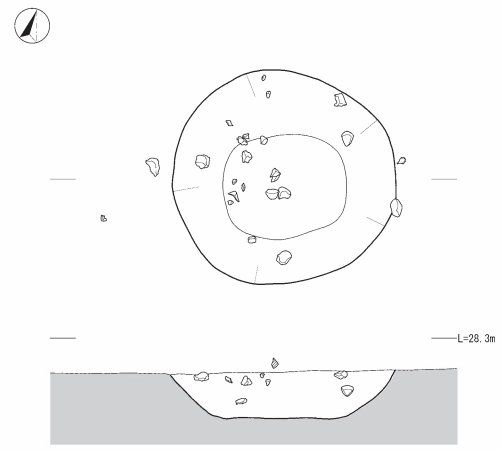


第58図 44, 45, 46, 48, 49号集石・48号集石出土遺物

50号集石

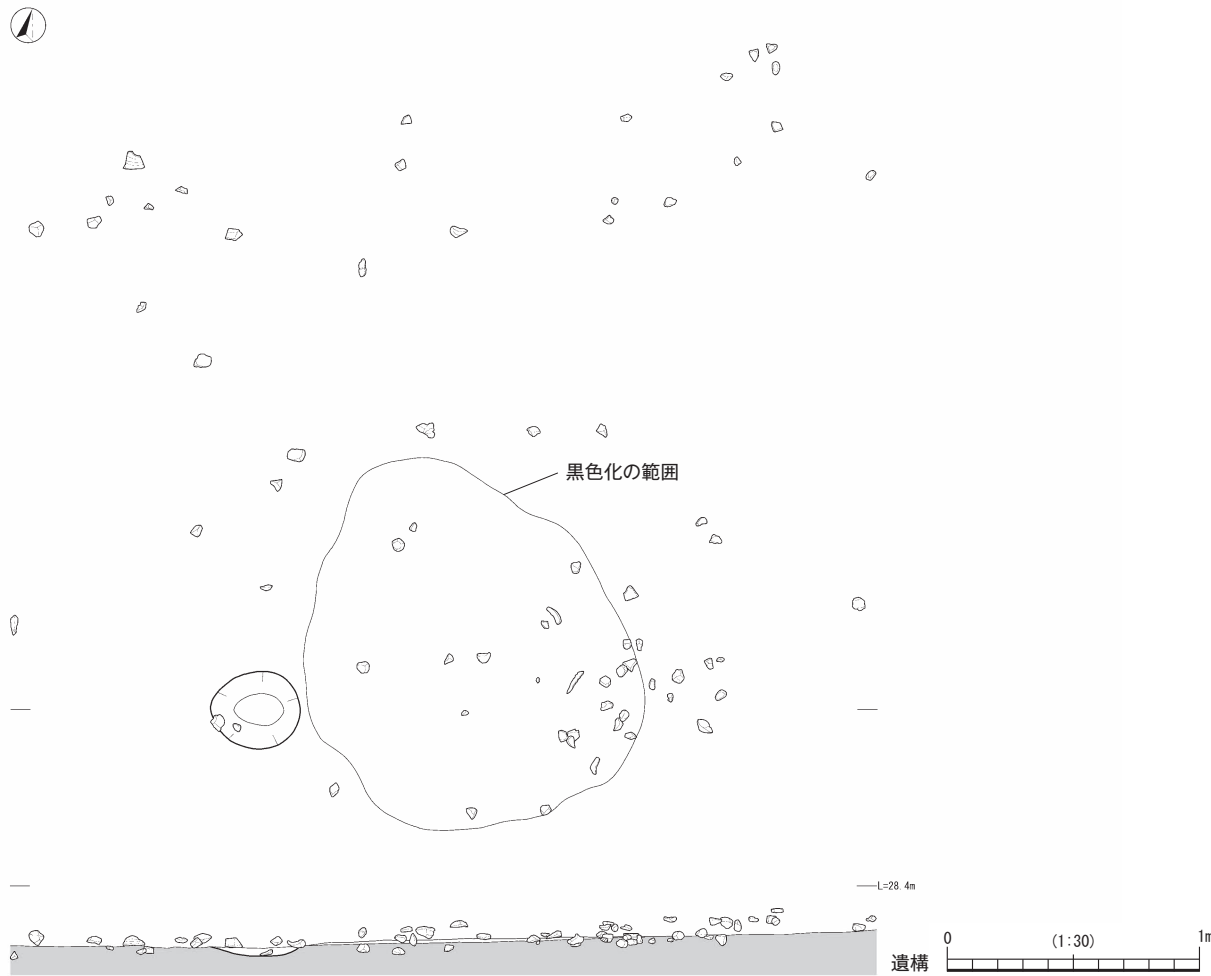


51号集石



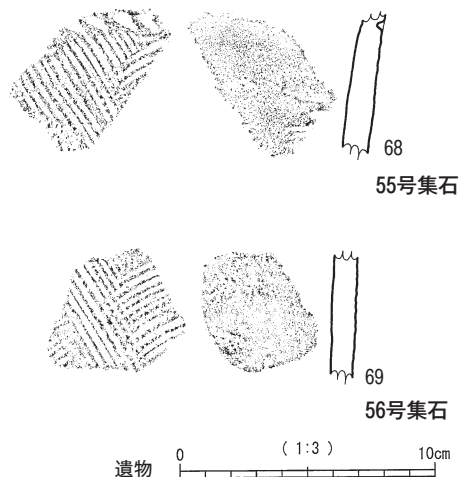
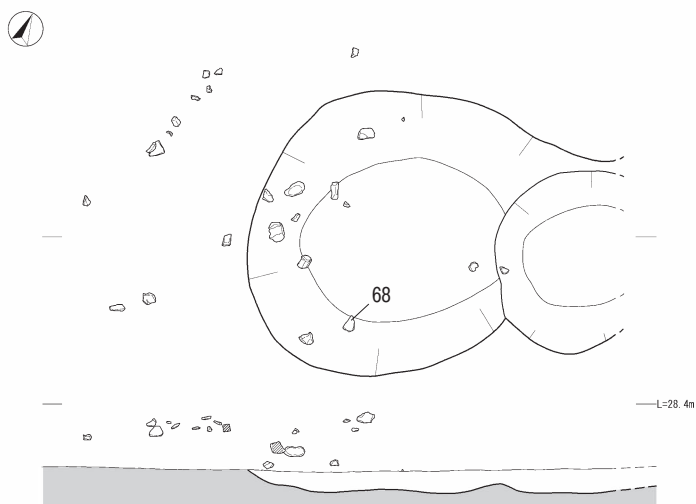
51号集石

52号集石



第59図 50, 51, 52号集石・51号集石出土遺物

55号集石



56号集石



で、礫は、3.5m×2.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数125点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点で、このうち土器1点を図化した。

106号集石（第70図）

G-31・32区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、140cmの円形プランで、2段掘りに近い形状となり、底面はすり鉢状を呈する。礫は、5m×4mの範囲に広がる。構成礫は、総数218点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

104号集石（第71図）

G-32区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cmの円形プランで、構成礫は、総数2点で、石材は凝灰岩と砂岩とが1点ずつである。集石内遺物は確認できなかった。

107号集石（第71図）

G-33区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×75cmの円形プランで、礫は、2m×1.3mの範囲に広がる。構成礫は、総数22点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

108号集石（第72図）

G-33区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は2基確認され、現場段階で一連のものとして調査し図化していった。土坑①は円形プランで120cm×115cm、土坑②は楕円形プランで150cm×115cm、

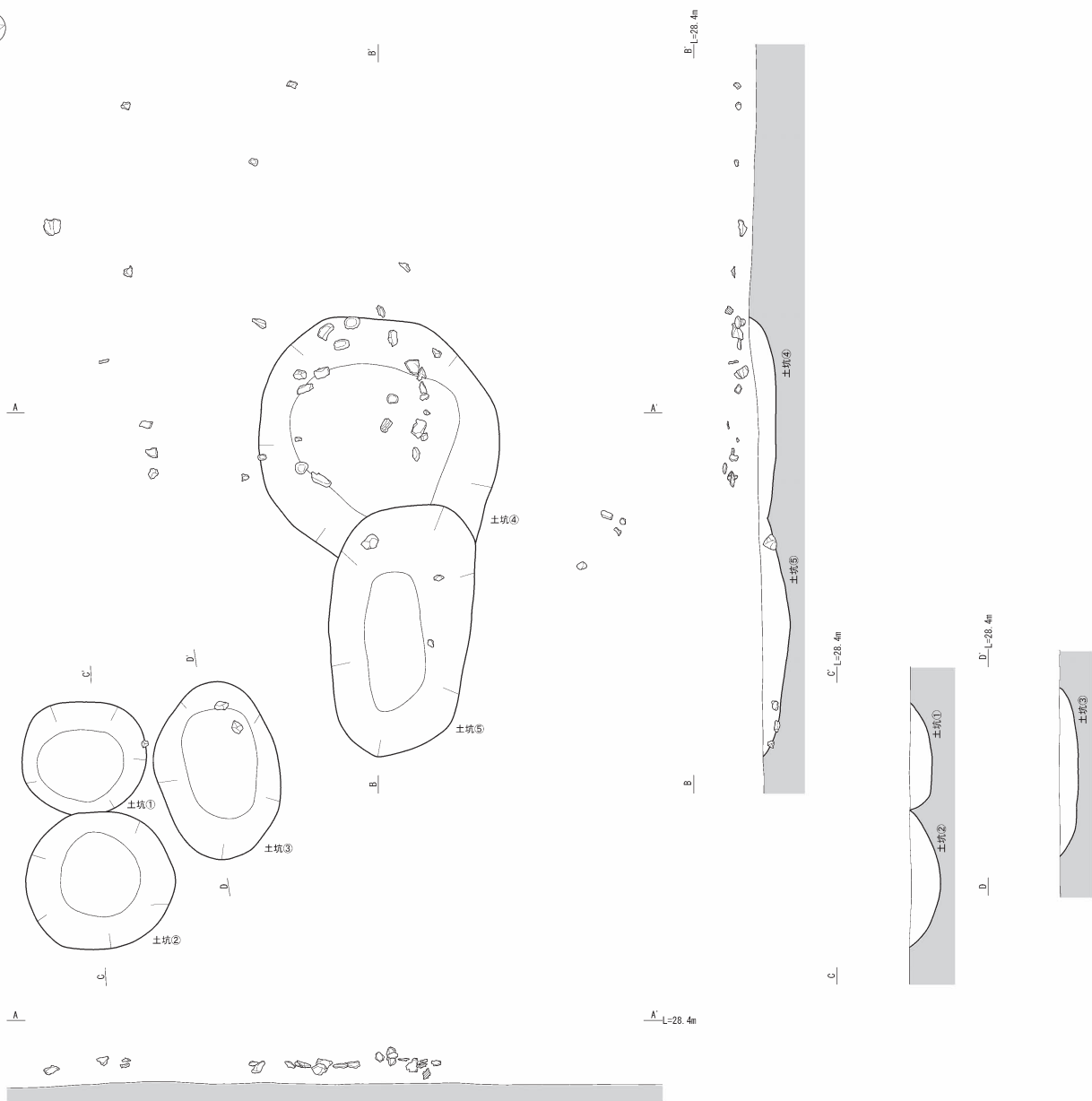
第60図 55, 56号集石・出土遺物

確認された。土坑は、120cm×100cmの楕円形プランで、礫は、この土坑内に収まる。構成礫は、総数69点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点で、このうち土器1点を図化した。いずれも小破片である。

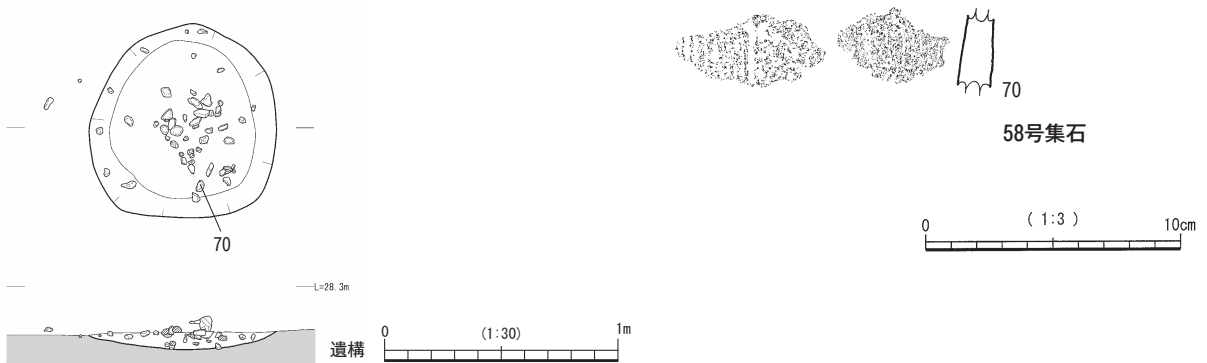
101号集石（第69図）

E-31・32区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、160cm×140cmの略円形プラン

57号集石

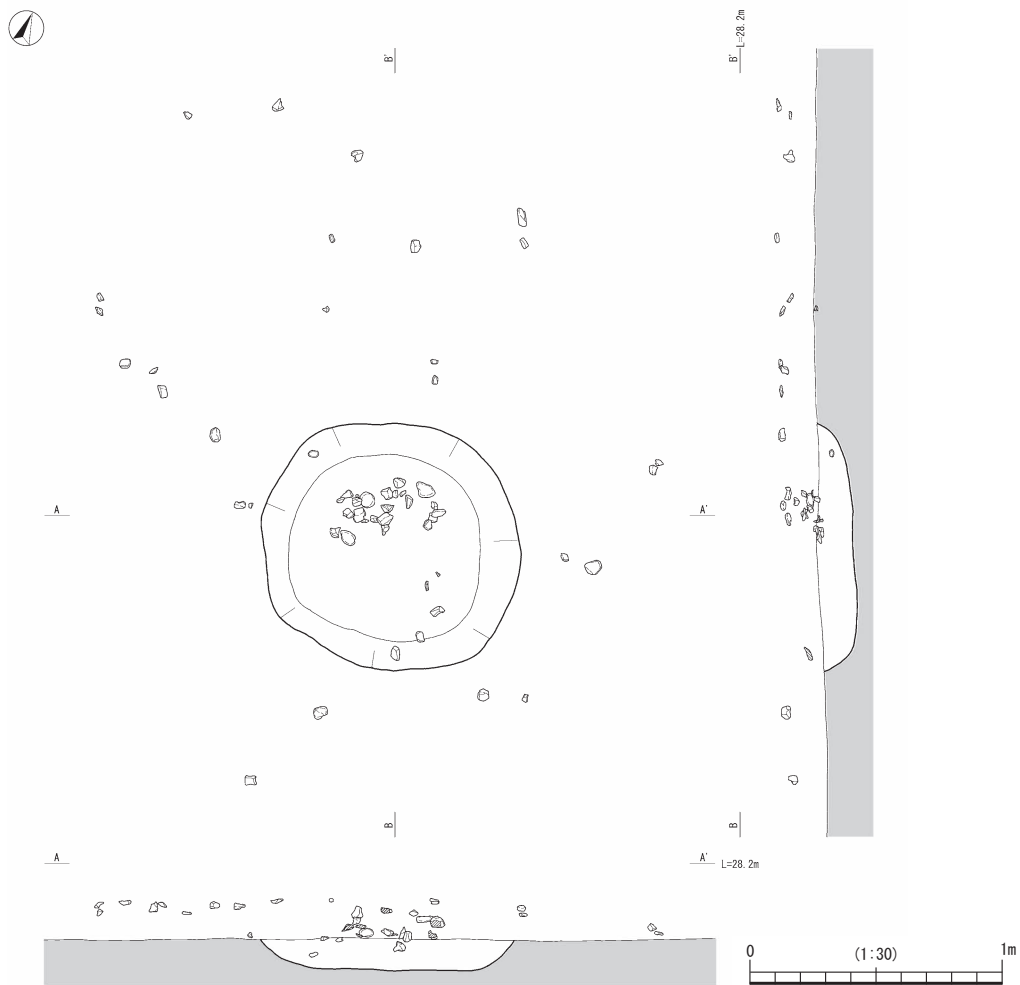


58号集石



第61图 57, 58号集石・58号集石出土遺物

61号集石



第62図 61号集石

礫は、6mの範囲に広がる。構成礫は、総数255点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点、石器1点で、石器は磨石片1点で、このうち土器1点を図化した。

109号集石（第73図）

G-33区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認されたが、主体は調査区外へと広がっているため全体の形状は不明である。礫は、1.2m×0.7mの範囲に広がる。構成礫は、総数19点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

110号集石（第73図）

G-33区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、パイプラインにより攪乱を受けている。本来は楕円形プランを呈していたと思われる。礫は、1.5m×1mの範囲に広がる。構成礫は、総数26点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、

土器2点であるが、いずれも小破片のため図化は困難であった。

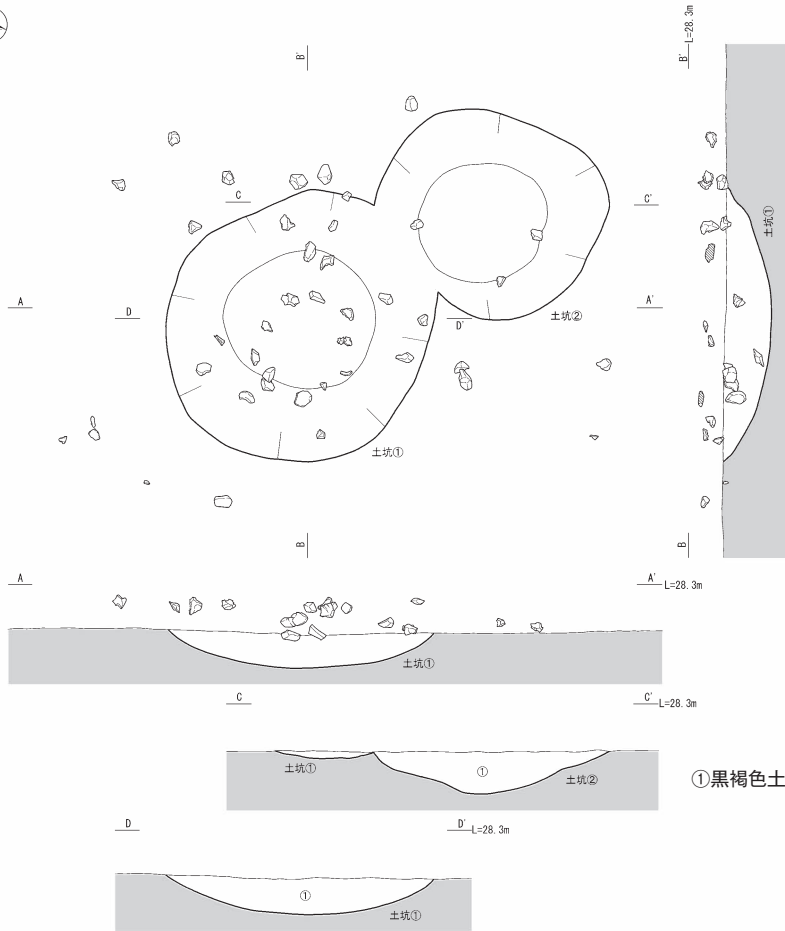
113号集石（第73図）

F・G-32・33区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×60cmの楕円形プランである。礫は、2.2m×1mの範囲に広がる。構成礫は、総数20点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

114号集石（第73図）

F-33区Ⅸ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、先行トレンチによって全体像を捉えられなかったが、75cm×60cmの楕円形プランである。礫は、土坑外2mの範囲にまで広がる。構成礫は、総数18点で、土坑内からの出土は少ない。石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは土器2点で、このうち土器1点を図化した。

64号集石

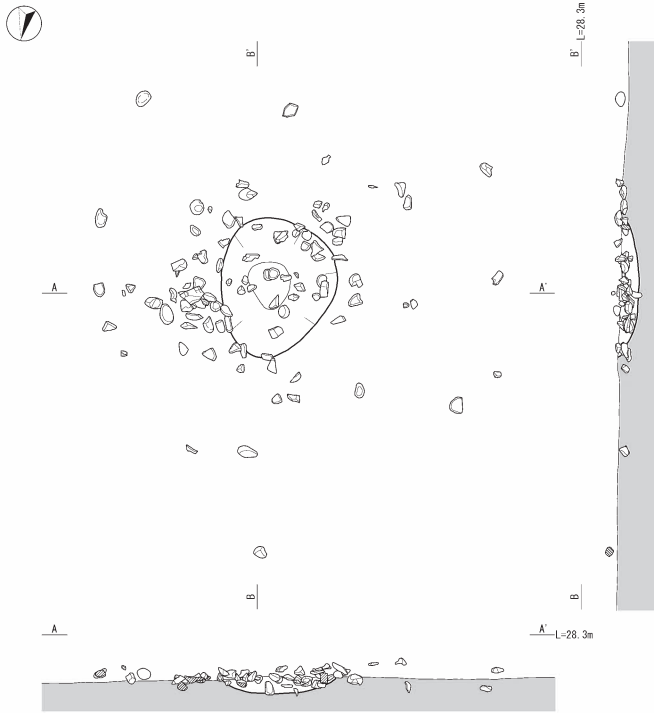


65号集石

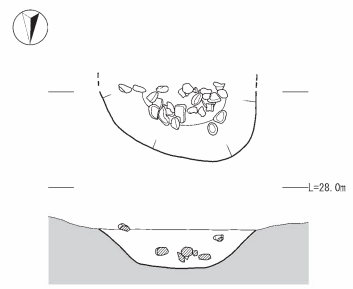


第63図 64, 65号集石・65号集石出土遺物

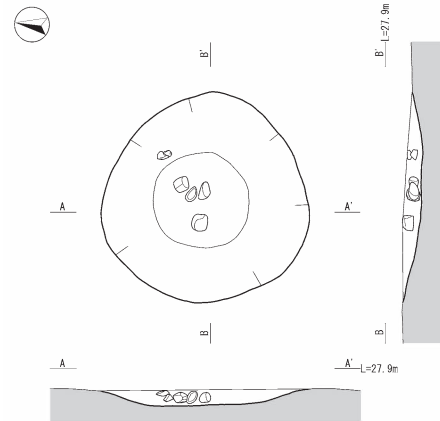
66号集石



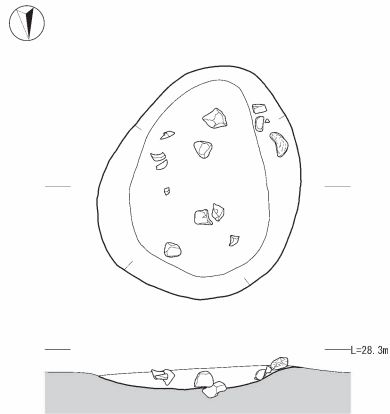
67号集石



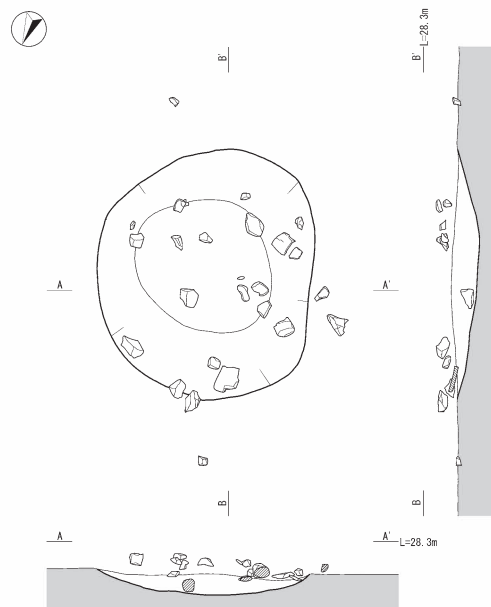
68号集石



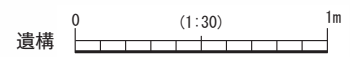
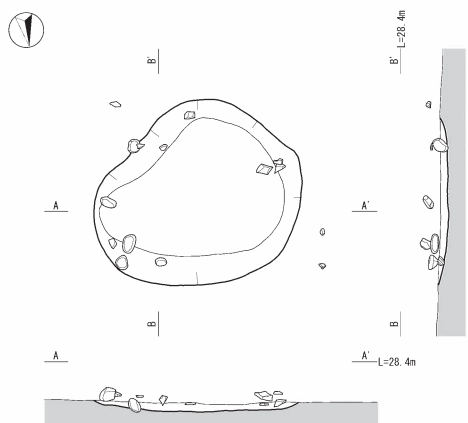
72号集石



73号集石

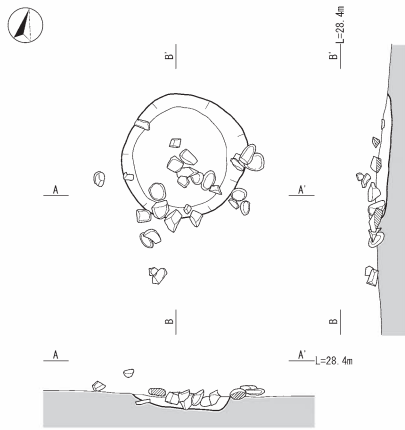


76号集石



第64図 66, 67, 68, 72, 73, 76号集石

77号集石



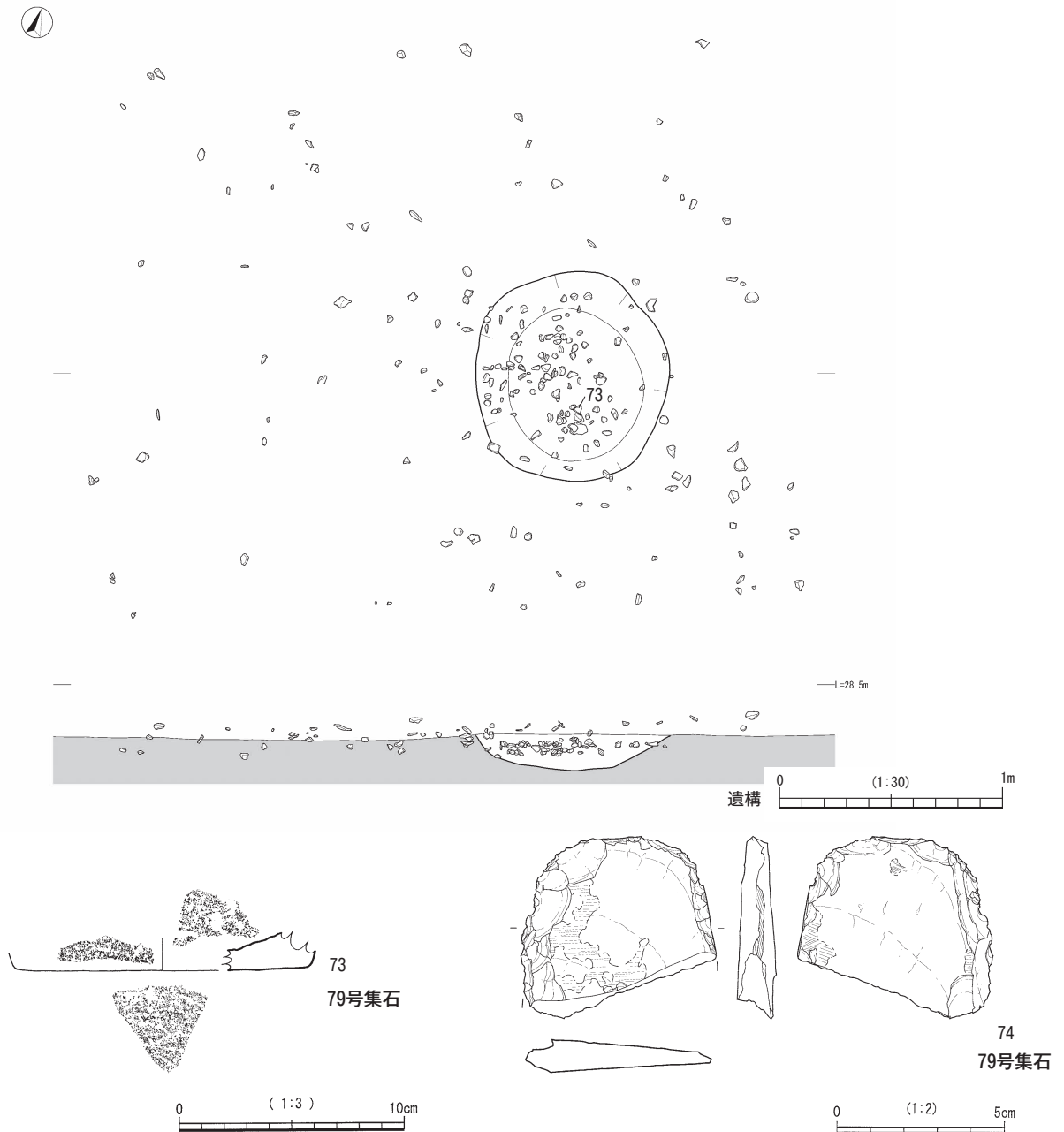
115号集石 (第73図)

F-33区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、先行トレンチで一部を検出できなかったが長軸105cmで残存幅55cmの楕円形プランで、礫は、この土坑内にはほぼ収まる。構成礫は、総数19点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

117号集石 (第74図)

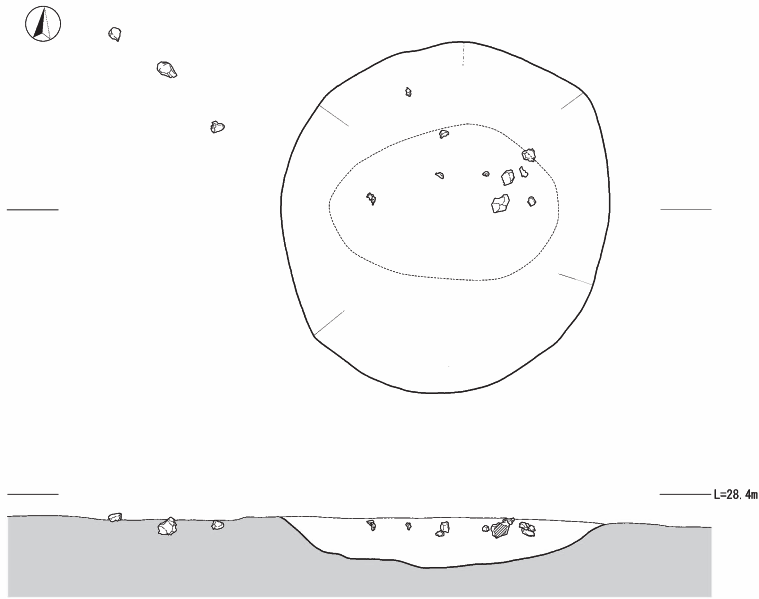
E・F-33区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、70cm×60cmの略円形プランで、礫は、この土坑外2.5m程度の範囲にまで広がる。礫の土坑内からの出土は少ない。構成礫は、総数17点で、石

79号集石

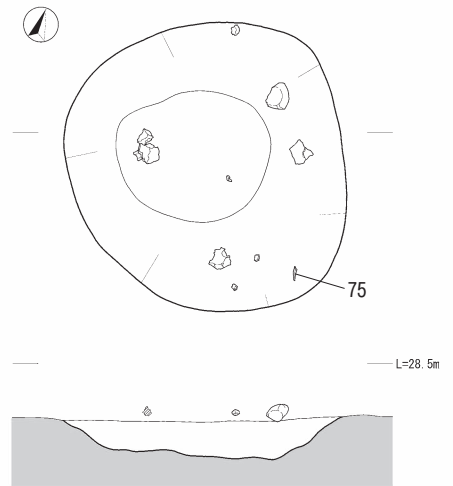


第65図 77, 79号集石・79号集石出土遺物

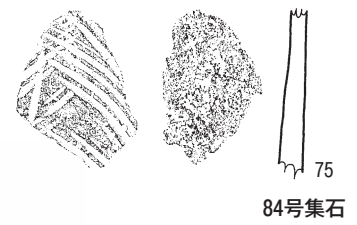
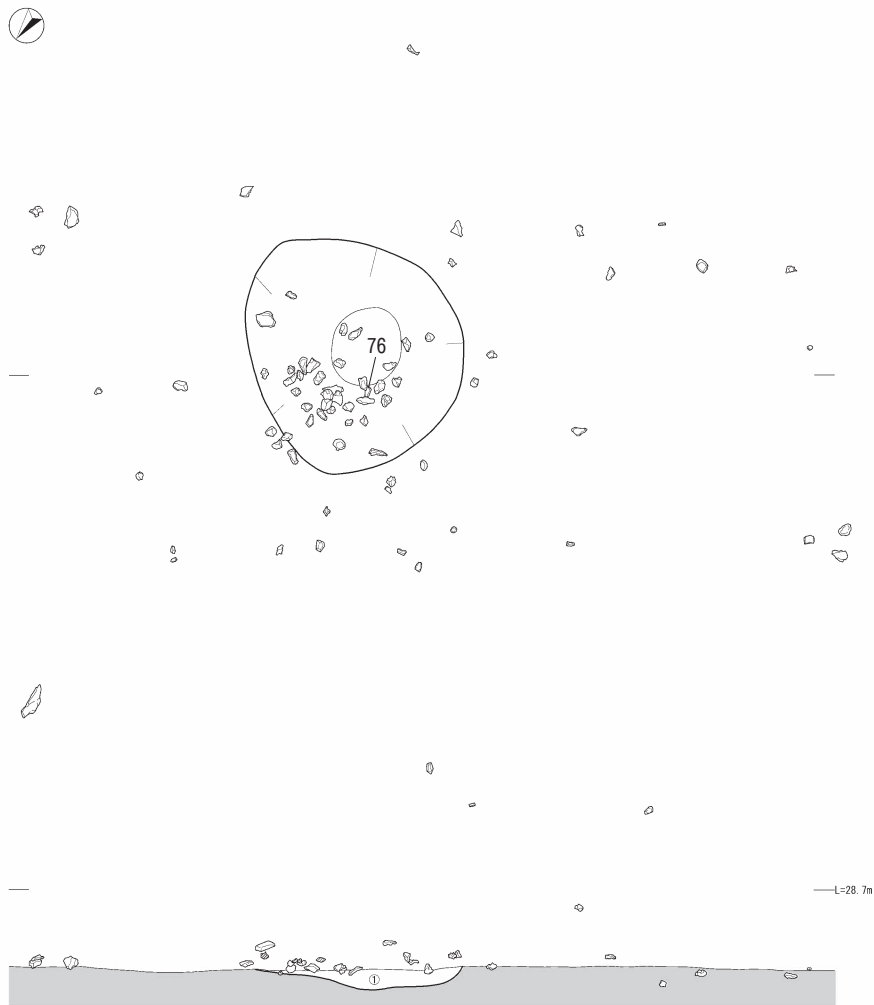
83号集石



84号集石



86号集石

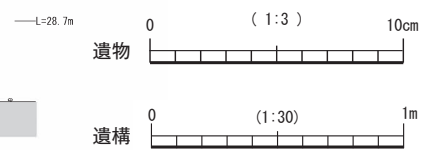


84号集石



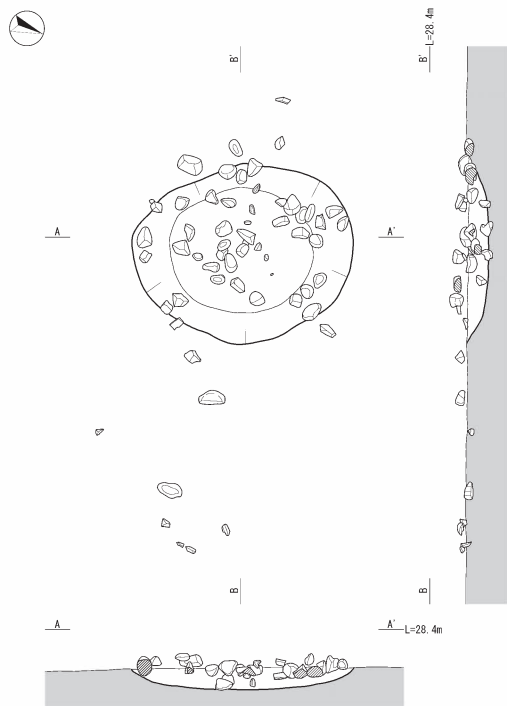
86号集石

① 黒褐色土

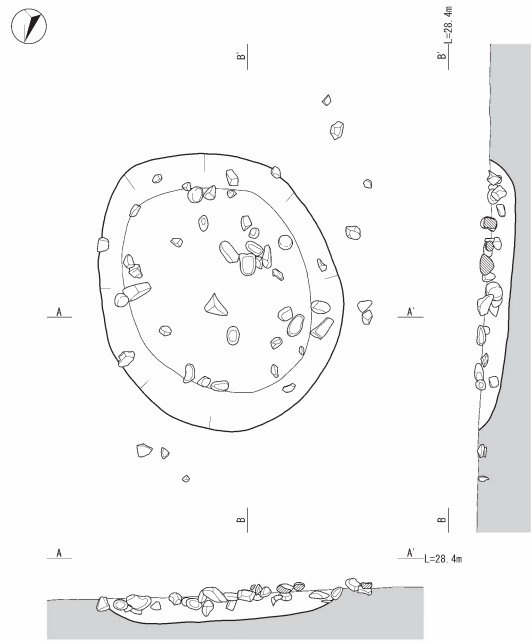


第66図 83, 84, 86号集石・84, 86号集石出土遺物

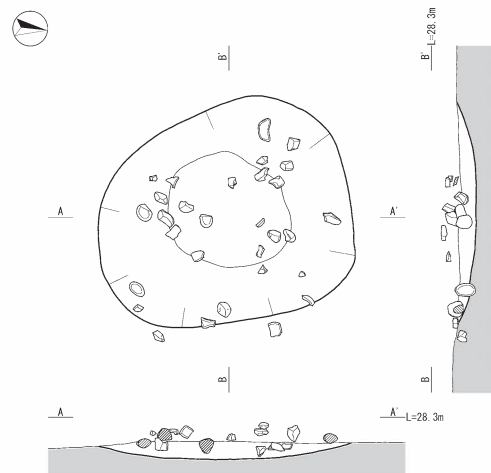
88号集石



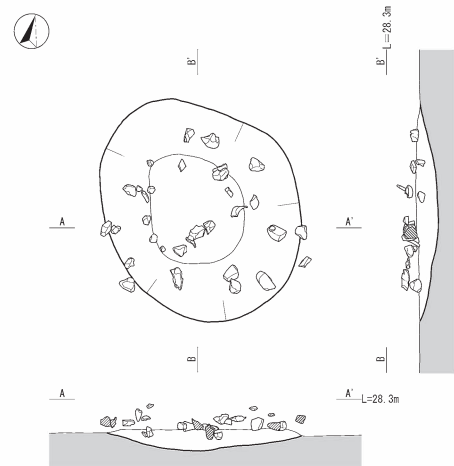
89号集石



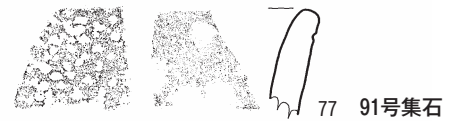
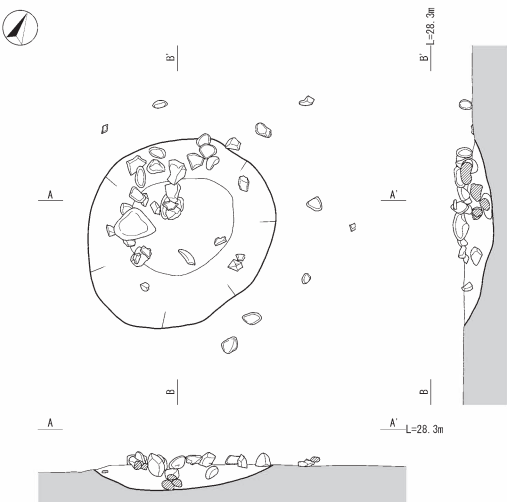
90号集石



91号集石



92号集石

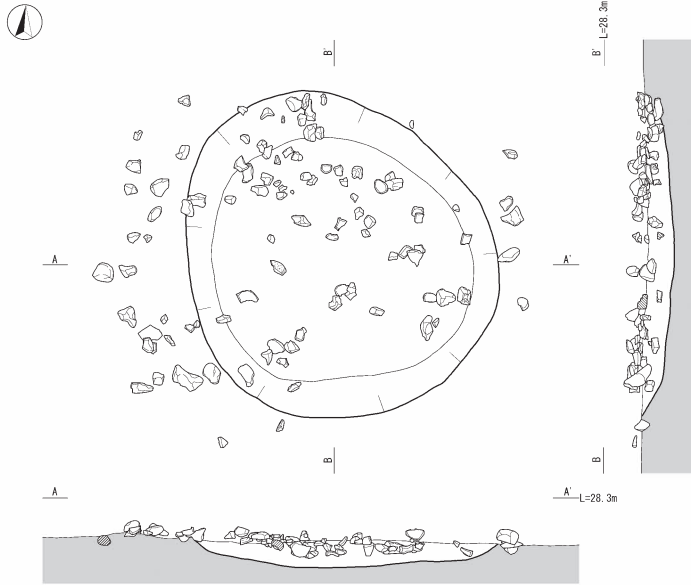


遺物 0 (1:3) 10cm

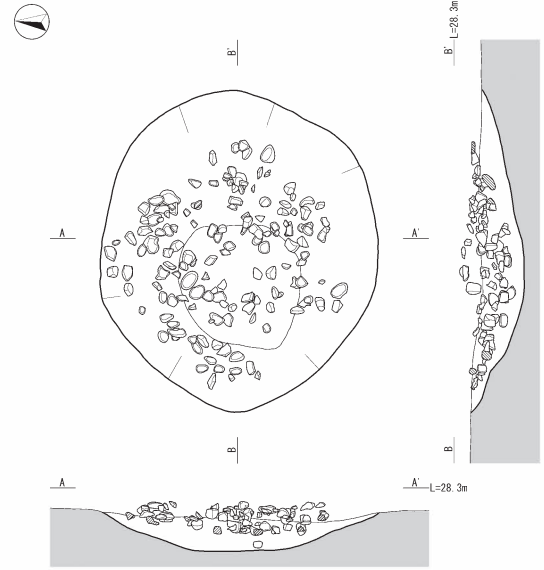
遺構 0 (1:30) 1m

第67図 88, 89, 90, 91, 92号集石・91号集石出土遺物

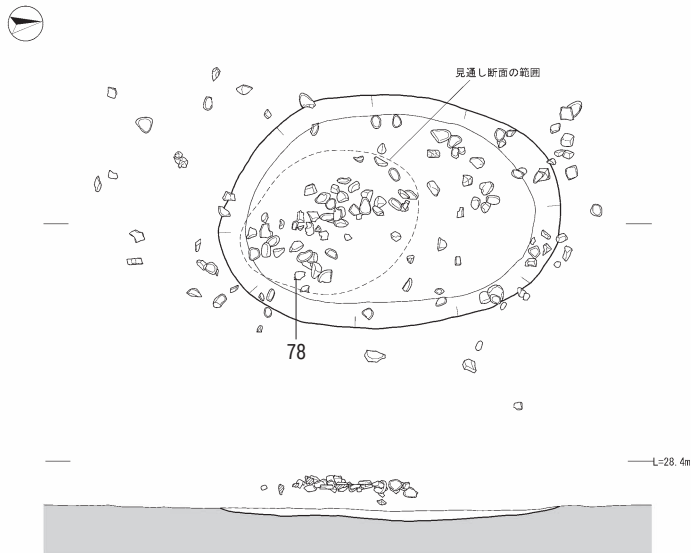
93号集石



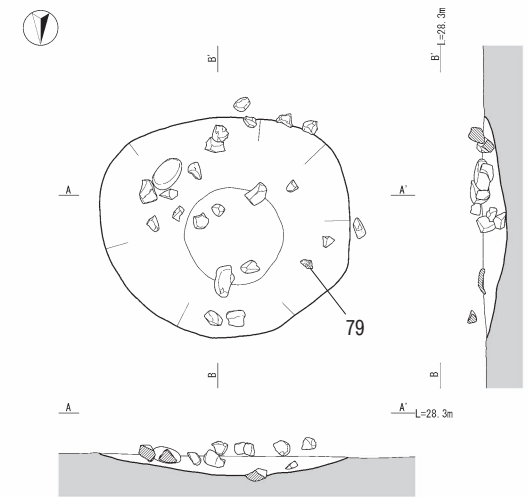
95号集石



94号集石

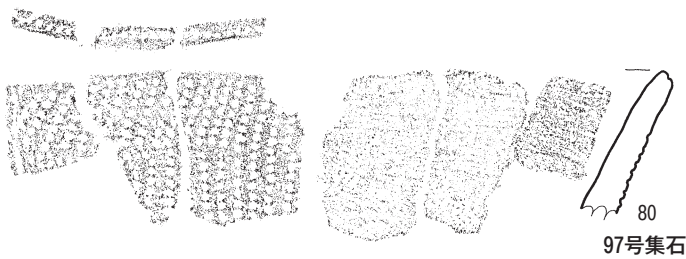


96号集石



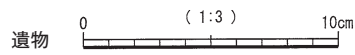
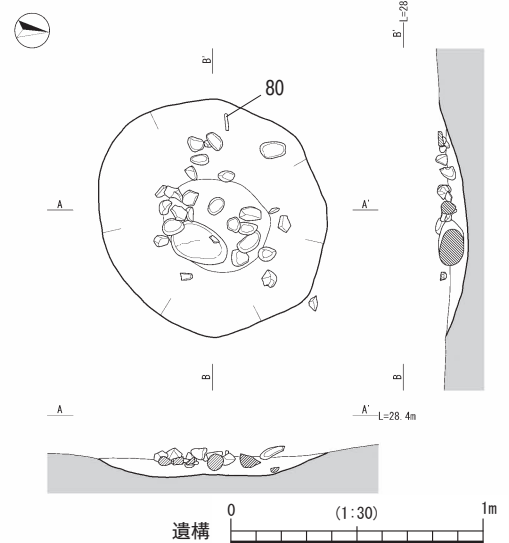
94号集石

96号集石



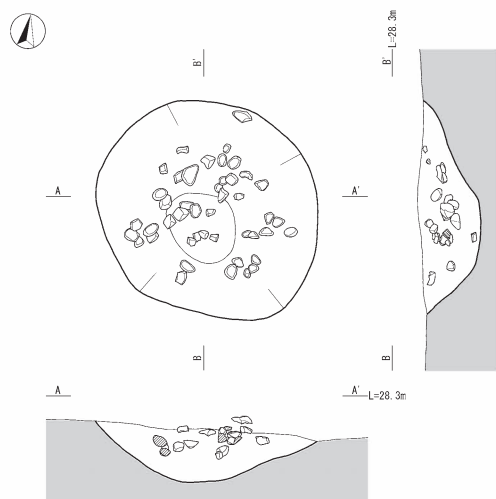
97号集石

97号集石

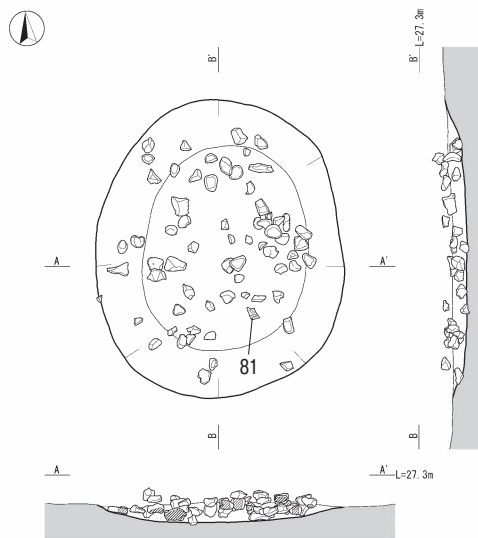


第68図 93, 94, 95, 96, 97号集石・94, 96, 97号集石出土遺物

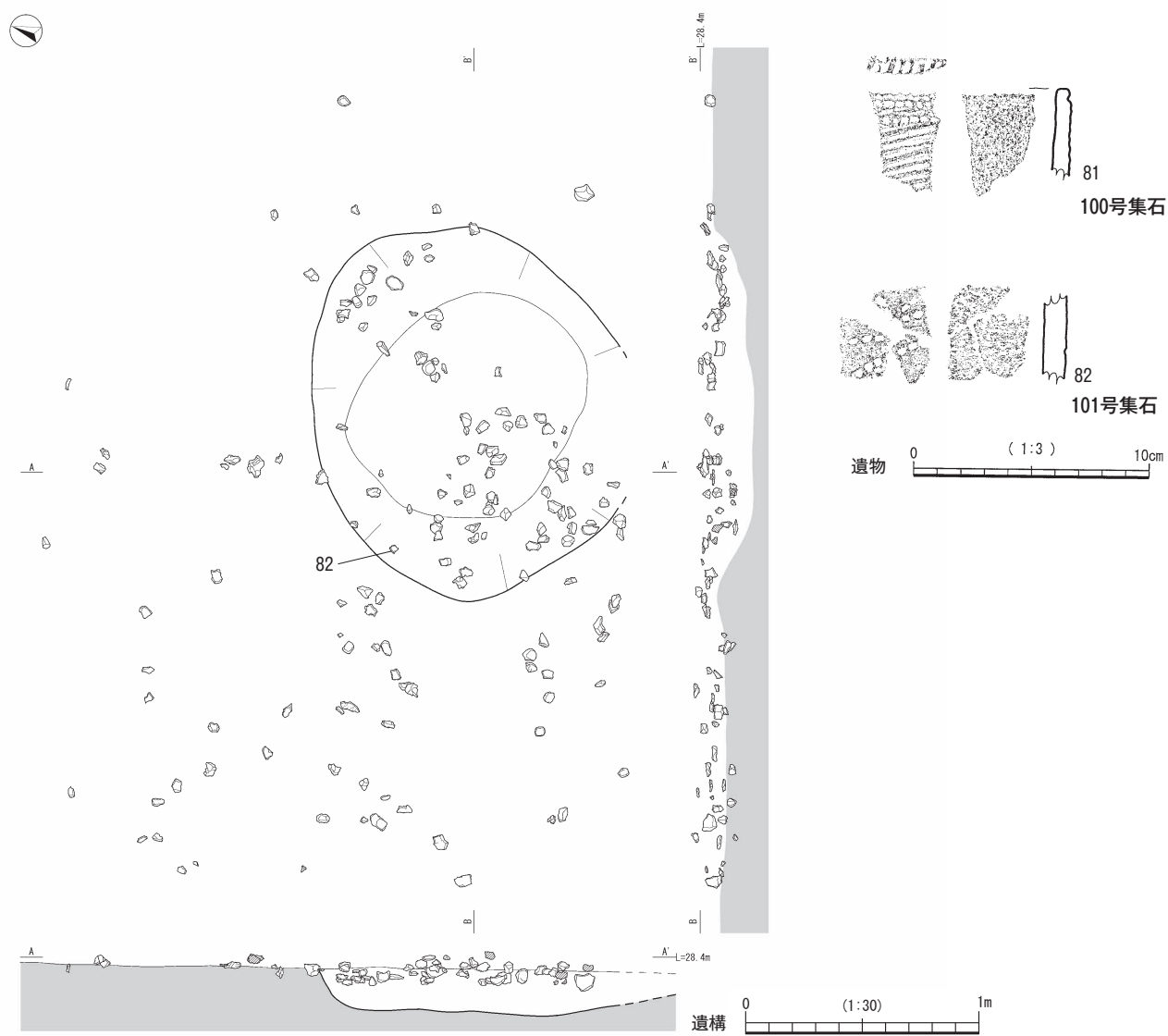
98号集石



100号集石

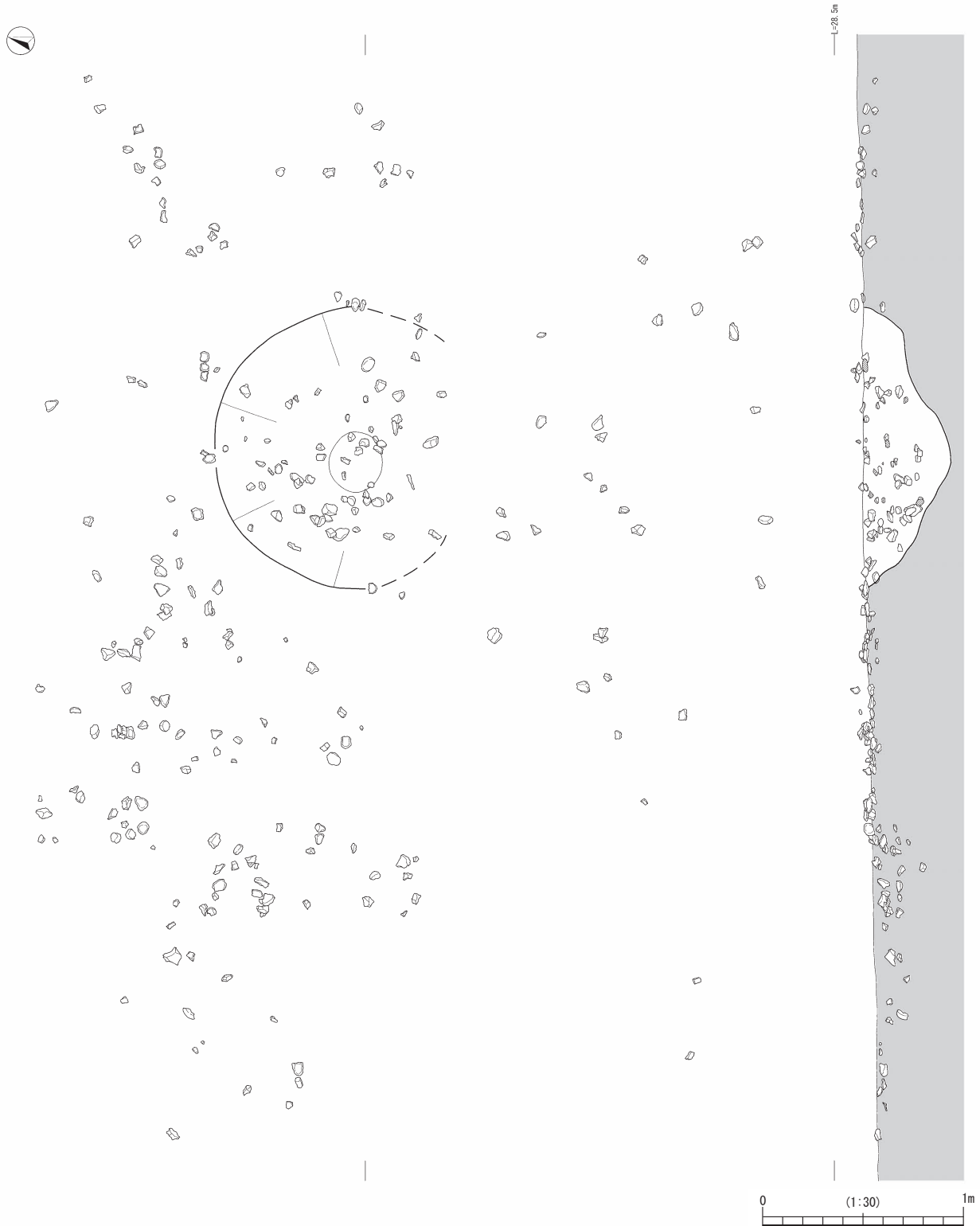


101号集石



第69図 98, 100, 101号集石・100, 101号集石出土遺物

106号集石



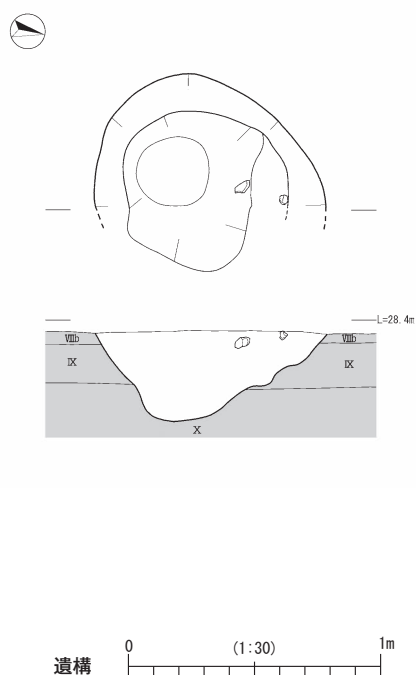
第70図 106号集石

材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが、小破片のため図化は困難であった。

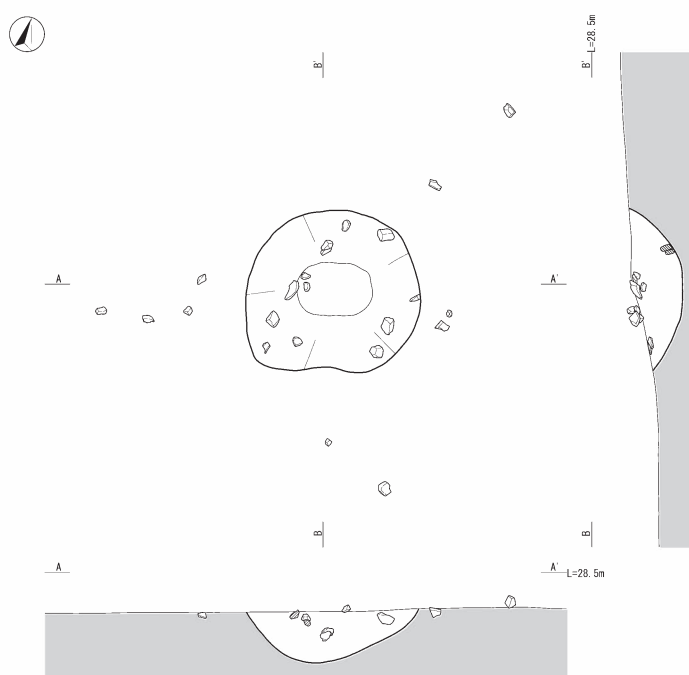
118号集石 (第74図)

D-33区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかったが、礫下面と検出面との差5cm程度の掘り

104号集石



107号集石



第71図 104, 107号集石

込みがあった可能性も考えられる。礫は、1m×0.8mの範囲に広がる。構成礫は、総数30点で、大きめの礫を床面に配置し、その上に5～6cm大の砂岩破碎礫、凝灰岩垂円礫が集まっている。石材は砂岩が多い傾向にある。集石内遺物と判断したものは、土器2点、石器1点で、このうち土器1点を図化した。いずれも小破片である。石器は石皿片が1点出土している。

120号集石 (第74図)

B-33区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×70cmの楕円形プランで、礫は、破碎礫が中心。礫は掘り込みの北側に集まっている箇所あるが、全体的に散在状態であった。床面に2～3点の礫が落ち込んでいる。構成礫は、総数30点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点をこれを図化した。

121号集石 (第74図)

B-33区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×65cmの楕円形プランで、礫は、この土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数39点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

122号集石 (第74図)

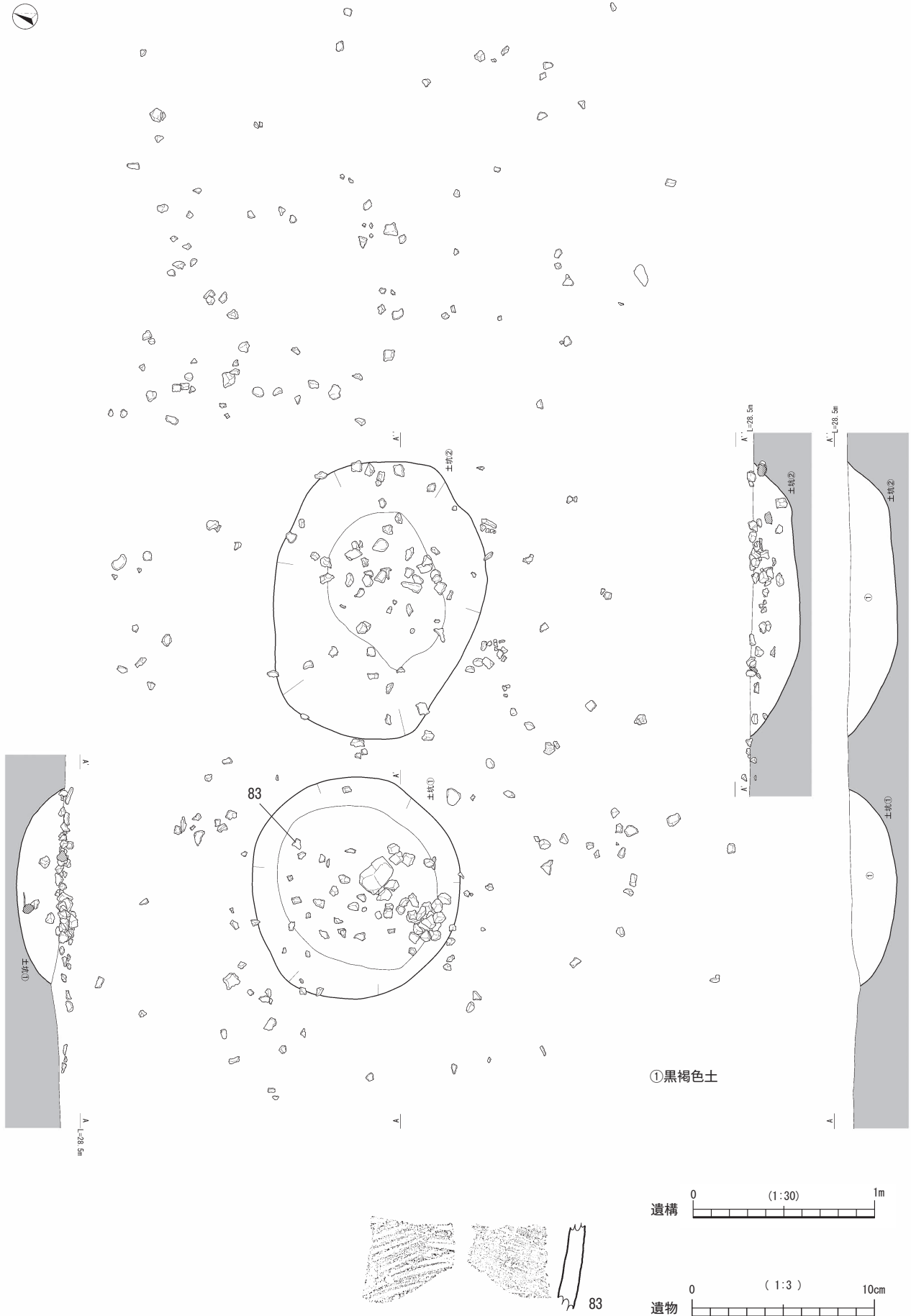
A-34区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、半分が調査区外へ延びているため形状はわからないが、楕円形プランとなる可能性が想定された。礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数75点で、砂岩が圧倒的に多い。集石内遺物は確認できなかった。

123号集石 (第75図)

B-34区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×65cmの楕円形プランで、北側がわずかに2段掘りとなる。礫は、この土坑部分にほぼ集中し、床面より若干上位でまとまる。構成礫は、総数26点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

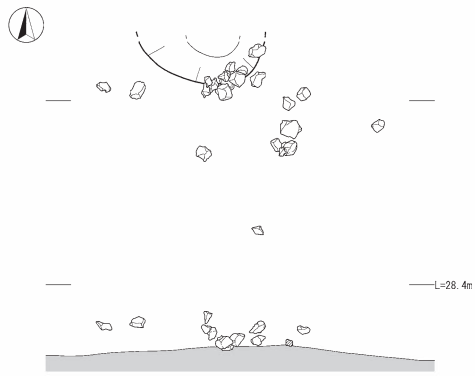
124号集石 (第75図)

C-34区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、60cm×60cmの円形プランで、断面形状がすり鉢状を呈する。礫は、土坑周辺にも広がる。構成礫は、総数67点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器1点を図化した。

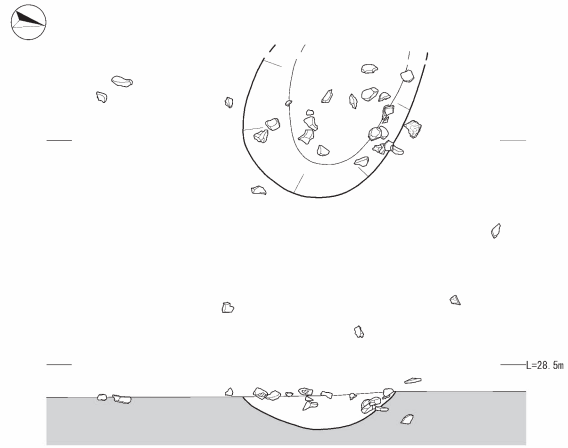


第72図 108号集石・出土遺物

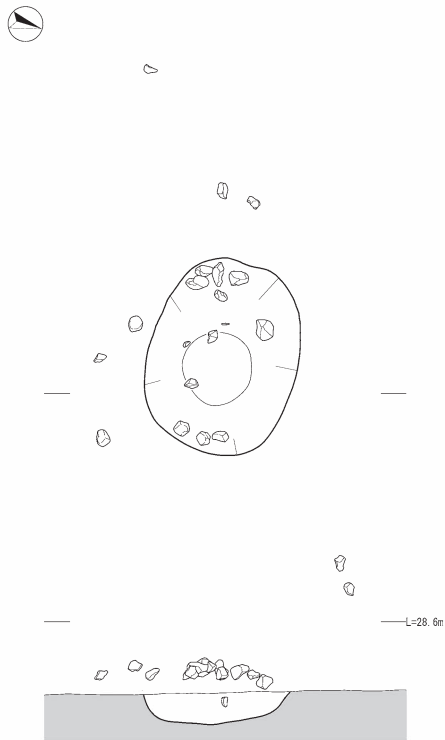
109号集石



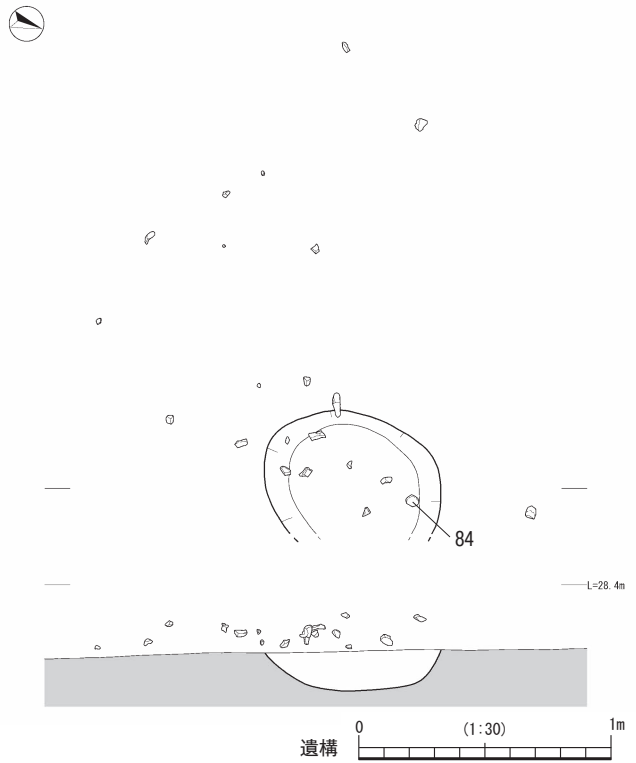
110号集石



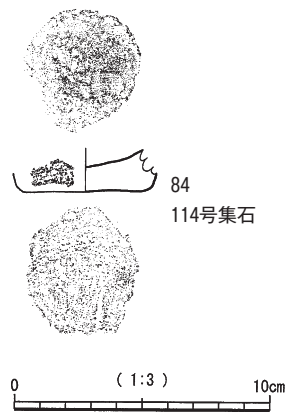
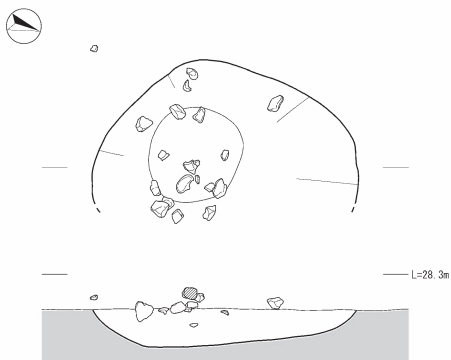
113号集石



114号集石

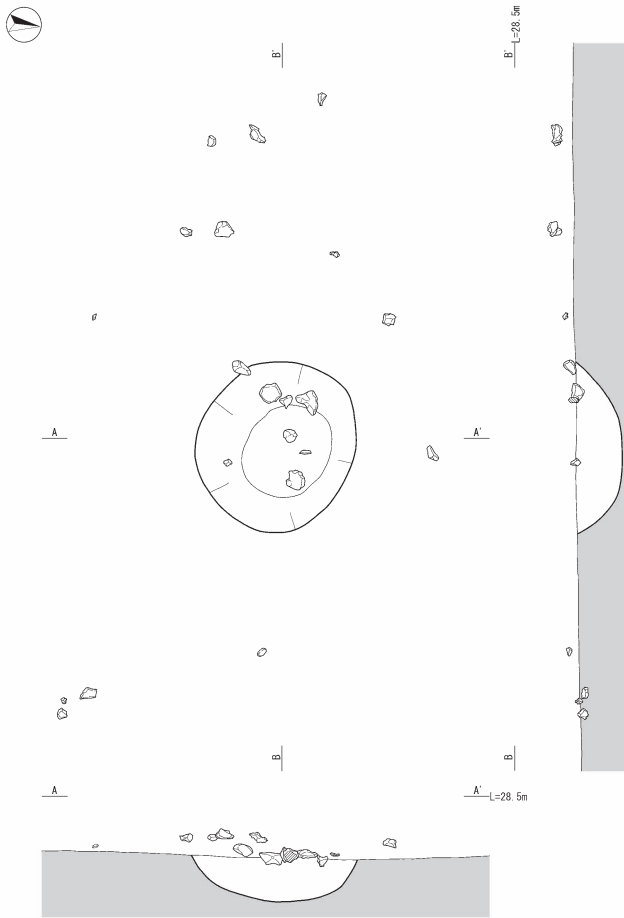


115号集石

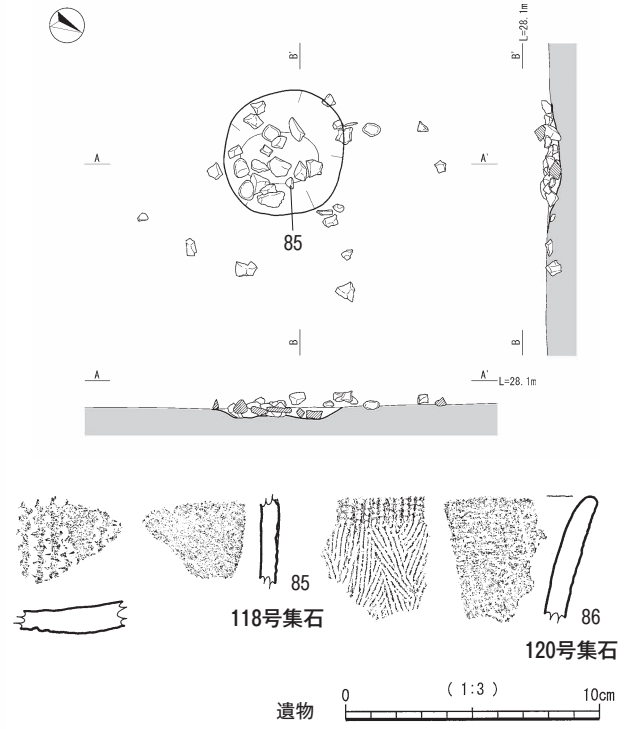


第73图 109, 110, 113, 114, 115号集石・114号集石出土遺物

117号集石



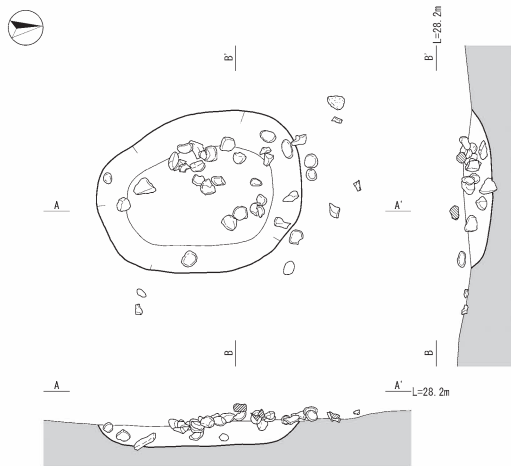
118号集石



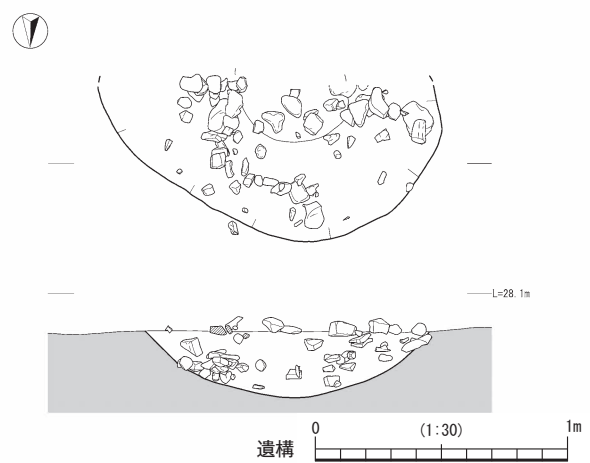
120号集石



121号集石

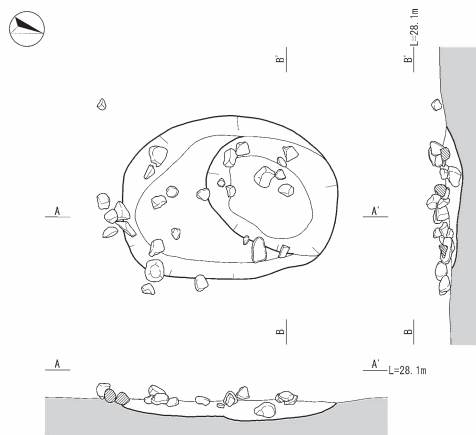


122号集石

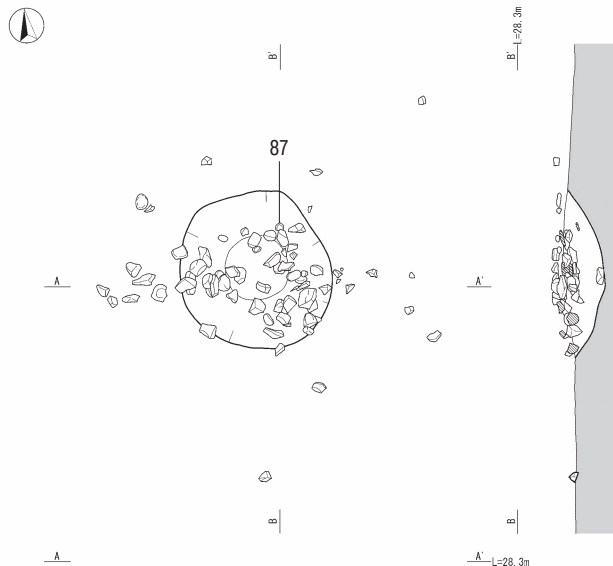


第74図 117, 118, 120, 121, 122号集石・118, 120号集石出土遺物

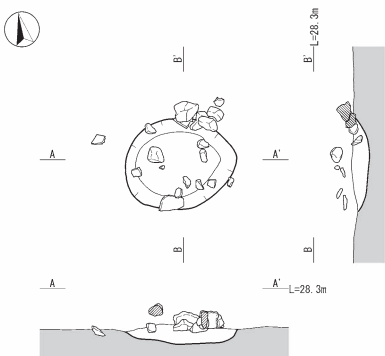
123号集石



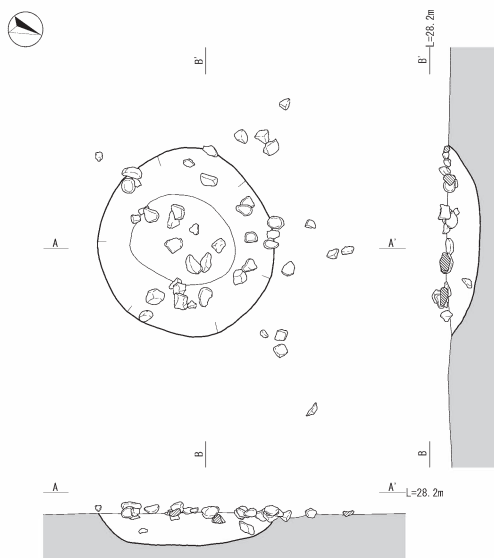
124号集石



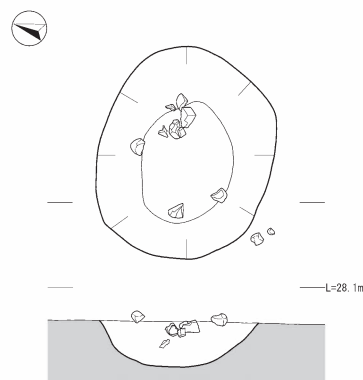
126号集石



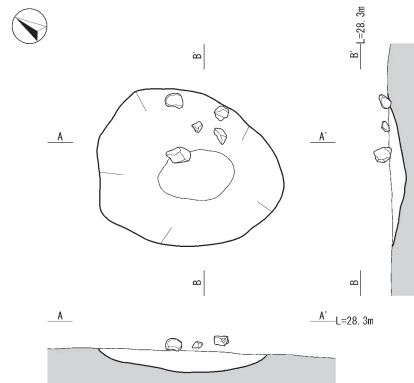
127号集石



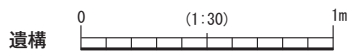
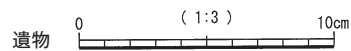
128号集石



129号集石

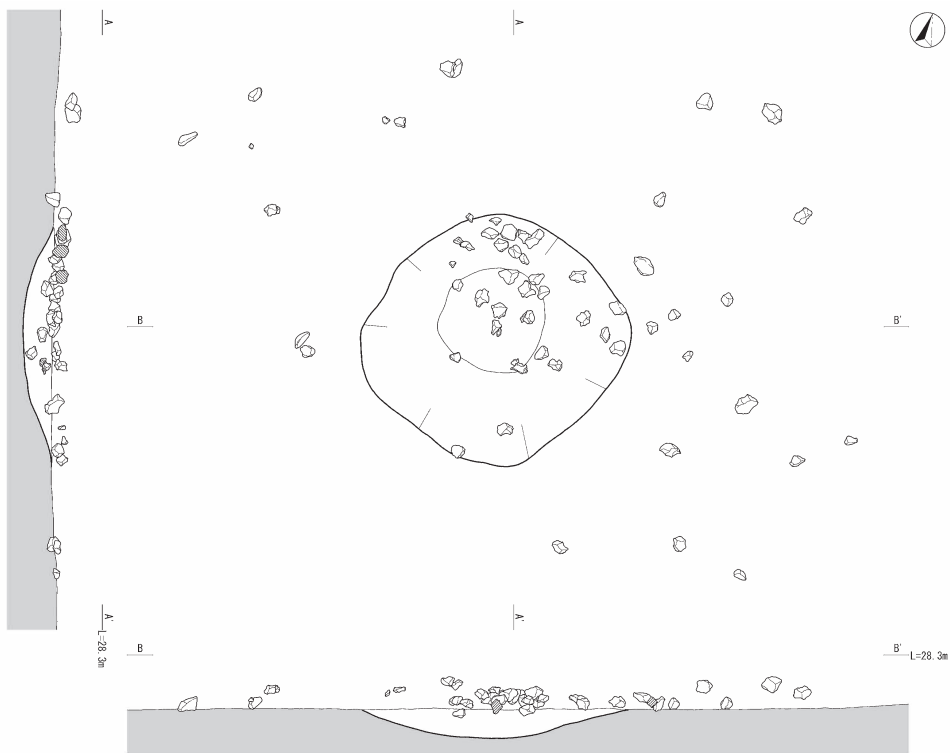


124号集石

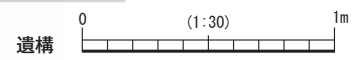
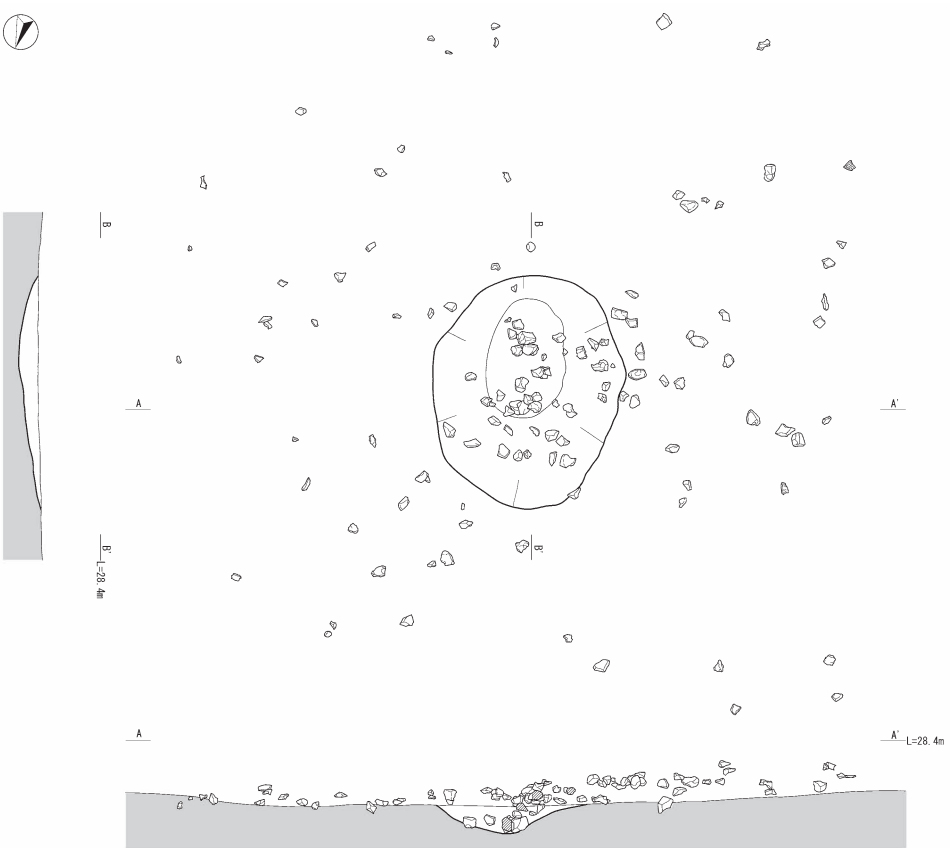


第75図 123, 124, 126, 127, 128, 129号集石・124号集石出土遺物

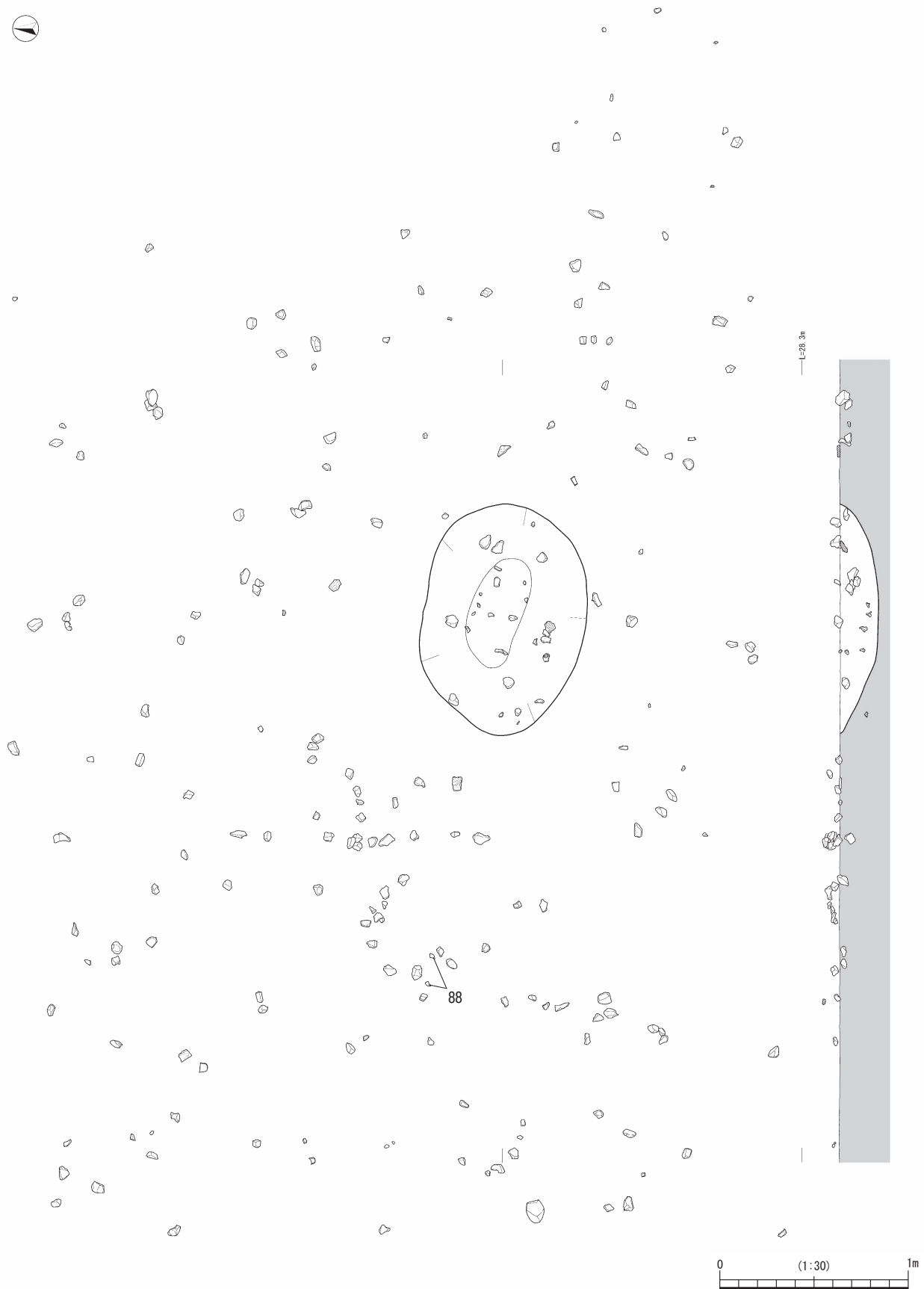
133号集石



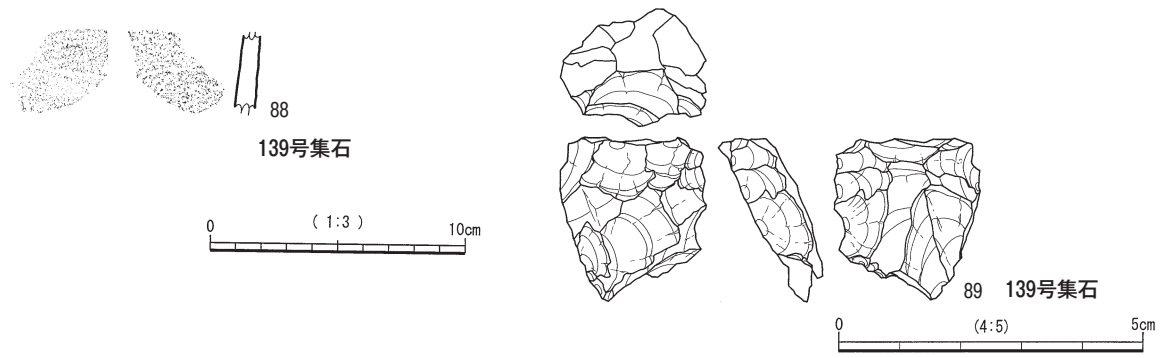
134号集石



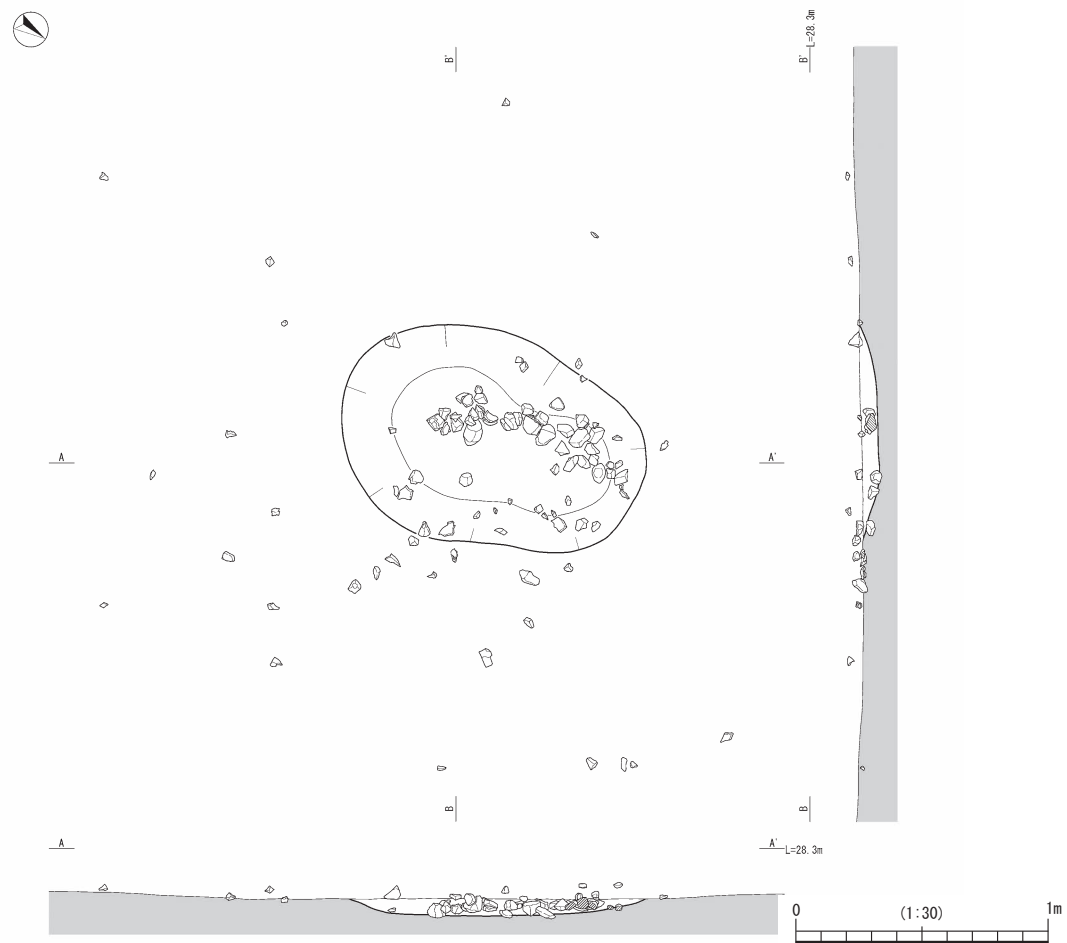
第76図 133, 134号集石



第77图 139号集石



135号集石



第78図 135号集石・139号集石出土遺物

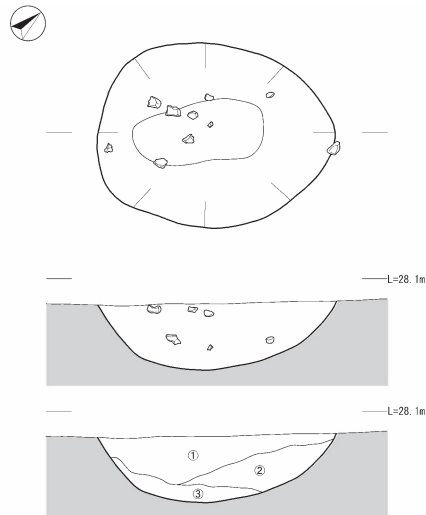
126号集石 (第75図)

D-34区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、45cm×40cmの略円形プランで、礫は、土坑上面にほぼ集中する。構成礫は、総数18点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

127号集石 (第75図)

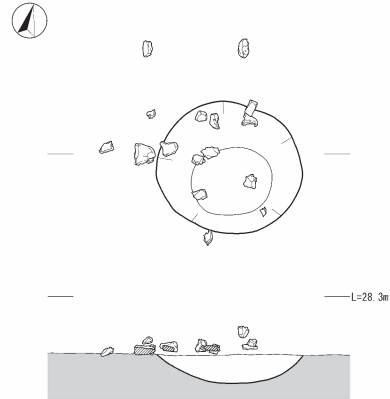
D-34区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×70cmの略円形プランで、礫は、1.5m×1mの範囲に広がる。構成礫は、総数41点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

138号集石

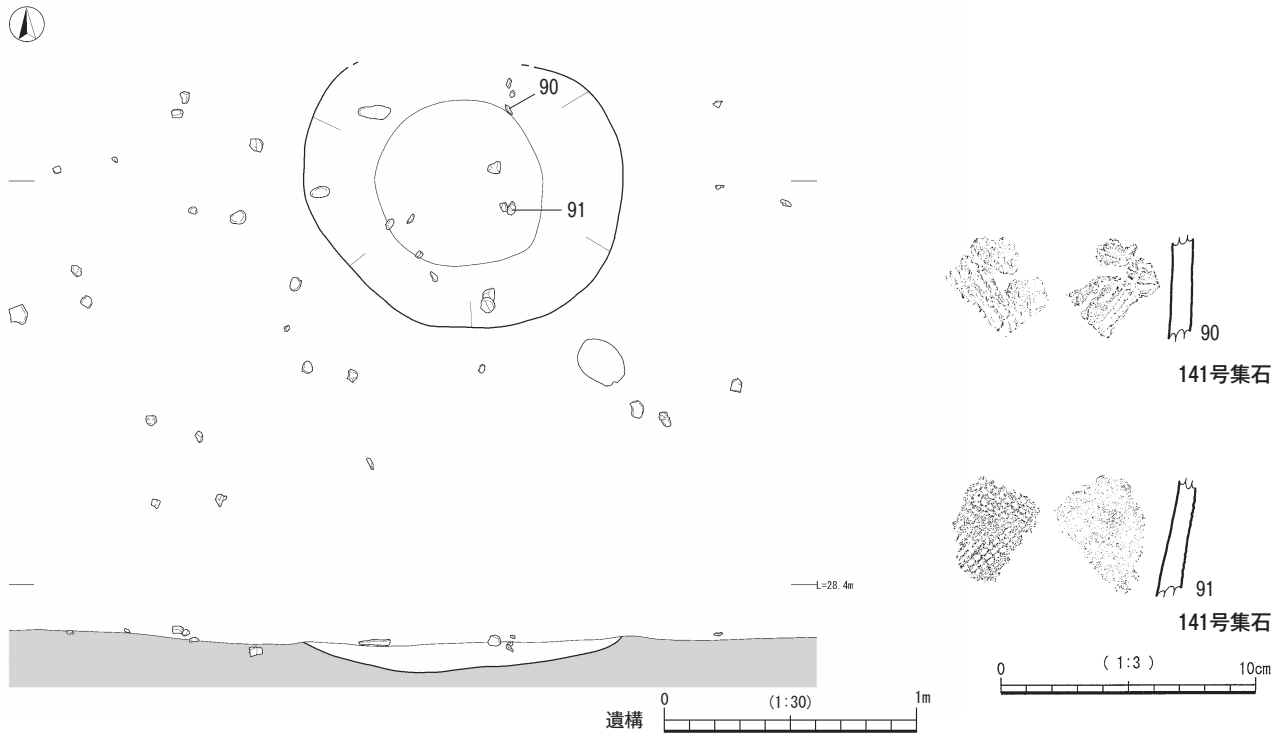


- ① 黒褐色土
- ② 暗褐色土
- ③ 暗褐色土 混在ブロック土

140号集石



141号集石



第79図 138, 140, 141号集石・141号集石出土遺物

128号集石 (第75図)

E-34区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×70cmの楕円形プランで、礫は、総数16点確認できた。石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

129号集石 (第75図)

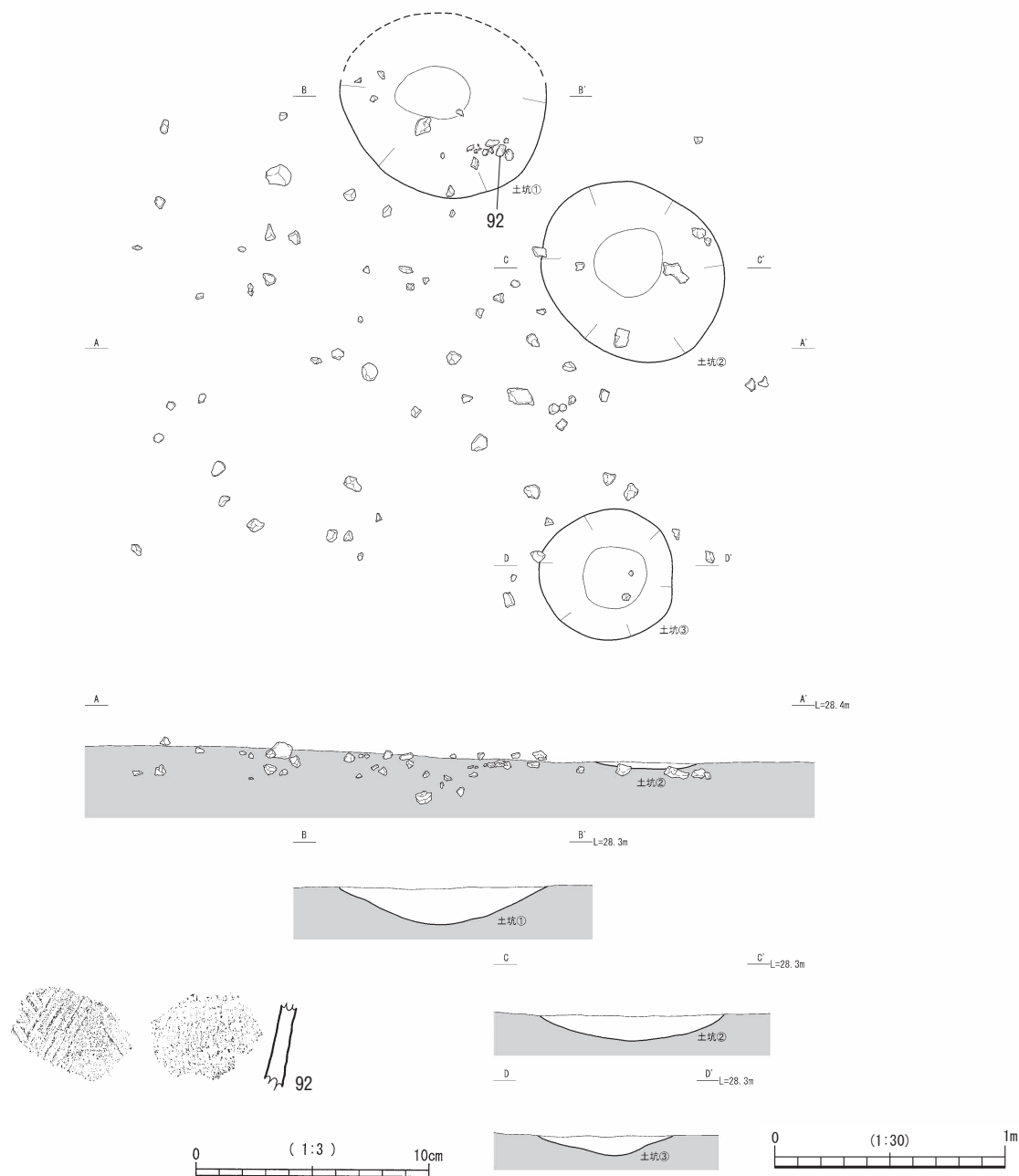
E-34区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×60cmの楕円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、小片も含め総数11点で、

石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

133号集石 (第76図)

E・F-34区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×100cmの略円形プランで、礫は、3m×2mの範囲に広がる。構成礫は、総数55点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。56号連穴土坑を切っている。

142号集石



第80図 142号集石・出土遺物

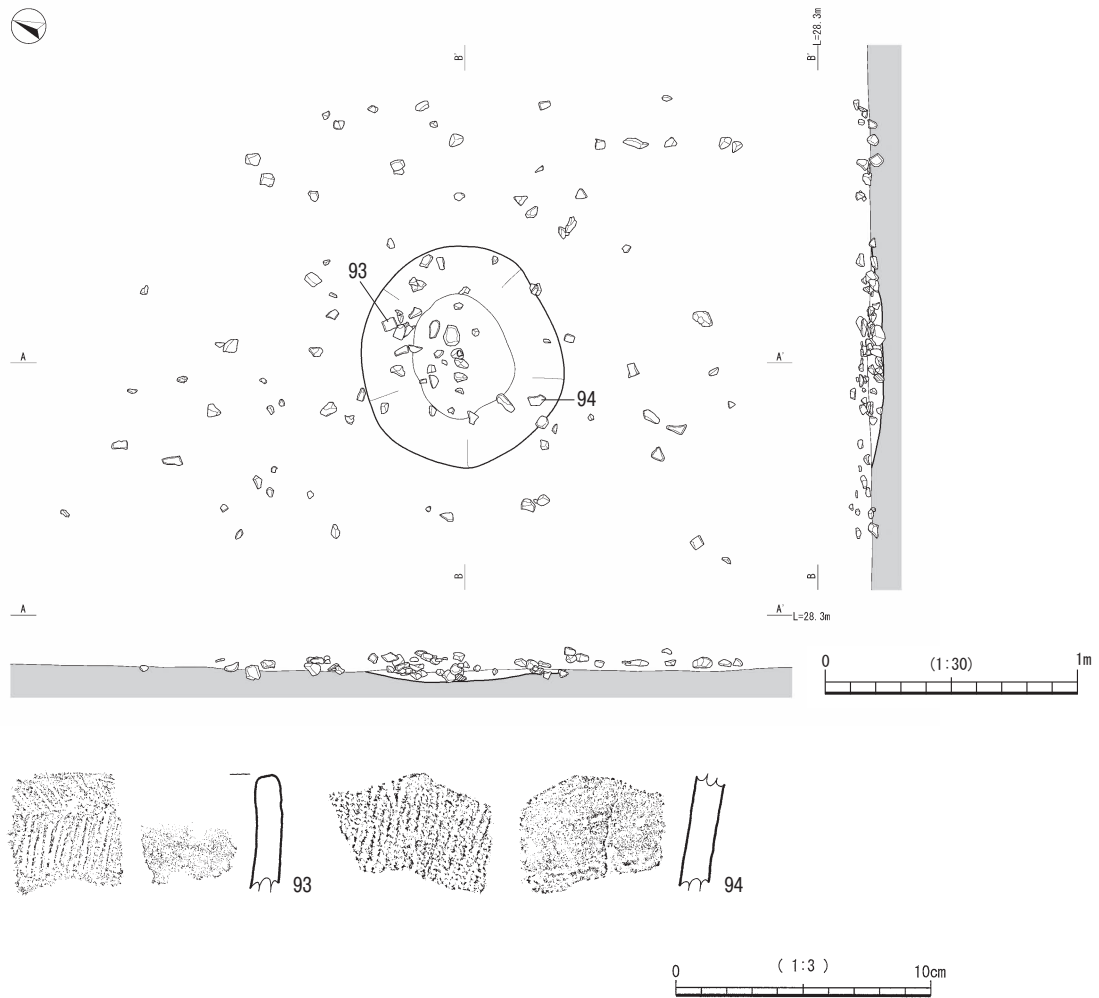
134号集石 (第76図)

F-34・35区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×70cmの楕円形プランで、礫は、土坑周辺3mの範囲に広がる。構成礫は、総数125点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、石皿片1点である。

139号集石 (第77・78図)

G-33・34区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、125cm×85cmの楕円形プランで、礫は、6m四方に広がる。構成礫は、総数171点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点、石器1点で、これを図化した。89は石核である。

143号集石



第81図 143号集石・出土遺物

135号集石 (第78図)

F-33・34区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、130cm×85cmの楕円形プランで、検出面から底面までが浅い。礫は、土坑内を中心に3m×3mの範囲に広がる。構成礫は、総数91点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

138号集石 (第79図)

F-34区Ⅸ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、95cm×75cmの楕円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まり、総数22点確認した。石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

140号集石 (第79図)

G-35区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、60cm×55cmの略円形プランで、礫は、土坑周辺80cmの範囲に広がる。礫は、土坑内からは

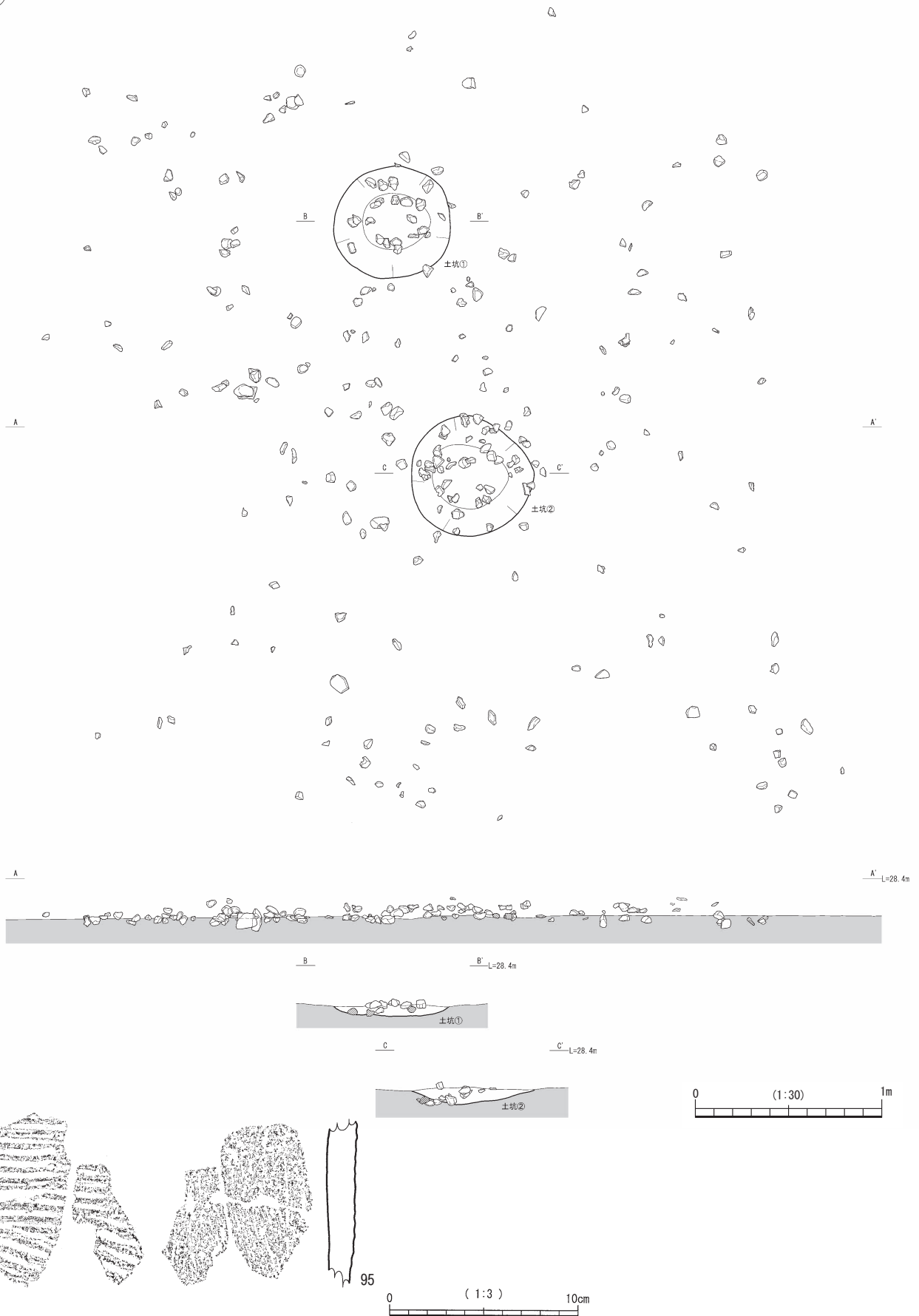
ほとんど出土せず、土坑検出面に散在する。構成礫は、総数16点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

141号集石 (第79図)

G-35区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、一部が調査区境の壁面により未調査であるが、130cm×115cmの略円形プランで、浅いすり鉢状の断面を呈する。礫は、3m×1.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数25点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器2点を図化した。

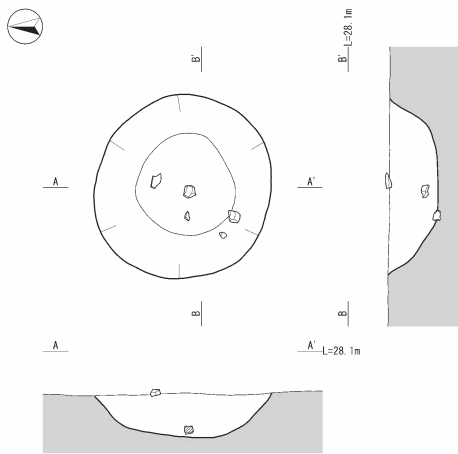
142号集石 (第80図)

G-35区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に3基の土坑も確認された。土坑は、いずれも円形ないし略円形プランで、土坑①は長軸90cm、土坑②は85cm×70cm、土

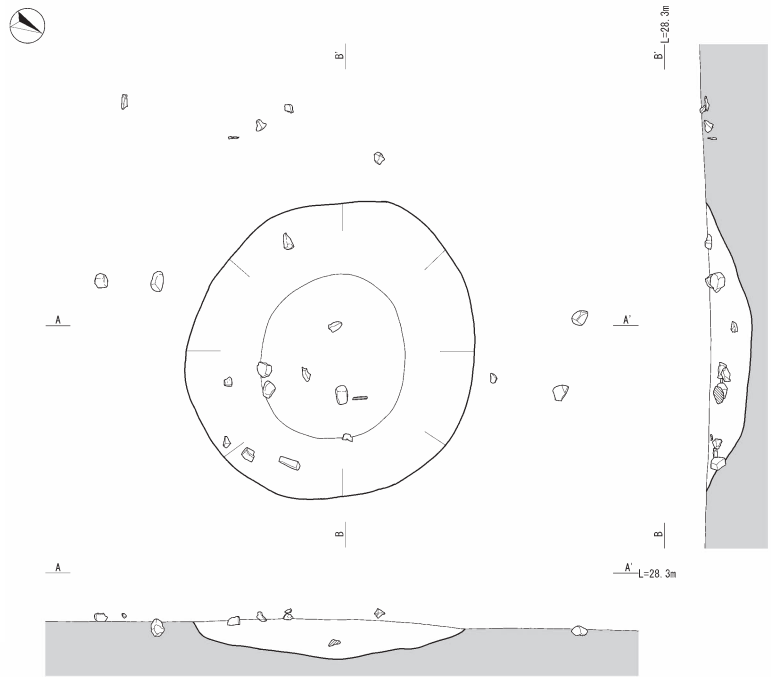


第82図 145号集石・出土遺物

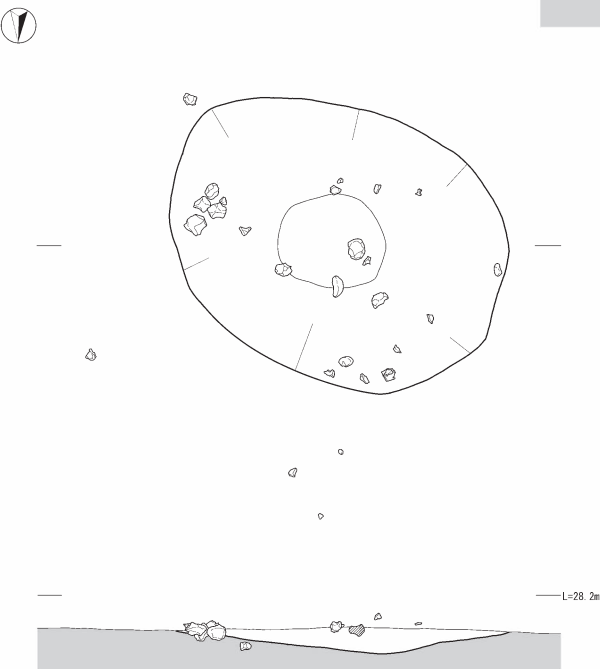
149号集石



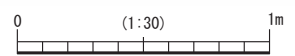
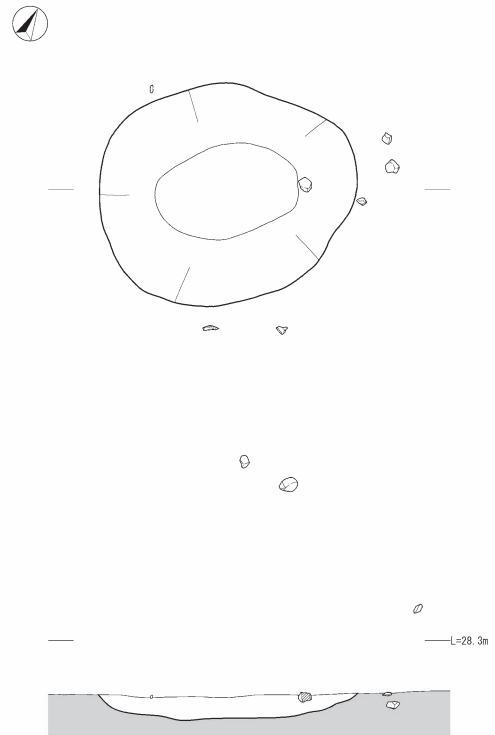
151号集石



152号集石

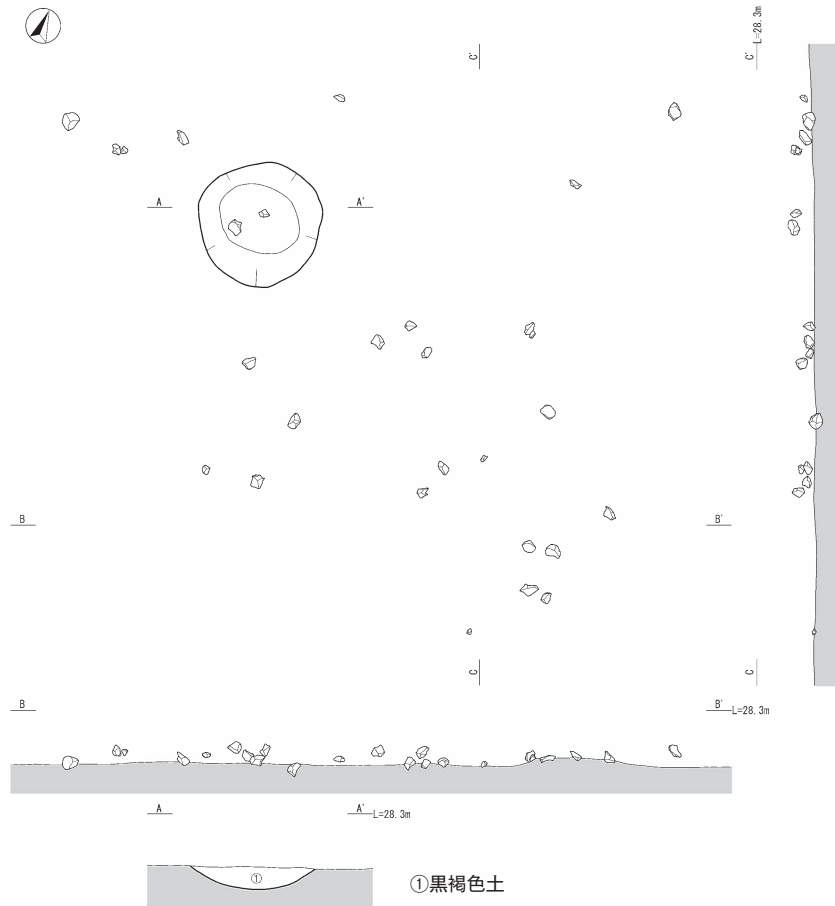


156号集石

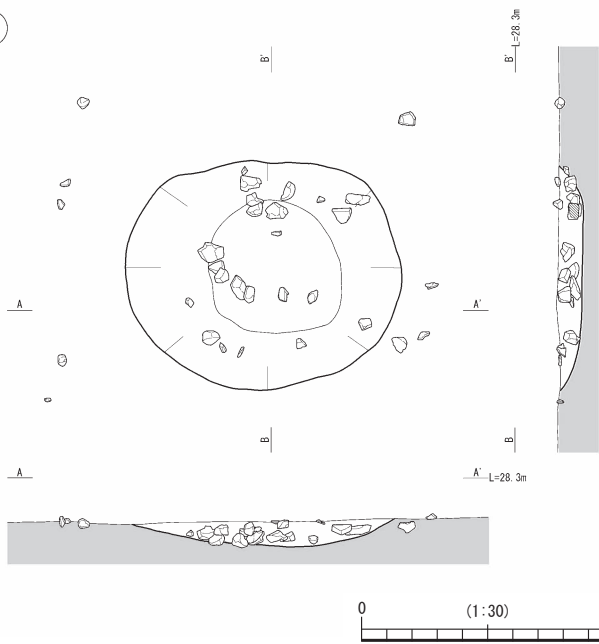


第83图 149, 151, 152, 156号集石

157号集石



158号集石



坑③は60cm×55cmで、いずれも断面が浅いすり鉢状を呈する。礫は、土坑内から出土するものは少なく、土坑外が多く3m×3mの範囲に広がる。構成礫は、総数68点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点で、このうち土器1点を図化した。

143号集石 (第81図)

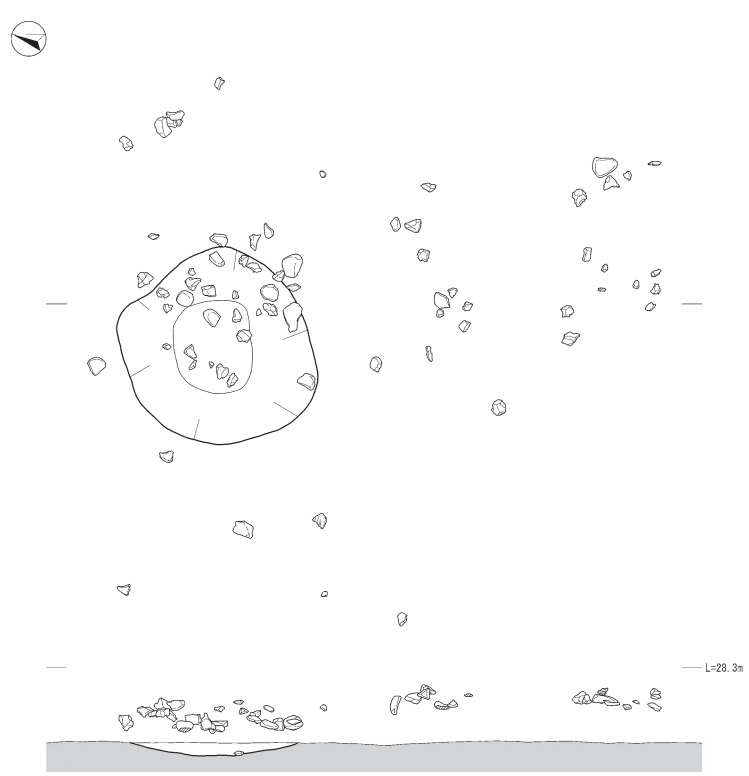
F-35区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×80cmの略円形プランで、礫は、3m×2.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数93点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点で、これを図化した。

145号集石 (第82図)

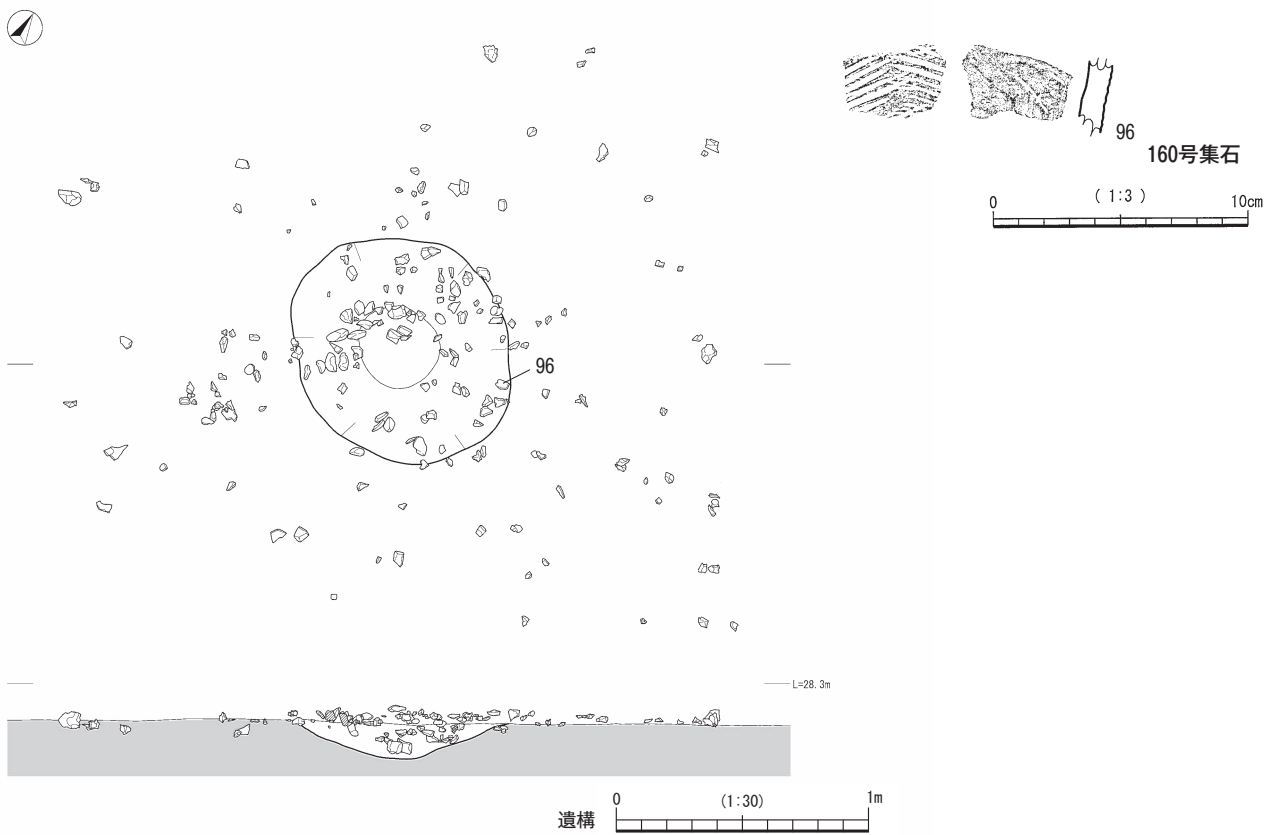
F-35区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、2基が隣接し、いずれも60cm×60cm程度の円形プランである。礫は、5.5m×5mの範囲に広がる。構成礫は、総数223点で、土坑内にも比較的多い。石材はわずかに凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点、石器1点で、このうち土器1点を図化した。

第84図 157, 158号集石

159号集石

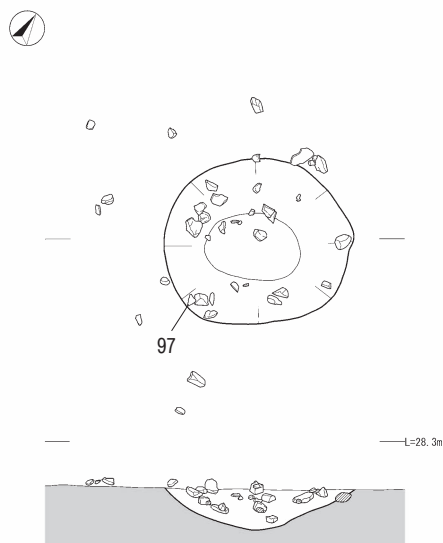


160号集石

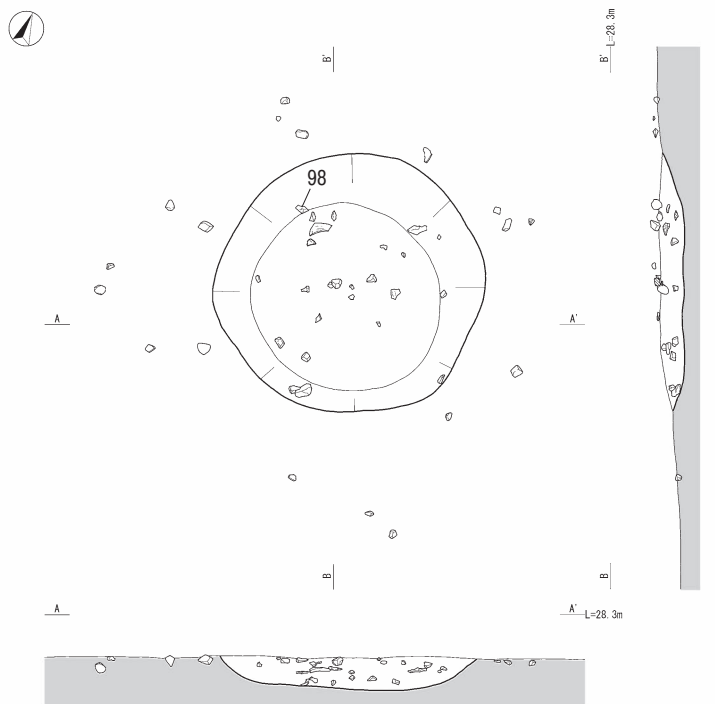


第85図 159, 160号集石・160号集石出土遺物

163号集石



165号集石

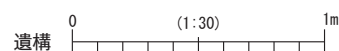
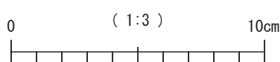


163号集石



165号集石

遺物



第86図 163, 165号集石・出土遺物

149号集石 (第83図)

F-35区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×75cmの円形プランで、礫は、土坑内に総数4点確認された。石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが、小破片のため図化は困難であった。

151号集石 (第83図)

E・F-35区VIII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、115cm×115cmの円形プランで、礫は、2.2m×1.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数16点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点、石器1点で、石器は磨石片1点である。小破片のため図化には至らなかった。

152号集石 (第83図)

E-35区VIII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、140cm×105cmの楕円形プランで、礫は、この土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数22点で、

石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが、小破片のため図化は困難であった。

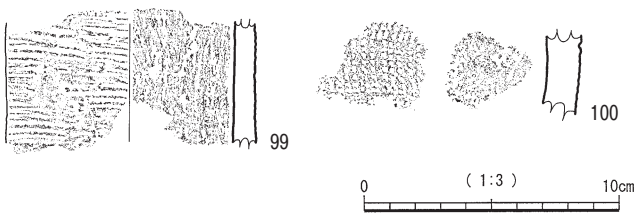
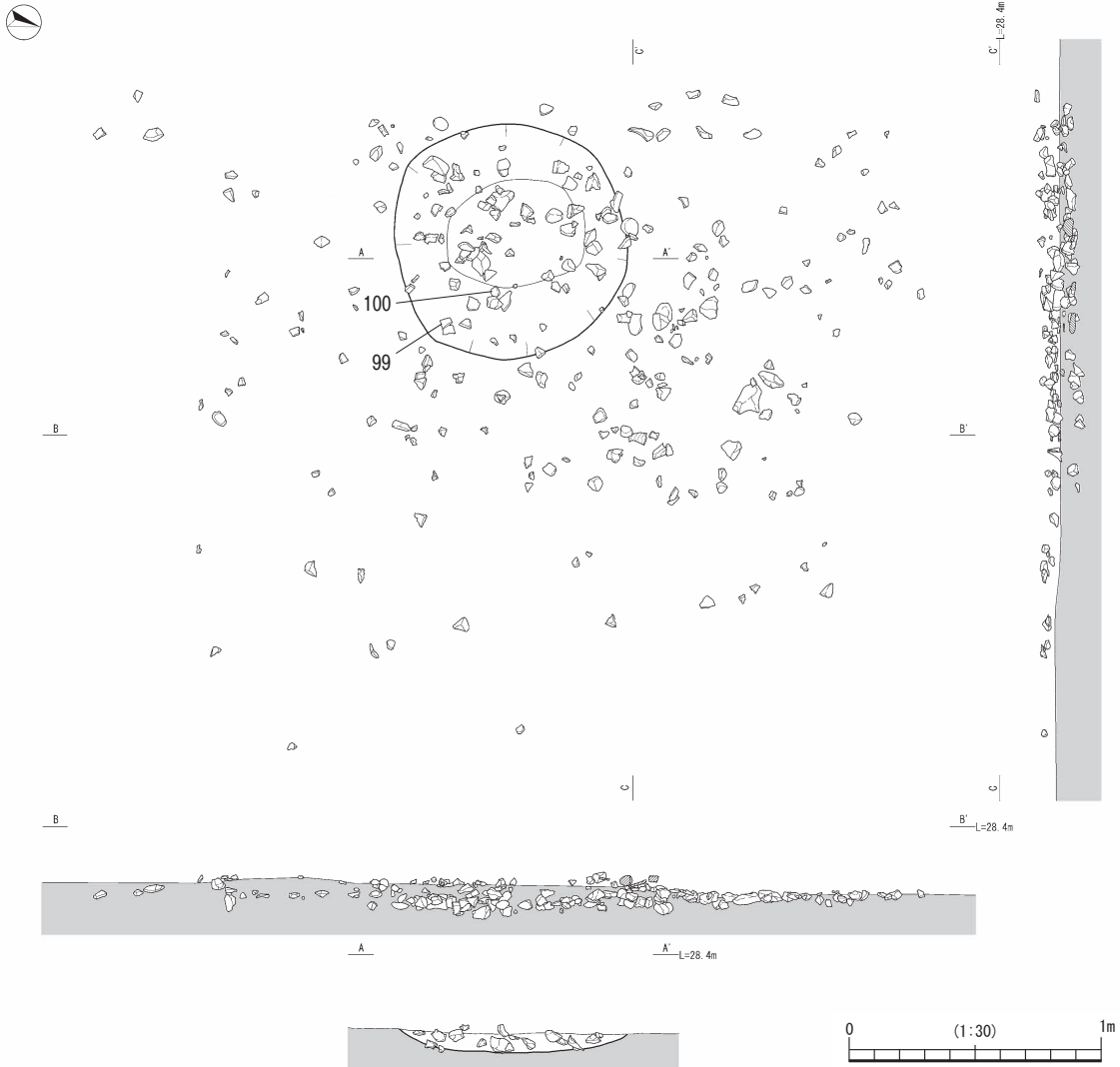
156号集石 (第83図)

E-35区VIII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×85cmの楕円形プランで、礫は、1.7m×1.2mの範囲に散在する。構成礫は、総数3点で、石材は凝灰岩のみである。集石内遺物は確認できなかった。

157号集石 (第84図)

E-35区VIII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、50cm程度の円形プランで、礫は、土坑外を中心に2.7mの範囲に広がる。構成礫は、総数23点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

166号集石



第87図 166号集石・出土遺物

158号集石 (第84図)

E-35区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×90cmの楕円形プランで、礫は、土坑プラン外50cm程度まで広がるが、土坑内の礫は比較的まとまっている。構成礫は、総数26点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

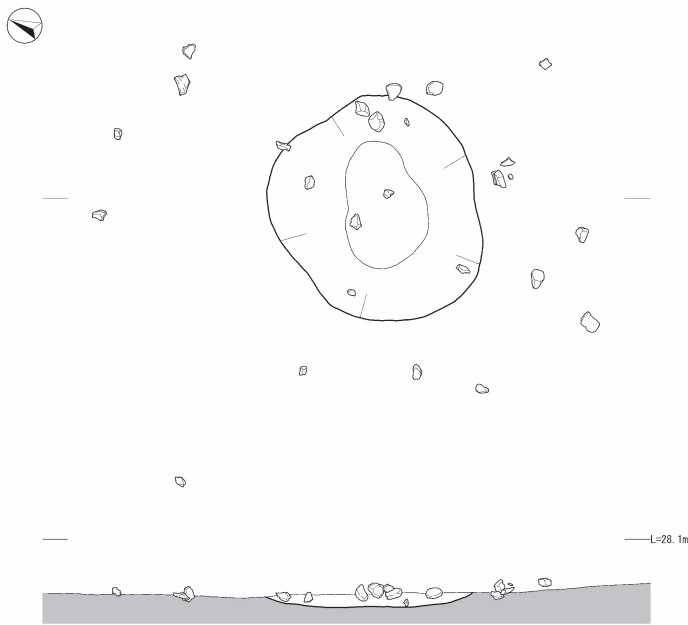
159号集石 (第85図)

E-35区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×75cmの円形プランで、礫は、2.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数63点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが、小破片のため図化は困難であった。

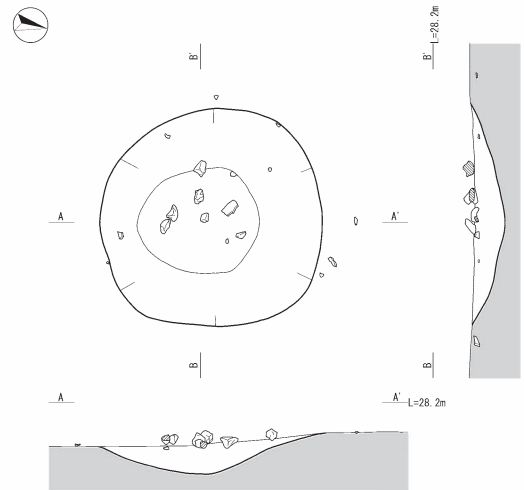
160号集石 (第85図)

E-35区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、95cm×85cmの略円形プランで、礫は、3m×3mの範囲に広がる。構成礫は、総数157点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点、石器1点で、このうち土器1点を図化した。いずれも小破片である。石器は剥片1点が出土している。

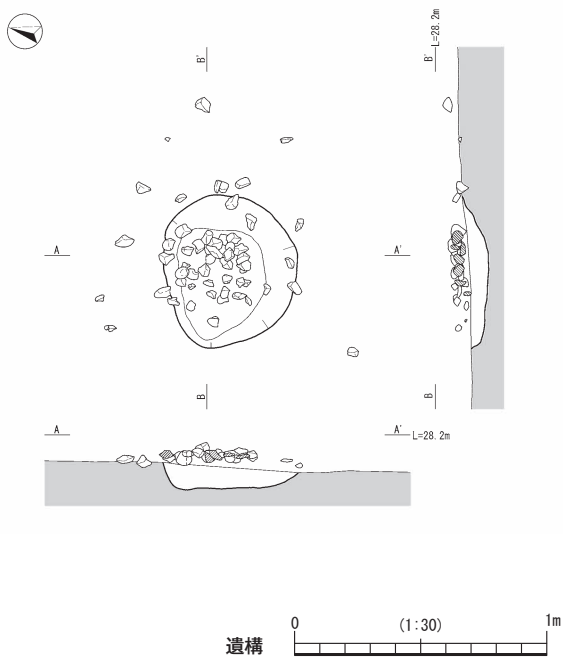
167号集石



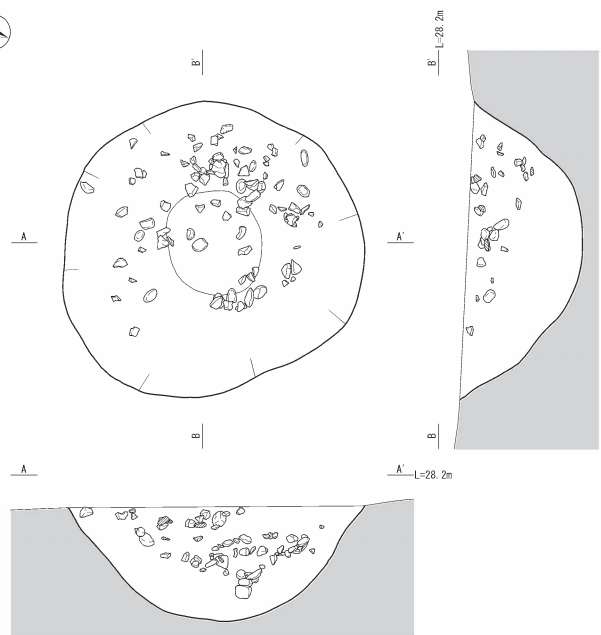
171号集石



172号集石



173号集石



遺構 0 (1:30) 1m

第88図 167, 171, 172, 173号集石

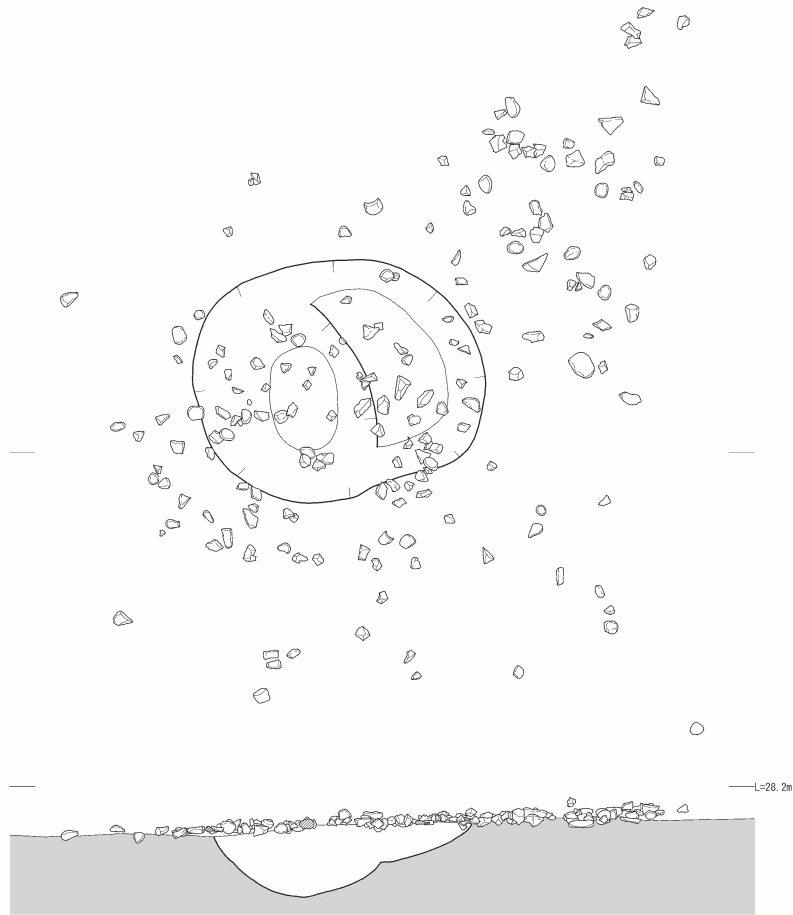
163号集石 (第86図)

E-35区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×65cmの略円形プランで、断面形状が浅いすり鉢状を呈する。礫は、1.3m×1.2mの範囲に広がる。構成礫は、総数30点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器1点を図化した。

165号集石 (第86図)

E-35区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×100cmの略円形プランで、礫は、2m×2mの範囲に広がる。土坑内の礫はあまりまとまりがなく散在し、総数34点を確認した。石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器1点を図化した。

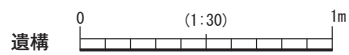
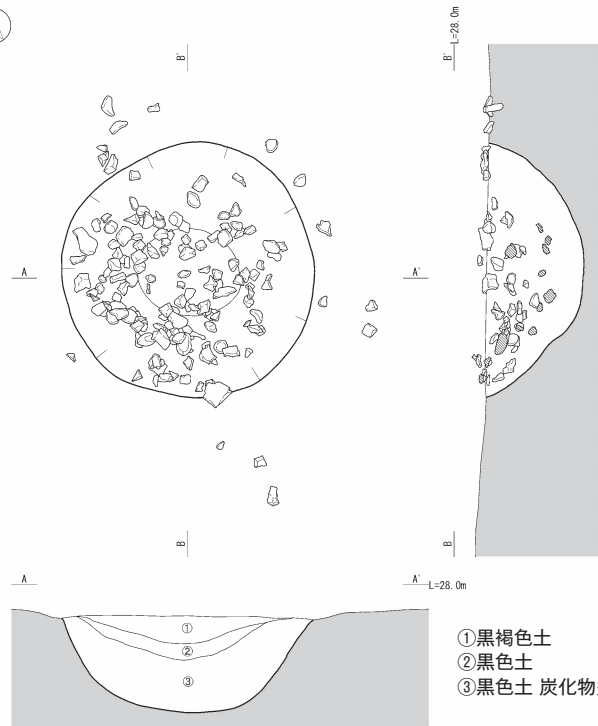
174号集石



175号集石



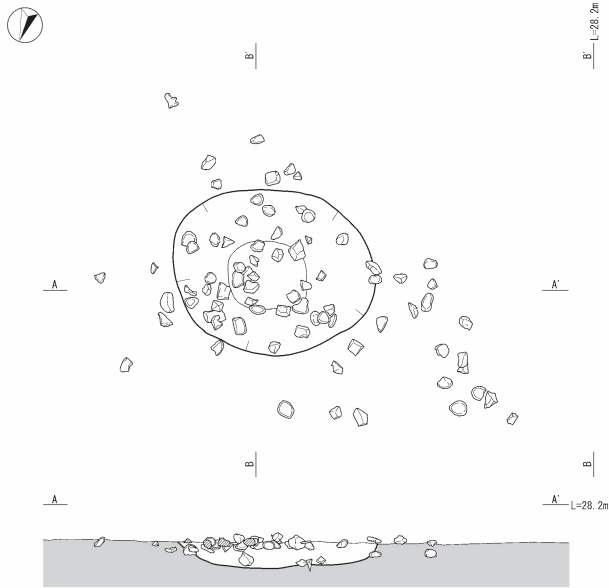
178号集石



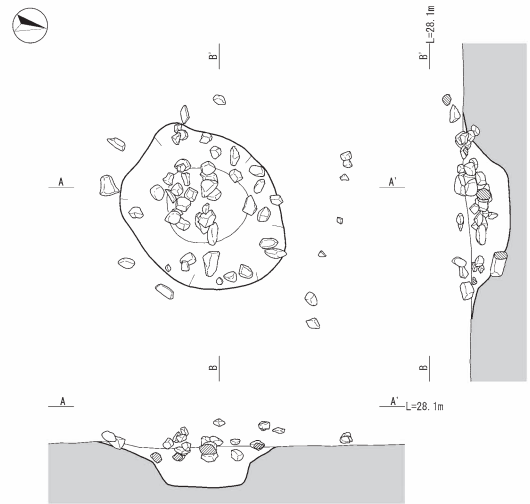
- ① 黒褐色土
- ② 黒色土
- ③ 黒色土 炭化物多く含む

第89図 174, 175, 178号集石・出土遺物

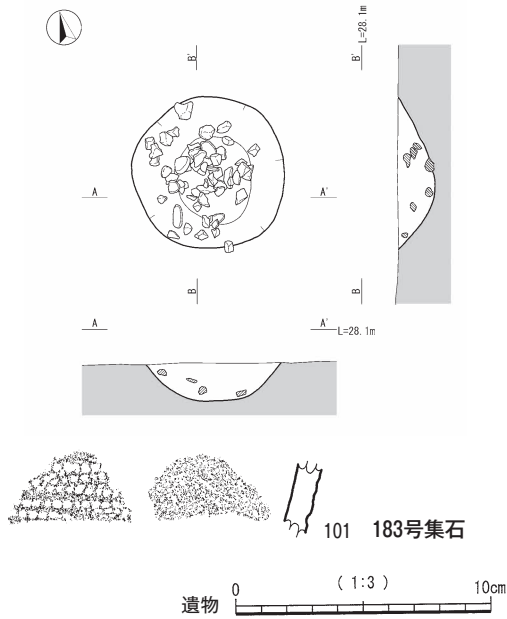
179号集石



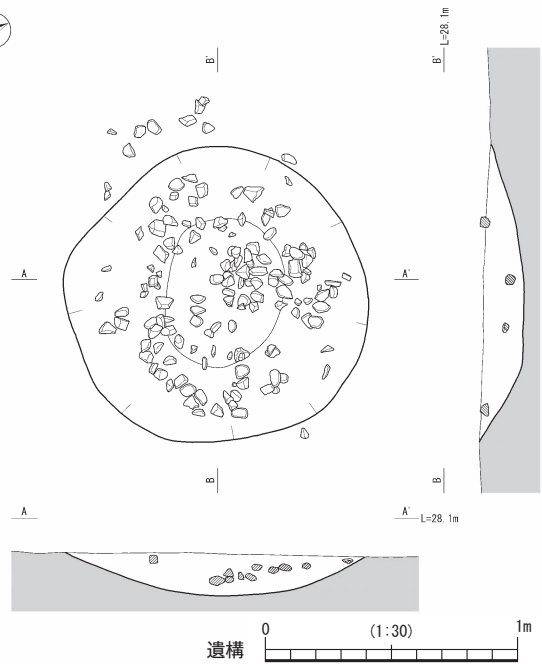
180号集石



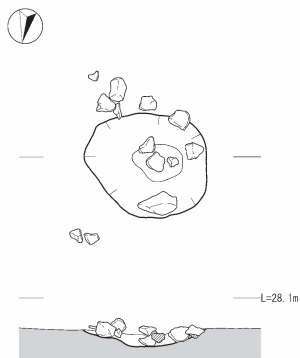
183号集石



185号集石



188号集石

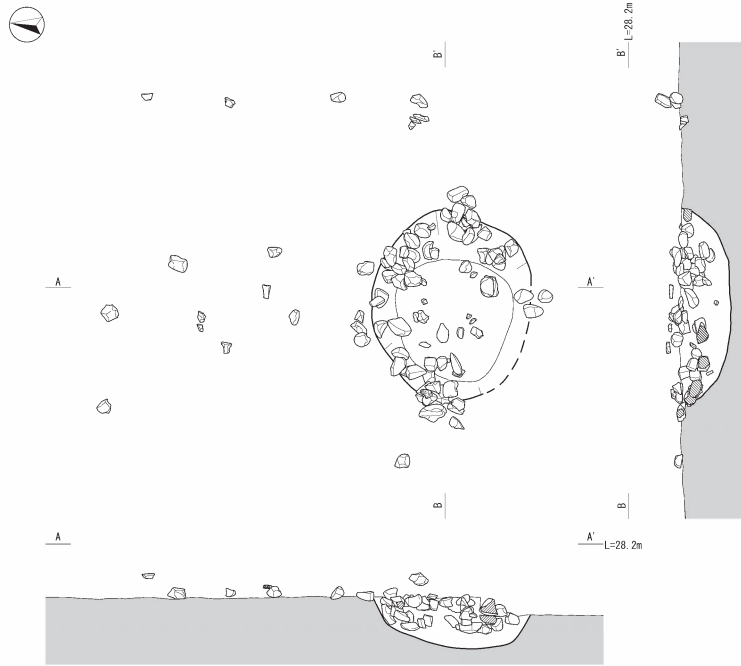


166号集石 (第87図)

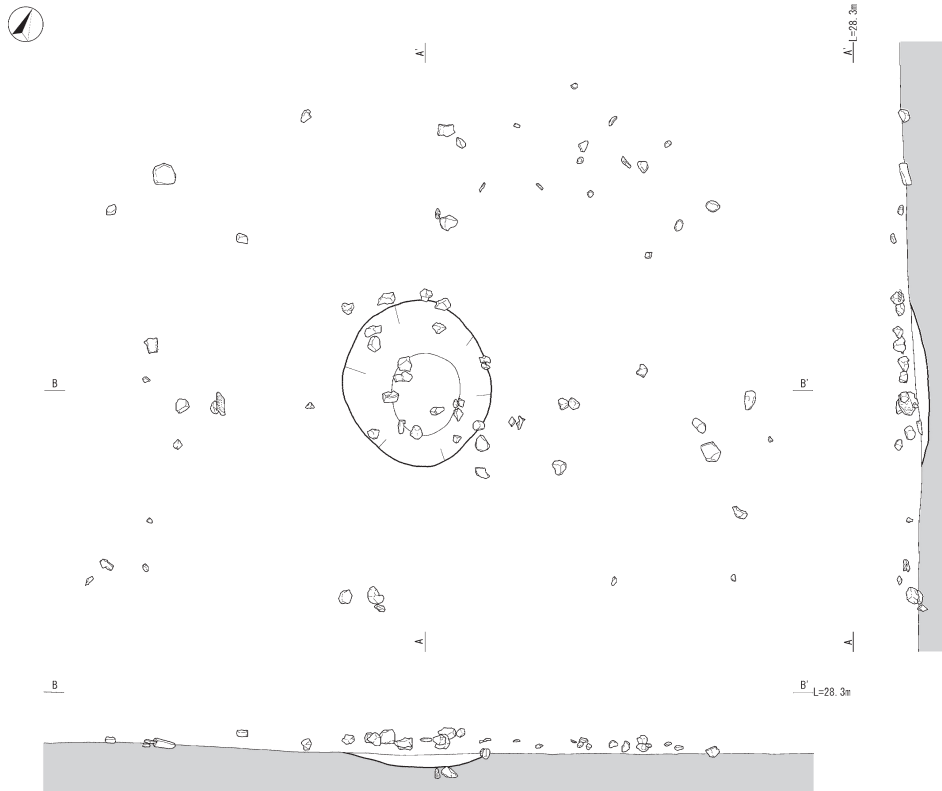
E-35区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、95cm×95cmの円形プランで、礫は、3mの範囲に広がる。構成礫は、総数237点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器2点を図化した。

第90図 179, 180, 183, 185, 188号集石・183号集石出土遺物

189号集石



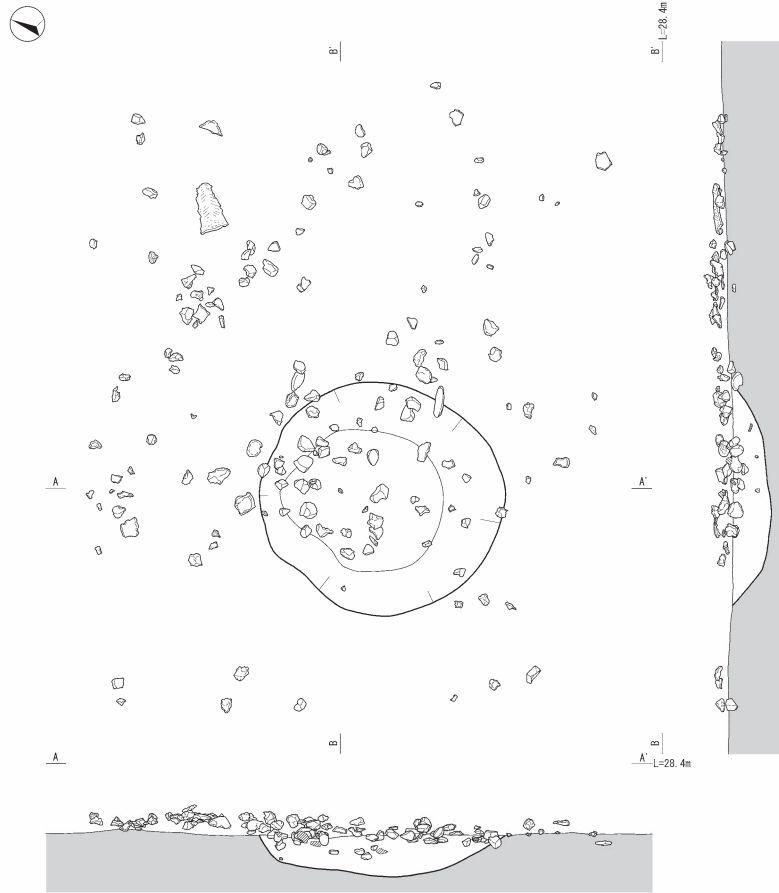
190号集石



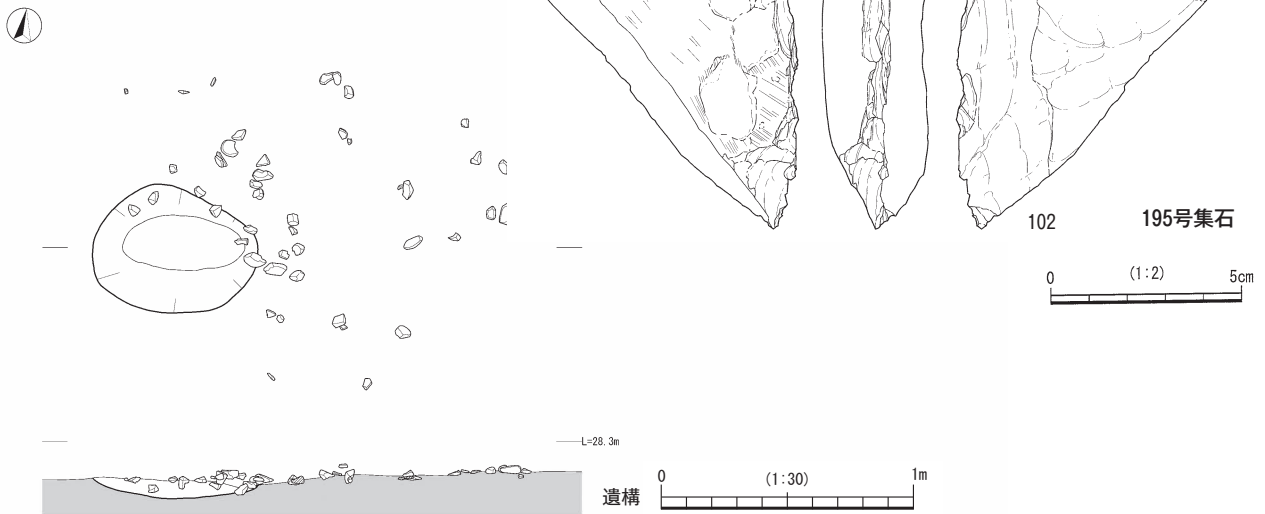
遺構 0 (1:30) 1m

第91図 189, 190号集石

195号集石

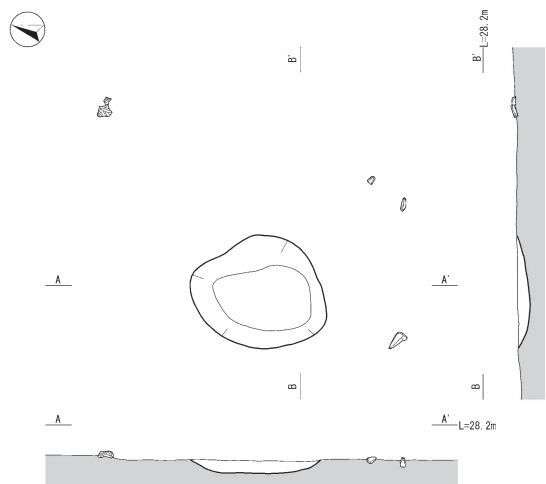


197号集石

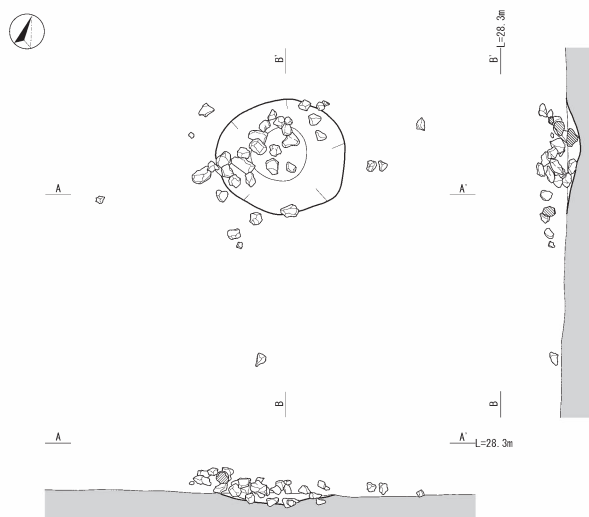


第92図 195, 197号集石・195号集石出土遺物

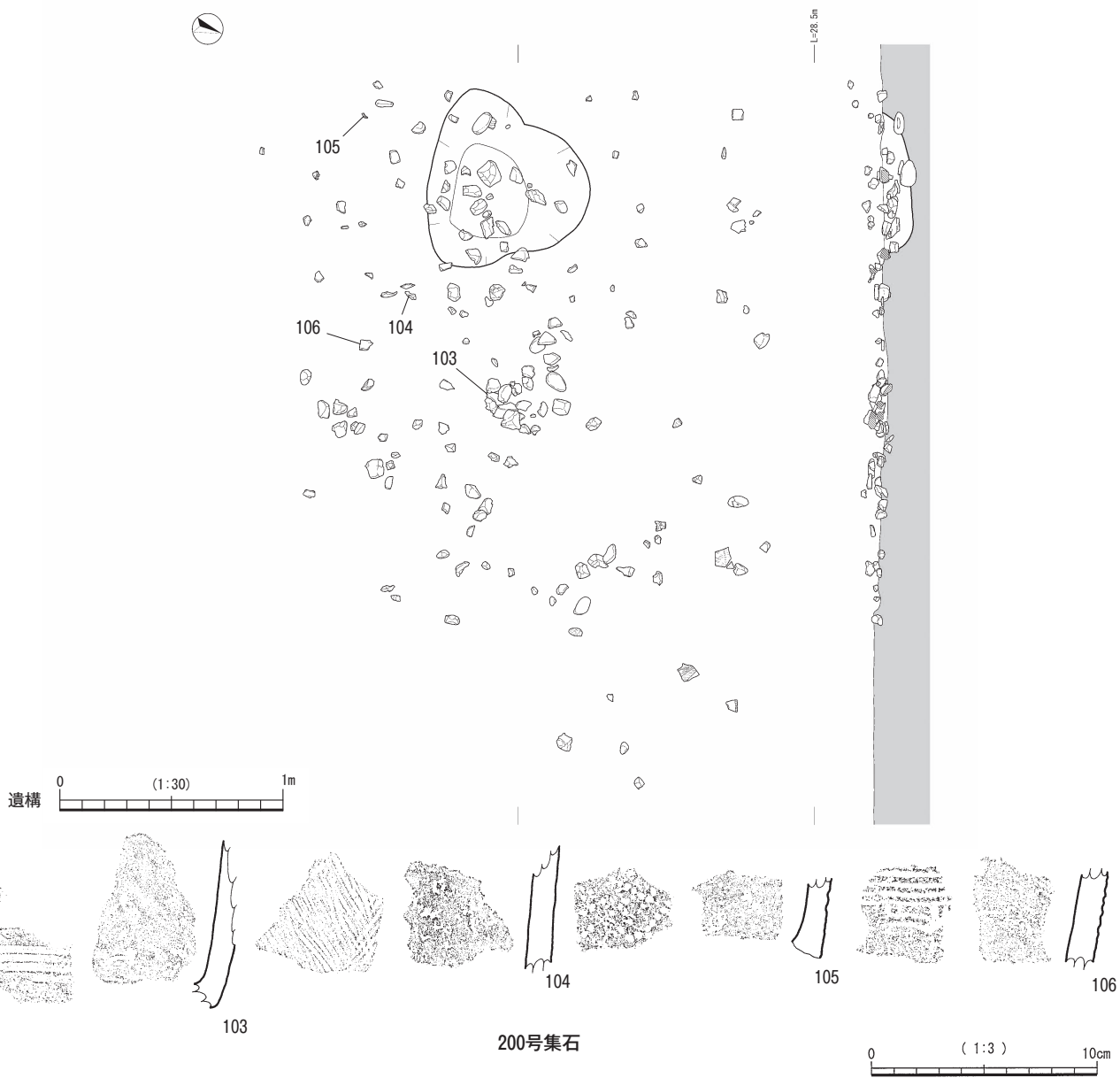
198号集石



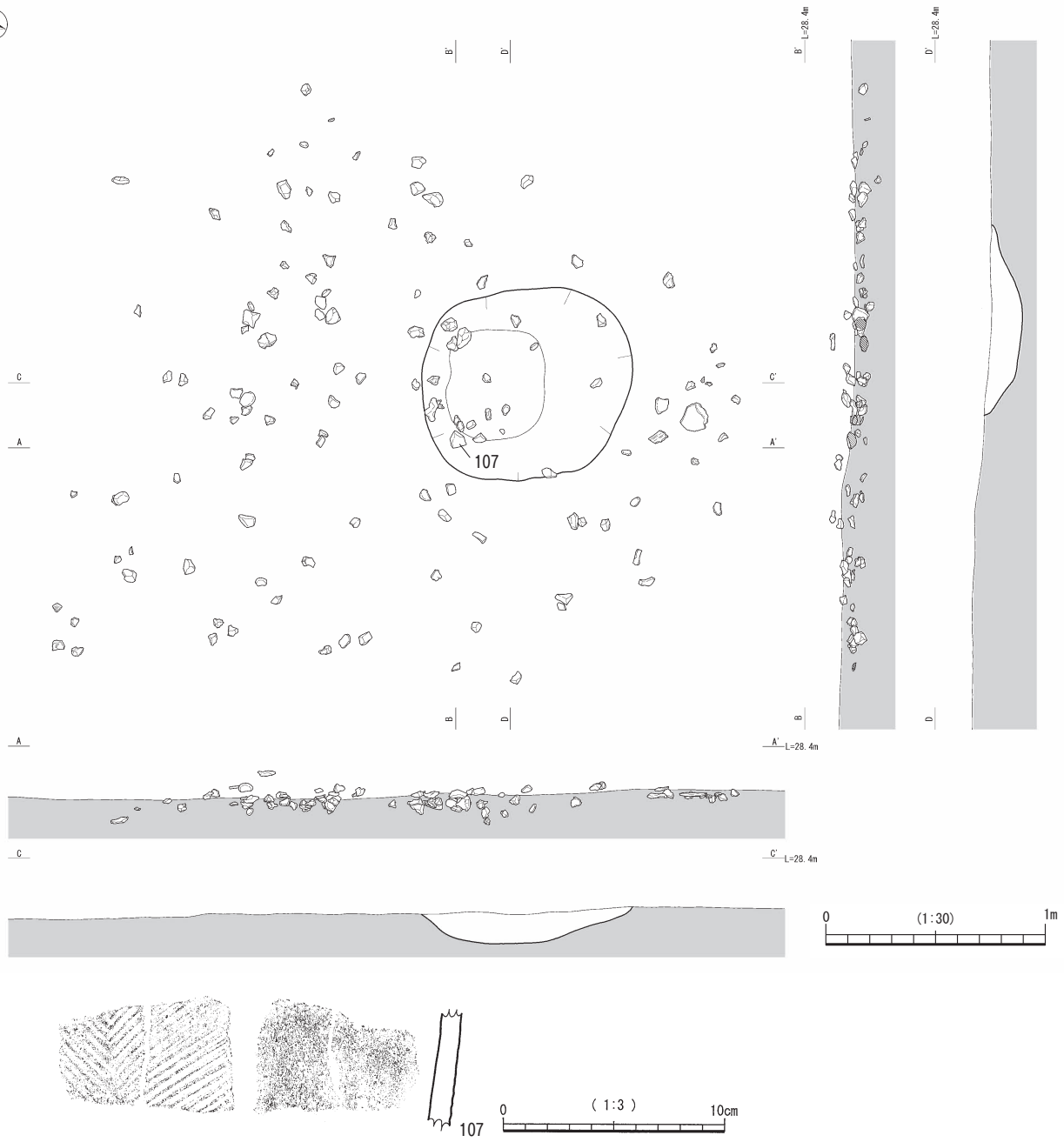
202号集石



200号集石



第93図 198, 200, 202号集石・200号集石出土遺物



第94図 206号集石・出土遺物

167号集石 (第88図)

E-35区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×80cmの略円形プランで、浅いすり鉢状を呈する。礫は、2m×1.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数29点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

171号集石 (第88図)

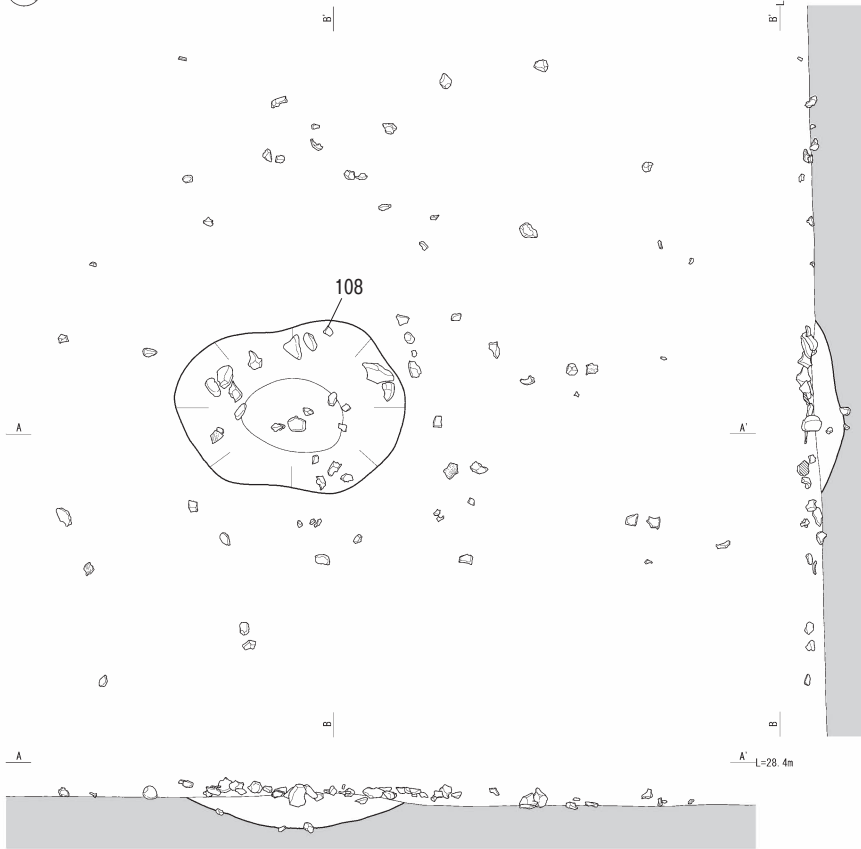
C-35区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×90cmの円形プランで、礫は、

わずかに土坑外からも出土したが、土坑上面に収まる。構成礫は、総数18点で、石材は凝灰岩と砂岩とが同量である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

172号集石 (第88図)

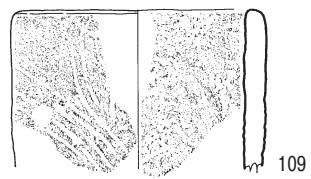
C-35区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、60cm×55cmの略円形プランで、礫は、土坑上面を中心に、1.2m×1.2mの範囲に広がる。構成礫は、総数57点で、土坑内からはほとんど出土しな

208号集石

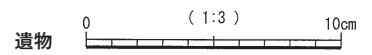


208号集石

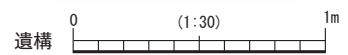
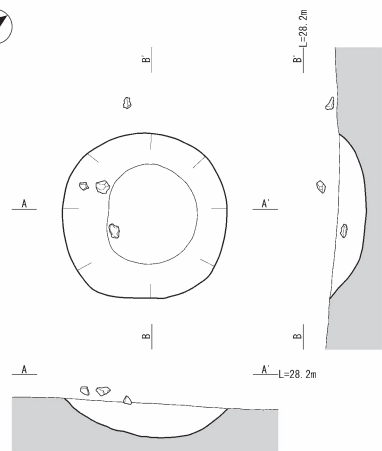
210号集石



210号集石

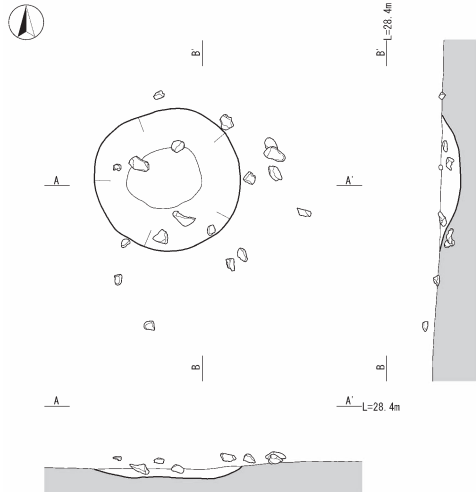


209号集石

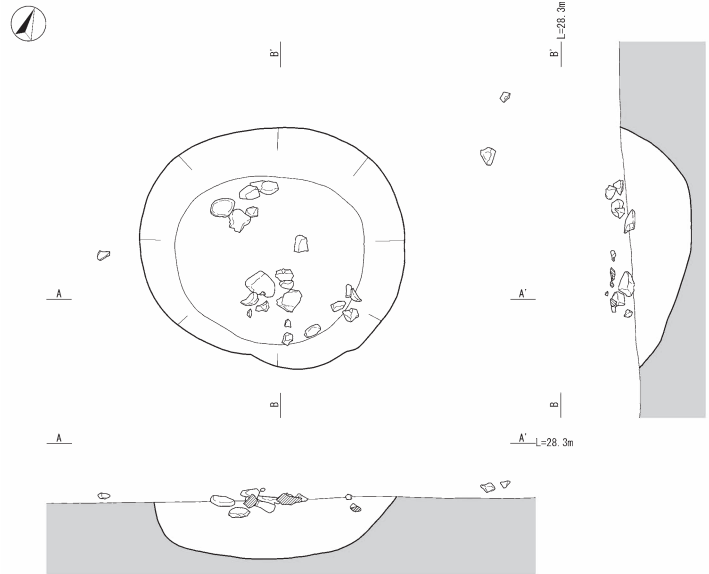


第95図 208, 209, 210号集石・208, 210号集石出土遺物

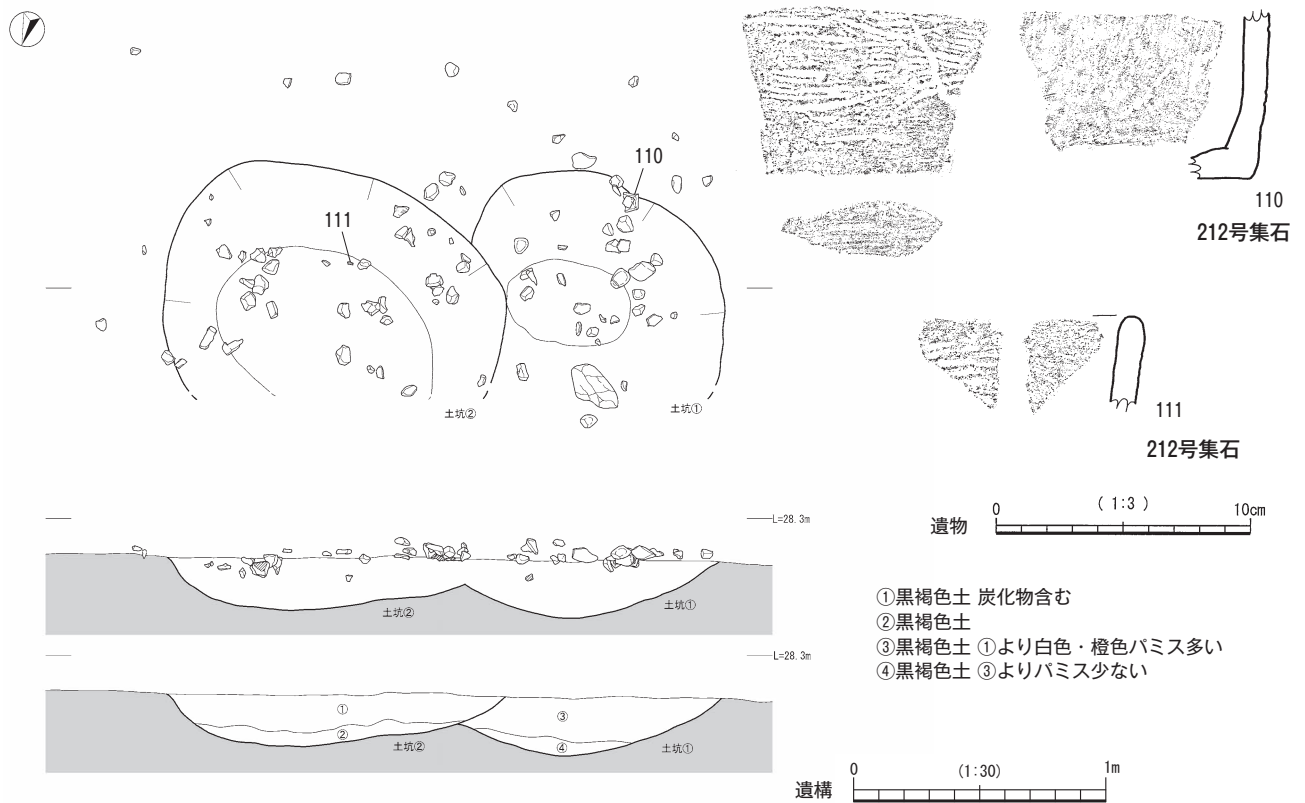
211号集石



213号集石



212号集石



第96図 211, 212, 213号集石・212号集石出土遺物

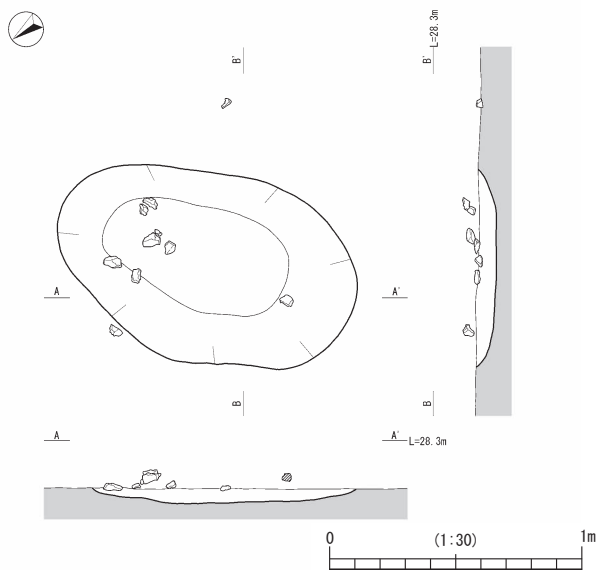
い。石材はわずかに砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

173号集石 (第88図)

B-35・36区Ⅷa層上面で検出できた集石。検出面、埋土、形態、礫の種類からみて、他の集石より時期が新

しいと考える。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、120cm×110cmの略円形プランで、検出面から底面まで45cmを測り、検出された集石の中では深い掘り込みを有する。礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数96点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

214号集石



第97図 214号集石

174号集石 (第89図)

B-35区Ⅷa層で検出した。礫の検出の後に土坑も確認された。土坑は、115cm×95cmの楕円形プランで、東側にステップ状の段を有する。礫は、この土坑検出面で3.5m×3mの範囲に広がる。構成礫は、総数196点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

175号集石 (第89図)

B-35区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、60cm×60cmの円形プランで、礫は、土坑外20cmの位置に散在しているものも見られた。構成礫は、総数27点で、石材は凝灰岩が優位である。礫の周囲には、極小の炭化物が見られた。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

178号集石 (第89図)

B-36区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×100cmの円形プランで、検出面から底面までが40cmと深い。埋土は、3層に細分が出来た。礫は、土坑周辺にもわずかに広がる。構成礫は、総数203点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、石皿片1点が出土している。

179号集石 (第90図)

B-36区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×65cmの楕円形プランで、礫は、土坑上面を中心に2m×1mの範囲に広がる。構成

礫は、総数78点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

180号集石 (第90図)

B・C-36区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、70cm×55cmの楕円形プランで、礫は、1.2m×0.8mの範囲に広がる。構成礫は、総数57点で、石材はわずかに凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。85号土坑を切る。

183号集石 (第90図)

C-36区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、60cm×60cmの円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数61点で、石材はわずかに砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを図化した。

185号集石 (第90図)

C-36区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、115cm×115cmの円形プランで、礫は、この土坑内にほぼ収まるが、西側に若干広がる。隣接する集石と同一集石の可能性もある。構成礫は、総数153点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

188号集石 (第90図)

D-36区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、50cm×40cmの略円形プランで、礫は、土坑周辺0.7mの範囲に広がる。構成礫は、総数13点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

189号集石 (第91図)

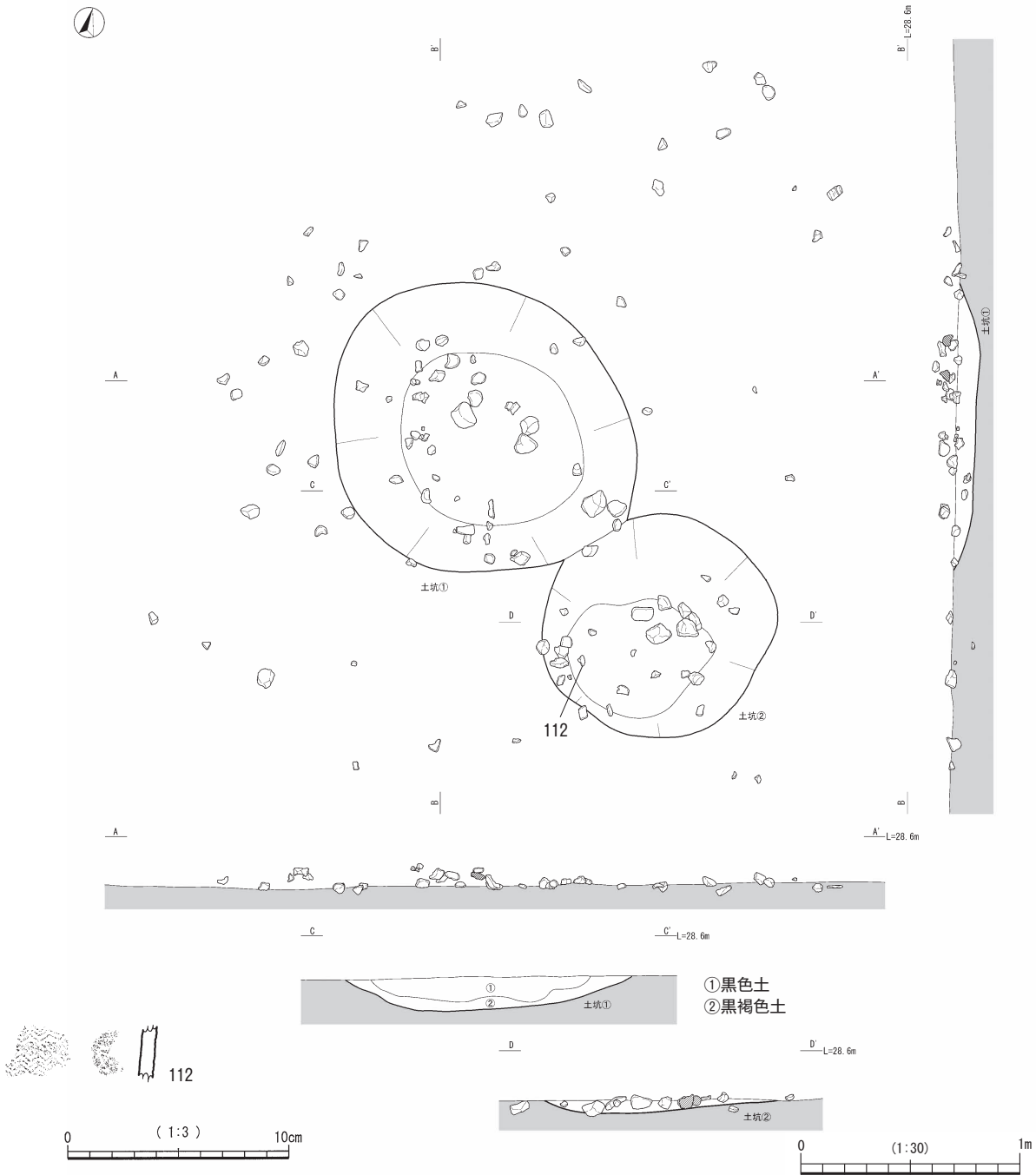
E-36区Ⅸ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×60cmの略円形プランで、礫は、1.7mの範囲に広がる。構成礫は、総数91点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

190号集石 (第91図)

E-36区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、65cm×60cmの円形プランで、礫は、3m四方に広がる。構成礫は、総数61点で、石材はわずかに凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが、小破片のため図化は困難であった。

195号集石 (第92図)

E-36区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も



第98図 216号集石・出土遺物

確認された。土坑は、100cm×95cmの円形プランで、礫は、2.5m四方に広がる。構成礫は、総数104点で、石材はわずかに凝灰岩が優位で、花崗岩を含む。集石内遺物と判断したものは、土器5点であるが、小破片のため図化は困難であった。なお、周辺からは10類土器の大きめの破片が出土している。石器は1点が出土し、これを図化した。102は磨製石斧の基部片である。

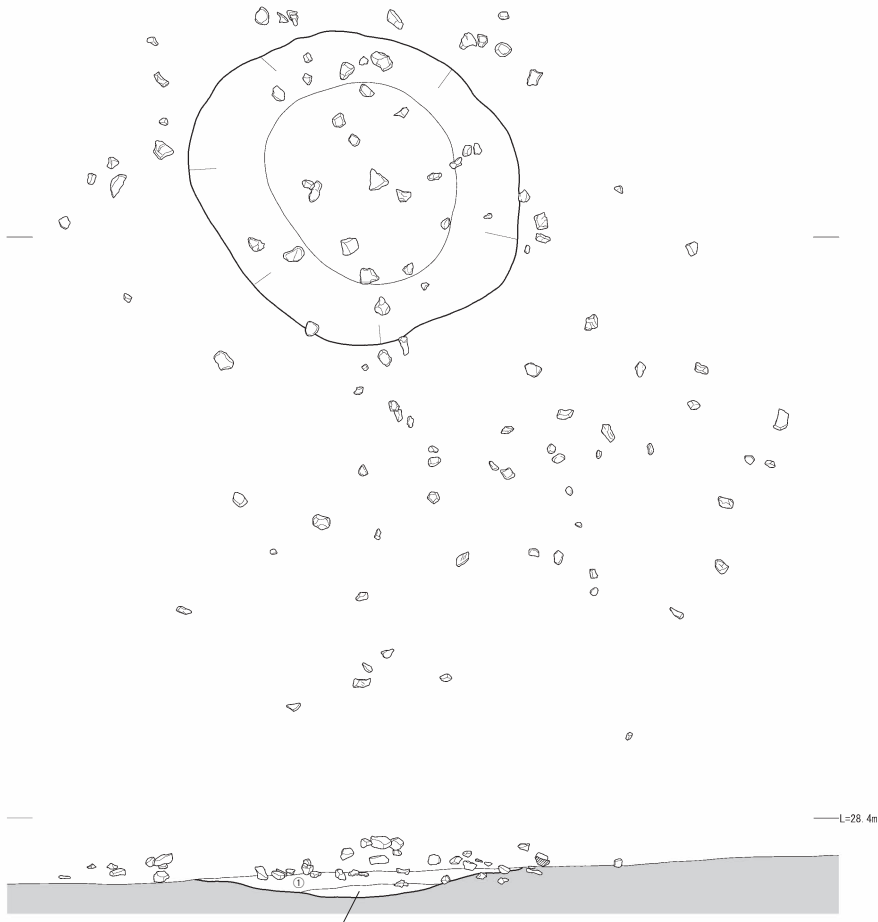
197号集石 (第92図)

E-36区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、65cm×50cmの楕円形プランで、礫は、2m×1.3mの範囲に広がる。土坑内より土坑外の礫数が多い。構成礫は、総数40点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

198号集石 (第93図)

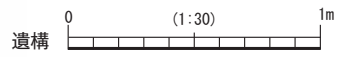
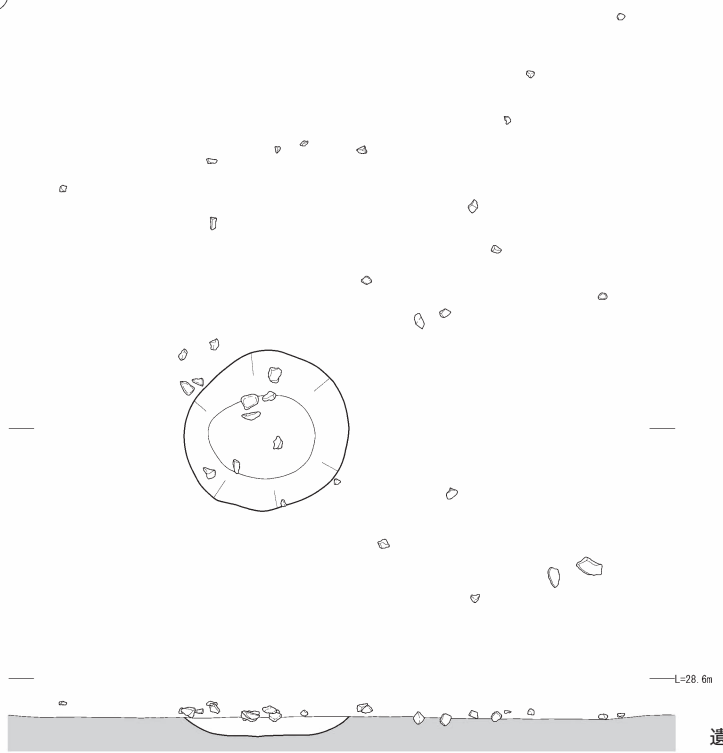
E-35・36区Ⅷa層で検出した。散礫の検出と同時に

217号集石



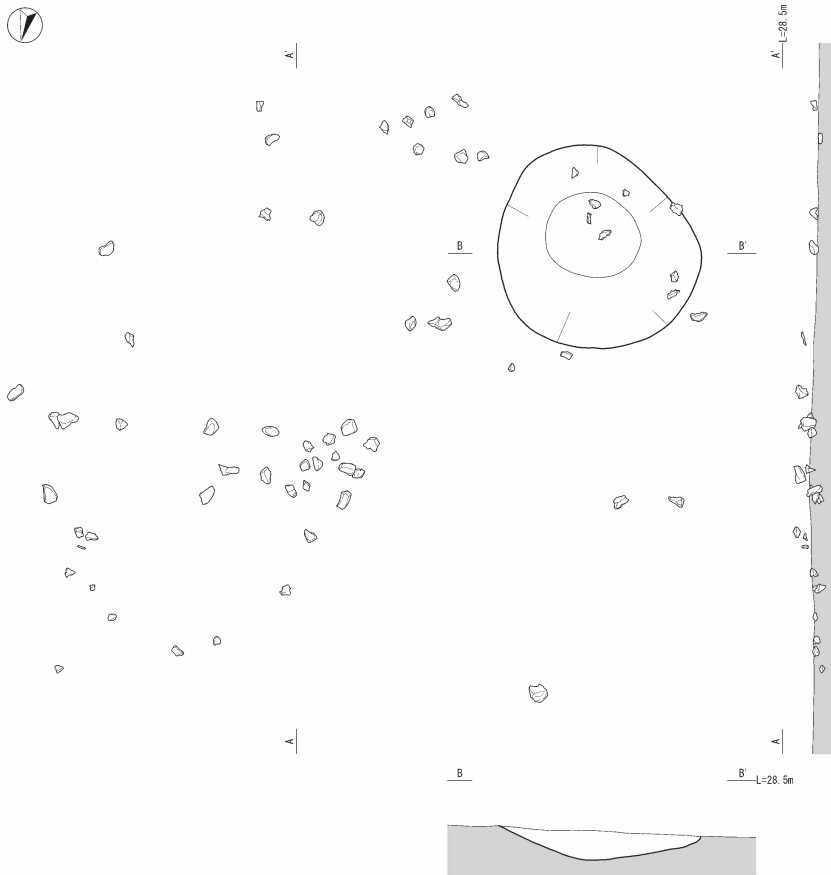
- ①黒褐色土
- ②やや暗い黒褐色土

219号集石

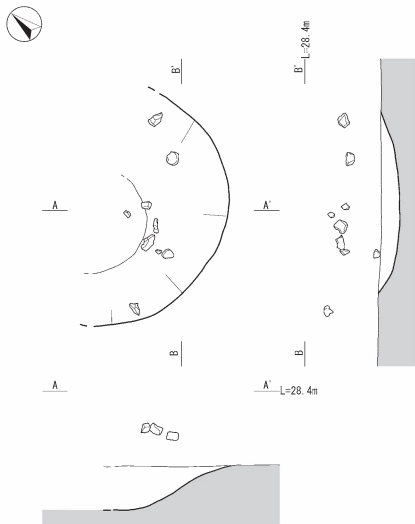


第99図 217, 219号集石

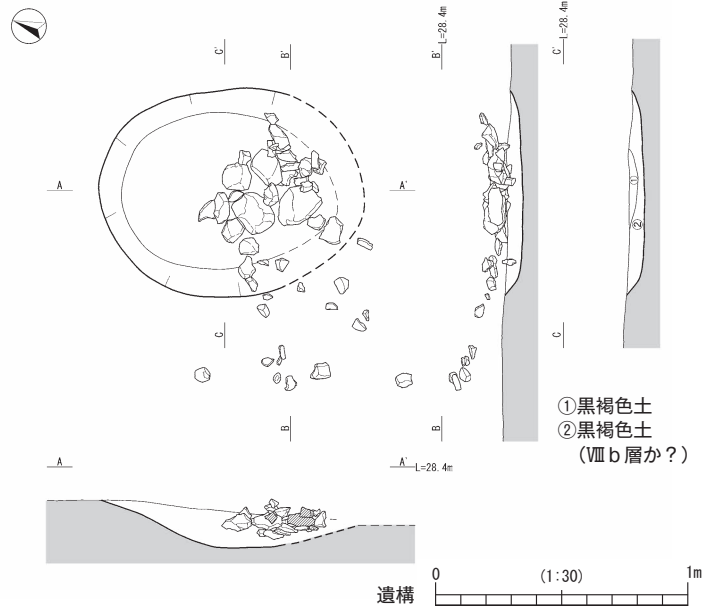
220号集石



222号集石



225号集石

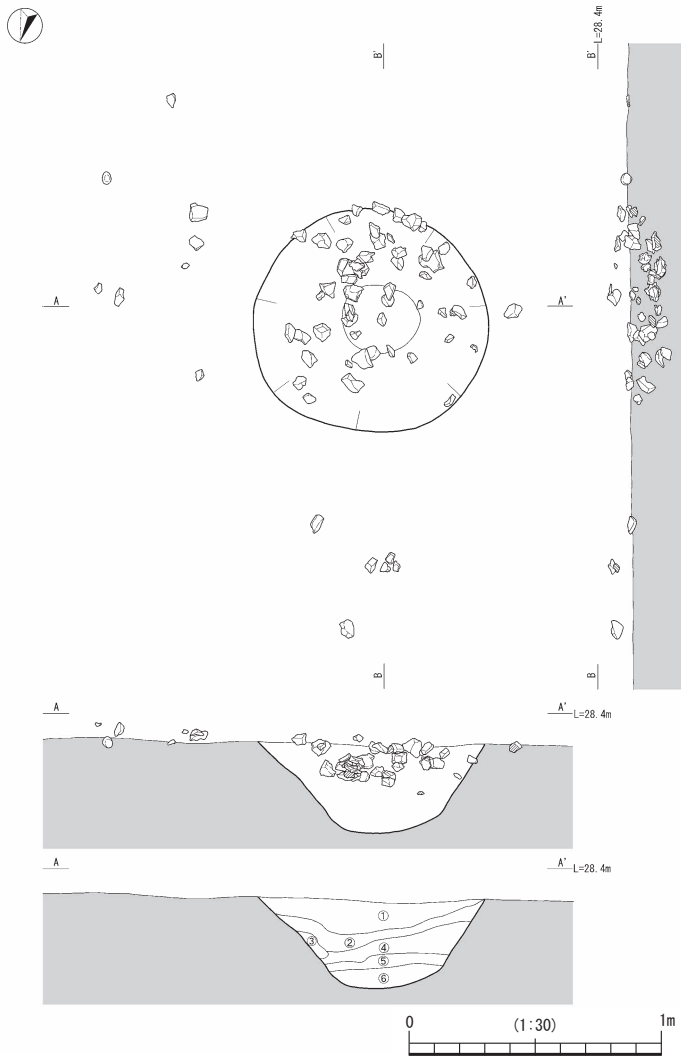


第100図 220, 222, 225号集石

土坑も確認され、一連の集石として調査した。土坑は、60cm×45cmの略円形プランで、検出面から底面までは浅い。礫は、土坑付近約50cm程度の距離に、総数3点確認

された。石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

223号集石



- ① 黒色土
- ② 黒色土 ①よりバミス少ない
- ③ 暗褐色土
- ④ 黒褐色土
- ⑤ 暗褐色土
- ⑥ 暗褐色土 ⑤より粘質

第101図 223号集石

202号集石 (第93図)

E・F-36・37区IX層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、50cm×45cmの円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数32点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

200号集石 (第93図)

E・F-36区VIII a層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×70cmの略円形プランで、礫は、3m四方に広がる。構成礫は、総数109点で、石

材は砂岩が優位であり、わずかに花崗岩を含む。集石内遺物と判断したものは土器11点で、このうち土器4点を図化した。103と104は10類土器の特徴を有する。105は貝殻刺突文が羽状を呈していることから11類土器と思われる、106は、横位の貝殻条痕文の下位が無文であることから、14類土器の特徴を有する。

206号集石 (第94図)

F-36区VIII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×85cmの略円形プランで、礫は、3m×2.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数101点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは土器1点で、これを図化した。215号集石と接合関係にある。

208号集石 (第95図)

F-36区VIII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×70cmの楕円形プランで、礫は、土坑内にはあまり見られず、土坑上面から周囲3m×3mの範囲に広がる。構成礫は、総数57点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器1点を図化した。

209号集石 (第95図)

F-36区VIII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、65cm×65cmの円形プランで、礫は、総数3点と少ない。石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

210号集石 (第95図)

F-36区VIII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×75cmの略円形プランで、礫は、1.8m×1.3mの範囲に広がる。構成礫は、総数45点で、石材はわずかに凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを図化した。

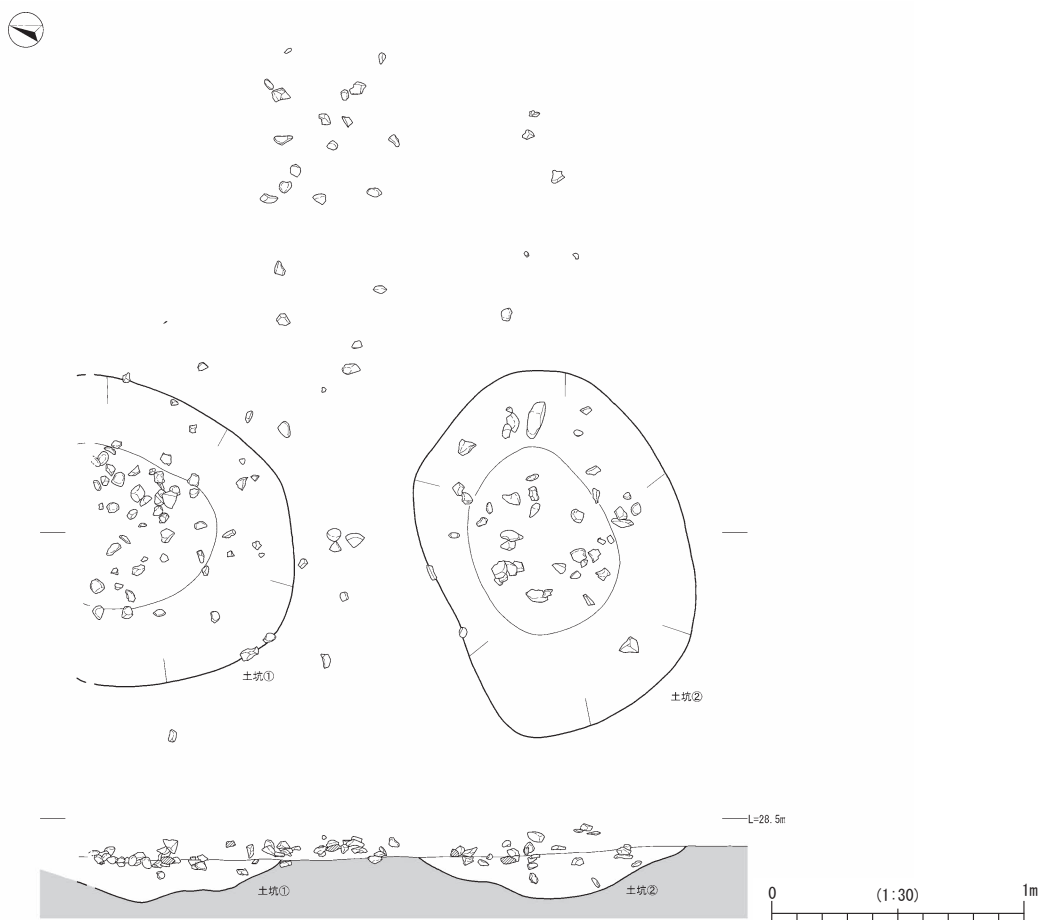
211号集石 (第96図)

F-36区IX層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、58cm×55cmの略円形プランで、検出面から底面までが浅い。礫は、土坑周辺1mの範囲に広がる。構成礫は、総数21点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点と石器1点で石器は石皿片である。いずれも小破片のため図化は困難であった。

212号集石 (第96図)

F-36区VIII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、2基が切り合って検出され、この

224号集石



第102図 224号集石

上面に礫が多く出土した。先行トレンチにより全体を検出できなかったが、130cm×120cmの楕円形プランの土坑が、120cm程度の円形土坑を切っていると思われる。礫は、2.5m×1.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数67点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点で、このうち土器2点を図化した。

213号集石 (第96図)

F-36区Ⅷ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×95cmの略円形プランで、検出面から底面までが25cmある。礫の多くは、この土坑検出面に集中し、構成礫は、総数22点確認された。石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

214号集石 (第97図)

F-36区Ⅷ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、120cm×75cmの楕円形プランで、検出面から底面までが浅い。礫は、この土坑検出面で総数10点を確認した。石材は凝灰岩のみである。集石内遺物は確認できなかった。

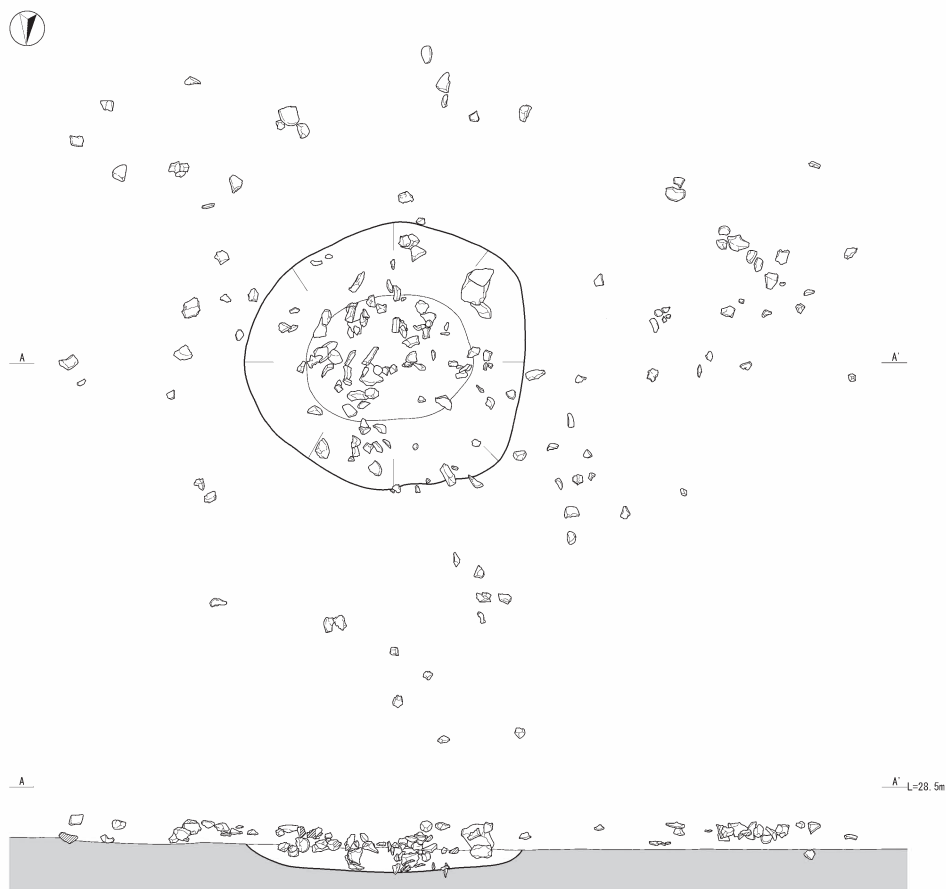
216号集石 (第98図)

F・G-36・37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、2基が接して検出され、現場で一連のものとして調査し図化していった。土坑①は140cm×130cmの円形プランで、土坑②は100cmの円形プランである。礫は、3m四方の範囲に広がる。構成礫は、総数69点で、石材はわずかに凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点、石器1点で、このうち土器1点を図化した。いずれも小破片である。石器は石皿片である。

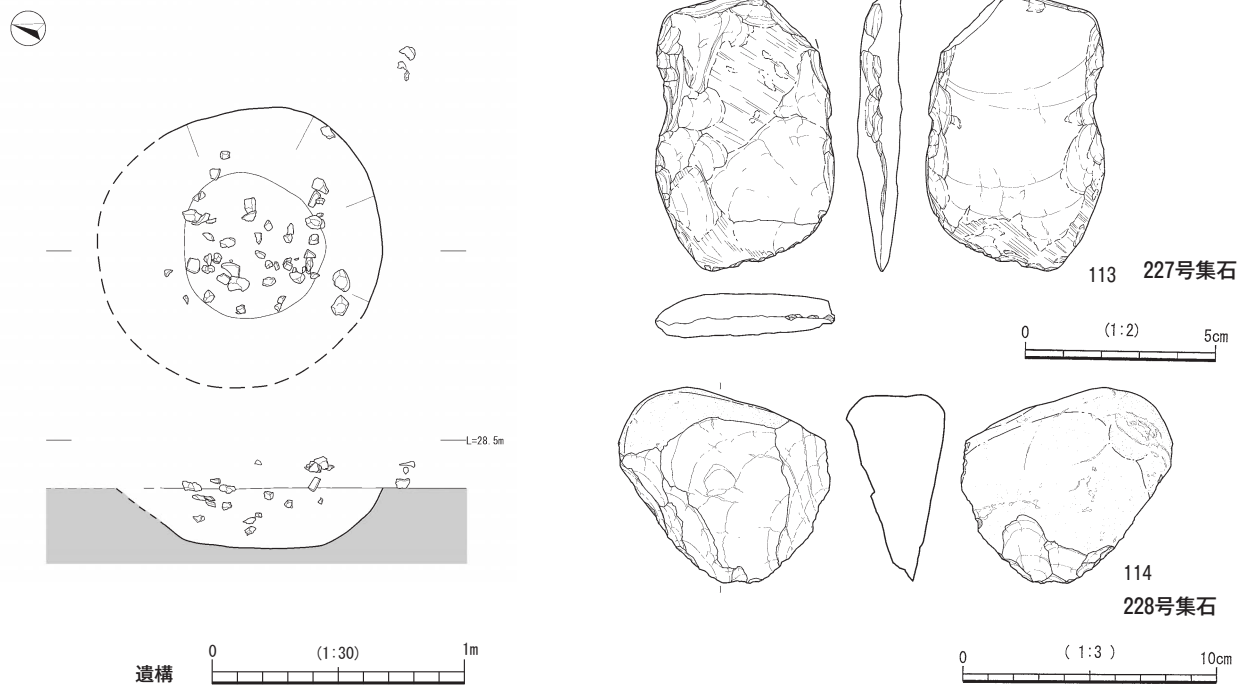
217号集石 (第99図)

G-35・36区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、130cm×120cmの略円形プランで、断面は浅いすり鉢状を呈する。礫は、3m×3mの範囲に広がる。構成礫は、総数82点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点、石器2点で、石器は2点とも石皿片であるが、小破片のため図化は困難であった。

227号集石

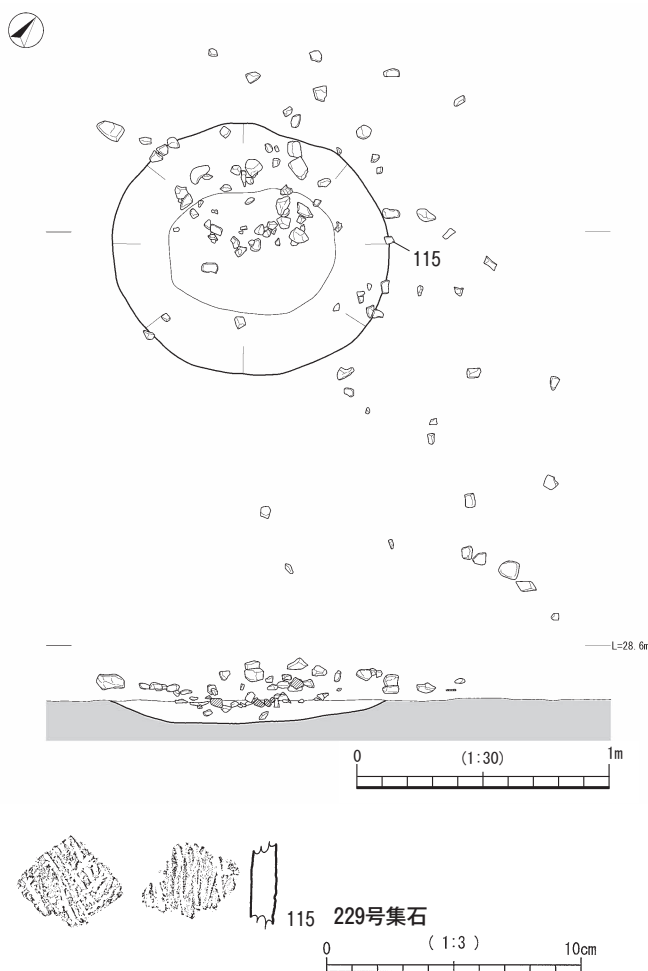


228号集石



第103図 227, 228号集石・出土遺物

229号集石



第104図 229号集石・出土遺物

219号集石 (第99図)

G-36・37区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、65cm×60cmの略円形プランである。礫は、2.5m×2.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数35点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

220号集石 (第100図)

G-36区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。北東側と南西側との2カ所のまとまりがあるが、1つの集石と現場で判断し図化している。土坑は、80cmの円形プランで、断面形状が浅いすり鉢状を呈する。礫は、3m×2.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数55点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが、小破片のため図化は困難であった。

222号集石 (第100図)

G-36・37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑のプランは、調査区外に延びておりはっきりとしないが、概ね円形を呈すると思われる。礫は、この土坑上面に収まる。構成礫は、総数8点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが、小破片のため図化は困難であった。96号土坑に切られている。

225号集石 (第100図)

G-37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、一部確認できなかったが、楕円形プランを呈すると思われる。礫は、比較的大型の礫が土坑内に多く、土坑外0.7m程度の範囲まで広がって出土している。構成礫は、総数49点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

223号集石 (第101図)

G-37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×90cmの円形プランで、検出面から底面までの深さが35cmを測る。礫は、この土坑内を中心に2m×1.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数62点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

224号集石 (第102図)

G-37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、2基が隣接して検出され、このうちの1基は調査区外へと延びるため、プランは不明である。この土坑の約10cm下部からは、97号土坑が検出されている。もう1基は140cm×100cmの楕円形プランである。礫は、2.8m×2.2mの範囲に広がる。構成礫は、総数125点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点であるが、小破片のため図化は困難であった。石器は3点出土し、内訳は剥片2点、磨石片1点である。

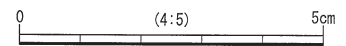
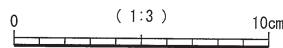
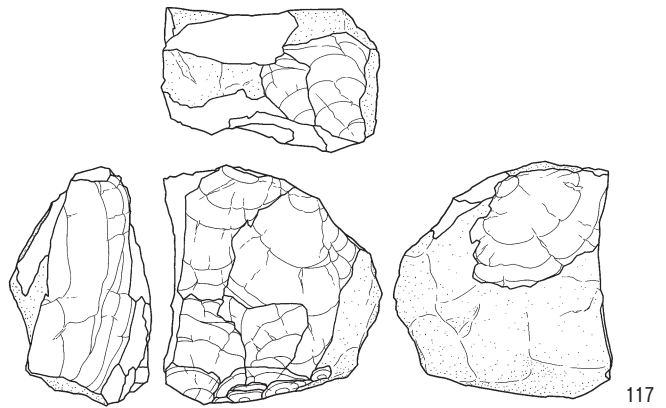
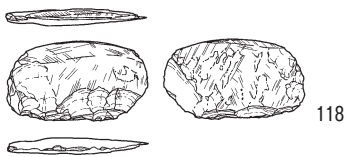
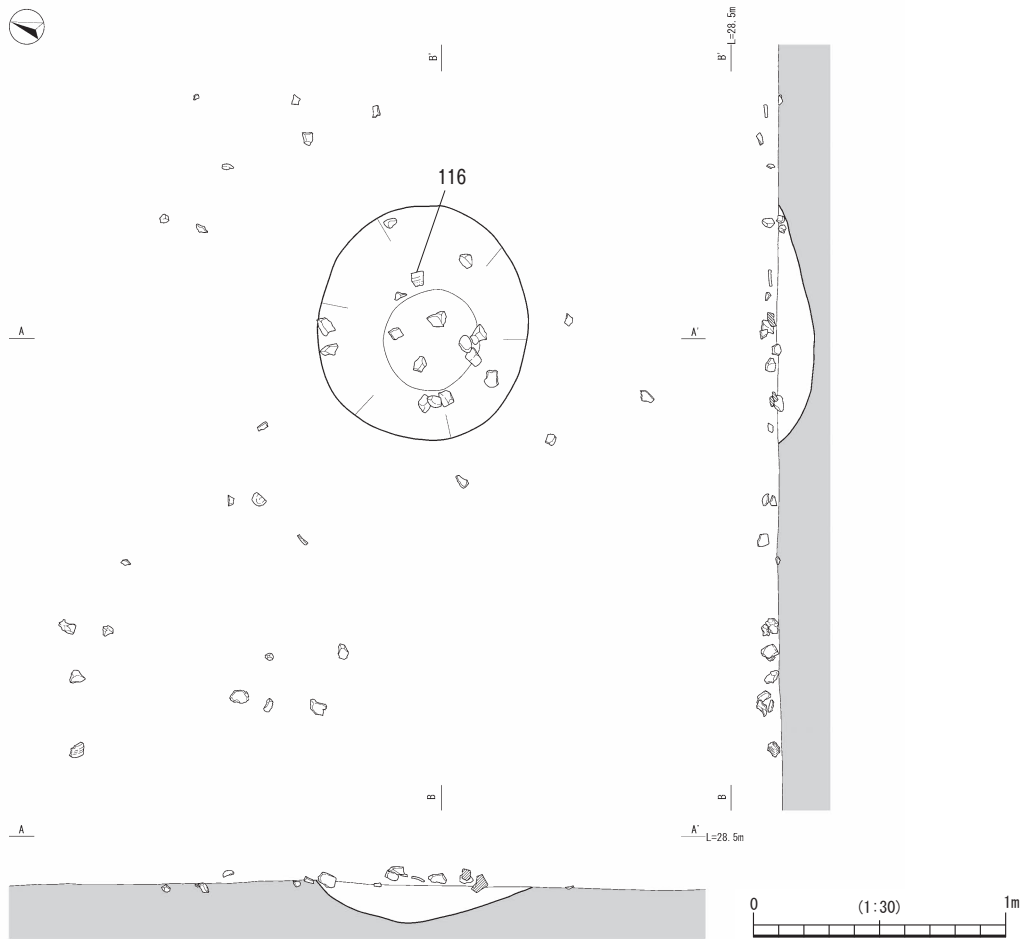
227号集石 (第103図)

G-36・37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×105cmの略円形プランで、礫は、3m×3mの範囲に広がる。構成礫は、総数164点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、石器1点で、これを図化した。113は、剥片礫を素材とする磨製石斧である。裏面に大きく剥離面が残る。

228号集石 (第103図)

F・G-36・37, G-37区Ⅷb層で検出した。礫の検

230号集石



第105図 230号集石・出土遺物

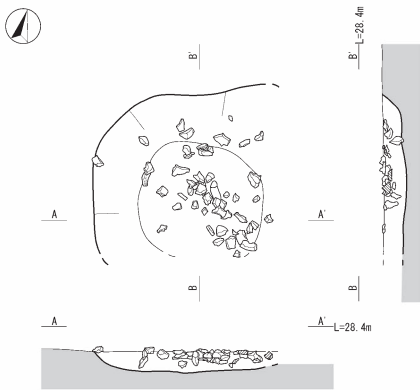
出と同時に土坑も確認された。土坑は、先行トレンチにより全体を把握できなかったが、略円形プランを呈すると思われる。礫は、周辺にわずかながら出土したが、ほぼ土坑内に収まっており、構成礫は、総数51点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、石

器1点で、これを図化した。114は逆三角形の礫器として掲載した。

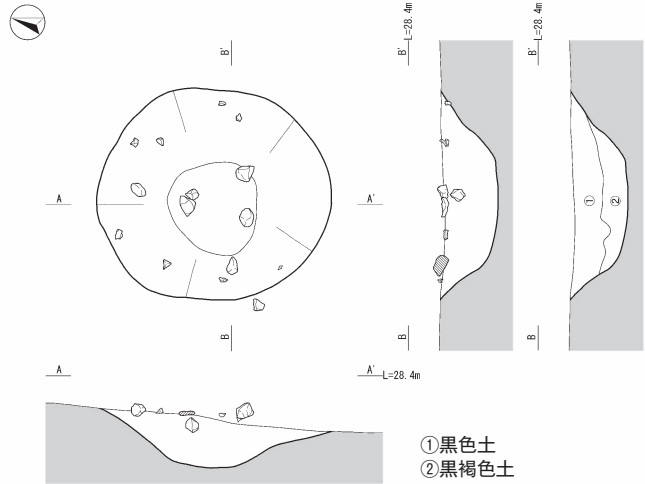
229号集石 (第104図)

F-37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も

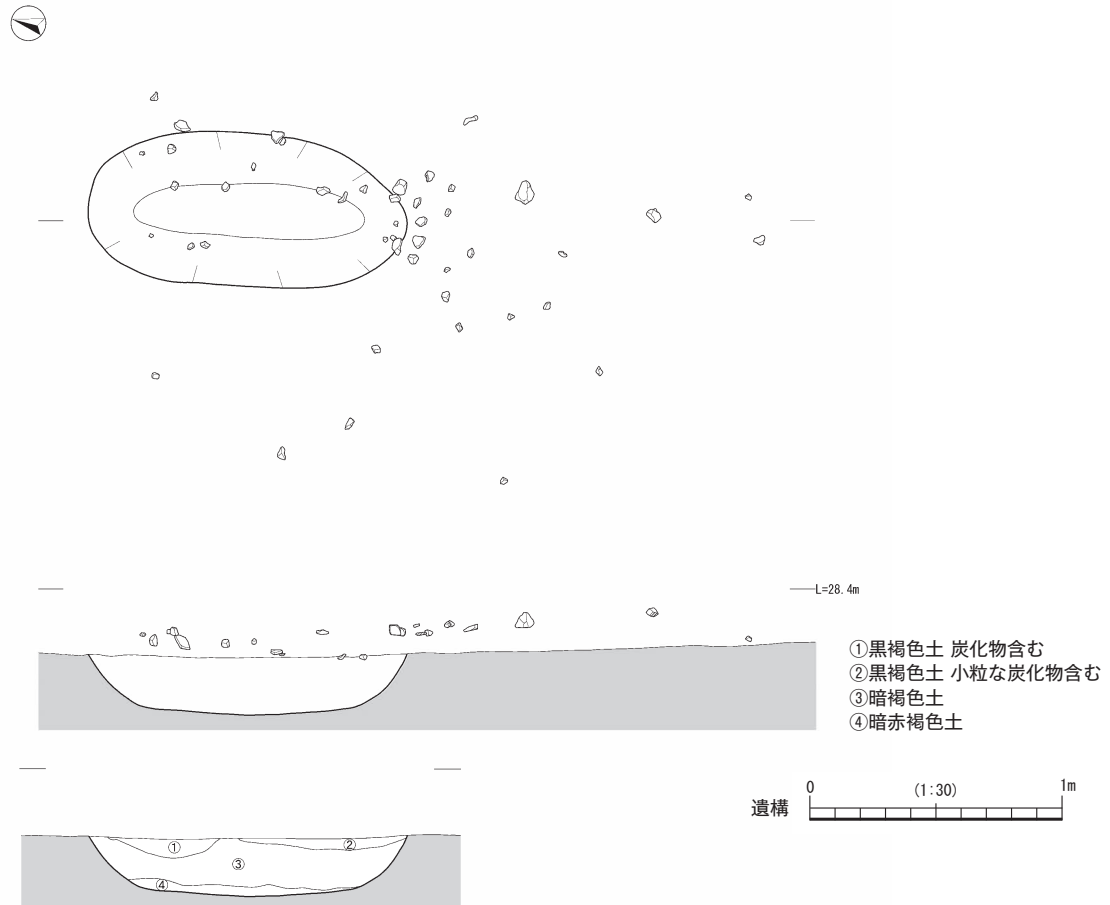
232号集石



233号集石



234号集石



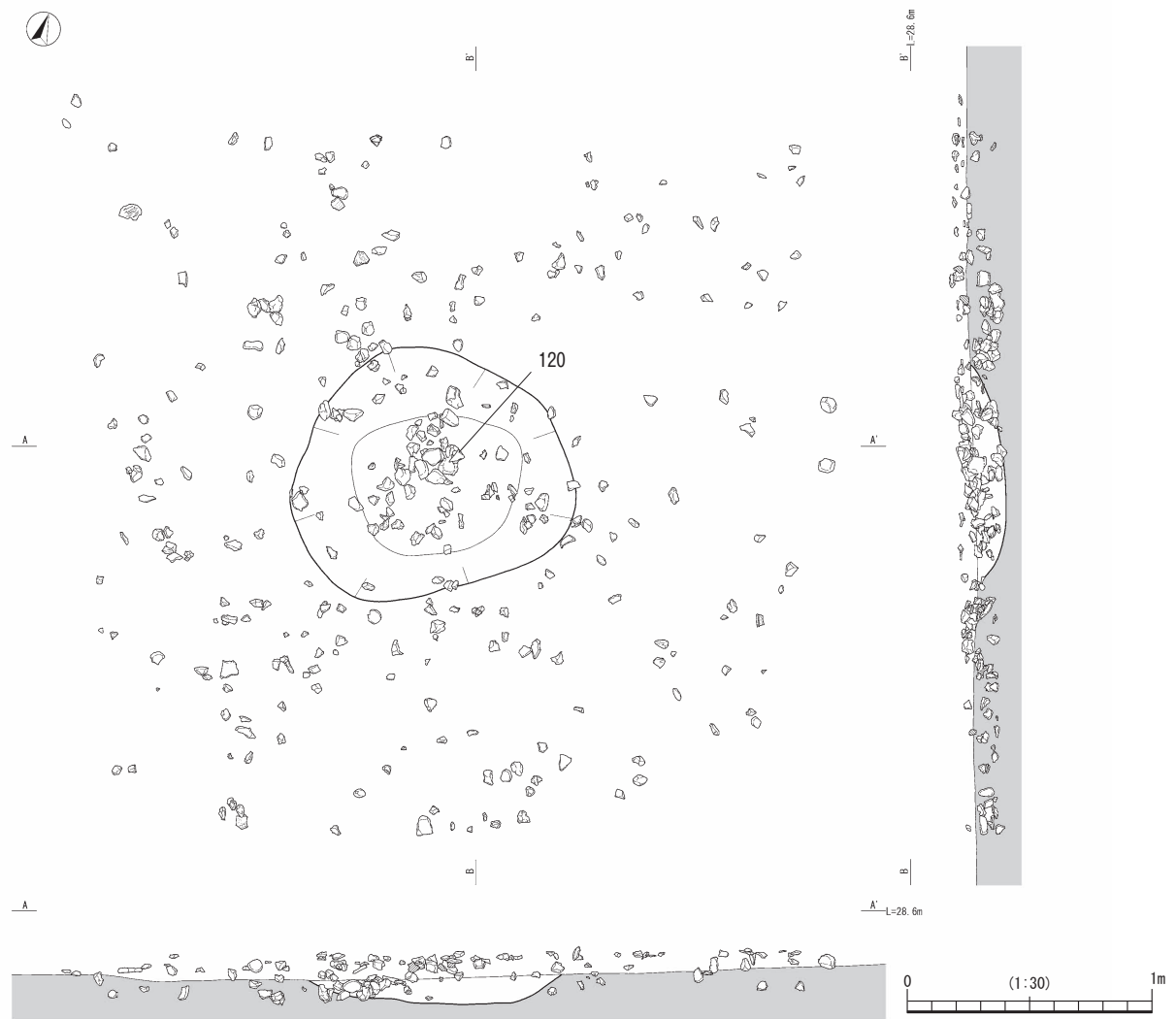
第106図 232, 233, 234号集石

確認された。土坑は、110cm×100cmの略円形プランである。礫は、2.7m×2mの範囲に広がる。構成礫は、総数79点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器1点を図化した。

230号集石 (第105図)

F・G-37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×80cmの略円形プランで、断面は浅いすり鉢状を呈する。礫は、3m×2mの範囲に広がり、土坑内への密集は認められない。構成礫は、総数30点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判

236号集石



第107図 236号集石

断したものは、土器1点、石器2点で、このうち土器1点、石器2点を図化した。内訳は礫器1点と磨製石斧片1点である。116は、口縁部が直行し、口縁部に横位の貝殻条痕文を3条めぐらす。同部は、横位の貝殻条痕文である。117は石核である。118は当初石斧の調整剥片と認識していたが、剥離面等への加工痕などから礫器として掲載した。

232号集石 (第106図)

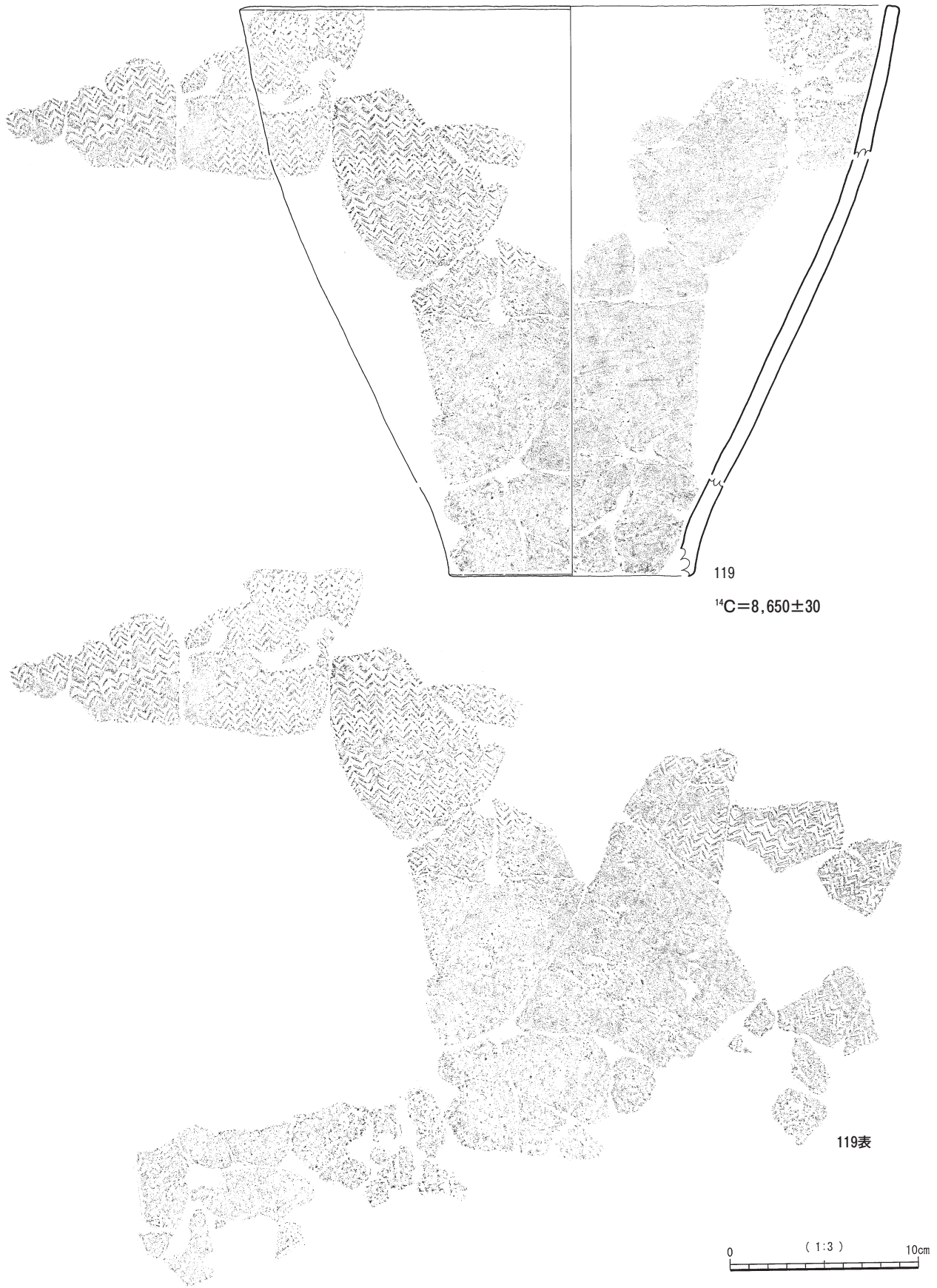
F-37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、先行トレンチにより一部が検出できなかった。礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数47点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

233号集石 (第106図)

F-37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×85cmの略円形プランで、検出面から底面まで20cm程度の深さがある。礫は、この土坑内に収まり、構成礫は総数14点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが、小破片のため図化は困難であった。

234号集石 (第106図)

F-37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、125cm×60cmの楕円形プランで、礫は、この土坑検出面において、2.7m×1.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数30点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。



第108图 236号集石出土遺物①



第109図 236号集石出土遺物②

236号集石 (第107~109図)

F-36・37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×100cmの略円形プランで、礫は、3m×3mの範囲に広がる。構成礫は、総数239点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器6点、石器11点で、このうち土器2点を図化した。119は、口縁部が直行し平坦な口唇部を有する。器形はバケツ形に近く、文様は山形押型文を横位に施文する。この押型文は部分的にナデにより消失しており一部が帯状を呈する。石器の内訳は、剥片6点、磨製石斧片4点、磨石片1点である。磨製石斧片はいずれも小片で、石斧再加工の際に生じたものが集石内から出土したものと考えられる。

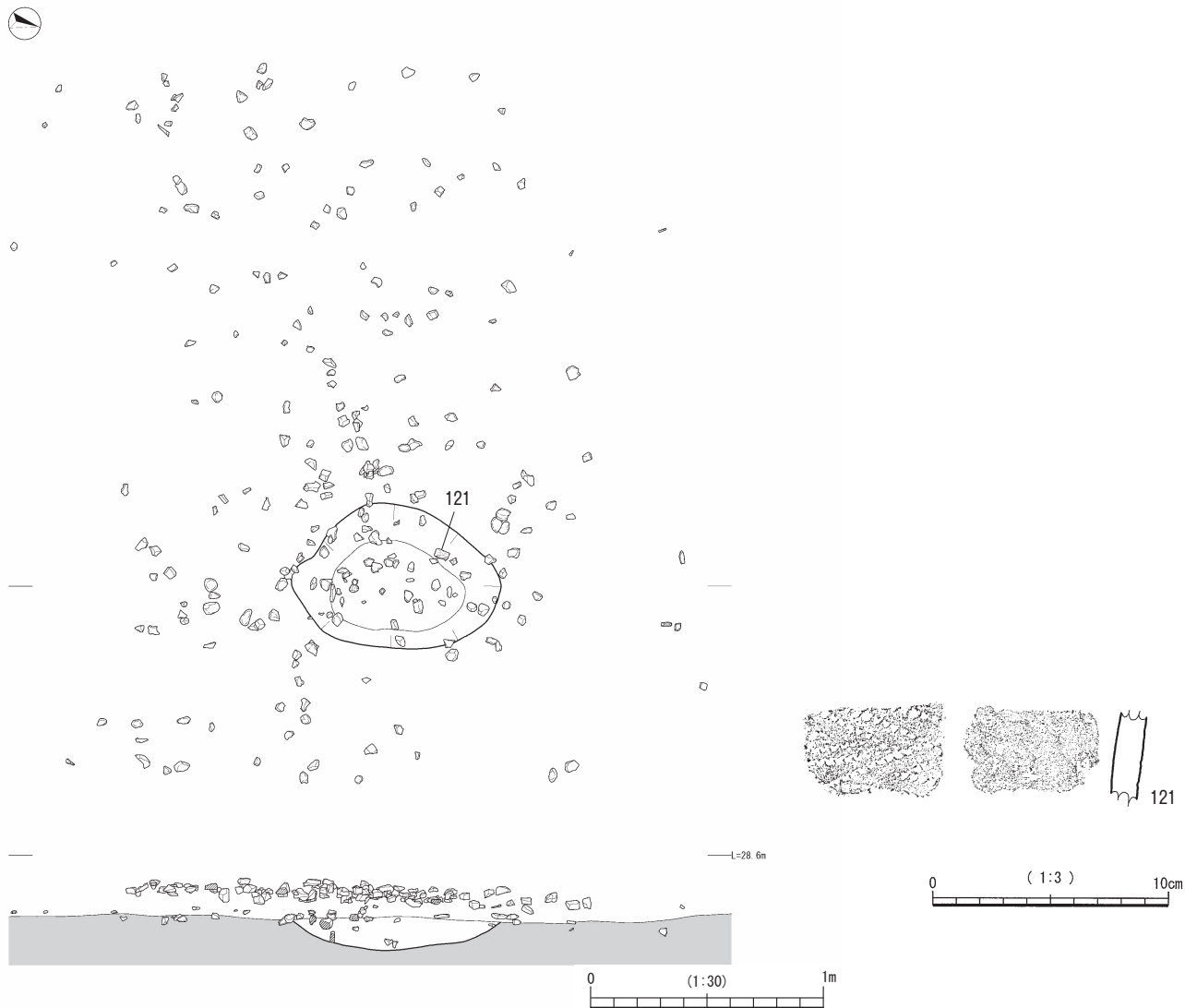
237号集石 (第110図)

F-37区Ⅷb層で検出した。礫の検出よりやや遅れて土坑も確認された。土坑は、90cm×60cmの楕円形プランで、礫は、3.5m×3.0mの範囲に広がり、礫の広がり土坑とに10cm程度のレベル差がある。構成礫は、総数215点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器1点を図化した。

239号集石 (第111図)

E-37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、70cm×50cmの楕円形プランで、礫は、この土坑外2.5m四方に広がる。構成礫は、総数36点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが、小破片のため図化は困難であった。

237号集石



第110図 237号集石・出土遺物

240号集石 (第111図)

E-36・37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、65cm×60cmの略円形プランで、礫は、1.4m×1.2mの範囲に広がる。構成礫は、総数45点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが、小破片のため図化は困難であった。

242号集石 (第112図)

E-37区Ⅷb層で検出した。当初は2基の集石を想定して調査を進めたが、検討の結果1基とした。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、不定型なプランで、長軸150cm、短軸90cmを測る。礫は、4mの範囲に広がる。構成礫は、総数227点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点、石器1点で、石

器はフレイクである。

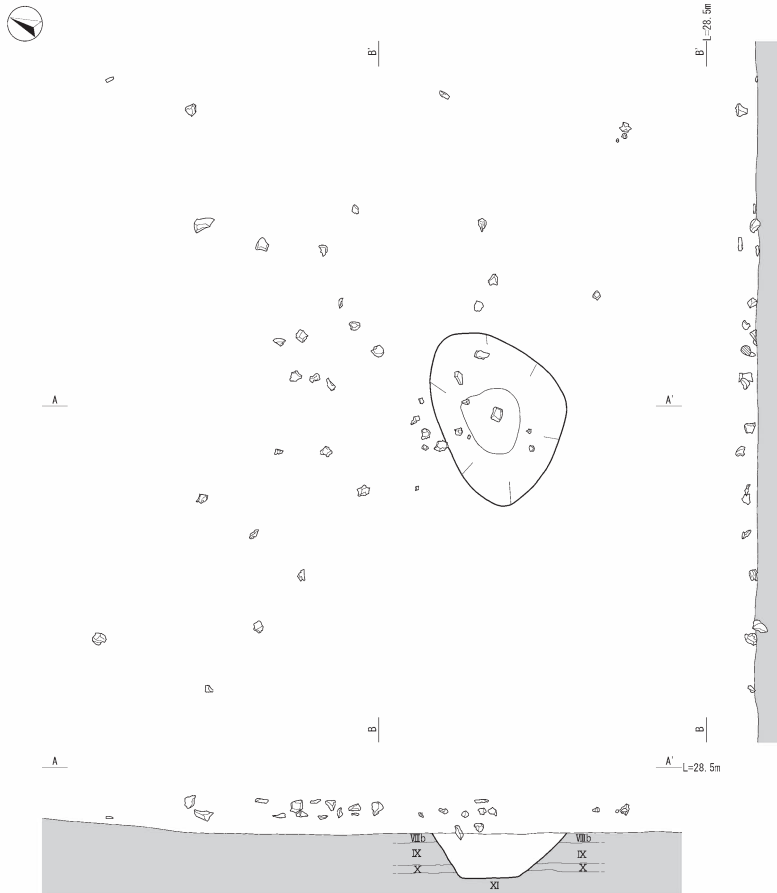
244号集石 (第112図)

E-37区Ⅸ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、55cm×25cmの楕円形プランで、やや小型である。礫は、この土坑周辺と西側に集中し、これらは当初別の遺構として認識していたが、礫のまとまりなどから同一遺構として掲載した。構成礫は、総数87点で、石材はわずかに凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器5点で、このうち土器1点を図化した。

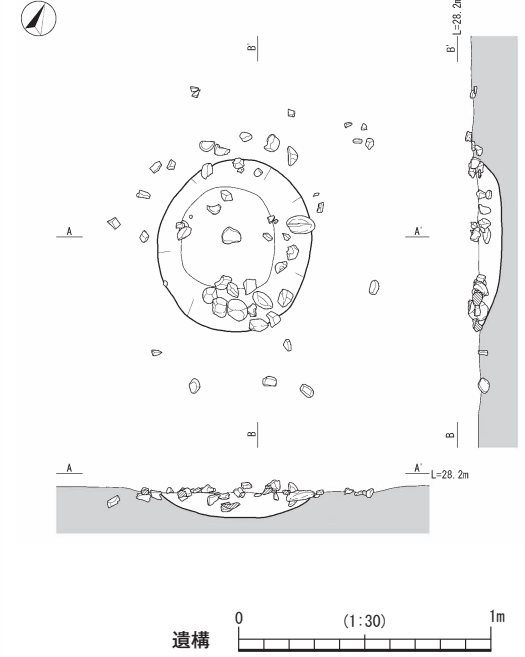
246号集石 (第113～116図)

E-37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×70cmの隅丸長方形プランで、

239号集石



240号集石



第111図 239, 240号集石

西側で底面からの立ち上がりが急激になる。礫は、ほぼ土坑内に収まり、総数19点確認した。比較的大型の礫と土器片を含む。土器は、11類の大型片が分割されたように出土している。これが意図的なものなのか、使用によるものなのかははっきりとしない。集石を構成する石材は、凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器19点で、このうち5点を図化した。123は、口縁部が内弯して口唇部は平坦で肥厚する。文様は外面の全面に貝殻刺突文を羽状に施文する。123と同一個体と思われるが、接合できなかった資料については、拓本のみを掲載している。124は、口縁部から底部までが接合した。口縁部が内弯し、口唇部がわずかに肥厚する。胴部はやや膨らみ平底の底部へと至る。文様は、外面に横位の貝殻刺突文を施し、内面はていねいなナデが施される。石器は見られなかった。下部から109号土坑が検出されている。

247号集石 (第117図)

E-37区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×85cmの楕円形プランで、

礫は、3.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数72点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが、小破片のため図化は困難であった。石器は2点が出土し、このうち1点を図化した。磨・敲石類C2類に分類できる。石皿片は小片のため図化していない。

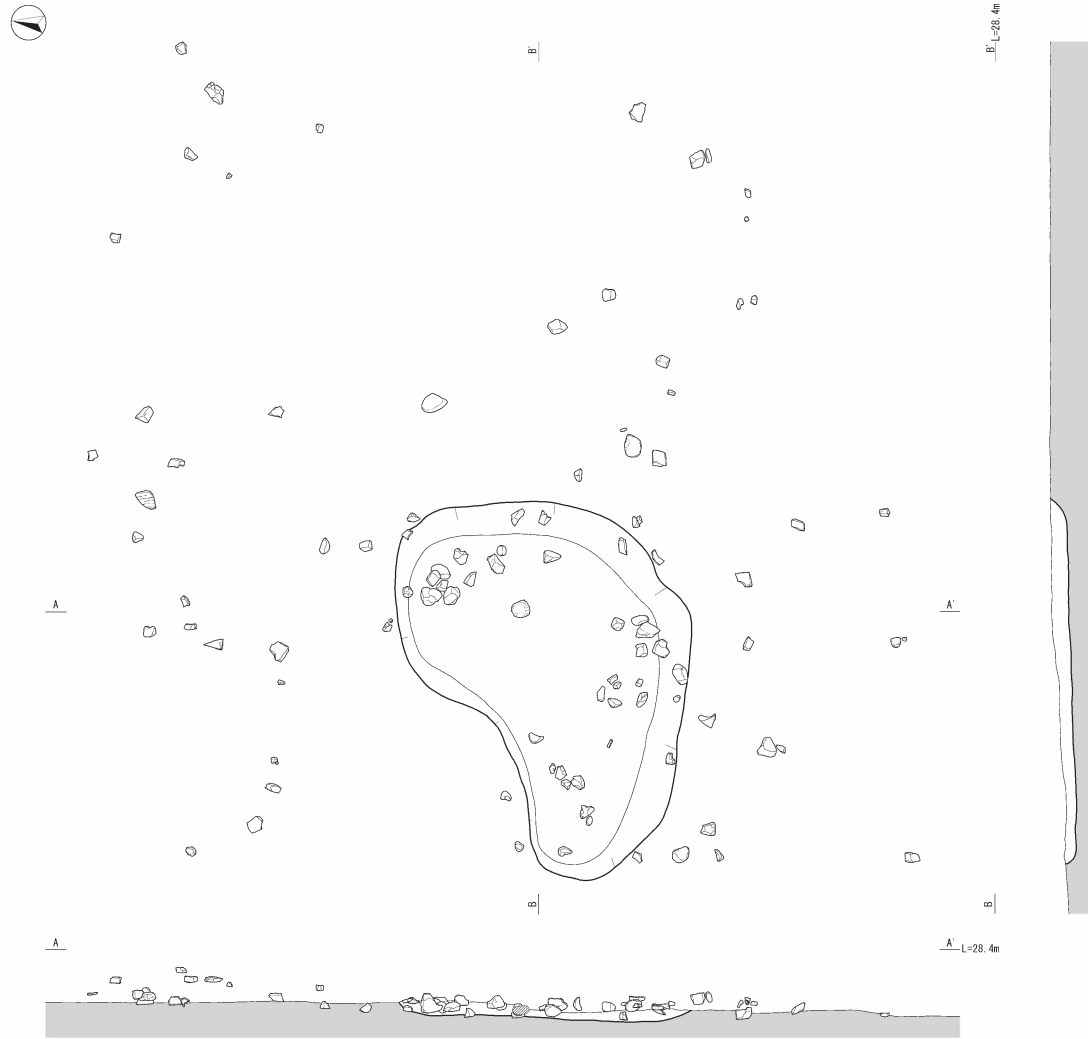
249号集石 (第117図)

D-37区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、140cm×120cmの楕円形プランで、断面形状が浅いすり鉢状を呈する。礫は、2m×1.7mの範囲に広がる。構成礫は、総数89点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

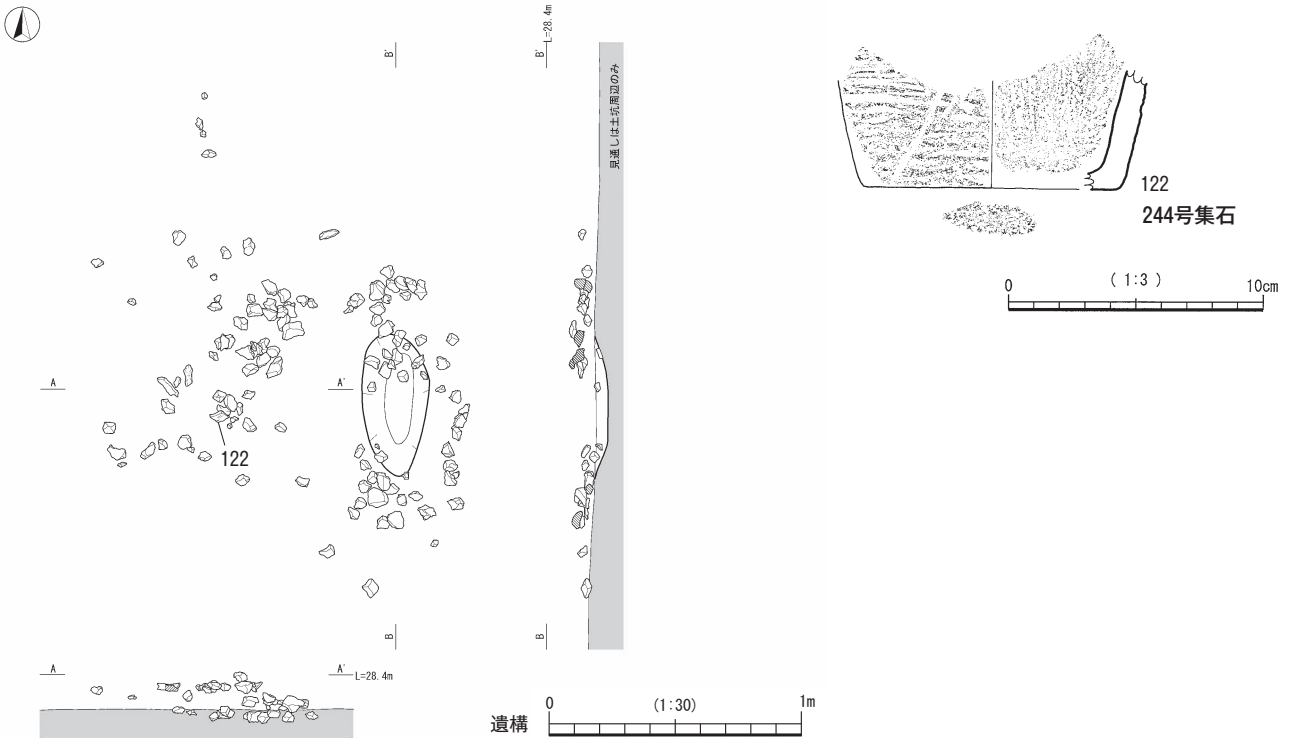
250号集石 (第118図)

D-37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、185cm×120cmの楕円形プランで検出されたが、土坑西側で円形に深くなる。2基の切り合いの可能性もあるが、はっきりとしない。礫は、円形部

242号集石

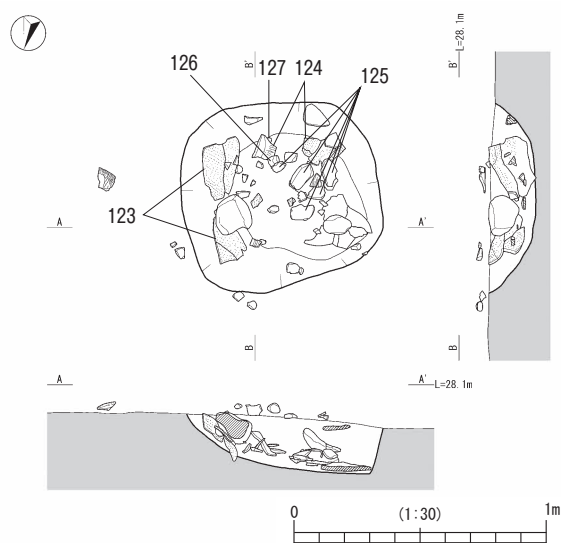


244号集石



第112図 242, 244号集石・244号集石出土遺物

246号集石



第113図 246号集石

分に比較的集中し、総数104点確認できた。石材はわずかに砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

251号集石 (第118図)

C-37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、65cm×55cmの略円形プランで、礫は、土坑内を中心に1.4m×0.7mの範囲に広がる。構成礫は、総数45点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

252号集石 (第118図)

B・C-37区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、125cm×80cmの楕円形プランで、上層に1cm以下の礫碎片を多く含み、底面付近では炭化物が多数混入していた。底面に近づくにつれ、色調は黒色に近くなる。木材と礫を燃焼した後、自然埋没した印象を受ける。礫は、この土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数63点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

253号集石 (第118図)

B・C-37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、円形プランで、断面形状が浅いすり鉢状を呈する。礫は、土坑内にほぼ収まり土坑検出面に集中する傾向が見られた。構成礫は、総数67点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを図化した。

254号集石 (第118図)

B-37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×105cmの円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数26点で、石材は凝灰岩と砂岩とが同量である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

255号集石 (第119図)

B-37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、円形プランで、礫は、土坑とその周辺に範囲に広がる。土坑の断面形状は浅いすり鉢状を呈し、構成礫は総数39点で、土坑検出面よりやや上位に集中する傾向が見られた。石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。255号集石の床面より5cm下から88号連穴土坑が検出されている。

256号集石 (第119図)

B-37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、60cm×55cmの円形プランで、礫は、土坑上面からレベル差なく2.5m×1.5mの範囲に広がり、土坑の中心は礫の空白部となる。構成礫は、総数98点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

258号集石 (第119図)

A-37区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×65cmの楕円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数16点で、砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

260号集石 (第119図)

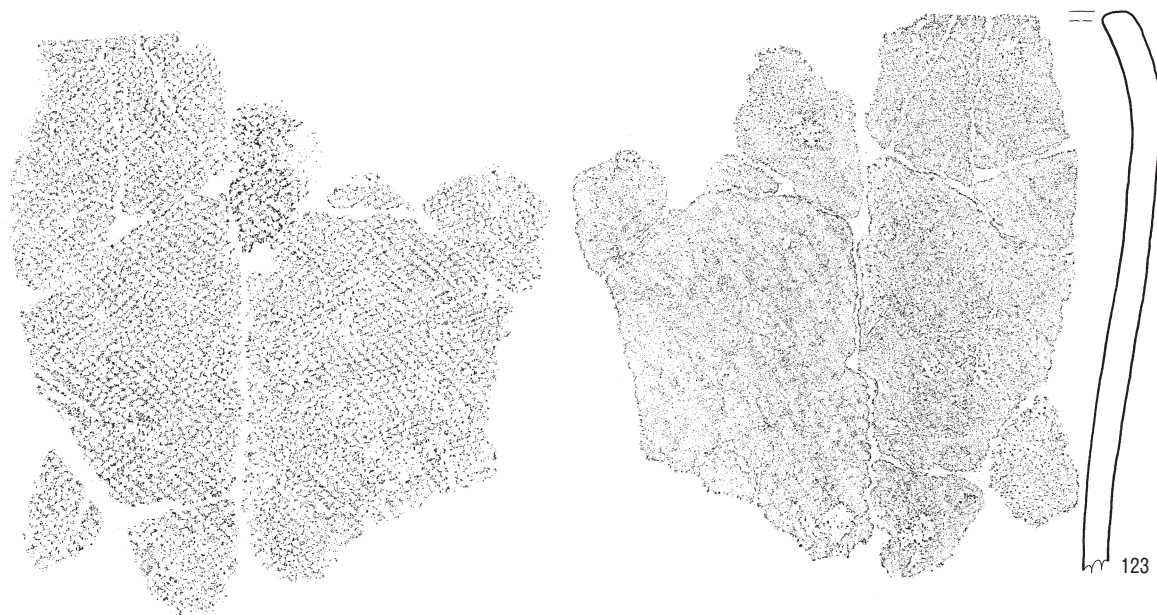
A-38区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×65cmの楕円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数33点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

261号集石 (第119図)

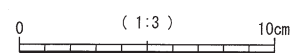
B-38区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、145cm×105cmの楕円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数172点で、石材は砂岩が優位である。土坑内の西側に集中する印象を受ける。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを図化した。

265号集石 (第120図)

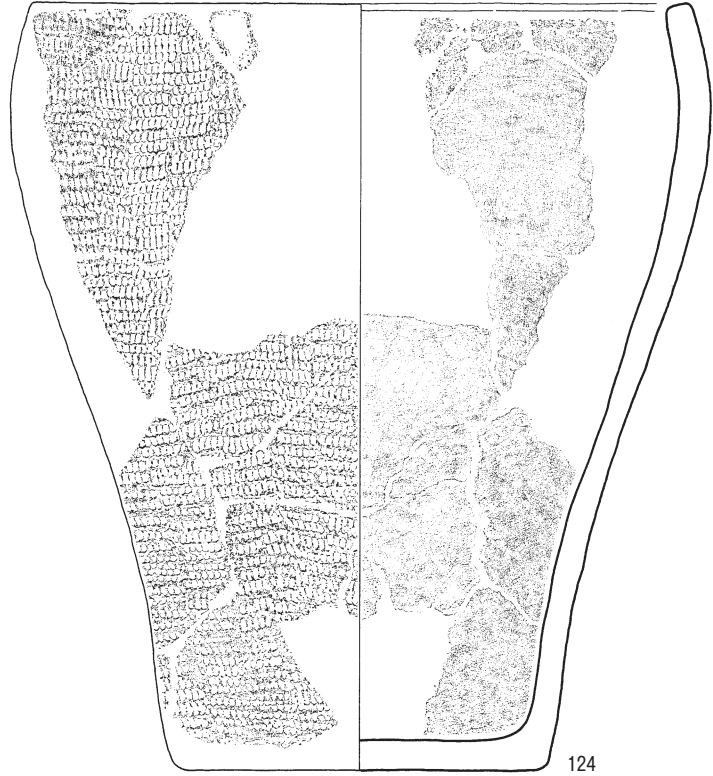
B-38区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×100cmの略円形プランで、



123の同一個体 裏

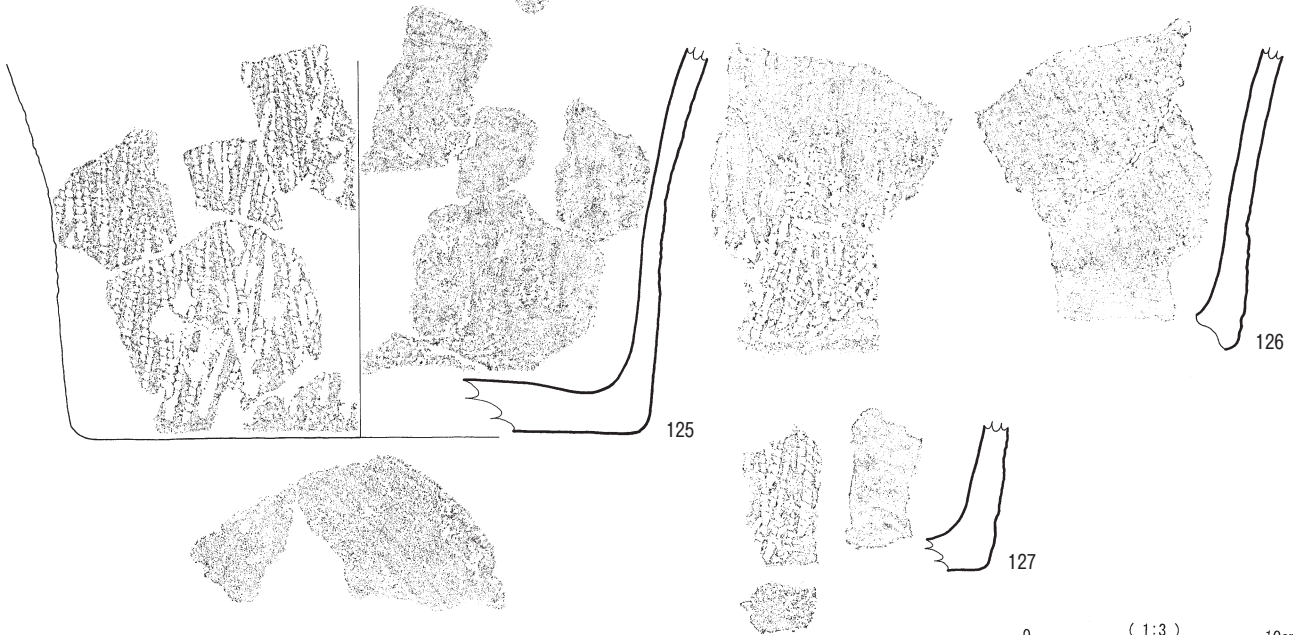


第114図 246号集石出土遺物①



124

$^{14}\text{C}=8,605\pm 30$



125

126

127

遺物 0 (1:3) 10cm

第115図 246号集石出土遺物②



第116図 246号集石出土遺物③

礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数27点で、底面に15~20cmの扁平な砂岩礫を4枚を敷き詰めている。石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

266号集石 (第120図)

C-38区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、115cm×95cmの楕円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数33点で、5cm程度の礫が多く、石材は凝灰岩が多い傾向にある。集石内遺物は確認できなかった。

267号集石 (第120図)

D-38区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×90cmの円形プランで、礫は、1.5m×1.1mの範囲に広がる。構成礫は、総数84点で、石材は凝灰岩と砂岩とが同量である。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを図化した。131は3類に該当する。口唇部は平坦でキザミが施される。口縁部外端にもキザミが施され、胴部は横位のていねいな貝殻条

痕文の上に縦位の短い貝殻条痕を縦位に間隔をあけて連続する。

270号集石 (第120図)

D-38区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、140cm×95cmの楕円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数110点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器5点で、このうち土器1点を図化した。

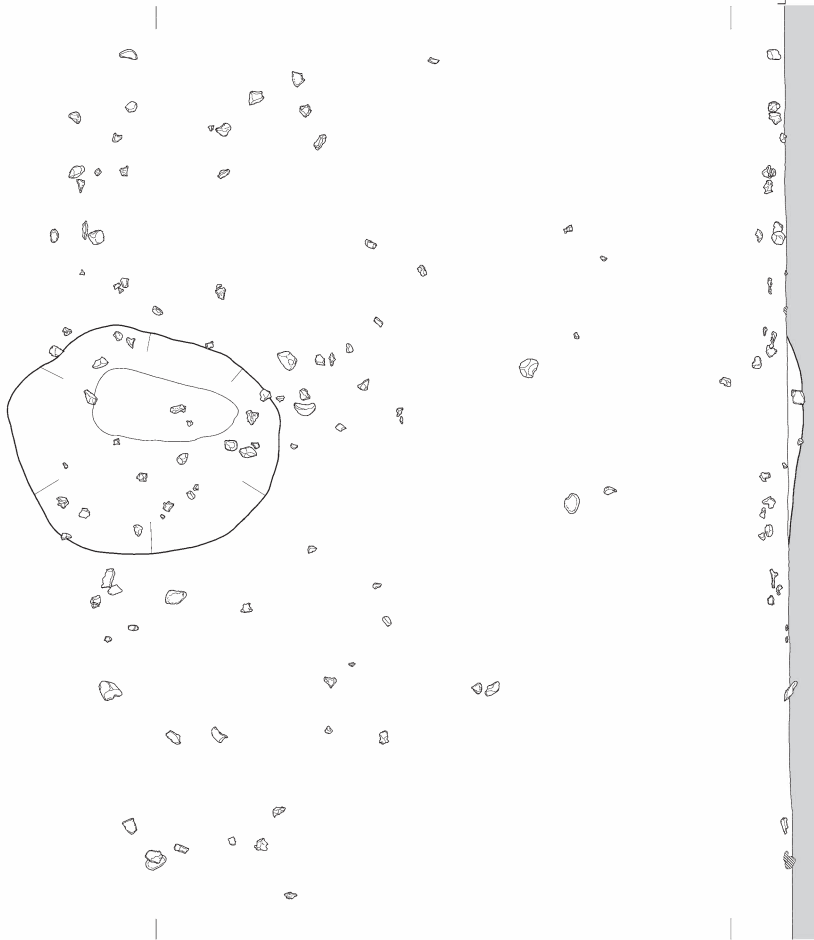
271号集石 (第120図)

D-38区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、115cm×100cmの略円形プランで、礫は、この土坑内の上面にほぼ収まる。構成礫は、総数68点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

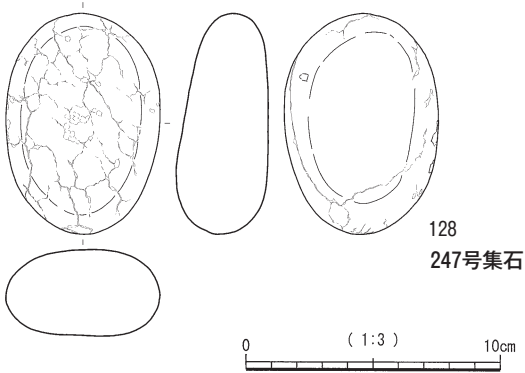
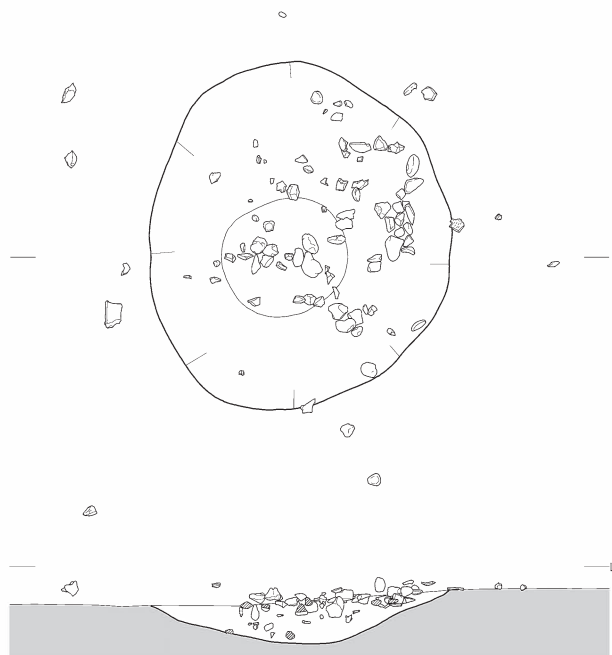
272号集石 (第121図)

E-38区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も

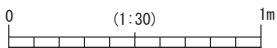
247号集石



249号集石

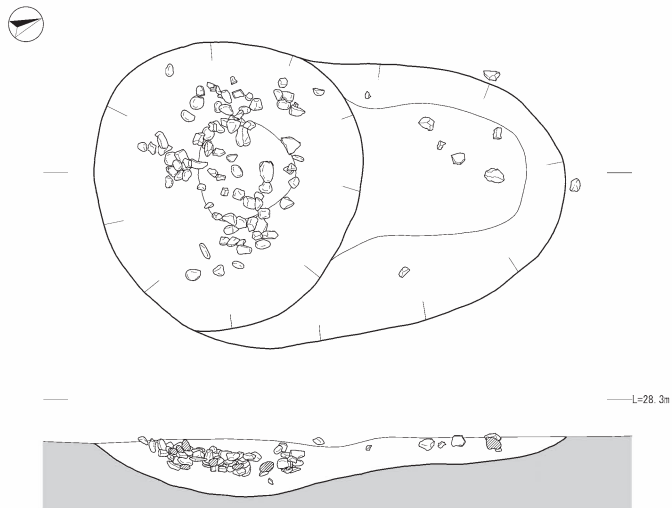


遺構

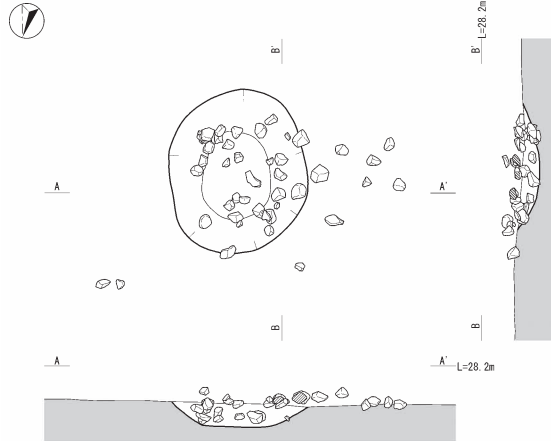


第117図 247, 249号集石・247号集石出土遺物

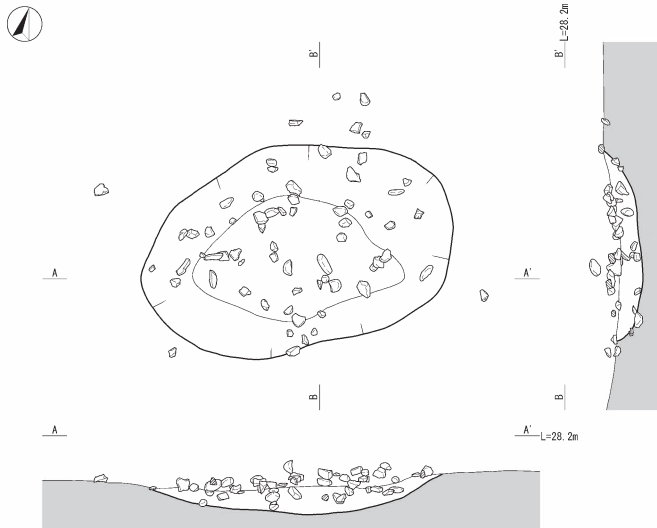
250号集石



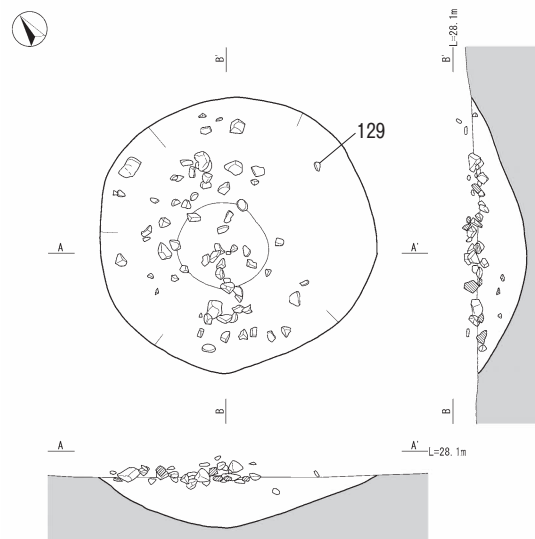
251号集石



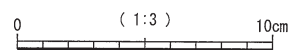
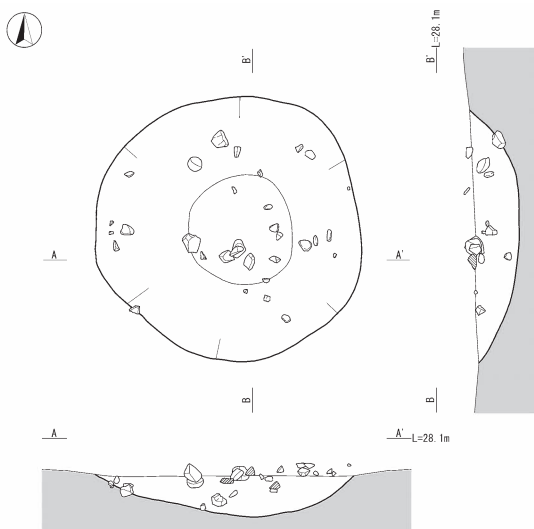
252号集石



253号集石

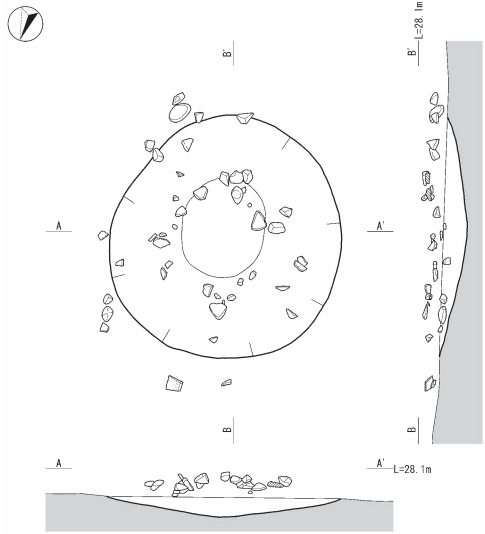


254号集石

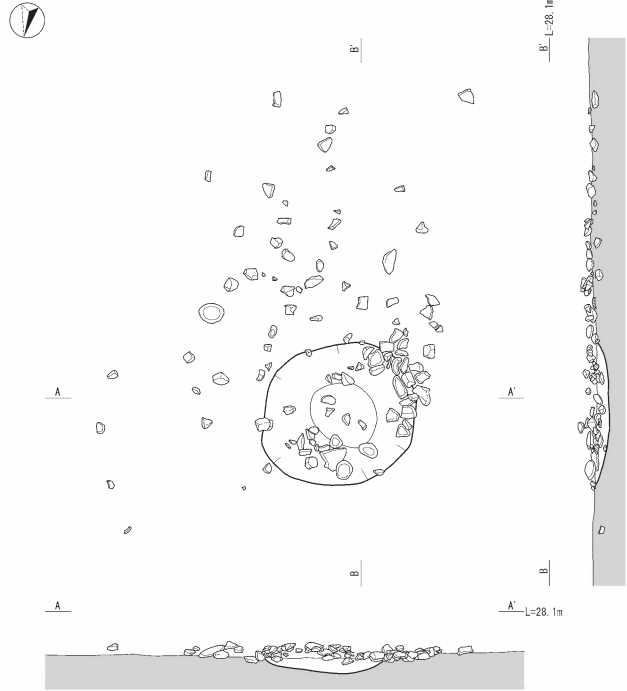


第118図 250, 251, 252, 253, 254号集石・253号集石出土遺物

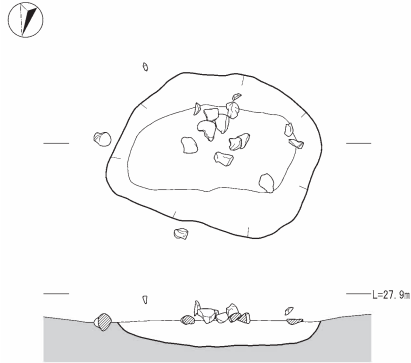
255号集石



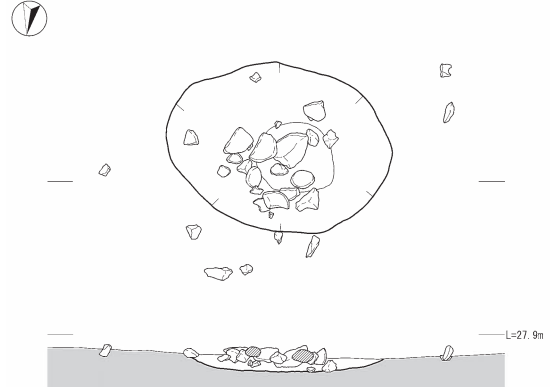
256号集石



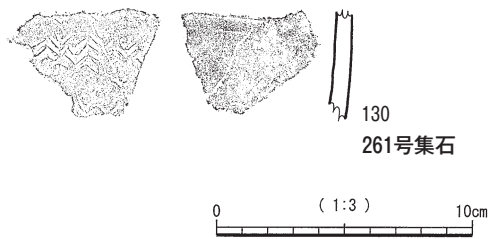
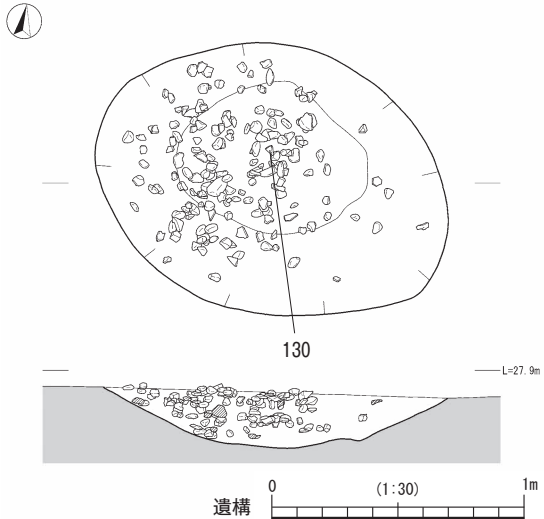
258号集石



260号集石

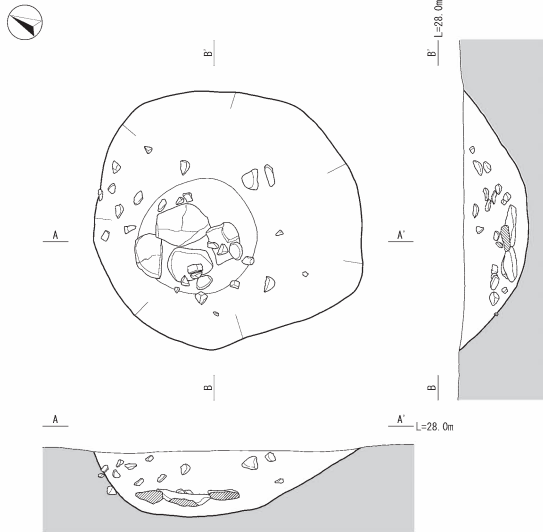


261号集石

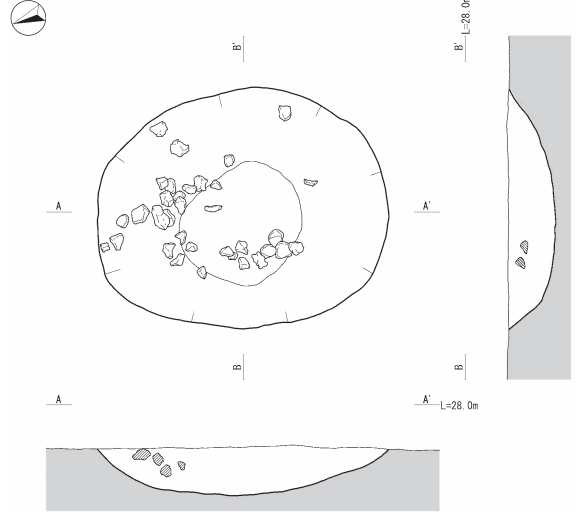


第119図 255, 256, 258, 260, 261号集石・261号集石出土遺物

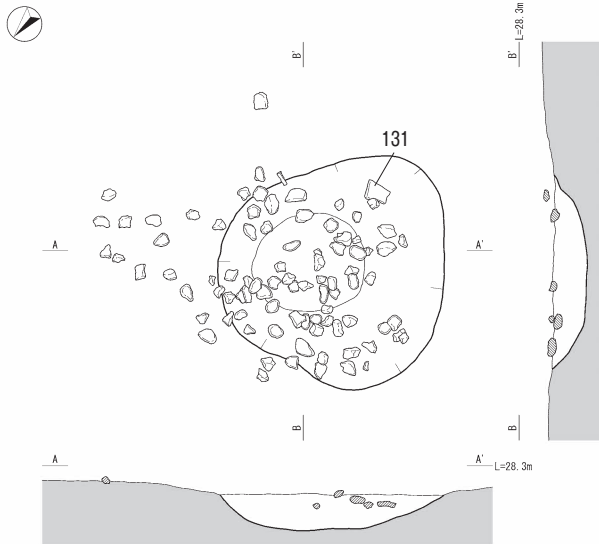
265号集石



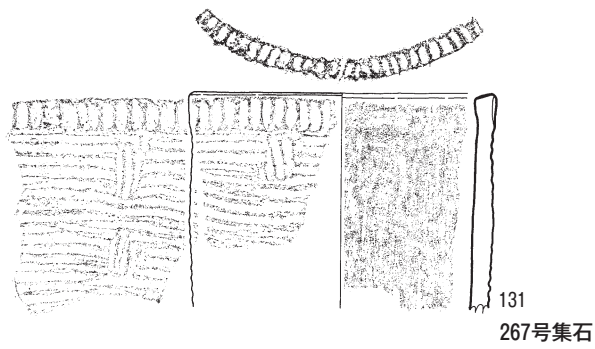
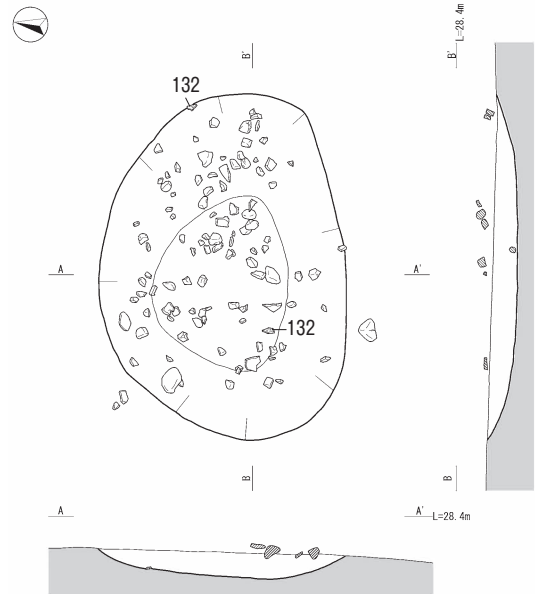
266号集石



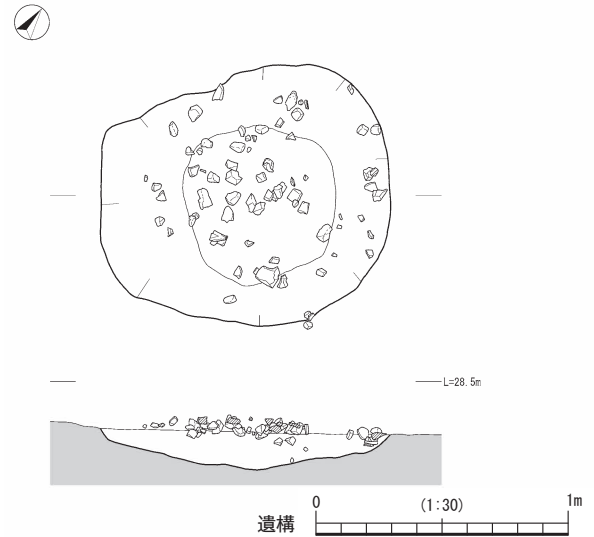
267号集石



270号集石

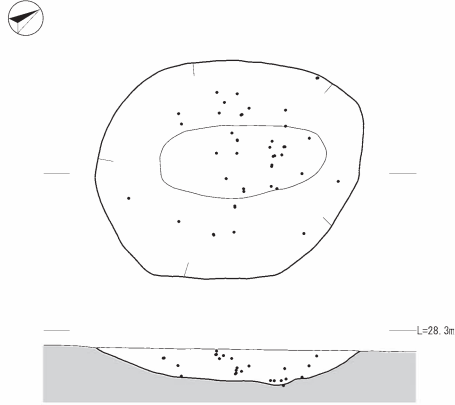


271号集石

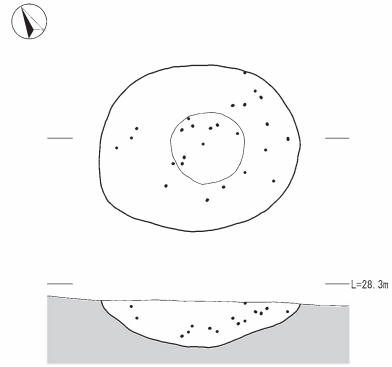


第120图 265, 266, 267, 270, 271号集石・267, 270号集石出土遺物

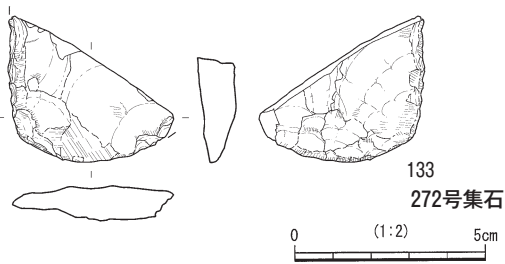
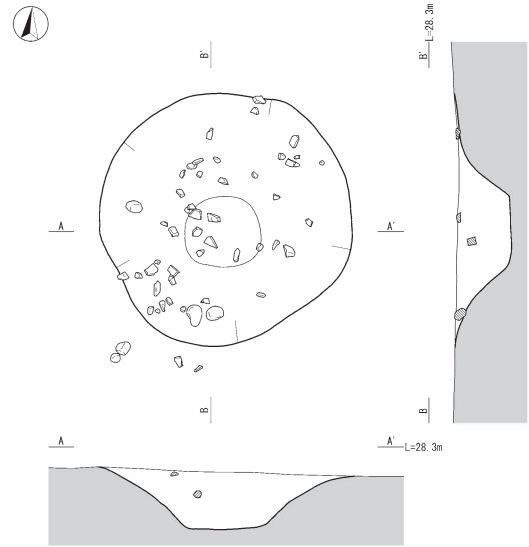
272号集石



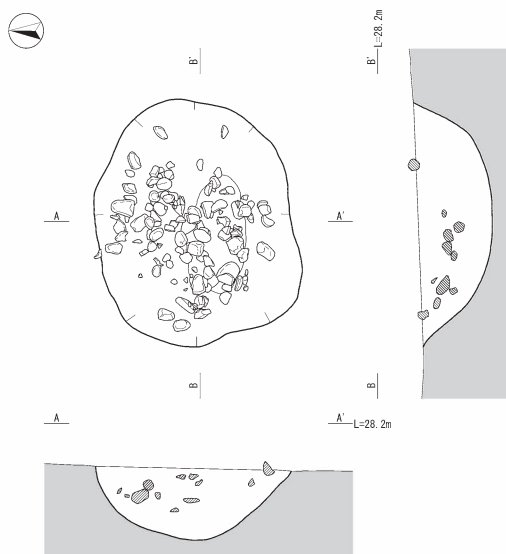
275号集石



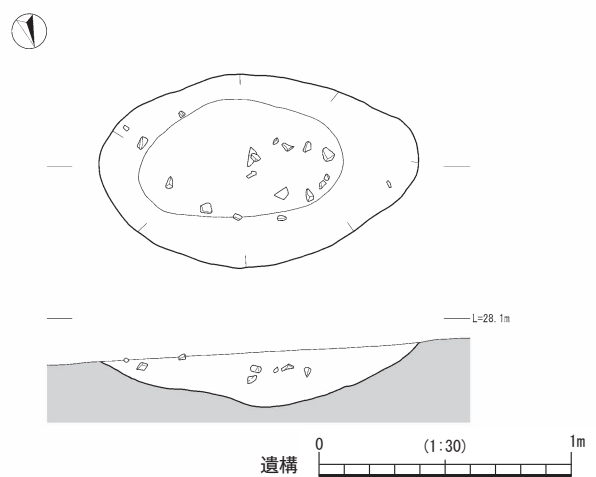
276号集石



277号集石



278号集石



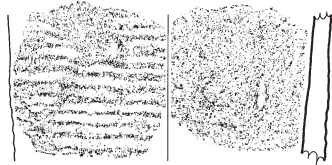
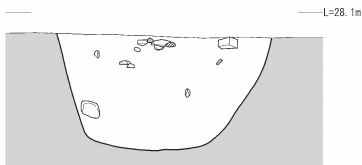
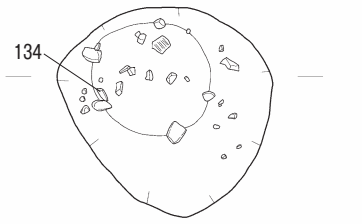
確認された。土坑は、105cm×85cmの楕円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数34点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。石器は1点が出土しこれを図化した。133は磨製石斧の刃部片である。

275号集石 (第121図)

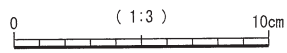
E-38区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も

第121図 272, 275, 276, 277, 278号集石・272号集石出土遺物

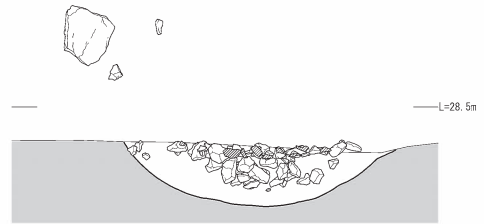
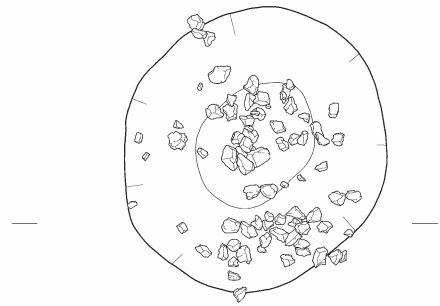
281号集石



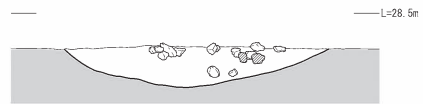
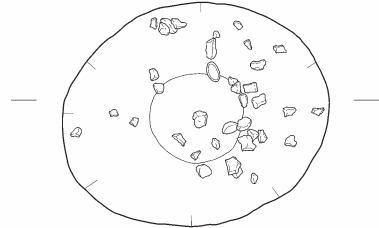
134 281号集石



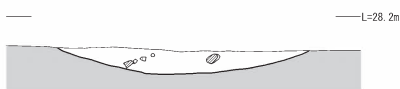
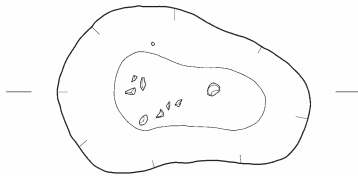
282号集石



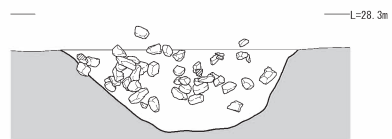
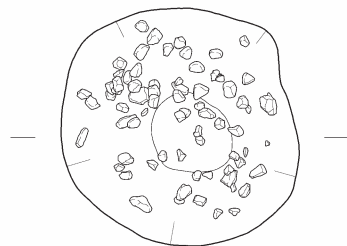
284号集石



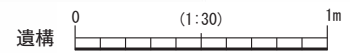
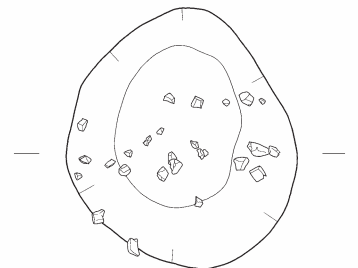
285号集石



288号集石

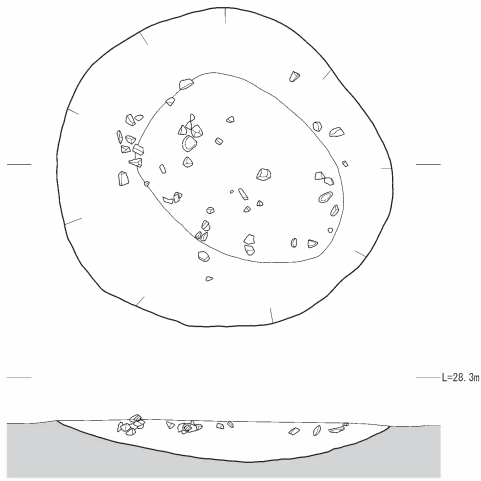


287号集石

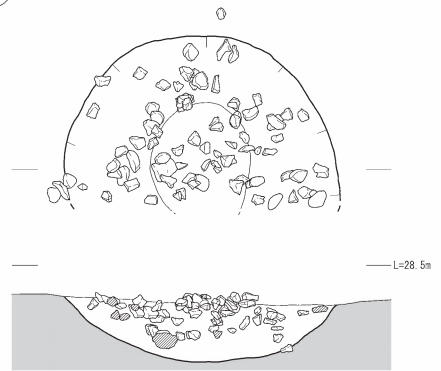


第122図 281, 282, 284, 285, 287, 288号集石・281号集石出土遺物

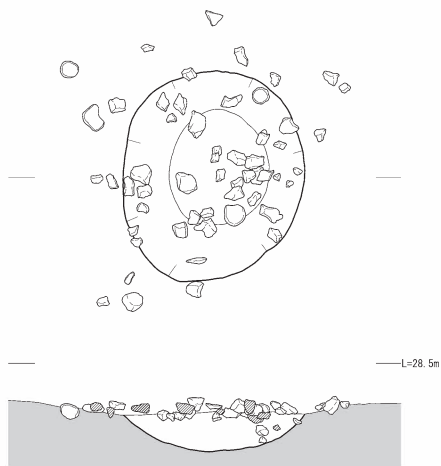
289号集石



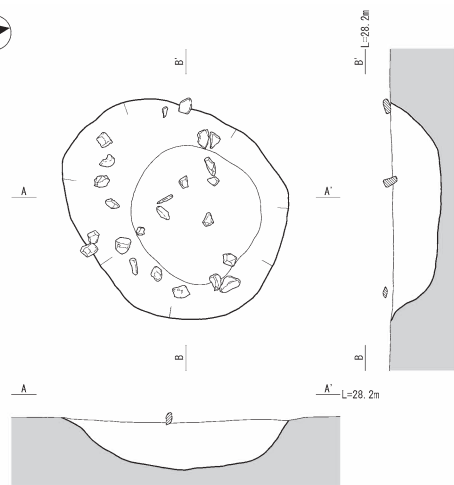
290号集石



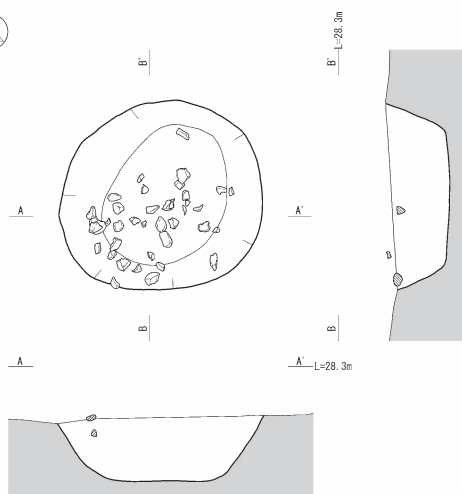
294号集石



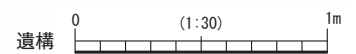
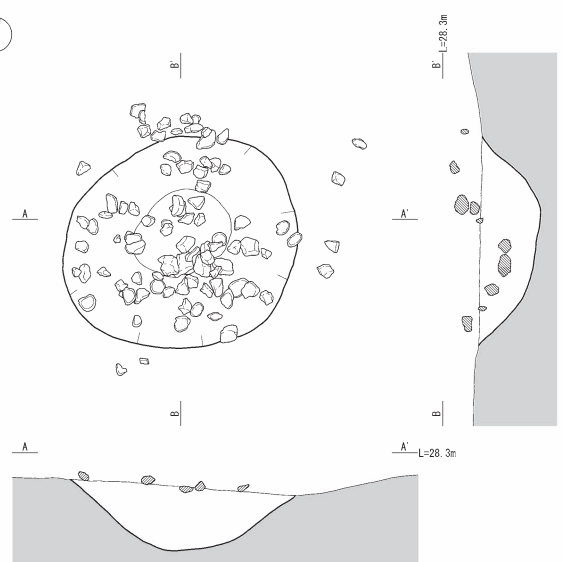
296号集石



297号集石

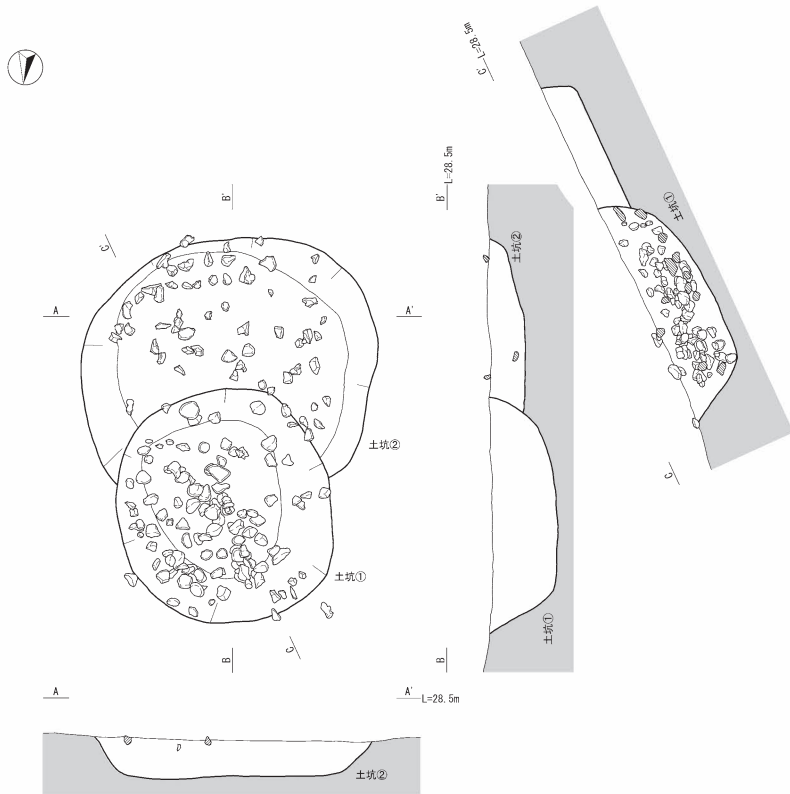


298号集石

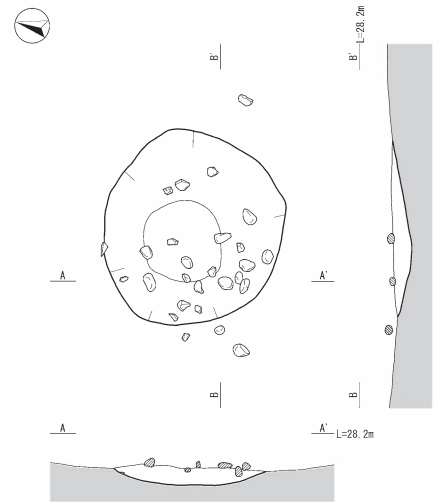


第123図 289, 290, 294, 296, 297, 298号集石

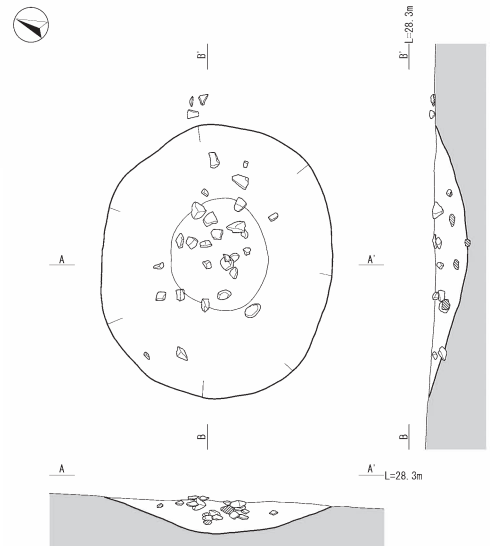
300号集石



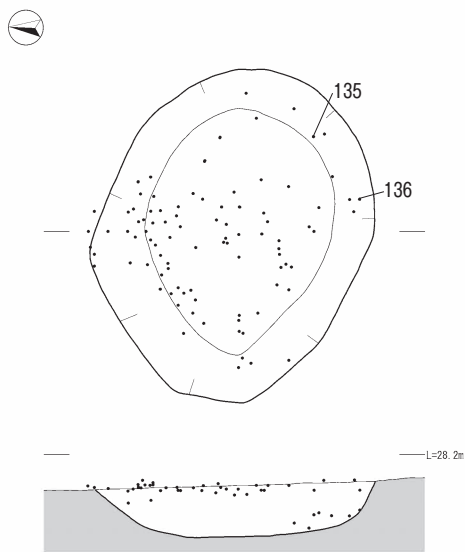
302号集石



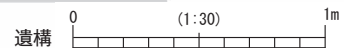
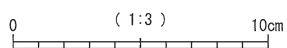
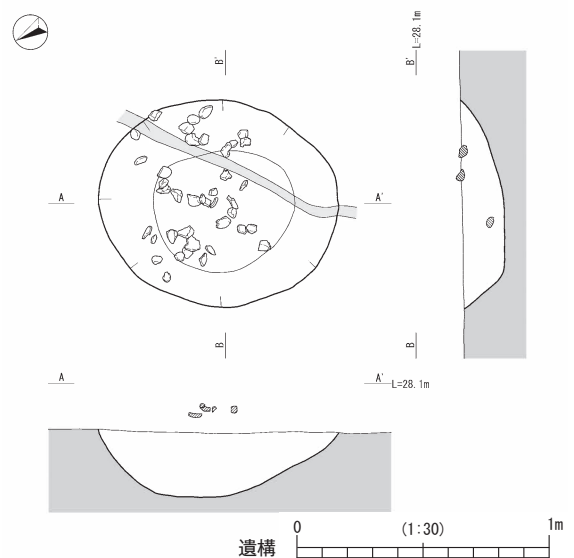
303号集石



304号集石

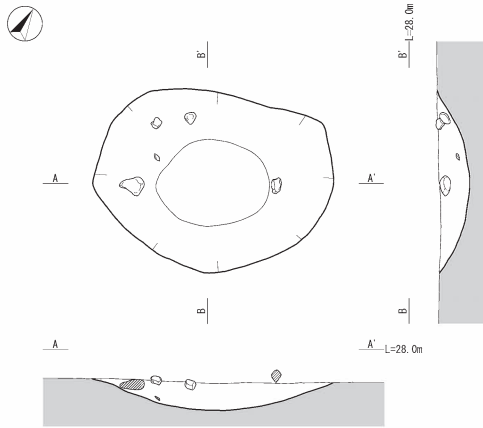


305号集石

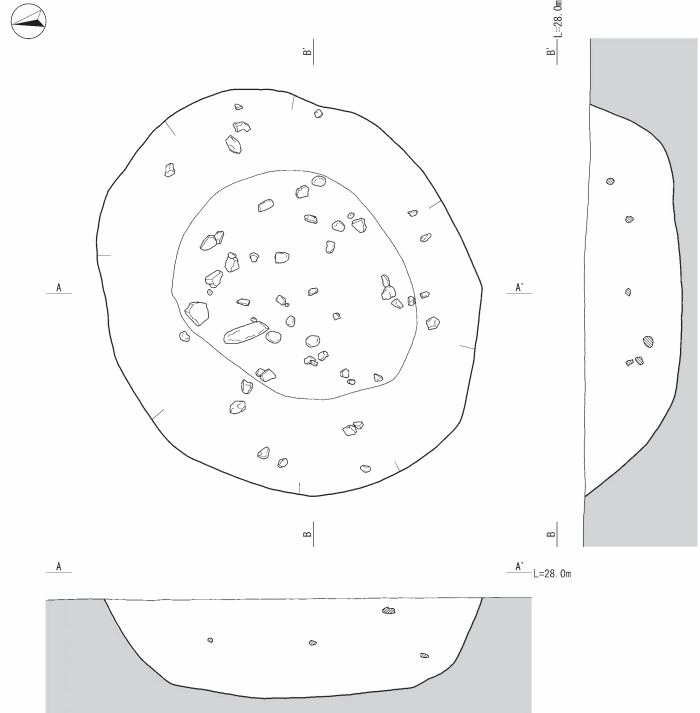


第124图 300, 302, 303, 304, 305号集石 · 304号集石出土遗物

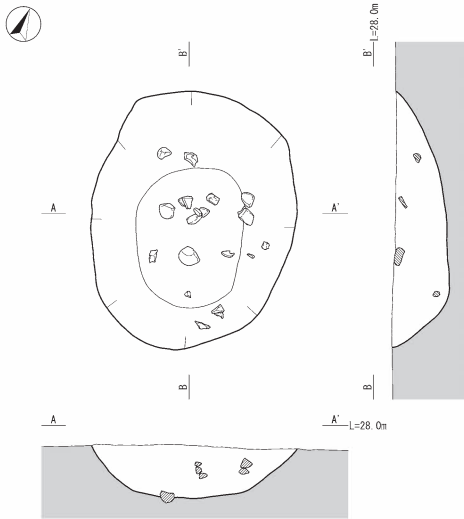
306号集石



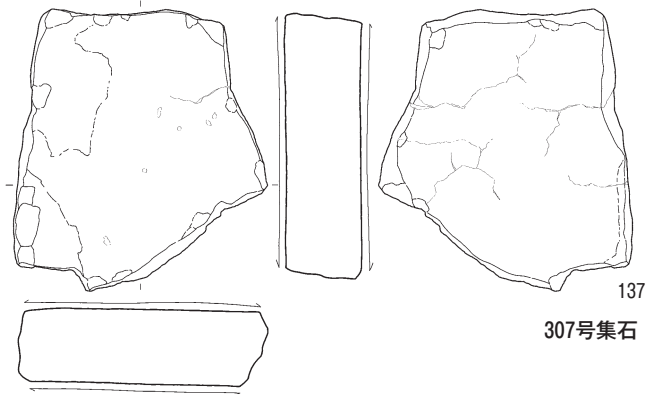
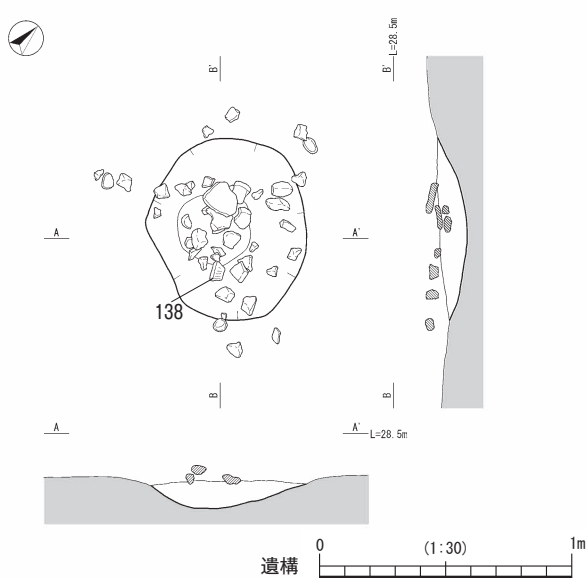
307号集石



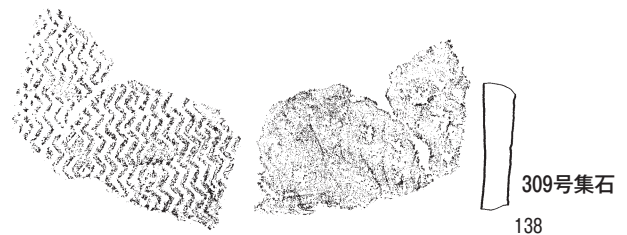
308号集石



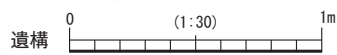
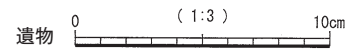
309号集石



307号集石

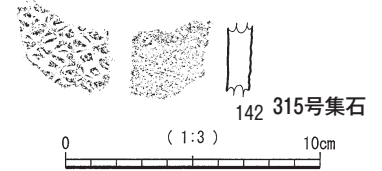
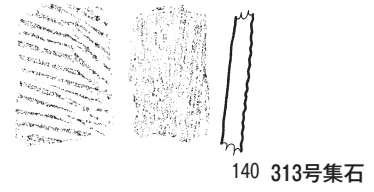
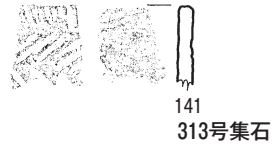
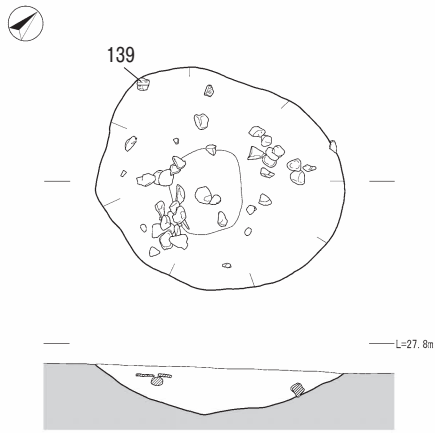


309号集石

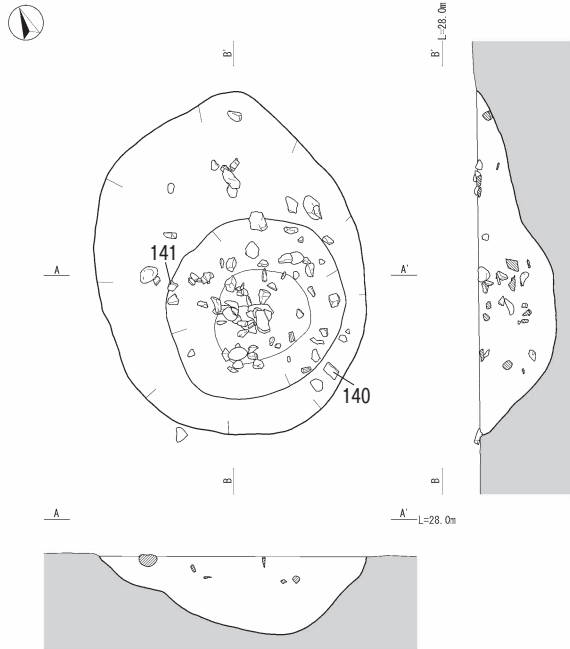


第125图 306, 307, 308, 309号集石・307, 309号集石出土遺物

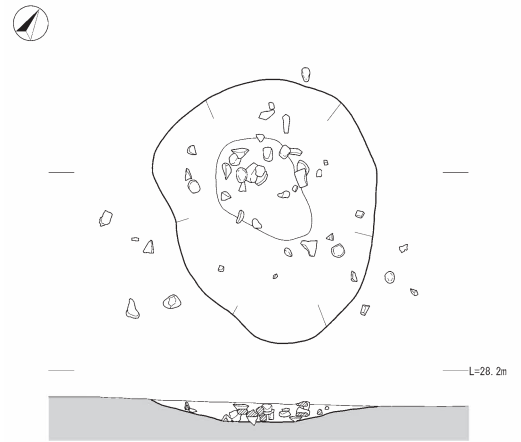
310号集石



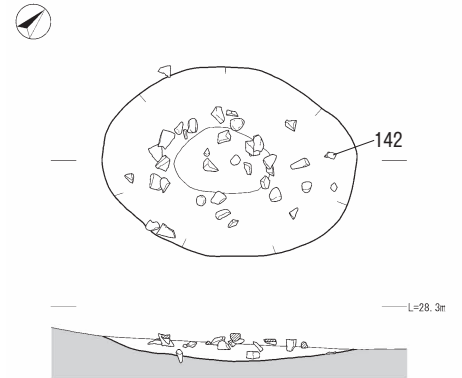
313号集石



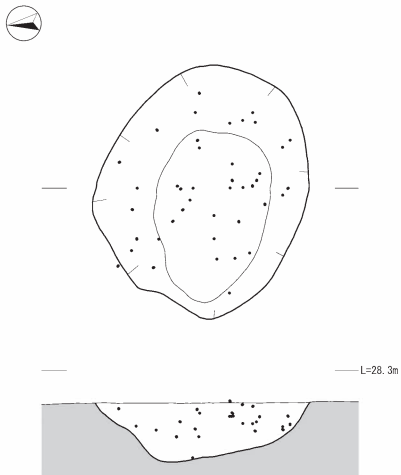
314号集石



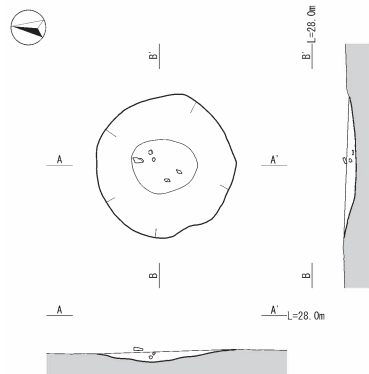
315号集石



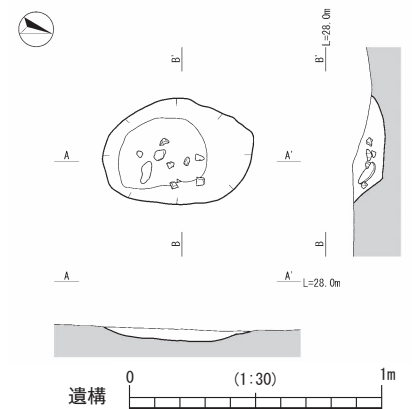
316号集石



317号集石

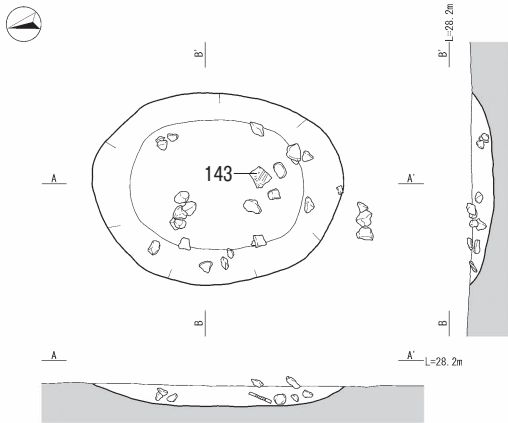


320号集石



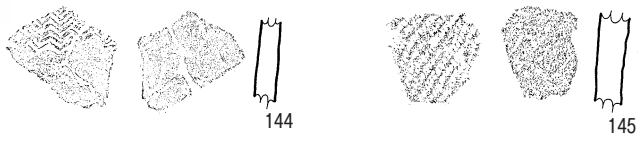
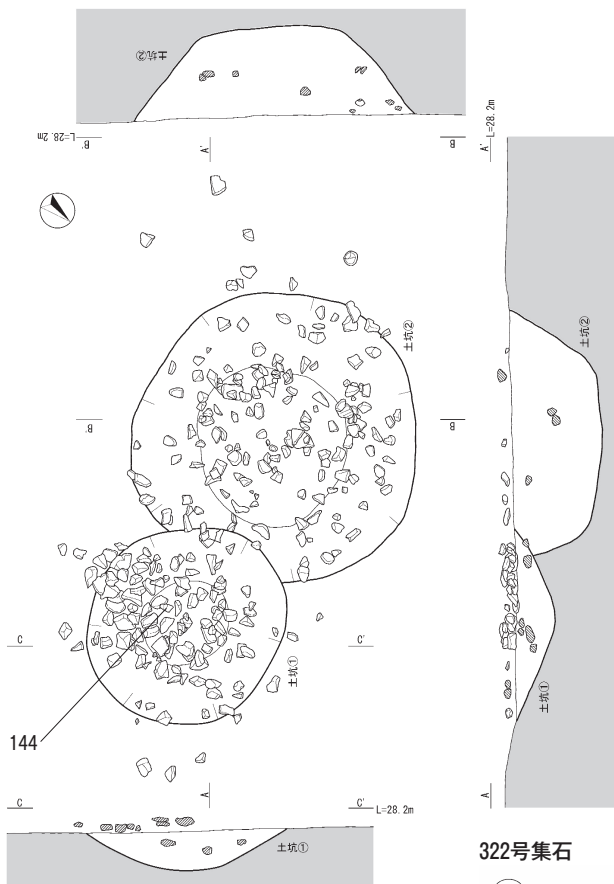
第126图 310, 313, 314, 315, 316, 317, 320号集石 · 310, 313, 315号集石出土遺物

319号集石



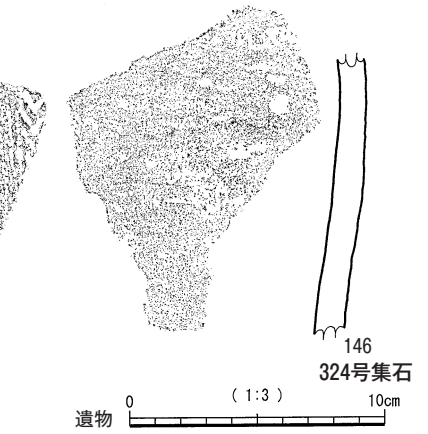
143
319号集石

321号集石



144
321号集石

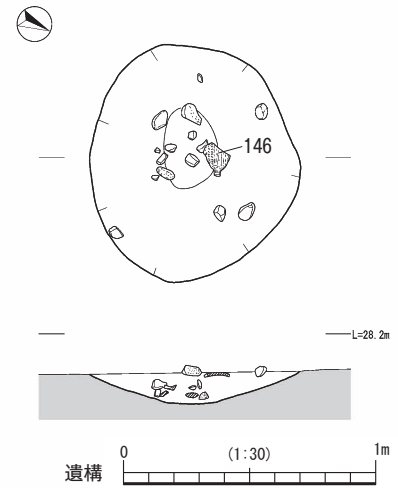
145
322号集石



146
324号集石

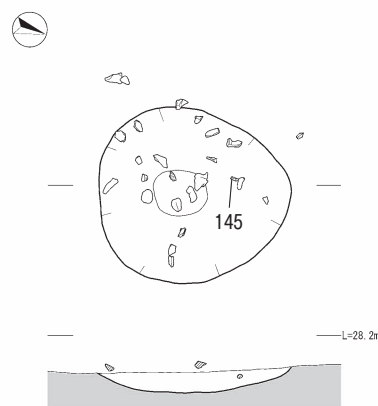
遺物 0 (1:3) 10cm

324号集石



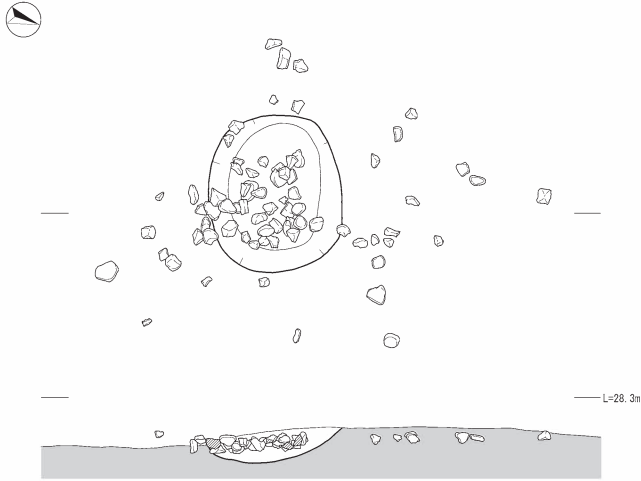
遺構 0 (1:30) 1m

322号集石

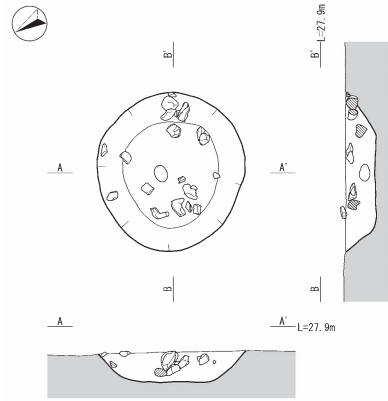


第127图 319, 321, 322, 324号集石·出土遺物

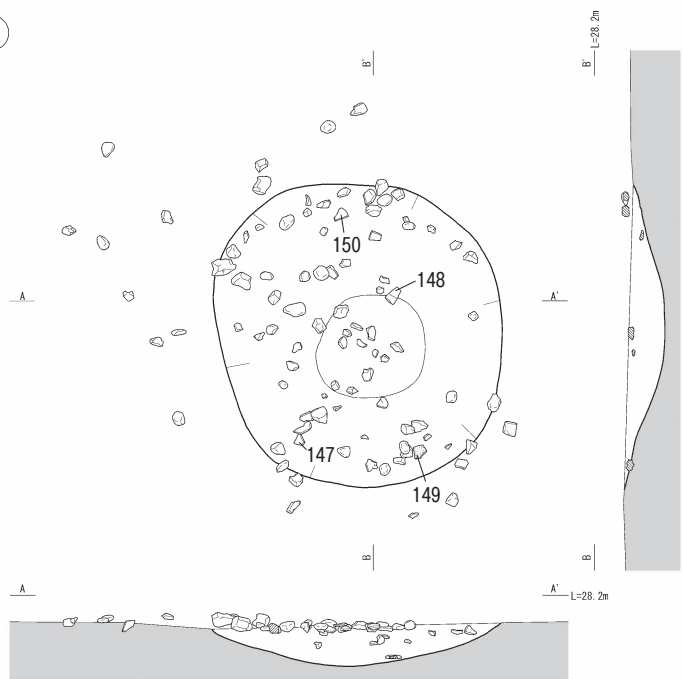
325号集石



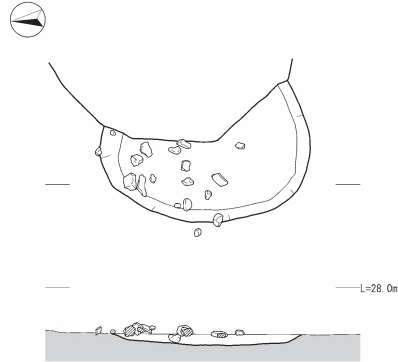
326号集石



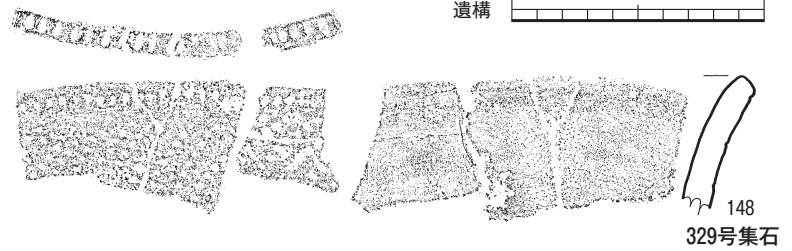
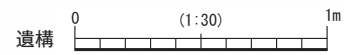
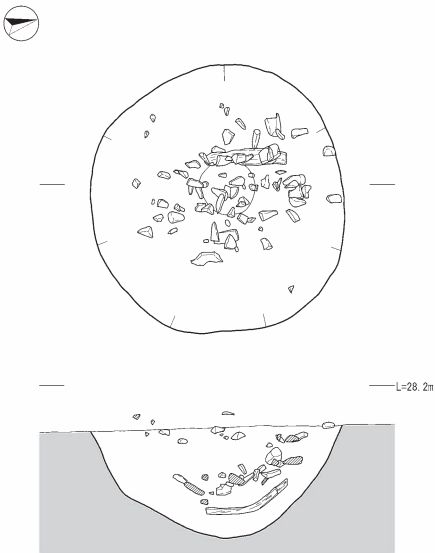
329号集石



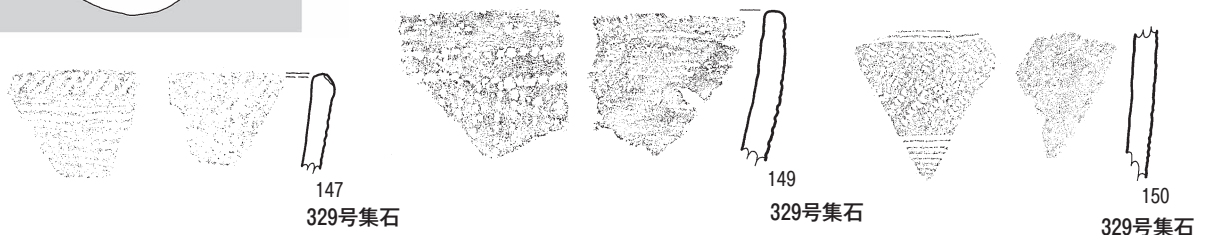
327号集石



328号集石



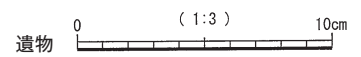
329号集石



147
329号集石

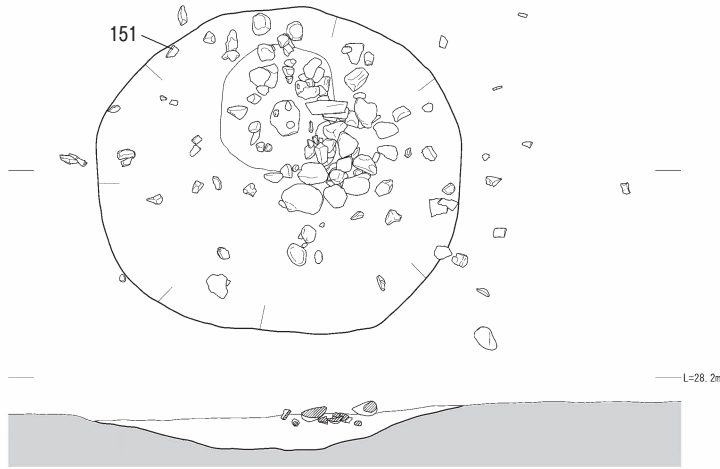
149
329号集石

150
329号集石

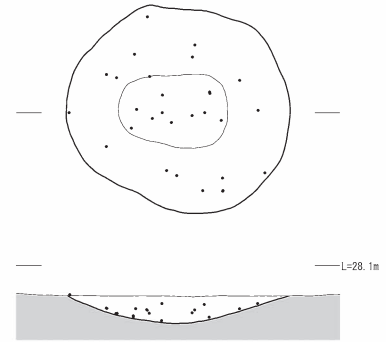


第128図 325, 326, 327, 328, 329号集石・329号集石出土遺物

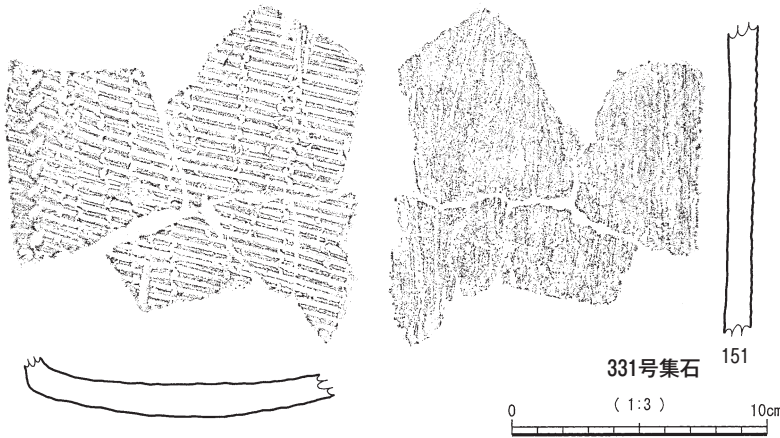
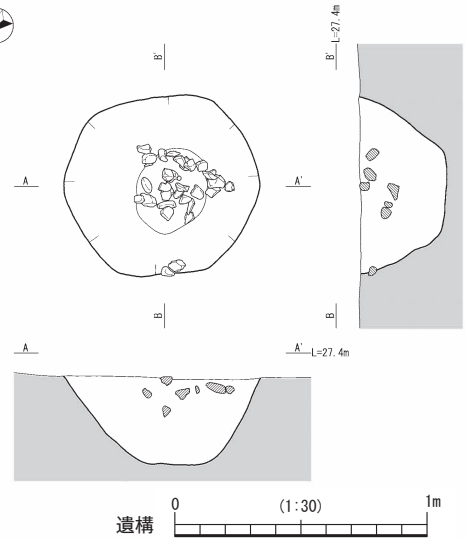
331号集石



332号集石



334号集石



第129図 331, 332, 334号集石・331号集石出土遺物

確認された。土坑は、80cm×65cmの略円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数24点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。171号土坑の上位20cmでの検出である。

276号集石 (第121図)

E-38区Ⅹ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×100cmの円形プランで、礫は、わずかに土坑外に見られるものの、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数50点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。172号土坑の上に位置する。

277号集石 (第121図)

E-38区Ⅹ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×80cmの楕円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数96点で、石材はわずか

に砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

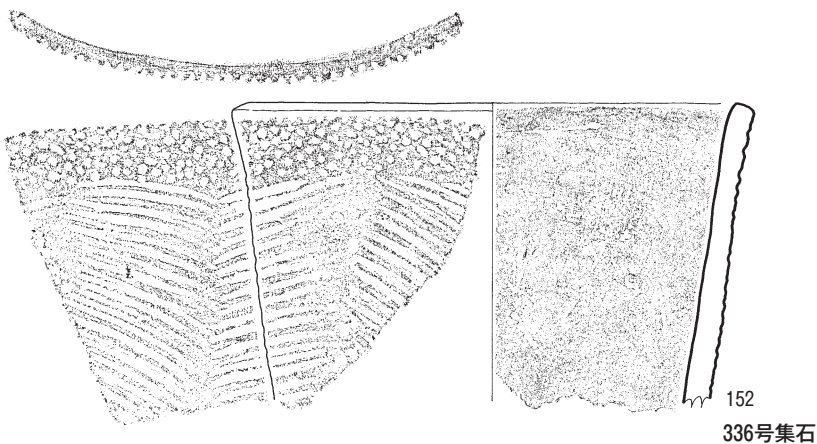
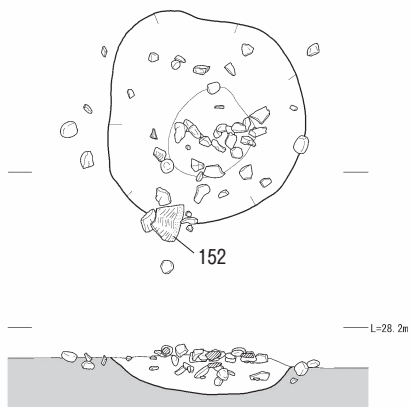
278号集石 (第121図)

E・F-38区Ⅹ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、125cm×80cmの楕円形プランで、床面はやや不安定な状況であった。礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数18点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。180号土坑と176号土坑を切る。

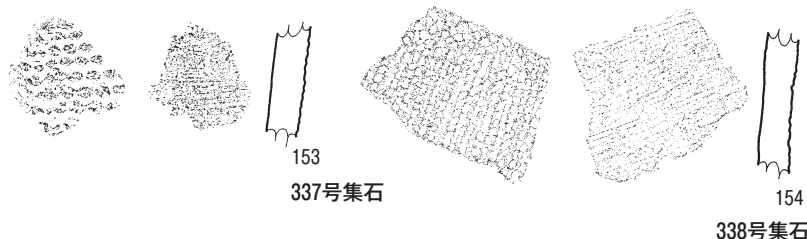
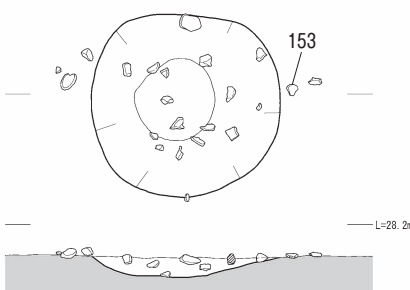
281号集石 (第122図)

F-38区Ⅹ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×75cmの略円形プランで、掘り込みは深い。礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数27点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器1点を図化した。

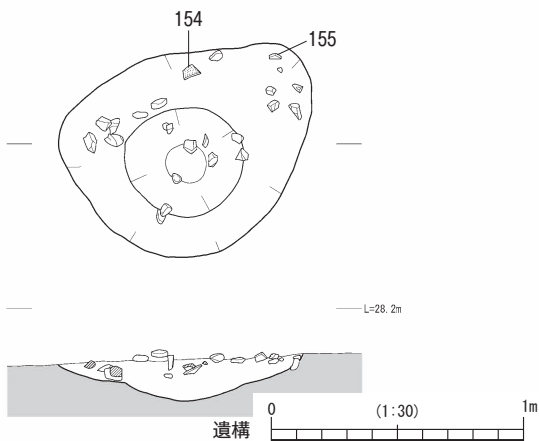
336号集石



337号集石



338号集石



礫は、1.5m × 1mの範囲に広がる。構成礫は、総数81点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点であるが小破片のため図化は困難であった。

284号集石 (第122図)

F-38区VIII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm × 90cmの楕円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数39点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。283号集石に隣接し、下部からは192号土坑と193号土坑が検出されている。

285号集石 (第122図)

F-38区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、楕円形プランで、浅いすり鉢状を呈する。礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数8点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

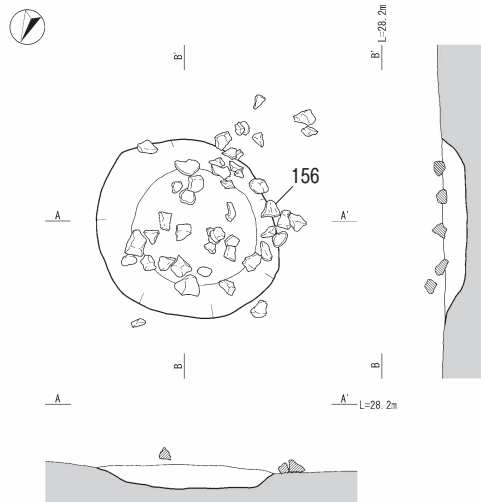
134は、胴部に横位の貝殻条痕文が施される。181号土坑を切るが、181号土坑の平面プラン内に集石は収まる。

282号集石 (第122図)

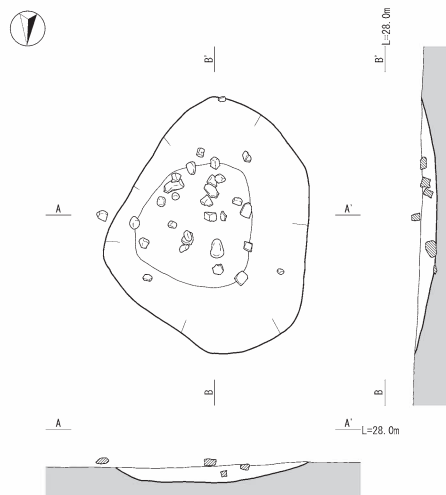
F-38区VIII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、115cm × 105cmの略円形プランで、

第130図 336, 337, 338号集石・出土遺物

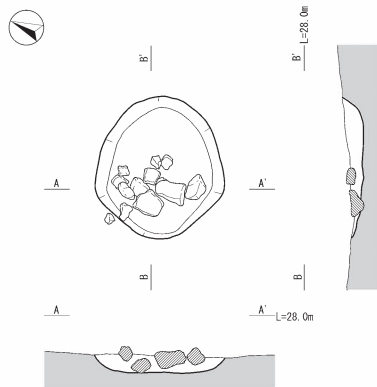
340号集石



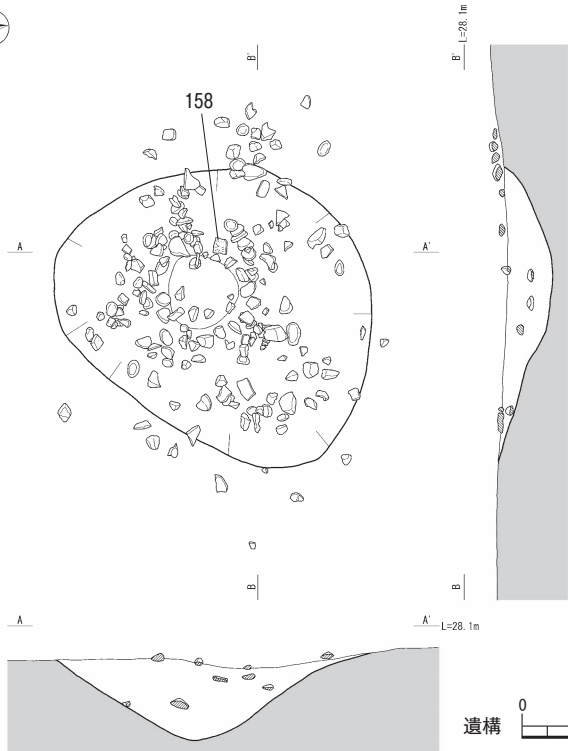
341号集石



342号集石



343号集石

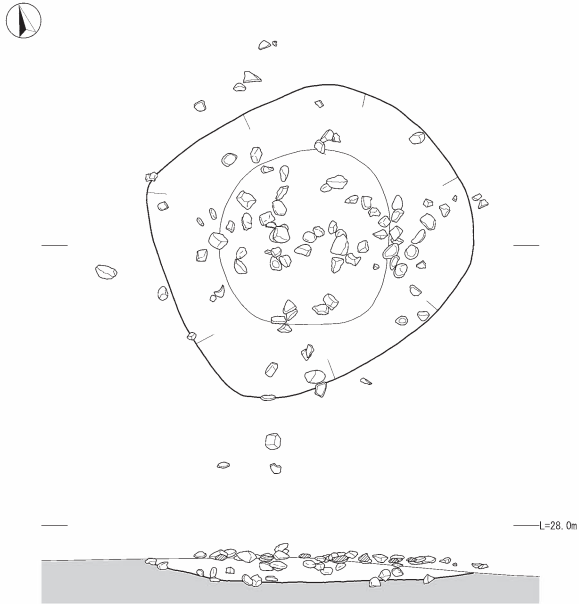


遺構 0 (1:30) 1m

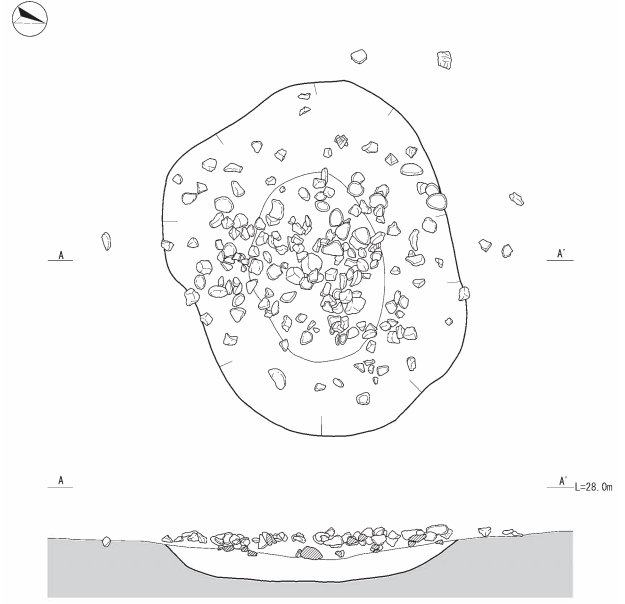
遺物 0 (1:3) 10cm

第131図 340, 341, 342, 343号集石・340, 341, 343号集石出土遺物

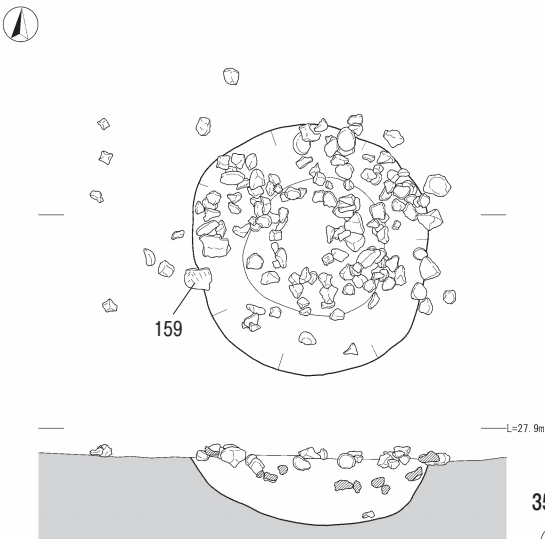
346号集石



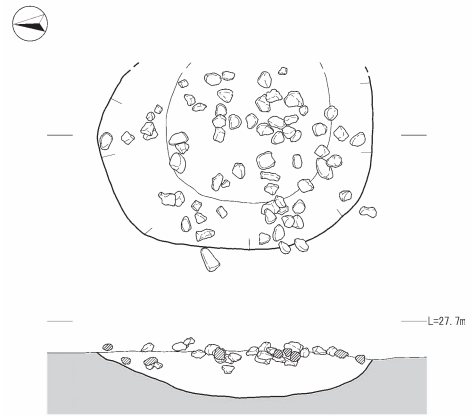
347号集石



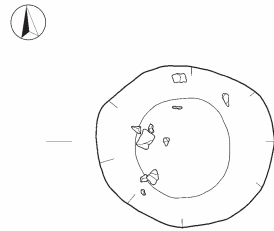
348号集石



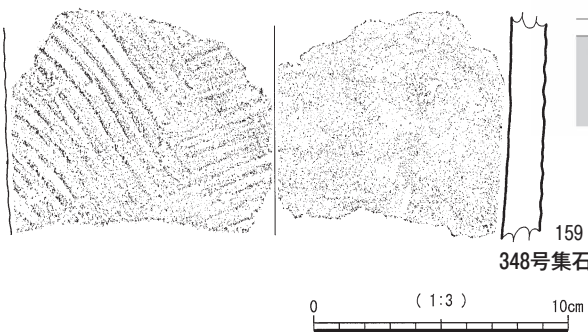
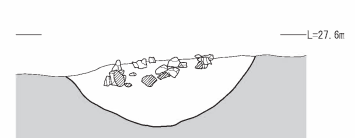
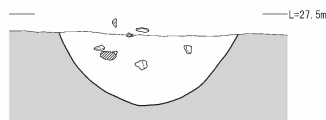
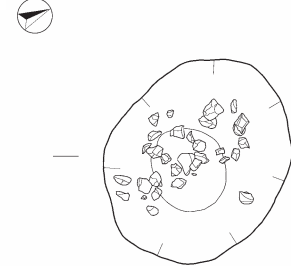
350号集石



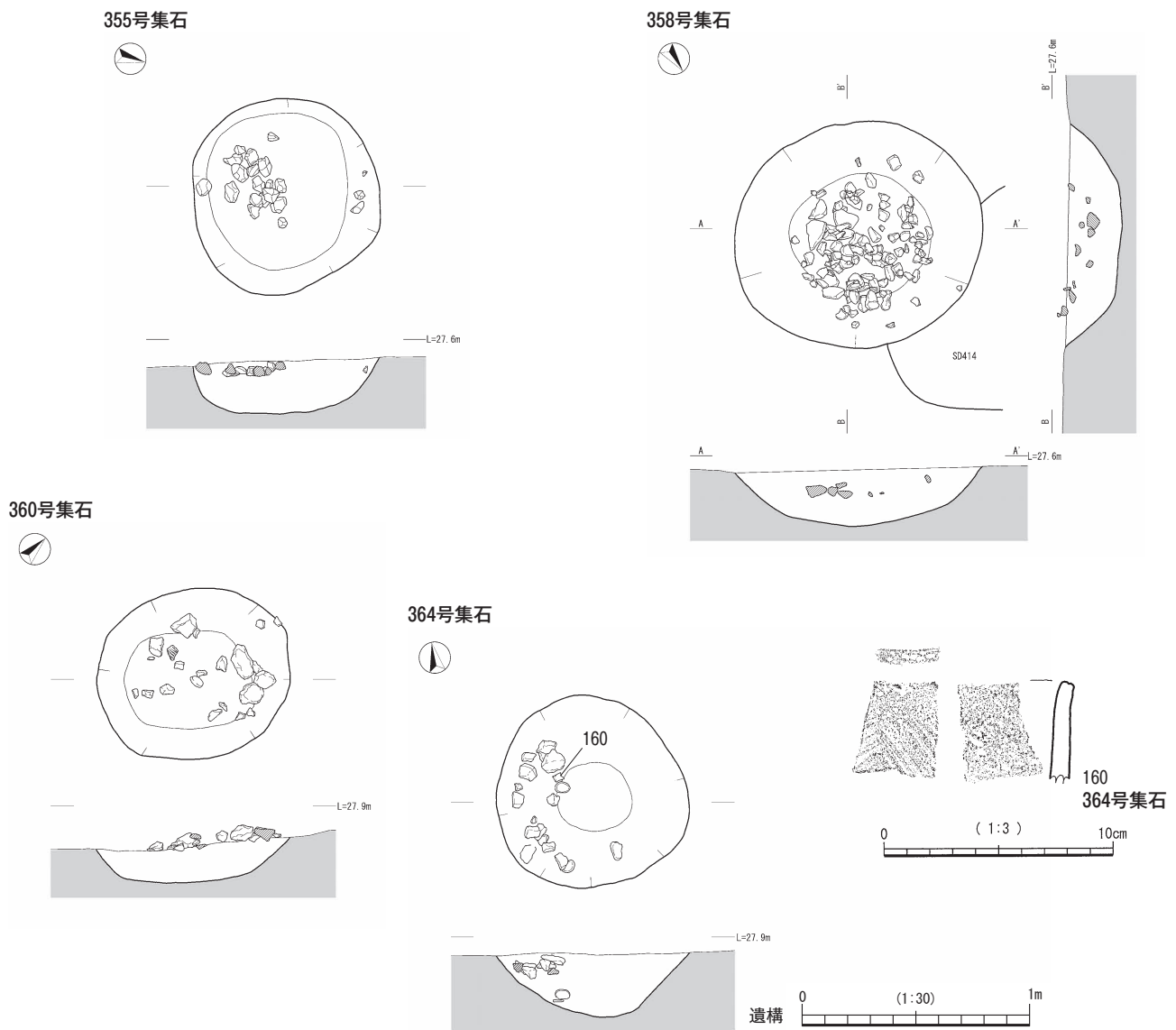
351号集石



353号集石



第132図 346, 347, 348, 350, 351, 353号集石・348号集石出土遺物



第133図 355, 358, 360, 364号集石・364号集石出土遺物

287号集石 (第122図)

G-38区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×90cmの略円形プランで、礫は土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数26点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

288号集石 (第122図)

G-38区Ⅸ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数68点で、土坑内に散在している状況であった。石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

289号集石 (第123図)

G-38区Ⅹ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、130cm×130cmの円形プランで、構成礫は、総数35点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

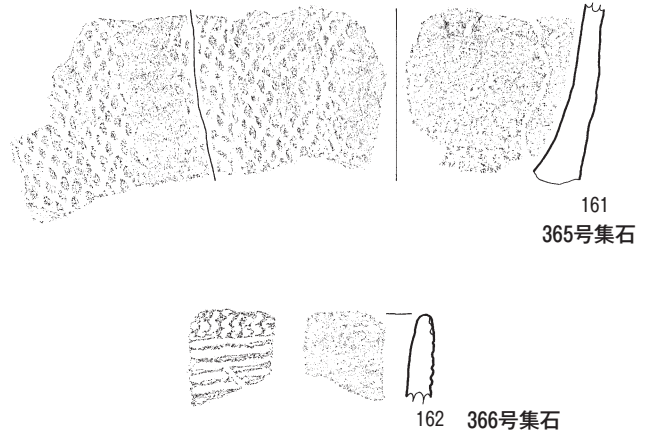
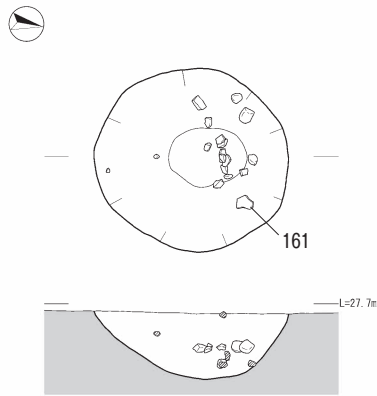
290号集石 (第123図)

G-39区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、約1/3が調査区外へと延びているが円形プランと思われる。礫は、土坑内にほぼ収まり、比較的土坑内の上位に位置している。集石内遺物は確認できなかった。

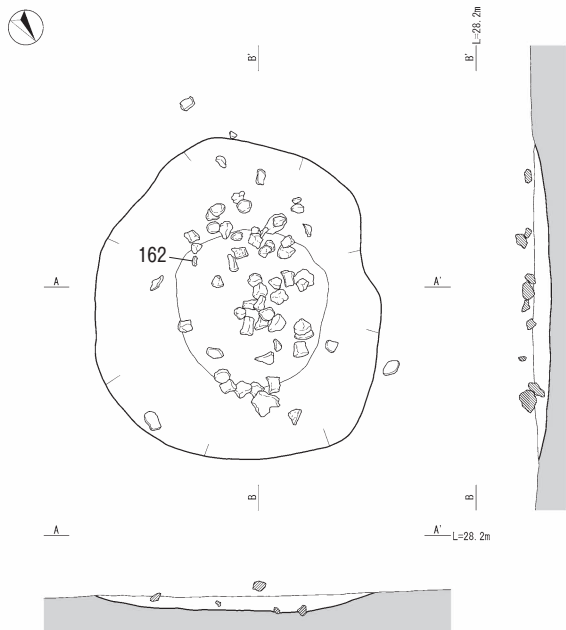
294号集石 (第123図)

F-39区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も

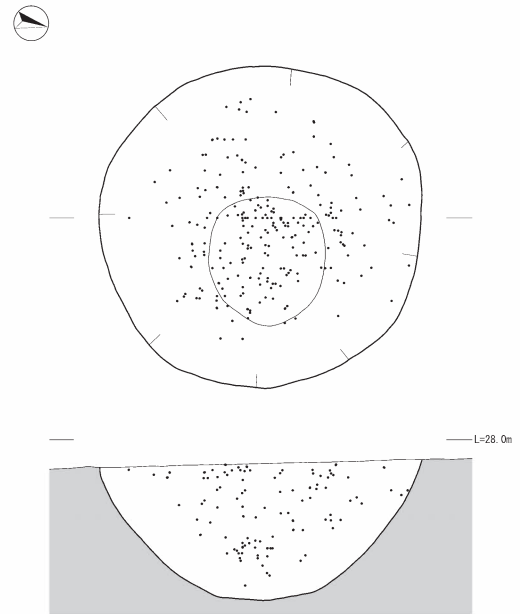
365号集石



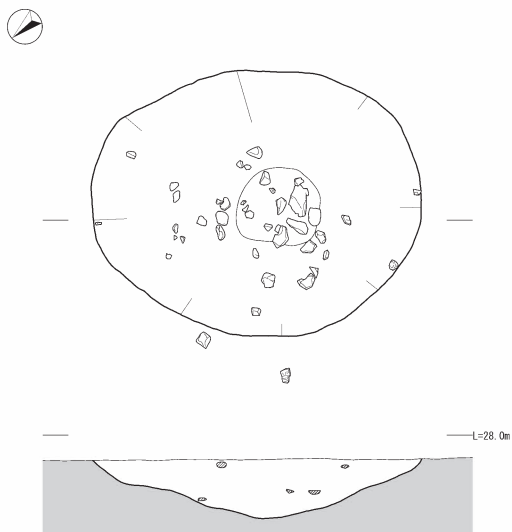
366号集石



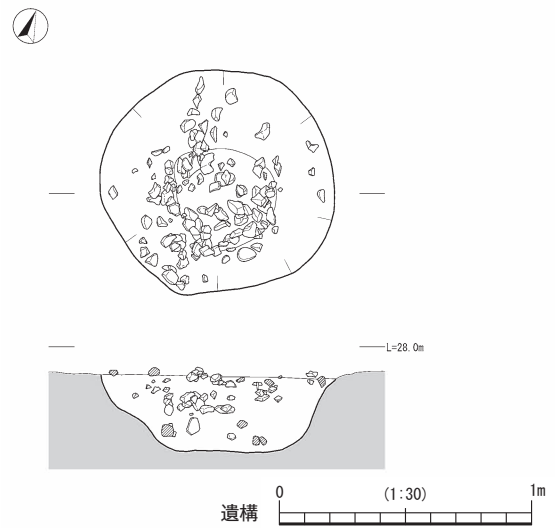
367号集石



368号集石

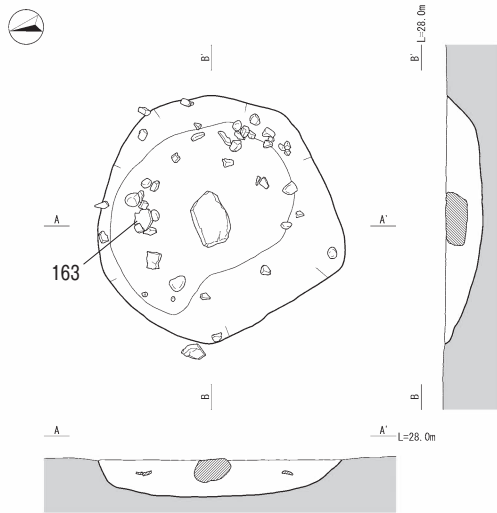


369号集石

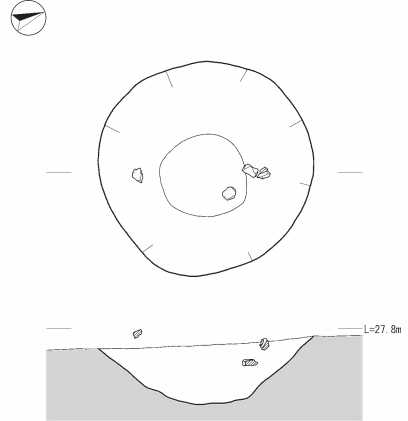


第134图 365, 366, 367, 368, 369号集石・365, 366号集石出土遺物

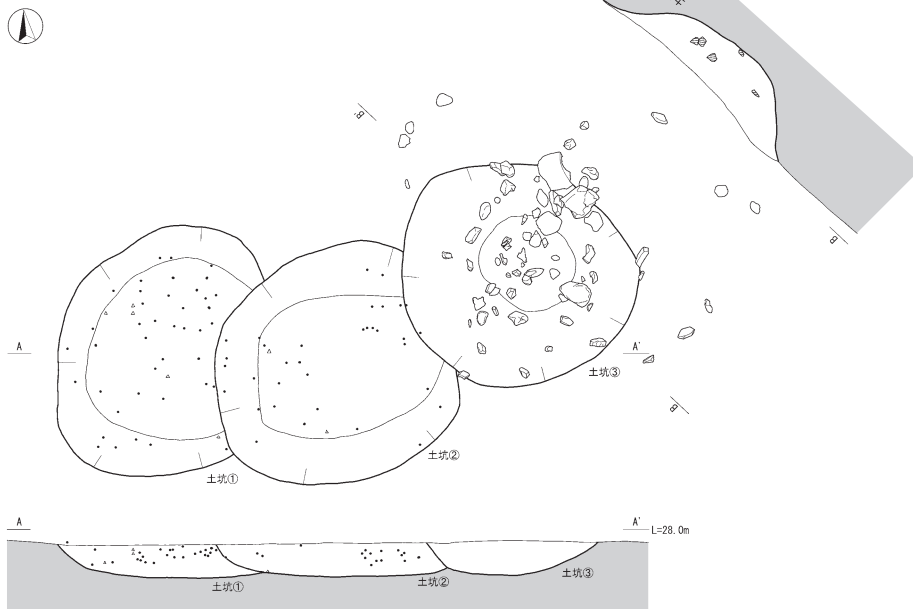
370号集石



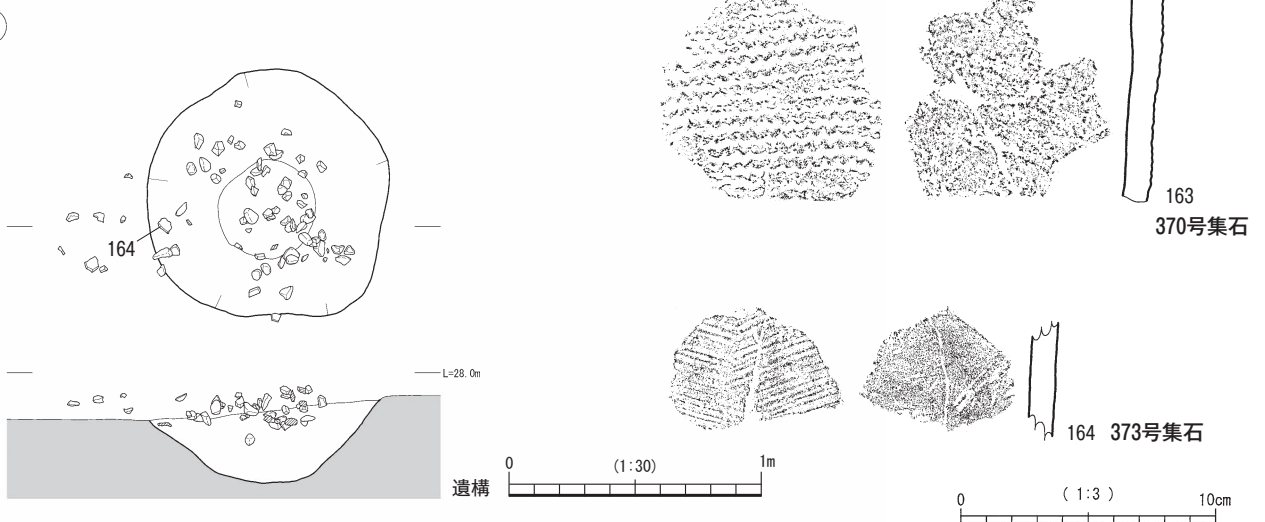
371号集石



372号集石

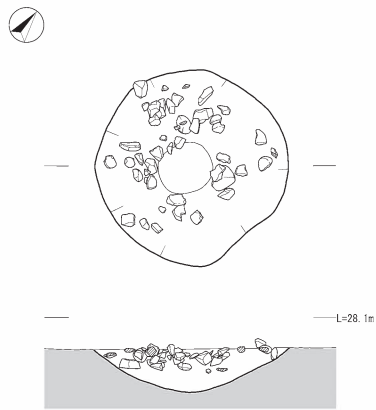


373号集石

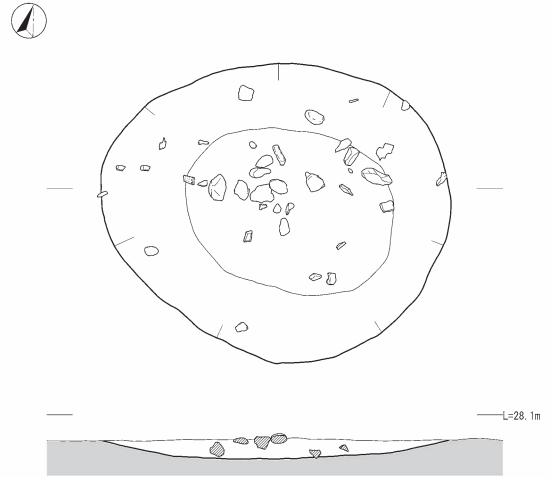


第135図 370, 371, 372, 373号集石・370, 373号集石出土遺物

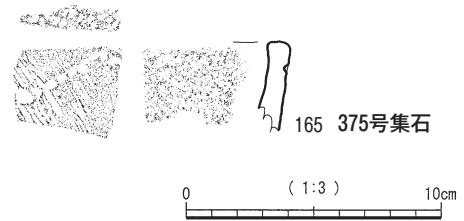
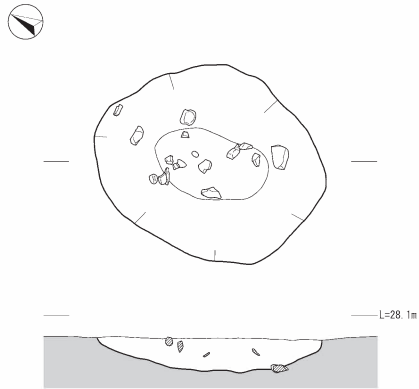
374号集石



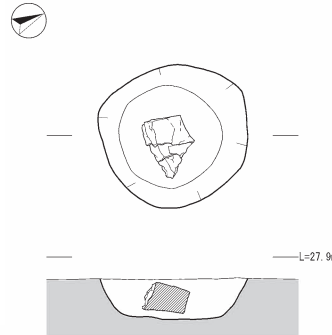
375号集石



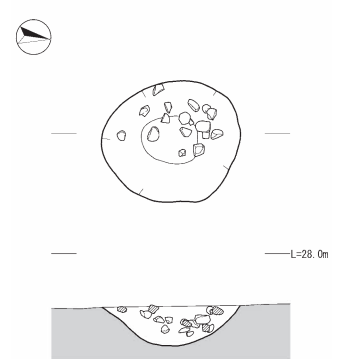
378号集石



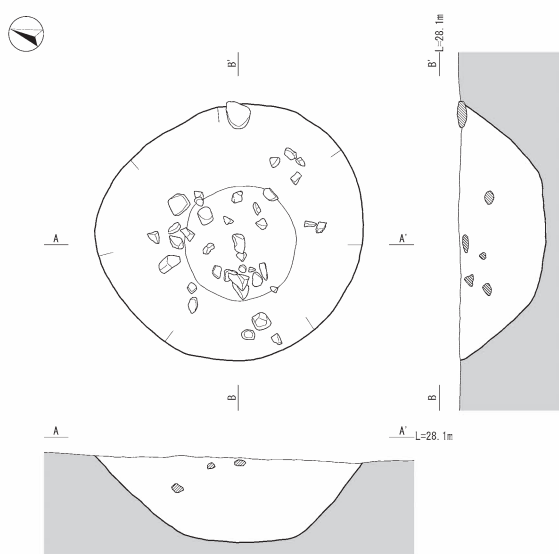
381号集石



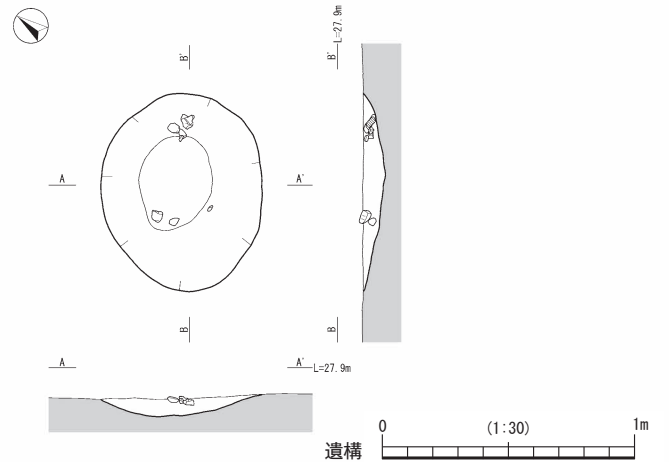
382号集石



380号集石

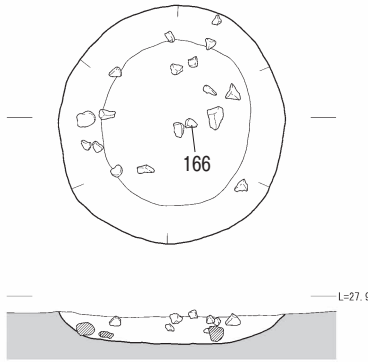


383号集石

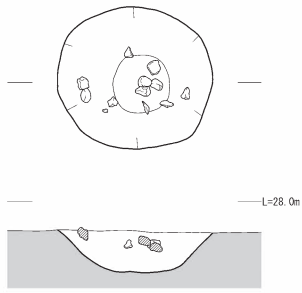


第136图 374, 375, 378, 380, 381, 382, 383号集石·375号集石出土遺物

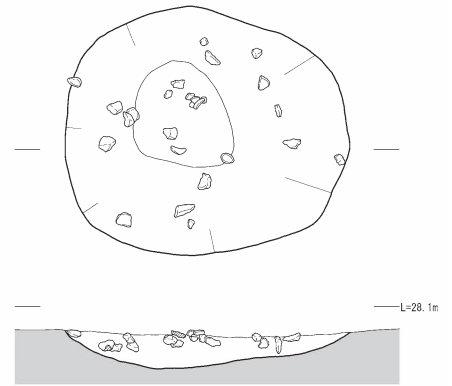
384号集石



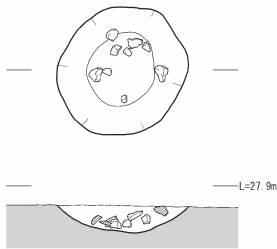
385号集石



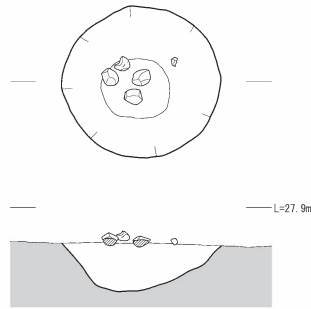
386号集石



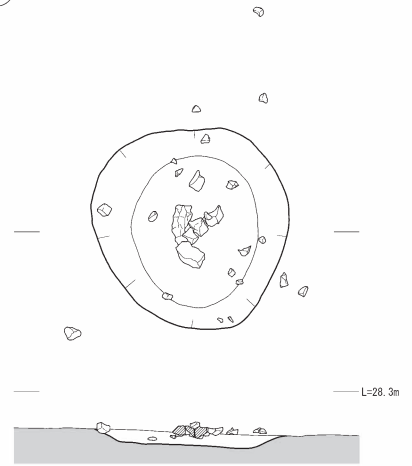
387号集石



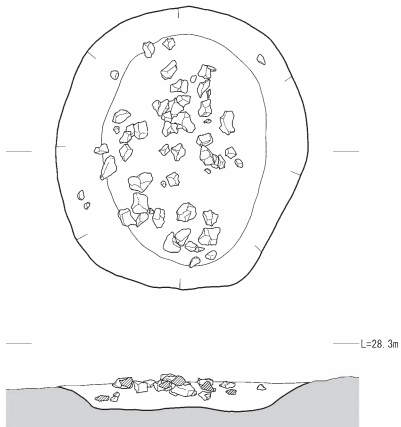
389号集石



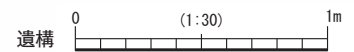
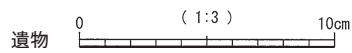
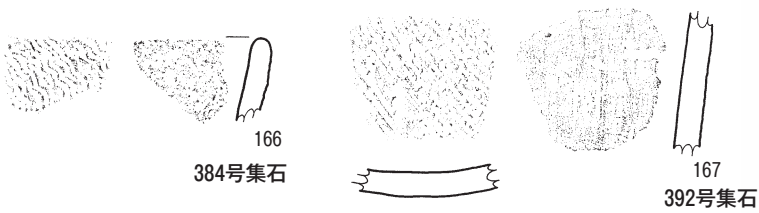
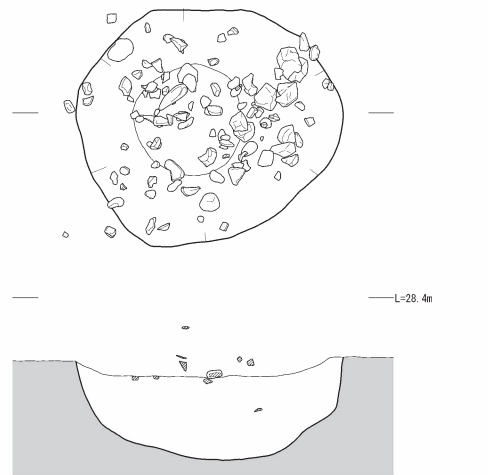
390号集石



391号集石

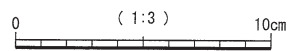
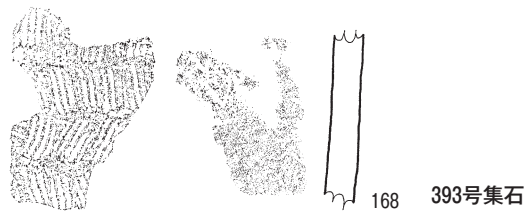
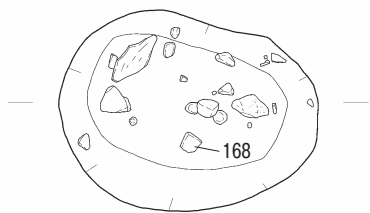


392号集石

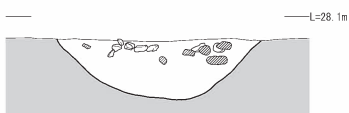
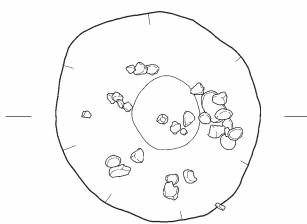


第137图 384, 385, 386, 387, 389, 390, 391, 392号集石·384, 392号集石出土遺物

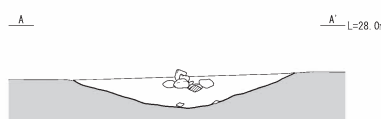
393号集石



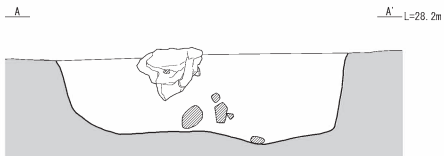
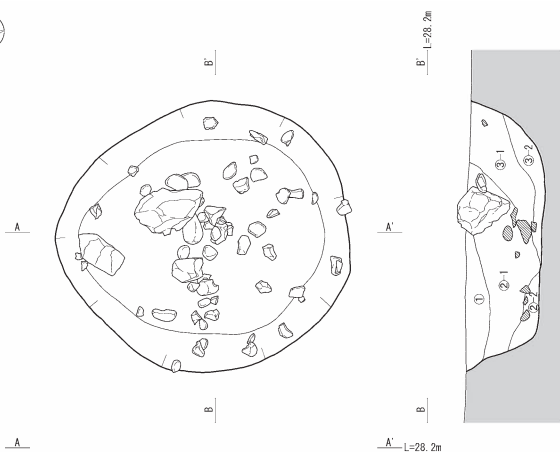
394号集石



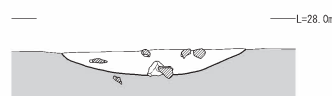
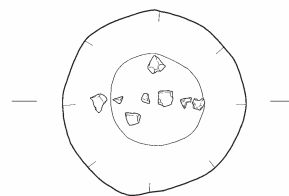
395号集石



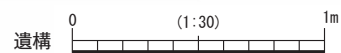
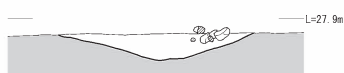
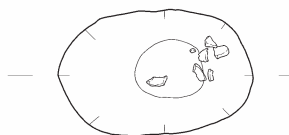
396号集石



397号集石

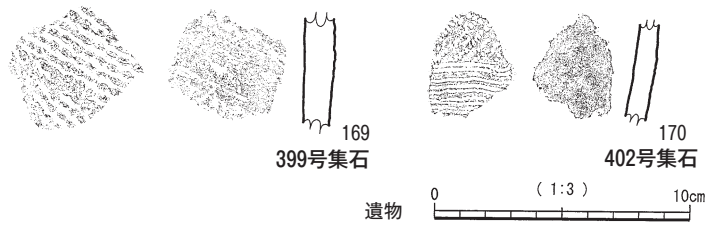
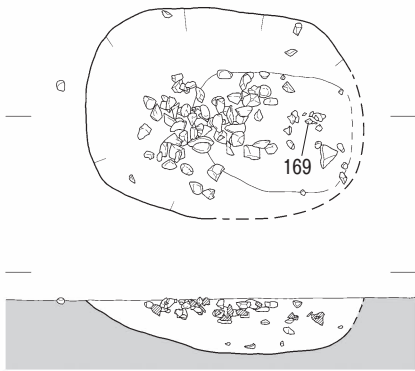


398号集石

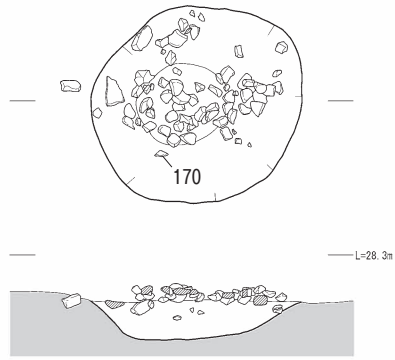


第138图 393, 394, 395, 396, 397, 398号集石・393号集石出土遺物

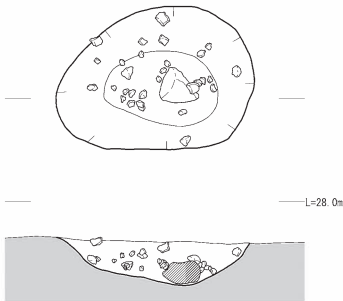
399号集石



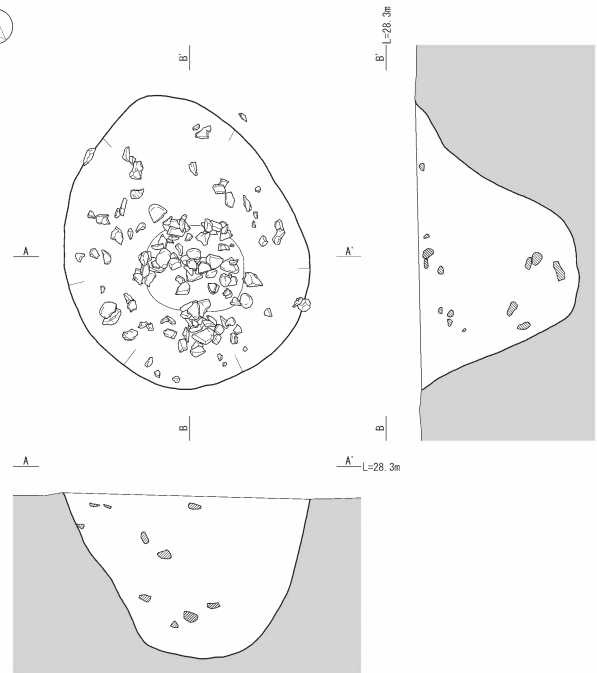
402号集石



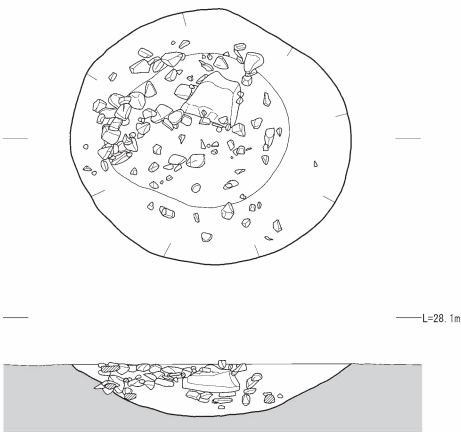
400号集石



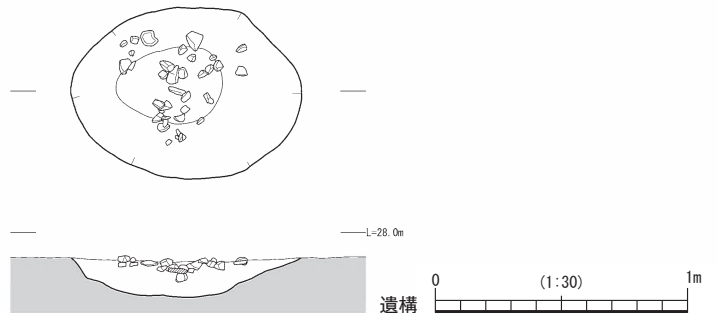
404号集石



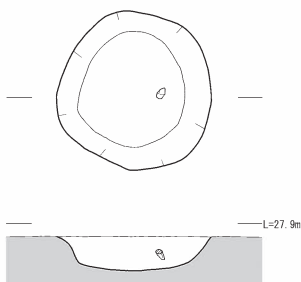
403号集石



406号集石

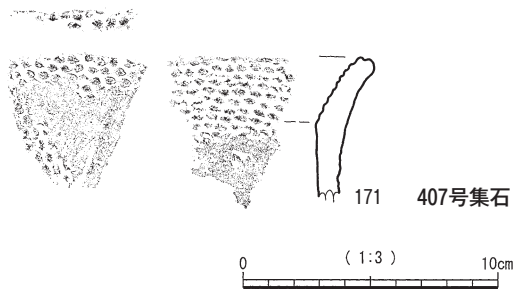
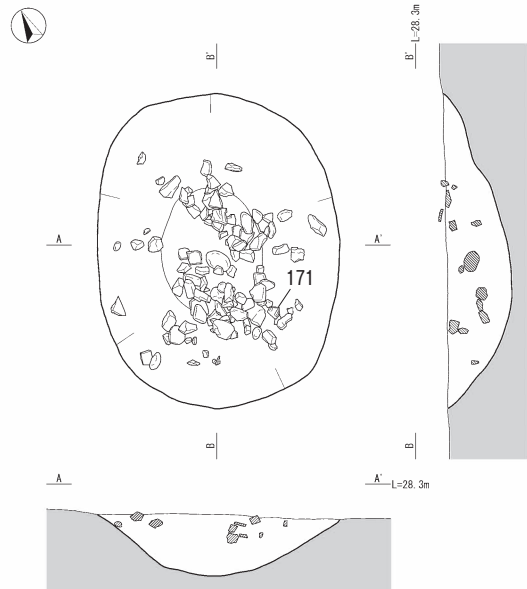


405号集石

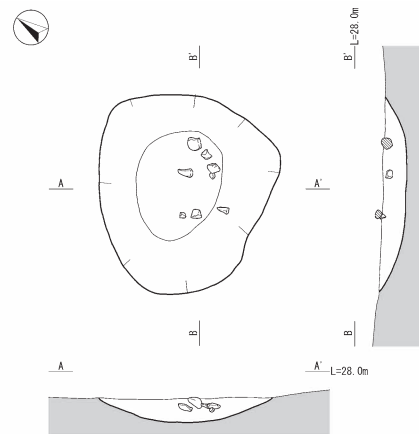


第139图 399, 400, 402, 403, 404, 405, 406号集石 · 399, 402号集石出土遺物

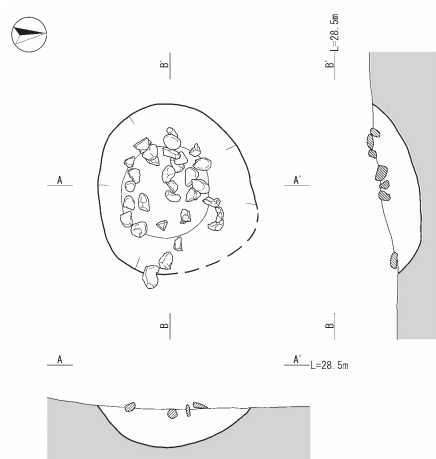
407号集石



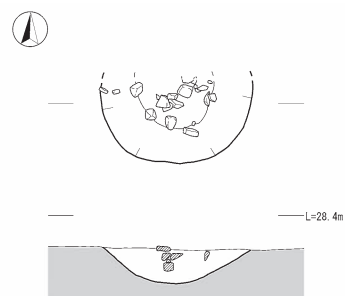
409号集石



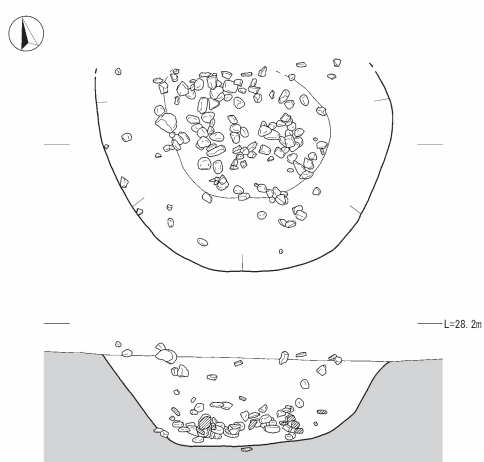
410号集石



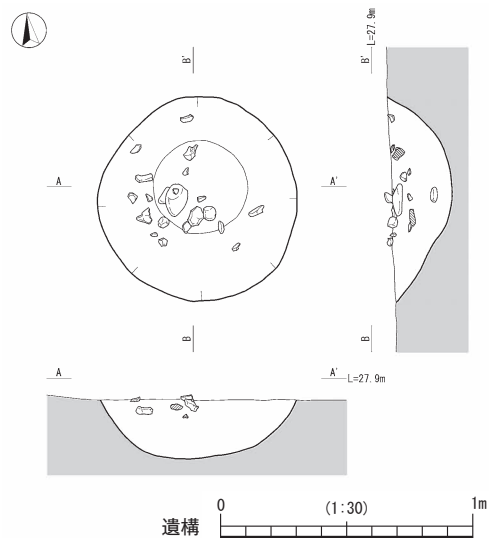
412号集石



413号集石

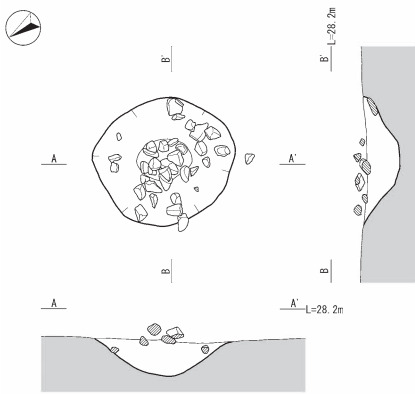


416号集石

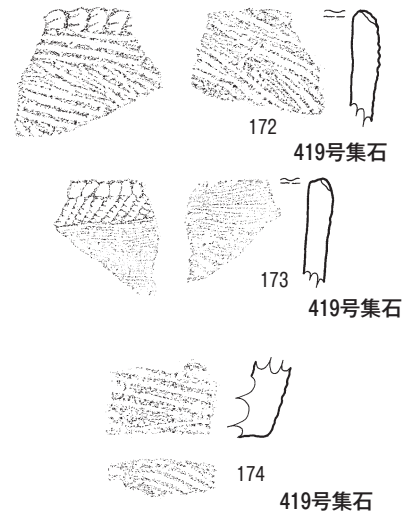
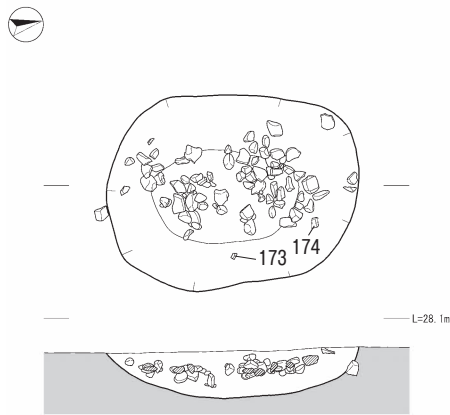


第140図 407, 409, 410, 412, 413, 416号集石・407号集石出土遺物

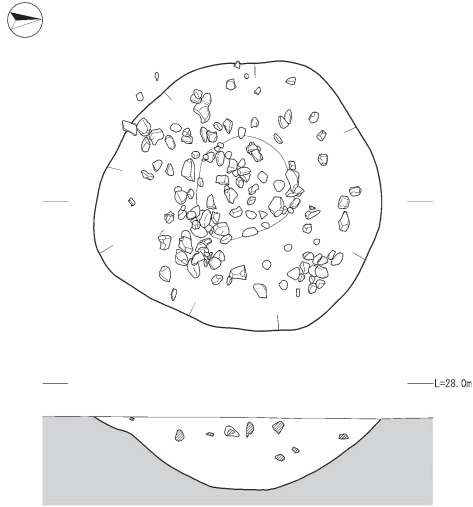
418号集石



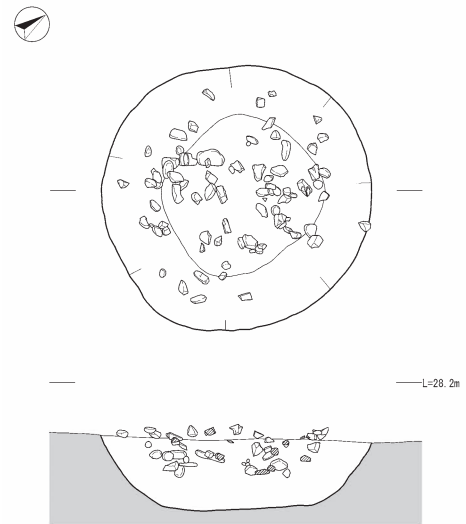
419号集石



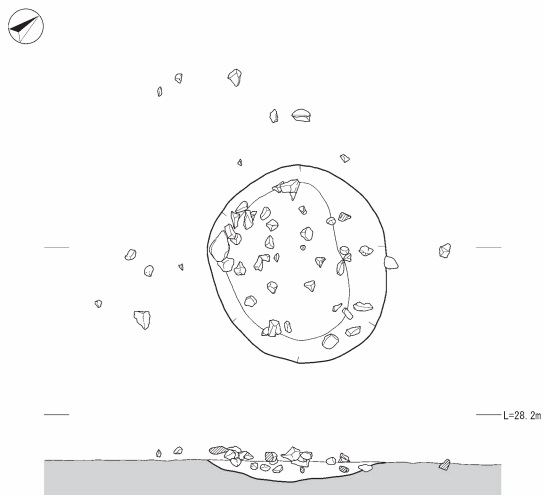
420号集石



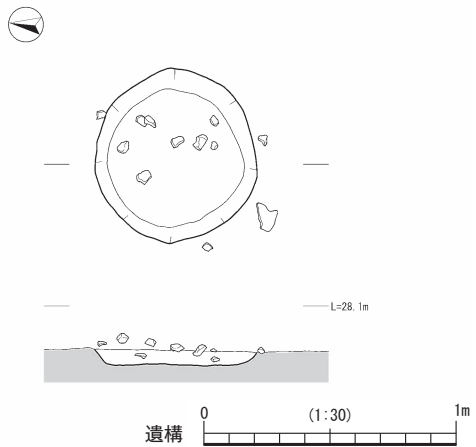
423号集石



424号集石

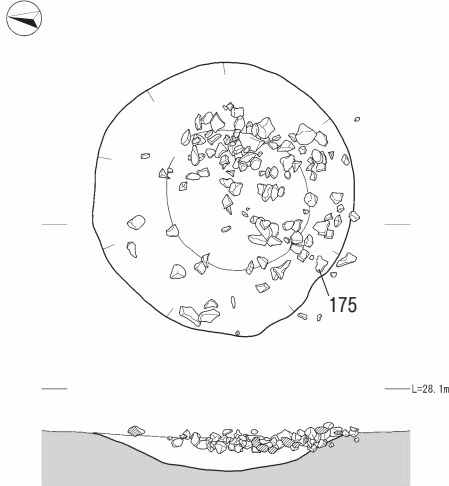


425号集石

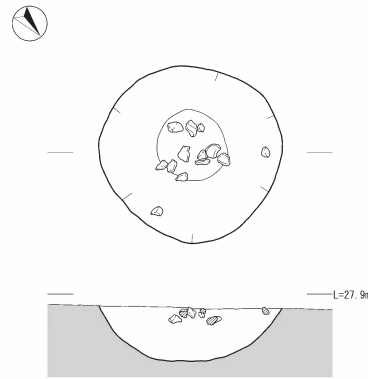


第141图 418, 419, 420, 423, 424, 425号集石・419号集石出土遺物

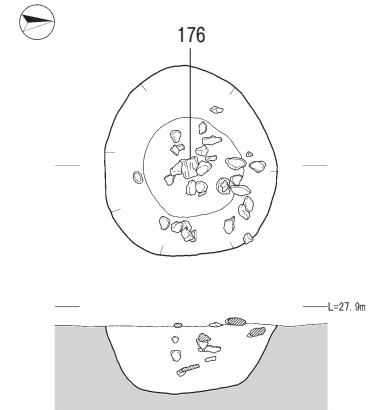
426号集石



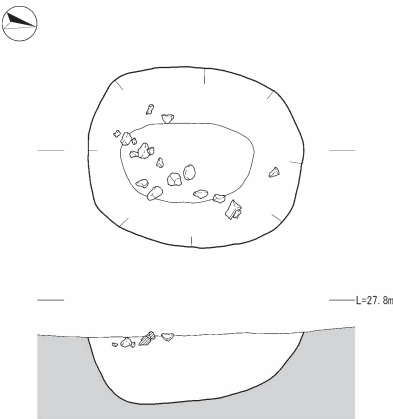
427号集石



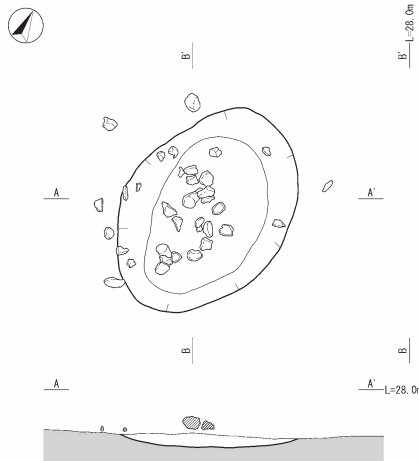
429号集石



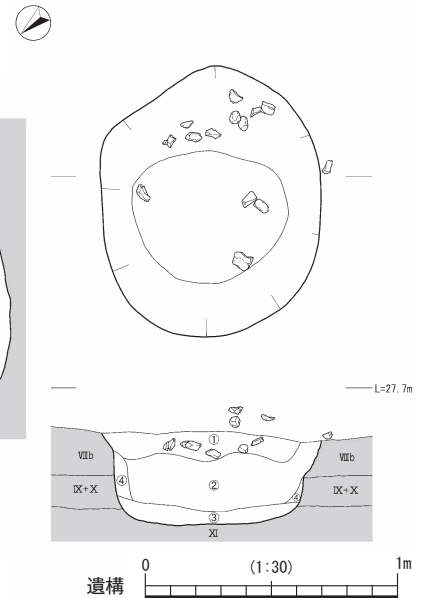
431号集石



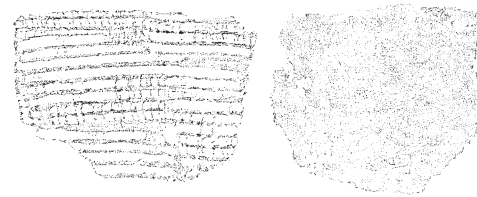
432号集石



434号集石

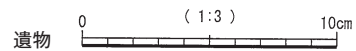


426号集石



- ① 黒褐色土
- ② 黒色土
- ③ にぶい黄褐色土
- ④ 暗灰黄色土

429号集石



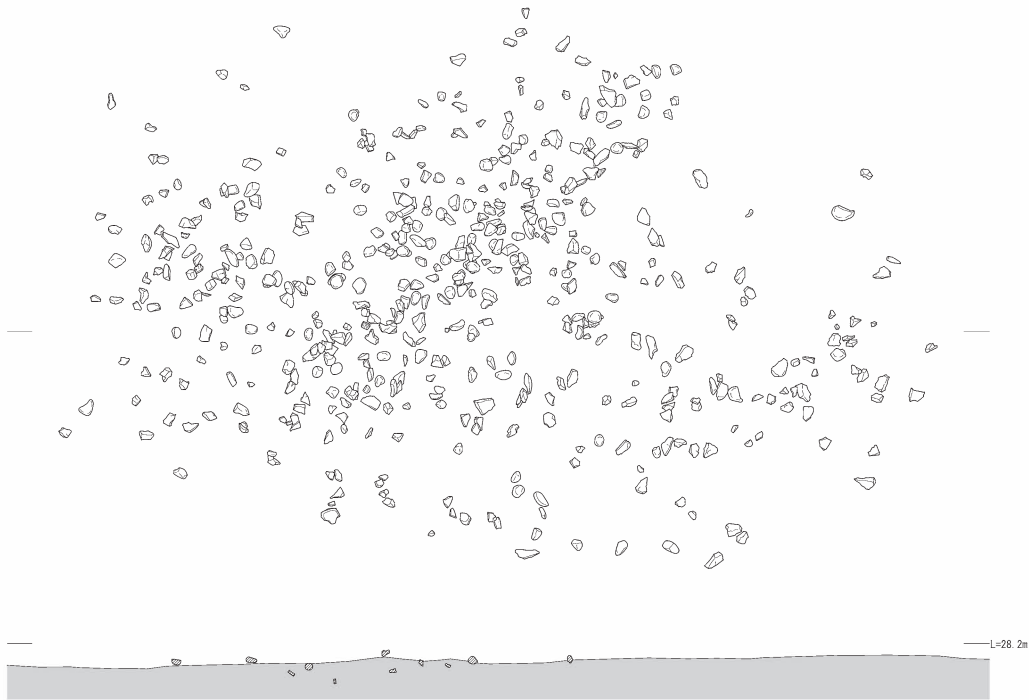
第142図 426, 427, 429, 431, 432, 434号集石・426, 429号集石出土遺物

確認された。土坑は、85cm×75cmの略円形プランで、礫は、土坑検出面に多くが集中し、1.4m×1.3mの範囲に広がる。構成礫は、総数63点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

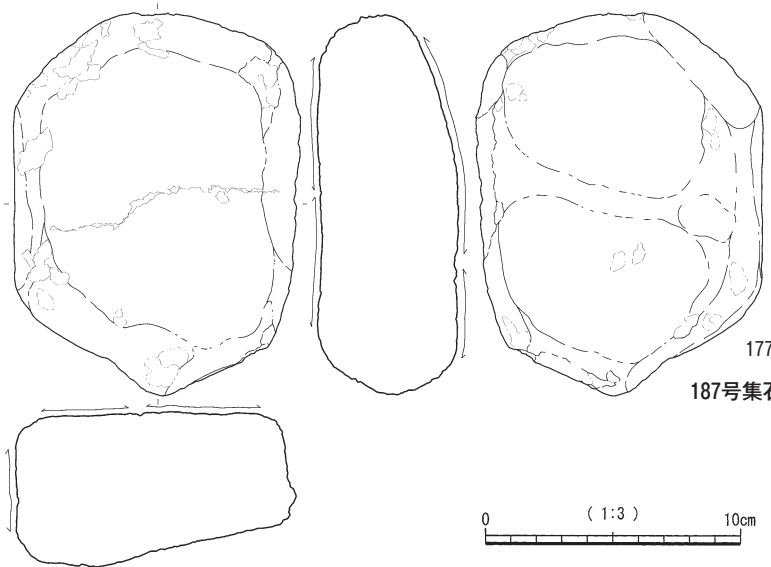
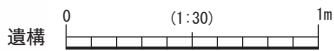
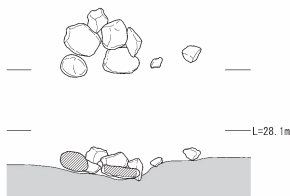
296号集石 (第123図)

F-39区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×80cmの略円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数23点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

177号集石



187号集石



177

187号集石

第143図 177, 187号集石・187号集石出土遺物

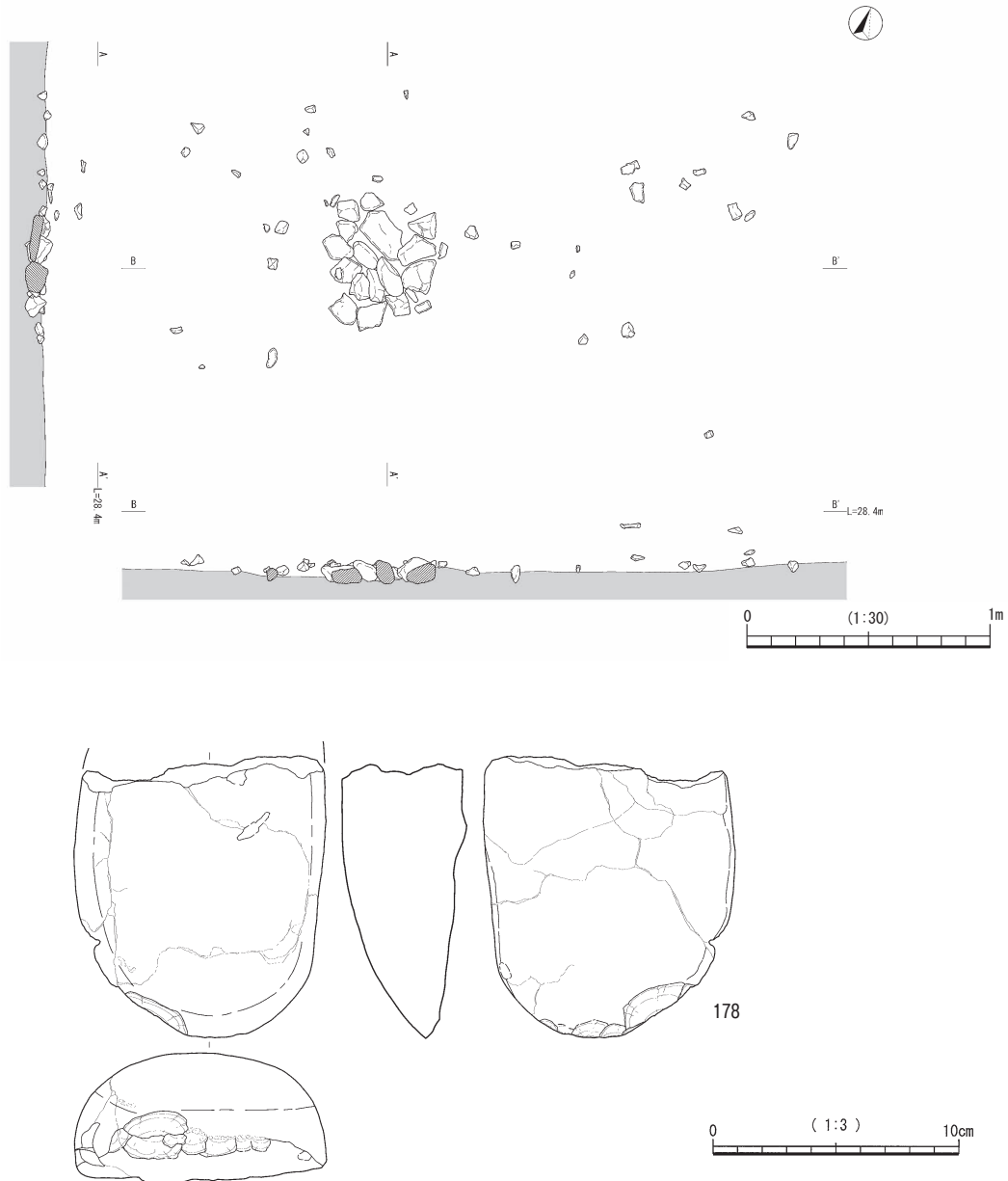
297号集石 (第123図)

F-39区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×75cmの略円形プランで、埋土に多量の炭を含む。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数40点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

298号集石 (第123図)

F-39区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、95cm×85cmの略円形プランで、礫は、一部土坑外にも見られるが、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数87点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

196号集石



第144図 196号集石・出土遺物

300号集石 (第124図)

F-38・39区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。2基の集石が切り合っているが、一連のものとして掲載した。土坑①は95cm×85cmの円形プランで、土坑②は125cm×115cmの円形プランで、土坑①に切られる。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数126点で、石材は凝灰岩と砂岩とが同量である。集石内遺物は確認できなかった。

302号集石 (第124図)

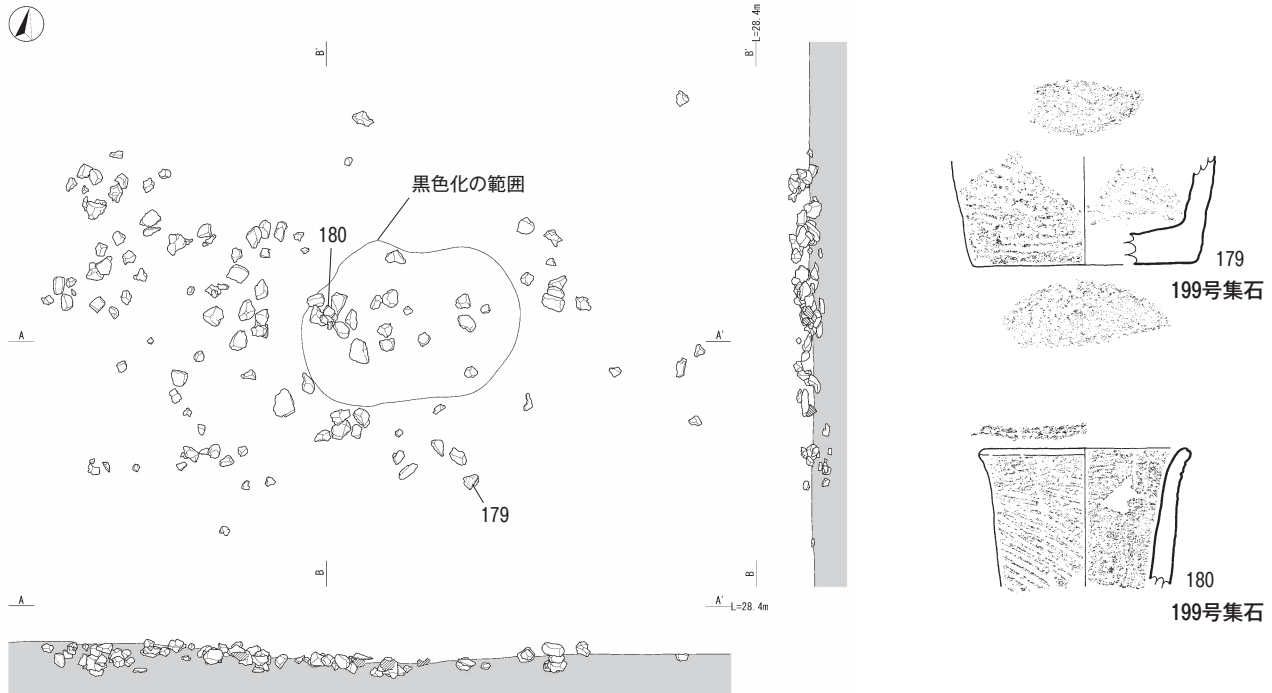
F-39区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も

確認された。土坑は、75cm×70cmの略円形プランで、礫は、わずかに土坑外に見られるが、ほぼ土坑内に収まる。構成礫は、総数26点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

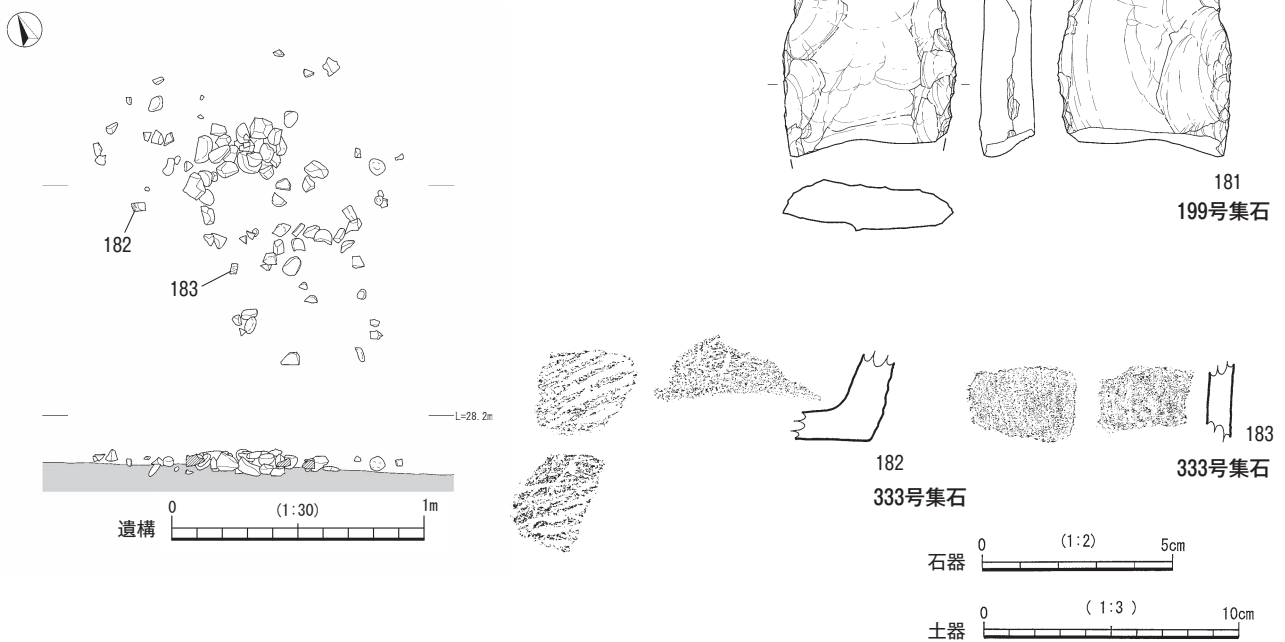
303号集石 (第124図)

E・F-39区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×90cmの楕円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数23点で、石材はわずかに砂岩が優位である。集石内遺物と判断した

199号集石



333号集石



第145図 199, 333号集石・出土遺物

ものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

304号集石 (第124図)

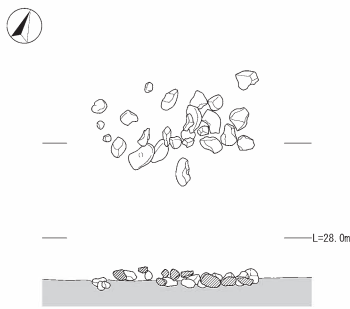
E・F-39区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、135cm×105cmの楕円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数101点で、

石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは土器2点で、これを図化した。135は短い条痕を羽状に施文する。136は、条痕を格子状に施文している。

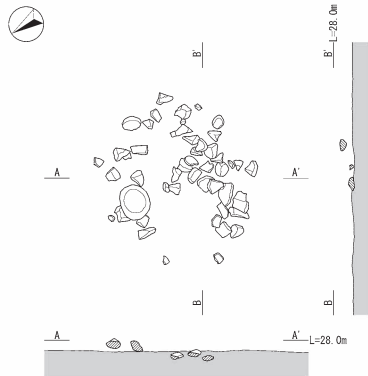
305号集石 (第124図)

E-39区Ⅹ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、95cm×85cmの略円形プランで、礫は、

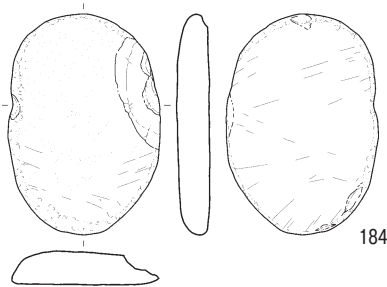
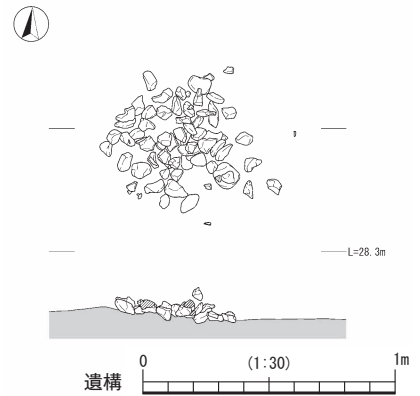
354号集石



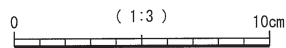
362号集石



414号集石



414号集石



第146図 354, 362, 414号集石・414号集石出土遺物

土坑内に収まる。構成礫は、総数39点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。211号土坑と212号土坑を切り、噴砂によって一部が切られている。

306号集石 (第125図)

E-39・40区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、95cm×75cmの楕円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数7点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

307号集石 (第125図)

E-39区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、170cm×145cmのやや大型の楕円形プランで、検出面から底面までが40cmと深い。礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数49点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは石器1点で、これを図化した。137は石皿類2B類に属する。

308号集石 (第125図)

E-39区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×80cmの楕円形プランで、礫は、

土坑内に収まる。構成礫は、総数19点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

309号集石 (第125図)

E-39区VIII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×65cmの略円形プランで、礫は、土坑周辺に散在する。構成礫は、総数47点で、比較的まとまって出土しており、扁平な凝灰岩礫が3点あることが特徴的な印象を受ける。石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを図化した。

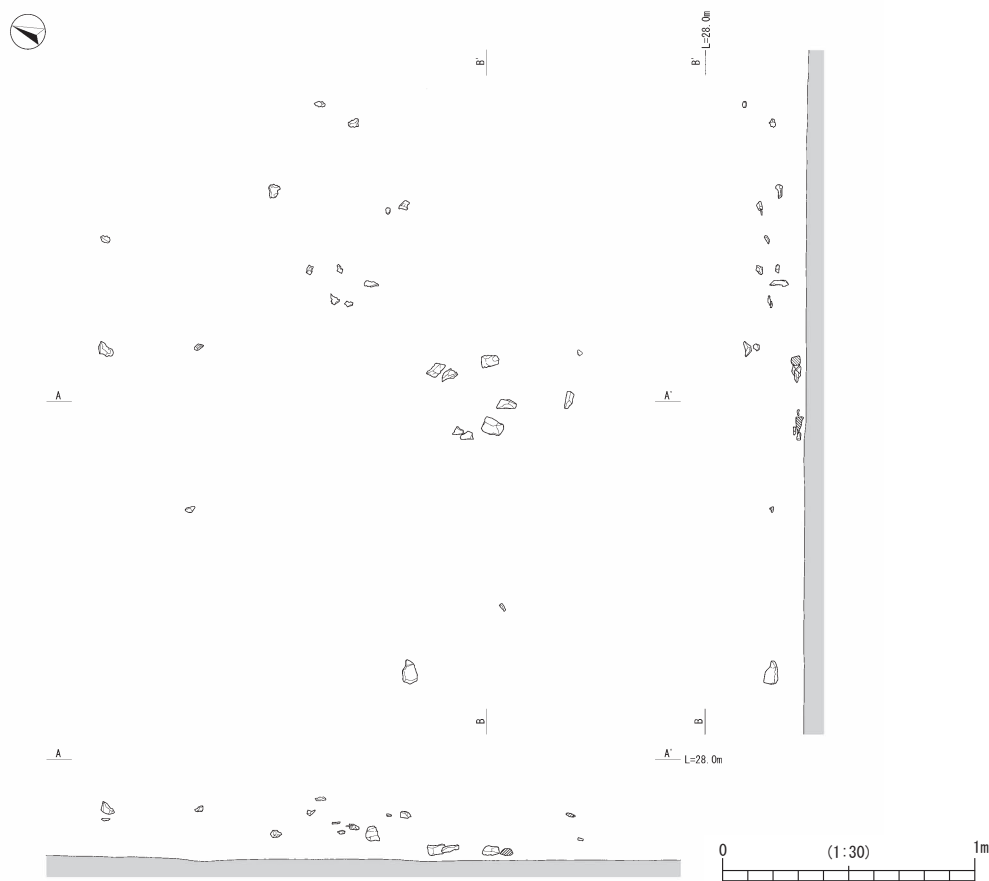
310号集石 (第126図)

E-39区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×85cmの楕円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数44点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器1点を図化した。

313号集石 (第126図)

E-39区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、135cm×105cmの楕円形プランで、中央部で2段掘りとなる。礫は、土坑内に収まり、土坑の

4号集石



第147図 4号集石

形状と礫の集中とに明確な関係は見いだせなかった。構成礫は、総数80点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器2点を図化した。

314号集石 (第126図)

E-39区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×80cmの楕円形プランで、礫は、土坑周辺の1.2m×1.2mの範囲に広がる。構成礫は、総数46点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

315号集石 (第126図)

E-39区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×75cmの楕円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数34点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点で、このうち土器1点を図化した。

316号集石 (第126図)

E-38・39区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×85cmの略円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数40点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

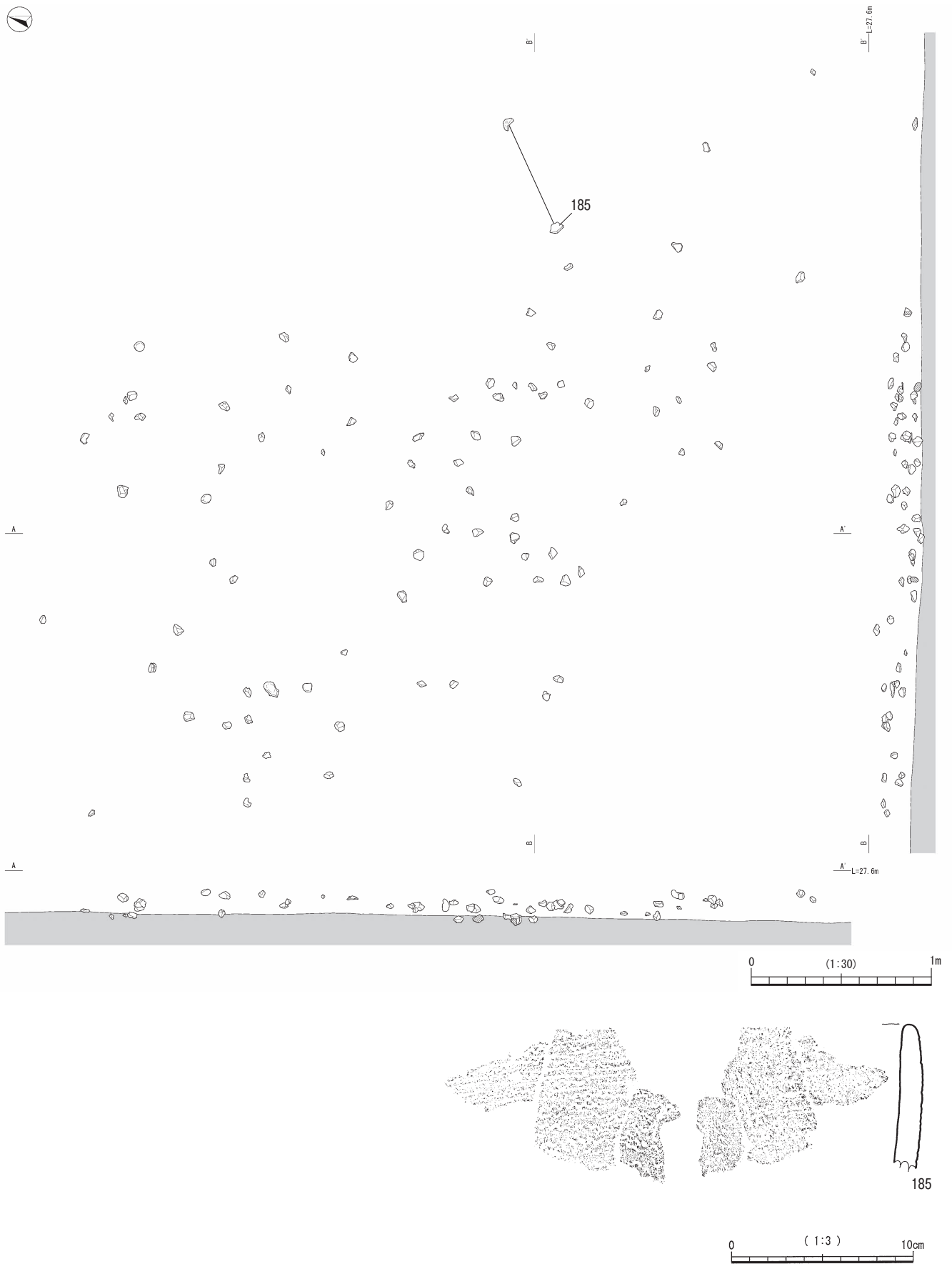
317号集石 (第126図)

E-39・40区Ⅹ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、55cm×55cmの円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数6点で、石材は全て砂岩である。集石内遺物は確認できなかった。224号集石を切る。

320号集石 (第126図)

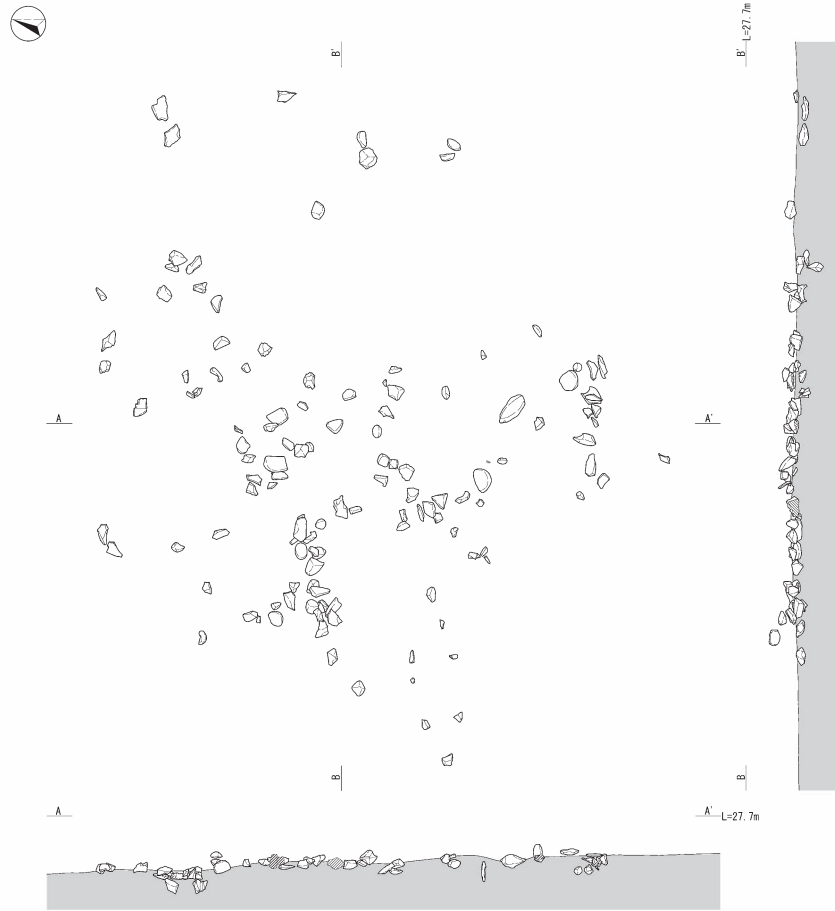
E-39区Ⅹ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、60cm×45cmの楕円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数9点で、石材は全て砂岩である。集石内遺物は確認できなかった。

9号集石

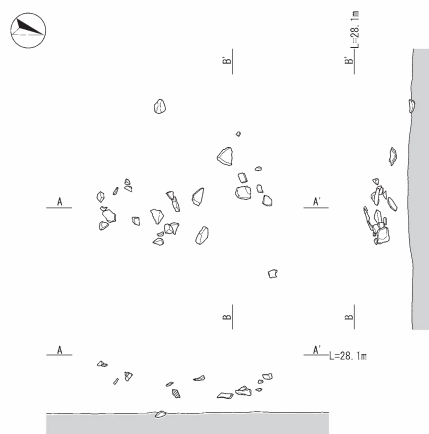


第148図 9号集石・出土遺物

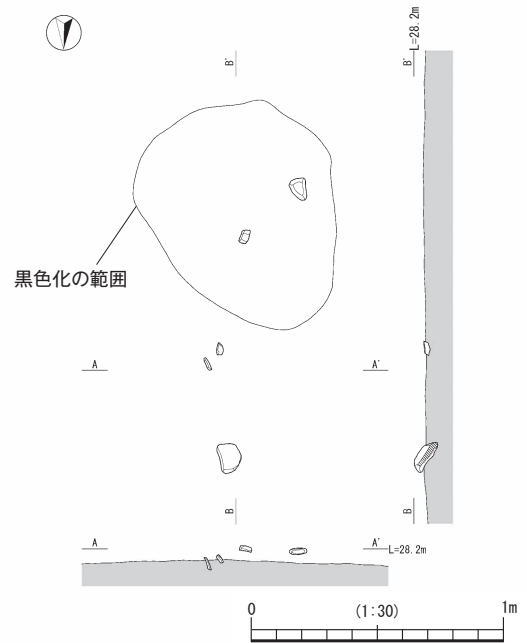
15号集石



33号集石

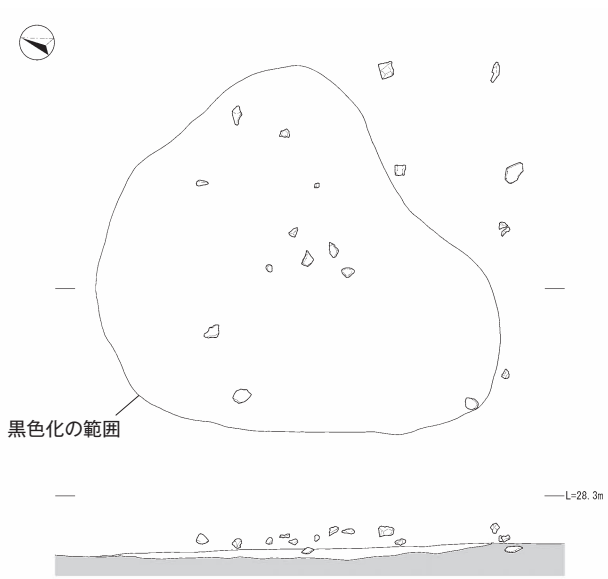


53号集石

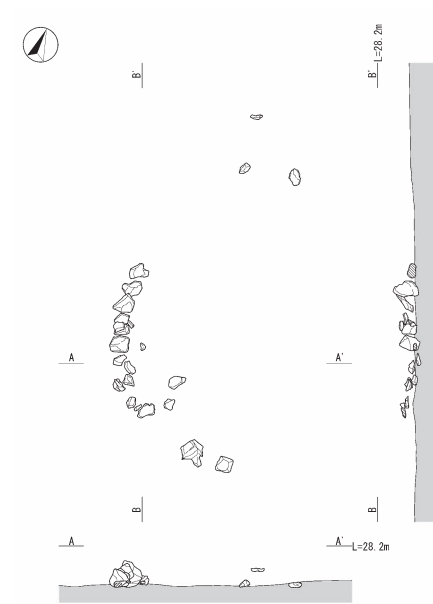


第149図 15, 33, 53号集石

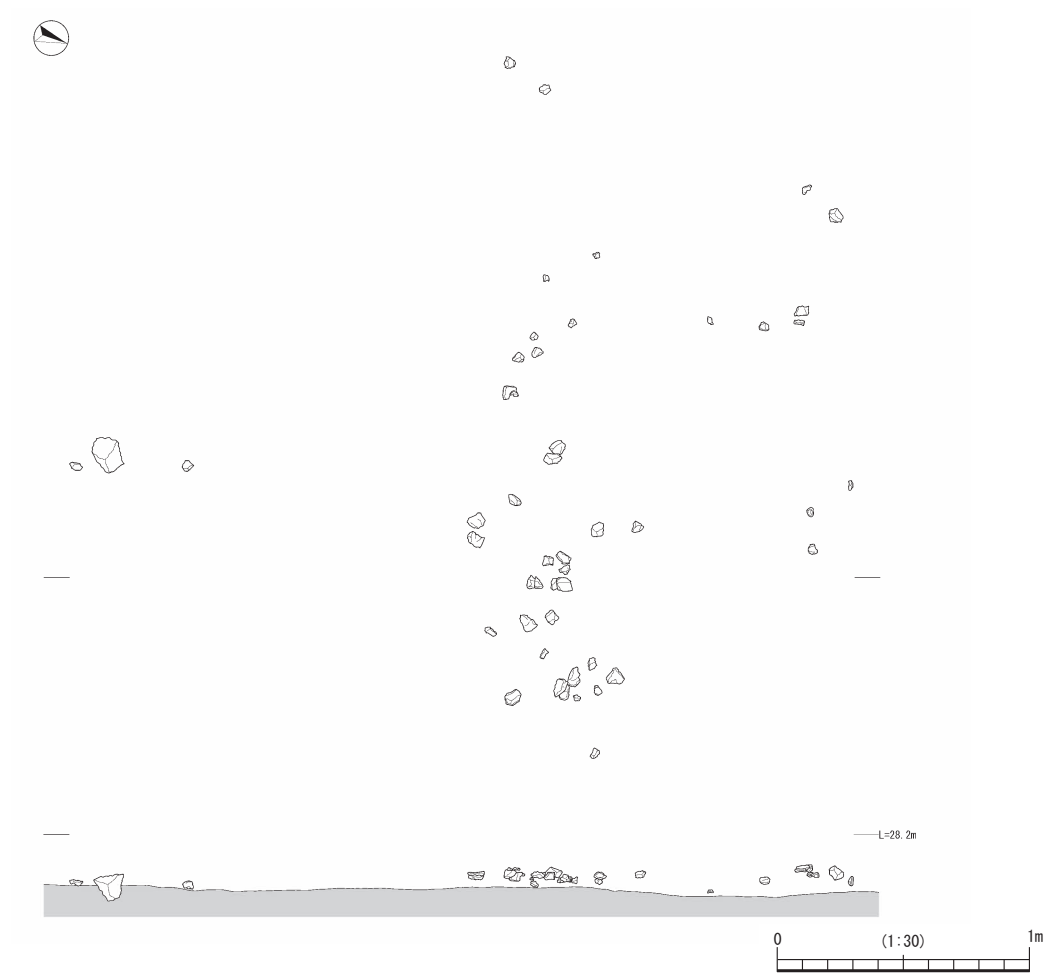
54号集石



62号集石

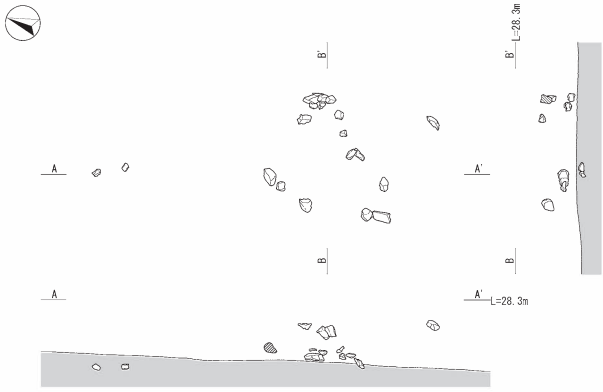


59号集石

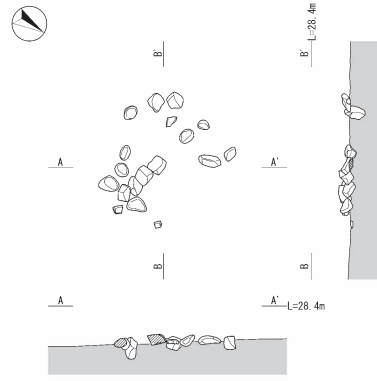


第150図 54, 59, 62号集石

63号集石



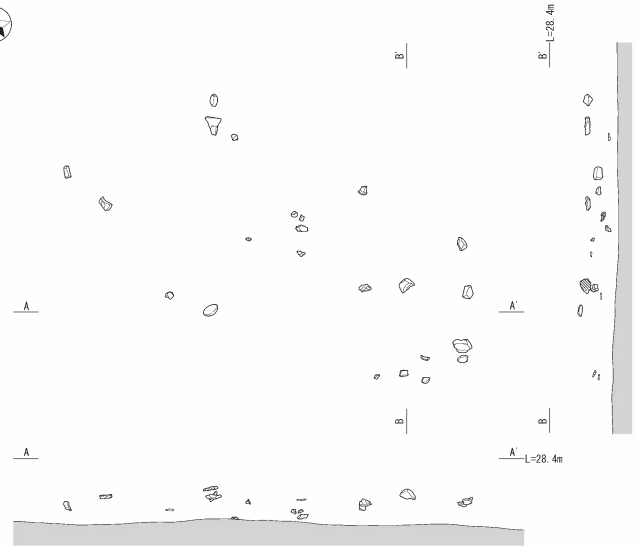
75号集石



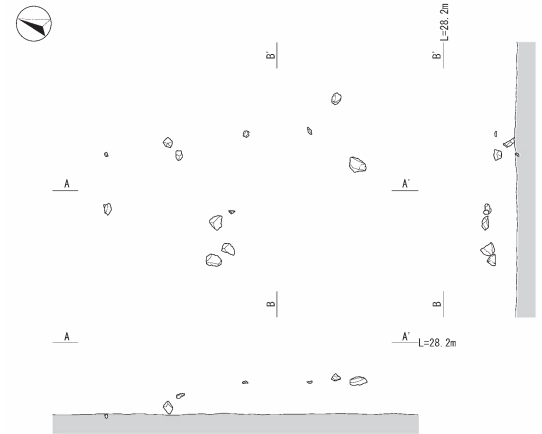
71号集石



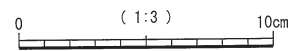
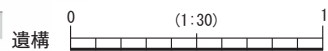
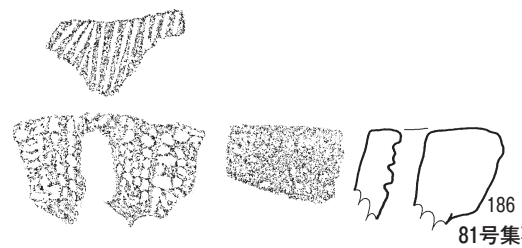
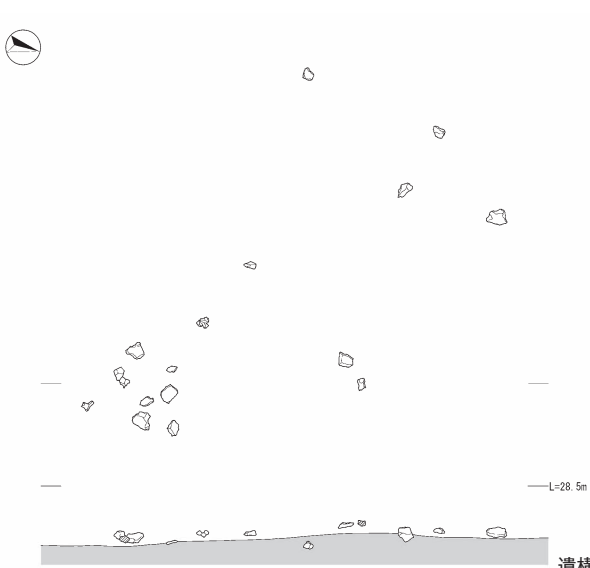
78号集石



80号集石

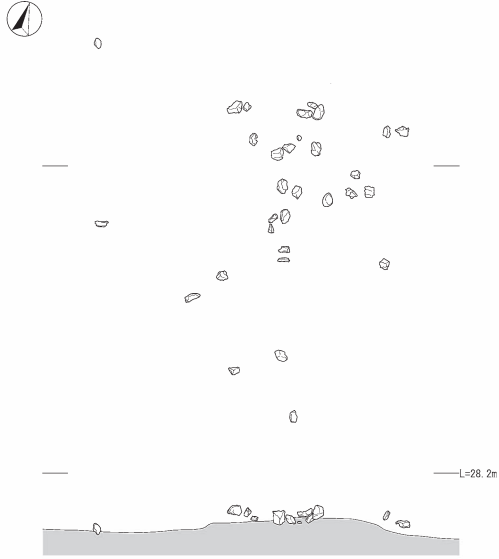


81号集石

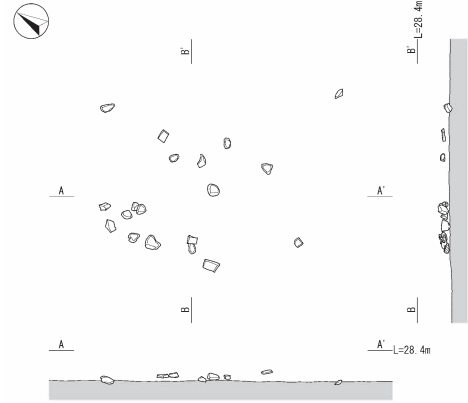


第151図 63, 71, 75, 78, 80, 81号集石・81号集石出土遺物

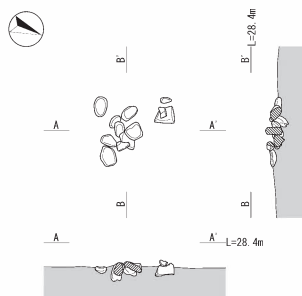
82号集石



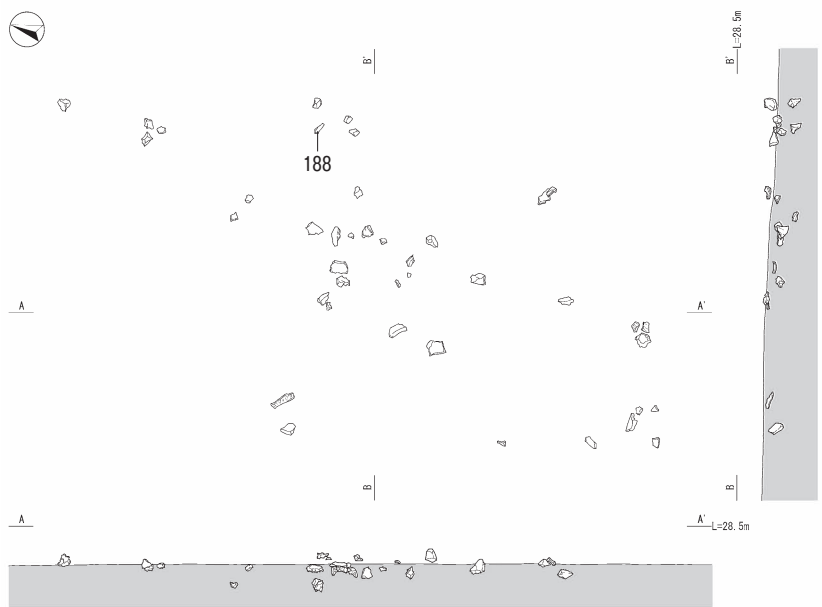
99号集石



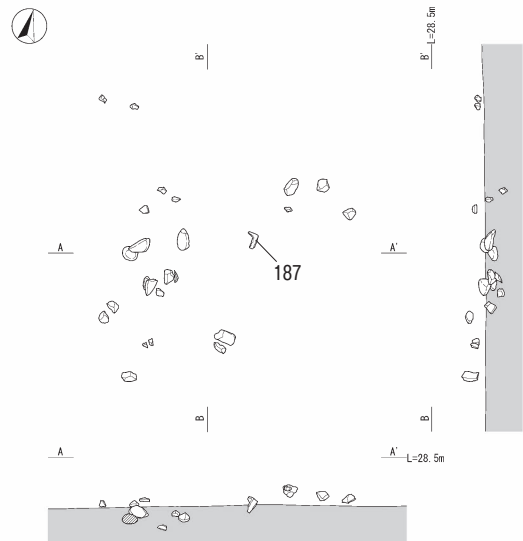
87号集石



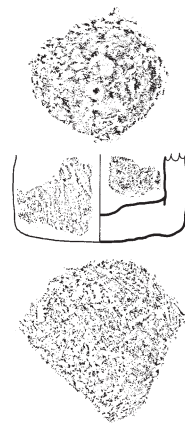
111号集石



103号集石



遺構 0 (1:30) 1m



187
103号集石

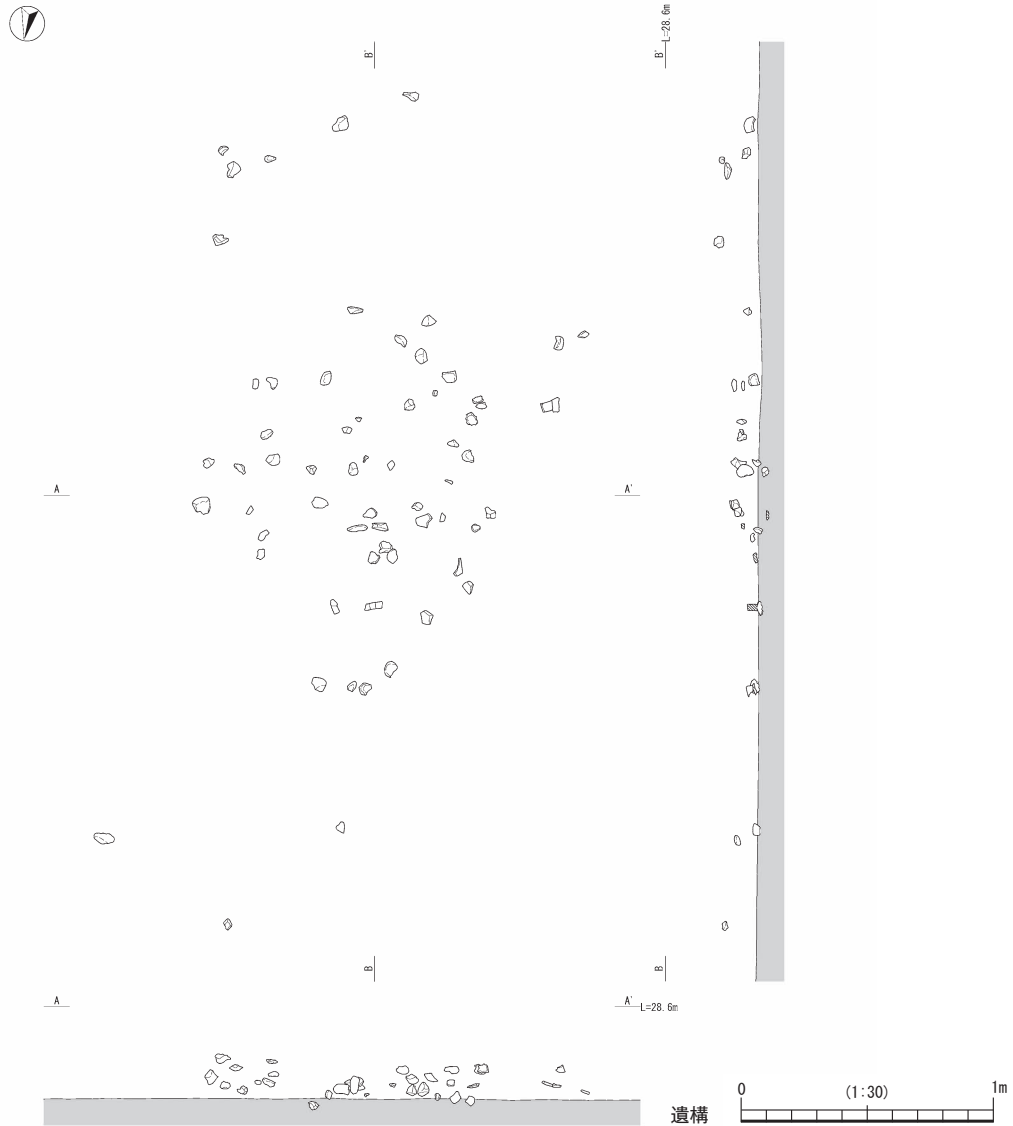


188
111号集石

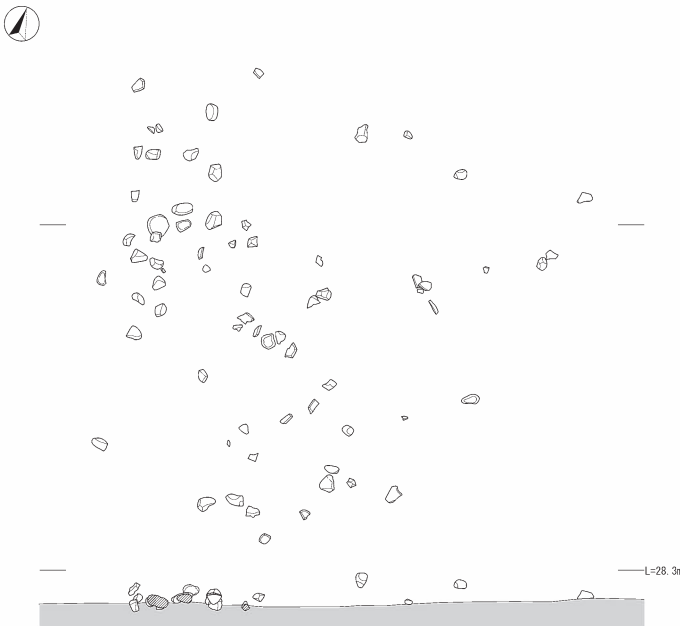
遺物 0 (1:3) 10cm

第152図 82, 87, 99, 103, 111号集石・103, 111号集石出土遺物

112号集石



125号集石



319号集石 (第127図)

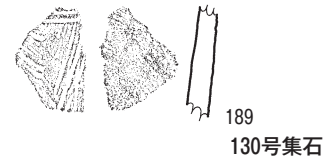
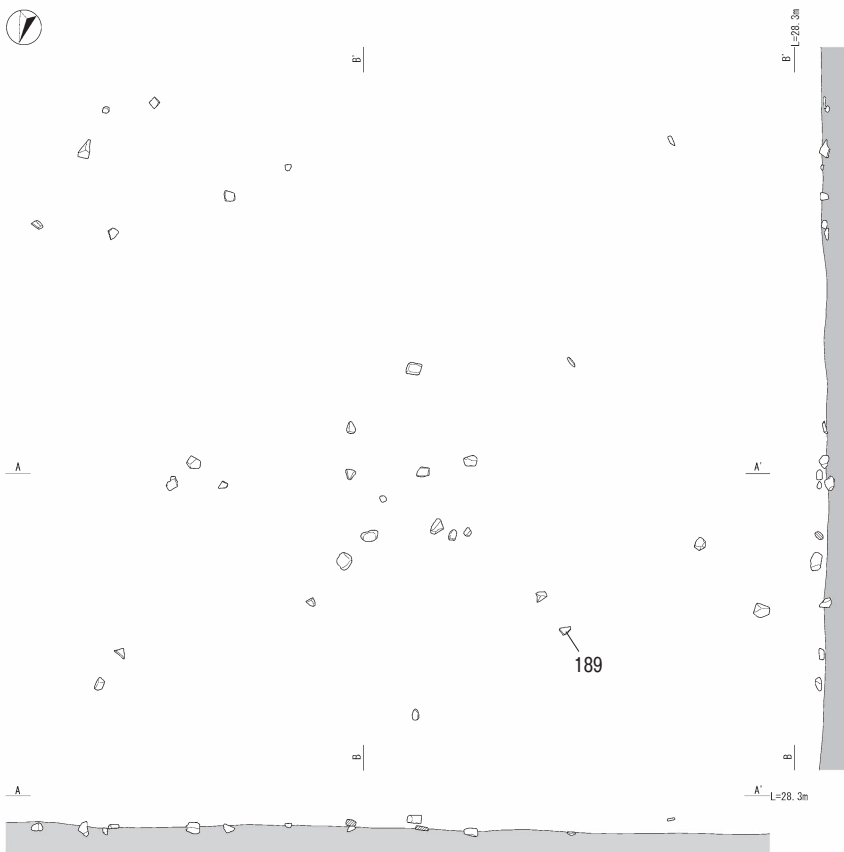
E-39区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×75cmの楕円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数28点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点で、このうち土器1点を図化した。227号集石の上に位置する。

321号集石 (第127図)

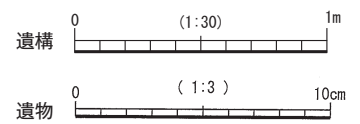
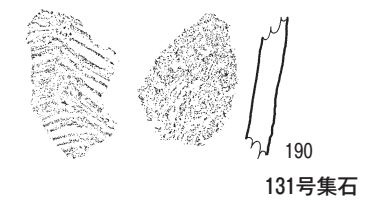
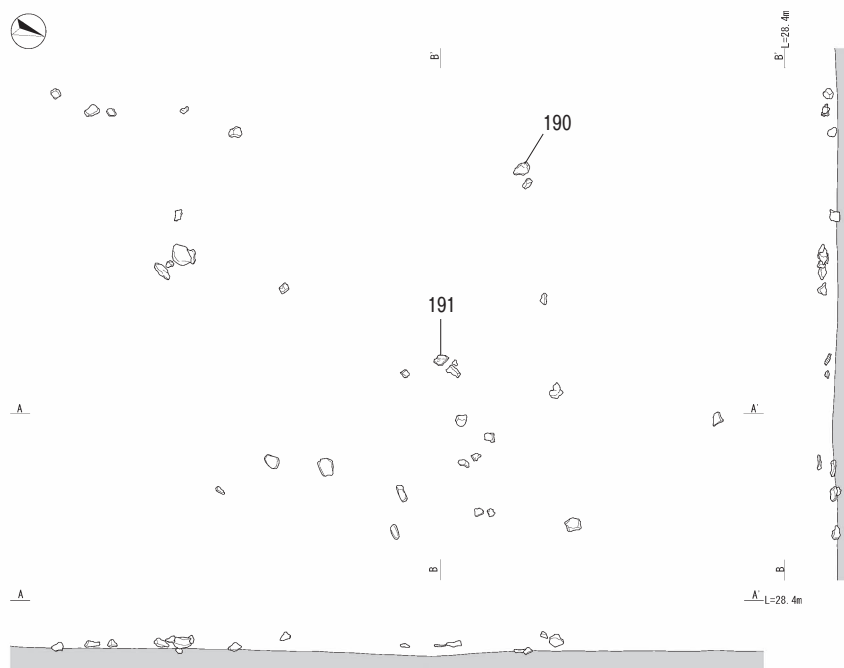
D-39区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。当初は2基の集石として個別に作業を進めていたが、切り合って接しているため、一連の遺構として図化した。土坑①は、80cm×75cmの円形プランで、土坑②は、土坑①に切られ115cmの円形プランである。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数218点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは土器3

第153図 112, 125号集石

130号集石

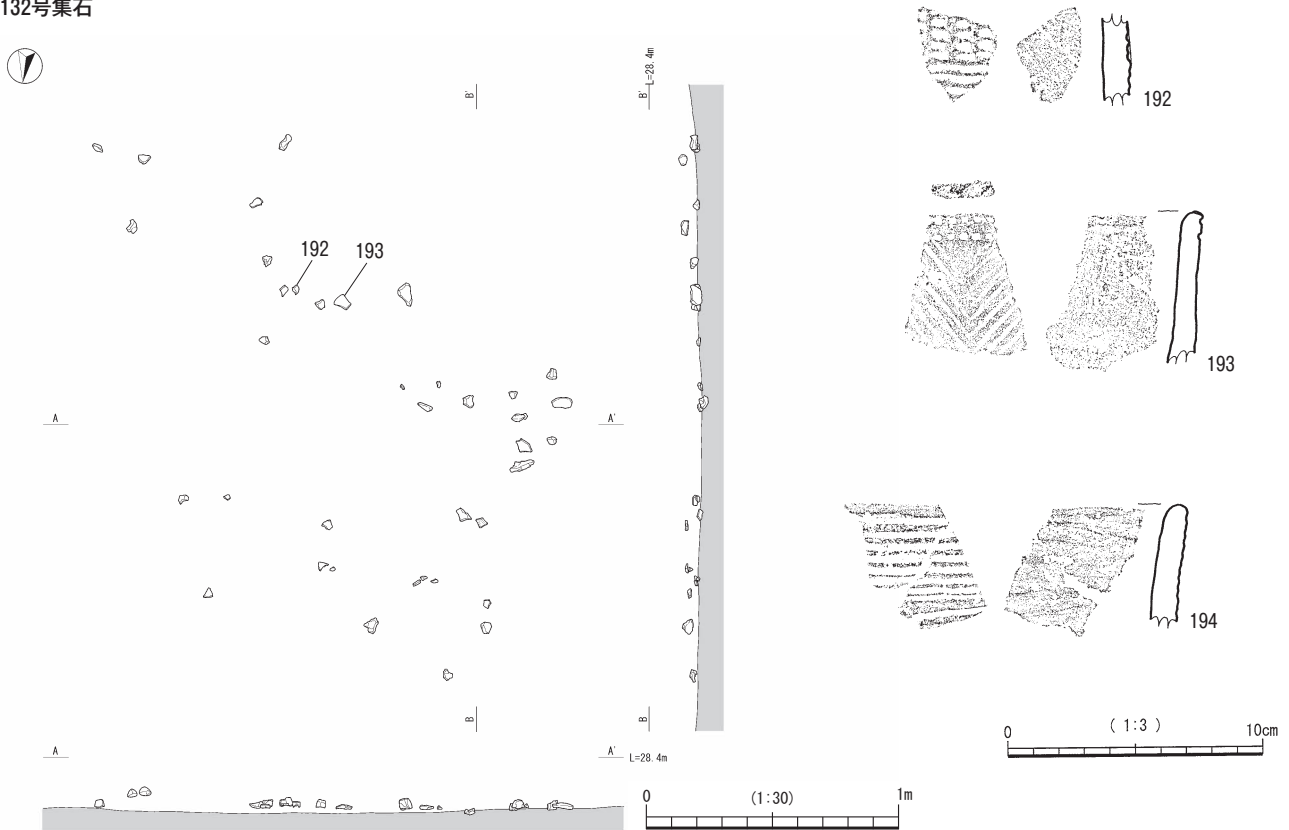


131号集石



第154図 130, 131号集石・出土遺物

132号集石



第155図 132号集石・出土遺物

点で、このうち土器1点を図化した。

322号集石 (第127図)

D-39区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×75cmの円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数21点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点で、このうち土器1点を図化した。

324号集石 (第127図)

D-39区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、95cm×85cmの略円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数13点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを図化した。

325号集石 (第128図)

D-39区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、65cm×55cmの略円形プランで、礫は、1.9m×1.4mの範囲に広がる。構成礫は、総数79点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

326号集石 (第128図)

D-39区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、65cm×60cmの略円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数21点で、石材は砂岩と凝灰岩で構成される。集石内遺物は確認できなかった。

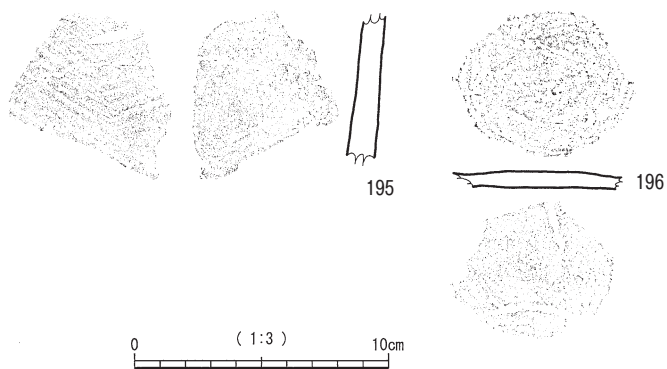
327号集石 (第128図)

D-39区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、231号土坑と切り合いにあるため全体形状は不明であるが、長軸85cmの楕円形プランが想定される。礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数20点で、石材は凝灰岩と砂岩とが同量である。集石内遺物は確認できなかった。

328号集石 (第128図)

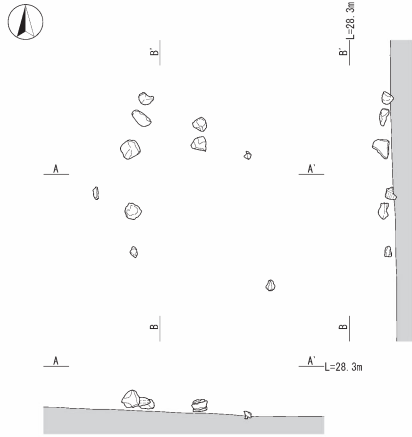
D-39区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×100cmの略円形プランで、検出面から底面までが45cmと深い。礫は、土坑内にほぼ収まり、上下2段に礫が集中する。構成礫は、総数123点で、石材は砂岩が優位である。板状の炭化物の出土も見られた。集石内遺物は確認できなかった。

136号集石

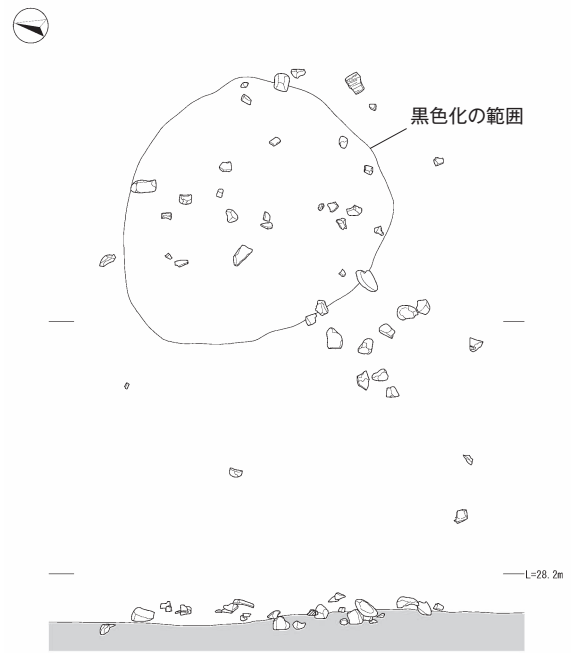


第156図 136号集石・出土遺物

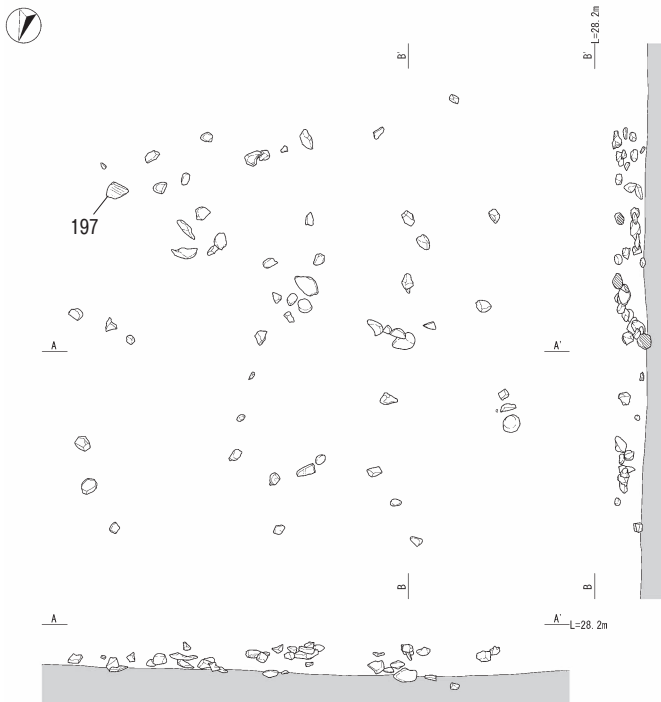
137号集石



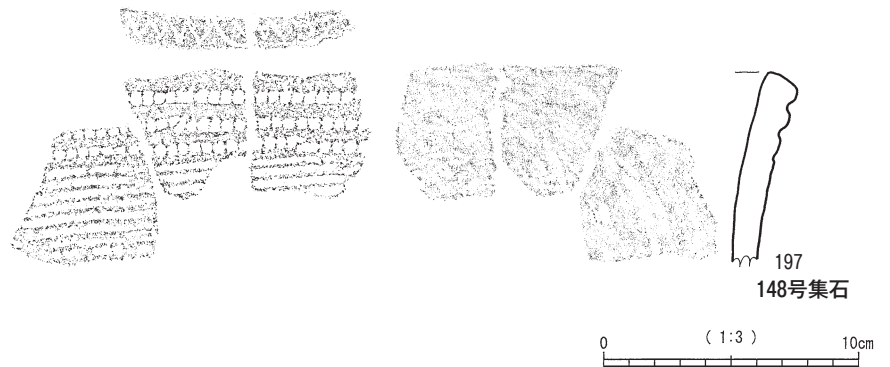
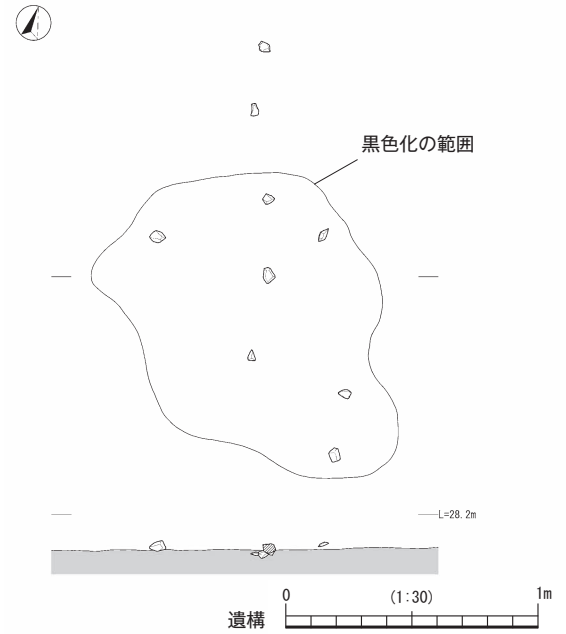
153号集石



148号集石



154号集石



第157図 137, 148, 153, 154号集石・148号集石出土遺物

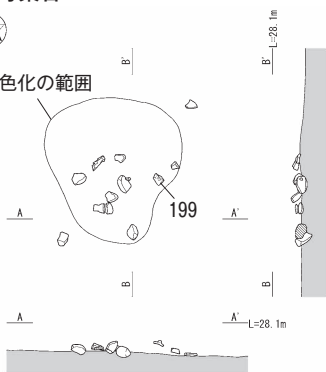
155号集石



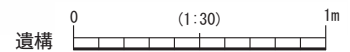
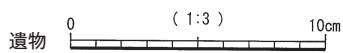
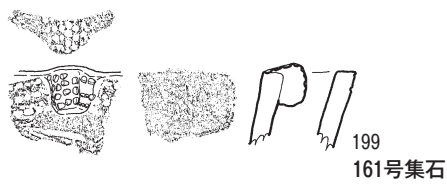
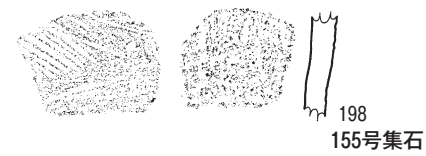
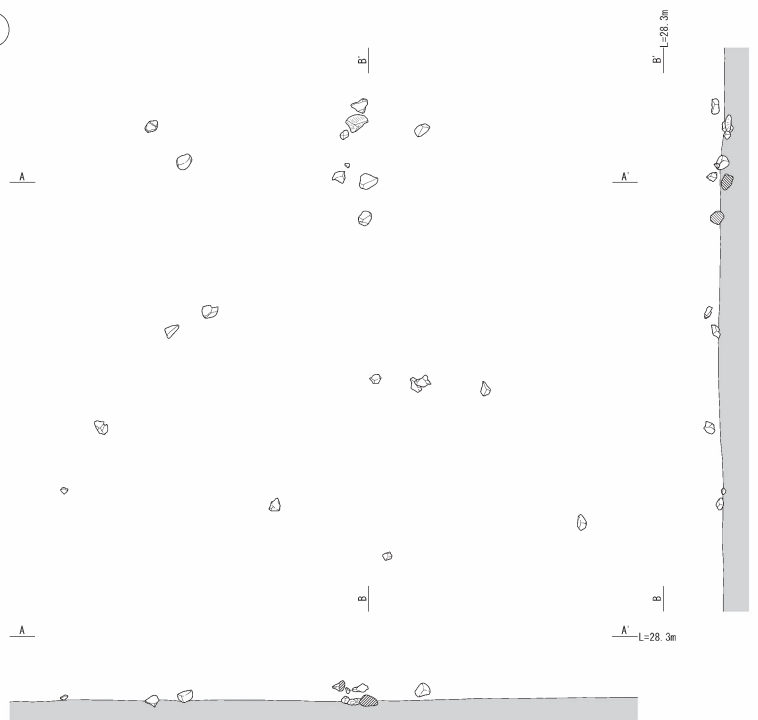
161号集石



黒色化の範囲

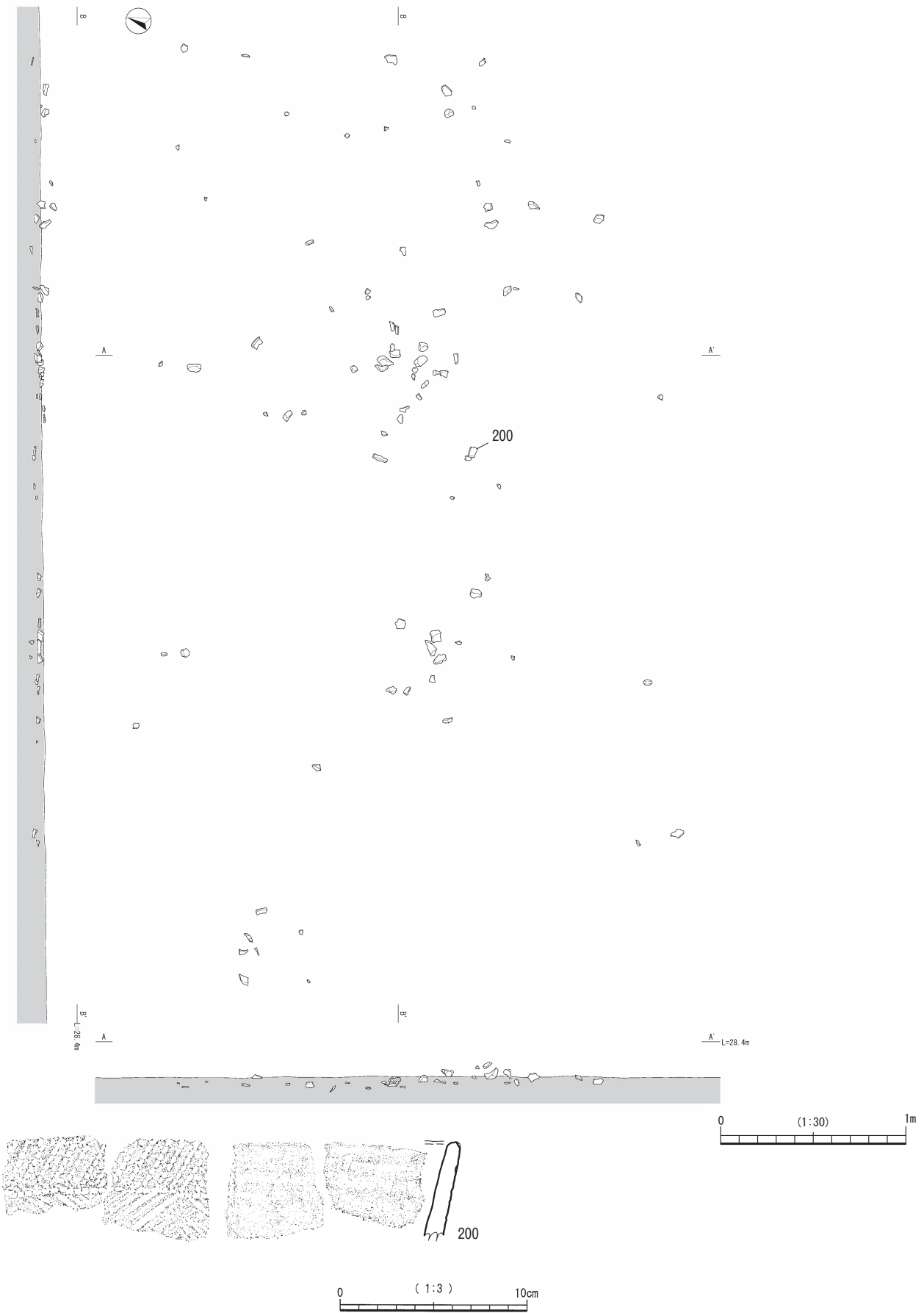


162号集石



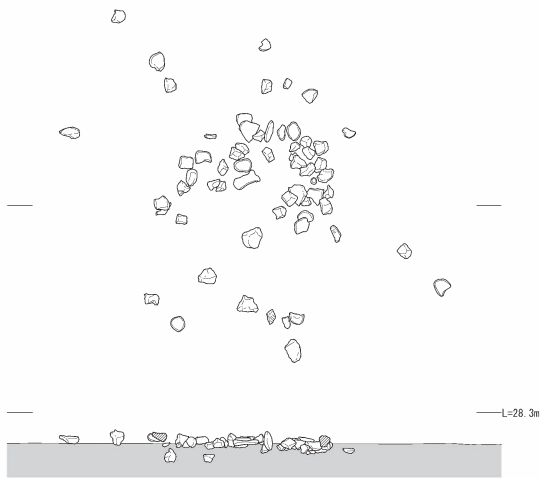
第158図 155, 161, 162号集石・155, 161号集石出土遺物

164号集石

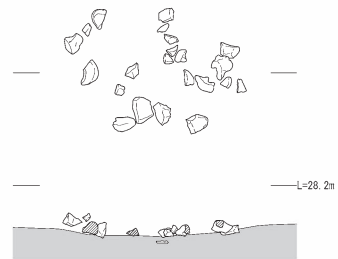


第159図 164号集石・出土遺物

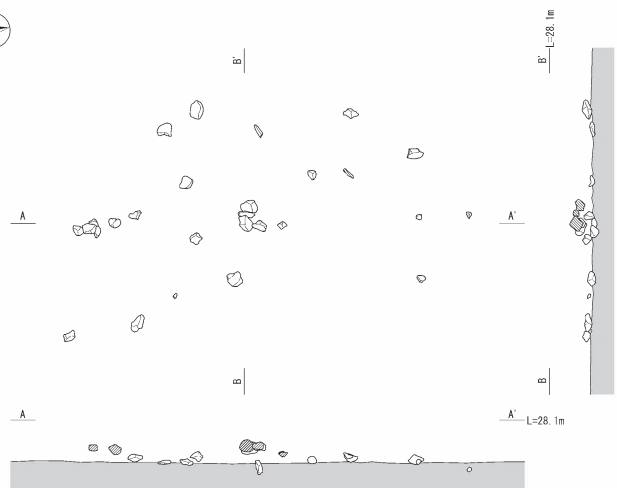
169号集石



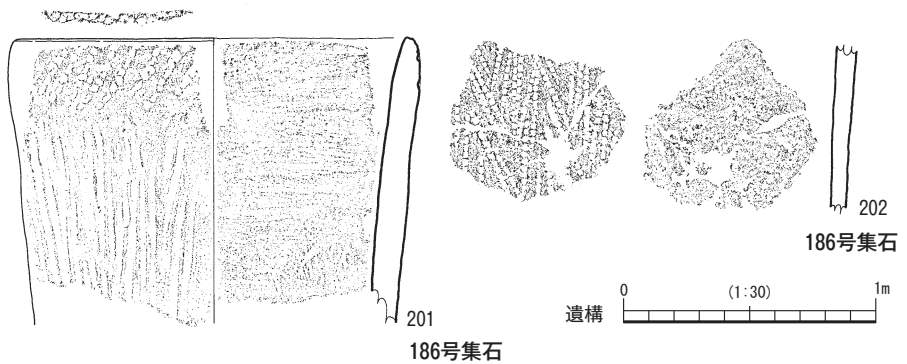
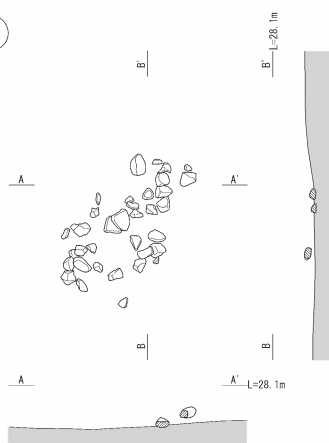
170号集石



181号集石



186号集石



第160図 169, 170, 181, 186号集石・186号集石出土遺物

329号集石 (第128図)

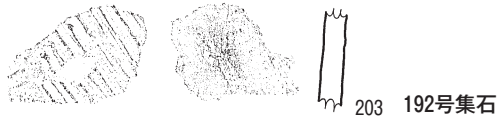
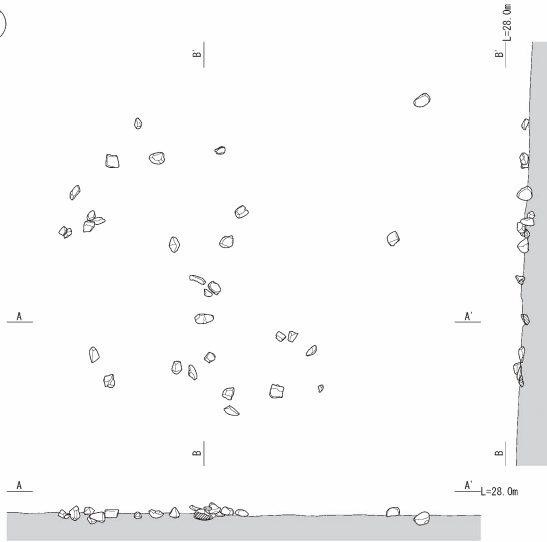
D-39区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、125cm×120cmの円形プランで、礫は、2m×1.7mの範囲に広がる。構成礫は、総数91点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器10点で、このうち土器4点を図化した。

331号集石 (第129図)

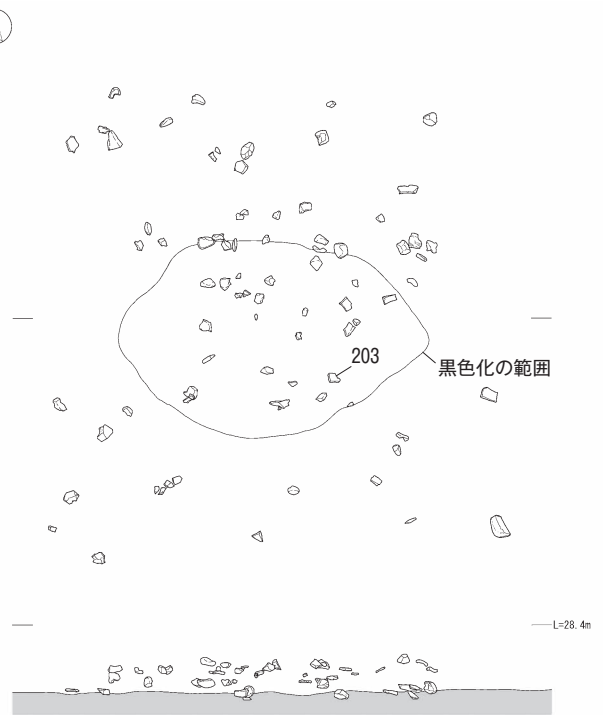
D-39区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も

確認された。土坑は、145cm×130cmの略円形プランで、礫は、2m×1.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数84点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器6点で、このうち土器1点を図化した。424号集石と接合関係にある。151は、角筒形土器である。貝殻条痕文の上に貝殻刺突文を重ねる。内面には、下から上へのケズリ痕が顕著に残されている。角部には、刺突文が短く施文される。

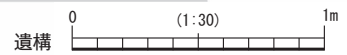
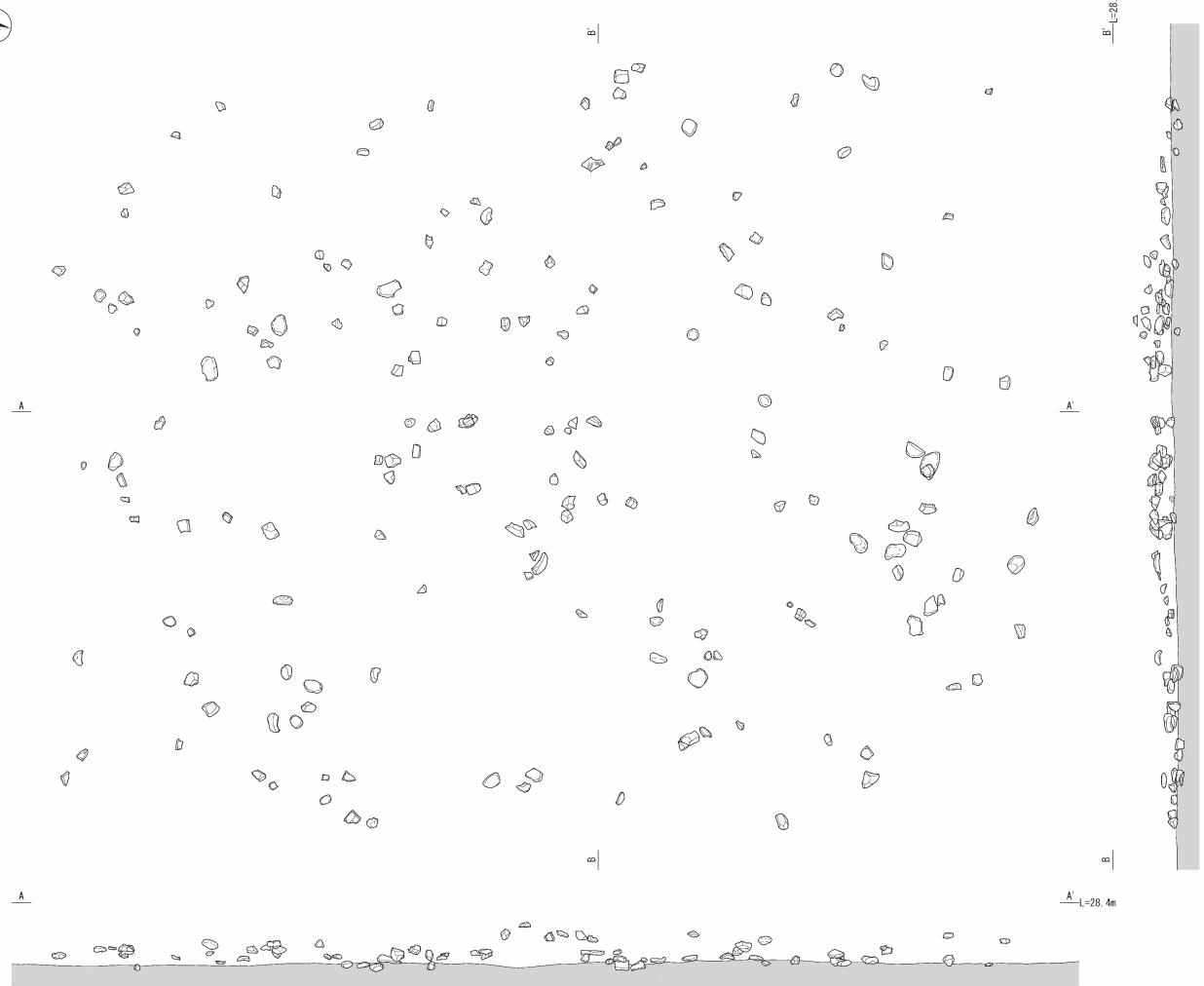
191号集石



192号集石

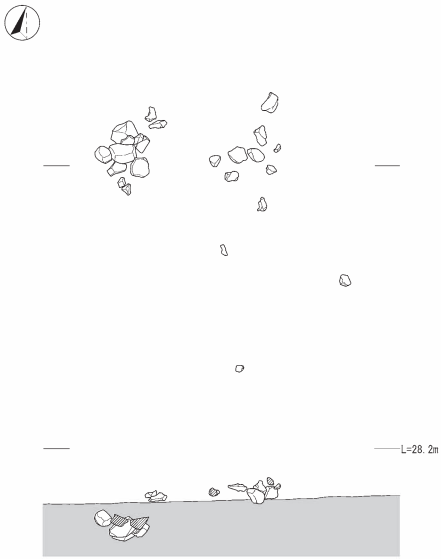


193号集石

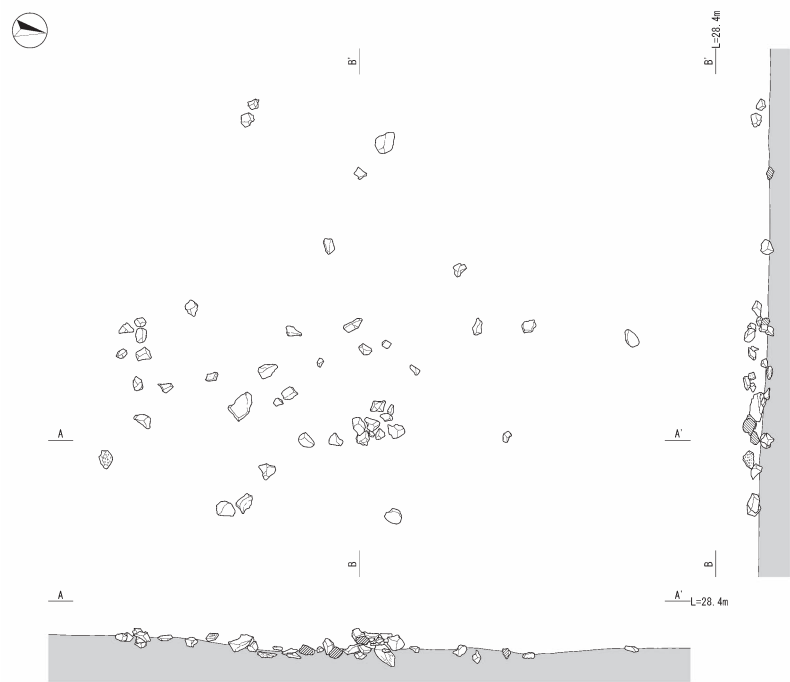


第161図 191, 192, 193号集石・192号集石出土遺物

201号集石



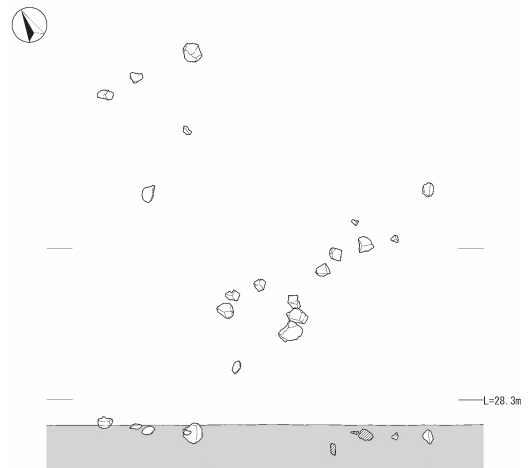
204号集石



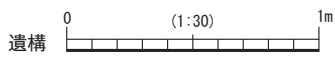
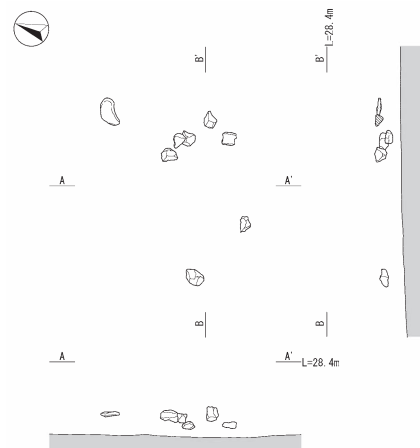
205号集石



207号集石

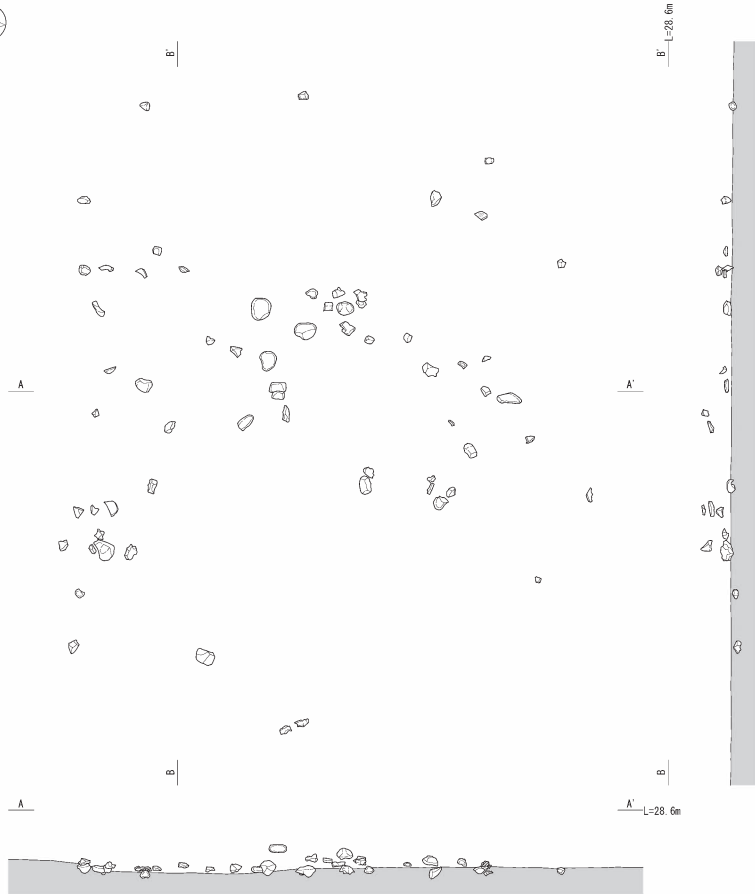


218号集石

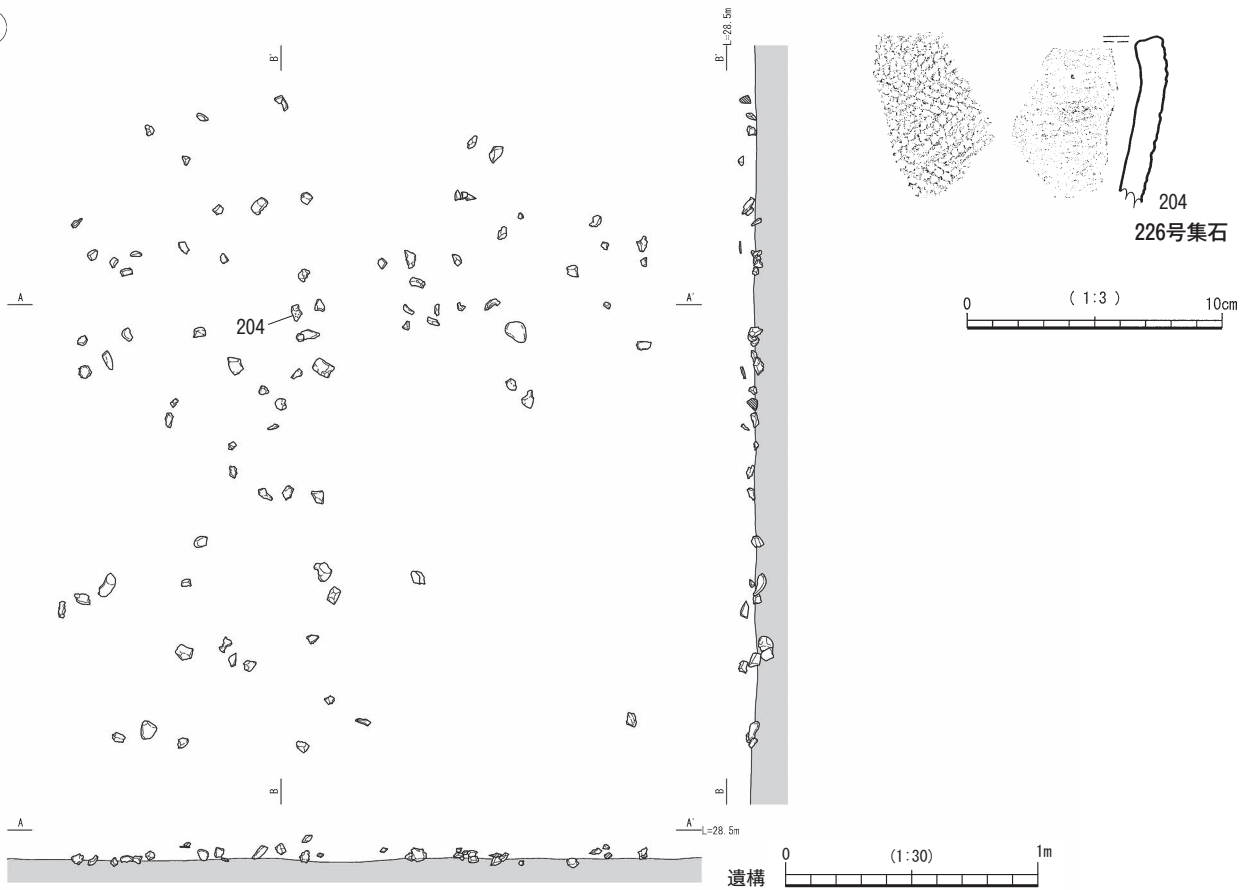


第162図 201, 204, 205, 207, 218号集石

221号集石

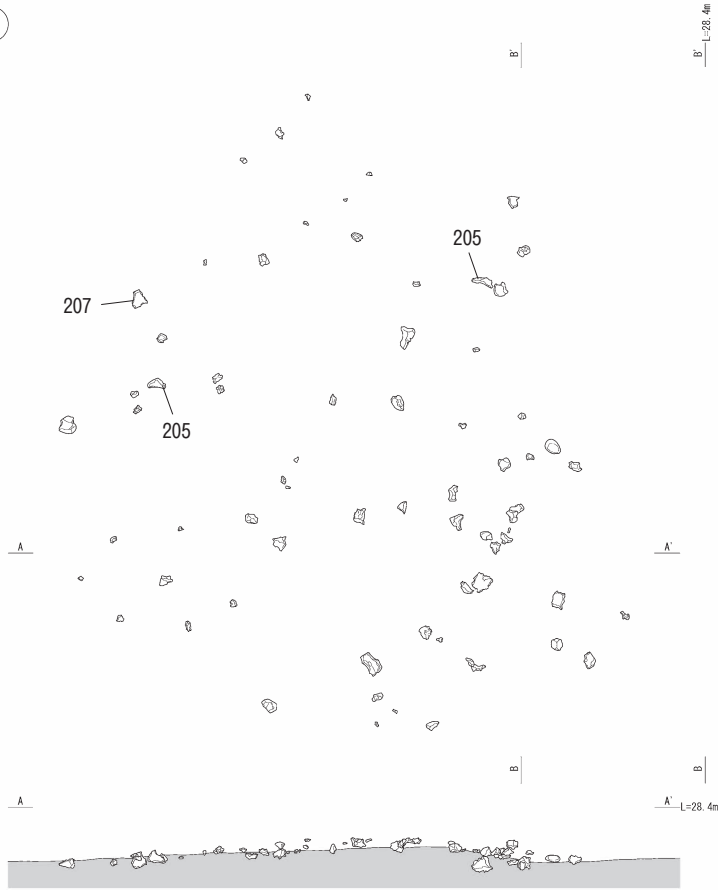


226号集石

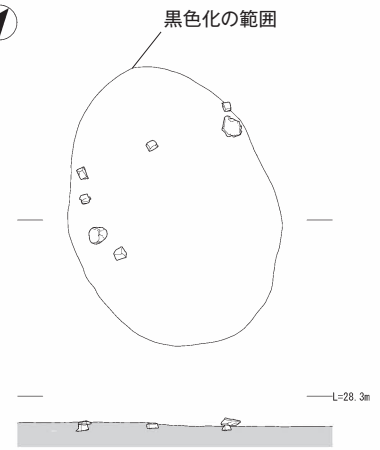


第163図 221, 226号集石・226号集石出土遺物

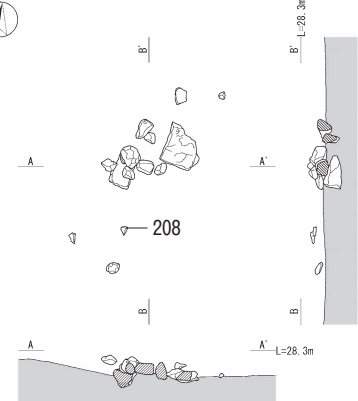
241号集石



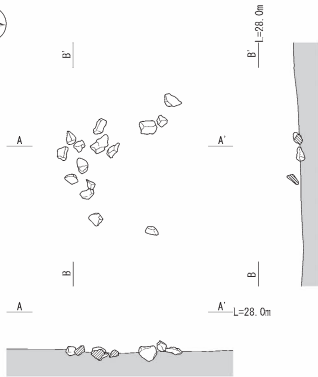
243号集石



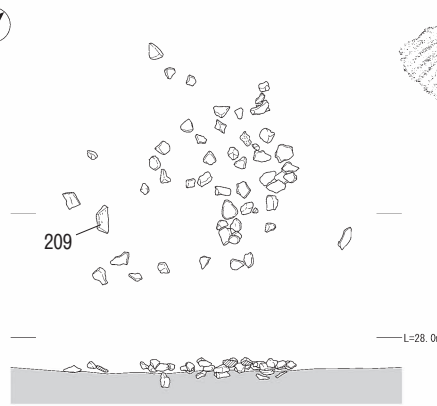
245号集石



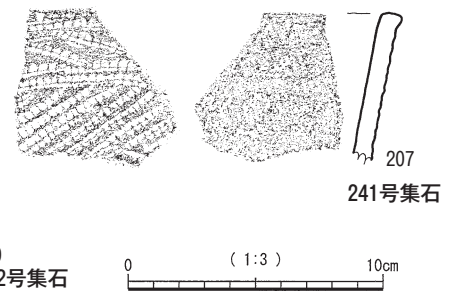
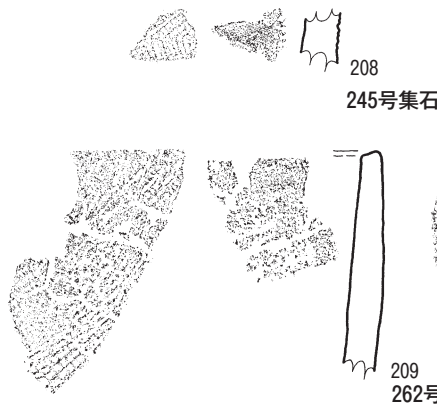
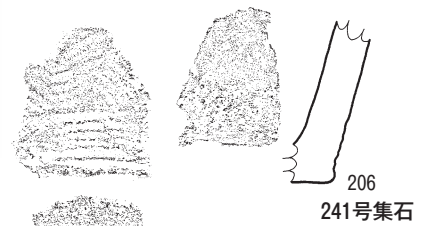
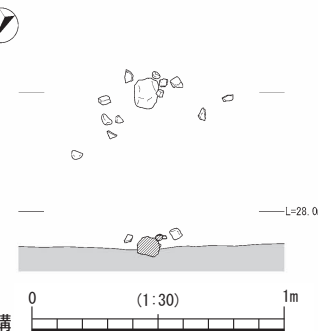
257号集石



262号集石

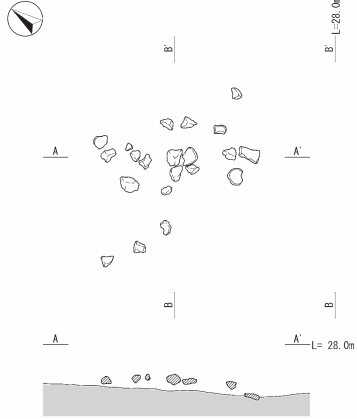


263号集石

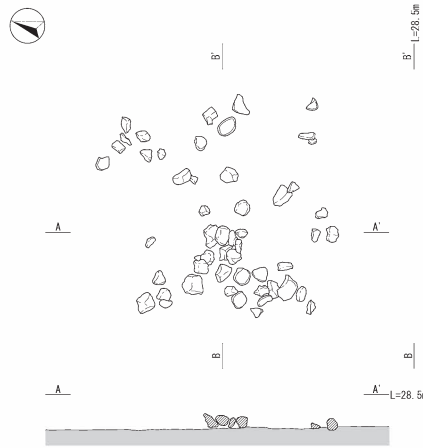


第164図 241, 243, 245, 257, 262, 263号集石・241, 245, 262号集石出土遺物

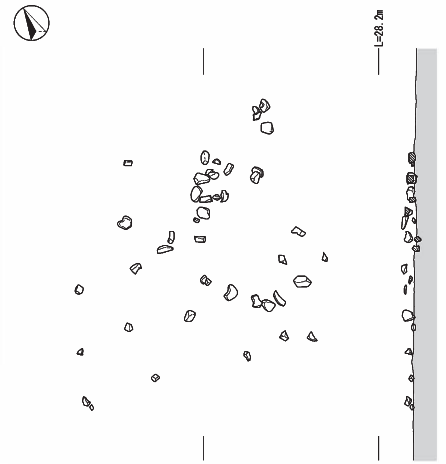
269号集石



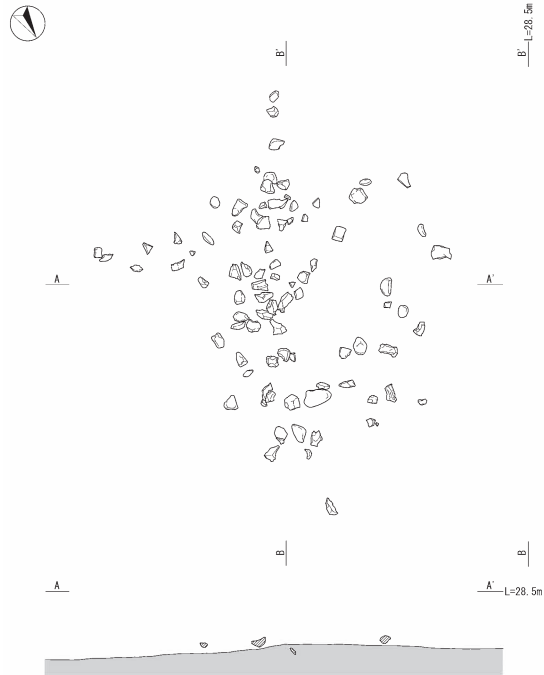
280号集石



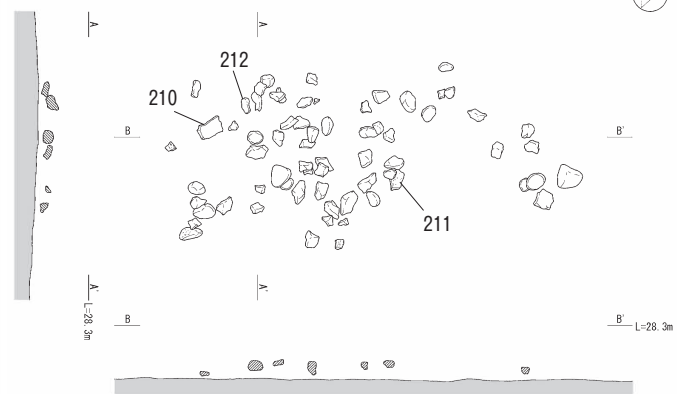
312号集石



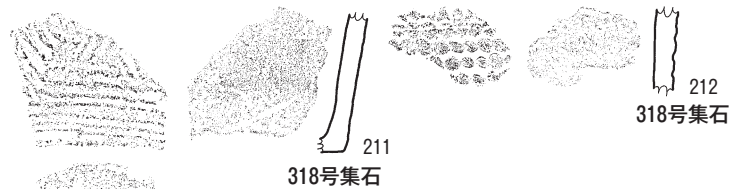
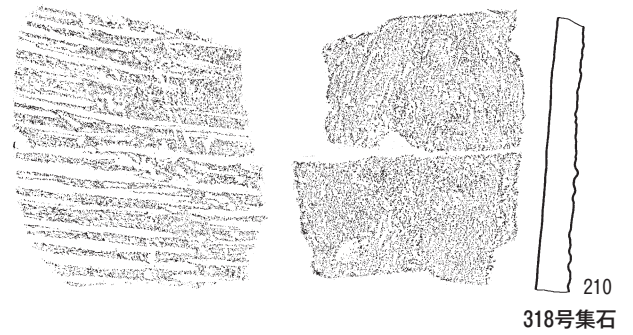
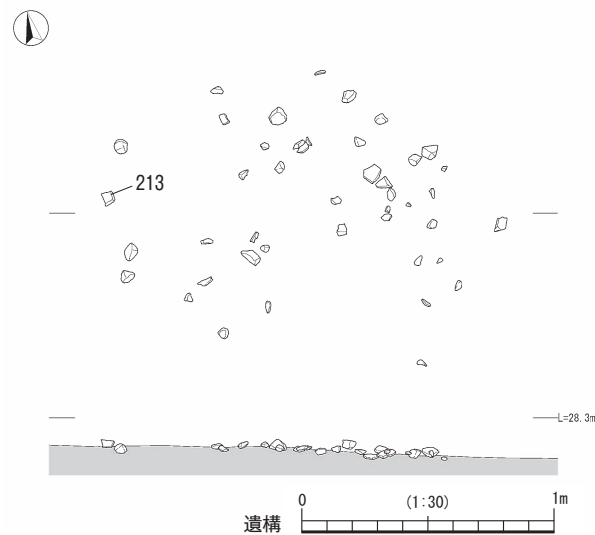
301号集石



318号集石

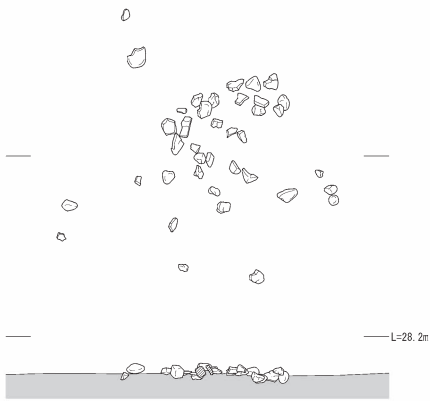


323号集石

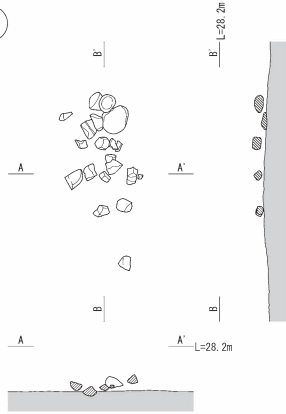


第165图 269, 280, 301, 312, 318, 323号集石・318, 323号集石出土遺物

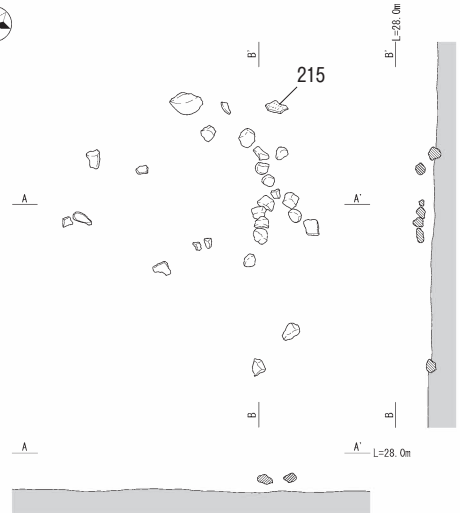
330号集石



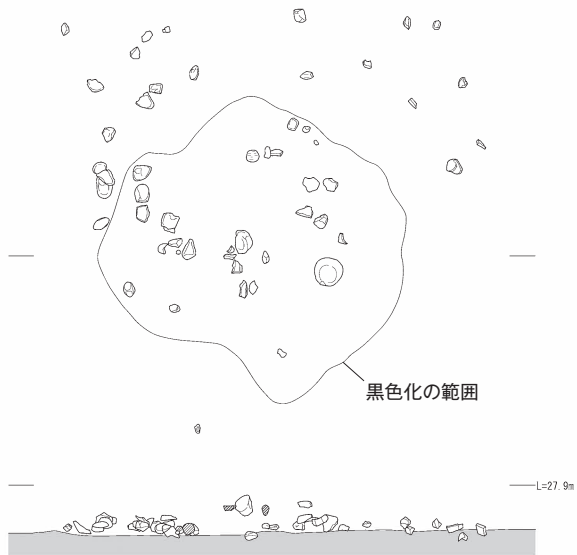
377号集石



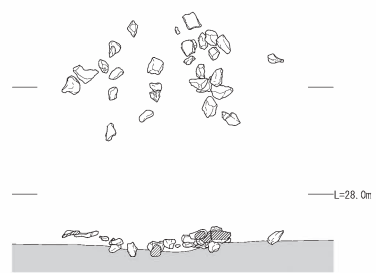
433号集石



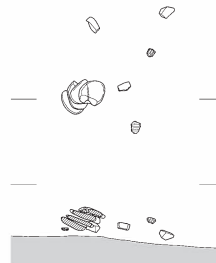
349号集石



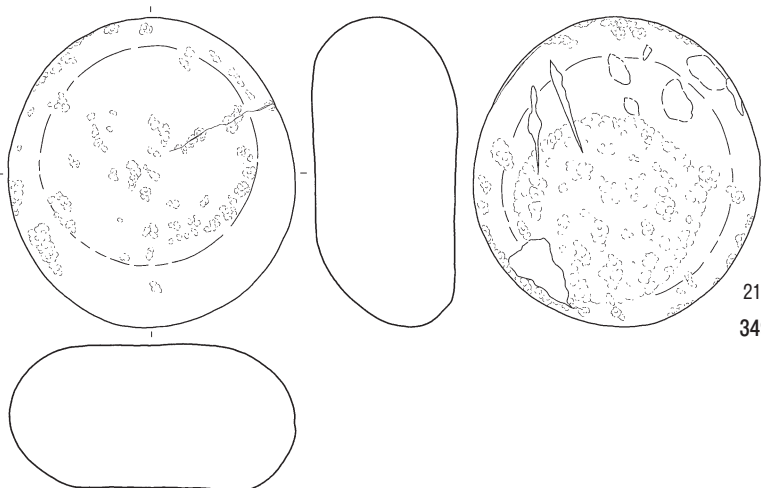
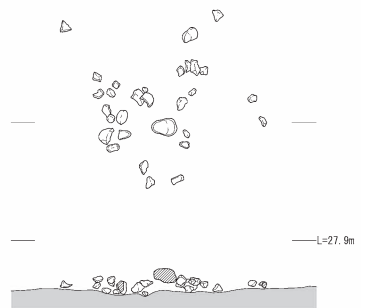
359号集石



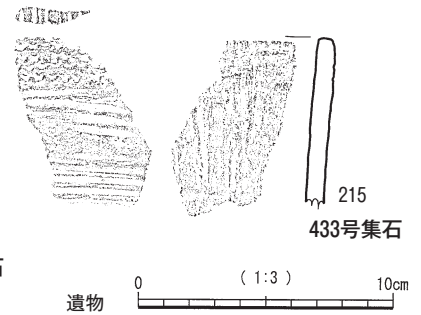
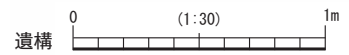
422号集石



415号集石



214
349号集石



215
433号集石

第166図 330, 349, 359, 377, 415, 422, 433号集石・349, 433号集石出土遺物

332号集石 (第129図)

D-39・40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×80cmの略円形プランで、断面形状が浅いすり鉢状を呈する。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数27点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。床面完掘後、15cm下で236号土坑を検出した。

334号集石 (第129図)

D-39・40区Ⅹ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×70cmの略円形プランで、検出面から底面までが35cmとやや深い。礫は、土坑内にほぼ収まるが、土坑内でも上位に集中する傾向がある。構成礫は、総数31点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。236号土坑を切る。

336号集石 (第130図)

D-39区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×85cmの円形プランで、礫は、土坑底面からやや浮いた状態で、土坑20cm周辺までを一連のものとして記録した。構成礫は、総数45点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器7点で、このうち土器1点を図化した。152は、口縁部がわずかに外反し、口唇端部にキザミが施される。口縁部文様は、斜位の貝殻刺突文で、胴部は綾杉条痕文が施される。

337号集石 (第130図)

C・D-39区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×75cmの円形プランで、礫は、1m×1mの範囲に広がる。構成礫は、総数18点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点、石器1点で、このうち土器1点を図化した。153は、楕円押型文が横位に施文される。石器は磨石片1点が出土しているが小破片のため図化には至らなかった。

338号集石 (第130図)

C・D-39区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×80cmの楕円形プランで、2段掘りとなる。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数24点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点で、このうち2点を図化した。

340号集石 (第131図)

C-39・40区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×75cmの円形プランで、礫は、1.2m×0.8mの範囲に広がる。構成礫は、総数51

点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを図化した。146号集石と接合関係にある。156は、口縁部が外反し、胴部でわずかに膨らむ。やや丸みを帯びる口唇部にはキザミが施され、口縁部には斜位の貝殻刺突文が施される。胴部は、綾杉条痕文であるが、やや不揃いの印象がある。内面はていねいなナデが施されている。

341号集石 (第131図)

C-39区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×80cmの楕円形プランで、掘り込みは浅い。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数29点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、石器1点でこれを図化した。157は礫素材の剥片の長軸側に礫皮面からの剥離により刃部を形成しているもので、礫器として図化した。

342号集石 (第131図)

C-39区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、60cm×50cmの略円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数13点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

343号集石 (第131図)

B・C-39区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、130cm×105cmの楕円形プランで、礫は、1.7m×1.3mの範囲に広がる。構成礫は、検出時円形に見られたが密な出土ではなく、皿状に落ち込むが、中央部はわずかに空白となる。礫の一部は壁面に沿うように出土し、床面近くでは出土しなかった。総数178点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器9点で、このうち土器1点を図化した。

346号集石 (第132図)

B-39区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、130cm×120cmの略円形プランで、礫は、この土坑内を中心にわずかに周辺へ広がる。構成礫は、総数89点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

347号集石 (第132図)

B-39区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、140cm×105cmの楕円形プランで、礫は、土坑を中心に1.8m×1.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数202点で、6cm程度の礫が多く、石材はわずかに砂岩が多い傾向にある。集石内遺物と判断したもの

は、土器3点であるが小破片のため図化は困難であった。

348号集石 (第132図)

B-39区Ⅷa層で検出した。検出時に5~10cm大の砂岩、凝灰岩円礫、破碎礫が掘り込みの縁に沿って出土した。埋土を掘り下ると礫が円形に出土した、中心部からの礫の出土が少ない傾向がうかがえた。掘り込みは深く皿状であり、床面から礫は浮いてる。検出された土坑は、100cm×95cmの略円形プランで、礫は、1.5m×1.2mの範囲に広がる。構成礫は、総数145点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点で、このうち土器1点を図化した。159は、貝殻条痕による綾杉文が施される特徴から、10類土器である。

350号集石 (第132図)

A・B-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、調査区外へ延びており全体形状を検出できなかつたが、最大長110cmの円形プランを呈すると思われる。礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数76点で、石材は凝灰岩が優位である。検出面に礫が多い傾向がある。集石内遺物は確認できなかつた。

351号集石 (第132図)

B-40区Ⅹ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、70cm×65cmの略円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数9点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

353号集石 (第132図)

B-40区Ⅹ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×70cmの略円形プランで、構成礫は、総数32点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

355号集石 (第133図)

B-40区Ⅹ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×85cmの略円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まるが土坑南側に集中する傾向が見られた。構成礫は、総数24点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。291号土坑を切る。

358号集石 (第133図)

B-40区Ⅹ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×100cmの略円形プランで、391号集石を切る。礫は、土坑内中央にまとまる。構成礫は、総数106点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかつた。

360号集石 (第133図)

B・C-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×75cmの略円形プランで、礫は土坑検出面に集中し、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数23点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

364号集石 (第133図)

C-40・41区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×85cmの円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数16点で、石材は砂岩が優位である。土坑西側に礫がややまとまっている。集石内遺物と判断したものは、土器2点で、このうち土器1点を図化した。160は口縁部がわずかに外反する。胴部に綾杉条痕文が施されている。

365号集石 (第134図)

C-40区Ⅹ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×75cmの略円形プランで、すり鉢状に近い断面形状を呈する。構成礫は、検出面よりも土坑内に多く出土し、総数は16点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを図化した。161は、胴部下半の資料で、底面との接合面で剥離している。器面に楕円押型文を縦位に施し、部分的に無文部を有する。

366号集石 (第134図)

C-40区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、130cm×125cmの略円形プランで、掘り込みは浅い。礫は、土坑内にほぼ収まり、土坑中央部に多い。構成礫は、総数116点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器1点を図化した。162は、口縁部に縦位の貝殻刺突文を施し、胴部は貝殻条痕文が横位に施文される。

367号集石 (第134図)

C-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、130cm×130cmの円形プランで、検出面から底面までが55cmと深い。構成礫は、総数216点で、石材は砂岩が優位である。記録は、礫の中央部分を点で記録して取り上げていった。集石内遺物は、土器3点であるが小破片のため図化は困難であった。315号土坑を切る。石器は、剥片1点が出土している。

368号集石 (第134図)

C-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、130cm×105cmの楕円形プランで、

礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数32点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点であるが小破片のため図化は困難であった。床面完掘後317号土坑が検出された。

369号集石（第134図）

C-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、95cm×90cmの略円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数126点で、石材は砂岩が優位である。土坑の中心部には炭化物が多い。土坑内西側でステップ状の変化が見られたが、ラインを入れるほどのものではなかった。集石内遺物と判断したものは、土器5点であるが小破片のため図化は困難であった。

370号集石（第135図）

D-40・41区Ⅸ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×100cmの円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数41点で、中央には大型の軽石が出土した。石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを図化した。163は、山形押型文が横位に施文される。粘土接合部で剥離している。

371号集石（第135図）

D-40区Ⅹ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×85cmの円形プランで、礫は、総数3点と少ない。石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。324号土坑の西に切り合う。

372号集石（第135図）

D-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑①・②内の礫は点による取り上げを行い、土坑③部分のみ礫を実測した。土坑③は、95cm×85cmの略円形プランで、礫は、1.5m×1.4mの範囲に広がる。土坑を有する3基の集石が切り合っており、周辺の礫がどの集石に属するかは不明である。埋土の堆積状況から土坑①が古く、土坑③が最も新しい。構成礫は、総数129点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

373号集石（第135図）

D-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、95cm×95cmの円形プランで、検出面から底面までが30cmと深い。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数70点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点で、このうち土器1点を図化した。164は、貝殻条痕が綾杉状に施文さ

れている。

374号集石（第136図）

D-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×75cmの略円形プランで、構成礫は、総数49点で、石材は砂岩が優位である。検出面付近に礫が集中するが、土坑底面付近からはあまり出土しなかった。集石内遺物は確認できなかった。この集石は、25号竪穴建物跡の上面に位置する。集石完掘後に25号竪穴建物跡を検出したことから、集石が新しい。

375号集石（第136図）

D-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、140cm×120cmの楕円形プランで、検出面から底面までが緩やかで浅い。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数33点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点で、このうち土器1点を図化した。26号竪穴建物跡の上面で検出された。

378号集石（第136図）

D-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、95cm×75cmの楕円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数18点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。下部で328号土坑が検出された。

380号集石（第136図）

D-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×100cmの略円形プランで、検出面から底面までが35cmと深い。礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数33点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。掘り込みが327号土坑の埋土とプランを切る。

381号集石（第136図）

D-40区Ⅹ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、60cm×60cmの円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、一括を含めて総数9点で、底面に大型の礫が出土した。意図的なものであるかははっきりしない。石材は全て砂岩である。集石内遺物は確認できなかった。

382号集石（第136図）

D-40区Ⅹ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、55cm×50cmの略円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数15点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

383号集石 (第136図)

D-39・40区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×65cmの楕円形プランで、構成礫は、総数6点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

384号集石 (第137図)

D-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、95cm×90cmの略円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数20点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを図化した。27号竪穴建物跡の20cm上位で検出されているが、両者の関係は明確に出来なかった。

385号集石 (第137図)

D-40区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、65cm×55cmの略円形プランで、構成礫は、総数11点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

386号集石 (第137図)

D-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×100cmの略円形プランで、構成礫は、総数18点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

387号集石 (第137図)

E-40区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、50cm×50cmの略円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数8点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

389号集石 (第137図)

E-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、65cm×60cmの略円形プランで、礫は、土坑内に総数4点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

390号集石 (第137図)

E-40区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×80cmの円形プランで、391号集石と隣接する。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数24点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

391号集石 (第137図)

E-40区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、115cm×100cmの略円形プランで、390号集石と隣接する。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数49点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

392号集石 (第137図)

E-40区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×100cmの略円形プランで、検出面から底面まで40cmと深い。構成礫の総数や石材については記録を行っていない。集石内遺物と判断したものは、土器2点でこのうち1点を図化した。167は横断面が直線的であることから、角筒形土器と思われる。文様は、貝殻条痕文の上に縦位の貝殻刺突文が重なる。

393号集石 (第138図)

E-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×75cmの楕円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数16点で、軽石や扁平礫が見られる。石材は凝灰岩が多い傾向にある。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器1点を図化した。なお、集石の底面より10cm下で28号竪穴建物跡が検出されている。

394号集石 (第138図)

E-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×80cmの略円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数19点で、石材は砂岩が優位である。埋土中層から炭化物が多くなる傾向が看取された。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。333号土坑の立ち上がりを切る。

395号集石 (第138図)

E-40区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×90cmの略円形プランで、浅いすり鉢状の断面形状である。構成礫は、総数19点で、土坑中央に多い傾向がある。石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

396号集石 (第138図)

E-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、120cm×110cmの略円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数55点で、30cm程度の軽石が出土している。礫は、上下2層に分かれる傾向があり、中央部に大型の礫が見られる。石材は凝

灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器5点であるが小破片のため図化は困難であった。333号土坑の上面に収まる。この土坑の埋土を一部掘り込んでいることから、当該集石が新しい。

397号集石（第138図）

E-40区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×75cmの円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数7点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

398号集石（第138図）

E-40区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×50cmの楕円形プランで、掘り込みは浅い。礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数8点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

399号集石（第139図）

E-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×85cmの楕円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数98点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点で、このうち土器1点を図化した。169は、楕円押型文が斜位に施文されている。

400号集石（第139図）

E・F-40区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×60cmの楕円形プランで、礫は、15cmの大型礫が土坑中央に見られ、他は2cm程度の小型礫が土坑内に収まる。構成礫は、総数9点で、石材は砂岩が多い傾向にある。集石内遺物は確認できなかった。401号集石に隣接し、348号土坑・349号土坑を切る。

402号集石（第139図）

F-40区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×80cmの略円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数66点で、石材は凝灰岩と砂岩とが同量である。集石内遺物と判断したものは、土器1点をこれを図化した。170は、小波状に近い横位の貝殻条痕文の上位に短い羽状の貝殻刺突文が施されている。

403号集石（第139図）

F-39・40区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×100cmの略円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数123点で、土坑

中央の底面やや上位に20cmの大型礫が出土した。全体としては、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

404号集石（第139図）

F-40区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、120cm×95cmの略円形プランで、検出面から底面までが55cmと深い。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数95点で、上層と下層とで分かれて出土する印象があった。石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器11点であるが小破片のため図化は困難であった。

405号集石（第139図）

F-40・41区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、円形プランで、構成礫は、総数1点で、本来土坑とすべきものである。石材は砂岩である。集石内遺物は確認できなかった。357号土坑を切る。

406号集石（第139図）

F-40区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×70cmの楕円形プランで、構成礫は、総数36点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

407号集石（第140図）

F-39・40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、125cm×95cmの楕円形プランで、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数98点で、比較的土坑中央部に集中する傾向がある。石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは土器3点で、このうち土器1点を図化した。171は、口縁部が外反し、口縁部内面には段を有する。口唇部と口縁部内外面に比較的小粒な楕円押型文が施される。

409号集石（第140図）

F-40区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×70cmの略円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数9点で、石材は砂岩が優位である。このうち軽石が1点出土している。集石内遺物は確認できなかった。

410号集石（第140図）

F-40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、70cm×65cmの略円形プランで、構成礫は、総数30点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

412号集石 (第140図)

G-39・40区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、調査区外へと延びているため全体形状は不明であるが、概ね60cm程度の円形プランが想定される。構成礫は、総数22点で、砂岩のみで構成される。集石内遺物は確認できなかった。集石としては、比較的小さい部類に属する。

413号集石 (第140図)

F-41区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、調査区外へ延びるため全体形状は不明であるが、120cmの円形プランを呈すると思われる。検出面から底面までが35cmとやや深い。構成礫は、総数138点で、検出面より土坑底面近くに多く出土する傾向がある。石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。360号土坑を切る。

416号集石 (第140図)

F-41区Ⅹ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×80cmの円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数22点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

418号集石 (第141図)

E・F-41区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、55cm×50cmの略円形プランで、構成礫は、総数33点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

419号集石 (第141図)

E-41区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、100cm×85cmの楕円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数75点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点でこれを図化した。172・173は口唇部が小波状を呈する特徴から、1類土器である。

420号集石 (第141図)

E-41区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、115cm×115cmの円形プランで、検出面から底面まで30cmとやや深い。礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数130点で、石材はわずかに凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

423号集石 (第141図)

E-41区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、105cm×105cmの円形プランで、構

成礫は、総数107点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

424号集石 (第141図)

E-41区Ⅷa層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、80cm×70cmの略円形プランで、礫は、1.3m×1.3mの範囲に広がる。構成礫は、総数45点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点、石器1点で、このうち土器1点を図化した。331号集石と接合関係にある。石器は石皿片1点が出土している。

425号集石 (第141図)

D・E-41区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、70cm×60cmの略円形プランで、426号集石に隣接する。20cm程度の距離で近接しているが、埋土に違いが見られるため、両者は別の集石として記録した。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数12点で、凝灰岩と砂岩とが同量である。集石内遺物は確認できなかった。

426号集石 (第142図)

D・E-41区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×105cmの略円形プランで、326に隣接する。20cm程度の距離で近接しているが、埋土に違いが見られるため、両者は別の集石として記録した。礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数111点で、石材は砂岩が優位である。集石を構成する礫は、検出面に比較的集中しており、土坑南側へかけて多い。集石内遺物と判断したものは、土器6点で、このうち土器1点を図化した。379号集石と接合関係にある。

427号集石 (第142図)

D-41区Ⅹ層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×70cmの略円形プランで、礫は、土坑内に収まる。構成礫は、総数12点で、石材は砂岩のみである。礫は、検出面直下にまとまるが、土坑底面からはあまり出土していない。集石内遺物は確認できなかった。

429号集石 (第142図)

D-41区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、75cm×70cmの略円形プランで、検出面から底面までが25cmあり、底面が広く壁の立ち上がり急で、土坑の径に対しては深いという特徴が見られた。礫は、土坑内で完結して総数32点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点で、

このうち土器1点を図化した。176は、胴部片で、貝殻押引文が施される。

431号集石（第142図）

D-41区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、85cm×75cmの略円形プランで、礫は、土坑内にほぼ収まる。構成礫は、総数14点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。332号土坑と切り合い関係にあり、322号土坑を切る。

432号集石（第142図）

D-41区VIII b層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、90cm×65cmの楕円形プランで、礫は、土坑上面を中心に1.1m×1.1mの範囲に広がる。構成礫は、総数35点で、石材はわずかに砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

434号集石（第142図）

C-41区X層で検出した。礫の検出と同時に土坑も確認された。土坑は、110cm×90cmの楕円形プランで、検出面から底面までが38cmとやや深く、底面からの立ち上がりも急な印象を受ける。埋土は4つに分層が可能であった。礫は、土坑の上位に比較的集中し、総数14点で、石材は凝灰岩と砂岩とが同量である。集石内遺物は確認できなかった。

(3) 集石2 a類

177号集石（第143図）

B-36区VIII a層で検出した。検出当初、土坑状のプランが確認されたため半載するなど精査して確認を行ったが、最終的には掘り込みは確認できなかった。礫は、3.5m×2.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数491点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。石器は石皿片が1点出土している。

187号集石（第143図）

C-36区VIII b層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、0.6m×0.3mの範囲で総数8点がまとまる。石材は凝灰岩と砂岩とが同量である。集石内遺物と判断したものは、石器2点で、石器の内訳は磨石片1点と石皿片1点で、このうち1点を図化した。177は石皿類2 B類に属する。

196号集石（第144図）

E-36区VIII b層で検出した。土坑等の掘り込みは確認出来なかった。礫は、2.7mの範囲に広がり、その中でも60cmほどに集中する傾向が看取出来る。構成礫は、総

数38点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが、小破片のため図化は困難であった。石器は1点出土し、これを図化掲載した。178は、磨・敲石類であるが、半分を欠損しているため全体の形状が不明であり、5類に分類した。

199号集石（第145図）

E・F-36区VIII b層で検出した。土坑等の掘り込みは確認出来なかったが、230cm×170cmの範囲にシミ状の痕跡が確認された。礫は、230cm×170cmの範囲に広がる。構成礫は、総数94点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器15点、石器1点で、このうち土器2点、石器1点を図化した。181は磨製石斧の基部片である。

333号集石（第145図）

D-39・40区VIII a層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1.5m×1.1mの範囲に広がる。構成礫は、総数81点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点で、このうち土器2点を図化した。

354号集石（第146図）

B-40区VIII a層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、0.7m×0.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数23点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は、石皿片1点が出土している。

362号集石（第146図）

C-40区VIII b層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、0.7m×0.7mの範囲に広がる。構成礫は、総数51点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は、磨石片1点が出土している。

414号集石（第146図）

F-41区VIII a層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、0.6m×0.6mの範囲にまとまっている。構成礫は、総数71点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、石器2点で、このうち石器1点を図化した。184は円礫の節理面で剥離した半円状の礫素材の長軸中央付近に加撃を加えたもので、石錘の可能性もある。359号土坑の上面に位置する。他に剥片が1点出土している。

(4) 集石2 b類

4号集石（第147図）

D-13区IX層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、2.5m×2mの範囲に広がる。構成

礫は、総数20点で、ままとりの北側は、南側よりもレベルが上位であり、広めの土坑等の存在を否定できない。石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

9号集石 (第148図)

A・B-15・16, C-15・16区IX層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、5.5m×3.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数67点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器5点で、このうち土器1点を図化した。

15号集石 (第149図)

G-21区IX層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、長軸2.9m, 短軸2.1mの範囲に広がる。構成礫は、総数127点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

33号集石 (第149図)

E-26区IX層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、長軸70cm, 短軸60cmの範囲に広がる。構成礫は、総数21点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点であるが、いずれも小破片のため図化は困難であった。

53号集石 (第149図)

D-28区IX層で検出した。シミ状の痕跡と散礫が確認された。礫は、5点のみで全て凝灰岩である。集石内遺物は確認できなかった。

54号集石 (第150図)

D-28区VIII b層で検出した。礫の検出と黒色化したシミ状の痕跡も確認された。シミ状の痕跡は、1.6m×1.4mの範囲に広がる。礫は、長軸1.7m×1.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数17点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

59号集石 (第150図)

F-28区X層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。2.8m×2mの範囲に広がり、やや離れて3点の礫がある。構成礫は総数47点で、凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

62号集石 (第150図)

F・G-29区IX層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、一部列状とも見えるように検出され、総数21点を確認した。石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

63号集石 (第151図)

G-29区IX層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。1.4m×0.6mの範囲に散在している。構成礫は、総数16点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

71号集石 (第151図)

B-30区VIII b層で検出した。礫の検出と同時にシミ状の痕跡を確認した。礫は、2m×1.8mの範囲に広がるが、シミ状痕跡の南側に比較的密集している状況であった。構成礫は、総数95点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

75号集石 (第151図)

D-30区VIII b層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、0.6m×0.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数17点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

78号集石 (第151図)

E-30区IX層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、長軸170cm, 短軸70cmの範囲に広がる。構成礫は、総数19点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点で、小破片のため図化は困難であった。

80号集石 (第151図)

F-30区X層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、長軸100cm, 短軸60cmの範囲に広がる。構成礫は、総数10点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

81号集石 (第151図)

F-30区IX層で検出した。土坑等の掘り込みは確認出来なかった。礫は、1.5m×1mの範囲に広がる。構成礫は、総数14点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点で、これを図化した。186は、瘤状突起を有する口縁部資料である。口唇部は平坦面を有し、キザミが施される。口縁部は、縦位の貝殻刺突文が施されている。

82号集石 (第152図)

G-30区VIII b層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1.5m×1.3mの範囲に広がる。構成礫は、総数26点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが、小破片のため図化は困難であった。

87号集石 (第152図)

D-31区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、0.4m×0.3mの範囲に広がる。構成礫は、総数11点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、石器1点で石皿片である。

99号集石 (第152図)

D-32区Ⅷa層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1m×1mの範囲に広がる。構成礫は、総数16点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

103号集石 (第152図)

F-32区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1.2m×1mの範囲に広がる。構成礫は、総数23点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点で、このうち土器1点を図化した。187は底部片である。器壁が一定でなく、やや内傾しながら胴部が立ち上がる特徴を有している。

111号集石 (第152図)

G-33区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、2.7m×1.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数32点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器7点で、このうち土器1点を図化した。188は、底部片である。粘土接合部で剥離している。

112号集石 (第153図)

F・G-33区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1.5m×1.5mの範囲にまとまりを見せるが、その外側へも散在しており、ここまでする集石の範囲として捉えた。構成礫は、総数51点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。17号竪穴建物跡、54号土坑・39号連穴土坑の上面からその周辺に礫が広がっている。

125号集石 (第153図)

C-34区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、2.2m×2mの範囲に広がる。構成礫は、総数57点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器9点であるが小破片のため図化は困難であった。

130号集石 (第154図)

E-34・35区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、3m×3mの範囲に広がる。

構成礫は、総数28点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点で、これを図化した。

131号集石 (第154図)

E-34区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、3m×2mの範囲に広がる。構成礫は、総数23点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは土器2点で、これを図化した。いずれも胴部片である。190は、綾杉条痕文が施される。191は、綾杉条痕文であるが、1つの単位が短く、鋸歯状施文にも見える。

132号集石 (第155図)

E-34区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、2.5m×2mの範囲に広がる。構成礫は、総数24点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器12点、石器1点で、このうち土器3点を図化した。土器はいずれも小破片である。193は、口縁部がほぼ直行し、口縁部に貝殻刺突文を横位に2条めぐらす。胴部は綾杉条痕文が施されている。194は、口唇部が丸みを帯びて口縁部がわずかに外反する。口縁部は、横位の貝殻条痕文が施される。石器は、図化に至らなかったが、磨石が出土している。

136号集石 (第156図)

F-33・34区Ⅷa層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、7m×5mの範囲に広がる。構成礫は、総数139点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器2点を図化した。195は、綾杉条痕文が施される。

137号集石 (第157図)

F-34区Ⅸ層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1m×0.7mの範囲に広がる。構成礫は、総数8点で、石材は凝灰岩のみである。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが、小破片のため図化は困難であった。

148号集石 (第157図)

F-35区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、2m×2mの範囲に広がる。構成礫は、総数50点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点、石器1点で、このうち土器1点を図化した。197は、口縁部がわずかに外反し、平坦な口唇部にはキザミが鋸歯状に施される。口縁部には横位の貝殻刺突文が3条めぐり、胴部は、貝殻押し文が横位に施されている。図化には至らなかったが、石器は磨石片が出土している。

153号集石 (第157図)

E-35区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時にシミ状の痕跡を確認した。礫は、2m×1.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数35点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点であるが、小破片のため図化は困難であった。

154号集石 (第157図)

E-35区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認出来なかったが、140cm×100cmの範囲でシミ状の痕跡が確認された。構成礫は、総数9点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

155号集石 (第158図)

E-35区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認出来なかった。礫は、3m四方の範囲に広がる。構成礫は、総数127点で、石材は砂岩が優位である。礫の散布状況から、2つのまとまりを1つと捉えてしまっている可能性もある。集石内遺物と判断したものは、土器10点で、このうち土器1点を図化した。

161号集石 (第158図)

E-35区Ⅷb層で検出した。礫の検出と同時にシミ状の痕跡も確認された。礫は、0.8m×0.4mの範囲に広がる。構成礫は、総数12点で石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点、石器1点で、このうち土器1点を図化した。いずれも小破片である。石器は磨石片が出土しているが図化には至らなかった。

162号集石 (第158図)

E-35区Ⅷb層で検出した。土坑などの掘り込みは確認できなかった。礫は、2.5m×2.2mの範囲に広がる。構成礫は、総数17点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

164号集石 (第159図)

E-34・35区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、5m×3mの範囲に広がる。構成礫は、総数77点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点で、このうち土器1点を図化した。200は、口縁部が直行する。口縁部に斜位の貝殻刺突文を施し、その下位に横位の貝殻刺突文を1条めぐらせる。胴部は綾杉条痕文が施されることから、10類土器に属する。

169号集石 (第160図)

D-35・36区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1.8m×1.2mの範囲に広がる。

構成礫は、総数60点で、石材は凝灰岩と砂岩とが同量である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

170号集石 (第160図)

C-35区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、0.8m×0.6mの範囲に広がる。構成礫は、総数20点で、石材は砂岩のみで構成される。集石内遺物は確認できなかった。

181号集石 (第160図)

C-36区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1.7m×1.1mの範囲に広がる。構成礫は、総数25点で、石材はわずかに凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

186号集石 (第160図)

C・D-36区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、0.7m×0.5mの範囲に広がる。185号集石の西側で検出されており、掘り込みはなく一連のもの可能性もある。構成礫は、総数37点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点でこれを図化した。201は、口縁部が直行する。口唇部に刺突文が施され、口縁部には斜位の貝殻刺突文が施される。胴部は縦位の貝殻条痕文が施される。202は、貝殻刺突文が施されることから、11類土器に属する。

191号集石 (第161図)

E-36・37区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1.7m×1.3mの範囲に広がる。構成礫は、総数29点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

192号集石 (第161図)

E-36区Ⅷa層で検出した。土坑等の掘り込みは確認出来なかったが、120cm×75cmの範囲にシミ状の痕跡が認められた。礫は、2.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数61点で、石材は砂岩が優位である。上層と下層に若干分かれる印象がある。集石内遺物と判断したものは、土器3点で、このうち土器1点を図化した。203は、綾杉条痕文が施されている。

193号集石 (第161図)

E-36区Ⅷa層で検出した。土坑等の掘り込みは確認出来なかった。礫は、4m四方に広がる。構成礫は、総数136点で、石材は砂岩が優位でわずかに花崗岩を含む。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが、小破

片のため図化は困難であった。

201号集石 (第162図)

F-36区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認出来なかった。礫は、80cmの範囲に広がる。構成礫は、総数22点で、石材は砂岩が優位である。東西2カ所に礫がまとまっており、西側の方が集中するが、部分的に下層からの礫の検出となっている。集石内遺物は確認できなかった。

204号集石 (第162図)

F-36区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、2m×2mの範囲に広がる。構成礫は、総数32点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器5点であるが、小破片のため図化は困難であった。

205号集石 (第162図)

F-36区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、2m×0.8mの範囲に広がる。構成礫は、総数13点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器4点であるが、いずれも小破片のため図化は困難であった。

207号集石 (第162図)

F-36区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1.1m×1.1mの範囲に広がる。構成礫は、総数13点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが、小破片のため図化は困難であった。

218号集石 (第162図)

G-36区Ⅸ層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、80cm×60cmの範囲に広がる。構成礫は、総数6点で、石材は凝灰岩のみである。集石内遺物は確認できなかった。

221号集石 (第163図)

G-36区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、2.5m×2.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数56点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点であるが、いずれも小破片のため図化は困難であった。集石の下部より95号土坑と94号土坑が検出されている。

226号集石 (第163図)

G-37区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、2.7m×2.3mの範囲に広がる。構

成礫は、総数71点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点、石器1点で、石器は剥片である。土器はこのうちの1点を図化した。204は、口縁部がやや内傾する。口唇部は平坦面を有し、口縁部は貝殻刺突文が羽状に比較的ていねいに施文される。

241号集石 (第164図)

E-37区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認出来なかった。礫は、2.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数56点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器6点で、このうち土器3点を図化した。

243号集石 (第164図)

E-37区Ⅷb層で検出した。シミ状の痕跡と散礫が確認された。礫は、115cm×85cmのシミ状痕跡内に総数7点確認された。石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

245号集石 (第164図)

E-37区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、0.9m×0.4mの範囲に広がる。構成礫は、総数13点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点でこれを掲載した。

257号集石 (第164図)

A・B-37区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、60cm四方に広がる。構成礫は、総数14点で、周辺には極小の炭化物が認められた。石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

262号集石 (第164図)

B-38区Ⅷa層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1.1m×1.1mの範囲に広がる。構成礫は、総数45点で、石材は凝灰岩と砂岩が同量で花崗岩がわずかに含まれる。集石内遺物と判断したものは、土器7点で、このうち土器1点を図化した。209は口縁部が直行する。口唇部は平坦面を意識しているが一様でない。文様は、外面に縄文・捺糸文が施させている。

263号集石 (第164図)

B-38区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、0.7m×0.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数12点で、石材は凝灰岩と砂岩とが同量である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

269号集石 (第165図)

D-38区Ⅷa層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、0.7m×0.6mの範囲に広がる。構成礫は、総数21点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

280号集石 (第165図)

F-38・39区Ⅷa層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1m×1mの範囲に広がる。構成礫は、総数45点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

301号集石 (第165図)

F-39区Ⅷa層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1.6m×1.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数87点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は、磨石片1点が出土している。

312号集石 (第165図)

E-39区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1.4m×1.1mの範囲に広がる。構成礫は、総数41点で、石材はわずかに砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器1点であるが小破片のため図化は困難であった。

318号集石 (第165図)

E-39区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1.5m×0.9mの範囲に広がる。構成礫は、総数60点で、わずかに軽石が混在する。石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器6点で、このうち土器3点を図化した。210は横位の貝殻条痕文が施される。211は、底部片である。綾杉条痕文の上に横位の貝殻条痕文が施されている。212は、楕円押型文が横位の施文される。

323号集石 (第165図)

D-39区Ⅷa層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1.7m×1.2mの範囲に広がる。構成礫は、総数36点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器6点で、このうち土器1点を図化した。213は、口縁部が内傾し、縦位の貝殻刺突文と粒状短沈線文とが交互に組み合わせる。

330号集石 (第166図)

D-39区Ⅷa層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1.2m×1.2mの範囲に広がる。構

成礫は、総数35点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器3点であるが小破片のため図化は困難であった。

377号集石 (第166図)

D-40区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、0.7m×0.3mの範囲に広がる。構成礫は、総数23点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

433号集石 (第166図)

D-41区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1.2m×1.2mの範囲に広がる。構成礫は総数24点で、石材は凝灰岩が優位である。集石内遺物は、土器1点でこれを図化した。215は、口縁部が直行し、平坦な口唇部にキザミが施される。口縁部は横位の貝殻刺突文が3から4条めぐり、胴部は横位の貝殻条痕文である。内面調整は縦位の調整痕が残る。

349号集石 (第166図)

B-39区Ⅷb層で検出した。掘り込み等は確認できなかった。26cm下部より276号土坑が検出されている。礫は、2m四方の範囲に広がる。構成礫は、総数49点で、石材はわずかに凝灰岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、石器2点で、石器の内訳は剥片1点、磨石片1点である。このうち石器1点を図化した。214は磨石類2B類に分類した。

359号集石 (第166図)

B・C-40区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、0.9m×0.5mの範囲に広がる。構成礫は、総数32点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物と判断したものは、土器2点であるが小破片のため図化は困難であった。

415号集石 (第166図)

F-41区Ⅹ層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、1m×0.8mの範囲に広がる。構成礫は、総数32点で、石材は砂岩が優位である。集石内遺物は確認できなかった。

422号集石 (第166図)

E-41区Ⅷb層で検出した。土坑等の掘り込みは確認できなかった。礫は、50cmの範囲に扁平な円礫が集積しており、埋納等も想定される。石材は凝灰岩と砂岩が同数出土している。集石内遺物と判断したものは、土器3点であるが小破片のため図化は困難であった。

6 重複遺構

ここでは、複数の遺構が切り合う重複遺構について詳述する。ただし、集石については、この項では断面図などの図示により新旧関係を表すことに留め、詳細については集石の項で記載する。また、埋土番号については、重複遺構内の中の新しい遺構から連番で付しているが、新旧関係が不明な場合や共通の埋土の場合は遺構毎に付している。各遺構の計測値や分類については観察表を参照していただきたい。なお、遺構内出土土器は、重複遺構内の中で古い遺構から順に掲載している。

重複遺構 1 (第167図)

E-9区IX層で検出した。3号・4号連穴土坑が重複しているが、埋土の堆積状況等からは新旧関係を検討することが困難であった。やや主軸を違えて主穴部を東西方向に掘り込み、3号連穴土坑は東側に、4号連穴土坑は西側に従穴部を有する。いずれも床面付近に焼土が残存し、4号連穴土坑は焼土塊が見られる。また、3号連穴土坑のブリッジにはX層、4号連穴土坑のブリッジにはX層・XI層が残存する。遺構内遺物と判断したものは、4号連穴土坑からの石器1点であり、図化した。

重複遺構 2 (第169図)

D-14区IX層で検出した。検出面では、8号・9号連穴土坑がほぼ直角方向に重複しているが、埋土の堆積状況等からは新旧関係を検討することが困難であった。8号連穴土坑はブリッジにX層が残存し、9号連穴土坑はブリッジが崩落している。遺構内遺物は確認できなかった。

重複遺構 3 (第170図)

D-24区IX層で検出した。11号・12号土坑がほぼ直角方向に重複しており、埋土の堆積状況等から11号土坑が新しいと判断した。いずれも断面の形状から落とし穴の可能性が考えられたが、逆茂木痕が確認されなかったため土坑として取り扱った。12号土坑の掘り込み内南側は、掘削のため埋土の堆積状況が不明である。11号土坑では埋土⑩中から3～5cmの薩摩火山灰のブロックがみられる。遺構内遺物と判断したものは、12号土坑から土器1点であり、図化した。217は、口縁部が直行する。貝殻条痕文の上に口縁部文様の横位貝殻刺突文が施され、内面はていねいなケズリ痕が残る。

重複遺構 4 (第171図)

F・G-25・26区IX層で検出した。3号・4号・5号堅穴建物跡が重複しており、埋土の堆積状況等から3号堅穴建物跡が最も新しいと判断した。5号堅穴建物跡の南西側周辺に不定形の掘り込みが見られ、当初5号堅穴

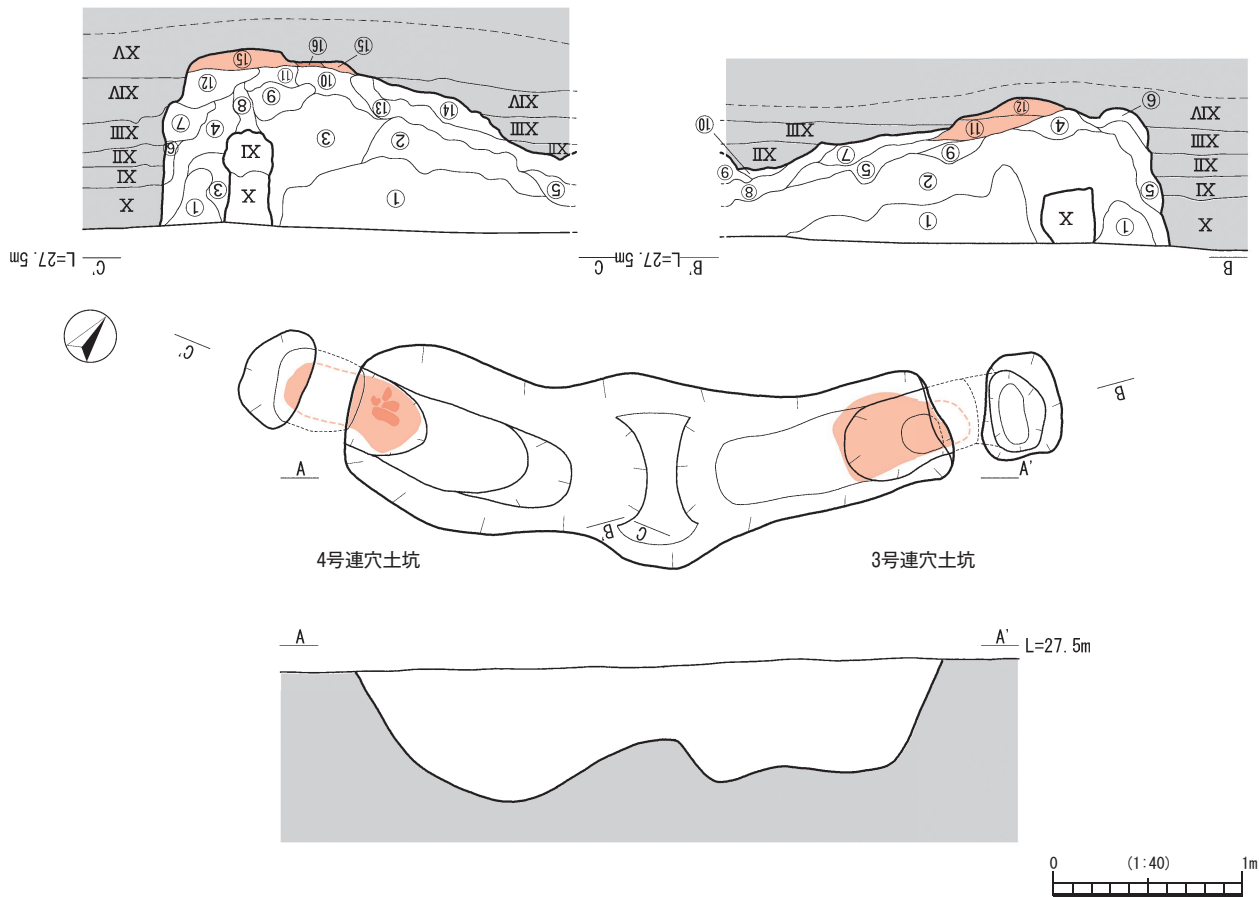
建物跡周辺を巡る大型の掘り込みの可能性も考えられたが、残存状況や埋土の堆積状況等から関係性を検討することは困難であった。この重複遺構の周辺もしくは5号堅穴建物跡内にピットが点在しているが、ピットと重複遺構との関係性も不明である。14号ピットは大型だが、周辺のピットとの関連性を考慮してピットとして取り扱った。遺構内遺物と判断したものは、5号堅穴建物跡から土器42点と石器1点、4号堅穴建物跡から土器3点、3号堅穴建物跡から土器4点と石器3点であり、そのうち5号堅穴建物跡から土器29点、4号堅穴建物跡から土器2点、3号堅穴建物跡から土器1点を図化した。218と219は、斜位の貝殻刺突文が施される、部分的に瘤状突起が付く。胴部はていねいな綾杉条痕が見られ、底部付近では横位の貝殻条痕文となる。220の口唇部には貝殻肋2条による刺突文がめぐり、口縁部には斜位の貝殻刺突文が施される。221の外面には貝殻条痕文を横位ないし斜位に施し、その上から口縁部文様としての斜位の貝殻刺突文を重ねる。類似する224で見ると、横位の貝殻条痕は口縁部に限っており、胴部は綾杉条痕となる。240は胴部下半に横位の貝殻条痕文が施されている。241は底部外端にキザミ状の刺突が施されている。244は貝殻条痕が比較的シャープな印象がある。247は口縁部が直行する器形で、綾杉条痕の上から口縁部文様である横位の貝殻刺突文が施されている。248は口縁部が直行し直線的な胴部となる。文様は、口縁部に縦位の貝殻刺突文を施し、胴部はやや長めの綾杉条痕文である。

重複遺構 5 (第176図)

C・D-25区で検出され、17号・18号連穴土坑はIX層、14号土坑はX層で検出した。調査時のトレンチによる掘削等のため新旧関係を検討することが困難であった。18号連穴土坑は焼土が残存する。14号土坑は、断面形態等から連穴土坑の可能性も考えられたが、ブリッジや焼土が検出されなかったこと、掘削のため平面形態がはっきり捉えられなかったことなどから土坑として取り扱った。17号土坑の埋土中及びブリッジ下からは礫が数点出土している。遺構内遺物と判断したものは、17号連穴土坑から土器4点と石器1点、18号連穴土坑から土器1点であり、そのうち17号連穴土坑から土器3点と石器1点、18号連穴土坑から土器1点図化した。250は貝殻刺突文を羽状に施す。253は石皿類片で、扁平でやや厚みがあり、両面に磨面が確認される。254は口唇部に貝殻肋2条の刺突文を施す。口縁部文様は、貝殻刺突文が斜位に施される。

重複遺構 6 (第178図)

B-27区VIII層で検出した。24号連穴土坑と16号土坑がほぼ水平方向に重複しており、埋土の堆積状況等から



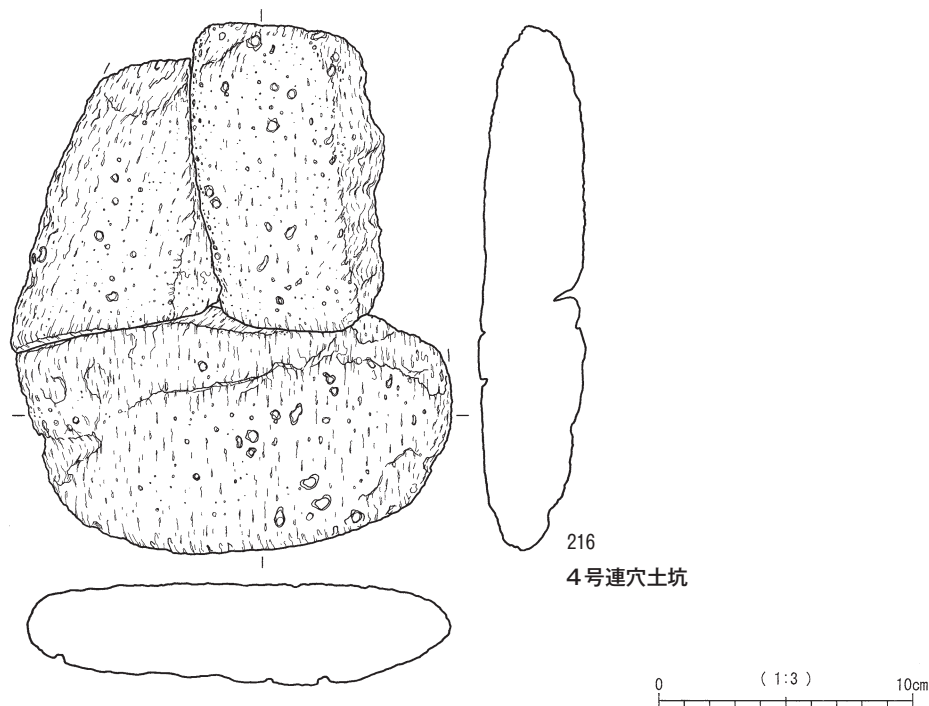
3号連穴土坑

- ① 黒褐色シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い 3~5mm大の黄色バミス,1mm大の明黄色バミスを多量に含む VIIIb層類似
- ② 4号連穴土坑①と同じ
- ③ 暗褐色シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い 3mm大の黄色バミス少量含み,1mm大の白色バミス少量含む XI層類似の土をブロック状に少量含む
- ④ 暗褐色シルト 締まりやや強い 粘性有り 3mm大の黄色バミス,2mm大の赤色バミスを上部に極少量含む ③とXI層の混土層 ③よりやや黒み強い
- ⑤ 暗褐色シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミスわずかに含む XI層類似の土をブロック状に少量含む
- ⑥ 褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い ⑤の土をブロック状にわずかに含む
- ⑦ 暗褐色シルト 締まりやや強い 粘性有り VIIIb層類似 明黄バミス少量含む③とXI層の混土層
- ⑧ 4号連穴土坑⑤と同じ
- ⑨ 4号連穴土坑⑩と同じ
- ⑩ 暗褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 ⑧をわずかに含む XI層より若干締まりが弱い
- ⑪ 暗褐色シルト 締まりやや強い 粘性有り 2mm大の赤色粒子を多量に含む,④に比べて赤みが強い ③とXI層の混土層
- ⑫ 褐色シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い 2mm大の赤色粒子を多量に含む,一部赤く変色している ③とXI層の混土層

4号連穴土坑

- ① 黒褐色シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIIb層類似 3~5mm大の明黄バミス,1mm大の白色バミス多量に含む 炭化物をわずかに含む 3号連穴土坑の②と同じ埋土
- ② 暗褐色シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIIb層類似 3~5mm大の明黄バミス多量に含み,1mm大の白色バミス少量含む,IX層類似の土をブロック状に多量に含む ①より明黄バミスの量は少ない
- ③ 黒褐色シルト 締まりやや強い 粘性有り VIIIb層類似 3mm大の明黄バミス少量含み,1mm大の白色バミス含む IX層類似の土,X層類似の土をブロック状に含む ①より全体的にバミスの量が少ない
- ④ 黒褐色シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIIb層類似 3mm大の明黄バミスわずかに含み,1mm大の白色バミス少量含む,X層類似の土をわずかに含み,IX層類似の土をブロック状に含む
- ⑤ 暗褐色シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い IX層類似 3mm大の明黄バミス,1mm大の白色バミス少量含む XI層類似の土をブロック状に含む 3号連穴土坑⑧と同じ
- ⑥ 褐色粘質土 締まり有り 粘性やや強い XI層類似 ④をわずかに含む XI層より若干締まりが弱い
- ⑦ 暗褐色粘質土 締まり有り 粘性やや強い X III層類似 ④をブロック状に少量含む ⑥に比べて暗く締まりが強い
- ⑧ 褐色粘質土 締まり有り 粘性やや強い XI層類似 ④をブロック状に含む
- ⑨ 褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 ④をブロック状に少量含む ⑧に比べて④の比率が少なく締まりが弱い
- ⑩ 黒褐色シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIIb層類似 3~30mm大の明黄バミス少量含む
- ⑪ 褐色粘質土 締まり有り 粘性やや強い XI層類似 3mm大の明黄バミスわずかに含む ⑩をブロック状にわずかに含む
- ⑫ 黒褐色シルト 締まりやや強い 粘性有り VIIIb層類似 3mm大の明黄バミス 1mm大の白色バミス少量含む ④に比べて締まりが弱い ⑧を少量含む
- ⑬ 暗褐色シルト 締まり有り 粘性有り VIIIb層類似 3mm大の明黄バミスわずかに含む ⑩とXI層の混土層 3号連穴土坑⑨と同じ
- ⑭ 褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 XI層に比べて締まりが弱い
- ⑮ 褐色粘質土 締まり弱い 粘性弱い X IV層類似 5mm大の明黄バミスわずかに含む
- ⑯ 明赤褐色シルト 締まり強い 粘性弱い X IV層類似 5mm大の明黄バミスわずかに含む

第167図 重複遺構 1



第168図 重複遺構1出土遺物

24号連穴土坑が新しいと判断した。24号連穴土坑のブリッジはX層が残存するが、ややずれ落ちていると考えられる。また、埋土上部から礫が数点出土している。16号土坑は埋土中に薩摩火山灰ブロックが見られ、ブリッジの可能性も考えられたが、遺構の規模等から土坑と判断した。遺構内遺物は確認できなかった。

重複遺構7 (第179図)

F・G-28区で検出され、18号土坑～20号土坑及び9号竪穴建物跡はⅧb層、8号竪穴建物跡・26号連穴土坑はⅨ層で検出した。埋土の堆積状況等から18号土坑～20号土坑が最も新しく、8号竪穴建物跡が最も古いと判断した。26号連穴土坑は調査時のトレンチによる掘削のため、東側のブリッジは観察できなかった。8号竪穴建物跡及び9号竪穴建物跡はいずれも上段と下段に分かれているが、上段は正確な形状の検出が困難であったため、上段平面形は推定線として薄い線で、上段の埋土と考えられる層はa～cのアルファベットで表している。また、8号竪穴建物跡東側にはステップが見られる。埋土の堆積状況から、9号竪穴建物跡の床面付近から26号連穴土坑を掘り込んでいると考えられ、26号連穴土坑のブリッジ下の床面付近からは礫がまとまって出土した。遺構内遺物と判断したものは、8号竪穴建物跡から土器7点と石器2点、9号竪穴建物跡から土器17点と石器5点、18号土坑から土器1点、19号土坑から土器2点であり、そのうち8号竪穴建物跡から土器5点、9号竪穴建物跡から土器11点と石器2点、19号土坑から土器1点を図化した。

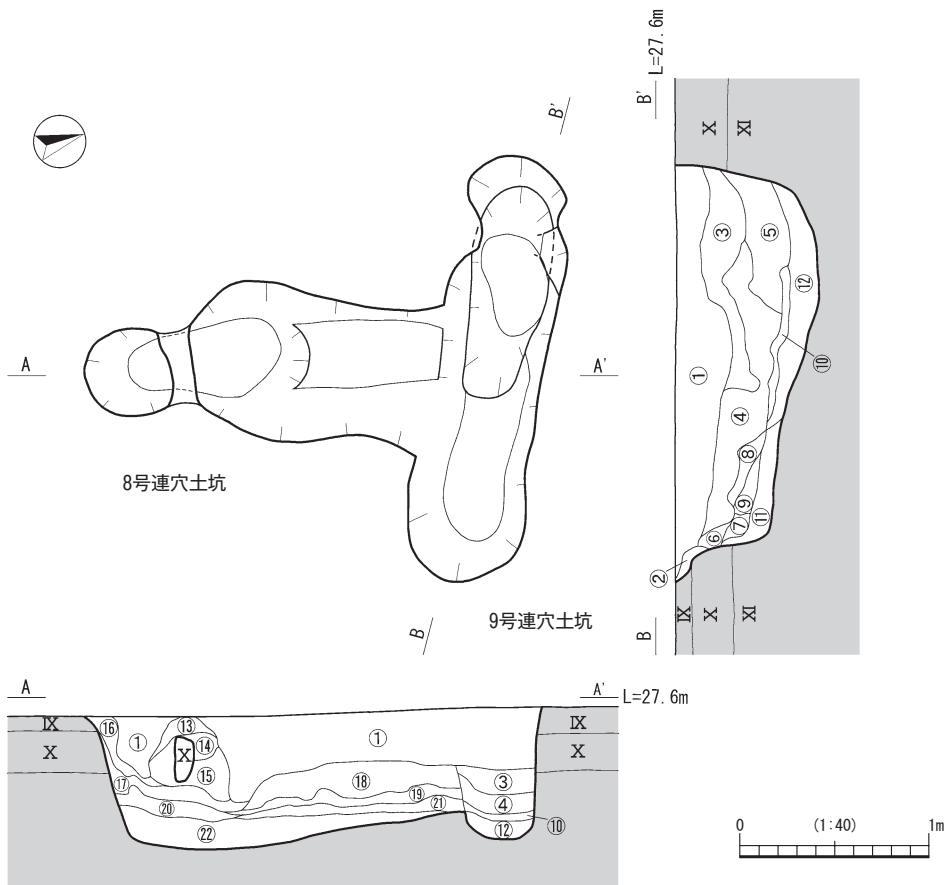
た。255は比較的器壁が薄く、口縁部には斜位の貝殻刺突文が施される。259の胴部は綾杉条痕文で、底部付近で横位の貝殻刺突文が重ねられる。260は口唇部に貝殻刺突文が施される。口縁部には貝殻刺突文が羽状に施される。261は、口縁部文様帯は確認できず、綾杉条痕文が全面に施される。262は瘤状突起が付く。口縁部上端に横位の貝殻刺突文が1条めぐり、その下に縦位の貝殻刺突文が施される。265は、浅い綾杉条痕文が施される。267は太めの貝殻刺突文により綾杉状に施文されている。

重複遺構8 (第182図)

D-30・31区X層で検出した。12号竪穴建物跡・30号連穴土坑が重複しており、埋土の堆積状況等から12号竪穴建物跡が新しいと判断した。12号竪穴建物跡は方形を呈し、30号連穴土坑の主穴部東側を切る。遺構内遺物と判断したものは、12号竪穴建物跡から土器3点であり、図化した。274は綾杉条痕文と思われる。

重複遺構9 (第183図)

C・D-32区X層で検出した。36号・37号連穴土坑が重複しており、埋土の堆積状況等から37号連穴土坑が新しいと判断した。いずれも焼土が残存するが、36号連穴土坑はブリッジが崩落している。37号連穴土坑のブリッジにはX層が残存し、埋土下部からは礫が数点、検出面付近から土器片が出土している。遺構内遺物と判断したものは、37号連穴土坑から土器2点と、36号連穴土坑から土器3点であり、そのうち37号連穴土坑から土器1点、



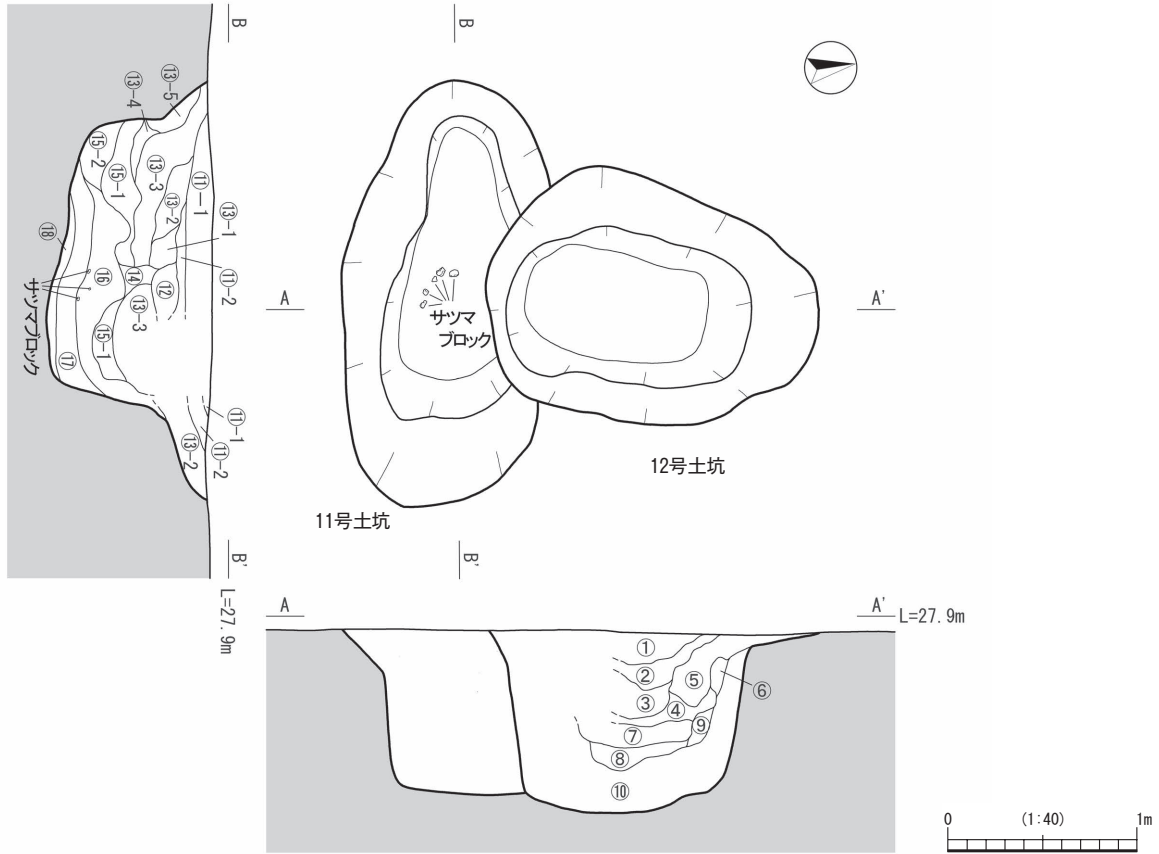
- ① 黒褐色シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIII層類似 1~3mm大の黄色バミスを多量含み,1mm大の白色バミスを多量含む
- ② 暗褐色シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い IX層類似 1mm大の黄色バミスを微量含み,X層ブロックを少量含む
- ③ 黒褐色シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIII層類似 1~3mm大の黄色バミスを中量含み,XI層ブロックを微量含む,1mm大の白色バミスを少量含む ④よりバミスさらに少なく,やや柔らかい
- ④ 黒褐色シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIII層類似 1~3mm大の黄色バミスを多量含み,1mm大の白色バミスを多量含む,XI層ブロックを微量含む ①よりバミス少なく,やや柔らかい
- ⑤ 暗褐色シルト 締まりやや強い 粘性有り VIII層類似 1~3mm大の黄色バミスを少量含み,1mm大の白色バミスを少量含む,XI層ブロックを少量含む ③よりバミス少ない 弱い斑紋状
- ⑥ 暗褐色シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い IX層類似 1~3mm大の黄色バミスを少量含み,1mm大の白色バミスを微量含む,IX層起源の崩落土
- ⑦ 黒褐色シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIII層類似 1~3mm大の黄色バミスを中量含み,1mm大の白色バミスを中量含む,XI層ブロックを少量含む ⑨+⑥の混土
- ⑧ 黒褐色シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIII層類似 1~3mm大の黄色バミスを多量含み,1mm大の白色バミスを中量含む,XI層ブロックを微量含む ⑨+④の混土
- ⑨ 黒褐色シルト 締まり強い 粘性やや弱い VIII層類似 1~3mm大の黄色バミスを多量含み,1mm大の白色バミスを中量含む,XI層ブロックを微量含む バミス量多く,黒み最も強い 固くしめるラミナ構造ははっきりとはみられないが,スロープ状施設の埋土に似る
- ⑩ 褐色粘質土 締まりやや強い 粘性やや強い VIII層とXI層の混土 VIII層ブロック70~80%程度
- ⑪ 暗褐色粘質土 締まり有り 粘性有り XI層類似 VIII層ブロック少量含む ⑩よりVIII層ブロック少ない
- ⑫ 暗褐色粘質土 締まり強い 粘性弱い 赤く変色している
- ⑬ 締まりやや強い 粘性有り 2~3mm大の黄色バミスを少量含み,1mm大の白色バミスを少量含む VIII層+IX混土層
- ⑭ 暗褐色シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い IX層類似 1mm大の黄色バミスを微量含み,X層ブロックを少量含む バミス少ない
- ⑮ 暗褐色シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い IX層類似 1mm大の黄色バミスを少量含み,X層ブロックを微量含む バミス少ない
- ⑯ 暗褐色シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い IX層類似 1~3mm大の黄色バミスを少量含み,X層ブロックを微量含む
- ⑰ 黒褐色シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIII層類似 1mm大の黄色バミスを微量含み,XI層ブロックを少量含む
- ⑱ ③に類似 弱い斑紋
- ⑲⑩に類似 VIII層とXI層との混土ブロック (50% -50%) 顕著な斑紋
- ⑳ 暗褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 VIII層ブロック微量
- ㉑ 褐色土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層起源の粘質土 VIII層ブロックほとんど含まない ⑩と比べると,やや明るく粘性弱い
- ㉒ 暗褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XII層類似 XII層より締まりが弱い

第169図 重複遺構2

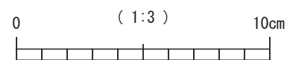
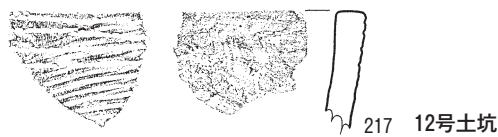
36号連穴土坑から土器1点図化した。278は綾杉条痕文の上から浅くナデが施されている。

重複遺構10 (第184図)

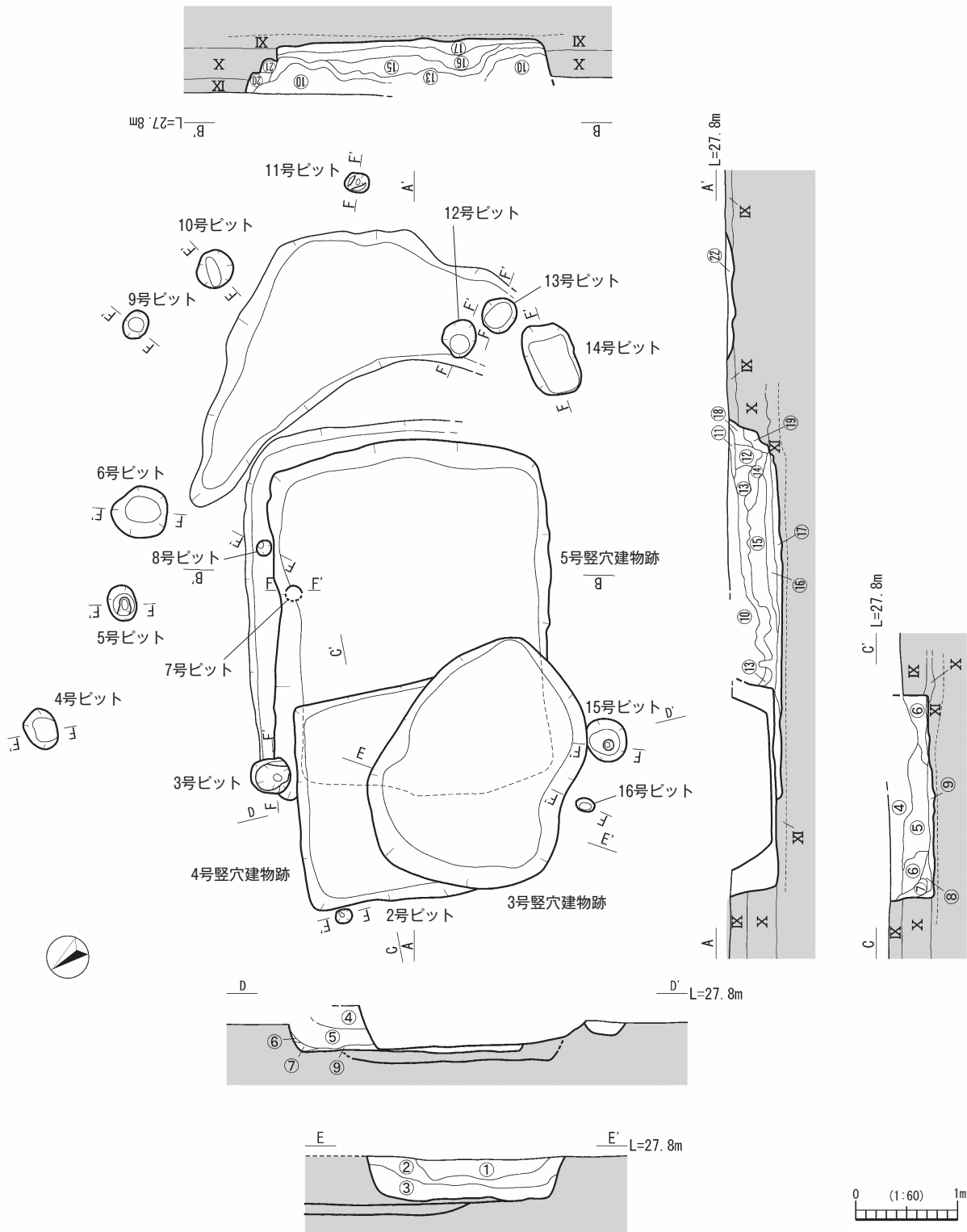
G-32・33区IX層で検出した。16号竪穴建物跡・27号土坑・38号連穴土坑が重複しており,現場段階の位置情



- ① 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1~2mm大の白色バミス多量,1~3mm大の橙色バミス中量,2mm大の炭化物粒を少量含む
- ② 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1~3mm大の白色バミス,橙色バミス,炭化物粒を少量含む 土質は①に似るが,混入物の割合が①に比べ少ない
- ③ 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1~3mm大の白色バミス,橙色バミス,炭化物粒を少量含む,1~2cm大の褐色土ブロックを少量含む
- ④ 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量,橙色バミス少量含む
- ⑤ 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量,2mm大の橙色バミス少量含む,1~2cm大の褐色土ブロックを中量含む
- ⑥ 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1~2cm大の褐色土ブロックを多量含む
- ⑦ 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス微量,1~3mm大の橙色ブロック少量含む,1cm大の褐色土ブロックを微量含む
- ⑧ 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 2mm大の橙色バミスを微量含む
- ⑨ 暗赤褐色粘質土と黒褐色土との混土 締まり有り 粘性強い
- ⑩ 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや弱く,ほとんど含有物を含まない
- ⑪-1 黒褐色土 締まり強い 粘性なく1mm以下の白色バミス多く含む,レンズ状に堆積する 白色バミス多く 1~3mmのオレンジバミス少ない 下部に1~3mmの炭化物多く含む
- ⑪-2 灰褐色土 ⑪-1よりやや明るいバミス比較的やや多い
- ⑫ 褐色土 締まり弱い 粘性弱い 1~3cm程度の暗黄褐色土主体のブロック土 薩摩火山灰起源の可能性もあるが,締まり弱い
- ⑬-1 黒褐色土 ⑬-2と似るが,黄色味強く明るい 橙色バミス含むが少ない
- ⑬-2 黒褐色土 ⑬-1と比べ若干明るい 橙色バミス多く含む
- ⑬-3 極暗褐色土 VIII層類似の黒褐色土を基調とするが,1~3mm大の橙色バミス,1mm以下の白色バミスを多く含む1~3cm大の斑状堆積目立つ
- ⑬-4 黒褐色土 1~3cm大の斑状堆積目立たない 橙色バミス,白色バミスとも少ない
- ⑬-5 黒褐色土 1~3cm大の斑状堆積最も目立つ 橙色バミス,白色バミスとも⑬-2,⑬-3と比べ若干少ない
- ⑭ 褐色土 締まりなくやわらかい 粘性もない ⑫よりさらに暗い 暗褐色土主体の埋土 VIII層類似の黒褐色土を1~3cm大の斑状にわずかに含む ⑮-1,⑯と⑰の混土層 2~4cm大の斑状を呈する
- ⑮-1 暗褐色土 混土割合が50%程度か,黒色土の割合の方が多い
- ⑮-2 暗赤褐色土 ⑮-1と比べ締まり弱い
- ⑯ 暗赤褐色土 やわらかく, 1~3cm大の斑状を呈する 下部に1cm大の黄色ロームブロックが少量有する
- ⑰ 黒褐色土 締まり弱い,粘性強い XI~X III層相当 ⑯と比べると暗くねばりがあるが若干やわらかい
- ⑱ 褐色土 締まりややあるが,粘性はない X IV層相当のブロック土



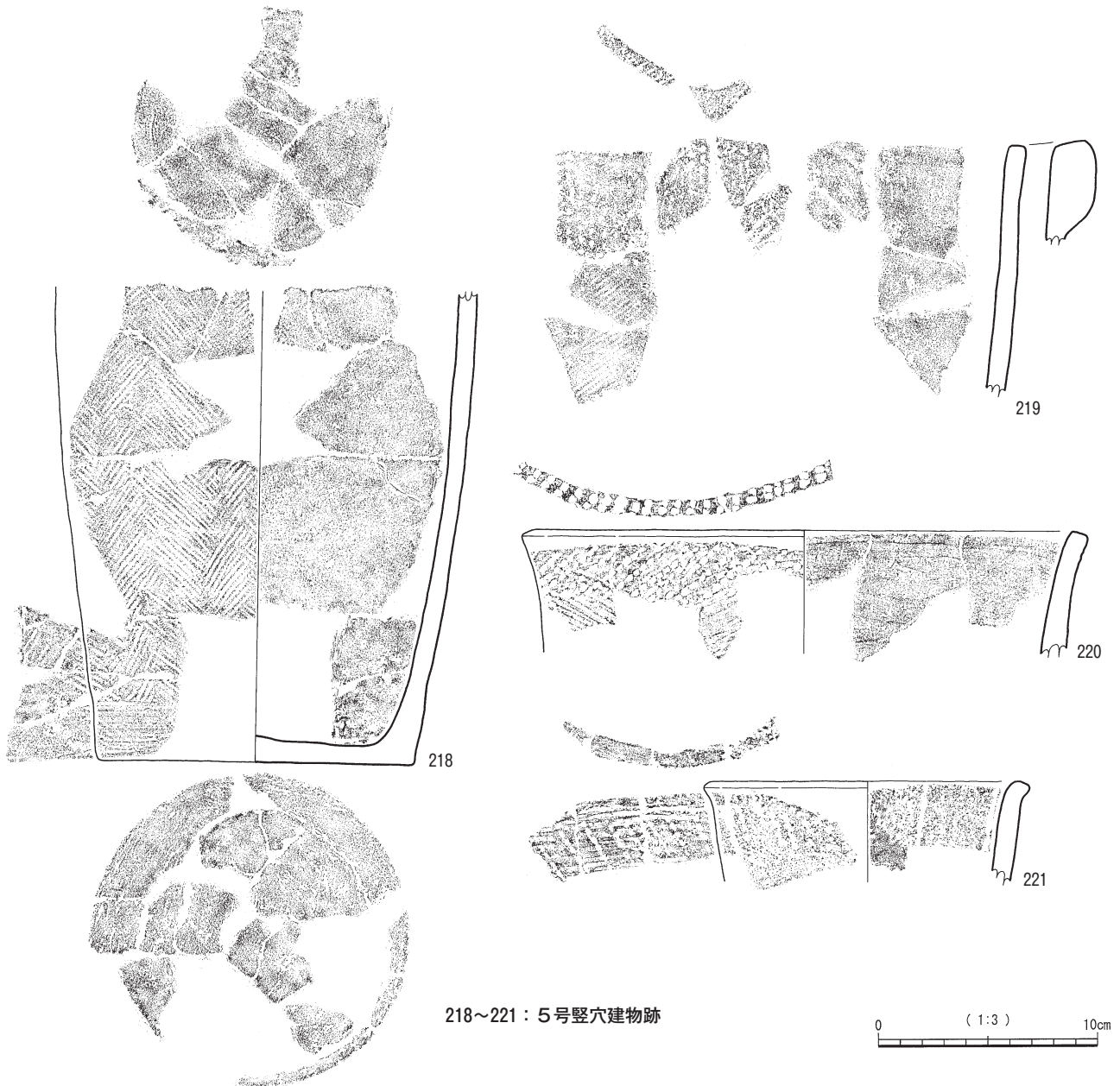
第170図 重複遺構3・出土遺物



第171図 重複遺構4・周辺ピット

報を元に整理作業で復元した。埋土の堆積状況等から16号堅穴建物跡が27号土坑・38号連穴土坑に切られていると判断した。16号堅穴建物跡は段を有する堅穴建物跡と考えられるが、北側は調査区境のため検出できなかった。また、16号堅穴建物跡上部には、埋土の可能性が考えら

れるが平面的な広がりが不明な堆積がみられることから、周辺土層とは区別してa・bで表している。38号連穴土坑は焼土が残る連穴土坑で、ブリッジにはX層・XI層・XII層が残存する。38号連穴土坑の埋土上部及び27号土坑の埋土上部には礫が散在している。遺構内遺物と判断し



218~221：5号竖穴建物跡

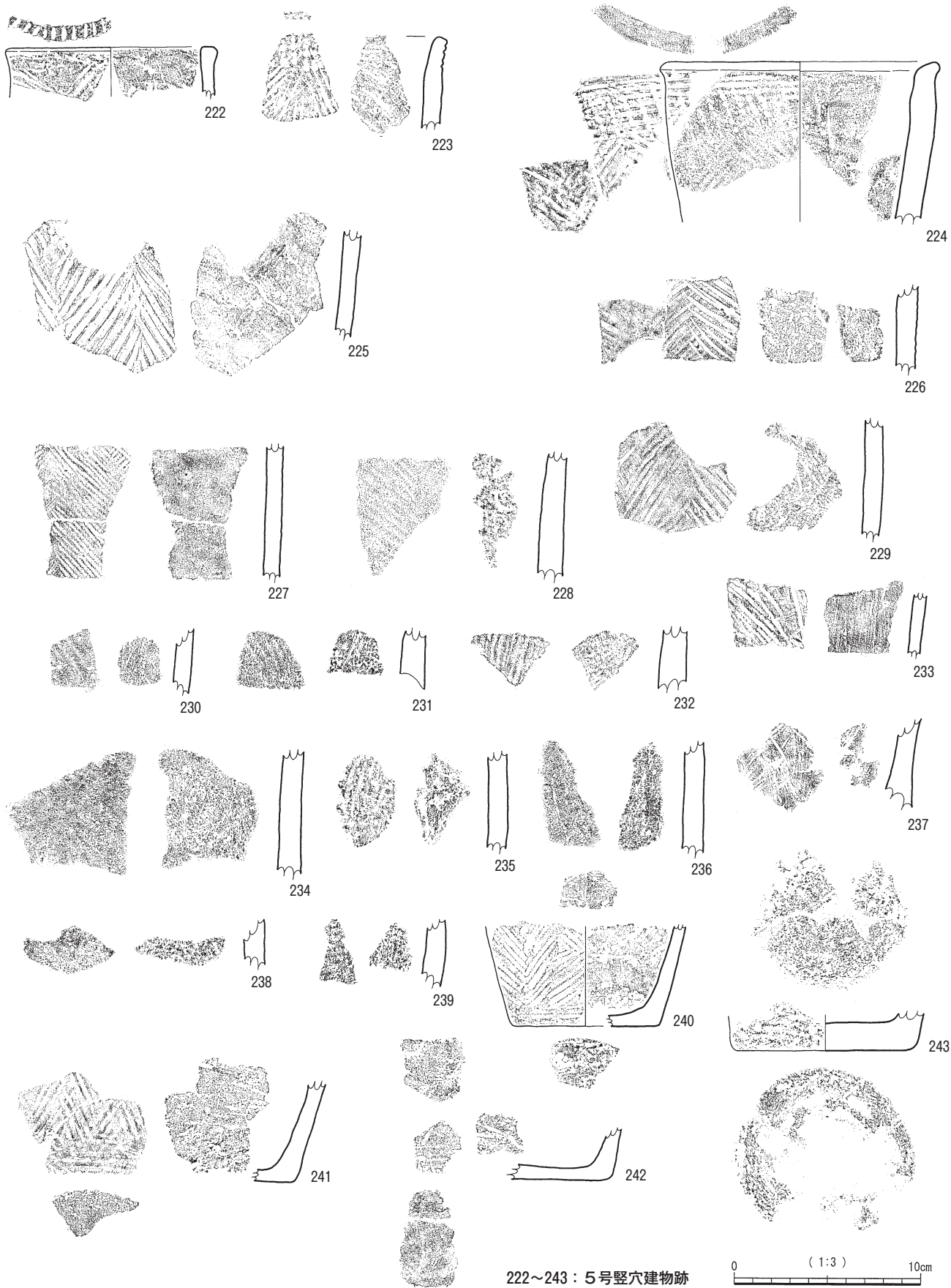
第173図 重複遺構4出土遺物①

たものは、16号竖穴建物跡から土器4点と石器2点、38号連穴土坑から土器2点であり、そのうち16号竖穴建物跡から土器4点と石器1点、38号連穴土坑から土器1点図化した。279はシャープな綾杉条痕文である。281は器壁が2cmと厚みがある。283は扁平な円礫を分割し、分割面から細石刃を剥離している。

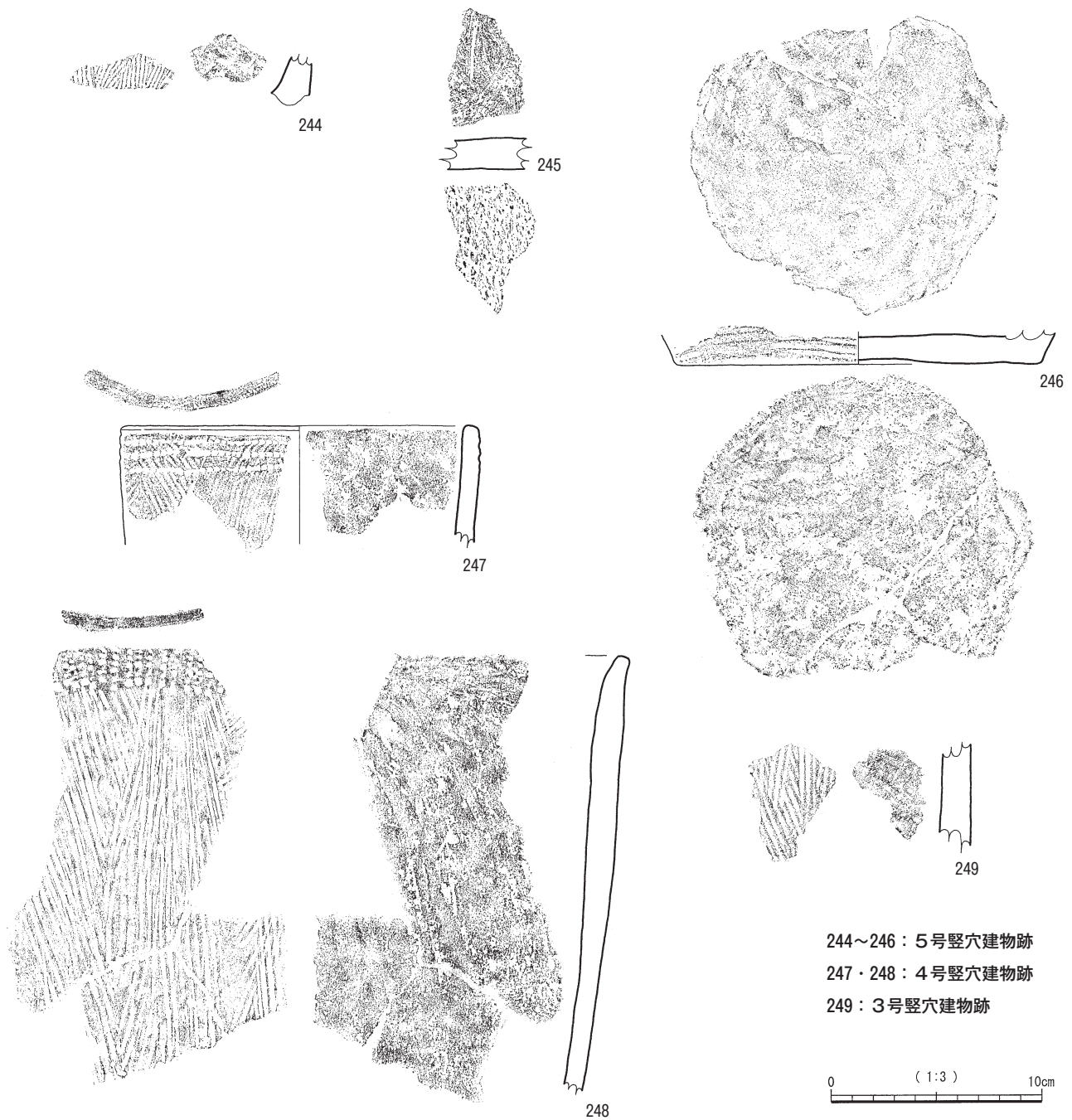
重複遺構11（第186図）

G-33区で検出され、18号竖穴建物跡はⅧb層、17号竖穴建物跡・39号連穴土坑・29号土坑はⅨ層で検出した。現場段階の位置情報を元に整理作業で復元した。17号竖穴建物跡が最も古く、39号連穴土坑と29号土坑が17号竖

穴建物跡の真上に重複し、さらに17号竖穴建物跡東側壁面が18号竖穴建物跡に切られると判断した。ただし、18号竖穴建物跡と29号土坑の新旧関係は不明である。39号連穴土坑は楕円形でわずかにブリッジの痕跡が残り、29号土坑も類似した楕円形を呈するが、痕跡が見られなかったため土坑として取り扱った。また、39号連穴土坑は検出面から床面までが約48cmと他の遺構に比べて深い。17号竖穴建物跡・18号竖穴建物跡はいずれもスロープ状施設が見られるが、18号竖穴建物跡のスロープ状施設は調査時の掘削により平面では観察できず、埋土の堆積状況からおよその平面形を復元した。遺構内遺物と判断したものは、18号竖穴建物跡から土器15点と石器1点、29



第174図 重複遺構4出土遺物②



244~246：5号竪穴建物跡
 247・248：4号竪穴建物跡
 249：3号竪穴建物跡

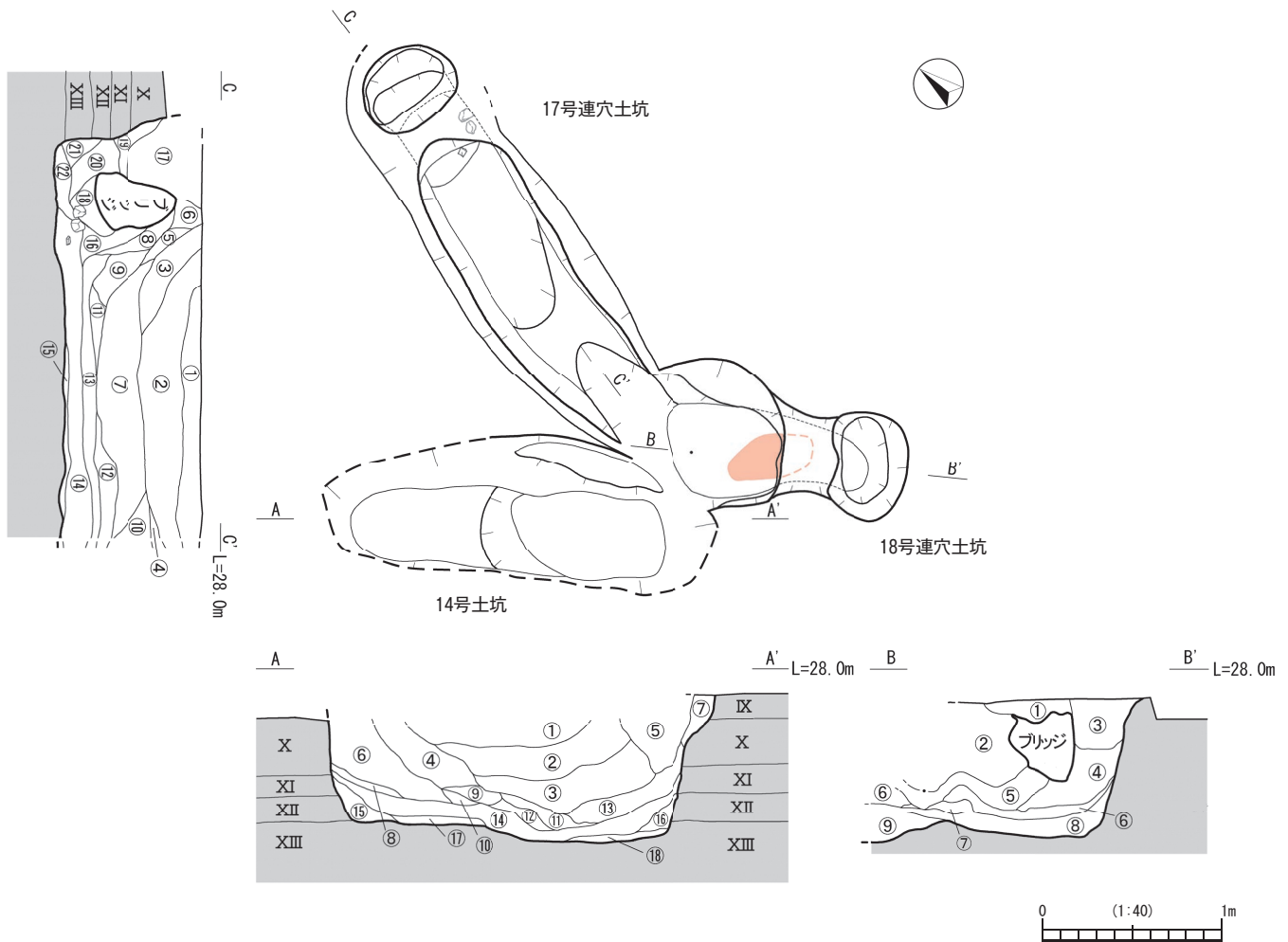
第175図 重複遺構4出土遺物③

号土坑から土器2点であり、そのうち18号竪穴建物跡から土器6点と石器1点、29号土坑から土器1点を図化した。287は、わずかに綾杉条痕文と確認できる。288は短沈線を羽状に施す。290は口唇部が丸みを呈してやや内傾する。器壁はやや厚手で、内外面共にナデが施される。

重複遺構12 (第188図)

F・G-33区Ⅸ層で検出した。30号・31号土坑と40号連穴土坑が重複している。10号連穴土坑が30号土坑の南端を切り、わずかに31号土坑が40号連穴土坑の南東端を

切る。40号連穴土坑は埋土中に薩摩火山灰(X層)ブロックを含み煙道部が想定される床面がピット状に深くなっている。西側を主軸に沿って断ち割り確認したところ、XV層からXVI層中にシミ状痕跡が認められた。これらの状況から、40号連穴土坑は連穴土坑として取り扱った。遺構内遺物と判断したものは、40号連穴土坑から土器1点、31号土坑から石器1点であり、そのうち40号連穴土坑の土器1点を図化した。293は綾杉条痕文が施されている。



14号土坑

- ① 黒褐色 締まりは強く粘性もある 2mm以下の黄色バミスも多く含み,1mm以下の白色バミスをわずかに含む
- ② 黒褐色 締まりは強く粘性もある (①より若干粘性は弱い) 5mm以下の黄色バミスも多く含み,1mm以下の白色バミスも多く含む
- ③ 黒褐色 やや締まり有り 粘性少ない 1cm以下の黄色バミスも多く含み,1mm以下の白色バミスをわずかに含む (暗褐色粘質土を斑に含む)
- ④ 黒褐色 やや締まり有り 粘性少ない 5mm以下の黄色バミスも多く含み,1mm以下の白色バミスを斑に含む (暗褐色粘質土を斑に含む)
- ⑤ 黒褐色 締まりは強く 粘性有り 1cm以下の黄色バミスも多く含み,1mm以下の白色バミスをわずかに含む
- ⑥ 黒褐色 締まりは強く 粘性もある 1cm以下の黄色バミスも多く含み,1mm以下の白色バミスをわずかに含む (XII層酷似した土を多く含む)
- ⑦ 黒褐色 やや締まり 粘性もある 5mm以下の黄色バミスをわずかに含む
- ⑧ 黒褐色に暗褐色をブロック状に含む やや締まり有り 3mm以下の黄色バミスをわずかに含み,白色バミスも極わずかに含む VIII層とXI層の混在層
- ⑨ 黒褐色に暗褐色をブロック状に含む やや締まり有り 3mm以下の黄色バミスをわずかに含み,白色バミスも極わずかに含む (⑧と酷似している) VIII層とXI層の混在層
- ⑩ 暗褐色に黒褐色を斑に含む やや締まり 粘性が強い 2mm以下の黄色バミスをわずかに含み 白色バミスも極わずかに含むVIII層とXI層の混在層
- ⑪ 暗褐色に黒褐色を斑に含む やや締まり 粘性が強い 2mm以下の黄色バミスをわずかに含み白色バミスも極わずかに含む (⑩と酷似している) VIII層とXI層の混在層
- ⑫ 暗褐色に黒褐色を極わずかに含む 締まりは弱く 粘性が強い 1mm以下の黄色バミスを極わずかに認める VIII層とXI層の混在層
- ⑬ 黒褐色に暗褐色をブロック状に含む やや締まり 粘性が強い 3mm以下の黄色バミスをわずかに含み,白色バミスも極わずかに含む (⑧・⑨と酷似している) VIII層とXI層の混在層
- ⑭ 暗褐色 締まりは弱く 粘性が強い 2mm以下の黄色バミスと白色バミスも極わずかに認める
- ⑮ 暗褐色 締まりは弱く 粘性が強い (⑭より若干締まりがある) XI層とXII層の混在層
- ⑯ 暗褐色 締まりは弱く 粘性が強い 5mm以下の黄色バミスと1mm以下の青灰色バミスも極わずかに認める (⑭より若干締まりがある) XI層とXII層の混在層
- ⑰ 暗褐色 締まりは弱く 粘性が強い 5mm以下の青灰色レキを極わずかに認める (⑭より若干締まりがある)
- ⑱ 暗褐色 締まりは弱く 粘性が強い 5mm以下の青灰色レキを極わずかに認める (⑰と酷似している) (⑭より若干締まりがある)

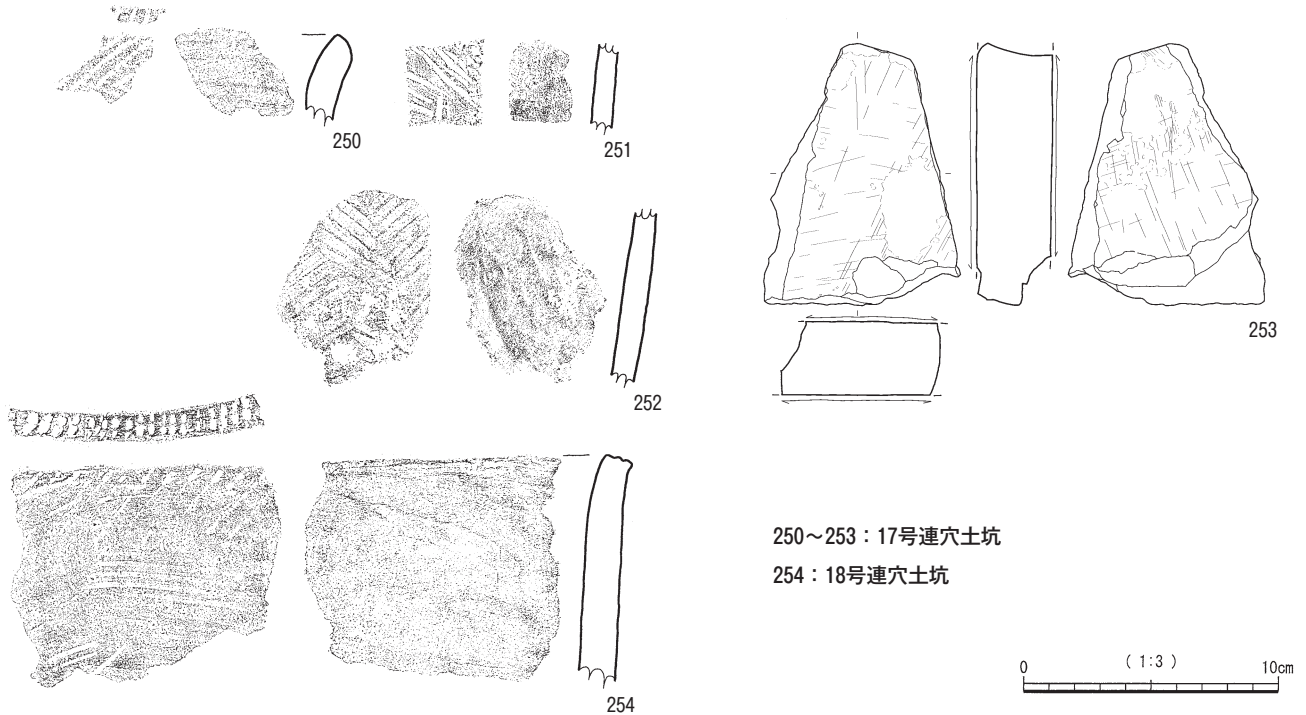
18号連穴土坑

- ① 黒褐色粘性砂質土 5mm以下の黄色バミスと1mm以下の白色バミス少量含む やや締まり強い
- ② 黒褐色粘性砂質土 5mm以下の黄色バミスと1mm以下の白色バミス多量に含む やや締まり強い XI層と思われる粘質土を斑に含む
- ③ 黒褐色粘性砂質土 5mm以下の黄色バミスと1mm以下の白色バミス多量に含む やや締まり強い XI層と思われる粘質土を斑に含む (②と類似)
- ④ 黒褐色粘性砂質土 5mm以下の黄色バミスと1mm以下の白色バミス少量含む やや締まり強い (VIII層とXI層の混合層,XI層を30%含む)
- ⑤ 黒褐色粘性砂質土 5mm以下の黄色バミスと1mm以下の白色バミス少量含む やや締まり強い (VIII層とXI層の混合層,XI層を30%含む) (④と類似) 炭化物と焼土あり
- ⑥ 暗褐色粘質土 締まりはやや有り (VIII層とXI層の混合土) (XI層が50%)
- ⑦ 暗褐色粘質土 締まりなし
- ⑧ 暗褐色粘質土 締まりなし (炭化物と黄色バミスを少量含む) (⑦より若干土色暗い)
- ⑨ 暗褐色粘質土 締まりなし (黄色バミスと白色バミスを少量含む)

第176図 重複遺構5

17号連穴土坑

- ①黒褐色粘性砂質土 やや締まり有り 5mm以下の黄色バミス中量含み 1mm以下の白色バミス若干含む
- ②黒褐色粘性砂質土 やや締まり有り 8mm以下の黄色バミス中量含み 1mm以下の白色バミス多量に含む
- ③黒褐色粘性砂質土 やや締まり有り 5mm以下の黄色バミスと1mm以下の白色バミス多量に含む 炭化物含む
- ④黒褐色粘性砂質土 やや締まり有り 5mm以下の黄色バミスと1mm以下の白色バミス多量に含む 炭化物含む
- ⑤黒褐色粘質土 粘性強い 締まり弱い 3mm以下の黄色バミスと1mm以下の白色バミス均等に含む
- ⑥黒褐色粘質土 粘性強い 締まり弱い 1mm以下の黄色バミスと1mm以下の白色バミス均等に含む (Ⅷb層とⅪ層の混土層)
- ⑦黒褐色粘性砂質土 やや締まり有り 5mm以下の黄色バミスと1mm以下の白色バミス中量含む (7cm大のレキ含む) (Ⅺ層と類似している土をまだらに含む)
- ⑧暗褐色砂質土 (若干の粘性有り) 締まりは弱い 5mm以下の黄色バミス均等に含み 1mm以下の白色バミス上位に中量含む
- ⑨黒褐色粘性砂質土 やや締まり有り 5mm以下の黄色バミスと1mm以下の白色バミス中量含む (Ⅺ層と類似している土を若干含む)
- ⑩粘性砂質土 締まりは強い 8mm以下の黄色バミス多量に含み 1mm以下の白色バミス少量含む (下にⅫ層と類似している土が堆積 炭化物を多量に含む)
- ⑪黒褐色粘性砂質土 締まりは強い 5mm以下の黄色バミスと1mm以下の白色バミス少量含む
- ⑫黒褐色粘性砂質土 締まりは強い 5mm以下の黄色バミスと1mm以下の白色バミス少量含む (⑪と類似)
- ⑬暗褐色 (ⅩⅢ層に類似) に黒褐色をまだらに含む 締まりは強い (ⅩⅢ層の漸移層)
- ⑭暗褐色粘質土 (粘性が強い) (Ⅻ層と類似)
- ⑮暗褐色粘質土 (粘性が強い) に3mm以下の黄色バミス含む
- ⑯暗褐色粘質土 (粘性が強い) に2mm以下の黄色バミス含む
- ⑰黒褐色粘性砂質土 (②と類似)
- ⑱黒褐色粘質土に1mm以下の白色バミス少量含む
- ⑲黒褐色粘性砂質土
- ⑳黒褐色粘性砂質土に1.5cm以下の黄色バミスをまだらに含む
- ㉑暗褐色粘質土に黒褐色粘性砂質土をまだらに含む
- ㉒暗褐色粘質土に⑱が少量混じる (焼けたレキと土器片出土) 焼土を含む



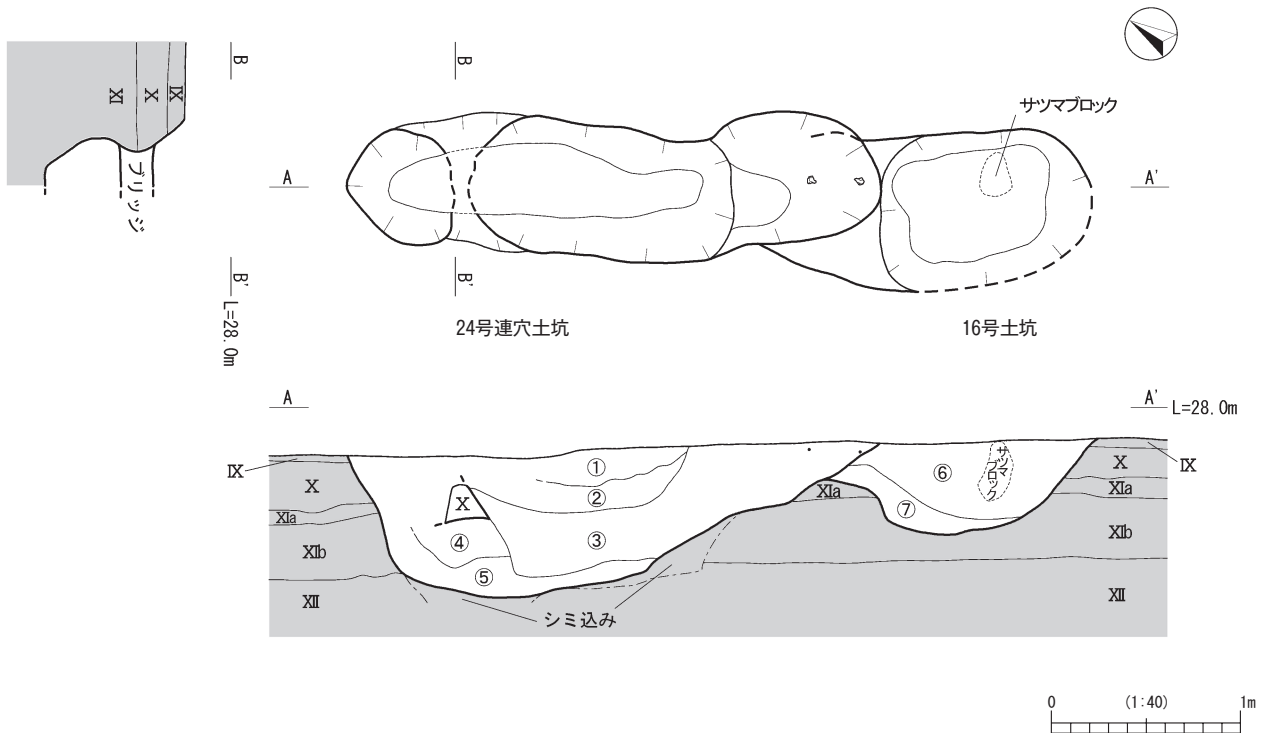
第177図 重複遺構5出土遺物

重複遺構13 (第189図)

E-33区で検出され、33号土坑はⅧb層、34号土坑・40号ピットはⅩ層で検出した。埋土の堆積状況等から33号土坑が最も新しいと判断した。33号土坑は、検出面付近に礫が散在しているほか、埋土①中に大型の軽石がみられ、34号土坑・14号ピットの中に位置して両者の上端をわずかに切る。14号ピットの北壁は垂直に立ち上がる。遺構内遺物と判断したものは、33号土坑から土器3点であり、そのうち土器1点を図化した。294はやや摩滅しているが、外面には斜位の貝殻刺突文が施されている。

重複遺構14 (第190図)

D-33・34区で検出され、36号土坑はⅨ層、37号土坑はⅩ層で検出した。東西方向にほぼ水平に重複しており、埋土の堆積状況等から、36号土坑が新しく37号土坑の西側を切ると判断した。遺構内遺物と判断したものは、36号土坑から土器2点、37号土坑から石器1点であり、そのうち36号土坑から土器2点を図化した。295は外面が剥落している。口縁部が直行し口唇部が平坦でキザミが施される。



- ① 黒褐色土 締まり有り 粘性やや有り 火山灰含む 1mm以下の白色バミス微量, 1~5mm大の黄色バミス少量含む
- ② 黒褐色土 締まり有り 粘性やや有り 火山灰含む 1mm以下の白色バミス少量, 1~5mm大の黄色バミス少量含む
- ③ 黒色土 締まり強い 粘性やや有り 1~2mm大の白色バミス微量, 1~2mm大の黄色バミス少量含む, 5~15mm大の暗オリーブ褐色土をブロック状に少量含む
- ④ 灰褐色粘質土 締まりやや有り 粘性強い
- ⑤ 暗赤褐色粘質土 締まりやや有り 粘性強い
- ⑥ 黒褐色土 締まり強い 粘性やや有り 1~10mm大の黄色バミス中量, 1~2cm大の礫混在
- ⑦ ぶい赤褐色粘質土 締まり有り 粘性非常に強い 1mm以下の白色粒含む

第178図 重複遺構6

重複遺構15 (第190図)

C-33区で検出され、45号連穴土坑はX層、46号連穴土坑はIX層で検出した。ほぼ水平方向に重複しているが、床面がほぼ連続していることや埋土の堆積状況等から、新旧関係を検討することが困難であった。45号連穴土坑のブリッジにはX層が残存する。46号連穴土坑のブリッジ崩落後、軸をややずらして北側に主穴部と従穴部を再構築したと考えられる。46号連穴土坑東端の埋土上部からは、礫が数点と土器が出土した。遺構内遺物と判断したものは、46号連穴土坑から土器2点であり、そのうち土器1点を図化した。

重複遺構16 (第191図)

B-33区で検出され、48号連穴土坑はIX層、119号集石はVIII b層で検出した。119号集石は48号連穴土坑の主穴部の北壁をわずかに切る。また、48号連穴土坑の主穴部東端の床面付近にはわずかに焼土粒が散在する。遺構内遺物と判断したものは、48号連穴土坑から土器3点であり、そのうち土器1点を図化した。298は口唇部にキザミが施され、口縁部は貝殻刺突文が横位に5条めぐる。

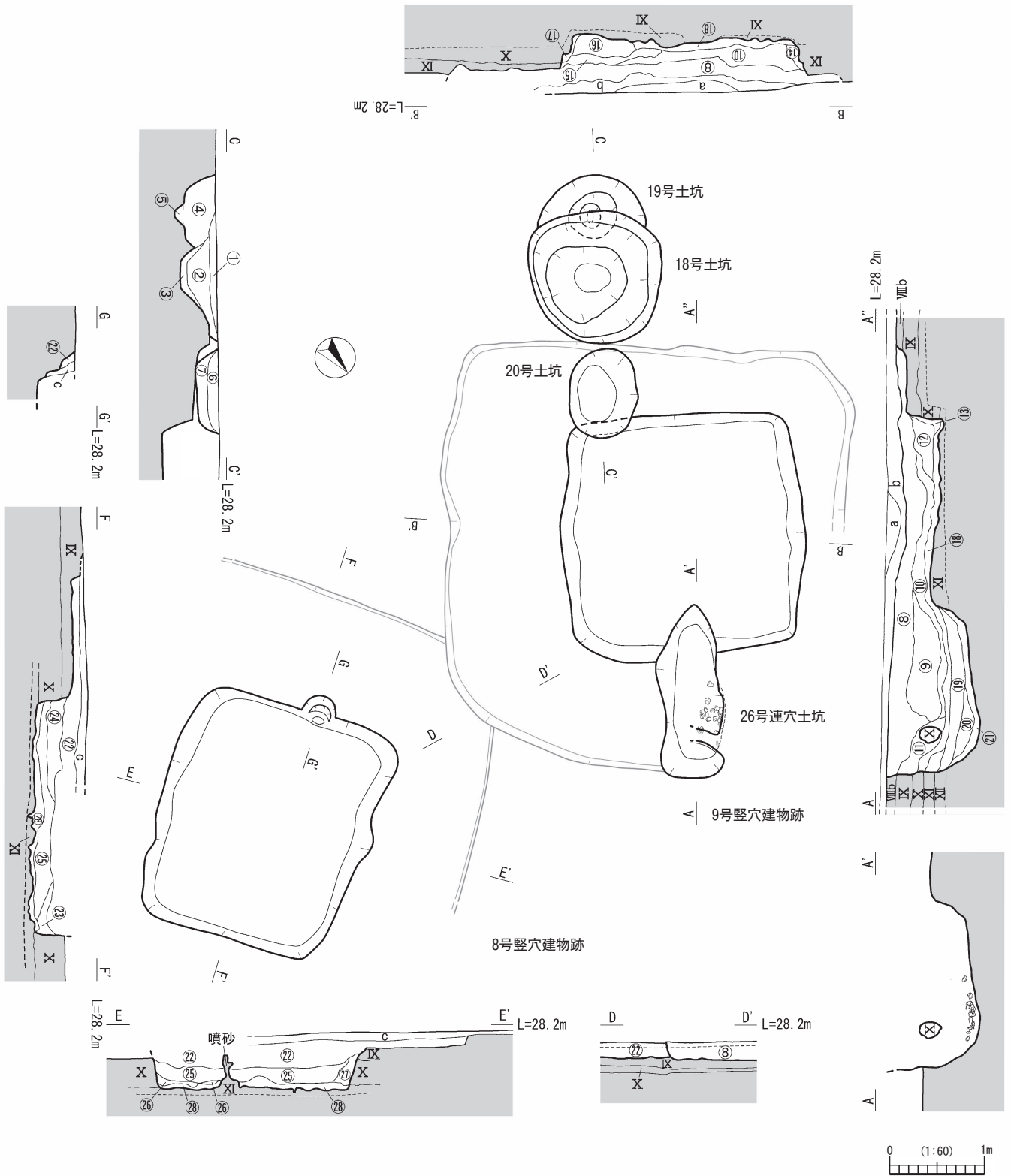
欠落している口縁部方向に肥厚しており、瘤状突起が付く資料である可能性がある。

重複遺構17 (第192図)

B-34区IX層で検出され、19号竪穴建物跡、52号連穴土坑はIX層、53号連穴土坑はVIII b層で検出した。現場段階の位置情報を元に整理作業で復元した。埋土の堆積状況等から52号・53号連穴土坑が新しく、それぞれが19号竪穴建物跡を切ると判断した。52号連穴土坑は焼土が残存する。遺構内遺物と判断したものは、53号連穴土坑から土器8点であり、そのうち土器3点を図化した。299は、口縁部が外反し胴部でわずかに膨らむ器形を呈する。口唇部にはキザミを施し、口縁部直下に貝殻刺突文を1条横位に施す。その下位に、斜位の貝殻刺突文が施され、胴部の綾杉条痕文は上下の間隔がある。301は尖底ないし丸底を呈するもので、文様ははっきりとしない。

重複遺構18 (第194図)

E・F-34区VIII b層で検出した。56号連穴土坑と133号集石とが重複している。集石の掘り込みが56号連穴土

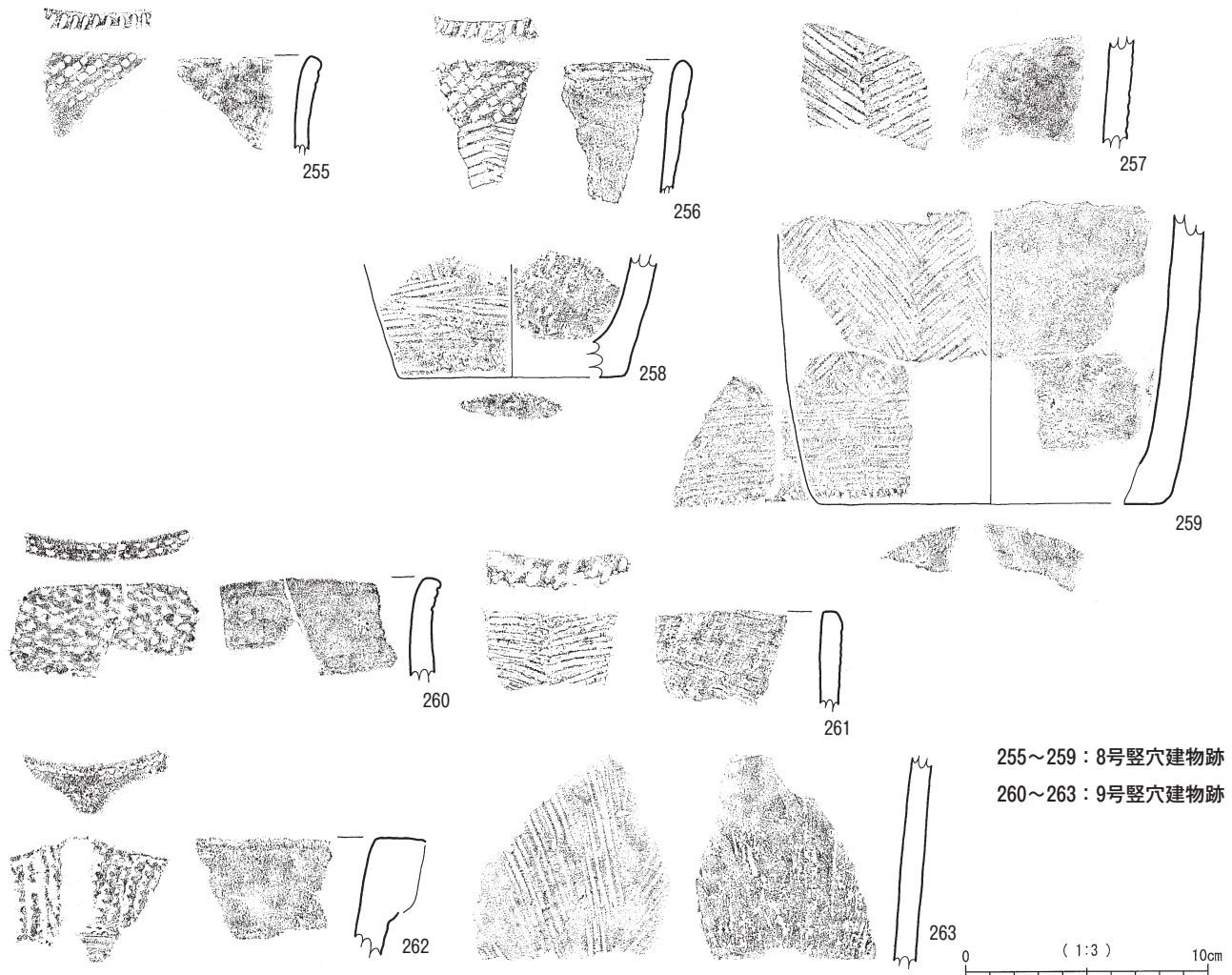


第179図 重複遺構7

坑を切るが、集石検出時には56号連穴土坑の上面にも礫が散在しており、埋土中にも礫が散在する。ここでは、集石は掘り込みのみ図示する。56号連穴土坑の床面は主穴部でブリッジに向かって傾斜し、従穴部で急峻となる。

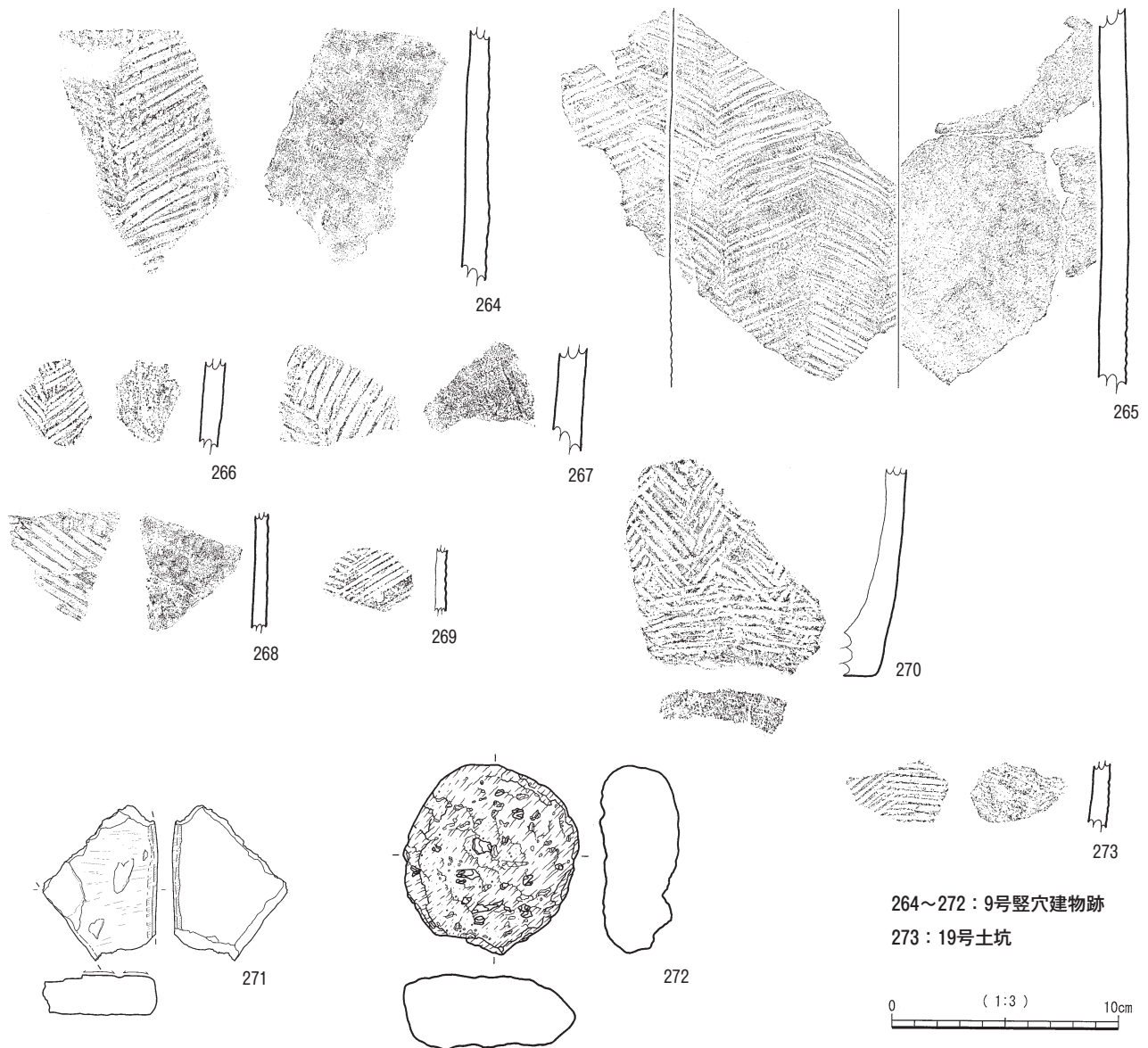
立ち上がった従穴部は残存するブリッジ上面とほぼ同じレベルでステップ状となる。このステップ部分の埋土は、主穴部やブリッジ周辺を含んでいるため、上面からの遺構が重複している可能性も否定できない。遺構内遺物と

- ① 黒色土 締まりやや弱い 粘性やや有り 1mm大の黄白色バミス少量含む 1mm大の炭化物を微量含む
- ② 黒褐色土 締まり弱い 粘性やや少ない 1~2mm大の黄白色バミスを含む 1mm大の炭化物を微量含む
- ③ 黒褐色土 締まりやや有り 粘性少ない 1~3mm大の黄白色バミスを含む 1mm大の炭化物を微量含む
- ④ 黒色土 締まりやや弱い 粘性やや少ない 1~2mm大の黄白色バミスをやや多く含む 1mm大の炭化物を微量含む
- ⑤ 黒褐色土 締まりやや有り 粘性少ない 1mm大の黄白色バミス微量含む
- ⑥ 黒色土 締まりやや弱い 粘性やや有り 1mm大の黄白色バミスを含む 1mm大の炭化物を微量含む
- ⑦ 黒褐色土 締まりやや有り 粘性やや少ない 1~2mm大の黄白色バミスを含む 1mm大の炭化物を微量含む
- a 黒色土 締まりやや弱い 粘性やや少ない 1mm大の灰白色バミス及び黄白色バミス多く含む
- b 黒褐色土 締まりやや弱い 粘性やや少ない 1~5mm大の灰白色バミスと1mm大の黄白色バミス多く含む、炭化物粒を少量含む
- ⑧ 黒褐色土 締まりやや弱い 粘性やや有り 1~3mm大の黄白色バミス多く含む、暗褐色土が少量混じる、炭化物粒を微量含む
- ⑨ 黒褐色土 締まり弱い 粘性やや有り 1~5mmの黄白色バミスを多量に含む、炭化物粒を少量含む
- ⑩ 黒褐色土 締まり弱い 粘性少ない 1~5mm大の黄白色バミス多く含む、炭化物粒を少量含む、褐色土が混じる
- ⑪ 暗褐色土 締まりやや有り 粘性少ない 1~2mm大の黄白色バミス少量含む
- ⑫ 黒褐色土 締まりやや有り 粘性少ない 1~5mm大の黄褐色バミス多量に含む、にぶい黄褐色土が混じる
- ⑬ 黒褐色土 締まりやや有り 粘性やや少ない 1~2mm大の黄褐色バミスを含む、鈍い黄褐色炭化物粒を微量含む
- ⑭ 暗褐色土 締まりやや有り 粘性少ない 1~3mm大の黄褐色バミス少量含む
- ⑮ 暗褐色土 締まりやや弱い 粘性少ない 1~3mm大の黄褐色バミス多く含む、褐色土が少量混じる
- ⑯ 黒褐色土 締まりやや有り 粘性少ない 1~5mm大の黄褐色バミス多量に含む、にぶい黄褐色土が微量混じる、⑫層に似るがにぶい黄褐色土が少ない
- ⑰ 黒褐色土 締まりやや有り 粘性少ない 1~2mm大の黄褐色バミスを含む、にぶい黄褐色土が多く混じる、⑬層に似る
- ⑱ 黒褐色土 締まり弱い 粘性やや有り 1~2mm大の黄褐色バミス微量含む、褐色土（XI層）が斑状に多く含む
- ⑲にぶい赤褐色土 締まり弱い 粘性やや有り XI-XII層相当のブロック状に堆積し、地山と比べるとややわらかく締まりない1mm前後の炭化物を多く含む
- ⑳ 赤褐色土 締まり弱い 粘性やや有り 基本的には⑲に似るがXIII層のブロックをわずかに含み、⑲と比べるとやや明るく見える 1~3mm橙色バミス多く含む VIII層ブロックを含む
- ㉑ 褐色土 締まり弱い 粘性少ない XII層を主体にXI層が混じる混土層 1mm大の炭化物含む
- c 黒褐色土 締まりやや弱い 粘性やや少ない 1~5mm大の灰白色バミスと1mm大の黄白色バミス多く含む、炭化物粒を少量含む
- ㉒ 黒褐色土 締まりやや有り 粘性少ない 1~2mm大の黄白色バミス少量含む 炭化物粒を少量含む、黒褐色土が少量混じる
- ㉓ 暗褐色土 締まり弱い 粘性少ない 1~2mm大の黄褐色バミス少量含む
- ㉔ 黒褐色土 締まりやや弱い 粘性やや有り 1~4mm大の黄褐色バミス多量に含む 炭化物粒を微量含む
- ㉕ 黒褐色土 締まりやや弱い 粘性やや有り 1~5mm大の黄褐色バミス多く含む にぶい黄褐色土が2~3cmのブロック状に混じる
- ㉖ 黒褐色土 締まりやや弱い 粘性やや少ない 1~2mm大の黄白色バミス少量含む 暗褐色土が少量混じる
- ㉗ 黒褐色土 締まりやや弱い 粘性やや有り 1~5mm大の黄褐色バミス多く含む 黄褐色土が4cm程のブロック状に混じる
- ㉘ 黒褐色土 締まり弱い 粘性少ない 1~2mm大の黄褐色バミス微量含む、褐色土が斑状に多く混じる



255~259 : 8号竪穴建物跡
 260~263 : 9号竪穴建物跡

第180図 重複遺構7出土遺物①



第181図 重複遺構7出土遺物②

判断したものは、56号連穴土坑から土器7点であり、そのうち土器1点を図化した。302は外面に剥落が目立つが、綾杉条痕文が施されている。

重複遺構19 (第195図)

F・G-34区で検出され、53号土坑はⅧb層、54号土坑はⅩ層で検出した。埋土の堆積状況等から54号土坑が新しいと判断した。いずれも楕円形プランを呈し、54号土坑の南壁は段を持って立ち上がる。遺構内遺物と判断したものは、54号土坑から土器4点であり、そのうち土器1点を図化した。

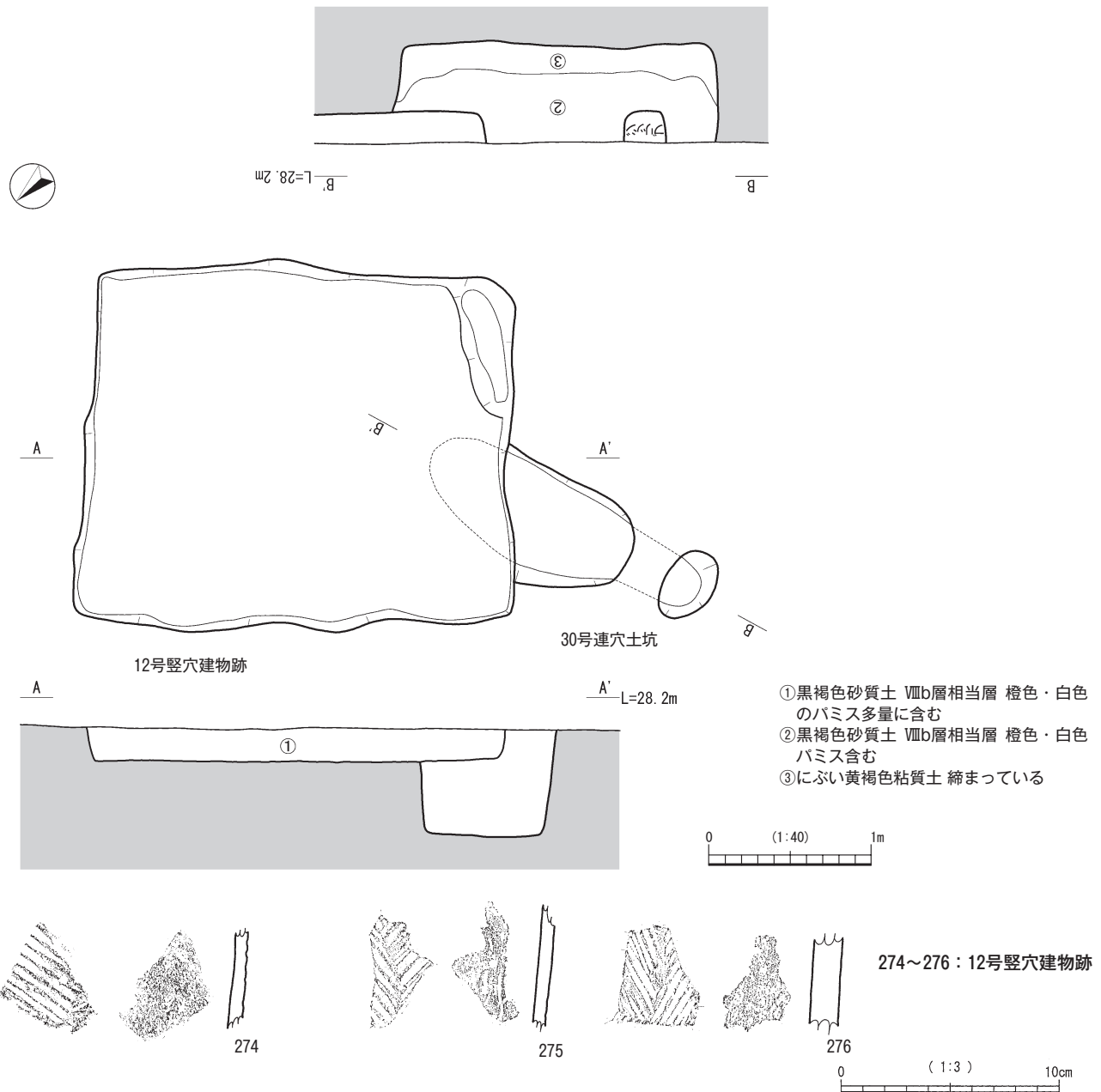
重複遺構20 (第196図)

E-35区で検出され、60号連穴土坑はⅨ層、156号集

石はⅧb層で検出した。埋土の堆積状況等から、156号集石が60号連穴土坑の外側掘り込みの東側をわずかに切ると判断した。60号連穴土坑はⅩ層及びⅨ層からなるブリッジが残存するが、ブリッジ下に薩摩火山灰のブロックが見られることから、ブリッジが一部崩落した可能性がある。主穴部からブリッジ下にかけて焼土が残存し、埋土中及び検出面には礫が散在する。遺構内遺物と判断したものは、60号連穴土坑から土器5点であり、全て図化した。304は貝殻刺突文が見られるが、はっきりとしない。

重複遺構21 (第198図)

D・E-35区で検出され、69号土坑はⅧb層、62号連穴土坑はⅧa層で検出した。調査時点では重複を確認で



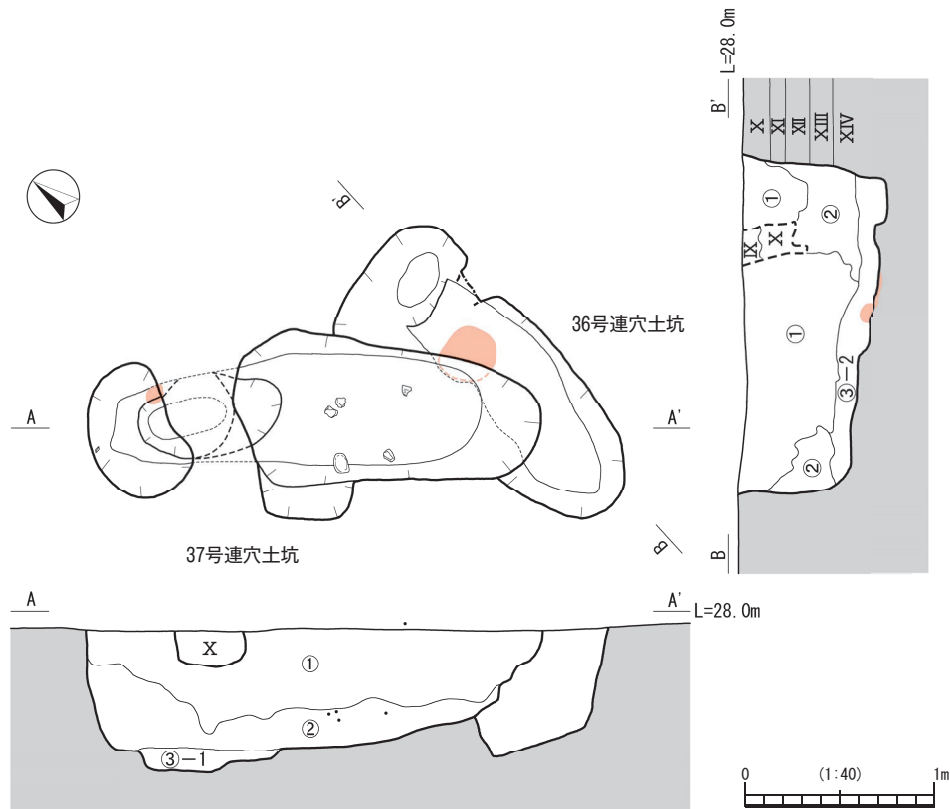
第182図 重複遺構8・出土遺物

きず、整理作業段階で判明した。69号土坑は62号連穴土坑の従穴部周辺の掘り込みの可能性があったが、69号土坑の北半分が調査時に掘削されており、重複関係を検討することは困難であった。しかし、69号土坑の北半分が掘削される前には重複していた可能性が高いことを考慮し、重複遺構として取り扱った。ただし、不明瞭な点が多いことから、重複遺構図は簡易的な模式図として掲載する。62号連穴土坑の埋土上部には礫が見られた。遺構内遺物と判断したものは、69号土坑から土器1点と、62号連穴土坑から土器1点であり、そのうち69号土坑から土器1点、62号連穴土坑から土器1点図化した。309は、

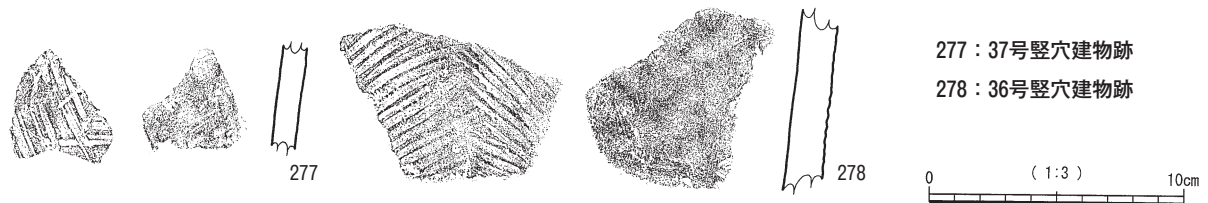
口縁部が直行し、横位の貝殻刺突文が3条めぐる。

重複遺構22 (第199図)

D-35区VIIIb層で検出した。42号ピットと63号連穴土坑が重複しており、埋土の堆積状況等から42号ピットが新しいと判断した。なお、発掘調査時点では重複を確認できず、整理作業段階で判明した。63号連穴土坑の東側の掘り込みを42号ピットが切る。63号連穴土坑は外側に掘り込みを有し、ブリッジにはX層が残存する。遺構内遺物は確認できなかった。



- ① 黒褐色砂質土 橙色・白色ブロックを多量に含む 薩摩火山灰の円形ブロックを多く含む
- ② にぶい黄褐色粘質土 粘性強い
- ③-1 灰黄褐色粘質土 焼土混じる
- ③-2 灰黄褐色粘質土 焼土混入



277 : 37号竖穴建物跡
278 : 36号竖穴建物跡

第183図 重複遺構9・出土遺物

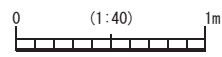
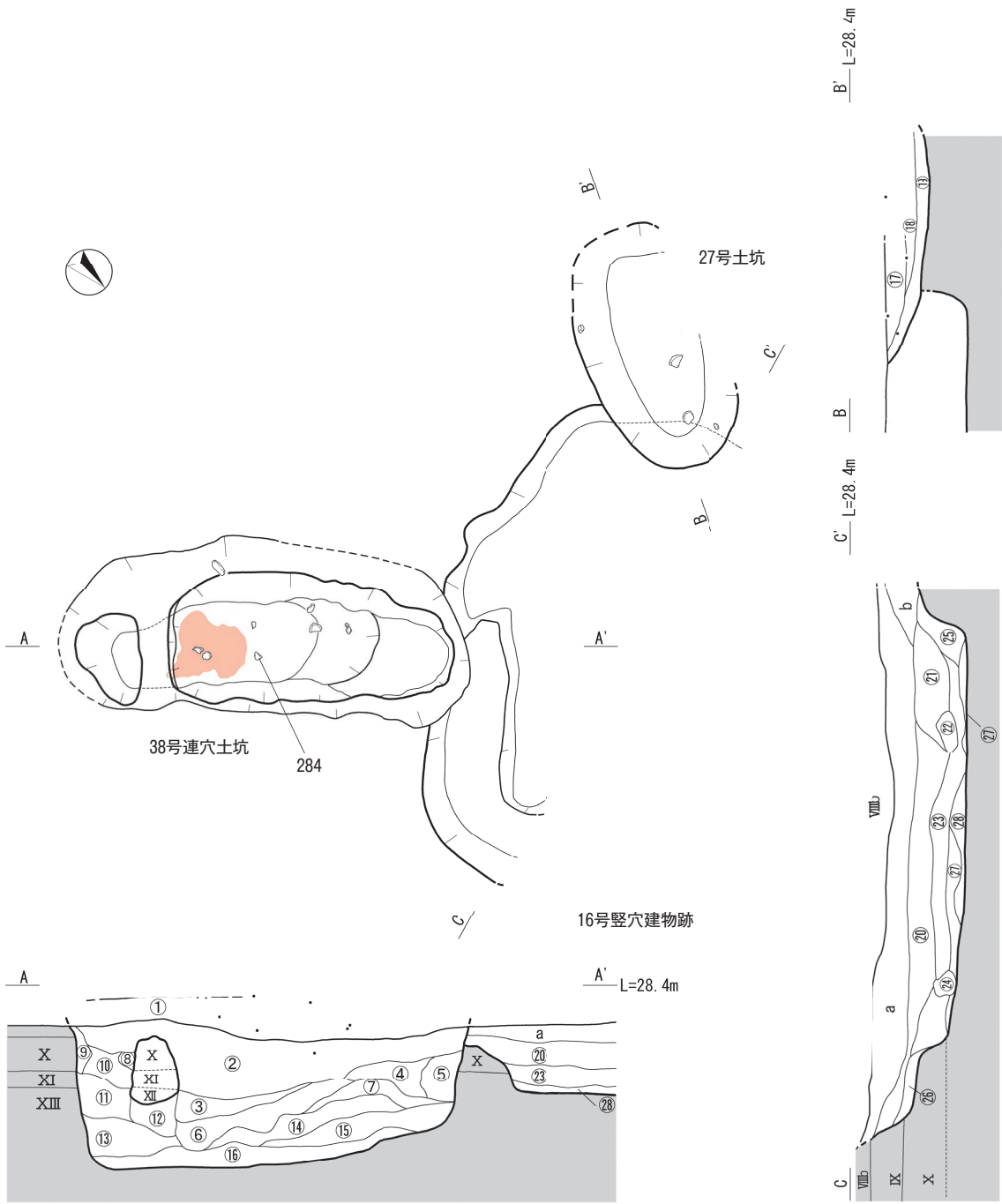
重複遺構23 (第200図)

A・B-36・37区Ⅷb層で検出した。80号土坑、69号・70号連穴土坑が重複しており、現場段階の位置情報を元に整理作業で復元した。埋土の堆積状況等から70号連穴土坑が最も新しいと判断した。なお、発掘調査時点では、80号土坑と69号連穴土坑の重複関係で調査を進めたのちに北側に70号連穴土坑が検出された。69号連穴土坑はブリッジにⅨ層・70号連穴土坑はブリッジにⅩ層が残存しており、いずれも外側に掘り込みを有するが、部分的に掘削されている。遺構内遺物と判断したものは、80号土坑から土器2点、69号連穴土坑から土器7点、70号連穴土坑から土器14点であり、そのうち80号土坑から土器2点、69号連穴土坑から土器2点、70号連穴土坑から土器3点を図化した。312は内外面共にていねいなナデが施

される。文様は、横位の山形押型文で部分的に文様がナデ消され、帯状となる。313は口唇部にキザミが施され、口縁部には2条の貝殻刺突文がめぐり胴部には綾杉条痕文が施される。314は底部付近で横位の貝殻条痕文が施されている。315は口唇部が平坦でキザミを施し、口縁部には縦位に瘤状突起が付く。口縁部文様は押引状の条痕文である。

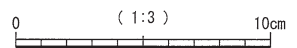
重複遺構24 (第201図)

B-36区で検出され、72号連穴土坑はⅧb層、73号連穴土坑はⅩ層で検出した。72号連穴土坑は外側に掘り込みを有し、この掘り込みが73号連穴土坑の主穴部東端と重複する。ただし、発掘調査段階では72号連穴土坑が73号連穴土坑を切ると想定して調査が進められていたが、



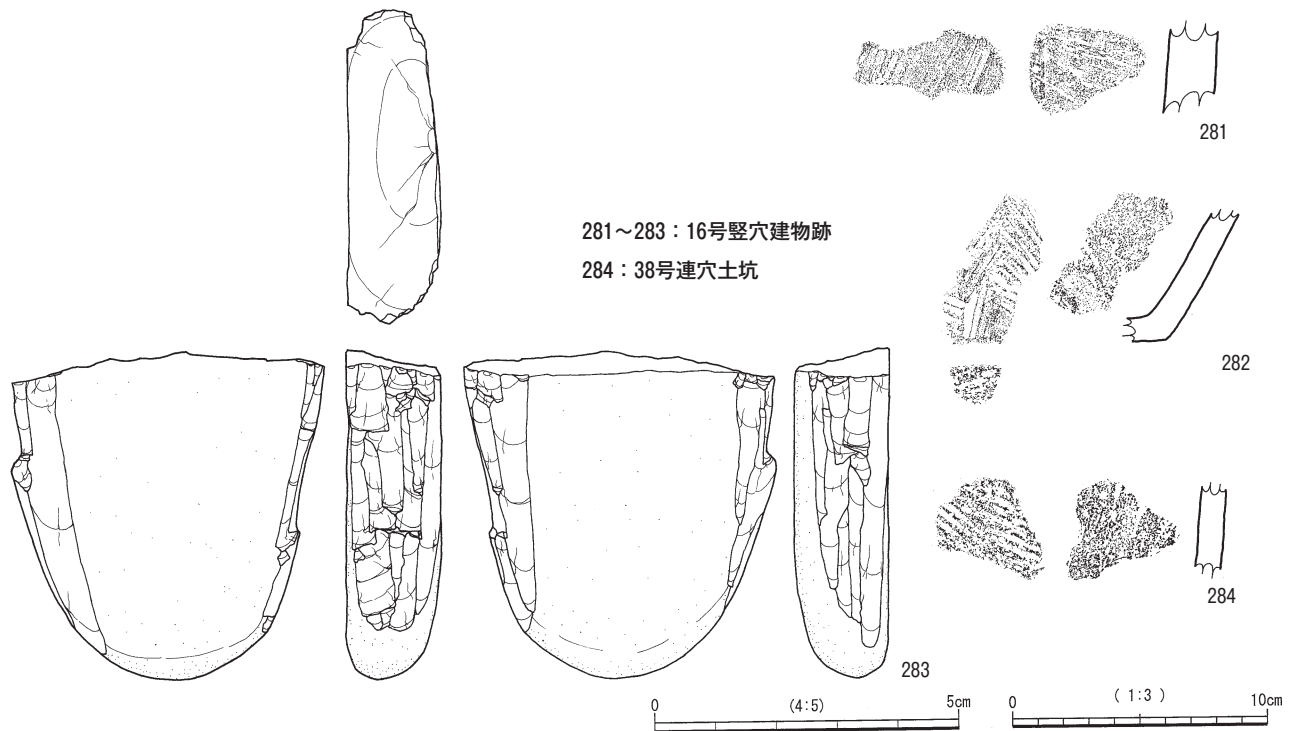
279
16号竖穴建物跡

280
16号竖穴建物跡



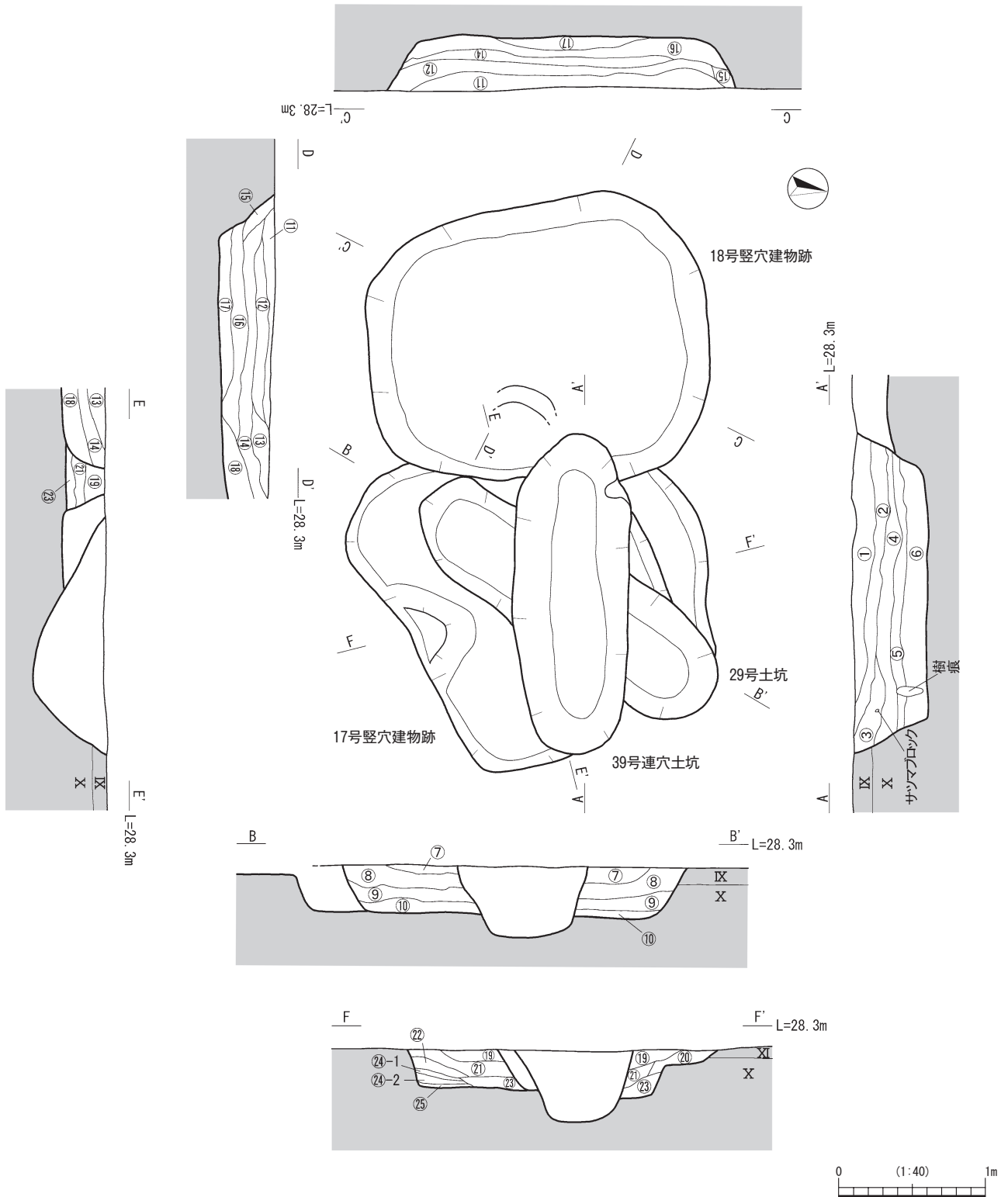
第184图 重複遺構10・出土遺物①

- ①黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量,2~3mm大の黄褐色バミス中量,1mm大の炭化物粒極微量含む
- ②黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス中量,2~5mm大の黄褐色バミスを多量,1mm大の炭化物粒極微量含む ①と土質同じ,バミスの含有量が比較的多い
- ③黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス中量,2~3mm大の黄褐色バミス中量,1mm大の炭化物粒極微量含む わずかに赤褐色粘土を含む
- ④黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス中量,2~3mm大の黄褐色バミス中量含む,わずかに赤褐色粘土を含む
- ⑤暗褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス中量,1~3mm大の黄色バミス少量,1~3mm大の炭化物粒極微量含む
- ⑥黒色土 (80%) にぶい赤褐色粘土 (20%) との混土層 混土黒色土部分に1mm大の白色バミス少量と2~3mm大の橙色バミス中量を含む 赤褐色粘土は葉層状に混入する 下部では顕著な斑状堆積
- ⑦にぶい赤褐色粘土 黒色土を2~3cm大のブロック状に少量 (10%) 含む 黒色土には白色バミス・橙色バミスが微量含まれる 全体的に混土状の堆積
- ⑧暗褐色土 締まり強い 粘性弱い 1~2mm大の白色バミス中量,2~3mm大の橙色バミス微量含む
- ⑨暗褐色土 締まり強い 粘性弱い 1~2mm大の白色バミス極微量,2~4mm大の黄褐色バミス少量含む X層をブロック状に含む
- ⑩黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス中量,2~3mm大の黄褐色バミス中量含む わずかに赤褐色粘土の混入がみられ,③と同質の埋土である
- ⑪にぶい赤褐色粘土 締まり強いが,XI層と比較して締まりは弱い 粘性有り
- ⑫にぶい赤褐色粘土 締まり強い,XI層と比較して締まりは弱い 粘性有り 1~2mm大の赤色焼土粒を微量含む
- ⑬赤褐色粘土 締まり強い,XII~XIII層と比較して締まりは弱い 粘性強い
- ⑭赤褐色粘土 締まり強い 粘性強い 1cm大の黒褐色土ブロックが5%程度斑状文様に混じる
- ⑮赤褐色粘土 締まりは強い,XII~XIV層と比較して締まりは弱い 粘性強い 5~10mm大の黄褐色土ロームブロック (XV層) を極微量と1mm大の赤色焼土粒を極微量含む
- ⑯赤褐色粘土 締まり強い,XII~XIV層と比較して締まり弱い 粘性強い 5~10mm大の黄褐色土ロームブロック (XV層) 少量 5mm大の黒褐色土ブロック少量 1~5mm大の赤色焼土粒を少量含む 下面は被熱により赤化している
- ⑰黒褐色土 締まりやや強い 粘性有り 1mm大の白色バミス少量,1~3mm大の橙色バミス中量含む 斑状堆積弱く やや土質細かい ⑩よりやや暗い
- ⑱黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量,1~3mm大の橙色バミス多量含む 埋土はVIII層に類似するがVIII層と比較してやや色調明るい バミス多く入る 黒色土がブロック状に堆積
- ⑲黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス微量,1~3mm大の橙色バミス少量含む 色調・土質は⑱に似るが⑱と比較してバミスの含有量が少なく底面近くで2~3cm大のX層ブロックを微量含む IX層主体 ⑱より明るい
- a 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス多量,2~3mm大の淡黄色バミスを少量含む
- b 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス多量,2~3mm大の淡黄色バミスを少量含む 赤褐色粘土を微量含む
- ⑳黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス多量,2~3mm大の淡黄色バミスを中量含む 僅かに赤褐色粘土の混入が見られる
- ㉑黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス多量,2~5mm大の淡黄色バミスを中量,1mm大の橙色バミスを微量含む 赤褐色粘土を少量含む ㉑+IX層
- ㉒黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量,1~8mm大の淡黄色バミスを少量含む,2~6cm大の薩摩ブロックを含む ㉑と類似
- ㉓黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス多量,2~4mm大の淡黄色バミスを中量含む,赤褐色粘土を少量含む
- ㉔黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量,1~10mm大の淡黄色バミスを少量含む,1.5cm大の薩摩ブロックを含む ㉑と類似
- ㉕黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス多量,2~5mm大の淡黄色バミスを中量,1mm大の橙色バミスを少量含む,赤褐色粘土を少量含む
- ㉖暗褐色土 締まり強い 粘性弱い IX層+X層の混土層 1mm程度の白色バミスは極少なく 2~3mmの黄色バミスが少量入る 下部では1~2cmのX層ブロックが少量入る 1mmの白色バミス少量 2~3mmの黄色バミス極微量入る
- ㉗黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 色調は㉓に似るが,㉓に比べてバミスが少なく黒み強い 1mm大の白色バミス中量,2~3mmの黄色バミス少量 ㉑との境界付近では,顕著な斑状堆積を示す
- ㉘赤褐色粘土 締まり強い 粘性強い 5~10mm大の淡黄色バミス,橙色バミスはほとんど含まない 僅かに斑状を呈する



281~283 : 16号竪穴建物跡
284 : 38号連穴土坑

第185図 重複遺構10出土遺物②

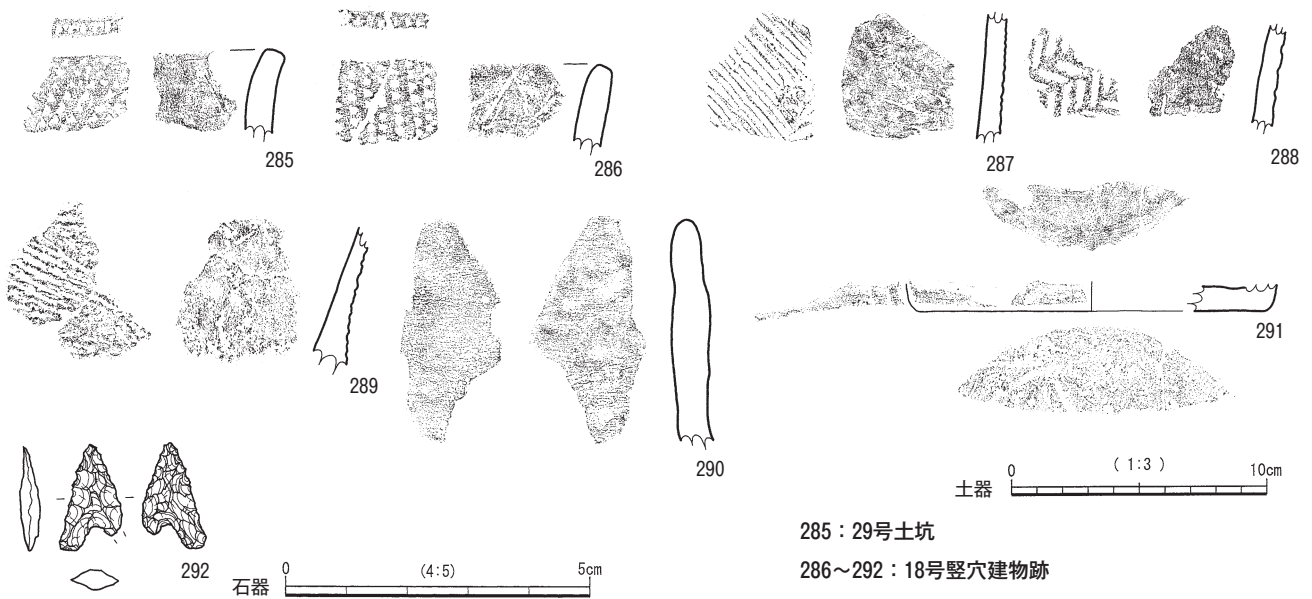


第186図 重複遺構11

72号連穴土坑の完掘後の写真からは、外側の掘り込みの床面としていた面及び掘り込みの壁面に73号連穴土坑の主穴部と思われる痕跡が確認できる（図版142上段）。そのため本来の新旧関係の検討は困難であった。遺構内遺

物と判断したものは、72号連穴土坑から土器3点であり、そのうち土器1点を図化した。318の口唇部にはキザミが施され、口縁部には斜位の貝殻刺突文、胴部には綾杉条痕文が施文される。

- ①黒褐色土 VIIIb層類似 締まり強い 粘性弱い 白色粒多量,黄色バミス多量,黄褐色粒少量含む
- ②黒褐色土 VIIIb層類似 締まり強い 粘性弱い 白色粒少量,黄色バミス多量,黄褐色粒微量,炭化物を微量含む
- ③黒褐色土 VIIIb層類似 締まり強い 粘性弱い 白色粒少量,黄色バミス微量,暗褐色土微量含む
- ④黒褐色土 IV層類似 締まり強い 粘性やや弱い ①③層よりもやや暗い 黄色バミス微量,黄褐色粒微量,暗褐色土ブロック少量含む
- ⑤暗褐色土 締まりやや弱い 粘性強い 黒褐色土微量含む
- ⑥暗褐色土 締まりやや弱い 粘性強い 黒褐色土少量含む
- ⑦黒褐色土 VIIIb層類似 締まり強い 粘性弱い 白色粒多量,黄色バミス少量,黄褐色粒微量含む
- ⑧黒褐色土 VIIIb層類似 締まり強い 粘性弱い 白色粒少量,黄色バミス多量,黄褐色粒微量含む
- ⑨黒褐色土 VIIIb層とIX層の混泥土 締まり強い 粘性弱い 黄褐色粒微量,暗褐色土少量含む ややブロック状
- ⑩褐色土 締まりやや弱い 粘性やや強い 黒褐色土多量含む
- ⑪黒色土 VIIIb層類似 締まり強い 粘性弱い 白色粒中量,黄色バミス微量
- ⑫黒褐色土 VIIIb層類似 締まり強い 粘性弱い 白色粒中量,黄色バミス微量
- ⑬黒褐色土 VIIIb層とIX層の混泥土 締まり強い 粘性弱い 白色粒少量,黄色バミス少量含む,3cm程度の薩摩ブロック含む
- ⑭黒褐色土 IX層類似 締まり強い 粘性弱い IX層に⑫層が少量混入 ⑫層よりもやや暗い 白色バミス,黄色バミス少量含む
- ⑮暗褐色土 IX層類似 締まり強い 粘性弱い 弱いブロック状に堆積
- ⑯黒色土 IX層類似 締まり強い 粘性弱い 白色粒微量,黄褐色粒微量,暗褐色土ブロック状に少量含む
- ⑰暗褐色土 XI層類似 締まり弱い 粘性やや強い 黒色土ブロック状に少量含む
- ⑱黒色土 VIIIb層類似 非常に硬く締まった土層 白色粒少量,黄色バミス微量,黄褐色粒微量含む
- ⑲黒褐色土 VIIIb層類似 締まり強い 粘性弱い ⑱と比べ黒味強く,バミス多い 白色粒多量,黄色バミス少量,黄褐色粒微量含む
- ⑳暗褐色土 IX層類似 締まり強い 粘性弱い 白色粒微量,薩摩ブロック少量含む
- ㉑黒褐色土 VIIIb層類似 締まり強い 粘性弱い 白色粒中量,黄色バミス多量,黄褐色粒少量含む
- ㉒黒褐色土 VIIIb層とIX層の混泥土 (㉑と㉓の混泥土) 締まり強い 粘性弱い 白色粒少量,黄色バミス少量,黄褐色粒微量,暗褐色土微量含む ㉒よりやや暗い
- ㉓黒褐色土 IX層類似 締まり強い 粘性やや弱い 白色粒極微量,黄褐色粒微量,暗褐色土(XI層)ブロック少量含む
- ㉔-1 黒色土 VIIIb層類似か 非常にかたく締まった黒味の強い土層 粘性やや弱い 白色粒微量,黄褐色粒極微量,黒褐色土少量含む 4~5cm大の厚みがあり,平行のラミナが観察され,非常に硬く締まる
- ㉔-2 黒色土 VIIIb層類似か 非常にかたく締まった黒味の強い土層 粘性やや弱い 白色粒微量,黄褐色粒極微量,黒褐色土少量含む 埋土は㉔-1と同質だがラミナは確認されない
- ㉕黒褐色土 XI層と㉑の混泥土層 締まりやや弱い 粘性あり 白色バミス,黄色バミスとも極微量



第187図 重複遺構11出土遺物

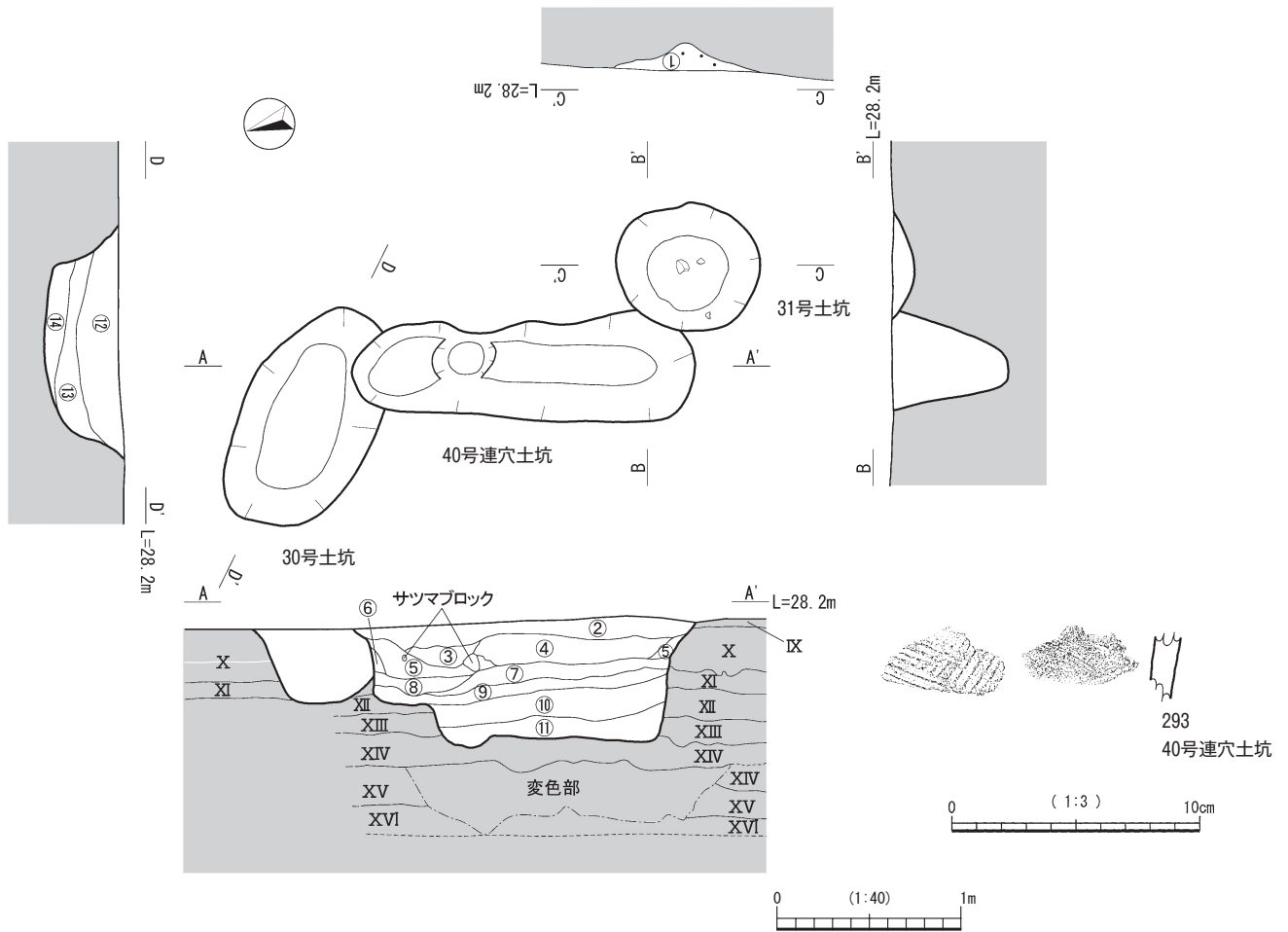
重複遺構25 (第202図)

B-36区X層で検出した。74号・75号連穴土坑が重複している。埋土の堆積状況等から、75号連穴土坑の主穴部を74号連穴土坑の主穴部が切ると判断した。両者ともにブリッジの残存が認められた。75号連穴土坑の従穴部外側にはテラス状の掘り込みが確認される。両者とも、主穴部は検出面から中位まで斜位の壁面形状を呈し、中位から底面へは比較的急峻な壁面となる特徴を有する。遺構内遺物と判断したものは、74号連穴土坑から土器1点と、75号連穴土坑から土器4点であり、そのうち74号

連穴土坑から土器1点、75号連穴土坑から土器1点を図化した。

重複遺構26 (第203図)

B・C-36区で検出され、85号土坑はVIIIb層、180号集石はVIIIa層で検出した。現場段階の位置情報を元に整理作業で復元した。85号土坑の西壁中央部を180号集石が切る。埋土の堆積状況等から180号集石が新しいと判断した。遺構内遺物は確認できなかった。



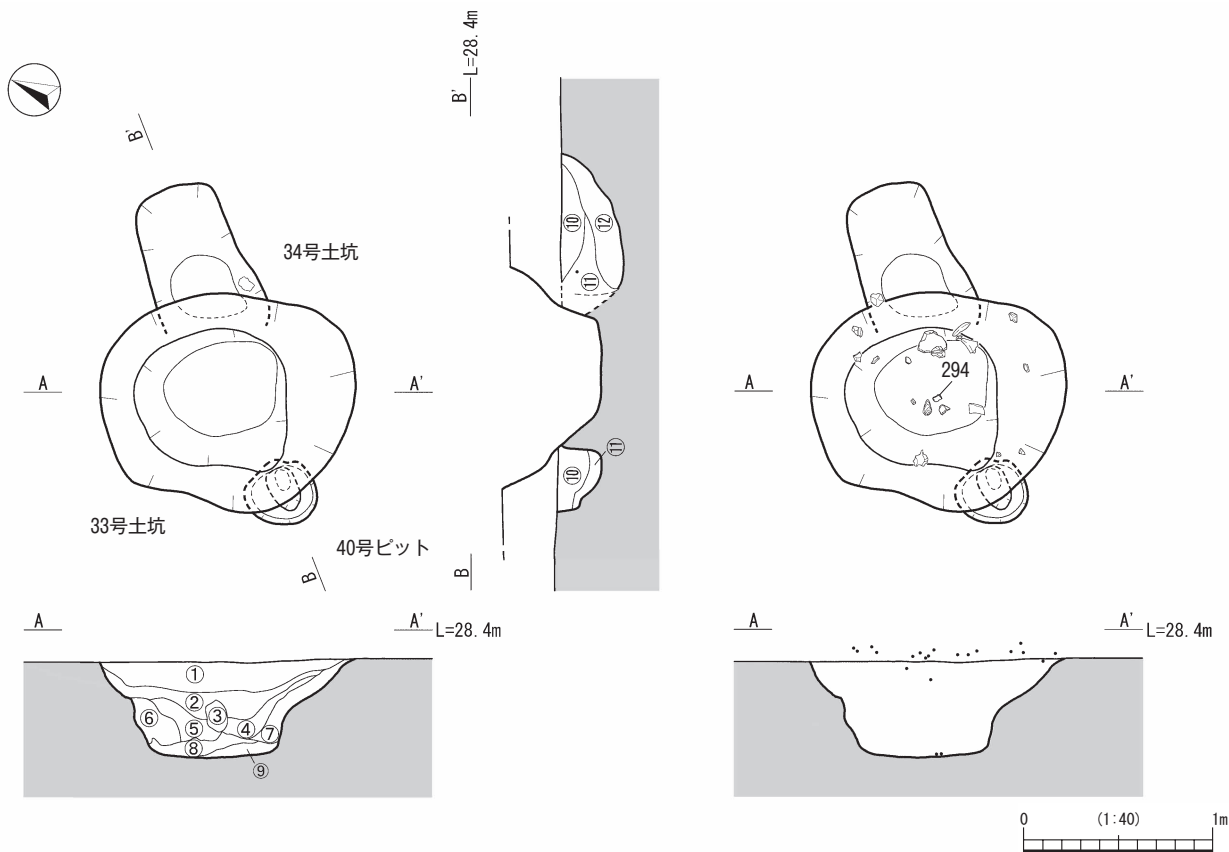
- ① 黒色土 締まりやや有り 1mm大の白色バミス, 3mm大の黄色バミスを多量に含む
 - ② 黒褐色土 VIII層類似 締まり強い 粘性弱い 白色粒多量, 黄色バミス中量含む
 - ③ 暗褐色土 IX層類似 締まり強い 粘性弱い 白色粒少量, 黄色バミス中量 ①よりやや明るい 暗褐色土少量含む
 - ④ 黒褐色土 VIII層類似 締まり強い 粘性弱い 白色粒多量 (②層よりもさらに多い), 黄色バミス多量 IX層微量含む
 - ⑤ 暗褐色土 VIII層とIX層の混合土 締まり強い 粘性弱い 白色粒微量, 黄色バミス中量, 黄褐色土少量含む
 - ⑥ 暗褐色土 IX層とXI層の混合土 締まりやや強い 粘性やや弱い ⑤よりIX層の割合多い
 - ⑦ 黒色土 VIII層類似 締まり強い 粘性弱い 白色粒少量, 黄褐色バミス少量, 黒褐色土とXI層がブロック状に混合する ⑦と⑧は同じもの, 上層の違いにより白色バミスの混入量が異なる
 - ⑧ 黒褐色土 VIII層類似 締まり強い 粘性やや弱い 黄褐色粒微量, XI層をブロック状に含む ⑦と⑧が同じもの, 上層の違いにより白色バミスの混入量が異なる
 - ⑨ 褐色土 XI層類似 締まりやや弱い 粘性やや強い 黒褐色土と黒色土を微量含む
 - ⑩ 暗褐色土 XI層類似 締まり弱い 粘性強い 黒褐色土極微量含む
 - ⑪ 暗褐色土 XI層類似 締まり弱い 粘性強い 黒褐色土極微量 下部付近では黄褐色土をブロック状に含む
 - ⑫ 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス中量, 1~3mm大の黄色バミス少量含む ③よりやや黒み強くかたい
 - ⑬ 黒褐色土 締まりやや強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量, 1~3mm大の黄色バミス微量含む 埋土はVIIIb下位~IX層のやや褐色を帯びた色調であり, バミスの含有量が少ない
 - ⑭ 暗褐色土 締まり弱い 粘性強い XI層と⑬の混合土 XI層土を主体とし, ブロック状の⑬を20%程度含む
- 変色部にぶい黄褐色

第188図 重複遺構12・出土遺物

重複遺構27 (第203図)

C-36区VIIIb層で検出した。発掘調査時は、76号連穴土坑と数基の土坑との重複遺構と考えて調査が進められていたが、ブリッジを含め主穴部と従穴部が土坑により大きく掘削されていることなどから、76号連穴土坑の機能停止後に埋め戻す際の掻き取り痕跡の可能性を示して調査を終了している。そのため、整理作業段階では76号連穴土坑周辺の掘り込みとして図化を行い、掘削された

と考えられる範囲の埋土をaとして表したが、76号連穴土坑と土坑が切り合っている可能性も考慮して重複遺構として取り扱った。76号連穴土坑東側の掘り込み内にはピット状の穴が掘り込まれているが、機能は不明である。遺構内遺物と判断したものは、76号連穴土坑から土器1点であり、図化した。



- ① 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1~2mm大の白色バミス多量, 2~3mm大の黄橙色バミス中量, 1~2mm大の炭化物粒微量含む
- ② 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1~2mm大の白色バミス中量, 2~3mm大の黄橙色バミス中量, 1~2mm大の炭化物粒極微量含む
- ③ 黒褐色土 (50%) とにぶい赤褐色粘土 (50%) との混土 1~2mm大の白色バミス微量, 2~3mm大の黄橙色バミス微量含む ブロック状に堆積
- ④ 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス微量, 2~3mm大の黄橙色バミス微量含む にぶい赤褐色粘土を2~3cm大のブロック状に30~40%含む
- ⑤ 黒色土 締まり強い 粘性弱い 白色バミスを少量, 2~3mm大の黄橙色バミスを微量含む にぶい赤褐色粘土を下部に30%程度ブロック状に含む
- ⑥ 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 白色のバミスをほとんど含まず, 2~4mm大のやや大きめの橙色バミスを少量含む
- ⑦ にぶい黄褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量, 2~3mm大の黄橙色バミス微量含む
- ⑧ にぶい赤褐色粘土 (60%) と黒褐色土 (40%) との混土 2mm大の黄橙色バミスを極微量含む ⑤+XI層ブロック状混土層
- ⑨ にぶい赤褐色粘土 (90%) と黒褐色土 (10%) との混土 XI層主体のブロック状堆積
- ⑩ 黒褐色砂質土 橙色・白色のバミスを多量に含む 硬質
- ⑪ 灰黄褐色粘質土 ⑩にXI層のブロック混入
- ⑫ ⑩とXI層の混土 キメが細かくしっとりしている 橙色と白色のバミス少量含む



第189図 重複遺構13・出土遺物

重複遺構28 (第204図)

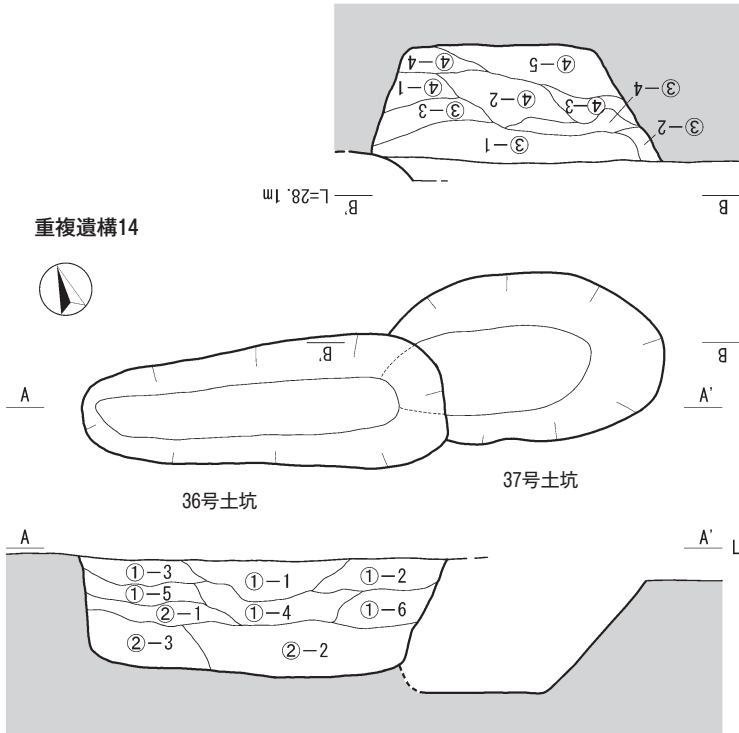
E-35・36区VIII b層で検出した。64号・65号土坑がほぼ直角方向に重複しているが、埋土の堆積状況が不明であり新旧関係を検討することが困難であった。そのため、断面の模式図を復元するのみに留めた。65号土坑の床面直上に礫が1点見られたが、遺構内遺物は確認できなかった。

重複遺構29 (第204図)

G-36区IX層で検出した。94号・95号土坑が重複しており、埋土の堆積状況等から95号土坑が新しいと判断した。95号土坑の北側は調査区外へ延びているため、検出できなかった。遺構内遺物は確認できなかった。

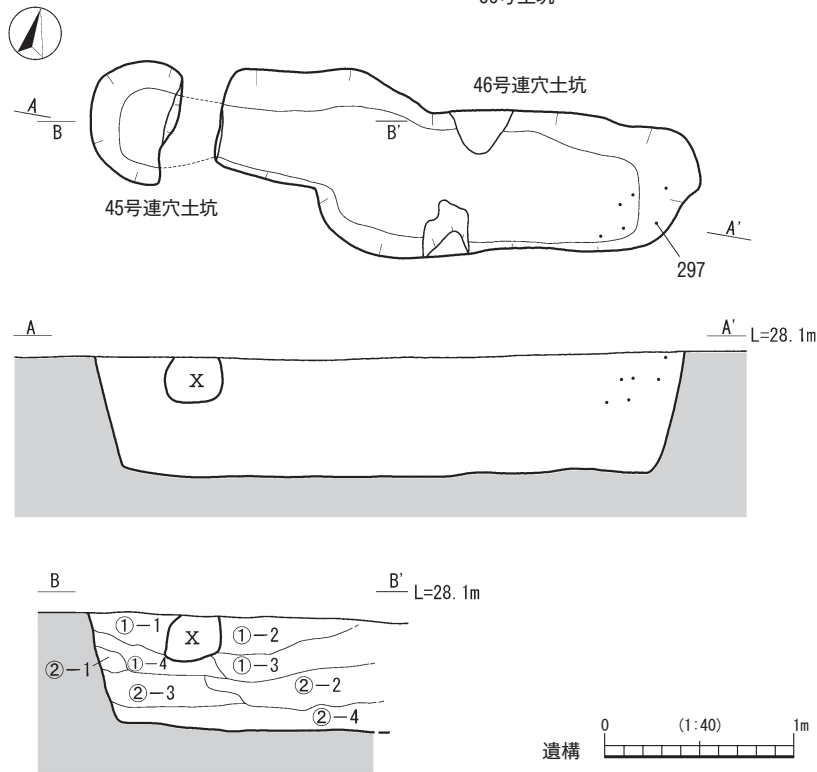
重複遺構30 (第204図)

G-36・37区で検出した。222号集石をVIII b層で検出し、その後、IX層で96号土坑を確認し、2基の重複遺構とし

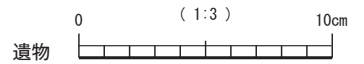
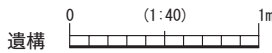
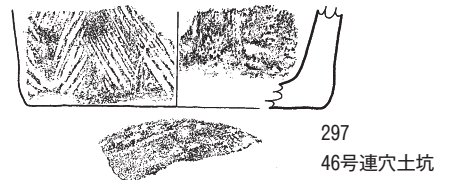
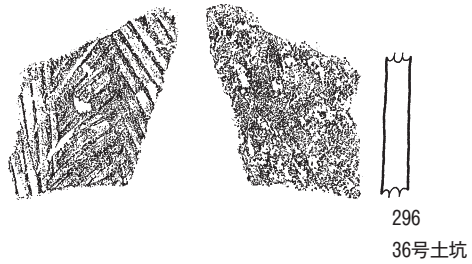
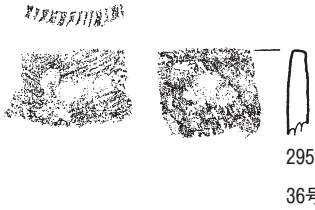


- ①-1 黑色砂質土 黄色・白色パミス多量含む
- ①-2 黑色砂質土 黄色・白色パミス含む ①-1よりパミス少ない
- ①-3 黑色砂質土 黄色・白色パミス含む XI層~XII層ブロック少量含む
- ①-4 黑色砂質土 黄色・白色パミス少量含む XI層~XII層ブロック多量含む
- ①-5 黑色砂質土 X層ブロック多量含む XI層~XII層ブロック多量含む
- ①-6 黑色砂質土 XI層~XII層ブロック少量含む
- ②-1 にぶい赤褐色粘質土
- ②-2 暗赤褐色粘質土
- ②-3 にぶい赤褐色粘質土 粘性強い
- ③-1 黑色砂質土 黄色・白色パミス多量含む VIIa層下からの掘り込み
- ③-2 黑色砂質土 X層ブロック (1~3cm大) 多量含む
- ③-3 黑色砂質土 黄色パミス多量 薩摩火山灰ブロック (1~2cm大) 少量 XI層ブロック少量含む
- ③-4 黑色砂質土 黄色パミス少量 XI層ブロック (1~2cm大) 少量含む
- ④-1 にぶい赤褐色粘質土
- ④-2 明赤褐色粘質土 薩摩火山灰塊 (10cm大) 含む
- ④-3 にぶい赤褐色粘質土
- ④-4 にぶい赤褐色粘質土
- ④-5 明赤褐色粘質土

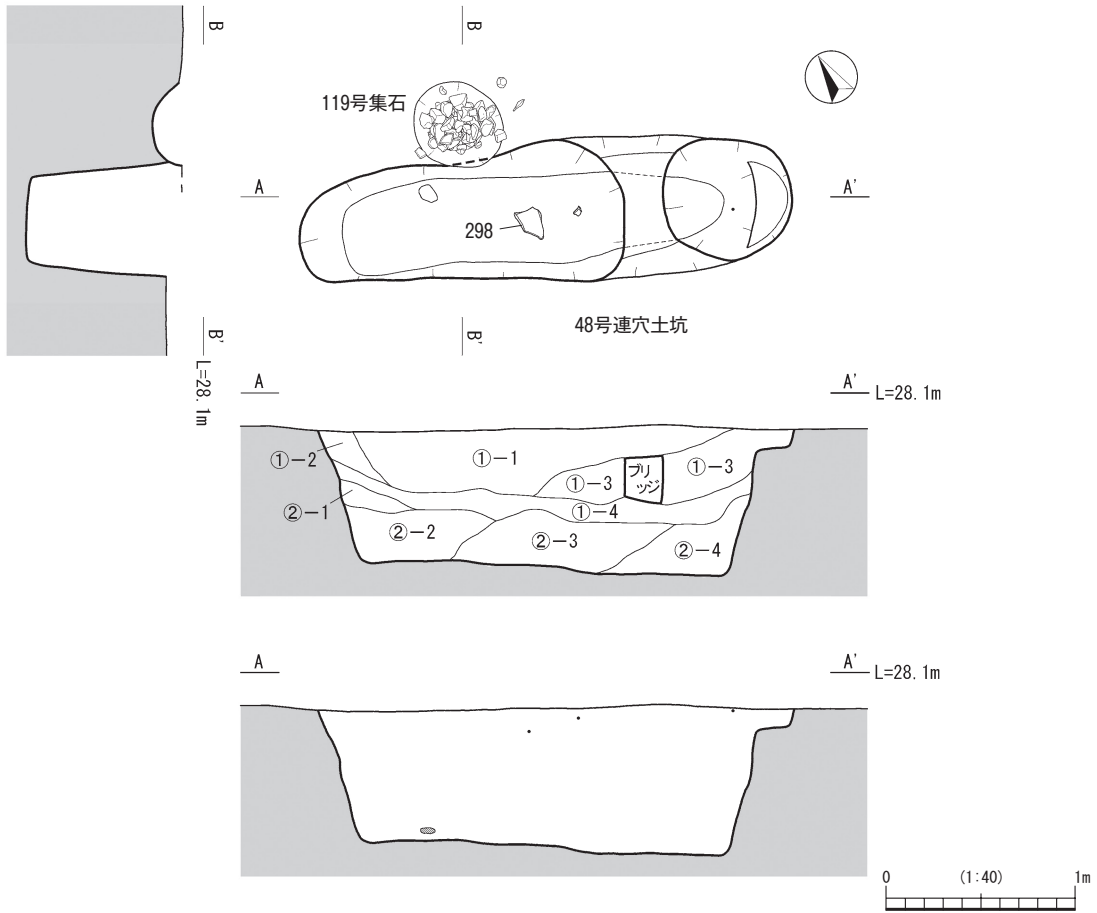
重複遺構15



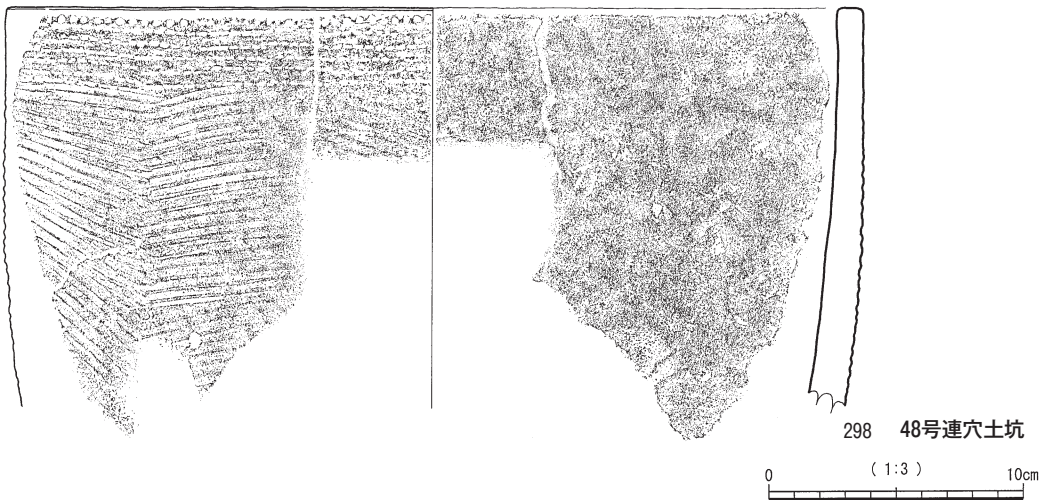
- ①-1 黑色砂質土 白色・黄色パミス多量含む
- ①-2 黑色砂質土 X層ブロック(2~4cm大)少量含む
- ①-3 黑色砂質土 XI層ブロック(1~3cm大)少量含む
- ①-4 黑色砂質土 黄色パミス少量 XI層ブロック (1~3cm大) 多量含む
- ②-1 にぶい赤褐色粘質土
- ②-2 にぶい赤褐色粘質土
- ②-3 にぶい赤褐色粘質土
- ②-4 明褐色粘質土



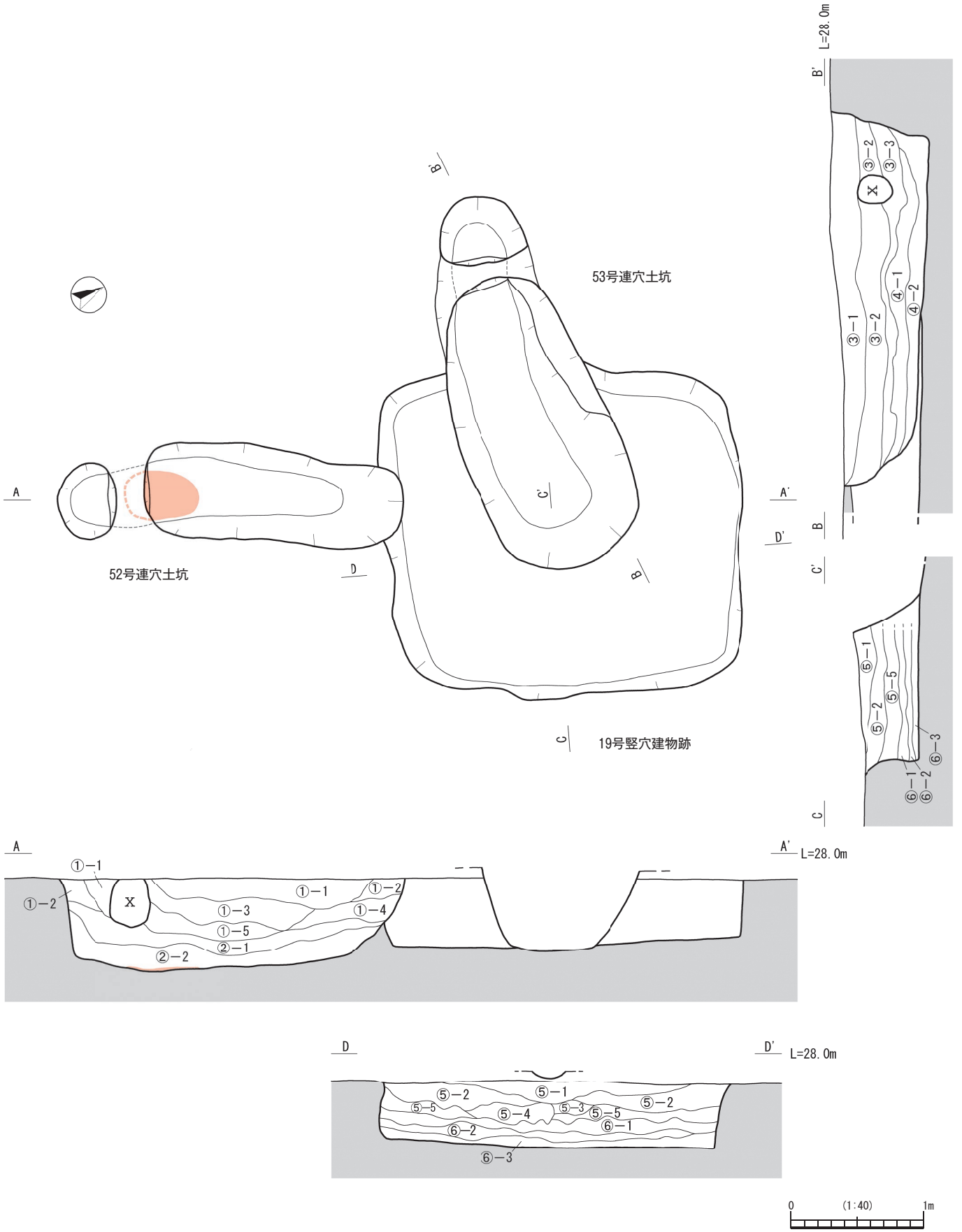
第190図 重複遺構14, 15・出土遺物



- ①-1 黒色砂質土 白色・黄色バミス少量含む
- ①-2 黒色砂質土 X層ブロック少量含む
- ①-3 黒色砂質土 白色・黄色バミス多く含む
- ①-4 黒色砂質土 XI~XII層ブロック多量含む
- ②-1 にぶい赤褐色粘質土
- ②-2 暗赤褐色粘質土
- ②-3 暗赤褐色粘質土、焼土粒が底面付近に少量見られる
- ②-4 にぶい赤褐色粘質土

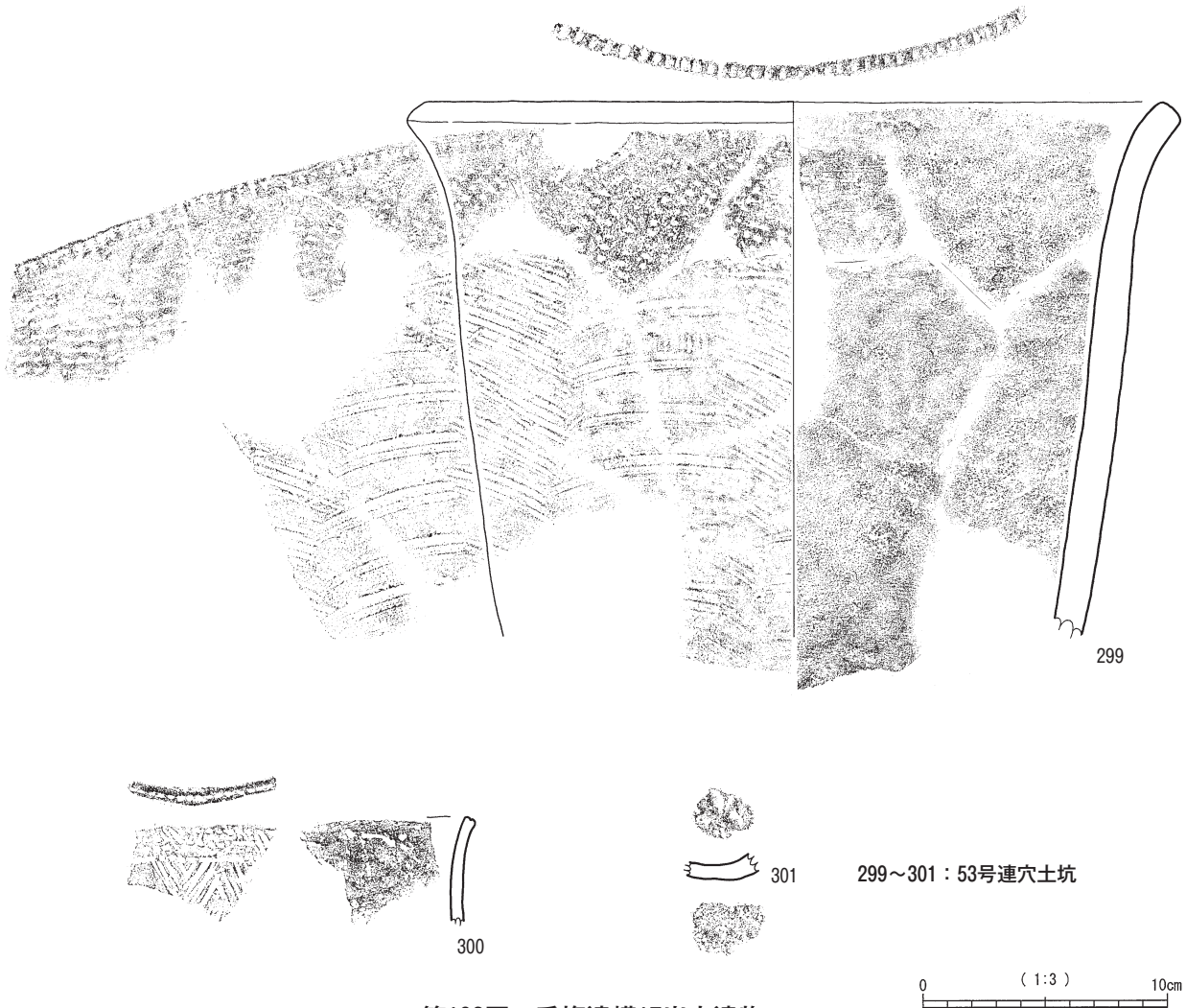


第191図 重複遺構16・出土遺物



第192図 重複遺構17

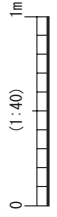
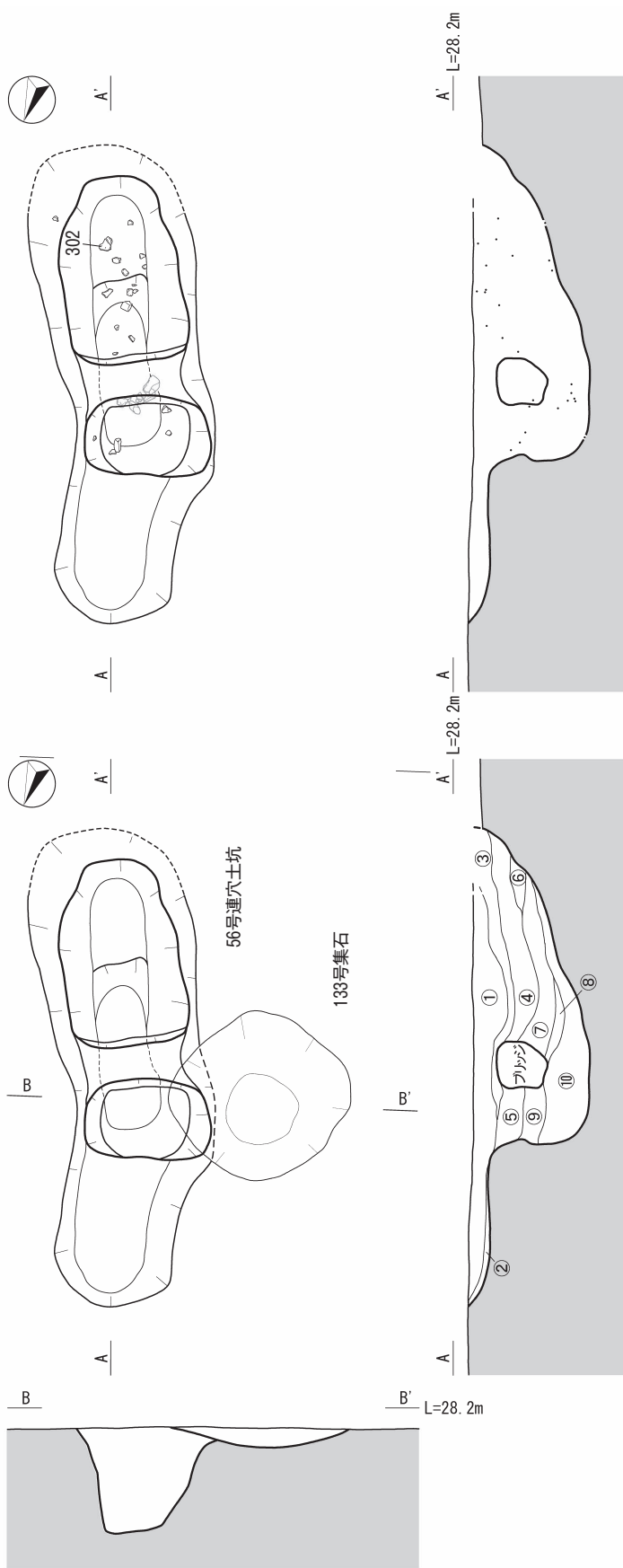
- ①-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 1~3mm大の黄色バミス多量,1mm大の白色バミス多量含む
- ①-2 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 1~3mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス中量含む
- ①-3 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 1~3mm大の黄色バミス多量,1mm大の白色バミス少量,X層ブロックを微量含む
- ①-4 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 1~3mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス少量,XI層をブロック状に微量含む
- ①-5 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 1~3mm大の黄色バミス少量,XI層をブロック状に少量含む
- ②-1 暗赤褐色粘性 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 VIIa層類似の土をブロック状に中量含む
- ②-2 暗赤褐色粘性 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 XI層より締まりが弱い
- ③-1 黒褐色砂質シルト 黒色砂質土 締まり強い 粘性やや有り 白色バミスを多量,黄褐色バミスを少量含む
- ③-2 黒褐色砂質シルト 黒色砂質土 締まり強い 粘性やや有り 黄褐色バミスを多量,X層を微量含む
- ③-3 黒褐色砂質シルト 黒色砂質土 締まり有り 粘性やや有り 2~5cm大のXI層ブロックを中量,白色バミスと黄褐色バミスを少量含む
- ④-1 にぶい黄褐色粘質土 黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り 白色バミスと黒褐色砂質土シルトを微量含む
- ④-2 暗褐色粘質土 黄褐色粘質土 締まり有り 粘性有り 3~5cm大の黒褐色砂質土シルトブロックを少量,1cmの炭化物を微量含む
- ⑤-1 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量,2~3mm大の橙色バミス少量,2mm大の炭化物粒微量含む
- ⑤-2 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量,3~5mm大の橙色バミス,黄色バミス多量含む ⑤-1と土質似るが,バミスの含有量が非常に多い
- ⑤-3 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量,2~3mm大の橙色バミス少量含む また1~2cm大の炭化材を中量含む⑤-3から⑤-4はブロック堆積
- ⑤-4 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量,2~3mm大の橙色バミス少量含む また1~4cm大のX層ブロックを多量含む
- ⑤-5 黒褐色土 締まり強い 粘性やや有り ⑤-4と⑥-1層の混土層 ⑤-4主体に⑥-1層が40%程度ブロック状に混入する そのため粘性やや有り
- ⑥-1 暗赤褐色粘土 締まり有り 粘性強い バミス粒含まないが,5~10mm大の黒褐色土を板状に少量含む,その他2~3mm大の焼土粒を極微量含む
- ⑥-2 暗赤褐色粘土 締まり有り 粘性非常に強い 含有物なし 地山XI層と比較して締まり弱い 色調も若干暗い
- ⑥-3 赤褐色粘土 締まり有り 粘性非常に強い 含有物なし 地山と比較して締まり弱く色調暗い



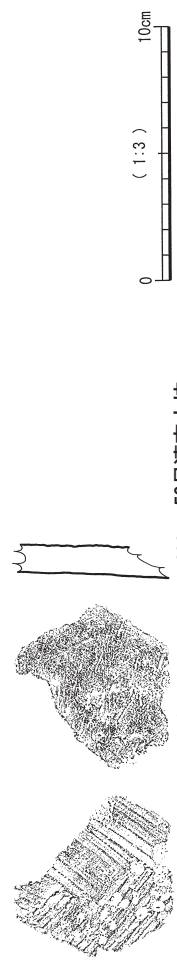
第193図 重複遺構17出土遺物

た。いずれも調査区境での検出であり、遺構プランの約半分が北側の調査区外へ延びる。96号土坑は断面観察により、VIII b層中からの掘り込みと判断できるが、掘り込み面付近の埋土ははっきり捉えることができなかった

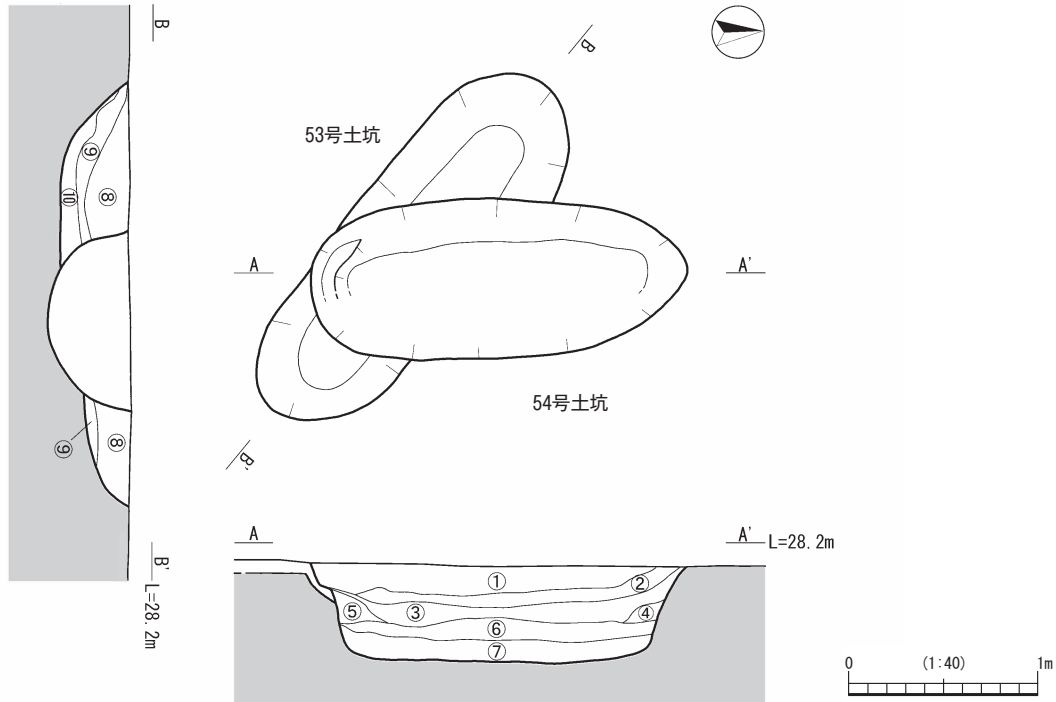
め、VIII b'として表す。上部にはVIII a層が連続して堆積している。想定される深さは60cm程度あり、円形ないし楕円形プランの土坑と見えるが、連穴土坑の可能性も否定できない。遺構内遺物と判断したものは、96号土坑か



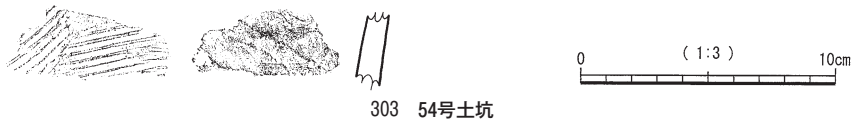
- ① 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス中量, 2~3mm大の黄色バミス少量, 2mm大の炭化物粒少量含む
- ② 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量, 2mm大の黄色バミス少量含む
- ③ 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量, 2~3mm大の黄褐色バミス少量含む
- ④ 黒色土 締まり強い 粘性やや有り 1mm大の白色バミス中量, 2~3mm大の炭化物粒微量含む 下部ではわずかに, 赤褐色粘土が斑紋状に混じる
- ⑤ 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス微量, 2~3mm大の褐色土 2~3cm大の褐色土 プロックを少量 (30%) 含む
- ⑥ 黒色土 (70%) とにぶい赤褐色粘土 (30%) との混土 締まり強い 粘性やや有り 1mm大の白色バミス極微量, 2~3mm大の褐色バミス少量含む
- ⑦ 黒色土 (60%) とにぶい赤褐色粘土 (40%) との混土 締まりやや強い 粘性有り 赤褐色粘土の割合が大きくなり, 黒色土部分は2mm大の褐色バミスを微量含む
- ⑧ 赤褐色粘土 締まりやや強い 粘性強い バミスの混入はなく 黒褐色土を斑紋状に少量 (約20%) 含む
- ⑨ 赤褐色粘土 締まりやや強い 粘性強い バミスの混入はない X~刈層と比較して色調やや暗く締まり弱い
- ⑩ 暗赤褐色粘土 締まりやや強い 粘性非常に強い バミスの混入はないが, ブリッジ部分直下で1~2mm大の赤色焼土粒を極微量含む



第194図 重複遺構18・出土遺物



- ①黒褐色土 VIII層類似 締まり強い 粘性弱い 白色粒多量,黄色バミス中量,黄褐色粒極微量含む
- ②黒褐色土 VIII層類似 締まり強い 粘性弱い ①層よりもやや暗く,白色粒の混入が少ない 黄色バミス中量 弱いブロック状
- ③黒色土 VIII層とIX層の混合土 締まり強い 粘性弱い 黄褐色粒微量含む,白色バミス,黄色バミス少量含む また,暗褐色土がブロック状に混入する
- ④黒褐色土 IX層類似 締まり強い 粘性やや弱い 黄褐色粒微量,暗褐色土少量含む IX層+③混土層
- ⑤黒褐色土 IX層類似 締まりやや強い 粘性弱い X層多量,暗褐色土微量含む IX層+X層混土層
- ⑥褐色土 XI層類似 締まりやや強い 粘性強い XI層と比べ柔らかい
- ⑦暗褐色土 XII層類似 締まりやや強い 粘性強い XII層よりやや柔らかい
- ⑧黒褐色土 締まりやや強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス,2mm大の黄橙色バミスを中量含む これらのバミスは下位に多く堆積する
- ⑨黒褐色土 締まりやや強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量,2mm大の黄橙色バミス中量含む 赤褐色粘土30%が斑紋状に混じる
- ⑩暗褐色土 締まり有り 粘性やや強い 2~5mm大の橙色バミスを中量含む ⑨の黒褐色土が1cm大のブロック状に混じる



第195図 重複遺構19・出土遺物

ら土器1点で, 図化した。322は底面に編み物の圧痕が残る。

重複遺構31 (第205図)

E-37区X層で検出した。埋土の堆積状況等から, 104号・107号土坑が105号土坑の東西両端を切ると判断した。また, 107号土坑と104号土坑は同一の埋土であり, 時期差はほとんどないと考えられる。105号土坑の床面は西側にむけ傾斜する。遺構内遺物と判断したものは, 107号土坑から土器1点で, 図化した。

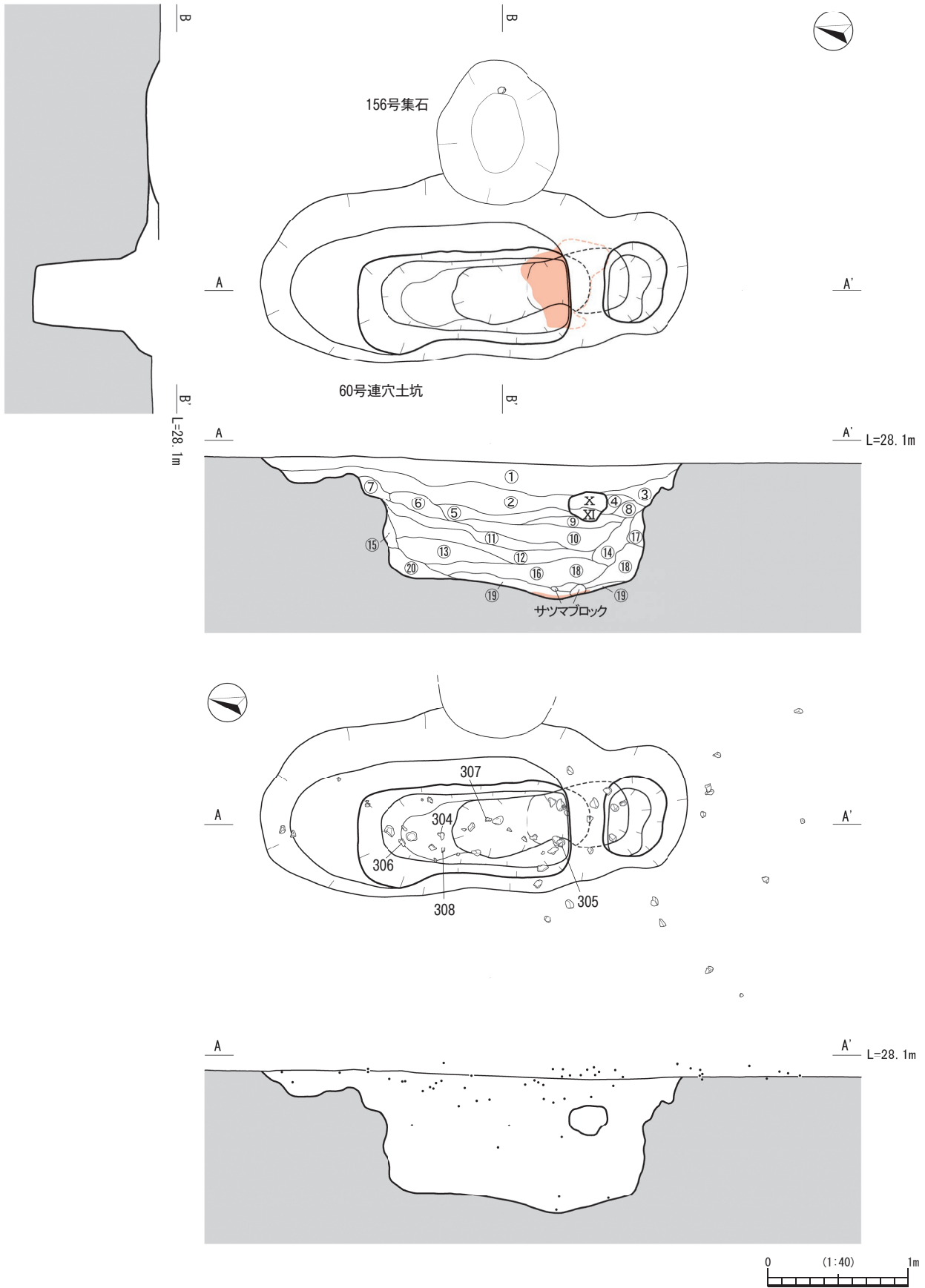
重複遺構32 (第205図)

D-37区X層で検出した。83号連穴土坑と115号土坑

が重複しており, 埋土の堆積状況等から, 83号連穴土坑が新しいと判断した。115号土坑の北側を83号連穴土坑が切る。83号連穴土坑は, ブリッジは残存していないが焼土がわずかに残存し, 焼土が残る床面は一段深く掘られている。そのため, 連穴土坑として取り扱った。遺構内遺物は確認できなかった。

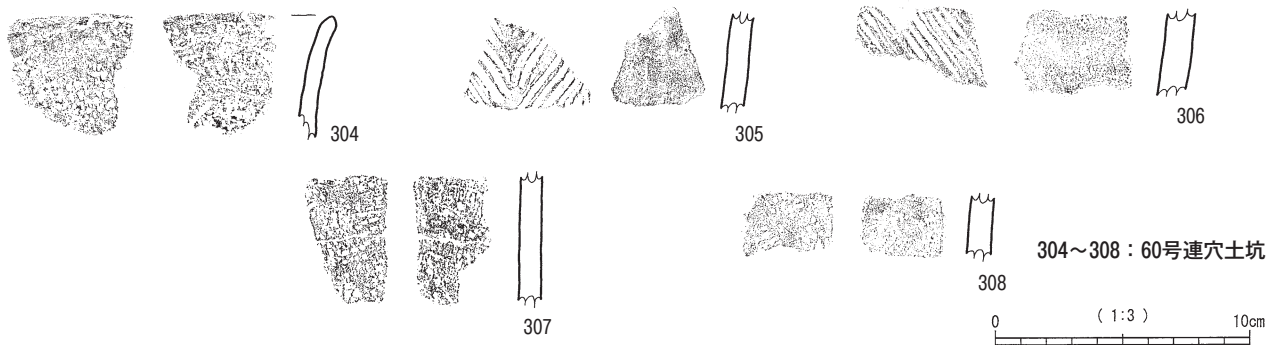
重複遺構33 (第206図)

C-37・38区で検出され, 86号連穴土坑はVIII b層, 126号土坑はX層で検出した。発掘調査時は, 86号連穴土坑の完掘後に126号土坑を検出している。86号連穴土坑は東側のみ外側に掘り込みを有し, 主穴部中央付近に焼土が残存する。遺構内遺物は確認できなかった。



第196図 重複遺構20

- ①黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス中量,2mm大の黄色・橙色バミス少量,2~3mm大の炭化物粒を微量,5~10mm大の白色軽石と1~2cm大のX層ブロックを微量含む,土質はⅧb層に類似するがバミスの混入量が比較的少ない
- ②黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス微量,2~5mm大の黄色バミス微量,1mm大の赤色焼土粒と炭化物粒極微量,1cm大の白色軽石と1~2cm大のX層ブロックを微量含む
- ③黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス極微量,1~3mm大の橙色バミス微量,2cm大のX層ブロックを少量含む ①と②の中間の様な埋土
- ④黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス微量,2~5mm大の橙色バミス微量,2mm大の炭化物粒を極微量含む ②とほぼ同質の埋土
- ⑤黒褐色土 (60%) を主体に,にぶい赤褐色粘土 (40%) と斑紋状に混土と成す 締まり強い 粘性あり 1mm大の白色バミス極微量,1mm大の橙色バミス極微量含む
- ⑥黒褐色土 締まり強い 粘性やや有り 1mm大の白色バミス微量,2~5mm大の橙色バミス極微量含む,赤褐色粘土が2~3cm大のブロック状に少量 (30%) 混じる
- ⑦褐色土 締まり強い 粘性弱い X層またはⅨ層類似 1mm大の白色バミス極微量含む下位で赤褐色粘土が漸的に (20%程度) 混じる X層主体でⅨ+Ⅹ
- ⑧にぶい赤褐色粘土 締まり有り 粘性やや強い 1~2mm大の白色バミス微量,1cm大の褐色土ブロックを極微量含む,Ⅷ層起源とみられる 5mm大の暗褐色土が小ブロック状に混入する (30%程度)
- ⑨にぶい赤褐色粘土 締まり有り 粘性やや強い 1~2mm大の白色バミス微量,2~5mm大の黄褐色バミス極微量含む 5~10mm大の暗褐色土がブロック状に混入する (30%程度) ⑧とほぼ同質であるが,混入する暗褐色土ブロックが比較的大きい
- ⑩にぶい赤褐色粘土 締まり有り 粘性やや強い 1mm大の白色バミス極微量,2~3mm大の褐色土小ブロック微量,1~4cm大の褐色土ブロック少量,3~10mm大の赤褐色焼土粒微量,1~2mm大の炭化物粒少量含む
- ⑪にぶい赤褐色粘土 締まり有り 粘性やや強い 2~3mm大の褐色土ブロックを微量含む 他バミス粒,焼土粒,炭化物粒は見られない
- ⑫にぶい黄褐色土 締まり有り 粘性やや強い 2~4cm大の黄褐色土ブロックを中量 (40%) 含む 他の埋土に比べ黄褐色土ブロックを多く含むため,明瞭に分層が可能
- ⑬暗赤褐色粘土 締まり有り 粘性強い 3mm大の黄褐色土ブロック粒子極微量含む,黒褐色土との混土となり,色調暗くなる
- ⑭にぶい赤褐色粘土 締まり有り 粘性やや強い 5mm大の黄褐色土ブロック粒を微量含む,煙道部からの流入堆積土
- ⑮にぶい赤褐色粘土 締まり有り 粘性非常に強い 混入物は見られない Ⅹ~ⅩⅢ層と比較して粘性強く締まり弱い
- ⑯暗赤褐色粘土 締まり有り 粘性強い 3mm大の黄褐色土ブロック粒を極微量含む,⑬とほぼ同質であるが混土となる黒褐色土の割合が⑬と比較してやや多い
- ⑰にぶい赤褐色粘土 締まり有り 粘性非常に強い 混入物は見られない Ⅹ~ⅩⅢ層と比較して粘性強く締まり弱い
- ⑱にぶい赤褐色粘土 締まり有り 粘性強い 2~3mm大の黄褐色土ブロック粒微量,1mm大の赤色焼土粒を極微量,1mm大の炭化物粒極微量含む,わずかに黒褐色土を含み色調暗くなる
- ⑲暗赤褐色粘土 2~3mm大の黄褐色土ブロック粒少量,1~3mm大の赤色焼土粒を少量,2mm大の炭化物粒微量含む
- ⑳暗赤褐色粘土 2mm大の黄褐色土ブロック粒極微量,1~3mm大の赤色焼土粒を微量,1mm大の炭化物粒極微量含む ⑲と同質であるがわずかに黒褐色土を含み,色調暗くなる



第197図 重複遺構20出土遺物

重複遺構34 (第207図)

B・C-37・38区X層で検出した。131号土坑・89号連穴土坑が重複しており,埋土の堆積状況等から,131号土坑が新しいと判断した。89号連穴土坑は,主穴部の両端にそれぞれ従穴部を有し,いずれのブリッジもⅨ層が残存する。主穴部の中央からやや東南寄りを,ほぼ直角方向に253号土坑が切る。遺構内遺物は確認できなかった。

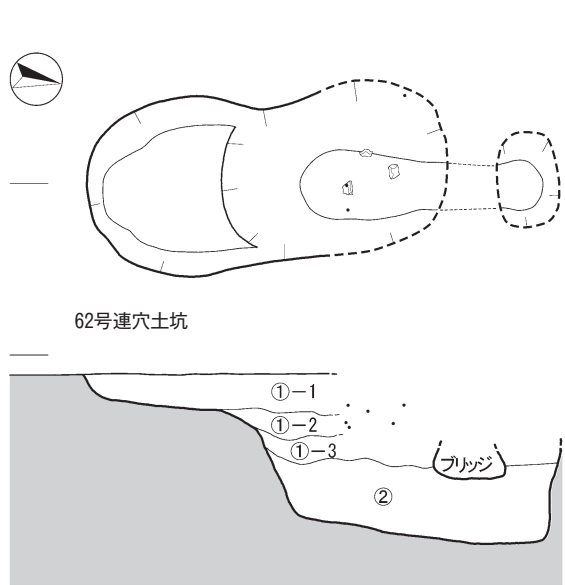
可能性が高いが,ほぼ同時期に構築された可能性もあり,正確な新旧関係は不明である。また,91号連穴土坑の東壁が92号連穴土坑の従穴部西端をわずかに切る。91号連穴土坑はブリッジ中央部分が崩落しており,崩落部直下からは被熱による変色のある礫が数点出土した。遺構内遺物と判断したものは,90号連穴土坑から土器1点であり,図化した。324は口縁部が直行し,横位に貝殻刺突文が浅く3条めぐる。胴部は綾杉条痕文が施される。

重複遺構35 (第208図)

B-37区で検出され,90号・91号連穴土坑はⅧb層,92号連穴土坑はX層で検出した。91号連穴土坑・90号連穴土坑はいずれも外側に掘り込みを有し,91号連穴土坑の掘り込み東端が90号連穴土坑の掘り込み南側にわずかに重複する。埋土の堆積状況から91号連穴土坑が新しい

重複遺構36 (第210図)

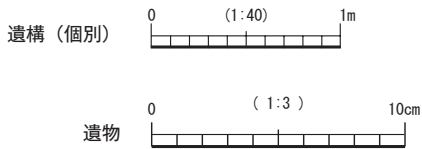
B-38・39区X層から検出したが,96号連穴土坑外側の掘り込みはⅧb層で検出された。埋土の堆積状況等から,96号連穴土坑が新しいと判断した。96号連穴土坑は21号堅穴建物跡の南端を床面以下まで深く切って構築され,ブリッジにはⅨ層が残存するが上部が掘削されてい



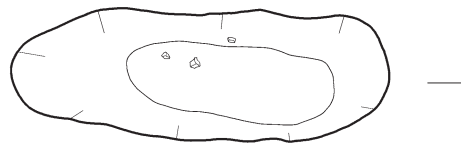
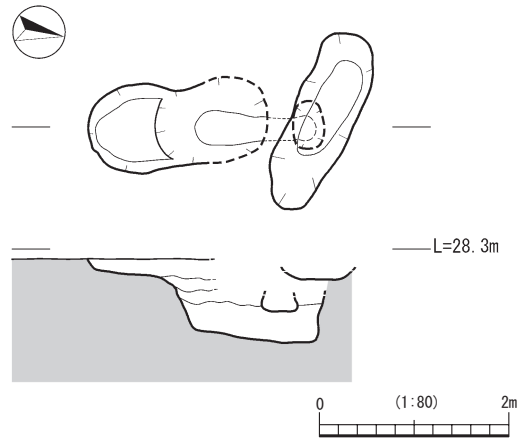
- ①-1 黒褐色砂質土 白色・黄色の小バミス含む
- ①-2 黒褐色砂質土 ②より黒味が強い
- ①-3 灰黄褐色砂質土 ①-2層と②層が混在した埋土
- ② 明黄褐色粘質土 粘性強い



309
62号連穴土坑



重複遺構21

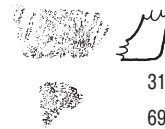


69号土坑

L=28.3m



- ① 黒褐色土 粘性弱い 締まり有り 1~3mm大の白色バミス少量, 1~2mm大の橙色バミス微量, 1mm大の炭化物粒微量含む VIIIb~IX層に対し, やや色調が暗く混入物が多く見られるが, 土質はあまり変わらない



310
69号土坑

第198図 重複遺構21・出土遺物

る。遺構内遺物と判断したものは、21号竪穴建物跡から土器3点と石器1点、96号連穴土坑から土器2点であり、そのうち21号竪穴建物跡から土器2点と石器1点を図化した。328は、花崗岩製の石皿類である。やや不均一な厚みがあり、表面にやや平坦面を形成して磨りが確認される。

重複遺構37 (第209図)

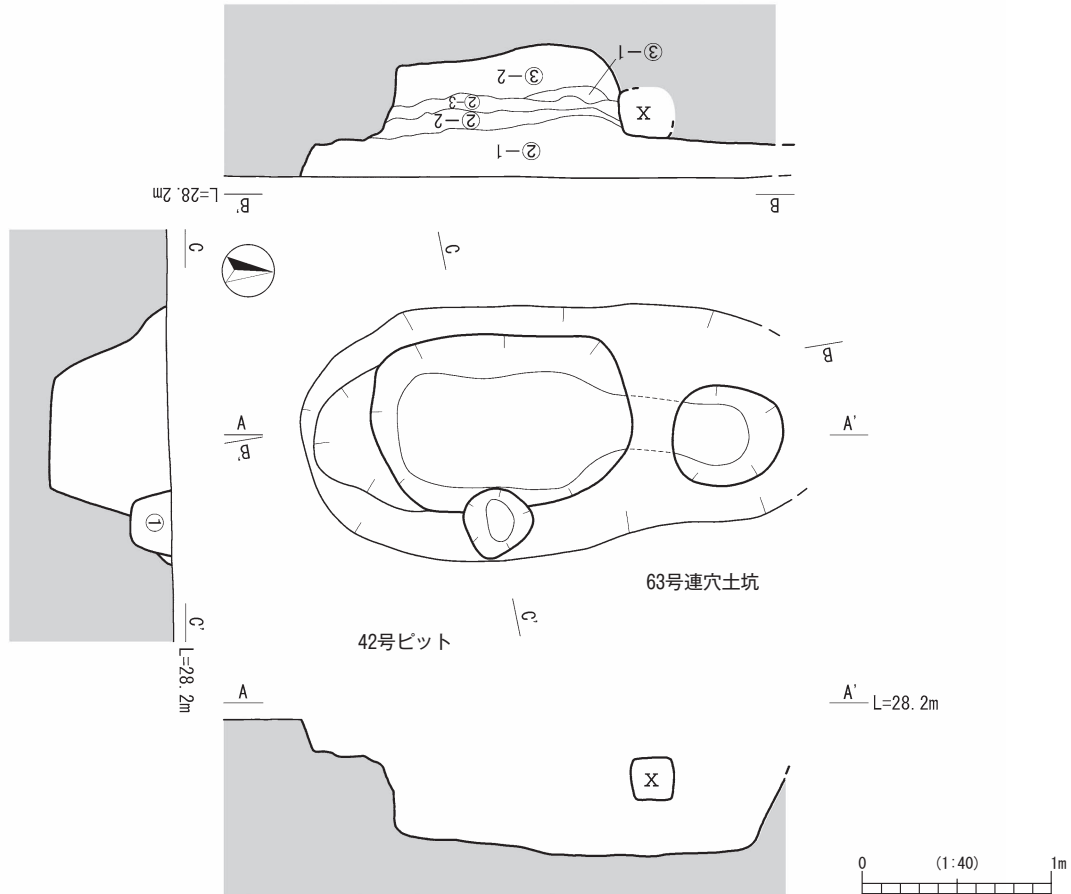
B-38区で検出され、133号土坑はVIII b層、134号土坑はX層で検出した。埋土の堆積状況等から133号土坑が新しく、134号土坑の南東端をわずかに切る。遺構内遺物と判断したものは、133号土坑から土器2点であり、そのうち土器1点を図化した。325は口縁部がやや外反する。口唇部にはキザミが施され、口縁部は縦位の貝殻刺突文が施されている。

重複遺構38 (第211図)

B-38区X層で検出した。135号土坑と98号連穴土坑がほぼ直角方向に重複しており、埋土の堆積状況等から、135号土坑が新しいと判断した。135号土坑は長軸がおおよそ3mで、連穴土坑の可能性も考えられたが、ブリッジの痕跡等が見られず土坑として取り扱った。98号連穴土坑のブリッジにはIX層が残存する。遺構内遺物は確認できなかった。

重複遺構39 (第212図)

C-38区X層で検出した。101号連穴土坑と139号土坑がおおよそ直角方向に重複しており、埋土の堆積状況等から、101号連穴土坑が新しいと判断した。101号連穴土坑は焼土や炭化物は確認されなかったが、北側がややすばみ若干深くなる傾向にあることから、ブリッジの残存部



- ① 黒色土 1mm大の白色パミス少量含む, 1mm大の橙色パミス少量含む
- ②-1 黒色砂質シルト 黒色砂質土 締まり強い 粘性やや有り VIII層相当 白色パミス中量, 橙色パミス少量含む
- ②-2 黒褐色砂質シルト 黒色砂質土 締まり強い 粘性やや有り VIII層相当 白色・橙色パミス少量含む ②-1相当と比較し, 色調は明るい
- ②-3 黒褐色砂質シルト 黒色砂質土 締まり強い 粘性やや有り VIII層主体にXI層を中量含む 白色・橙色パミス少量含む
- ③-1 暗褐色粘質土 黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性強い XI層に黒色砂質シルトを少量含む
- ③-2 褐色粘質土 黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性強い XI層に黒色砂質シルトを少量 炭化物を微量含む

第199図 重複遺構22

である可能性を考慮し連穴土坑として取り扱った。遺構内遺物は確認できなかった。

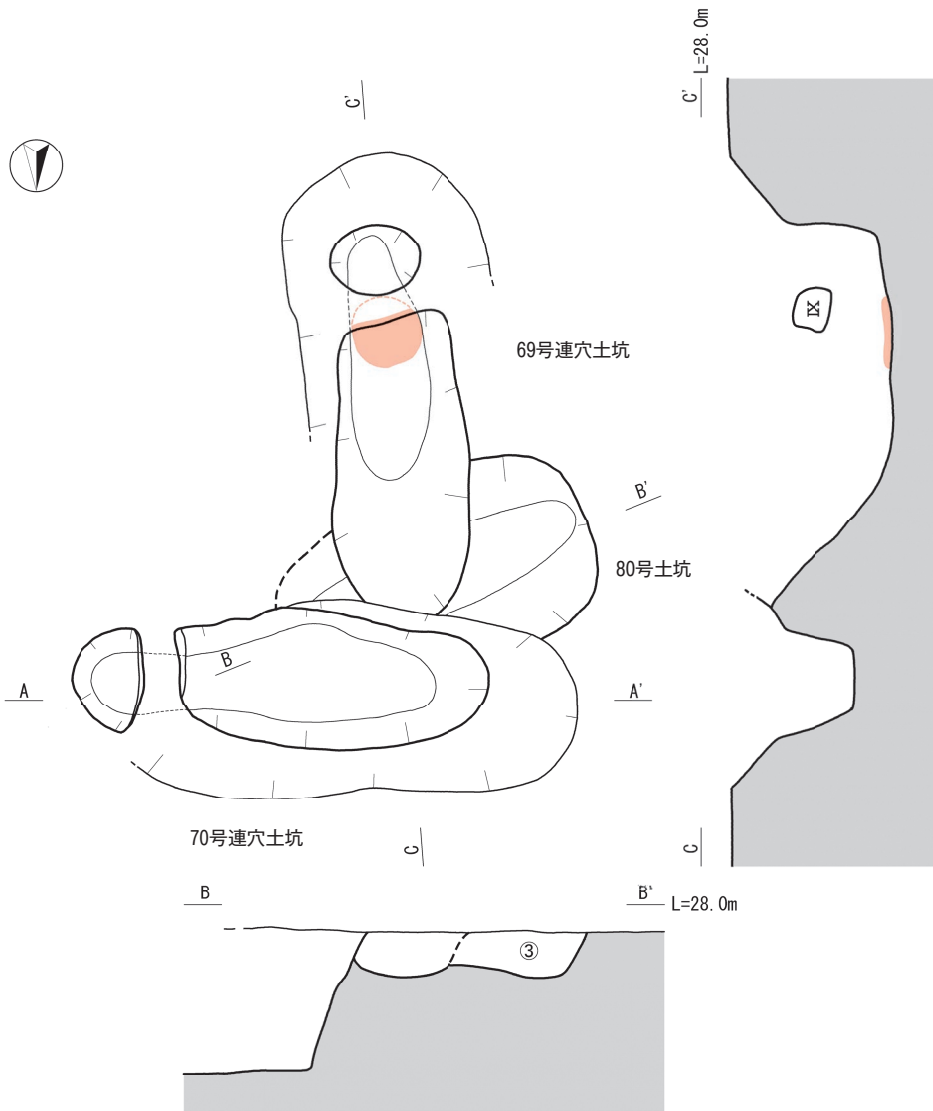
重複遺構40 (第211図)

C-38区で検出され, 142号土坑はVIII b層, 104号連穴土坑はX層で検出した。104号連穴土坑の真上に142号土坑が掘り込まれ, ブリッジをわずかに切る。104号連穴土坑のブリッジにはIX層が残存する。遺構内遺物は確認できなかった。

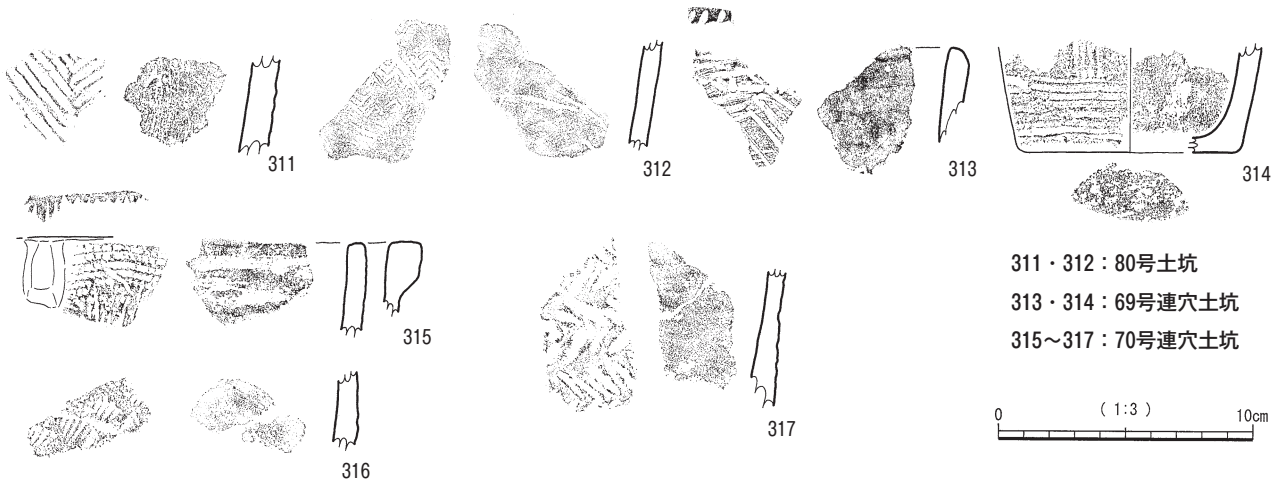
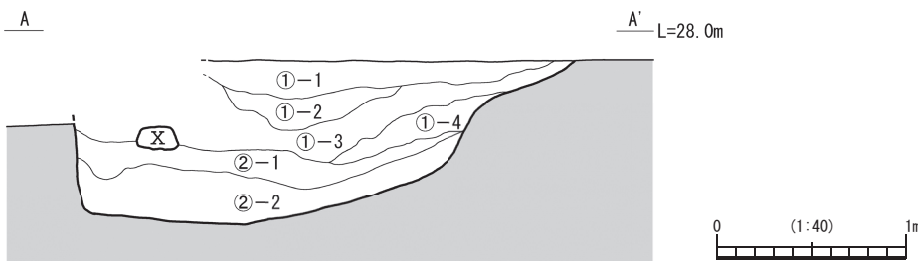
重複遺構41 (第213図)

C-38区X層で検出した。102号連穴土坑・103号連穴土坑はいずれも焼土が残存するが, 102号連穴土坑はブリッジが残存しない。22号竪穴建物跡の床面直下からは, 焼土が残存する土坑2基(146号土坑・141号土坑)が検出されたが, 22号竪穴建物跡に伴うものではないと考えられる。22号竪穴建物跡の北側の埋土が大きく沈んでお

り(断面I-I'), 直下にある146号土坑の影響を受けていると考えられる。141号土坑は, 検出位置から102号連穴土坑に伴うもう一つの従穴部である可能性も考慮されたが, 146号土坑も含め機能は不明である。遺構内遺物と判断したものは, 22号竪穴建物跡から土器19点と石器1点, 102号連穴土坑から土器1点であり, そのうち22号竪穴建物跡から土器13点, 102号連穴土坑から土器1点を図化した。329は口唇部が平坦でキザミが施され, 口縁部には端部からキザミが2段接して施される。内面は胴部で左上がりのケズリ痕が顕著で, 口縁部付近では横方向へと変化する。粘土がマーブル状を呈する特徴がある。330は2段目のキザミ目の施文方向が途中で変化している。331のキザミは1段で, 縦長の擦り切り穿孔が穿たれる。332は横位の貝殻条痕文で, 内面には縦方向のケズリ痕が残る。333は緩やかな波状口縁を呈する。明瞭な角部は形成されていない。口唇部は貝殻刺突文が施される。口縁部は, 縦位の貝殻刺突文が施され, 胴部

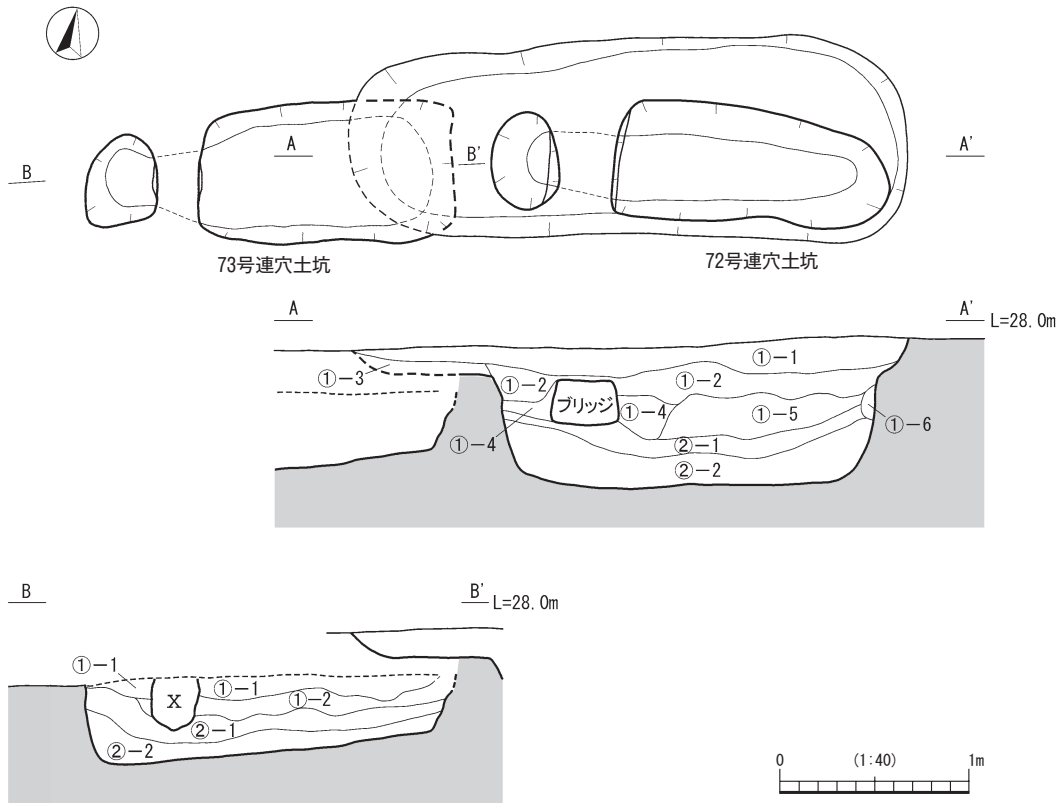


- ①-1 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い
1mm大の白色パミス少量含む
- ①-2 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い
1mm大の白色パミス中量, 2~3mm大の
橙色パミス少量, 2mm大の炭
化物粒微量含む
- ①-3 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い
1mm大の白色パミス少量, 2mm大
の橙色パミス極微量, X層起源の
にぶい黄褐色土を混土とし
て, 40%程度 (ブロック状) に含
む
- ①-4 記載なし
- ②-1 暗赤褐色粘土 締まり強い 粘性非
常に強い ほとんど混入物なし
地山XI層と比較してやや粘性弱
く締まりが弱い
- ②-2 にぶい赤褐色粘土 締まり強い 粘
性非常に強い わずかに1~2mm
大の焼土粒を含む
- ③ 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm
大の橙色パミス少量, 1mm大の白
色パミス少量, 1~5mm大の炭化
物粒中量含み黒色が強い



311・312 : 80号土坑
313・314 : 69号連穴土坑
315~317 : 70号連穴土坑

第200図 重複遺構23・出土遺物

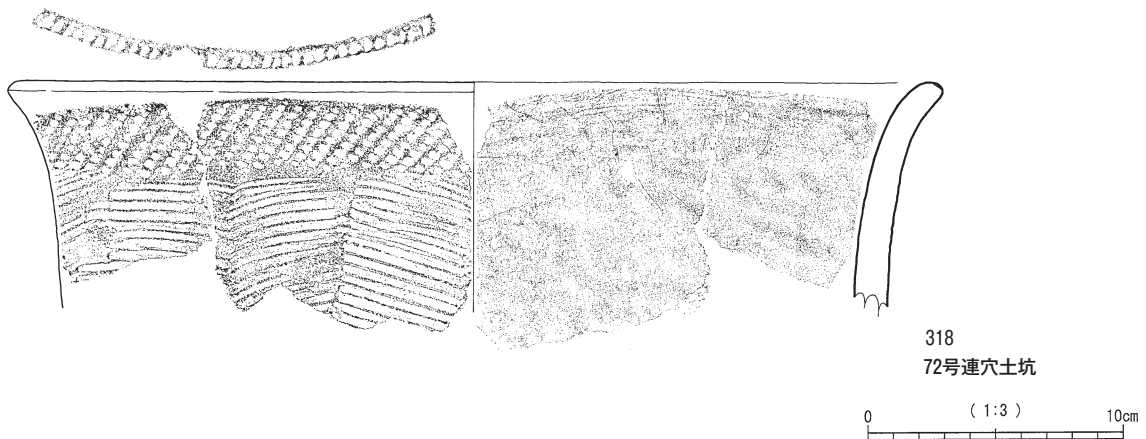


72号連穴土坑

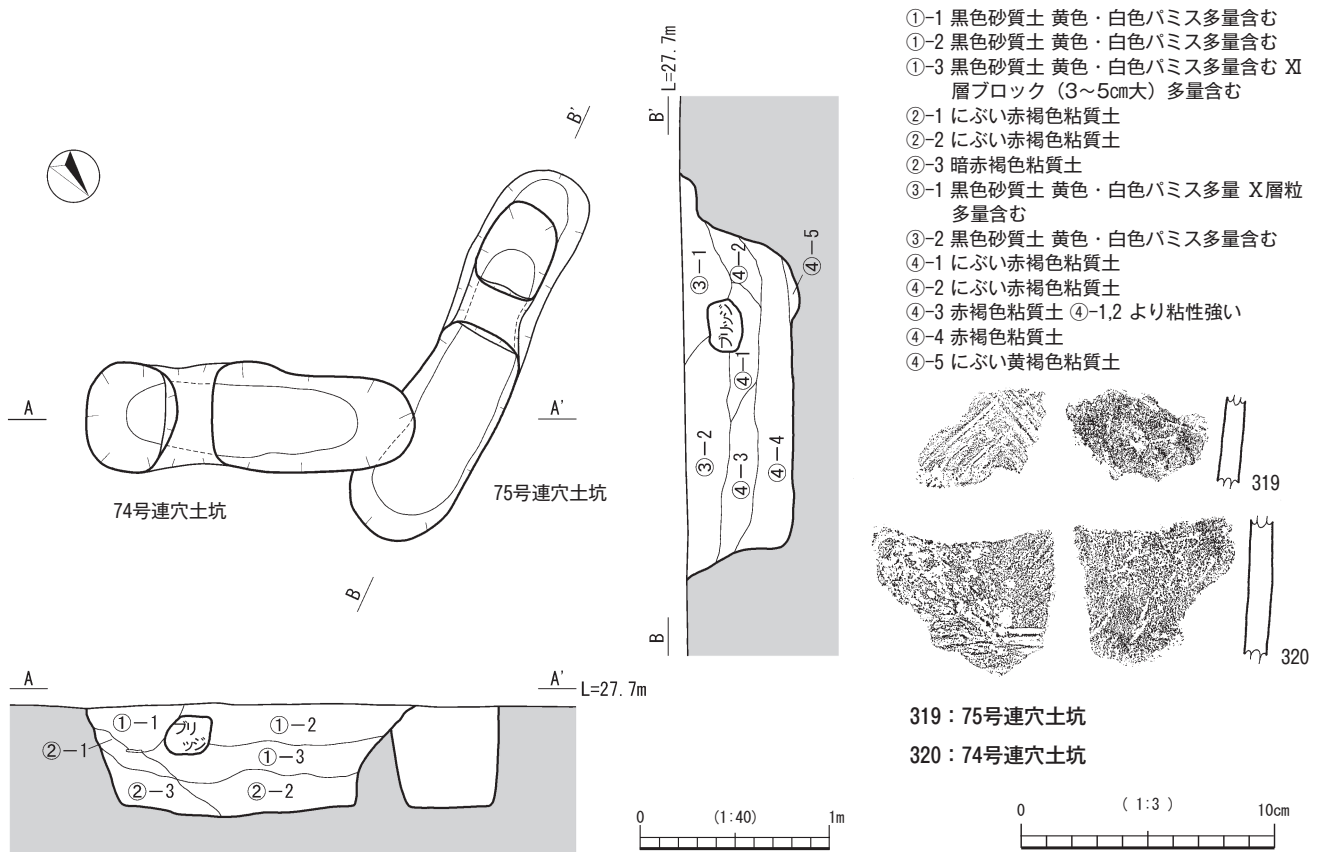
- ①-1 黒褐色砂質シルト VIIa層類似 締まりやや強い 粘性やや弱い 3mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス中量含む
- ①-2 黒褐色砂質シルト VIIa層類似 締まりやや強い 粘性やや弱い 3mm大の黄色バミス多量,1mm大の白色バミス多量含む
- ①-3 暗褐色砂質シルト VIIa層類似 締まりやや強い 粘性やや弱い 3mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス中量含む
- ①-4 黒褐色砂質シルト VIIa層類似 締まりやや強い 粘性有り 3mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス少量,XI層をブロック状に微量含む
- ①-5 褐色砂質シルト VIIa層類似 締まりやや強い 粘性やや弱い 3mm大の黄色バミス多量,1mm大の白色バミス中量,X層を少量含む
- ①-6 黄褐色砂質シルト X層類似 締まり有り 粘性やや弱い VIIa層を微量含む
- ②-1 褐色粘質土 XI層類似 締まりやや弱い 粘性やや強い VIIa層をブロック状に中量含む
- ②-2 暗褐色粘質土 XI層類似 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層より締まりと粘性が弱い

73号連穴土坑

- ①-1 黒褐色砂質シルト 黒色砂質土 締まり強い 粘性やや有り 黄褐色バミスを多量,白色バミスを少量含む
- ①-2 黒褐色砂質シルト 黒色砂質土 締まり有り 粘性有り XI層中量,黄褐色バミス少量,焼土,白色バミスを微量含む
- ②-1 にぶい黄褐色粘質土 黄褐色粘質土 締まり弱い 粘性有り XI層主体に,黒褐色砂質シルトを少量,炭化物を微量含む
- ②-2 褐色粘質土 黄褐色粘質土 締まり弱い 粘性有り XI層主体に,黒褐色砂質シルトと白色バミスを微量含む



第201図 重複遺構24・出土遺物



第202図 重複遺構25・出土遺物

は横位の貝殻条痕文である。この条痕文の上には逆V字状に短い貝殻条痕文が施文され、これが縦位に連続して1つの縦位文様となる。この縦位文様は、波頂部と連動し、波頂部間にも同様の文様を施文する。底部接地面には編み物圧痕が残る。内面は、底部から胴部にかけて縦位に下から上へとケズリ痕が顕著で、胴部上位で斜めになる。さらに、口縁部内面では横位となり、口縁部の波状に合わせた調整痕が確認できる。底部外端は貝殻条痕文を施文した後にケズリとナデが施されている。334と335は横位の貝殻条痕文が施文される。339は横位条痕文の上に斜位の貝殻条痕文が重なる。340は木口状の調整痕が残る。

重複遺構42 (第216図)

C-38区X層で検出した。106号連穴土坑・147号・148号土坑が重複しており、埋土の堆積状況等から、106号連穴土坑が最も新しいと判断した。106号連穴土坑は、ブリッジが確認できなかったが焼土が残存しており、148号土坑及び147号土坑の床面以下まで深く切るように構築される。148号土坑北側にはくびれが確認されたが、規模が小さく土坑として取り扱った。遺構内遺物は確認できなかった。

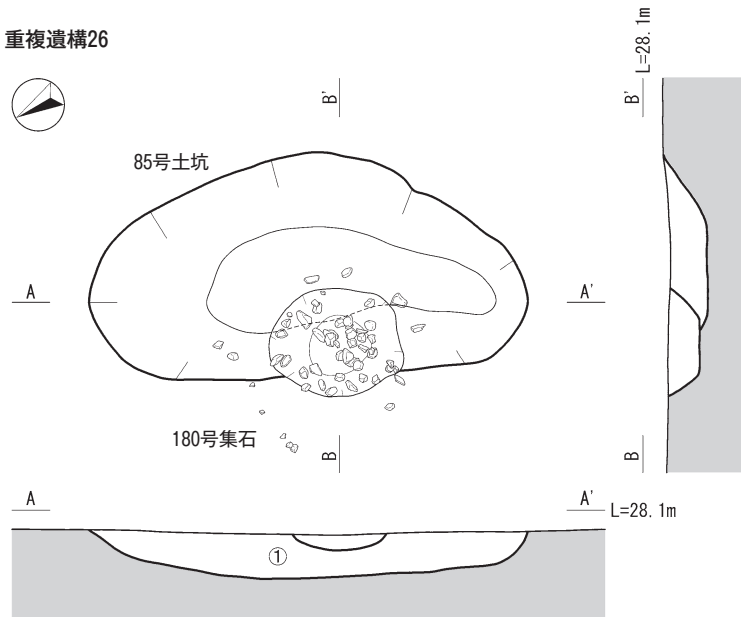
重複遺構43 (第217図)

C・D-37・38区X層で検出した。土坑及び連穴土坑が計7基重複している。84号・85号・108号連穴土坑はいずれもブリッジは残存していないが、床面に焼土が残存するため連穴土坑として取り扱った。85号連穴土坑には、焼土がまばらに残存する範囲とほぼ全面赤色に変化している範囲が見られ、床面が西側に向かって傾斜する。108号連穴土坑は2か所で焼土が見られ、構築し直しもしくは拡張して利用した可能性がある。122号土坑は円形プラン、その他の遺構はすべて楕円形プランを呈する。遺構内遺物は確認できなかった。

重複遺構44 (第218図)

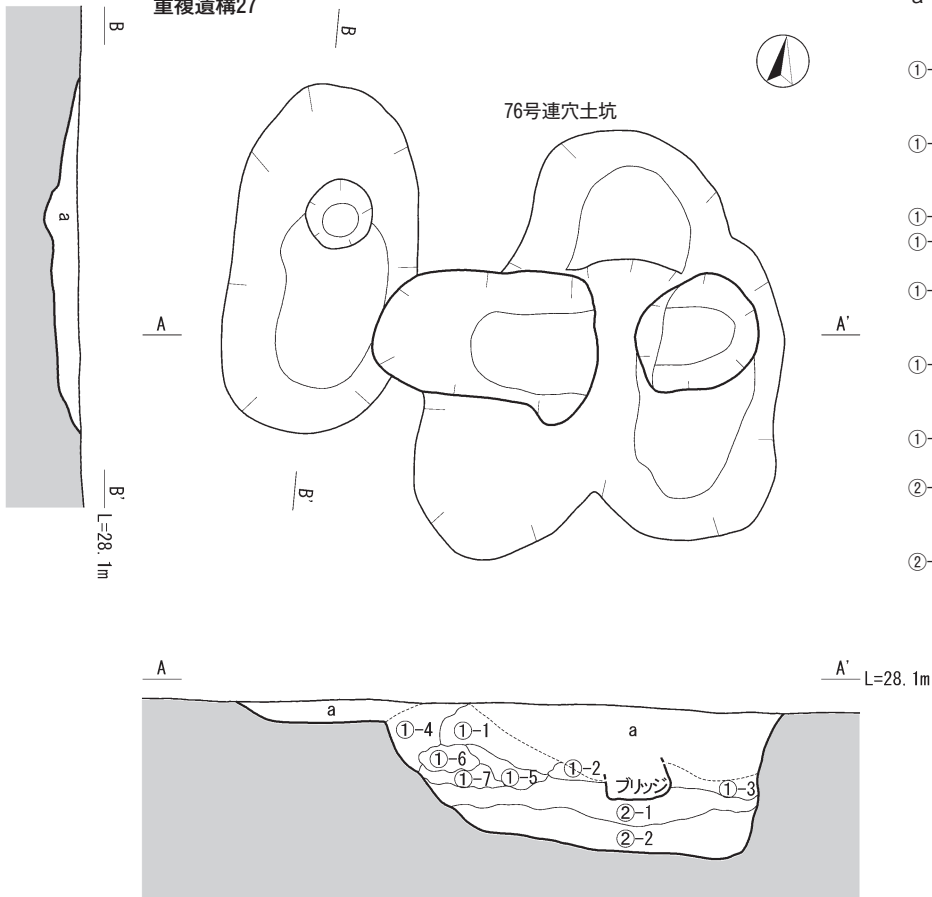
D-38区X層で検出した。110号連穴土坑、153号・154号土坑が重複しており、110号連穴土坑が最も新しく154号土坑が最も古いと判断した。110号連穴土坑は、ブリッジは残存していないが焼土が残存するため、連穴土坑として取り扱った。153号土坑は大型の円形を呈するが、他の遺構と比べ掘り込みは浅い。遺構内遺物と判断したものは、110号連穴土坑から土器1点、154号土坑から土器2点であり、そのうち110号連穴土坑から土器1点、154号土坑から土器1点を図化した。343はための貝殻条痕文が横位に施文される。内面調整は縦方向のケズリで

重複遺構26



① 黒色土 粘性弱い 締まり強い 1mm大の白色バミス少量, 1~2mm大の黄色・橙色バミスを極少量含む 粒径極微細

重複遺構27



a 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1~2mm大の白色バミス少量, 2~5mm大の黄色・橙色バミス中量含む

①-1 暗褐色土 締まり強い 粘性無し 1mm大の白色バミス少量, 2~3mm大の橙色バミス中量含む

①-2 暗褐色土 (50%) と 暗赤褐色粘土 (50%) の混土 締まり強い 粘性やや有り

①-3 色調, 土質とも①-2と同じ

①-4 褐色土 締まり強い 粘性無し 1mm大の白色バミス少量含む ほぼX層

①-5 暗褐色土 締まり強い 粘性やや有り 白色バミスをあまり含まず, 2~5mm大の橙色バミスを中量含む

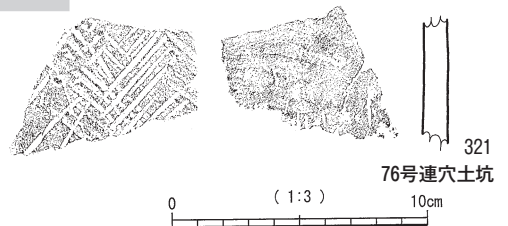
①-6 暗褐色土 (70%) と 褐色土 (30%) との混土 わずかに2mm大の黄色バミスを含む 締まり強い 粘性やや有り

①-7 暗褐色土 締まり強い 粘性やや強い 2~3mm大の橙色バミスを微量含む

②-1 にぶい赤褐色粘土 締まり有り 粘性強い XI層と比較してやや色調暗く, 締まり弱い

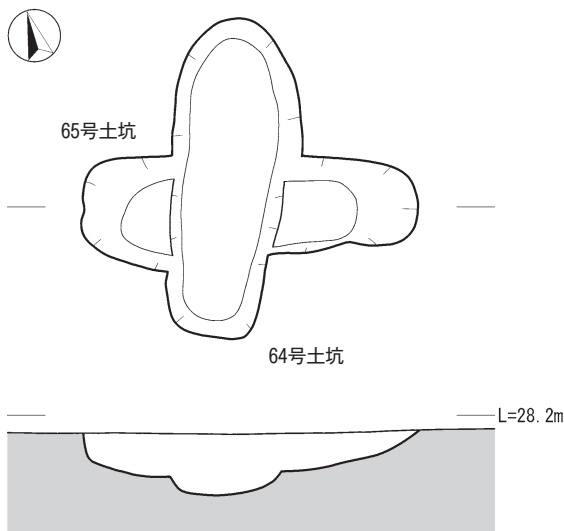
②-2 にぶい赤褐色粘土 締まり有り 粘性強い ほぼ②-1層と同じ 比較してやや色調暗く, 締まり弱い

遺構 0 (1:40) 1m

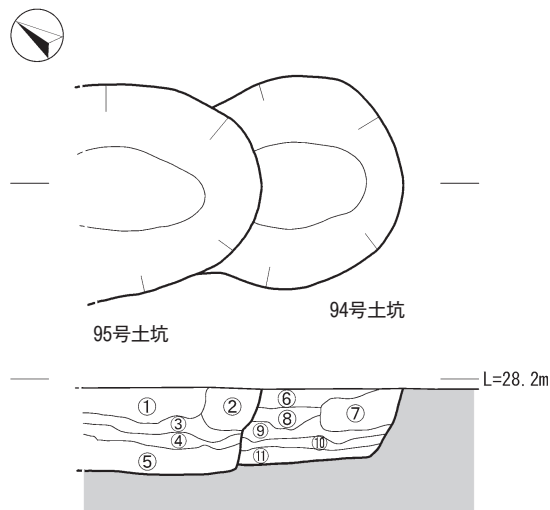


第203図 重複遺構26, 27・重複遺構27出土遺物

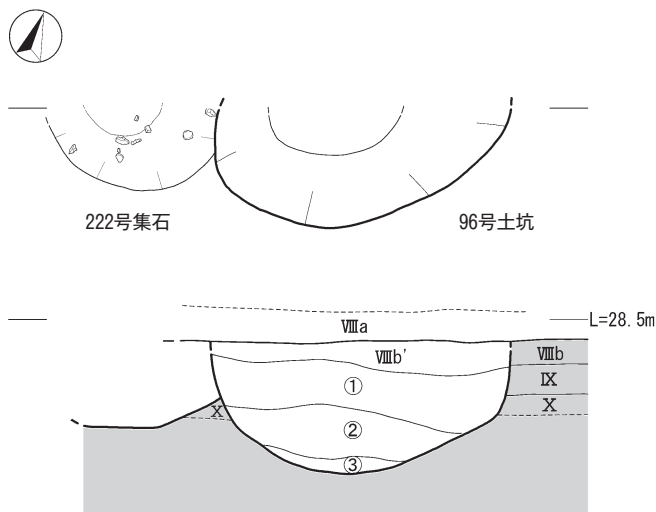
重複遺構28



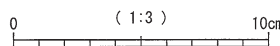
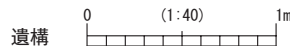
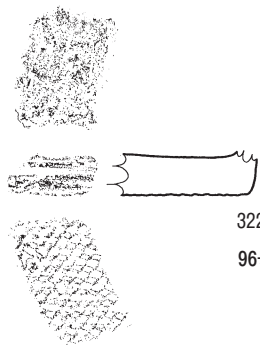
重複遺構29



重複遺構30

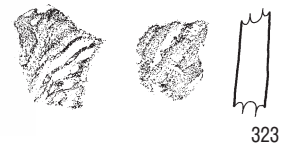
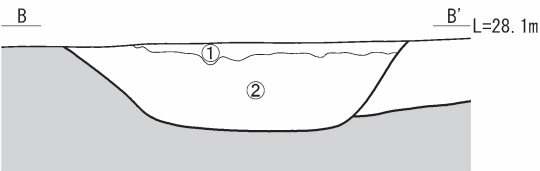
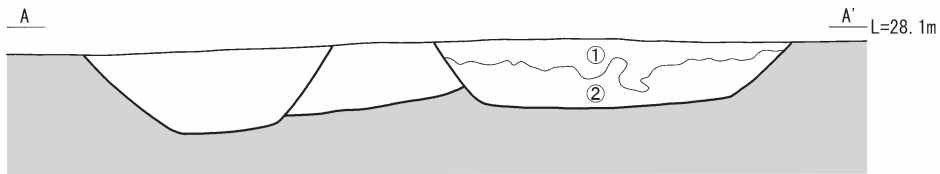
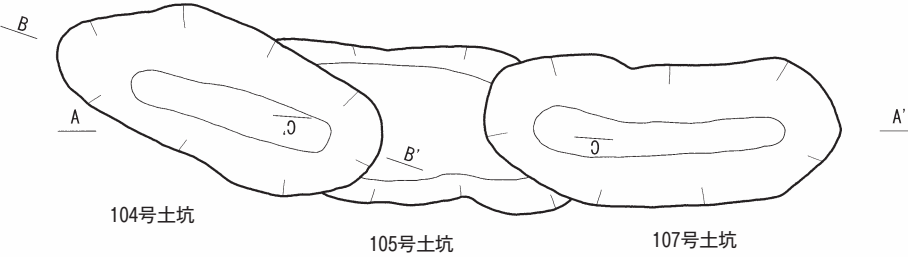
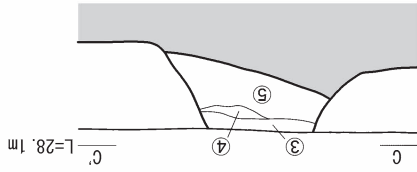


- ① 黒色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス中量,2mm大の黄色バミス中量含む
- ② 暗褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量,1~2mm大の黄色バミス少量含む,黄褐色土を斑状に含んでいる
- ③ 暗褐色土 (②層)と暗赤褐色土 (④層)との混土 締まり有り 粘性やや有り 暗赤褐色が1~2cm大のブロック状で混じる
- ④ 暗赤褐色粘土 (XI層類似) 締まり有り 粘性やや強い 2mm大の赤色焼土粒と1mm大の炭化物粒を極少量含む
- ⑤ 暗赤褐色粘土 (XII層類似) 締まり有り 粘性強い XII層と比較して色調暗く,粘性が強い
- ⑥ 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス中量,2mm大の黄色バミス中量含む
- ⑦ 暗褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量,1~2mm大の黄色バミス少量含む,黄褐色土が1~2cm大のブロック状で混じる
- ⑧ 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス中量,2mm大の黄色バミス少量含む VIIIb層に類似するが,黄色バミスの量がやや少ない
- ⑨ 暗褐色土 (⑧層)と暗赤褐色粘土 (⑩層)との混土 締まり有り 粘性やや有り 暗赤褐色土が1~1.5cm大のブロック状で混じる
- ⑩ 暗赤褐色粘土 締まり有り 粘性やや強い 2mm大の炭化物粒を極微量含む
- ⑪ 暗赤褐色粘土 締まり有り 粘性強い ⑤層より色調暗く,やや粘性が強い
- ① 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1~2mm大の白色バミス中量,2~5mm大の黄色バミス・橙色バミス多量,1~2mm大の炭化物粒微量含む
- ② 黒色土 締まり強い 粘性弱い 1~2mm大の白色バミス少量,2~4mm大の黄色バミス・橙色バミス中量,1~2mm大の炭化物粒極微量含む
- ③ 暗赤褐色粘土 締まり有り 粘性やや強い 1mm大の白色バミス微量,1~2cm大の黒色土 (②)をブロック状に含む

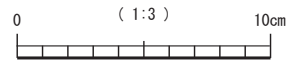


第204図 重複遺構28, 29, 30・重複遺構30出土遺物

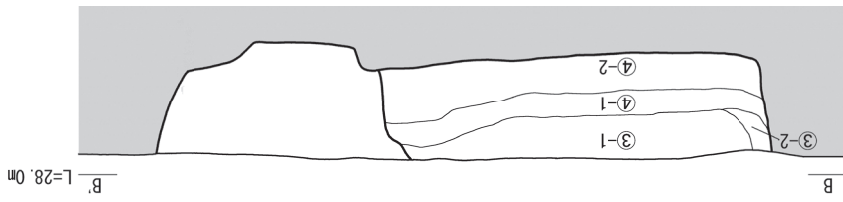
重複遺構31



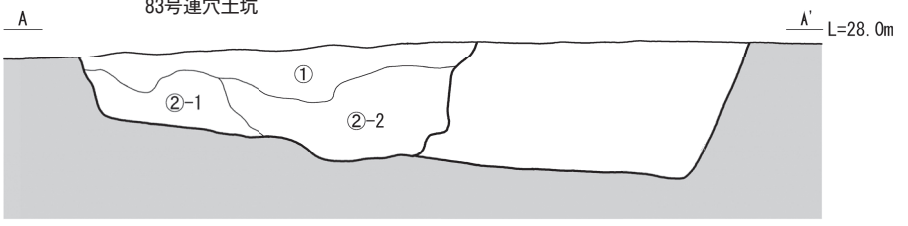
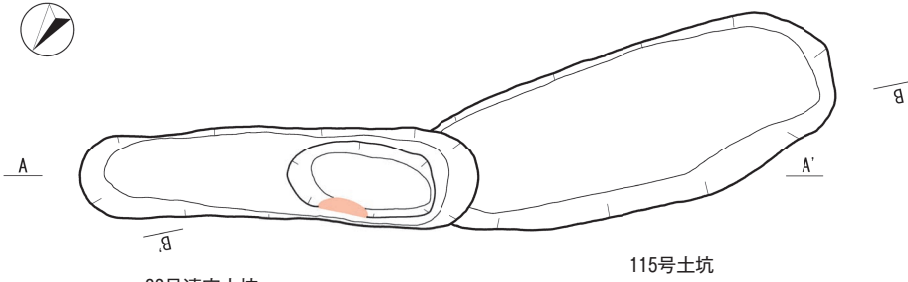
323
107号土坑



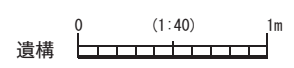
- ①黒褐色砂質土 橙色・白色のパミスを多く含む
- ②灰黄褐色粘質土 区層がベースである 粘性有り 炭化物を含む
- ③黒褐色砂質土
- ④灰黄褐色粘質土
- ⑤褐灰色粘質土



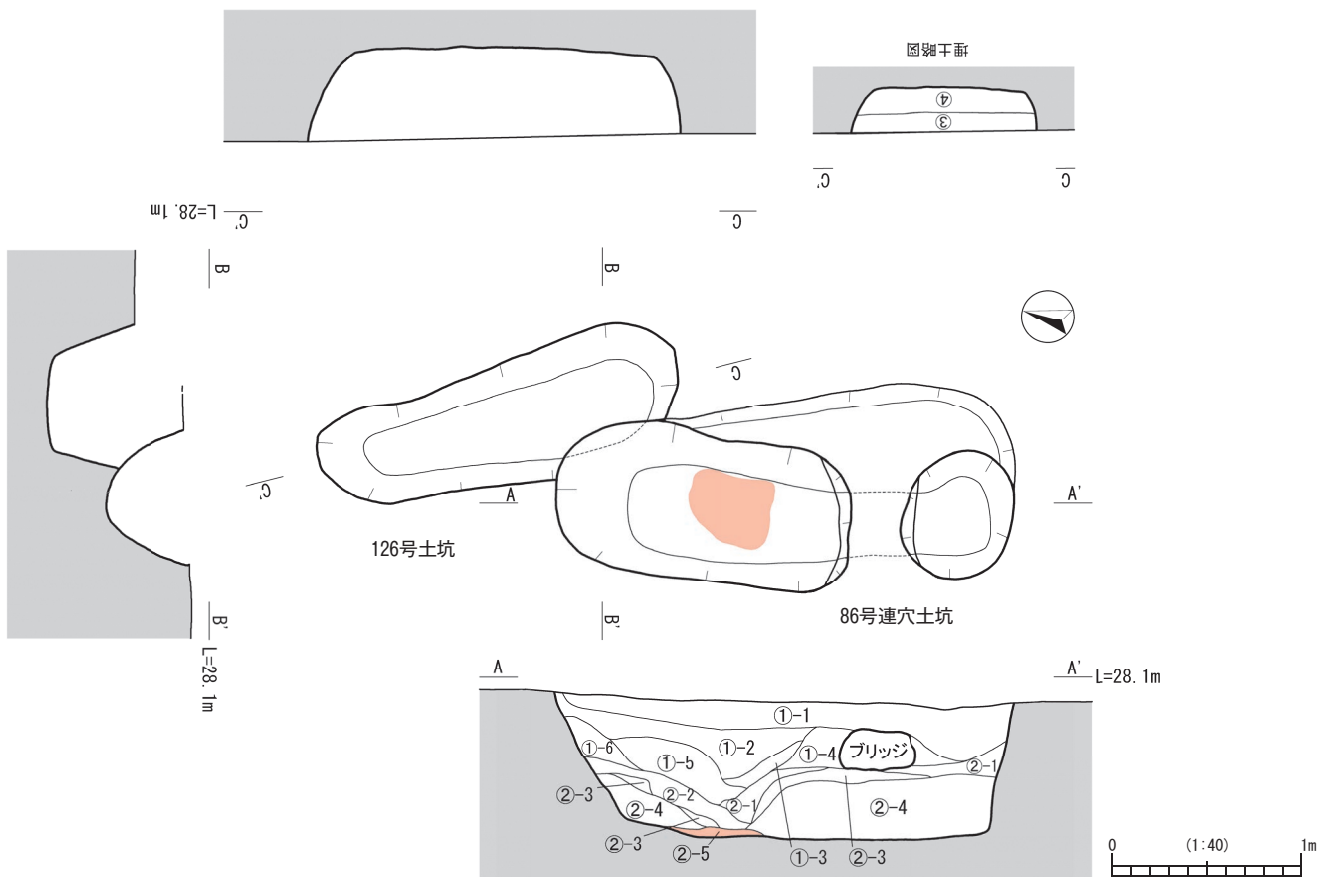
重複遺構32



- ①黒色砂質土 黄色・白色パミス多量, XI層ブロック (2~6cm大) 多量含む
- ②-1 にぶい赤褐色粘質土 焼土粒が微量入る
- ②-2 にぶい赤褐色粘質土
- ③-1 黒色砂質土 黄色・白色パミス少量含む
- ③-2 黒褐色砂質土
- ④-1 にぶい赤褐色粘質土
- ④-2 暗赤褐色粘質土



第205図 重複遺構31, 32・重複遺構31出土遺物



- ①-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス多量含む
- ①-2 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス中量含む
- ①-3 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量,1mm大の白色バミス微量,X層をブロック状に微量含む
- ①-4 褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス中量,X層が多量に混ざる
- ①-5 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス多量,1mm大の白色バミス中量,X層が少量混ざる
- ①-6 褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス多量,1mm大の白色バミス中量,X層が多量混ざる
- ②-1 褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 VIIa層中量混ざる
- ②-2 褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 VIIa層多量混ざる
- ②-3 褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 XI層より締まりと粘性が弱い
- ②-4 暗褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 XI層より締まりと粘性が弱い ②-3より若干暗い
- ②-5 暗褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1~10mm大の赤褐色の焼土を多量含む
- ③ 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層と黄褐色バミスを少量,白色バミスを微量含む
- ④ 褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルトと白色バミス,炭化物を微量含む

第206図 重複遺構33

ある。344は口唇部が平坦でキザミが施される。口縁部には1段のキザミが施され、胴部は横位の貝殻条痕文である。

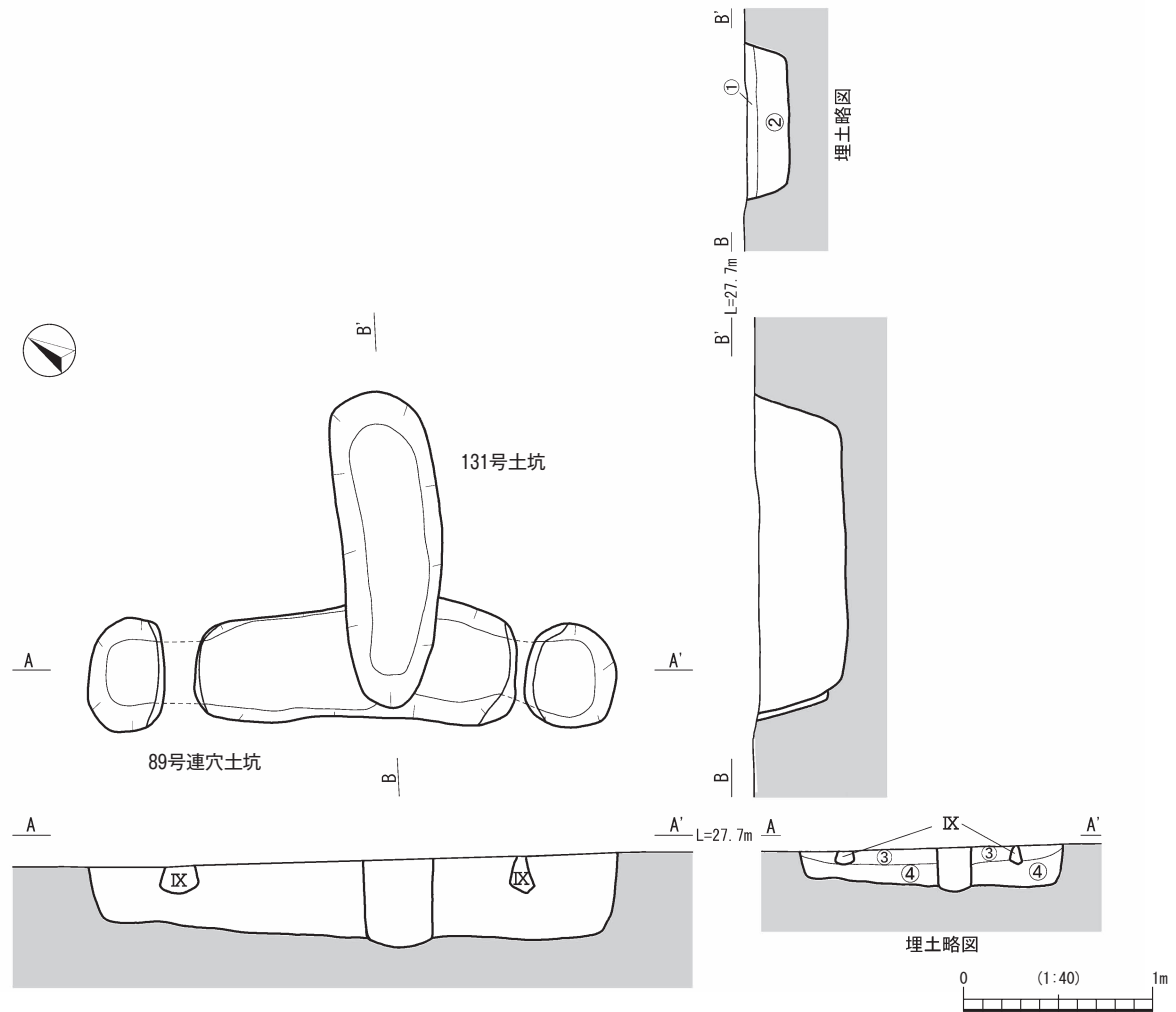
重複遺構45 (第219図)

D-38・39区X層で検出した。155号・156号・157号土坑が重複しており、埋土の堆積状況等から、中央の156号土坑の北側を157号土坑、南側を155号土坑が切ると判断した。156号土坑は楕円形プランでわずかに南側へ床面が傾斜している。いっぽう157号土坑と155号土坑は検出面から底面までが約50cmと深い。遺構内遺物と判

断したものは、155号土坑から土器2点、156号土坑から土器1点と石器1点であり、そのうち155号土坑土器1点、156号土坑から石器1点を図化した。346は重量のある大型円礫に磨面が観察された。

重複遺構46 (第220図)

D-38区X層で検出した。160号・161号土坑がほぼ直角方向に重複しており、埋土の堆積状況等から、161号土坑が新しいと判断した。いずれも楕円形プランを呈するが、160号土坑の北壁はやや広がると考えられる。遺構内遺物は確認できなかった。



- ①暗褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層と黄橙色バミスを少量含む
- ②にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体 黒褐色砂質シルトと炭化物を微量含む
- ③黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り 白色バミス多量, XI層と黄橙色バミスを少量, 炭化物を微量含む
- ④にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に白色バミス, 黄橙色バミス, 炭化物を微量含む

第207図 重複遺構34

重複遺構47 (第220図)

D・E-37・38区X層で検出した。111号・112号土坑が重複しており、埋土の堆積状況等から、112号土坑が新しいと判断した。111号土坑の南側を112号土坑が切り、112号土坑は底部がすり鉢状を呈する。遺構内遺物と判断したものは、112号土坑から土器1点であり、図化した。

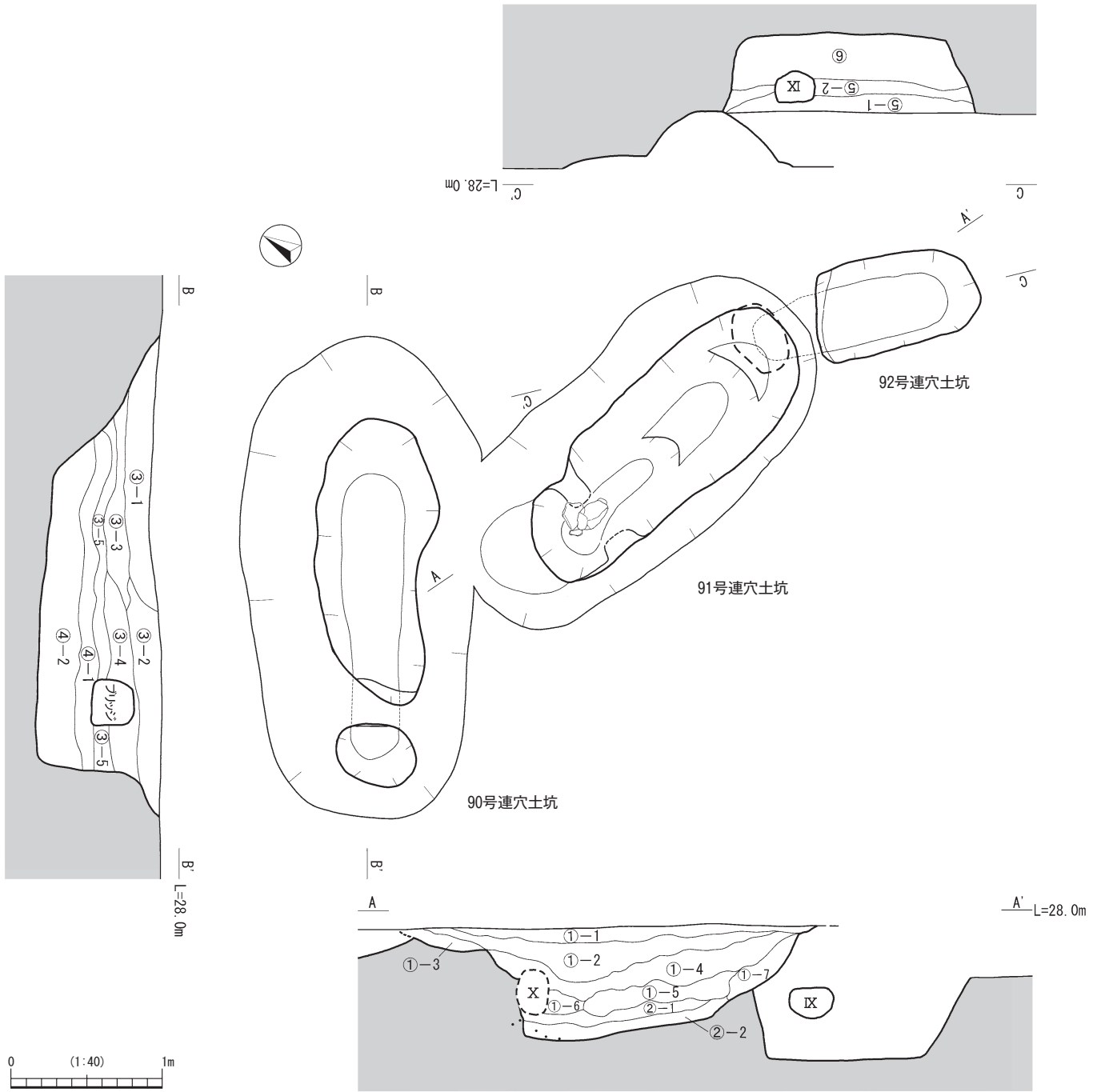
重複遺構48 (第221図)

E-38区X層上面で検出した。172号土坑と276号集石とが重複しているが、調査時点では重複を確認出来ず、整理作業段階で判明した。検出のレベル差は10cm弱で、276号集石の底面の一部が172号土坑の埋土をわずかに掘り込む。172号土坑からは総数で72点の礫が出土しており、集石の土坑である可能性も考えられたが、土坑内の埋土

堆積状況などから両者は別の遺構であると判断した。遺構内遺物と判断したものは、172号土坑から土器6点であり、そのうち土器1点を図化した。348の口唇部にはロッキング状にキザミが施され、口縁部には横位の貝殻刺突文がめぐる。

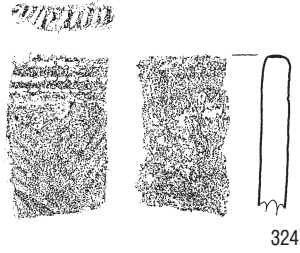
重複遺構49 (第221図)

E-38区X層上面で検出した。170号・171号土坑が重複しており、171号土坑が170号土坑の東端を切る。両者は検出面から床面までが10cm程度と浅く、171号土坑が170号土坑よりわずかに深い。遺構内遺物と判断したものは、171号土坑から土器2点であり、全て図化した。349は口縁部外端にキザミが施され、口縁部には斜位にキザミが施されている。350は横位の貝殻条痕文に流水

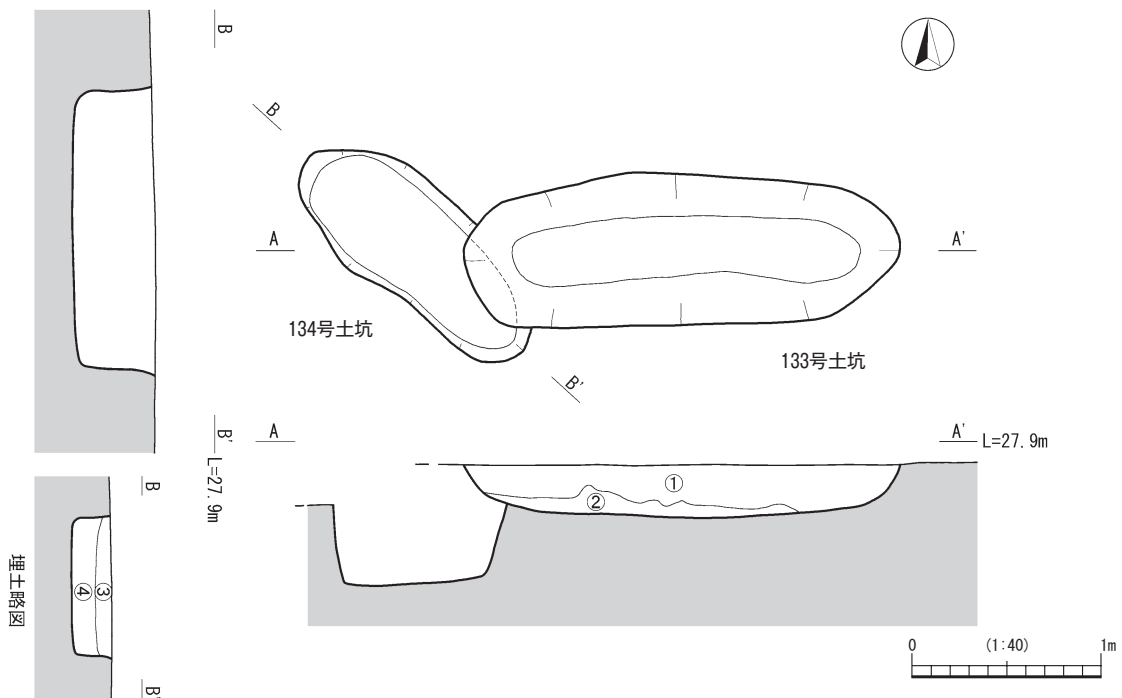


- ①-1 黒色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス中量, 2~3mm大の黄色バミス少量, 2~3mm大の橙色バミス微量, 2mm大の炭化物少量含む
- ①-2 黒色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス中量, 2~3mm大の黄色バミス中量, 2~5mm大の橙色バミス中量, 2mm大の炭化物少量含む
- ①-3 黒色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量, 2~3mm大の橙色バミス極微量含む
- ①-4 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 2mm大の白色バミス多量, 3~5mm大の橙色バミス極多量, 3mm大の黄色バミス多量, 2mm大の炭化物微量含む
- ①-5 黒色土 (70%) と暗赤褐色土 (30%) との混土 締まり強い 粘性やや有り 1mm大の白色バミス少量, 2mm大の黄色バミス多量, 3~5mm大の橙色バミス極多量含む
- ①-6 黒褐色土(80%) と暗赤褐色土 (20%) との混土 締まり強い 粘性やや有り 1mm大の白色バミス少量, 2~5mm大の橙色バミス微量含む ①-5と土性似るが, バミス含有量が比較して少ない
- ①-7 黒色土50%とにぶい黄橙色土 (X層) 50%との混土 締まり強い 粘性弱い 2mm大の橙色バミス微量含む
- ②-1 にぶい赤褐色粘土 締まり有り 粘性非常に強い XI層と比較して, わずかに粒子粗く比較的締まり弱い
- ②-2 にぶい赤褐色粘土 締まり有り 粘性非常に強い XI層と比較して, わずかに粒子粗く締まり弱い 極まれに5mm大の炭化物粒を含む
- ③-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス中量, 1mm大の白色バミス中量
- ③-2 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス多量, 1mm大の白色バミス中量含む
- ③-3 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量, 1mm大の白色バミス微量, X層をブロック状に微量含む
- ③-4 黄褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIaとX層の混土 3mm大の黄色バミス多量, 1mm大の白色バミス中量
- ③-5 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性有り VIIa層類似 3mm大の黄色バミス中量, XI層をブロック状に多量含む
- ④-1 褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い
- ④-2 暗褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い
- ⑤-1 黒褐色砂質シルト 締まり強い 粘性やや有り 黄橙色バミス, 白色バミスを少量含む
- ⑤-2 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層少量, 黄橙色バミスを微量含む
- ⑥にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性強い XI層主体に, 黒褐色砂質シルトと炭化物を微量含む

第208図 重複遺構35



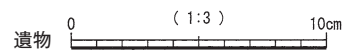
324
90号連穴土坑



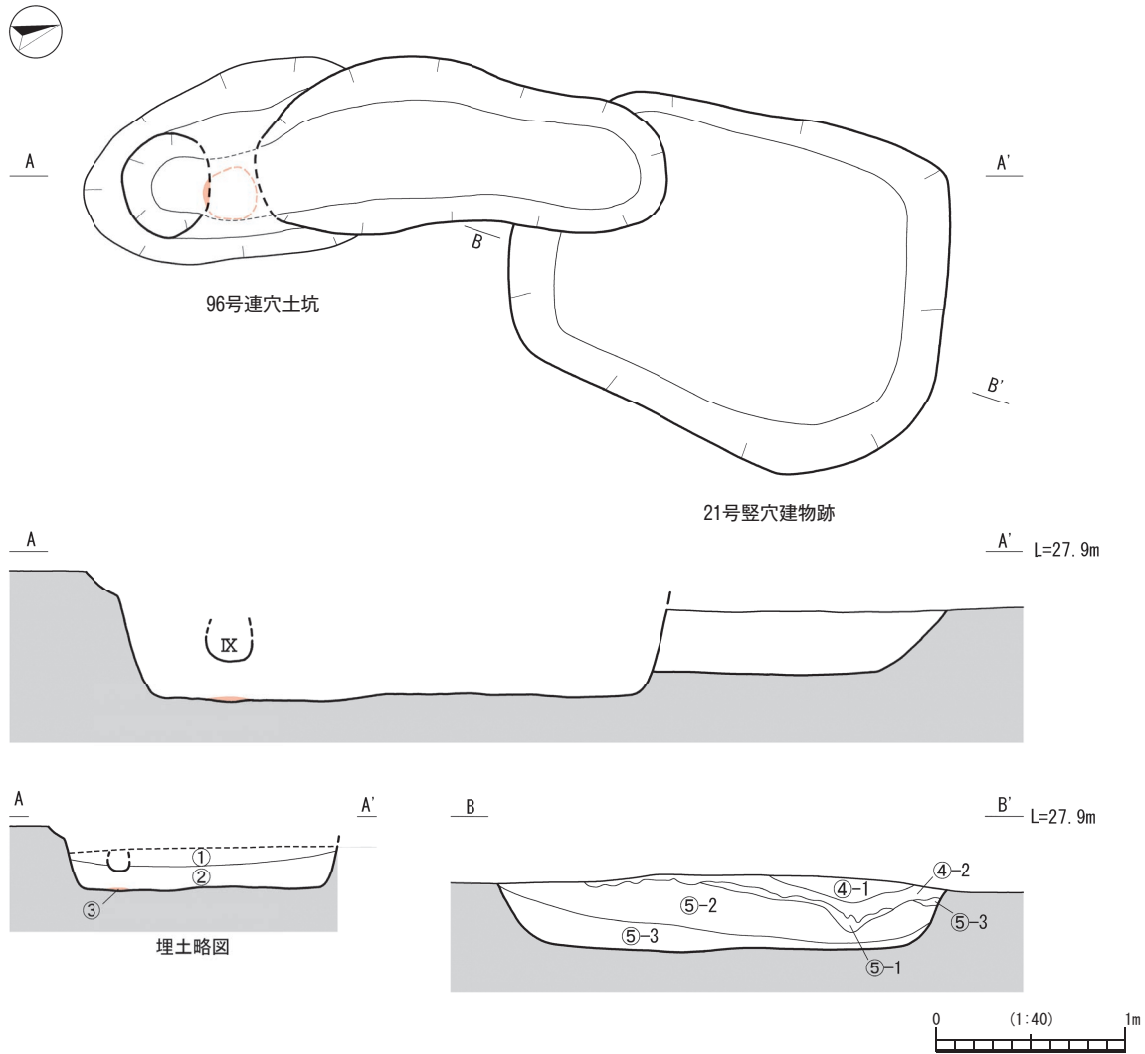
- ① 黒褐色砂質土 白色バミス多く含む 締まっている
- ② 灰黄褐色砂質土 ①層にXI層の茶褐色粘質土混じる
- ③ 暗褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層,黄橙色バミス,白色バミスを少量含む
- ④ 褐色粘質土 締まりやや有り 粘性強い XI層主体に黒褐色砂質シルトと白色バミス,炭化物を微量含む



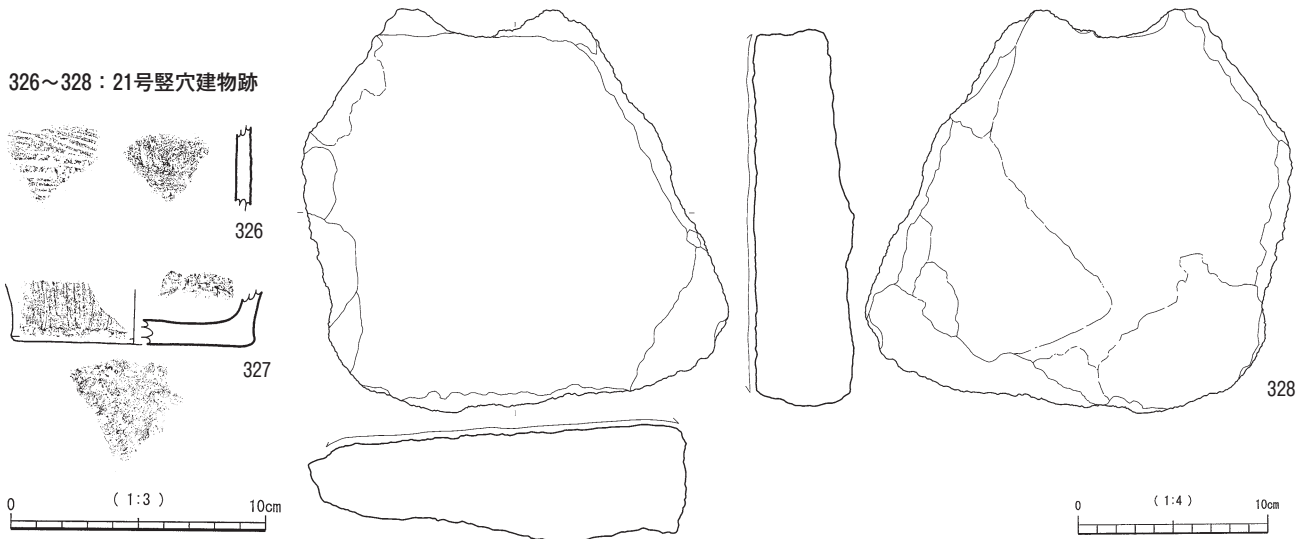
325
133号土坑



第209図 重複遺構37・重複遺構35, 37出土遺物

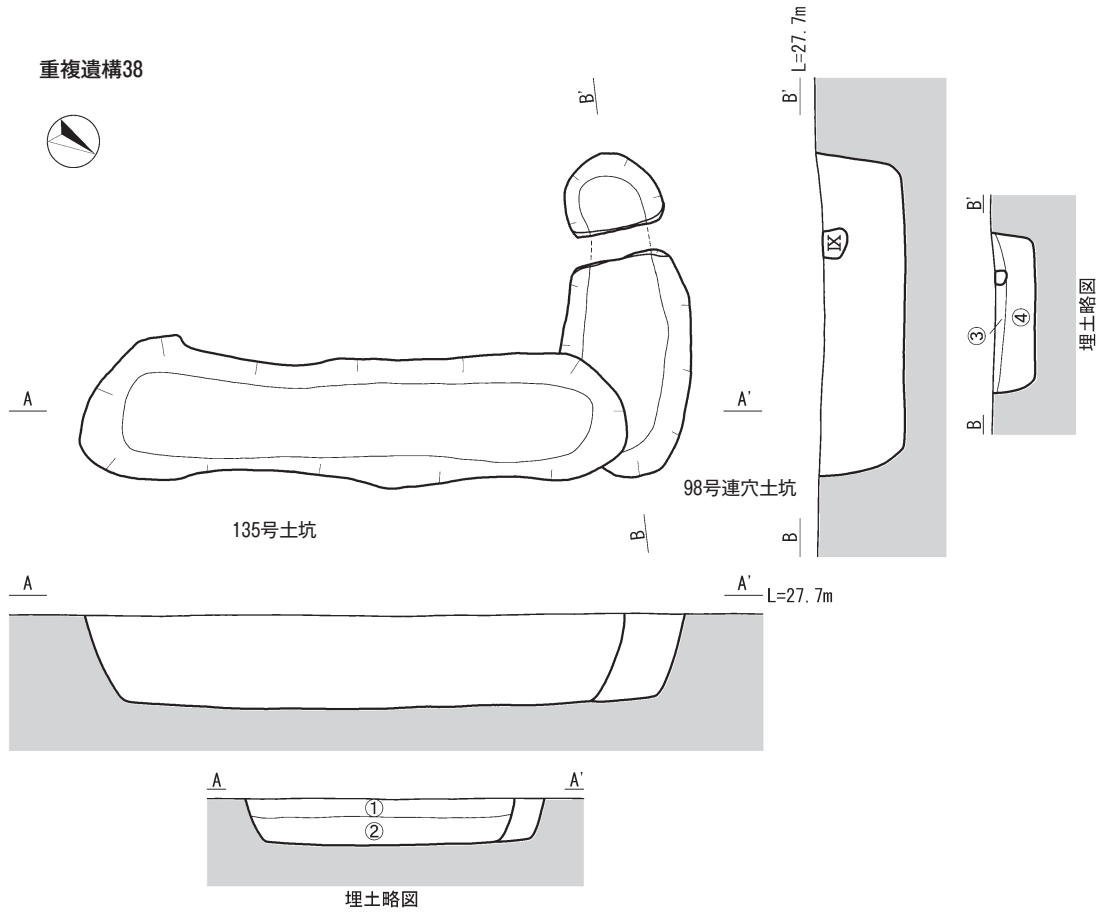


- ① 暗褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層と 黄橙色バミスを少量,白色バミスを微量含む
- ② にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黄橙色バミスと白色バミスを微量含む
- ③ 褐色粘質土 締まり弱い 粘性やや有り 焼土をブロック状に少量含む 燃烧部
- ④-1 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り 黄橙色バミス多量,白色バミス少量含む
- ④-2 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層中量,黄橙色バミス少量,白色バミス微量含む
- ⑤-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルトと白色バミスを少量含む
- ⑤-2 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルトを少量,黄橙色バミスと白色バミスを微量含む
- ⑤-3 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性強い XI層主体に黄橙色バミスと白色バミスを微量含む



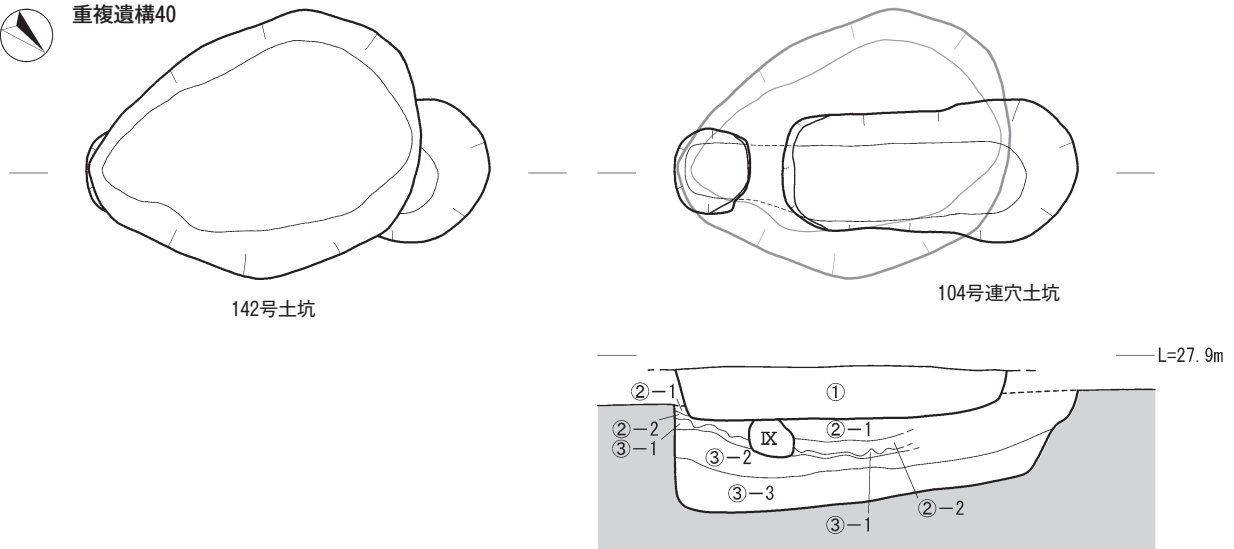
第210図 重複遺構36・出土遺物

重複遺構38



- ① 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層と黄橙色バミスを少量,白色バミスを微量含む
- ② 褐色粘質土 締まりやや有り 粘性強い XI層主体に黒褐色砂質シルトと黄橙色バミスを微量含む
- ③ 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層と白色バミス少量,黄橙色バミスと炭化物を微量含む
- ④ にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルト,白色バミス,炭化物を微量含む

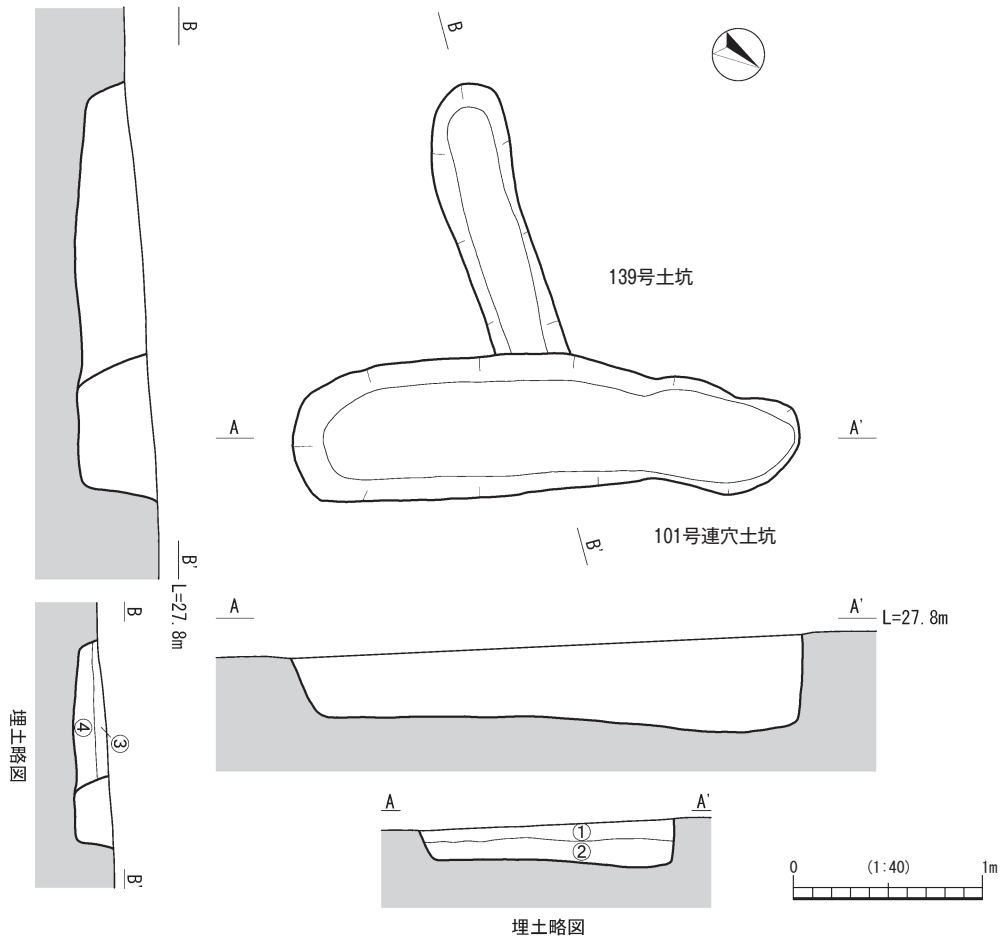
重複遺構40



- ① 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス多量 1mm大の白色バミス多量含む
- ②-1 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り 黄橙色バミス,白色バミスを中量,炭化物を微量含む
- ②-2 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層中量,黄橙色バミス,白色バミス少量,炭化物微量含む
- ③-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルト,白色バミスを微量含む
- ③-2 灰黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黄橙色バミス,白色バミスを微量含む
- ③-3 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に2~3cmの焼土ブロックと白色バミスを微量含む

遺構 0 (1:40) 1m

第211図 重複遺構38, 40



- ①黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層を少量,黄橙色バミスと白色バミスを少量含む
- ②にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に,黒褐色砂質シルトと炭化物を微量含む
- ③黒褐色土 締まり有り 粘性やや有り XI層少量,橙色バミスと炭化物を微量含む
- ④にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性強い XI層主体に,白色バミスと炭化物を微量含む

第212図 重複遺構39

状の貝殻文が重なる。

重複遺構50 (第222図)

E-38区X層で検出した。173号・174号土坑が重複しており、埋土の堆積状況等から、173号土坑が174号土坑の東端をわずかに切ると判断した。遺構内遺物と判断したものは、174号土坑から土器1点であり、図化した。

重複遺構51 (第223図)

E・F-38区X層で検出した。計7基の土坑及び集石が切り合いながら南北に広がる。埋土の堆積状況等から、集石が土坑を切ると判断した。また、土坑では180号土坑もしくは176号土坑が最も新しいと考えられるが、両遺構の新旧関係は不明である。180号土坑は床面から段を持って立ち上がり、深さが約60cmと他の土坑に比べ深い。遺構内遺物と判断したものは、180号土坑から土器3点、176号土坑から土器2点であり、そのうち180号土

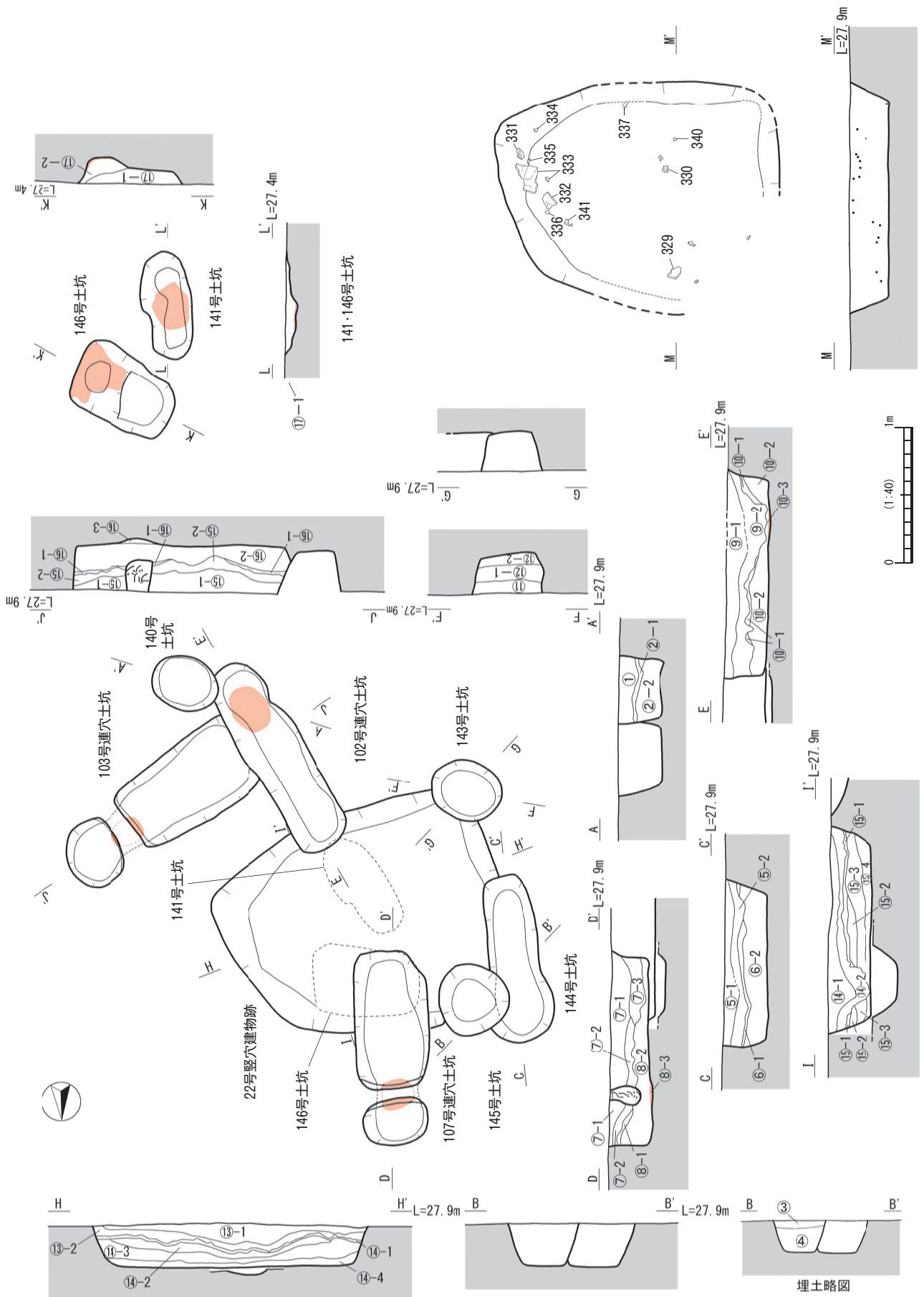
坑から土器1点、176号土坑から土器1点を図化した。

重複遺構52 (第222図)

F-37・38区X層で検出した。189号・190号土坑が重複しており、埋土の堆積状況等から、190号土坑が新しいと判断した。190号土坑は楕円形プランを呈し、床面がやや不安定である。189号土坑の埋土上部では礫が数点出土している。遺構内遺物と判断したものは、190号土坑から土器1点であり、図化した。

重複遺構53 (第224図)

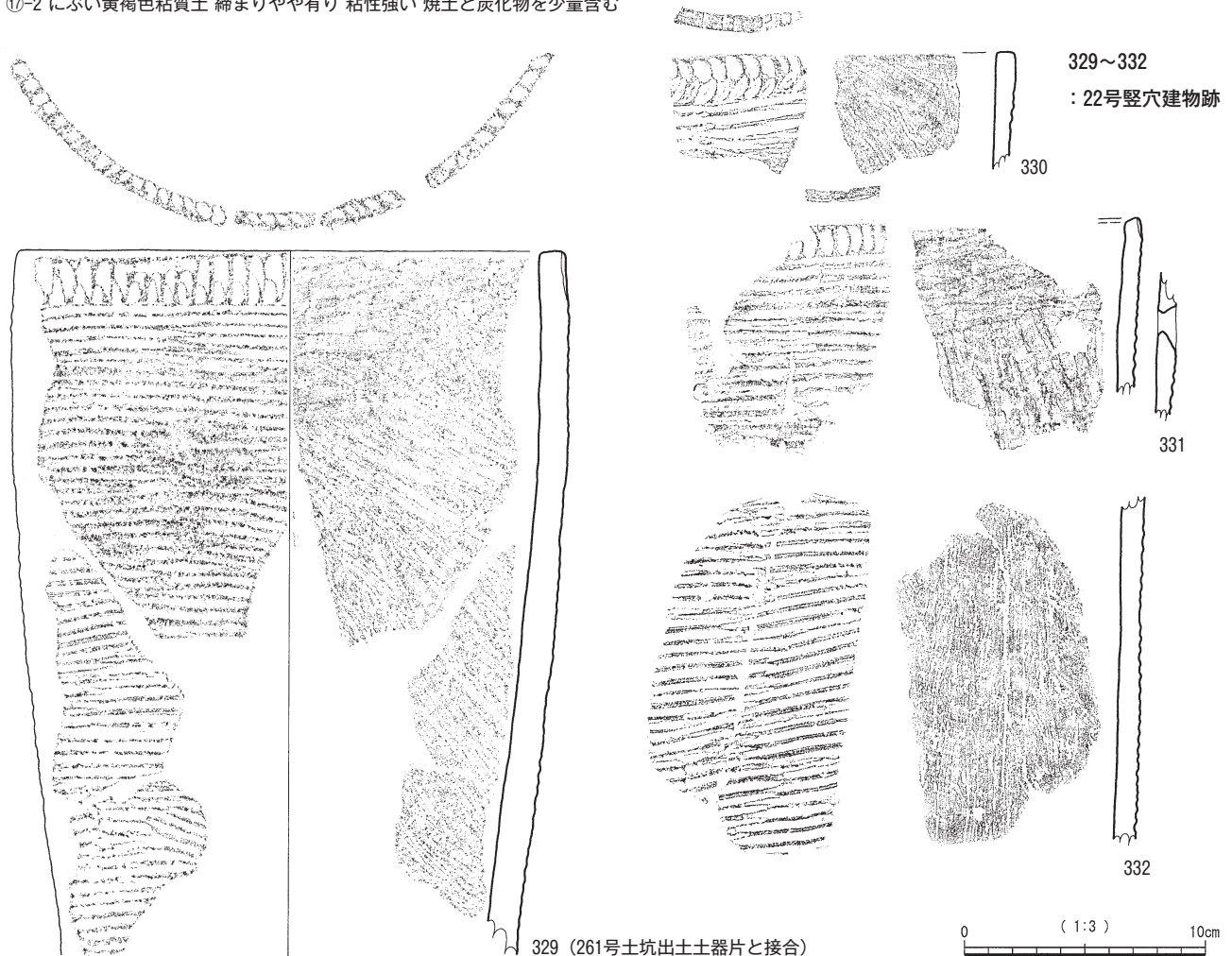
F-38区で検出され、195号土坑はX層、286号集石はVIII b層で検出された。埋土の堆積状況等から、286号集石が195号土坑の南端を切ると判断した。195号土坑は楕円形プランを呈し、床面がやや不安定である。遺構内遺物は確認できなかった。



22号竖穴建物跡 遺物出土状況

第213図 重複遺構41

- ① 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層,黄橙色バミス,白色バミス少量,炭化物を微量含む
- ②-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルト,焼土を微量含む
- ②-2 灰黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に白色バミス,炭化物を微量含む
- ③ 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層,白色バミス少量,黄橙色バミス微量含む
- ④ 灰黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り 黒褐色砂質土,白色バミス,炭化物微量含む
- ⑤-1 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り 白色バミスを中量,黄橙色バミスと炭化物を微量含む
- ⑤-2 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層,白色バミスを少量,黄橙色バミスと炭化物を微量含む
- ⑥-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルト,黄橙色バミス,白色バミス,炭化物を微量含む
- ⑥-2 暗褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黄橙色バミス,白色バミス,炭化物を微量含む
- ⑦-1 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り 白色バミス中量,黄橙色バミスを少量含む
- ⑦-2 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層中量,白色バミス少量,黄橙色バミスを微量含む
- ⑦-3 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層少量,白色バミス,炭化物を微量含む
- ⑧-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に白色バミス,炭化物を微量含む
- ⑧-2 暗褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルト,白色バミス,焼土を微量含む
- ⑧-3 褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に焼土と炭化物を少量含む
- ⑨-1 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り 黄橙色バミス,白色バミス中量,炭化物を微量含む
- ⑨-2 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層中量,黄橙色バミス,白色バミスを少量,炭化物を微量含む
- ⑩-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルトと白色バミスを微量含む
- ⑩-2 暗褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黄橙色バミス,白色バミス,焼土を微量含む
- ⑩-3 褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に焼土と炭化物を微量含む
- ⑪ 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層,黄橙色バミスを少量,黄橙色バミスを微量含む
- ⑫-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルト,白色バミス,焼土を微量含む
- ⑫-2 灰黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黄橙色バミス,白色バミスを微量含む
- ⑬-1 黒褐色砂質シルト 締まり強い 粘性やや有り 白色バミス中量,黄橙色バミス少量含む
- ⑬-2 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層,白色バミスを少量,黄橙色バミスを微量含む
- ⑭-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルトと白色バミスを少量含む
- ⑭-2 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルトを少量,白色バミスを微量含む
- ⑭-3 灰黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性強い XI層主体に白色バミス少量,炭化物を微量含む
- ⑭-4 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性強い XI層主体に白色バミス,焼土,炭化物を微量含む
- ⑮-1 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り 黄橙色バミス,白色バミス中量,炭化物を微量含む
- ⑮-2 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層中量,黄橙色バミス,白色バミスを微量含む
- ⑯-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に,黒褐色砂質土と白色バミスを微量含む
- ⑯-2 灰黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質土,白色バミス,炭化物,焼土を微量含む
- ⑯-3 褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に焼土を少量含む
- ⑰-1 灰黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り 白色バミス,焼土を微量含む
- ⑰-2 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性強い 焼土と炭化物を少量含む



第214図 重複遺構41出土遺物①

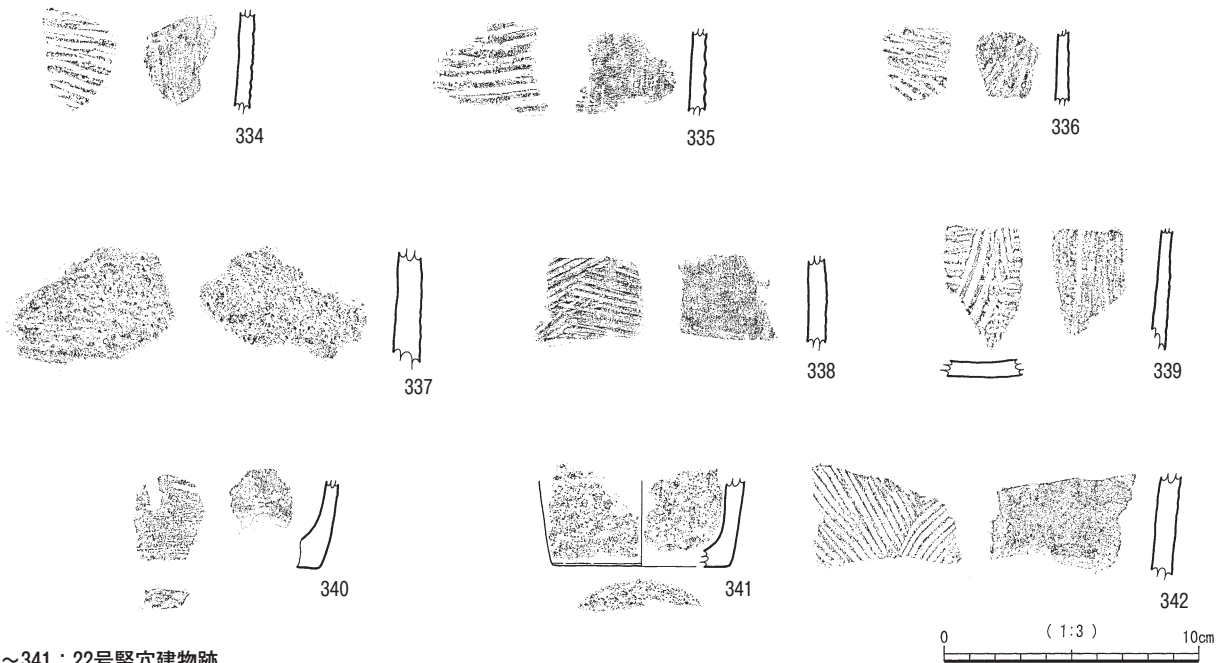


333

333 : 22号竖穴建物跡

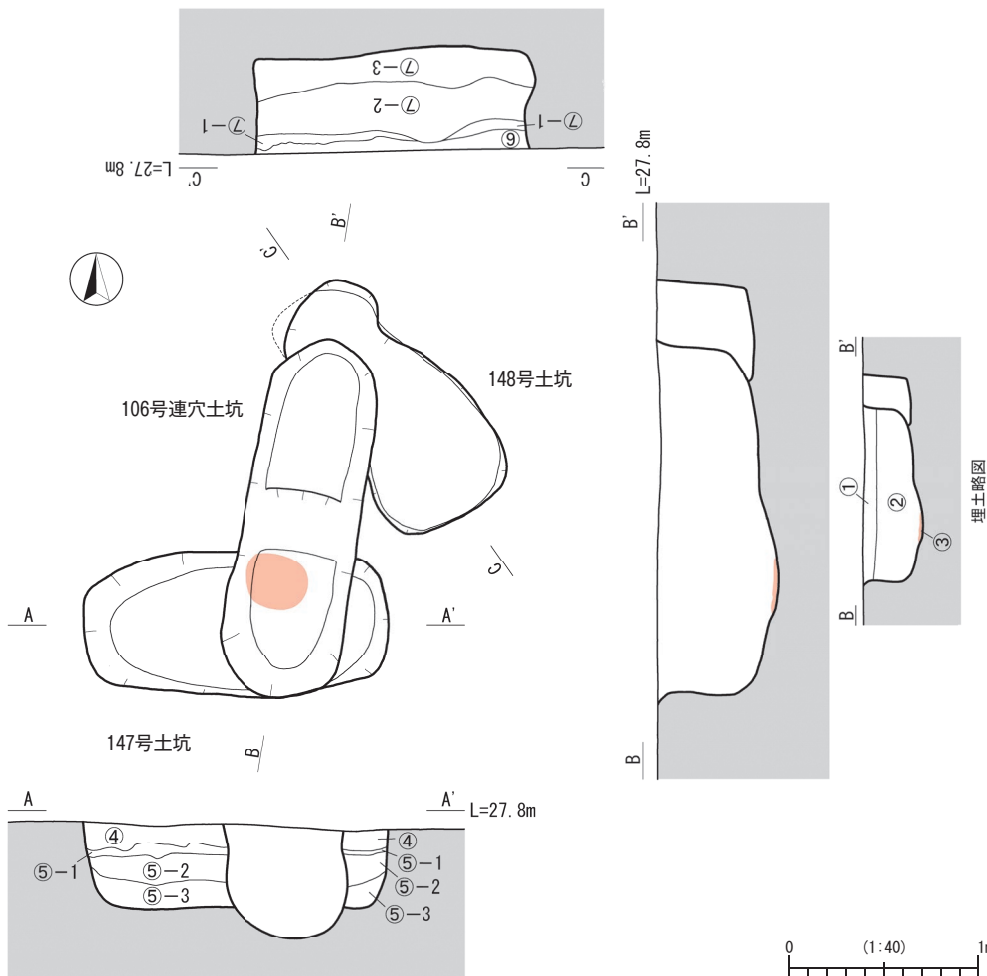
0 (1:3) 10cm

第215図 重複遺構41出土遺物②



334~341 : 22号竖穴建物跡

342 : 102号連穴土坑



- ① 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層,黄橙色バミス,白色バミスを少量含む
- ② にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルトと白色バミスを少量,黄橙色バミスと炭化物を微量含む
- ③ 焼土範囲
- ④ 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層,黄橙色バミス,白色バミスを少量含む
- ⑤-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黄橙色バミス,白色バミスを微量含む
- ⑤-2 灰黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に白色バミス少量,黄橙色バミスを微量含む
- ⑤-3 暗褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黄橙色バミス,白色バミスを微量含む
- ⑥ 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り 白色バミス中量,黄橙色バミス,炭化物を少量含む
- ⑦-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルトを少量,黄橙色バミス,白色バミス,炭化物を微量含む
- ⑦-2 灰黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黄橙色バミス,白色バミス,炭化物を微量含む
- ⑦-3 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黄橙色バミス,白色バミスを微量含む

第216図 重複遺構41出土遺物③・重複遺構42

- ①黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層を少量,黄橙色バミス,白色バミス,炭化物を微量含む
- ②にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に,黄橙色バミス,焼土,炭化物を微量含む
- ③褐色粘質土 締まりやや有り 粘性やや有り 焼土をブロック状に,炭化物を少量含む
- ④-1 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層 白色バミスを少量,黄橙色バミス,炭化物を微量含む
- ④-2 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層多量,白色バミス少量,黄橙色バミスを微量含む
- ⑤-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に白色バミスと炭化物を微量含む
- ⑤-2 灰黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に白色バミスを微量含む
- ⑥-1 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り 黄橙色バミス,白色バミス,炭化物を微量含む
- ⑥-2 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層少量,黄橙色バミス,白色バミスを微量含む
- ⑦-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に白色バミスを微量含む
- ⑦-2 灰黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黄橙色バミスと白色バミスを微量含む
- ⑧-1 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り 白色バミス中量,XI層と黄橙色バミスを少量,炭化物を微量含む
- ⑧-2 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層中量,白色バミスを少量,黄橙色バミスと炭化物を微量含む
- ⑧-3 灰黄褐色 薩摩火山灰層 締まり強い 粘性弱い
- ⑧-4 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層中量,黄橙色バミス,白色バミス,焼土,炭化物を微量含む
- ⑨-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルトと白色バミスを微量含む
- ⑨-2 暗褐色砂質シルト 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に,黄橙色バミスと白色バミス,焼土を微量含む
- ⑨-3 褐色砂質シルト 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に,焼土を少量と炭化物を微量含む
- ⑩黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層と白色バミスを少量,黄橙色バミス微量含む
- ⑪灰黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に,白色バミスと炭化物を微量含む
- ⑫暗褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層を少量,黄橙色バミスと白色バミス微量含む
- ⑬にぶい黄褐色砂質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルトと焼土を微量含む
- ⑭褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り 焼土をブロック状に含む
- ⑮黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層中量,黄橙色バミスと白色バミスを微量含む
- ⑯-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に,黒褐色砂質シルトと白色バミスを微量含む
- ⑯-2 灰黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に,黄橙色バミスと白色バミスを微量含む
- ⑯-3 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に,黄橙色バミスと白色バミスを微量含む

重複遺構54 (第224図)

G-38区で検出され, 196号土坑はX層, 288号集石はIX層で検出された。埋土の堆積状況等から, 288号集石が196号土坑の東側を切ると判断した。288号集石は196号土坑よりわずかに上面で検出できた。一連の遺構である可能性も考えられたが, 196号土坑の埋土には288号集石と比べて炭化物等が少なかったため, 重複遺構として取り扱った。遺構内遺物と判断したものは, 196号土坑から土器1点であり, 図化した。

重複遺構55 (第225図)

F-38区で検出され, 192号土坑, 283号・299号・300号集石はⅧb層, 191号・193号土坑はX層で検出した。土坑と集石が重複しており, 土坑は南北に, 集石は東西に広がる。遺構内遺物は確認できなかった。

重複遺構56 (第226図)

F-39区X層で検出した。204号・205号土坑が重複している。埋土の堆積状況等から, 205号土坑が204号土坑の西側を切ると判断した。いずれも楕円形プランを呈する。205号土坑の床面は安定しない。遺構内遺物と判断したものは, 205号土坑から土器2点であり, これらを図化した。357は口唇部が平坦でキザミが施され, 口縁部にはキザミが2段施されている。器面には離れた位置で補修孔が2カ所確認できる。いずれも縦長の擦り切り穿孔と思われる。

重複遺構57 (第227図)

E・F-39区X層で検出した。土坑4基と集石1基が

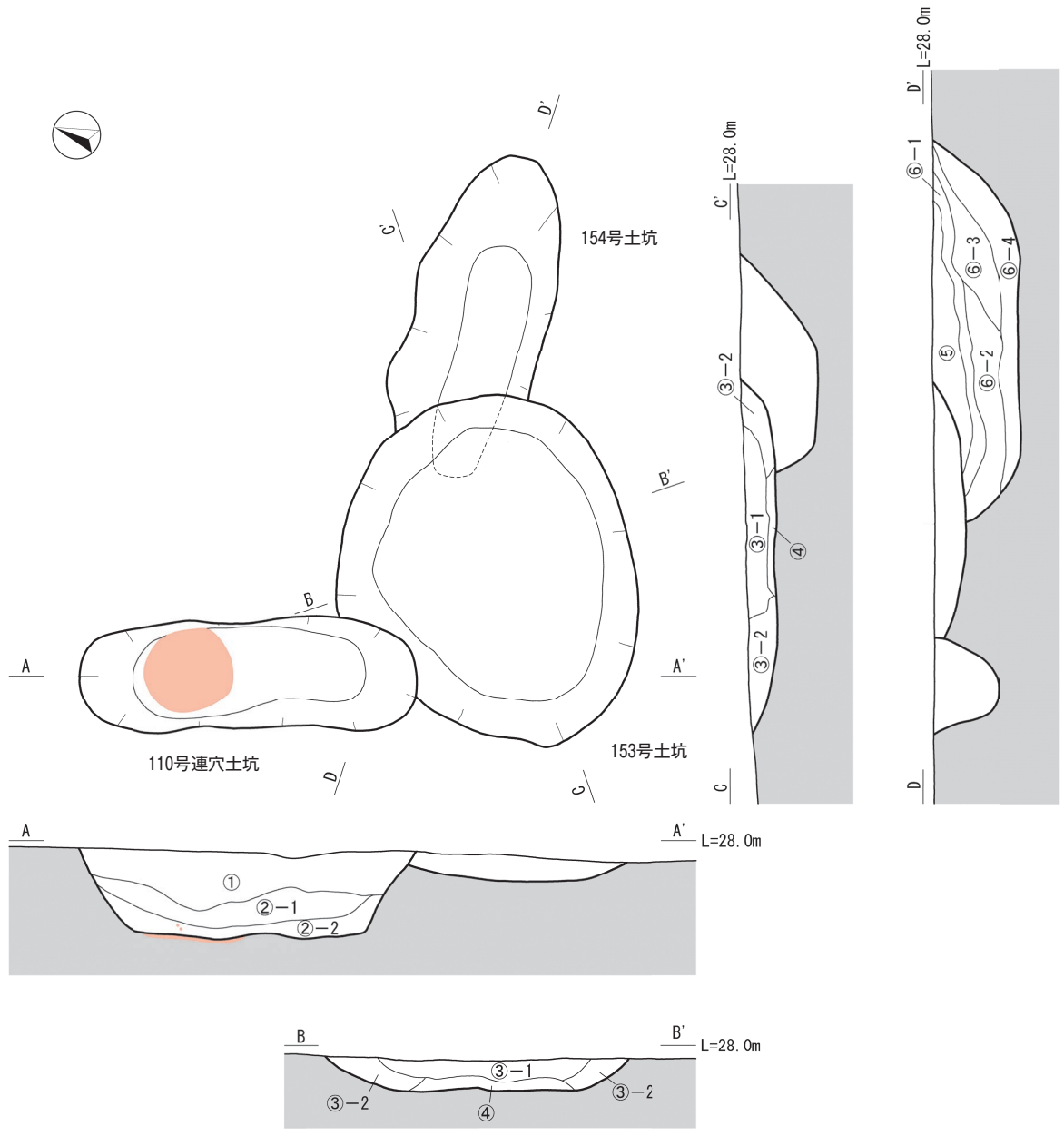
重複しており, 305号集石及び211号土坑にかけ噴砂が見られる。209号・211号土坑は発掘調査段階の位置情報を元に整理作業で復元したものである。209号土坑は円形プラン, 211号・212号土坑は楕円形プランを呈し, 210号土坑は東側が極端にすぼまるため不定形プランとした。また, 211号土坑の南東には215号土坑が隣接しており, 噴砂は215号土坑にも広がる。遺構内遺物は確認できなかった。

重複遺構58 (第227図)

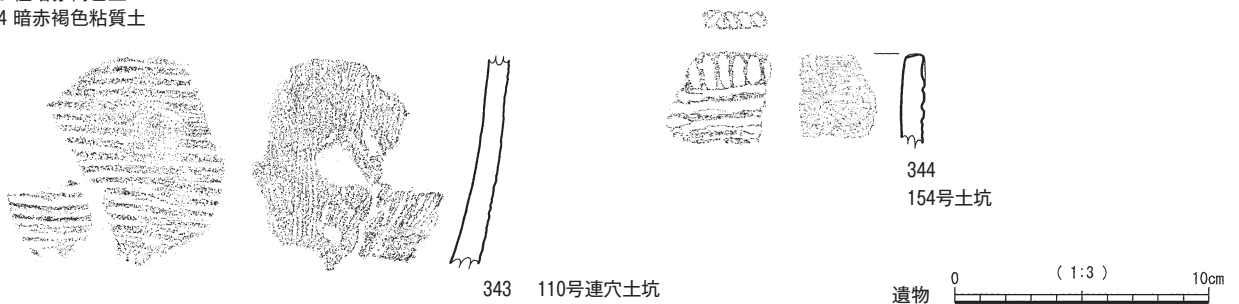
E-39区X層で検出した。214号土坑, 307号・308号集石が重複している。214号土坑の北側掘り込み内を308号集石に, 南側を307号集石に切られている。308号集石と214号土坑の重複は整理作業で把握及び復元し, 307号集石との関係は発掘調査段階の位置情報を元に整理作業で復元したものである。214号土坑は略円形プランで, 床から壁面の立ち上がりは緩やかである。埋土や形状が, 29号竪穴建物跡や28号竪穴建物跡, 333号土坑に類似する。遺構内遺物と判断したものは, 214号土坑から土器3点であり, そのうち土器1点を図化した。

重複遺構59 (第228図)

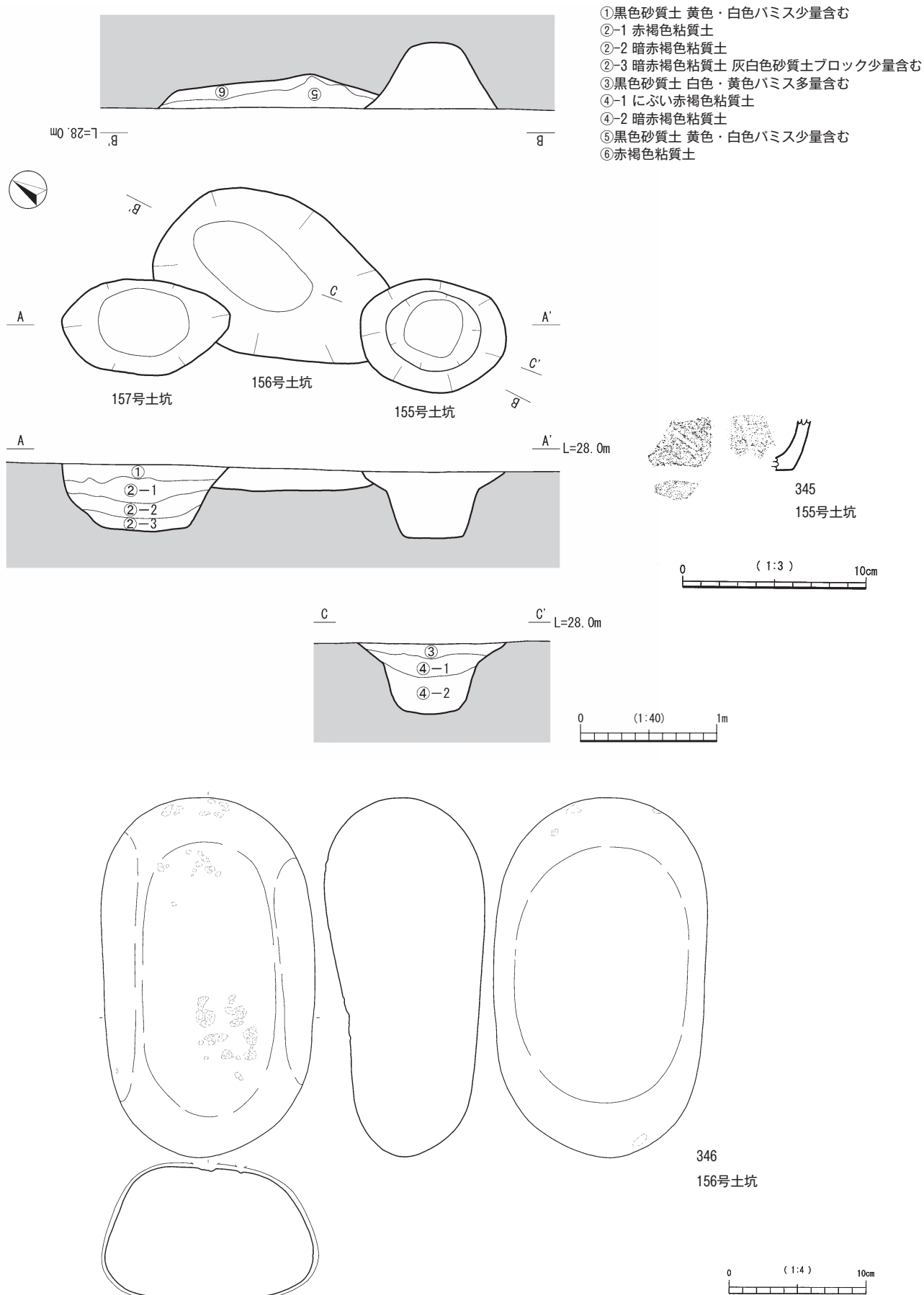
E-39区X層で検出した。218号・219号・220号・221号土坑が南北に広がって重複しており, 発掘調査段階の位置情報を元に整理作業で復元した。埋土の堆積状況等から, 219号土坑と221号土坑が新しいと判断したが, 両土坑の新旧関係は不明である。遺構内遺物と判断したものは, 221号土坑から土器2点であり, 全て図化した。



- ① 黒色砂質土 黄色・白色パミス少量含む,炭化物粒少量含む
- ②-1 赤褐色粘質土
- ②-2 にぶい赤褐色粘質土 焼土粒少量含む
- ③-1 黒色砂質土 黄色・白色パミス多量含む
- ③-2 黒色砂質土 黄色・白色パミス多量含む,炭化物粒少量含む
- ④ 明赤褐色粘質土
- ⑤ 黒色砂質土 黄色・白色パミス多量含む
- ⑥-1 にぶい赤褐色粘質土
- ⑥-2 赤褐色粘質土
- ⑥-3 極暗赤褐色土
- ⑥-4 暗赤褐色粘質土

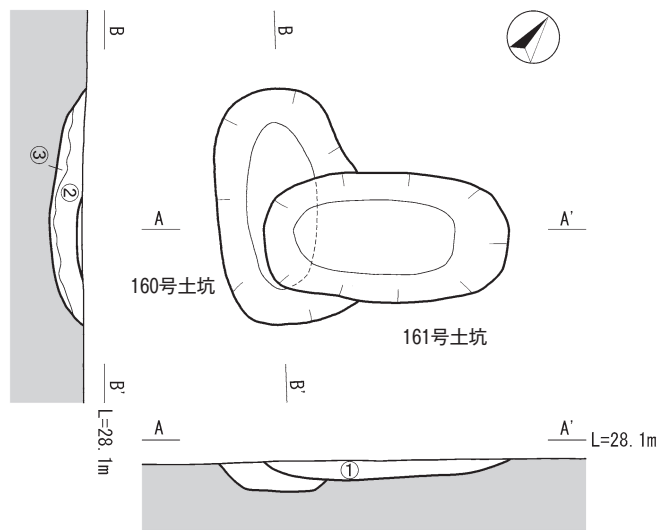


第218図 重複遺構44・出土遺物



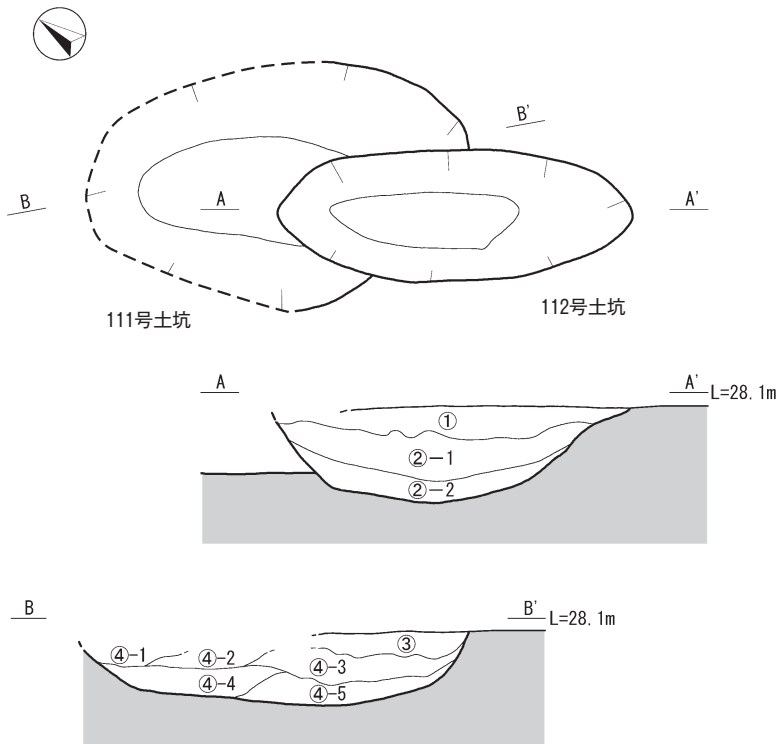
第219図 重複遺構45・出土遺物

重複遺構46



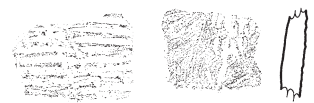
- ① 黒色砂質土 黄色・白色パミス多量含む
- ② 黒色砂質土 黄色・白色パミス多量含む
- ③ 赤褐色粘質土

重複遺構47



- ① 黒色砂質土 黄色・白色パミス微量含む
- ②-1 赤褐色粘質土
- ②-2 赤褐色粘質土 灰白色砂質土ブロック多量含む
- ③ 黒色砂質土 黄色・白色パミス多量含む
- ④-1 赤褐色粘質土
- ④-2 赤褐色粘質土 黒色砂質土少量含む
- ④-3 赤褐色粘質土 黒色砂質土多量含む
- ④-4 にぶい赤褐色粘質土
- ④-5 にぶい赤褐色粘質土

遺構 0 (1:40) 1m

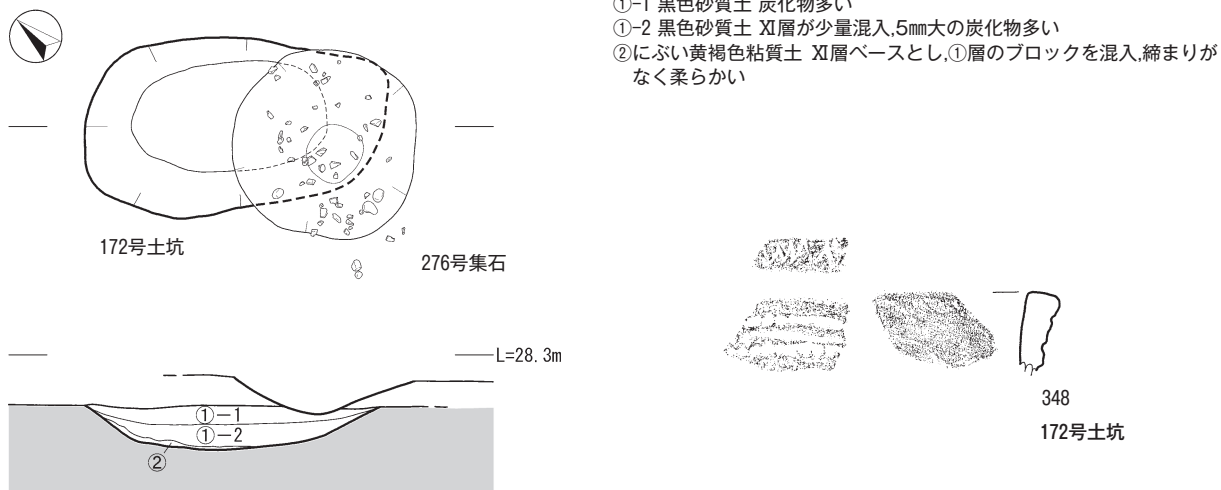


347
112号土坑

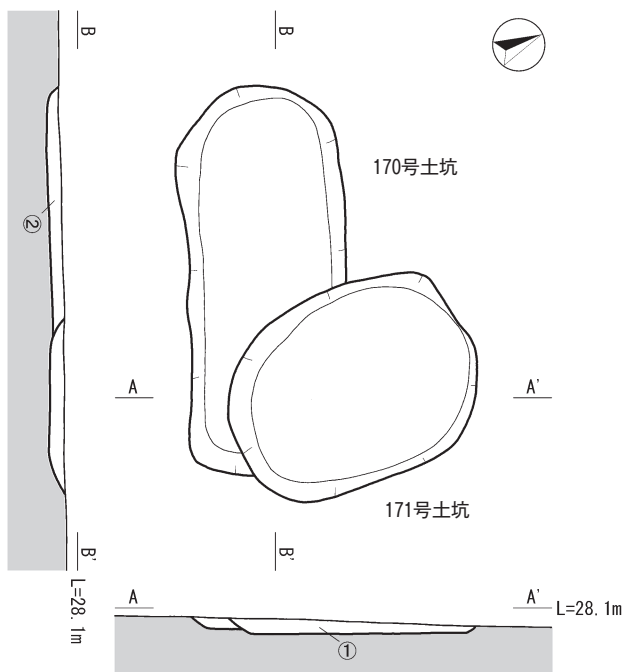
0 (1:3) 10cm

第220図 重複遺構46, 47・重複遺構47出土遺物

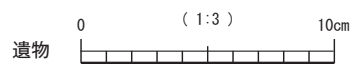
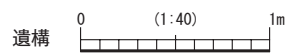
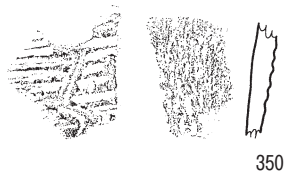
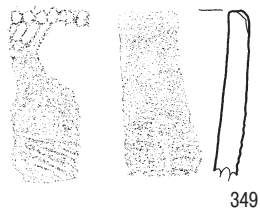
重複遺構48



重複遺構49

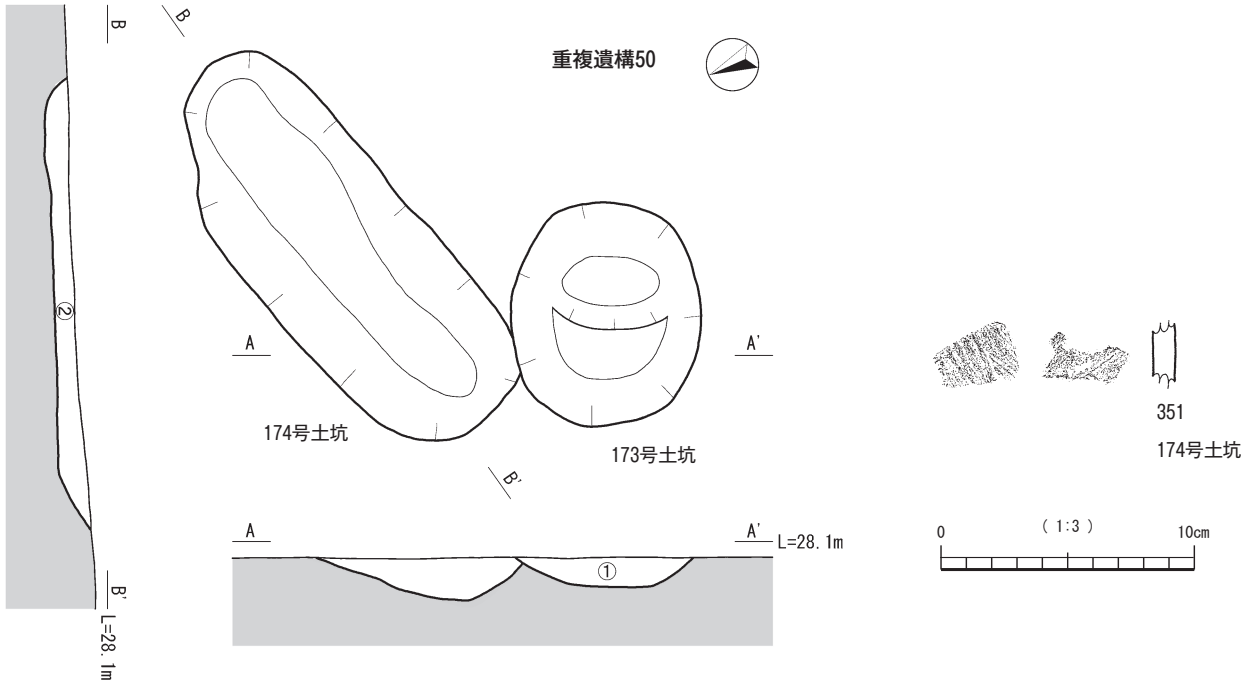


- ①黒褐色砂質土 白色バミス多く含む
- ②黒色砂質土 締まりやや強い 粘性やや弱い 1~3mm大の黄色バミス微量,1mm以下の白色バミス中量,ブロック状にXI層含む

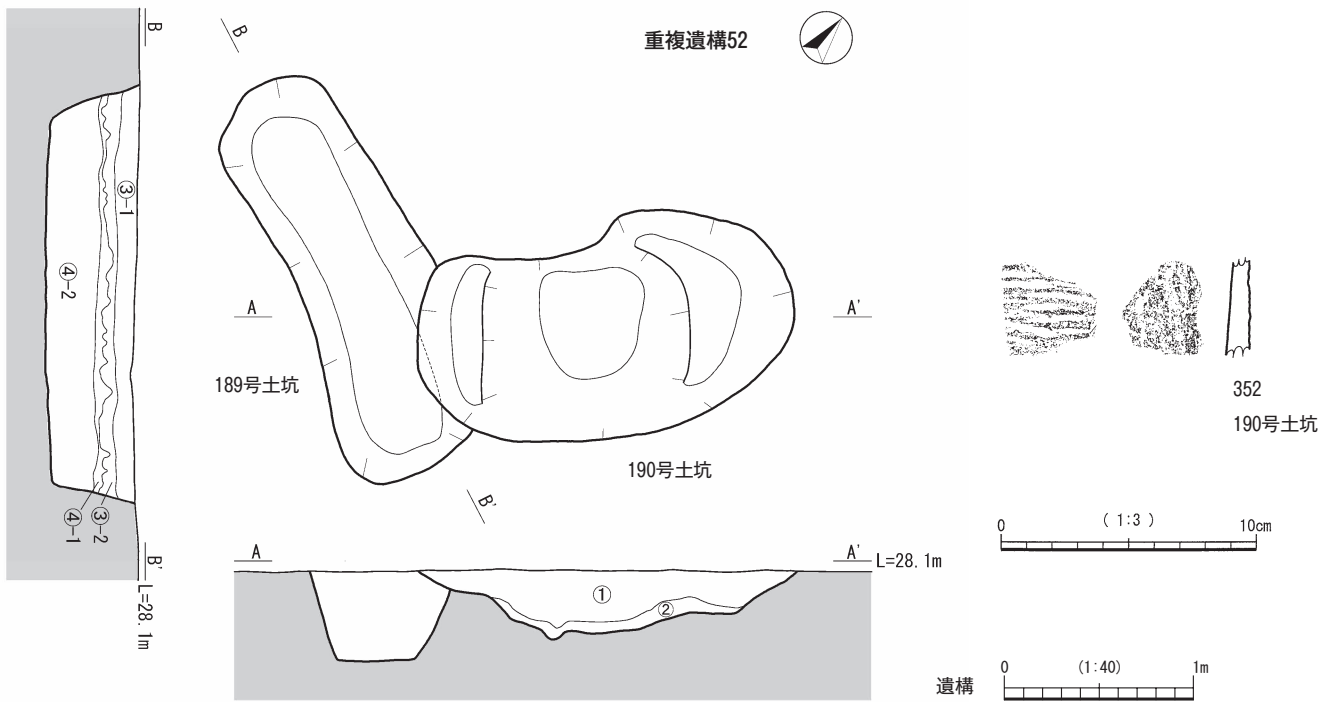


349・350 : 171号土坑

第221図 重複遺構48, 49・出土遺物

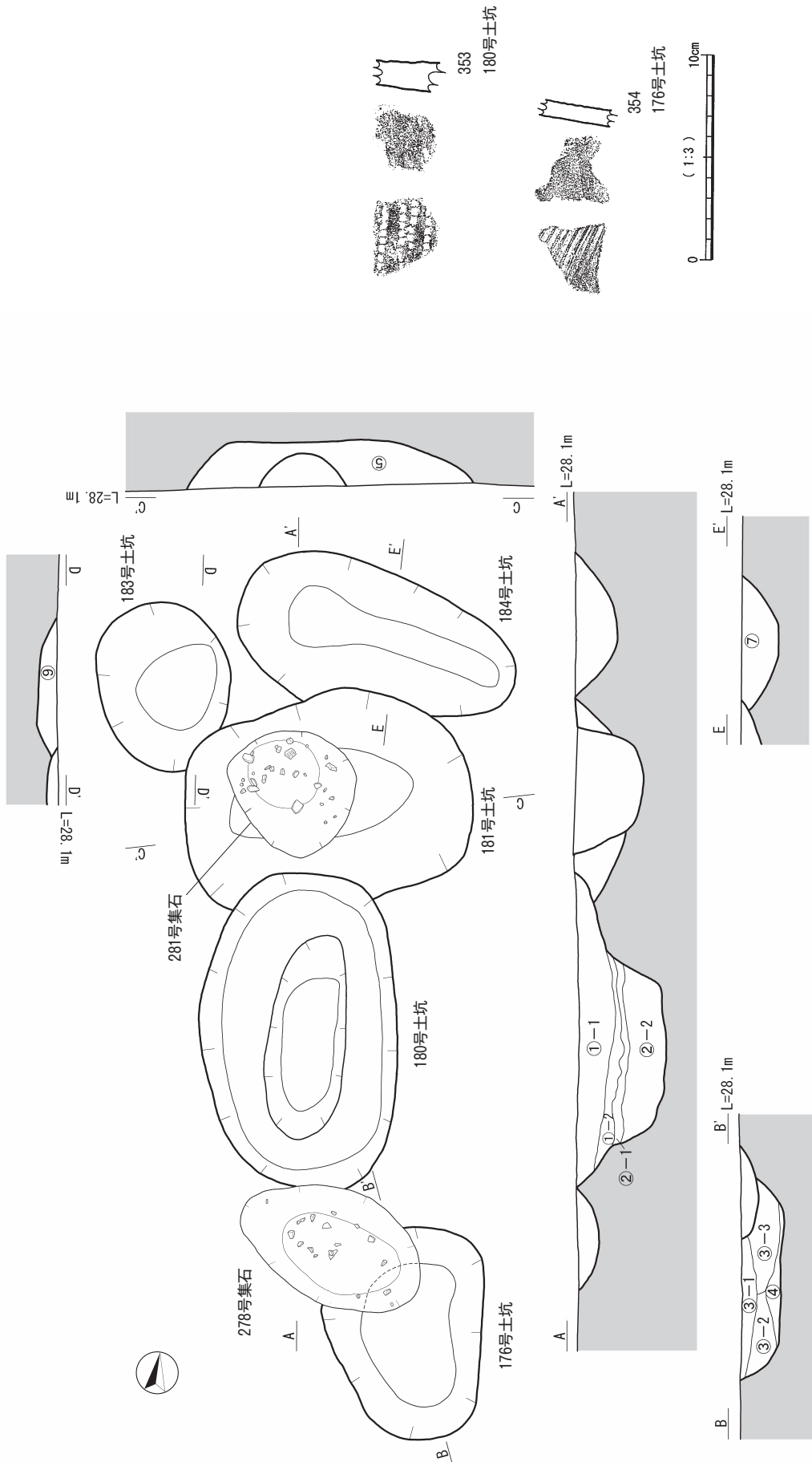


- ① 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性弱い 1~3mm大の黄色バミス少量,1mm以下の白色バミス中量含む
- ② 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性弱い 1~3mm大の黄色バミス微量,1mm以下の白色バミス中量 炭化物微量含む



- ① 黒褐色砂質土 白色・黄色バミス多量に含む
- ② にぶい黄褐色粘質土 ①層がわずかに混在
- ③-1 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り 白色バミス中量,5cmの礫,黄橙色バミス,炭化物を微量含む
- ③-2 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層中量,白色バミス少量,黄橙色バミス,炭化物を微量含む
- ④-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に,白色バミスと炭化物を微量含む
- ④-2 灰黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に,黄橙色バミスと白色バミスを微量含む

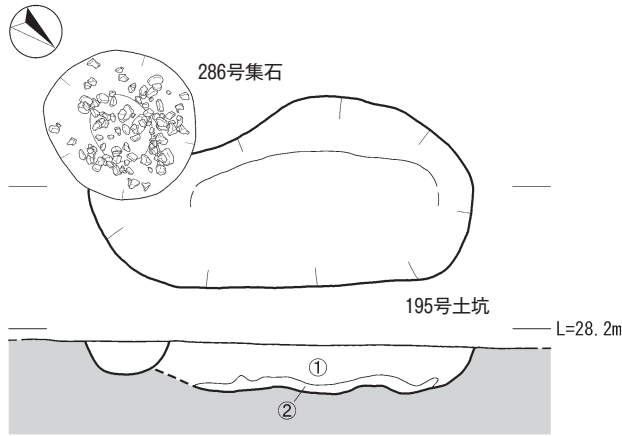
第222図 重複遺構50, 52・出土遺物



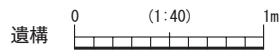
- ①-1 黒褐色砂質土 締まり強い 粘性弱い 1~3mm大の黄色バミス中量, 1mm以下の白色バミス多量, 炭化物を含む
- ①-2 黒褐色砂質土 締まりやや強い 粘性弱い 1~3mm大の黄色バミス少量, 1mm以下の白色バミス中量, フロック状に双層を含む
- ②-1 暗褐色粘質土 締まり弱い 粘性有り 1mm以下の黄色・白色バミス微量含む
- ②-2 暗褐色粘質土 締まり弱い 粘性やや強い 1mm以下の黄色・白色バミス微量含む ②-1に比べ粘性が増す
- ③-1 黒褐色砂質土 締まりやや強い 粘性弱い 1~3mm大の黄色バミス中量, 1~3mm大の白色バミス中量含む
- ③-2 黒褐色砂質土 締まりやや強い 粘性弱い 1~3mm大の黄色バミス微量, 1~3mm大の白色バミス少量, 炭化物微量含む
- ③-3 黒褐色砂質土 締まり有り 粘性弱い 3~5mm大の黄色バミス中量, 1~3mm大の白色バミス少量含む
- ④ 極暗色粘質土 締まりやや弱い 粘性有り 1mm大の白色バミス微量含む
- ⑤ 黒褐色砂質土 締まり強い 粘性弱い 3~5mm大の黄色バミス少量, 1mm以下の白色バミス中量, 炭化物微量含む
- ⑥ 黒褐色砂質土 締まり強い 粘性弱い 1~3mm大の黄色バミス少量, 1mm以下の白色バミス多量, 炭化物微量含む
- ⑦ 黒褐色砂質土 締まり強い 粘性弱い 1~3mm大の黄色バミス多量, 1mm以下の白色バミス多量, フロック状に双層含む

第223図 重複遺構51・出土遺物

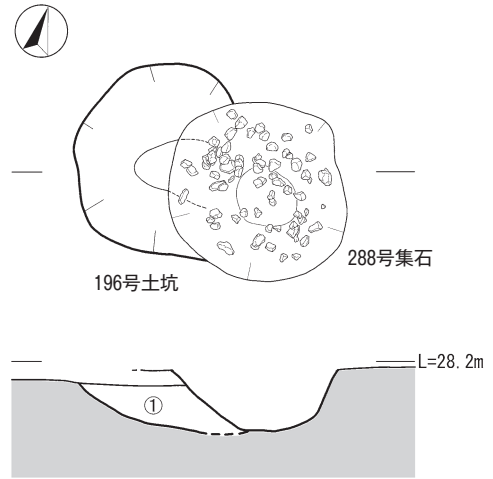
重複遺構53



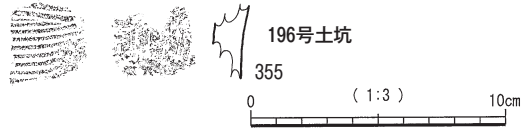
- ①黒褐色砂質土 白色・黄色パミス多量に含む
- ②黒褐色砂質土 黄褐色粘質土のブロック混じり



重複遺構54



- ①黒褐色砂質土 締まり強い 粘性弱い 1~3mm大の黄色パミス中量, 1mm以下の白色パミス多量,炭化物微量含む



第224図 重複遺構53, 54・重複遺構54出土遺物

重複遺構60 (第229図)

E-39区X層で検出した。224号土坑と317号集石とが重複している。317号集石が224号土坑の東端を切る。224号土坑は浅い楕円形プランで、埋土は単一層であった。遺構内遺物は確認できなかった。

重複遺構61 (第229図)

D・E-39区X層で検出した。226号・227号土坑が重複している。227号土坑は、226号土坑を直角方向に切り、検出面から床面までが約70cmと深い。遺構内遺物と判断したものは、227号土坑から土器2点であり、全て図化した。361は均一な器壁で横位の山形押型文が施される。部分的に無文帯を形成しているが、ナデにより無文となっている可能性がある。

重複遺構62 (第230図)

D-39区X層で検出した。23号堅穴建物跡と331号土坑とが重複している。331号土坑が23号堅穴建物跡の南東端を切る。23号堅穴建物跡は隅丸方形プランで検出面から底面までが約20cm程度で、床面は平坦で、焼土や柱穴等の付属施設に関係するものは確認出来なかった。331号土坑は楕円形プランで単一埋土であった。遺構内遺物と判断したものは、23号堅穴建物跡から土器7点であり、そのうち土器5点を図化した。364は、やや粗めの貝殻条痕文である。366は胎土に雲母を含む。

重複遺構63 (第231図)

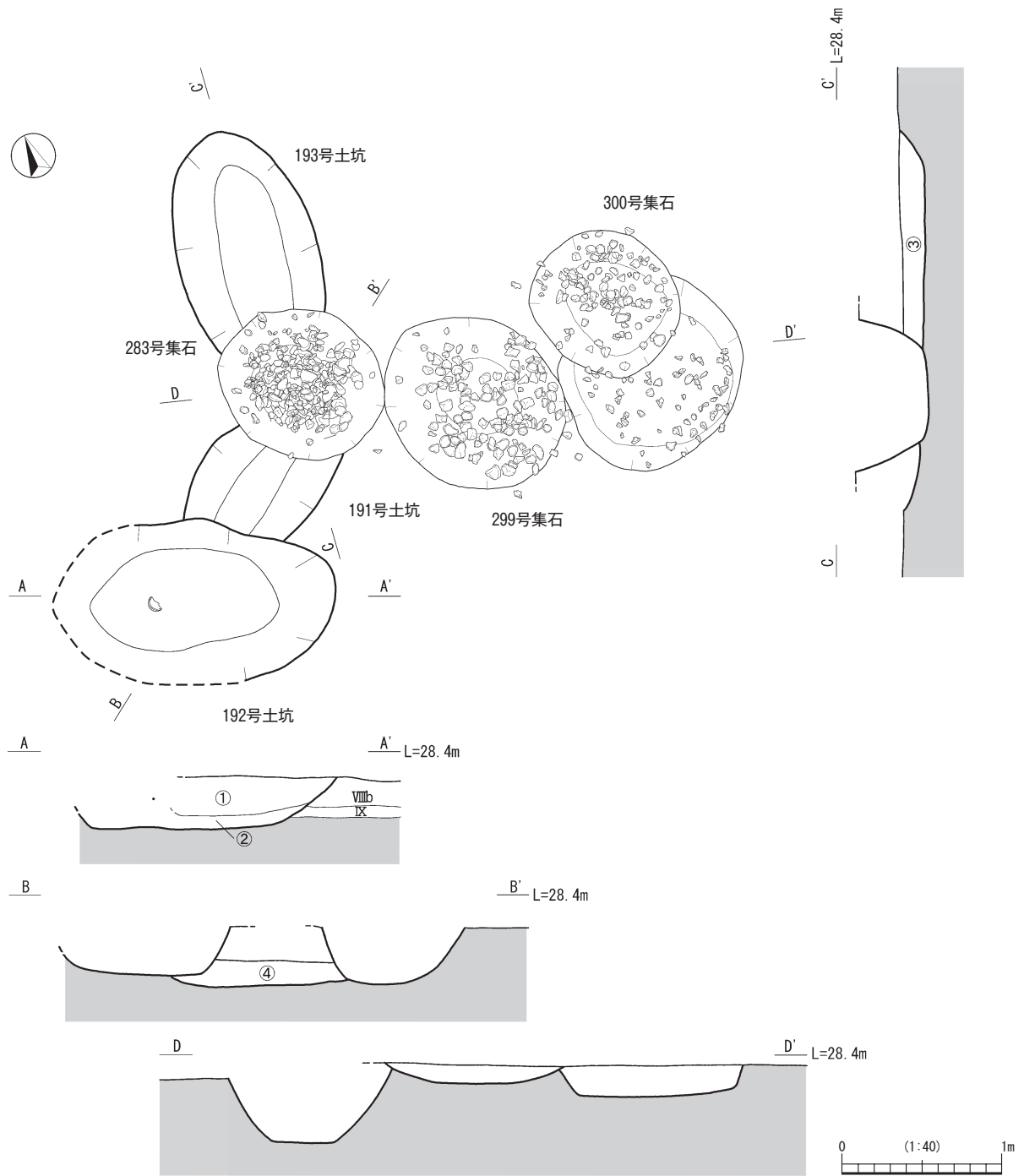
D-39区X層で検出した。231号土坑と327号集石が重複している。231号土坑が327号集石の東側を切る。231号土坑は検出面から底面までが約70cmと深い。当初は231号土坑の北東部分に色調の違う箇所があり、遺構の切り合いを想定して調査したが、遺構では無いことが確認され、最終的に長軸が約190cm、短軸が約100cmの大型の楕円形プランと判断した。遺構内遺物は確認できなかった。

重複遺構64 (第231図)

D-39区X層で検出した。232号・233号土坑が重複している。いずれも楕円形プランの土坑で、232号土坑が233号土坑を直角方向に切る。232号土坑は検出面から底面までが約60cmと深い。西側が若干すぼまる印象を受け、連穴土坑のブリッジが消失したものである可能性も考えられたが、床面からは焼土や炭化物等は確認出来なかったため、土坑として取り扱った。遺構内遺物と判断したものは、232号土坑から土器2点、233号土坑から土器1点であり、そのうち232号土坑から土器1点、233号土坑から土器1点を図化した。368は口唇部が平坦でキザミが施され、口縁部には1段のキザミが施される。胴部は横位の貝殻条痕文で、内面はケズリの後ナデが施される。

重複遺構65 (第232図)

D-39・40区のX層で検出した。235号・236号土坑、



- ① 黒色砂質土 締まり強い 粘性弱い 1~3mm大の黄色バミス少量,1mm以下の白色バミス中量含む
- ② 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性弱い 1~3mm大の黄色バミス微量,1mm以下の白色バミス微量含む
- ③ 黒褐色砂質土 締まり強い 粘性弱い 1~3mm大の黄色バミス少量,1mm以下の白色バミス中量,ブロック状にXI層含む,炭化物微量含む
- ④ 黒褐色砂質土 締まり強い 粘性弱い 1~3mm大の黄色バミス少量,1mm以下の白色バミス多量,炭化物微量含む

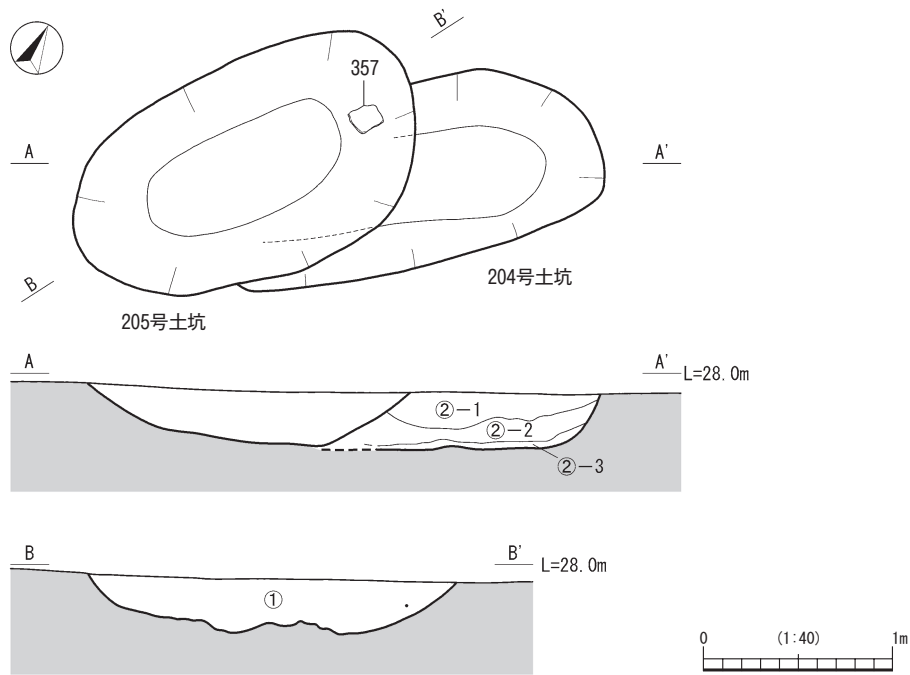
第225図 重複遺構55

334号集石が東西に広がりながら重複しており、埋土の堆積状況等から、334号集石が最も新しいと判断した。334号集石が236号土坑の東壁を、235号・236号土坑の東壁をわずかに切る。遺構内遺物と判断したものは、235号土坑から石器1点であり、図化した。370は石斧の基

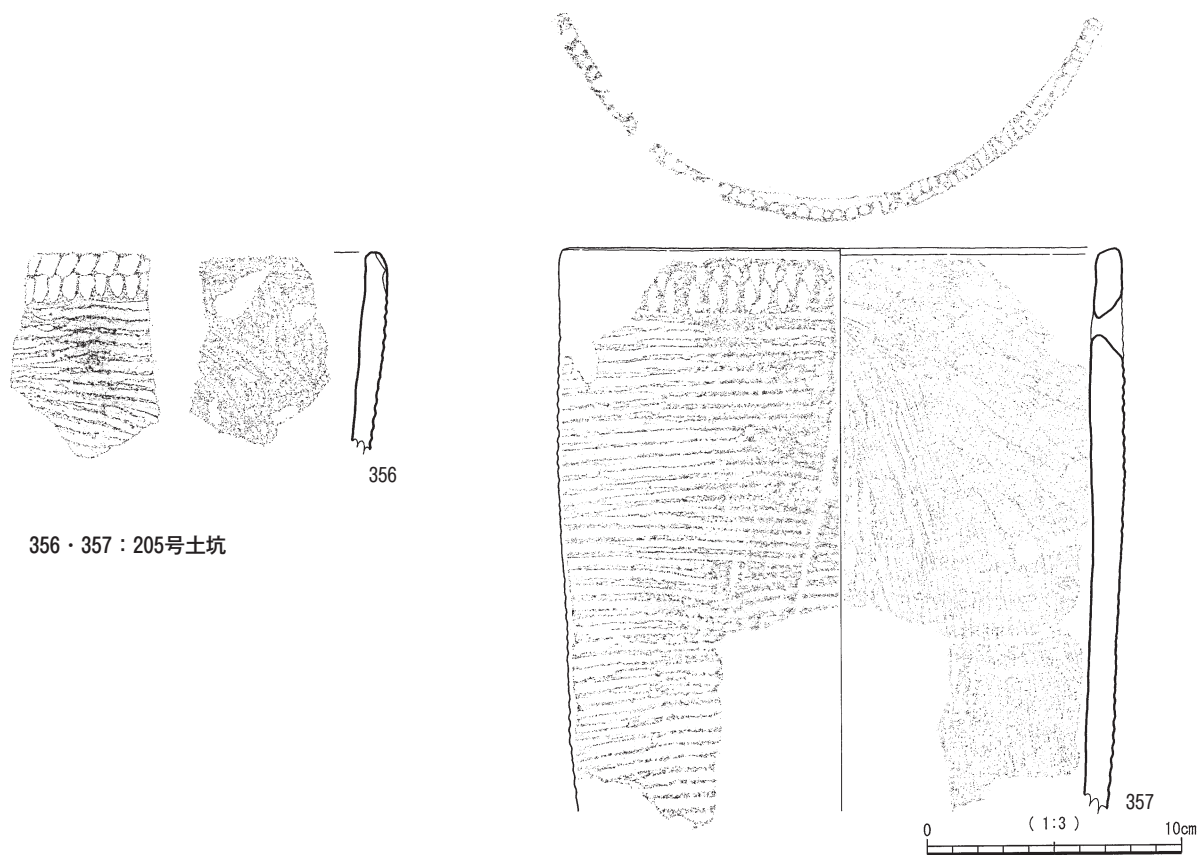
部で、稜の摩滅が比較的顕著である。

重複遺構66 (第233図)

D-39区X層で検出した。112号連穴土坑と237号土坑がほぼ直角方向に重複している。237号土坑は焼土や炭



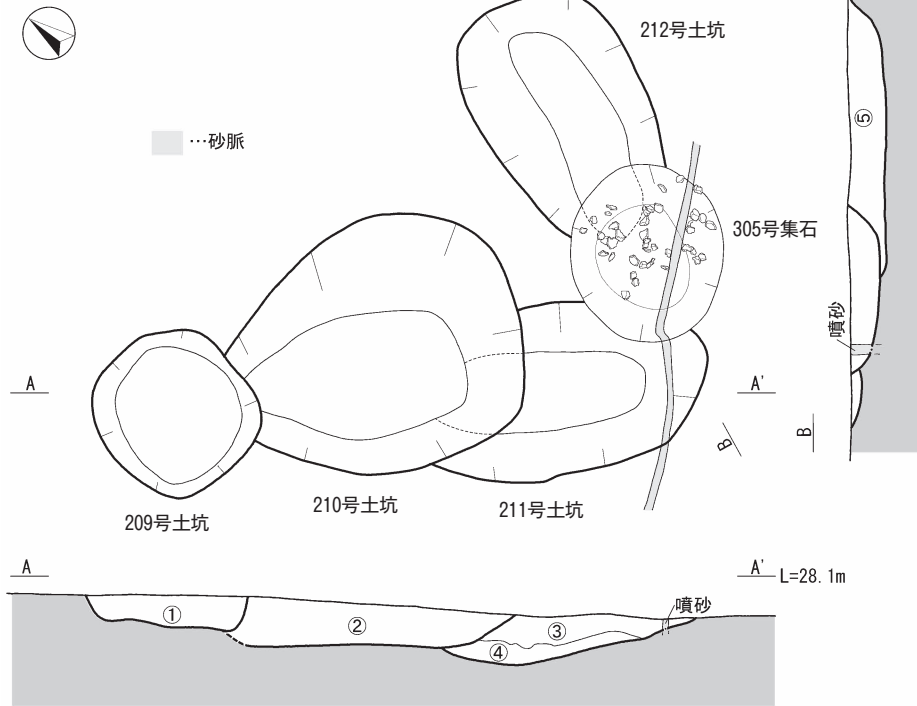
- ① 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性弱い 3~5mm大の黄色バミス少量, 1mm以下の白色バミス中量含む
- ②-1 黒色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス多量, 2~3cm大の橙色バミス多量含む
- ②-2 黒色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量, 2~3mm大の橙色バミス少量含む, ②-1と土質同じ, バミス含有量のみ減る
- ②-3 黒色土と橙色粘土の混合土 締まりやや強い 粘性やや有り バミス含有量多い



356・357：205号土坑

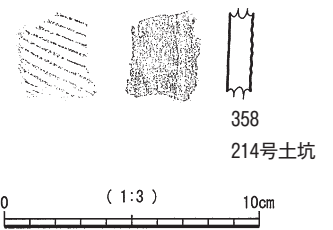
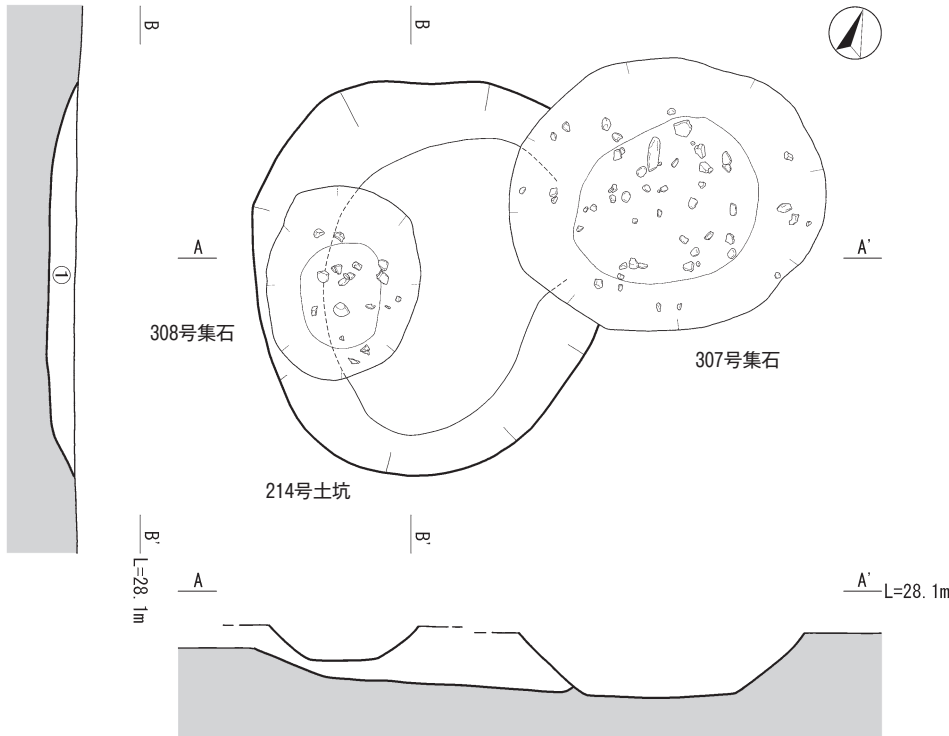
第226図 重複遺構56・出土遺物

重複遺構57



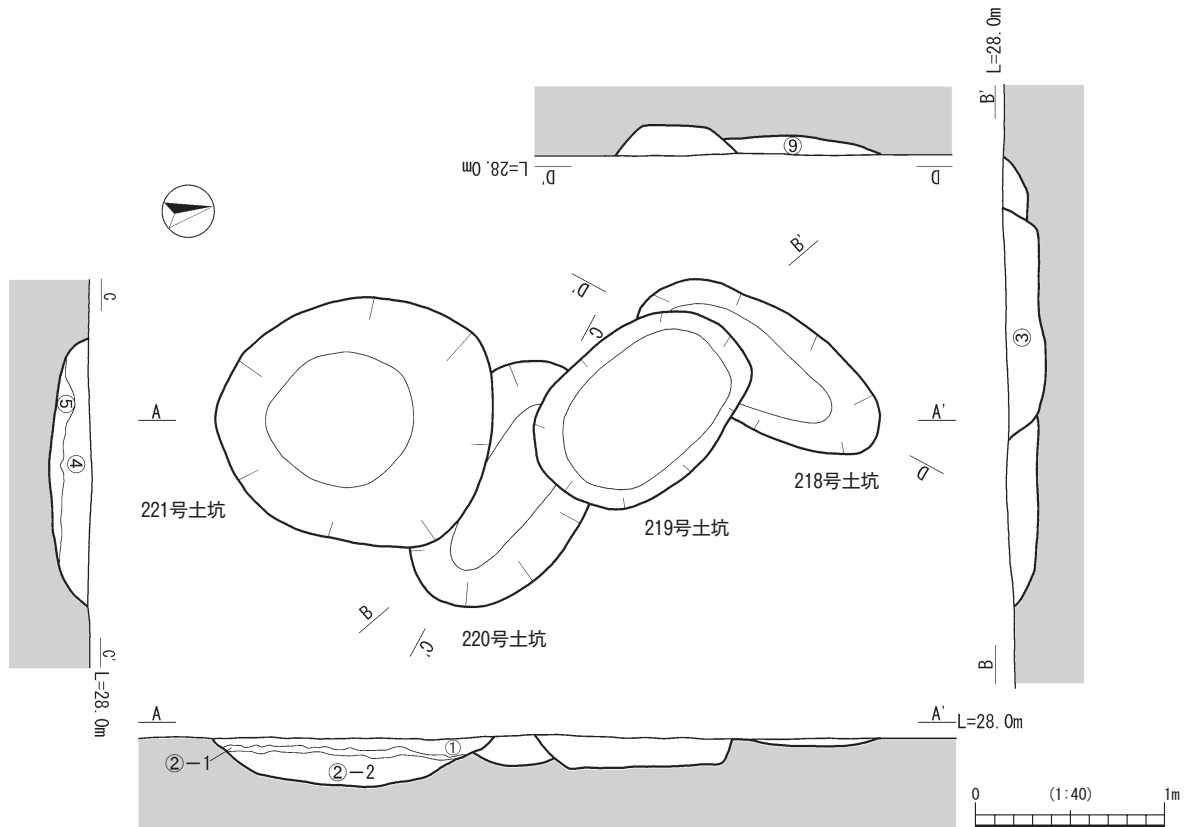
- ① 黒褐色砂質土 白色・黄色バミス多量に含む
- ② 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性弱い 1~3mmの黄色バミス中量, 1mm以下の白色バミス中量, ブロック状にXI層含む
- ③ 黒褐色砂質土 締まり強い 粘性弱い 3~5mmの黄色バミス微量, 1mm以下の白色バミス多量, 炭化物微量含む
- ④ 暗褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い 1mm以下の黄色バミス微量, 1mm以下の白色バミス中量含む
- ⑤ 黒褐色砂質土 締まり強い 粘性弱い 1~3mmの黄色バミス少量, 1mm以下の白色バミス多量, ブロック状にXI層含む

重複遺構58

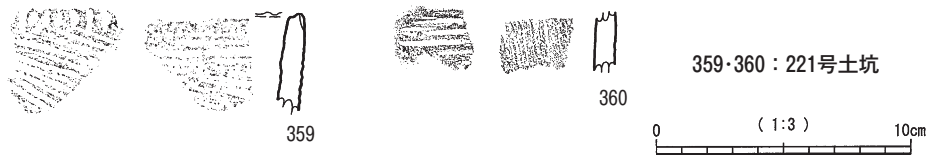


- ① 黒褐色砂質土 締まりやや強い 粘性弱い 1~3mm大の黄色バミス中量, 1mm以下の白色バミス多量, 炭化物微量含む

第227図 重複遺構57, 58・重複遺構58出土遺物



- ① 黒褐色砂質土 締まりやや強い 粘性弱い 1~3mm大の黄色バミス微量, 1mm以下の白色バミス中量, 炭化物微量含む
- ②-1 暗褐色粘質土 締まり有り 粘性やや強い 1mm以下の白色バミス微量含む
- ②-2 暗褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性強い 1~3mm大の黄色バミス微量, 1mm以下の白色バミス少量含む ②-1 に比べ粘性が増す
- ③ 黒褐色砂質土 白色・黄色バミス多く含む 炭化物含む
- ④ 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性弱い 1mm大の黄色バミス中量, 1mm以下の白色バミス中量, 炭化物微量含む
- ⑤ 暗褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性強い 1mm以下の黄色バミス微量, 1mm以下の白色バミス中量含む
- ⑥ 黒褐色砂質土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の黄色バミス少量, 1mm以下の白色バミス中量, 炭化物微量含む



第228図 重複遺構59・出土遺物

化物等が確認出来なかったため土坑に分類したが、床面がやや傾斜している点や切り合う112号連穴土坑と類似するプランであり、切られた部分に焼土や炭化物が広がっていた可能性も否定できない。一方の112号連穴土坑は、検出面から底面までが約50cmと深く、北側に焼土が認められたことから連穴土坑として取り扱った。明確なブリッジは残存せず、埋土中にわずかにその可能性のあるもの(①-3)が確認された。遺構内遺物と判断したものは、112号連穴土坑から土器2点であり、全て図化した。

重複遺構67 (第233図)

C-39区X層で検出した。241号・246号土坑が重複し

ており、埋土の堆積状況等から、241号土坑が新しいと判断した。遺構内遺物は確認されなかった。

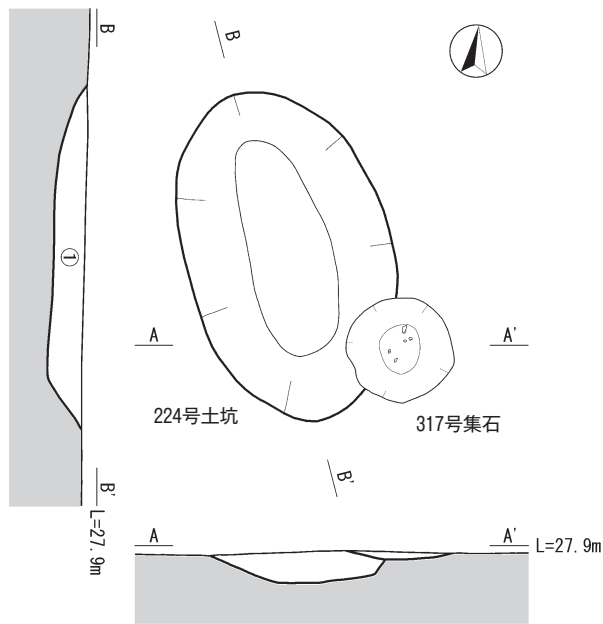
重複遺構68 (第234図)

C-39区X層で検出した。242号~245号土坑が重複しており、埋土の堆積状況等から、244号土坑が243号土坑・245号土坑の東端を切り、243号土坑が242号土坑の東端を切ると判断した。遺構内遺物と判断したものは、243号土坑から土器1点であり、図化した。

重複遺構69 (第235図)

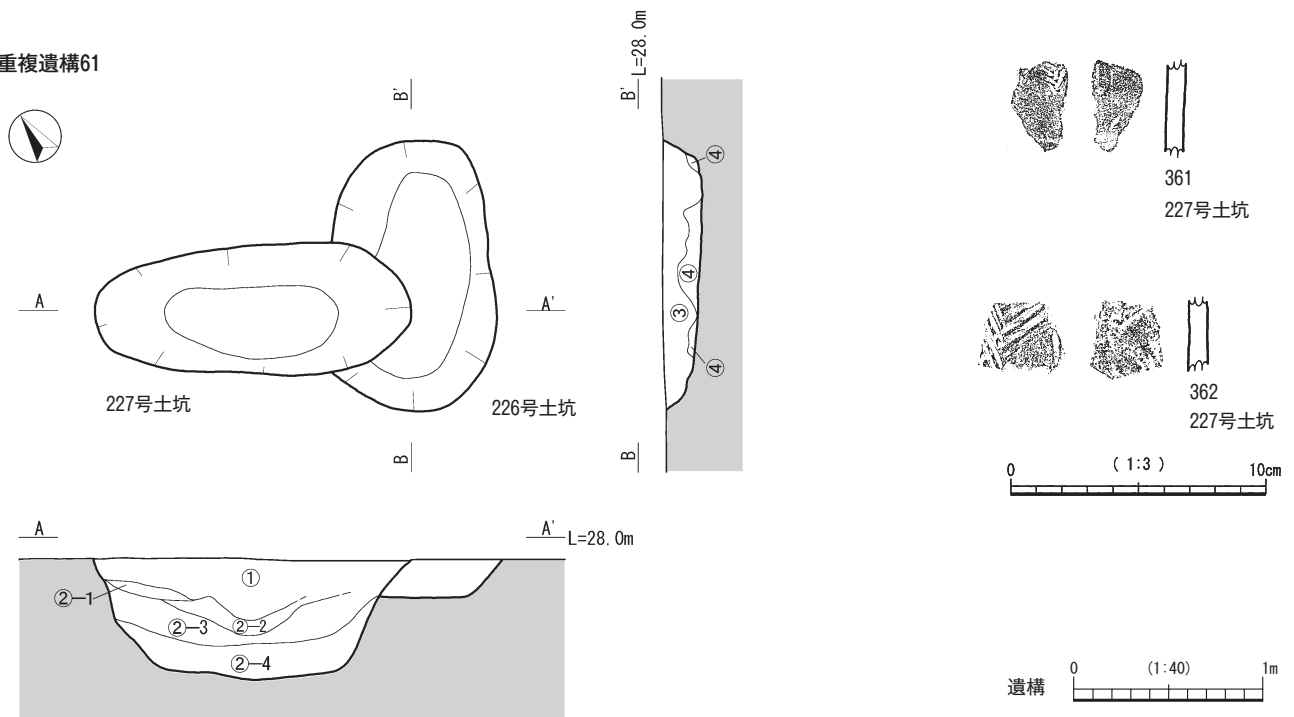
C-39区X層で検出した。113号連穴土坑と248号土坑が重複しており、埋土の堆積状況等から、113号連穴土

重複遺構60



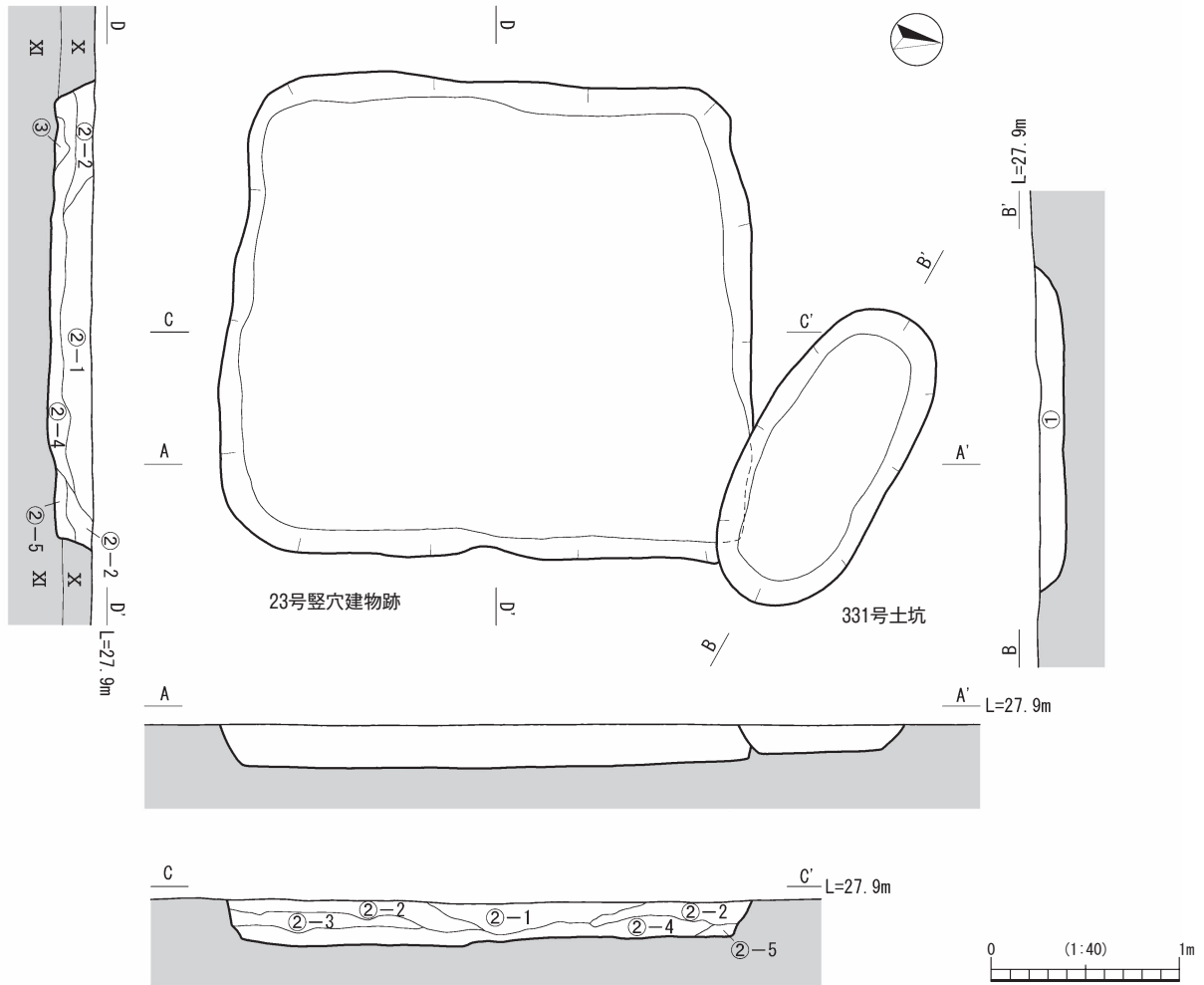
①黒褐色砂質土 締まりやや強い 粘性弱い 1~3mm大の黄色バミス微量, 1mm以下の白色バミス多量含む

重複遺構61

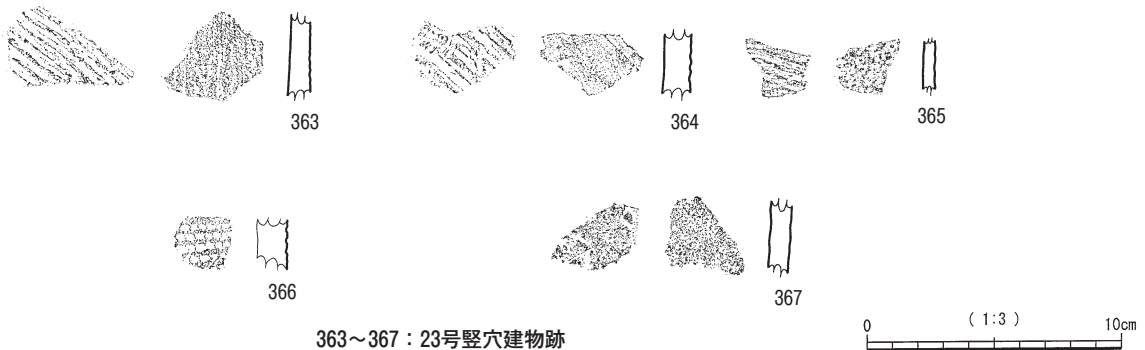


- ①黒色砂質土 黄色・白色バミス多量含む 礫多量含む
- ②-1 にぶい赤褐色粘質土 黒色砂質土少量含む
- ②-2 にぶい赤褐色粘質土 黒色砂質土少量含む,炭化物粒少量含む
- ②-3 にぶい赤褐色粘質土
- ②-4 にぶい赤褐色粘質土
- ③黒色砂質土 黄色・白色バミス多量含む
- ④にぶい赤褐色粘質土

第229図 重複遺構60, 61・重複遺構61出土遺物



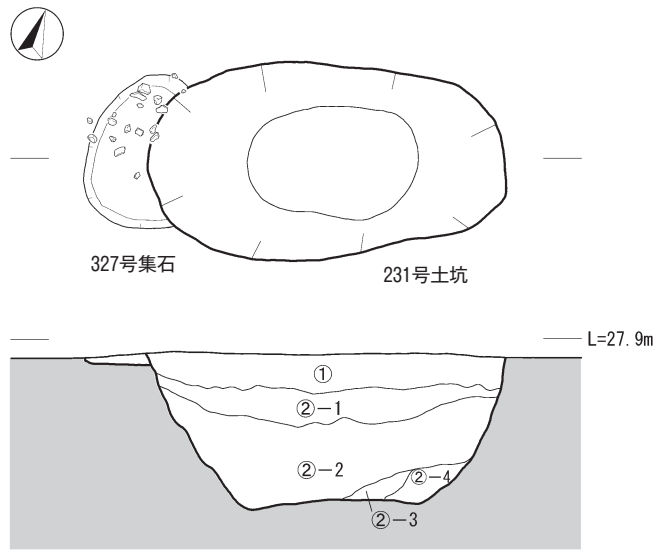
- ① 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス微量, 2~3mm大の橙色バミス中量, 5mm大の炭化物極微量含む
- ②-1 黒色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス中量, 2~5mm大の黄色・橙色バミス中量, 5mm大の炭化物粒少量含む
- ②-2 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量, 2~5mm大の黄色・橙色バミス中量, 5mm大の炭化物粒微量含む
- ②-3 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量, 2~5mm大の黄色・橙色バミス少量含む
- ②-4 黒褐色土 (70%) と灰黄褐色土 (30%) との混土 締まり強い 粘性弱い ②-1 から②-3 と比較して粒径細かい 1mm大の白色バミス少量, 2~3mm大の黄色・橙色バミス微量含む
- ②-5 灰黄褐色土 (60%) と黒褐色土 (40%) との混土 それぞれ斑紋状に混じる 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量, 2~3mm大の黄色・橙色バミス微量含む 土性②-4 に類似 ②-1~②-3 と比較して粒径細かい
- ③ 橙色粘土 締まり有り 粘性強い 1mm大の白色バミス極微量含む, 灰黄褐色土を1×5cm大の板状に30%含む



363~367 : 23号竪穴建物跡

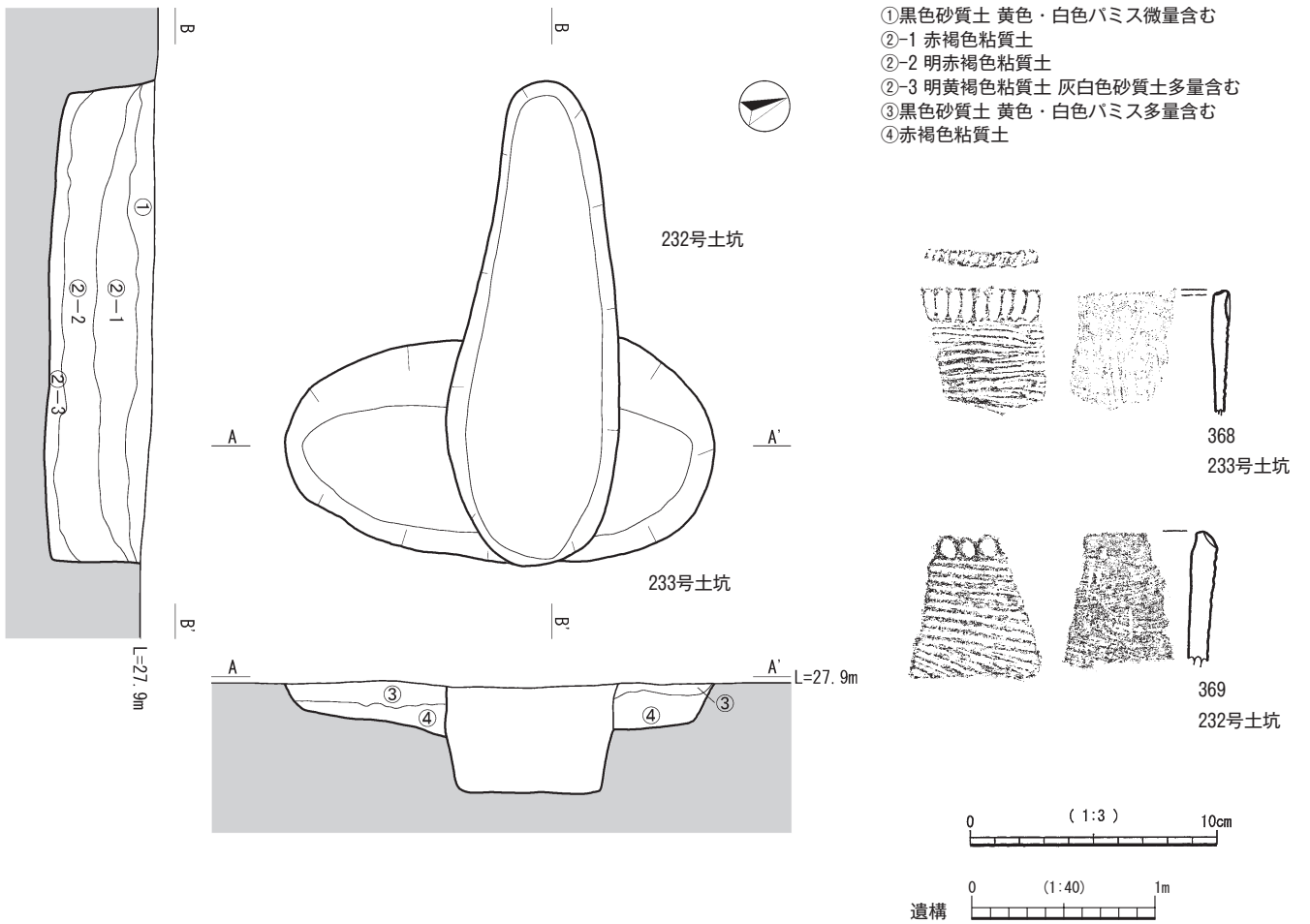
第230図 重複遺構62・出土遺物

重複遺構63



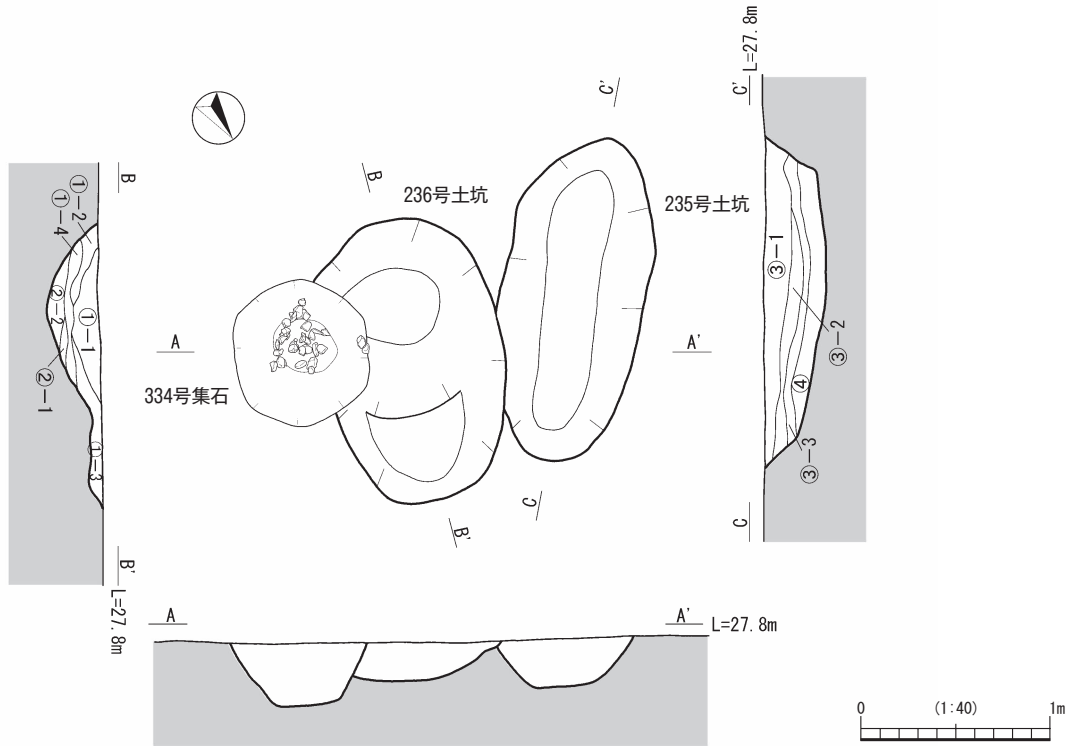
- ① 黒色砂質土 黄色・白色バミス少量含む
- ②-1 明赤褐色粘質土
- ②-2 赤褐色粘質土
- ②-3 暗赤褐色粘質土
- ②-4 にぶい黄橙色粘質土 灰白色砂質土粒多く含む

重複遺構64

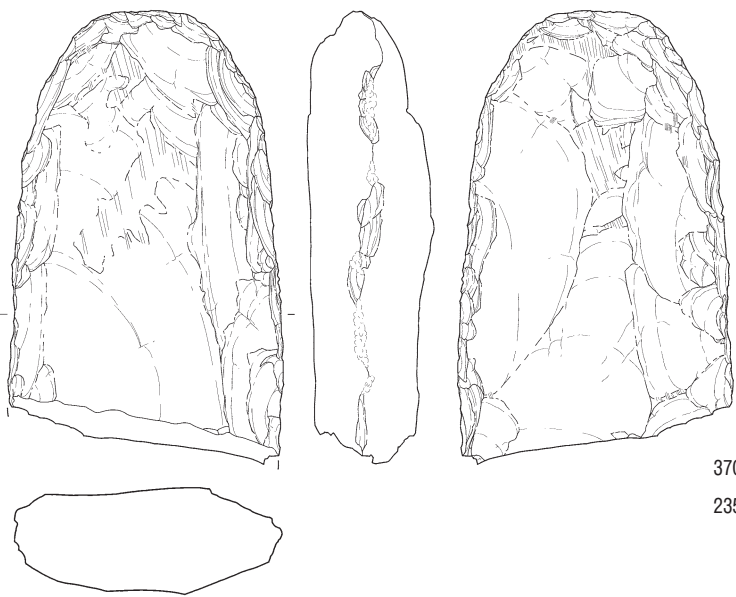


- ① 黒色砂質土 黄色・白色バミス微量含む
- ②-1 赤褐色粘質土
- ②-2 明赤褐色粘質土
- ②-3 明黄褐色粘質土 灰白色砂質土多量含む
- ③ 黒色砂質土 黄色・白色バミス多量含む
- ④ 赤褐色粘質土

第231図 重複遺構63, 64・重複遺構64出土遺物

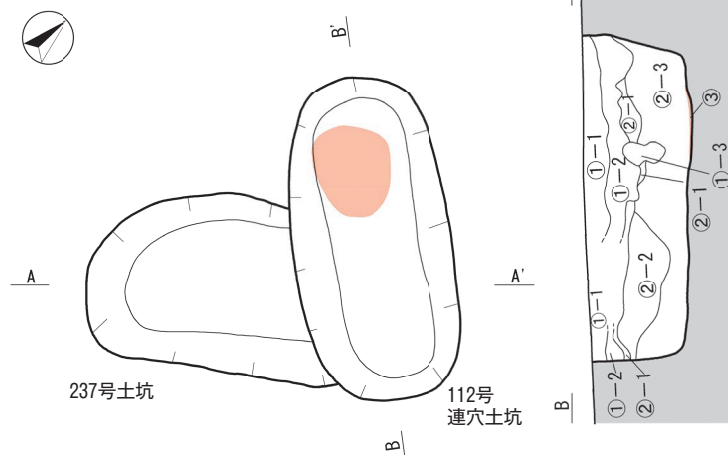


- ①-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス多量,炭化物少量含む
- ①-2 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス中量,X層微量含む
- ①-3 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量
- ①-4 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量,1mm大の白色バミス微量,XI層少量含む
- ②-1 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子微量,1mm大の橙色バミス微量含む
- ②-2 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子微量,赤褐色土 (XI層) 少量含む
- ③-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス少量,5~10cm大の軽石を含む
- ③-2 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス少量含む
- ③-3 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量,XI層中量含む
- ④ 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色バミス微量,黒褐色土 (VIIa層) 少量含む

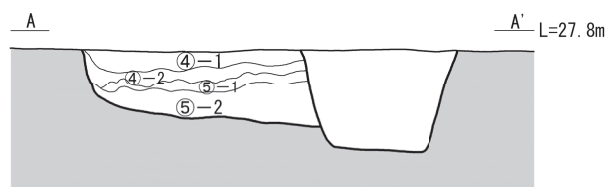


第232図 重複遺構65・出土遺物

重複遺構66



- ①-1 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り 白色バミス中量,黄褐色バミスを少量,5cmの礫を微量含む
- ①-2 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層,黄褐色バミス,白色バミスを少量,炭化物を微量含む
- ①-3 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層少量,黄褐色バミス,白色バミスを微量含む
- ②-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質土と白色バミスを微量含む
- ②-2 暗褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質土を少量,白色バミス微量含む
- ②-3 灰黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性強い XI層主体に黒褐色砂質土,白色バミス,炭化物を微量含む
- ③ にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性やや有り 焼土がブロック状に残存し,炭化物を微量含む
- ④-1 黒褐色砂質シルト 締まり有り粘性やや有り 白色バミス少量,XI層,黄褐色バミス,炭化物を微量含む
- ④-2 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り 白色バミス,XI層少量,黄褐色バミス,炭化物を微量含む
- ⑤-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黄褐色バミスと白色バミスを微量含む
- ⑤-2 暗褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルトと白色バミスを微量含む

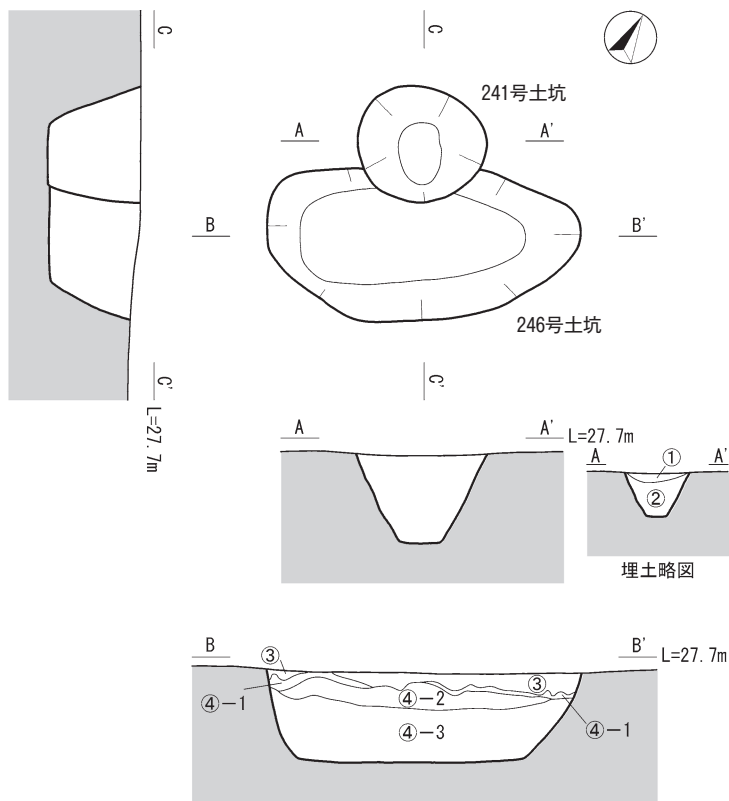


371・372：112号連穴土坑



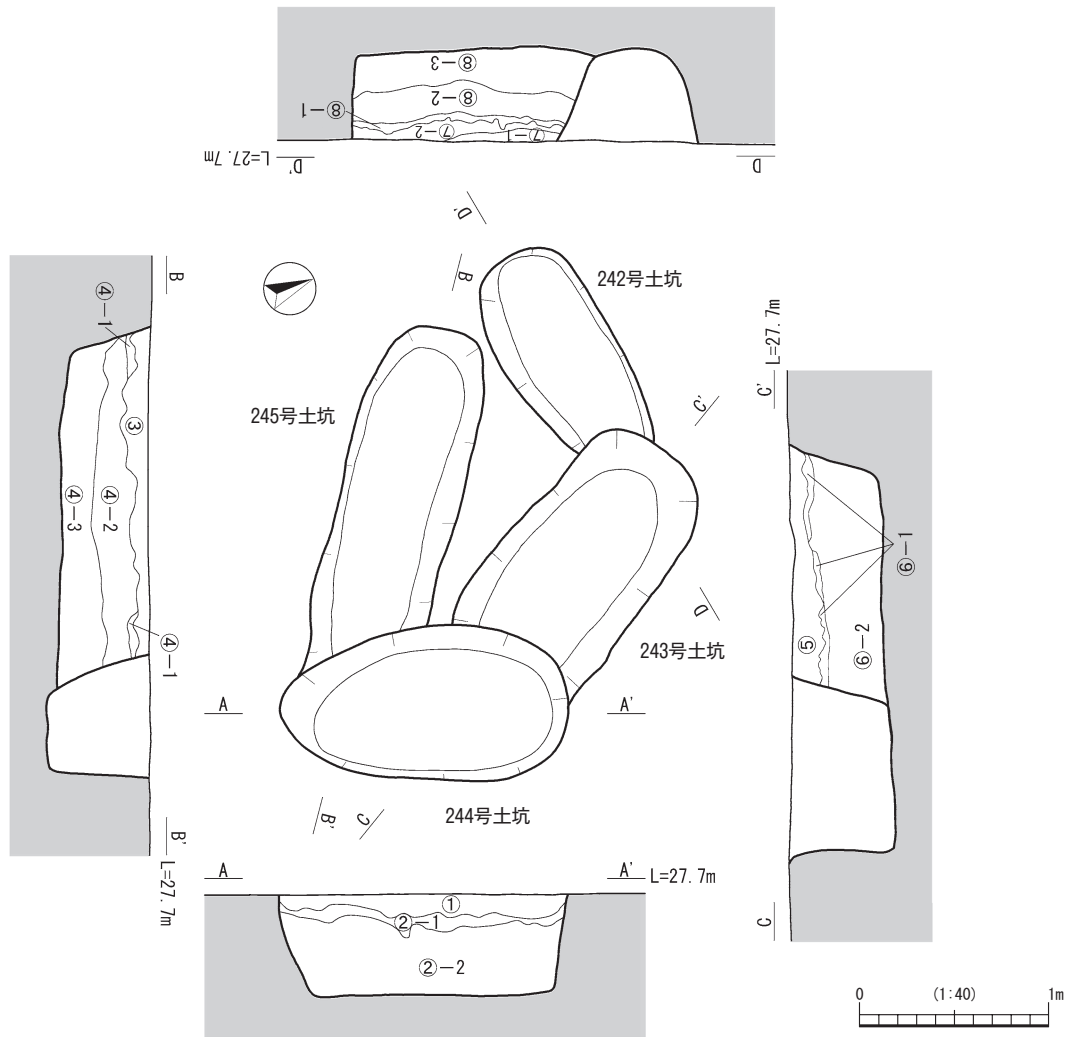
0 (1:3) 10cm

重複遺構67

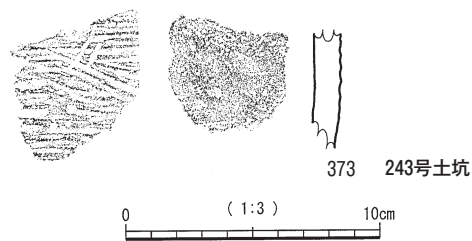


- ①黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層と白色バミスを少量,黄褐色バミスと炭化物を微量含む
- ②にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルト,黄褐色バミス,白色バミスを微量含む
- ③黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り 白色バミス中量,XI層と黄色バミスを少量含む
- ④-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルトと白色バミスを少量含む
- ④-2 褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に白色バミス少量,炭化物を微量含む
- ④-3 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に白色バミスと炭化物を微量含む

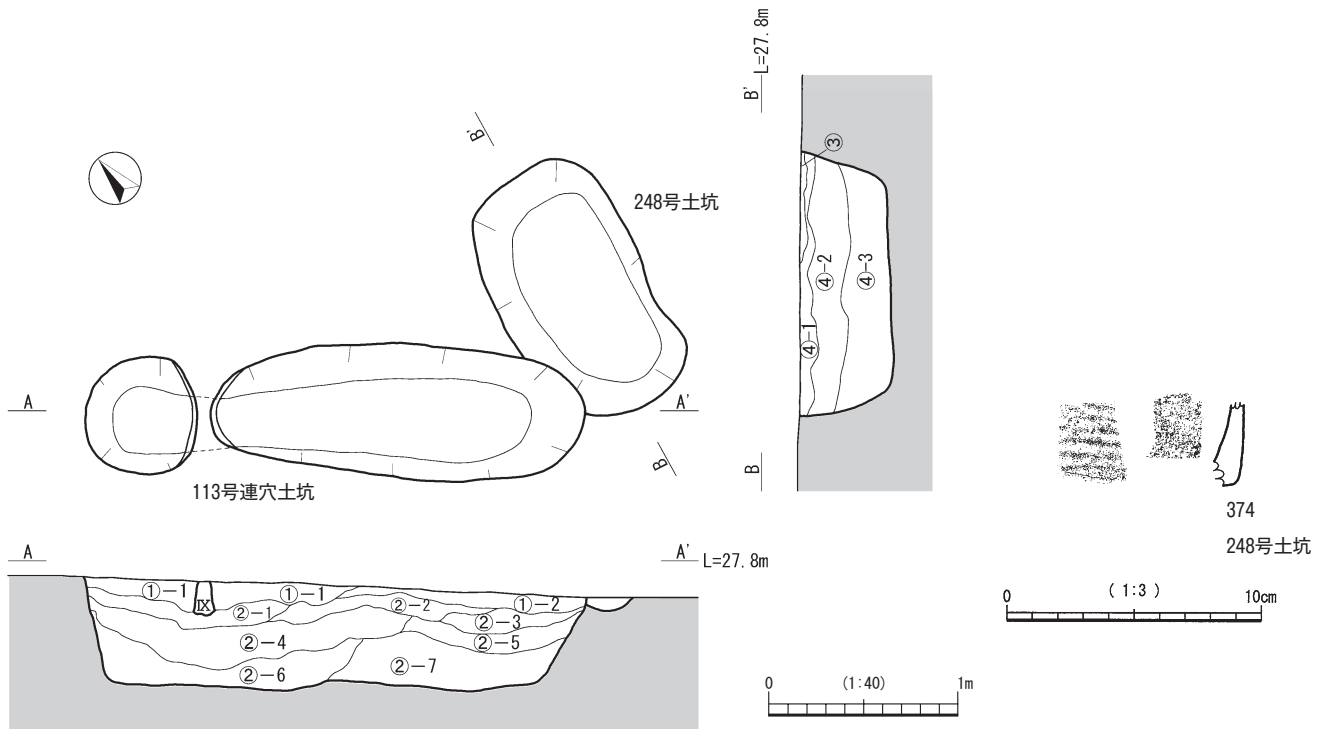
第233図 重複遺構66, 67・重複遺構66出土遺物



- ① 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層と白色バミスを少量,黄橙色バミスと炭化物を微量含む
- ②-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルト少量,黄橙色バミスと白色バミスを微量含む
- ②-2 灰黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルト,白色バミス,炭化物を微量含む
- ③ 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層と白色バミスを少量,黄橙色バミスを微量含む
- ④-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に白色バミスを微量含む
- ④-2 灰黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルトと白色バミスを微量含む
- ④-3 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に白色バミスと炭化物を微量含む
- ⑤ 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層と白色バミスを少量,黄橙色バミスと炭化物を微量含む
- ⑥-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に白色バミスと黄橙色バミスを微量含む
- ⑥-2 灰黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルトと白色バミスを微量含む
- ⑦-1 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り 白色バミス中量,黄橙色バミスと炭化物を微量含む
- ⑦-2 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り 白色バミス少量,黄橙色バミスを微量含む
- ⑧-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り 黒褐色砂質シルト,黄橙色バミス,白色バミスを微量含む
- ⑧-2 灰黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り 黄橙色バミスと白色バミスを微量含む
- ⑧-3 暗褐色粘質土 締まりやや有り 粘性強い 黄橙色バミスと白色バミス,炭化物を微量含む



第234図 重複遺構68・出土遺物



- ①-1 黒色砂質土
- ①-2 黒褐色砂質土
- ②-1 暗褐色粘質土
- ②-2 暗褐色粘質土 ②-1より締まり弱い
- ②-3 暗褐色粘質土
- ②-4 暗褐色粘質土 ②-1より締まり強い
- ②-5 暗褐色粘質土
- ②-6 にぶい黄褐色粘質土
- ②-7 にぶい黄褐色粘質土
- ③ 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層中量,黄橙色バミスと白色バミスを微量含む
- ④-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルト,黄橙色バミス,白色バミスを微量含む
- ④-2 灰黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルト,黄橙色バミス,白色バミス,炭化物を微量含む
- ④-3 暗褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に白色バミスと炭化物を微量含む

第235図 重複遺構69・出土遺物

坑が新しいと判断した。113号連穴土坑のブリッジにはⅨ層が残存しており、主穴部西壁が248号土坑の東端をわずかに切る。遺構内遺物と判断したものは、248号土坑から土器1点であり、図化した。

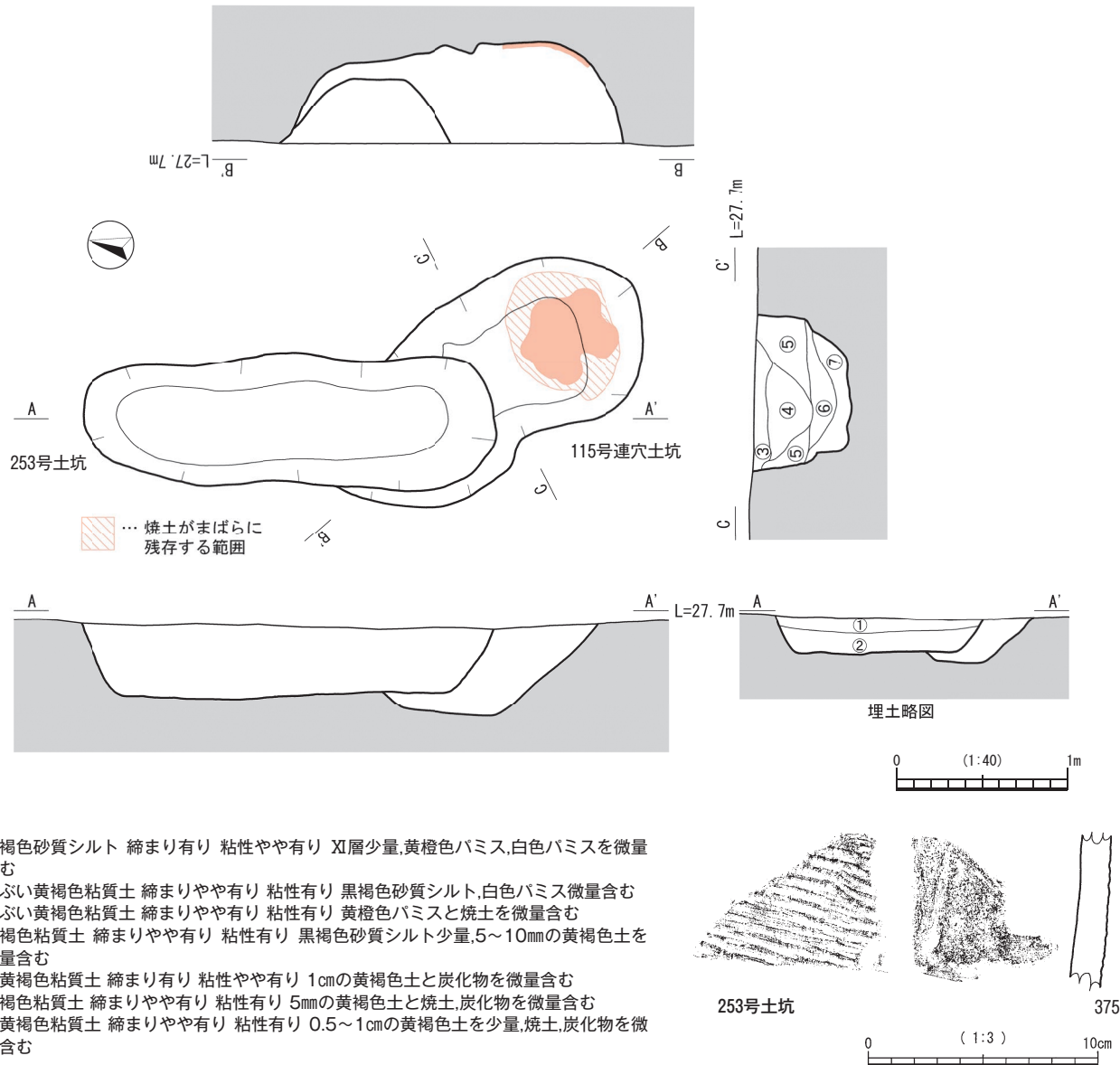
重複遺構70 (第236図)

C-39区で検出され、253号土坑はⅩ層、115号連穴土坑はⅪ層で検出した。埋土の堆積状況等から、253号土坑が新しいと判断した。253号土坑は、楕円形プランを呈し床面が傾斜することから連穴土坑の可能性も考えられたが、焼土やブリッジ等の痕跡が無かったことから土坑として取り扱った。115号連穴土坑の南側床面から壁面への立ち上がり部分にかけて、焼土がまばらに残存する範囲とほぼ全面赤色に変化している範囲が見られた。遺構内遺物と判断したものは、253号土坑から土器5点、115号連穴土坑から土器2点であり、そのうち253号土坑

から土器1点を図化した。

重複遺構71 (第237図)

C-39区Ⅹ層で検出した。114号連穴土坑と251号土坑が重複しており、埋土の堆積状況等から、114号連穴土坑が新しいと判断した。114号連穴土坑は251号土坑の西側を切り、ブリッジ下には焼土が残存している。251号土坑は楕円形プランを呈すると考えられ、埋土上部から磨石が出土している。遺構内遺物と判断したものは、114号連穴土坑から土器3点、251号土坑から石器1点であり、そのうち114号連穴土坑から土器1点、251号土坑から石器1点を図化した。なお、114号連穴土坑の土器のうち1点は252号土坑(第1分冊第131図)の267と接合した。377は、表裏面ともに中央に深い凹みが見られる。



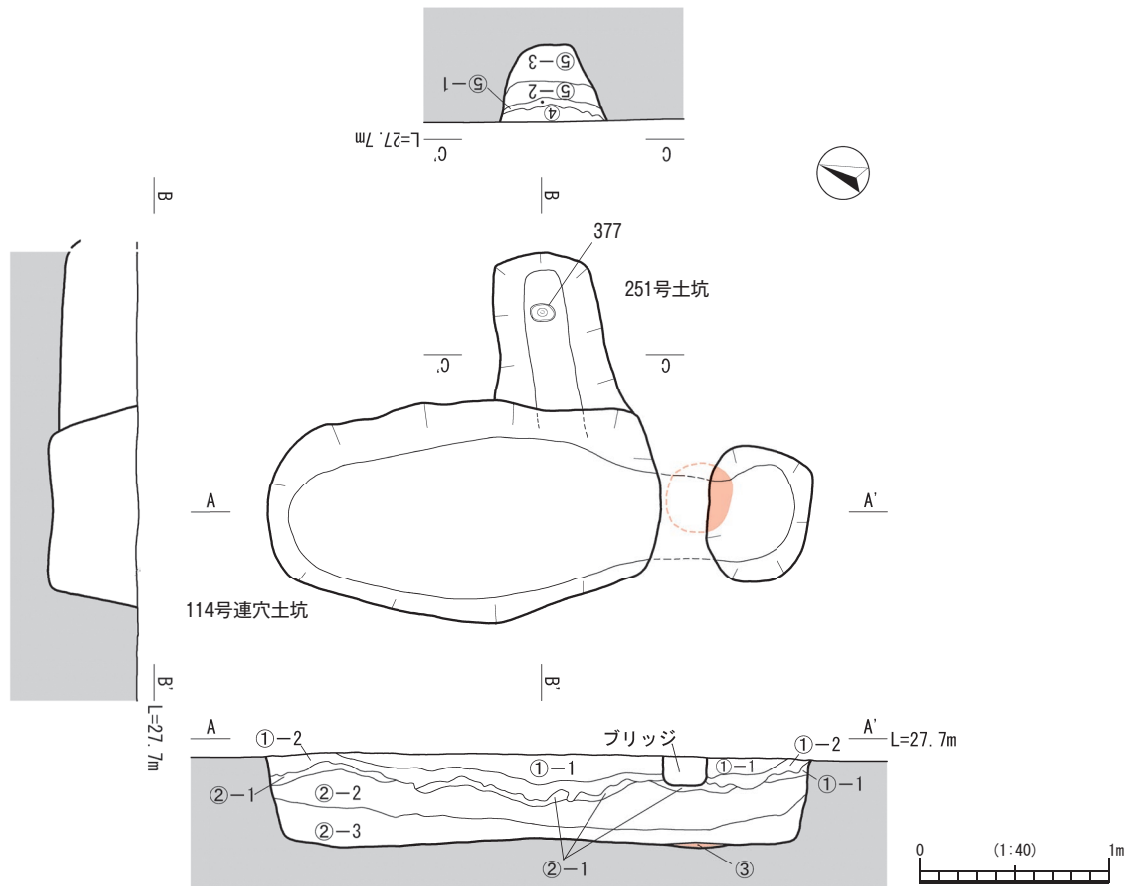
第236図 重複遺構70・出土遺物

重複遺構72 (第238図)

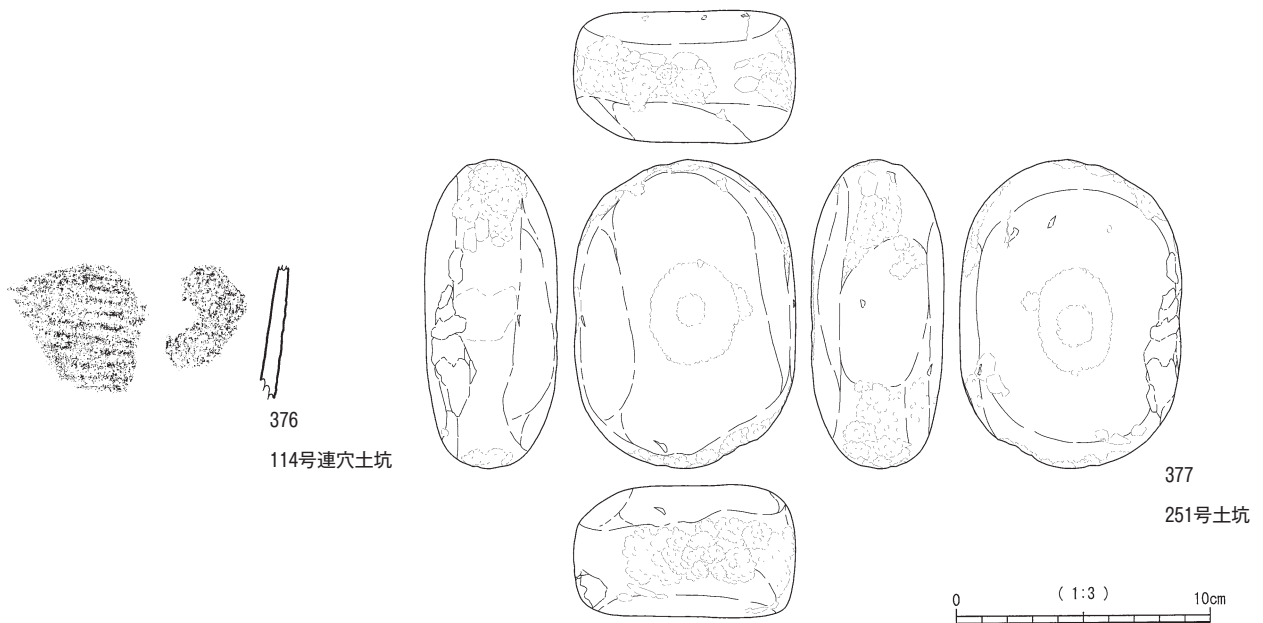
C-39区X層で検出した。256号土坑, 116号・117号連穴土坑が重複しており, 埋土の堆積状況等から, 256号土坑と117号連穴土坑がそれぞれ116号連穴土坑の南端を切ると判断した。117号連穴土坑・116号連穴土坑には焼土が残存する。256号土坑は, 楕円形プランを呈し床面が傾斜することから連穴土坑の可能性も考えられたが, 焼土やブリッジ等の痕跡が無かったことから土坑として取り扱った。遺構内遺物と判断したものは, 256号土坑から土器1点, 117号連穴土坑から土器5点, 116号連穴土坑から土器2点であり, そのうち256号土坑から土器1点, 117号連穴土坑から土器1点, 116号連穴土坑から土器1点を図化した。378は口縁部にキザミが2段施され, 縦長の補修孔が残る。

重複遺構73 (第239図)

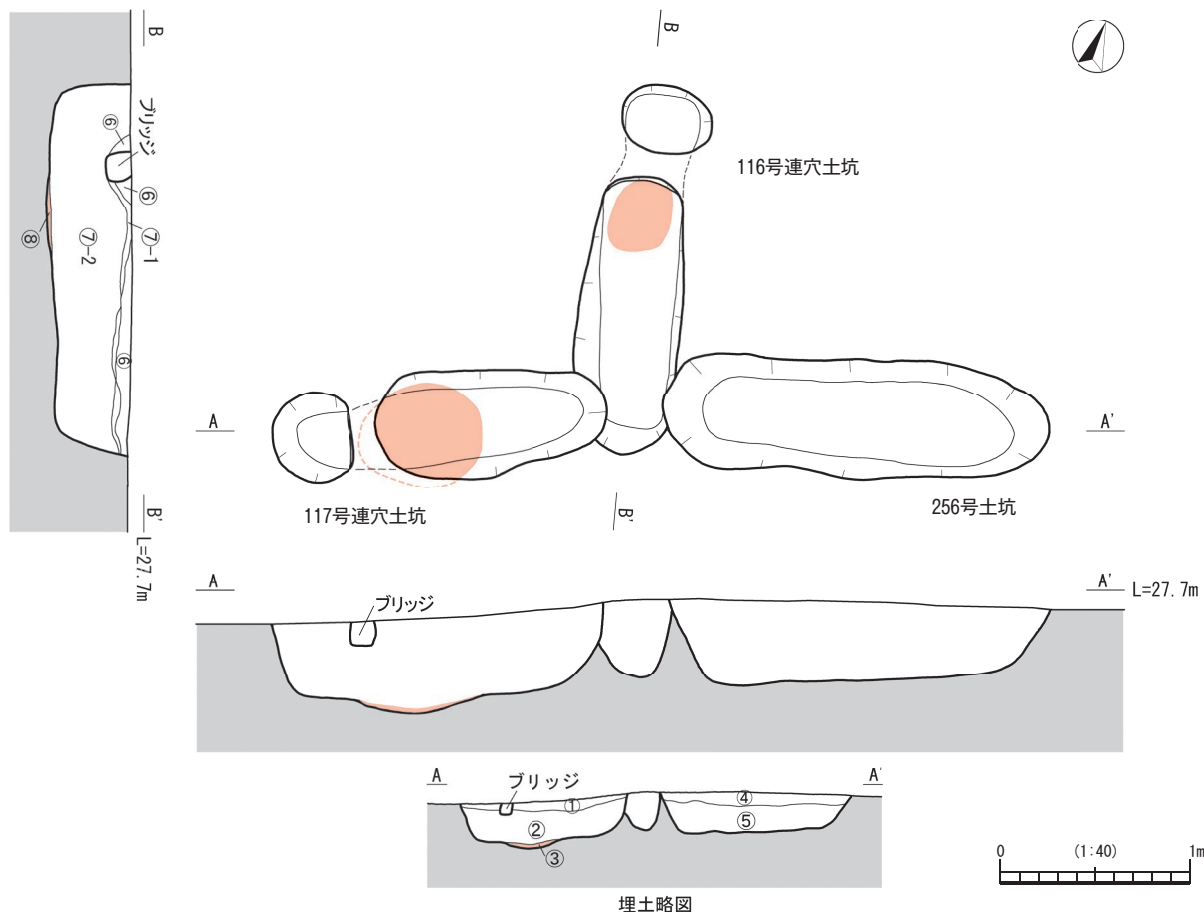
B・C-39区X層で検出した。257号・259号土坑が重複している。検出時において重複関係は不明瞭であったが, 最終的に257号土坑が259号土坑の西半分を切ることがわかった。257号土坑は長楕円形プランで, 連穴土坑の可能性も考えられたが, 床面から焼土や炭化物等が確認されず, ブリッジ等の痕跡もはっきりとしなかったため土坑として取り扱った。ただし, 床面がわずかに北側へ傾斜する。259号土坑はプランの半分を切られており, 全体の形状はわからないが, 床面の深さは両者ともに近い。遺構内遺物と判断したものは, 257号土坑から土器1点であり, 図化した。



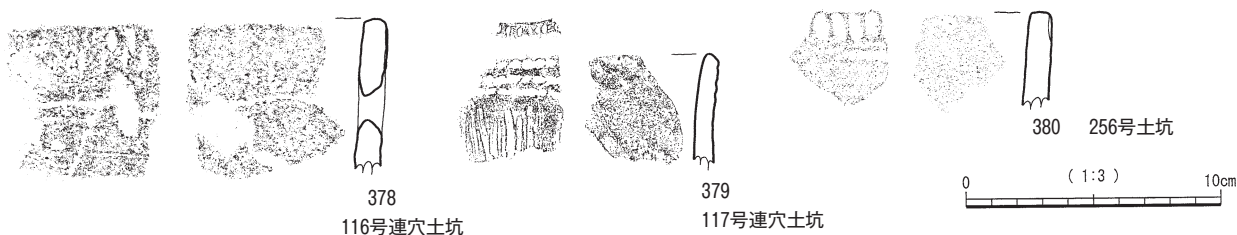
- ①-1 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り 白色バミス中量,黄橙色バミス微量含む
- ①-2 黒色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層,白色バミス少量,黄橙色バミス微量含む
- ②-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に,黒褐色砂質シルト少量,黄褐色バミス,白色バミス微量含む
- ②-2 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に,黄褐色バミス,白色バミス,炭化物を微量含む
- ②-3 褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に,黄褐色バミス,白色バミスを微量含む
- ③ 褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に,焼土と炭化物を微量含む
- ④ 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性弱い 白色バミス少量,黄褐色バミス,炭化物を微量含む
- ⑤-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に,黒褐色砂質シルト,黄褐色バミス,白色バミスを微量含む
- ⑤-2 灰褐色粘質土 締まりやや有り 粘性あり XI層主体に,白色バミスを微量含む
- ⑤-3 褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に,白色バミスを微量含む



第237図 重複遺構71・出土遺物



- ①黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り 白色バミス中量,黄橙色バミス少量含む
- ②にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質土と白色バミス,炭化物,焼土微量含む
- ③にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り 焼土がブロック状に残存,炭化物も微量含む
- ④暗褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り 黄橙色バミス中量,XI層と白色バミスを少量含む
- ⑤にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体 黒褐色砂質シルトと黄橙色バミス 炭化物を微量含む
- ⑥黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層と白色バミスを少量含む
- ⑦-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルトと白色バミスを微量含む
- ⑦-2 灰黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性強い XI層主体に黒褐色砂質シルト,白色バミス,焼土,炭化物を微量含む
- ⑧にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り 焼土がブロック状に残存,炭化物を微量含む



第238図 重複遺構72・出土遺物

重複遺構74 (第239図)

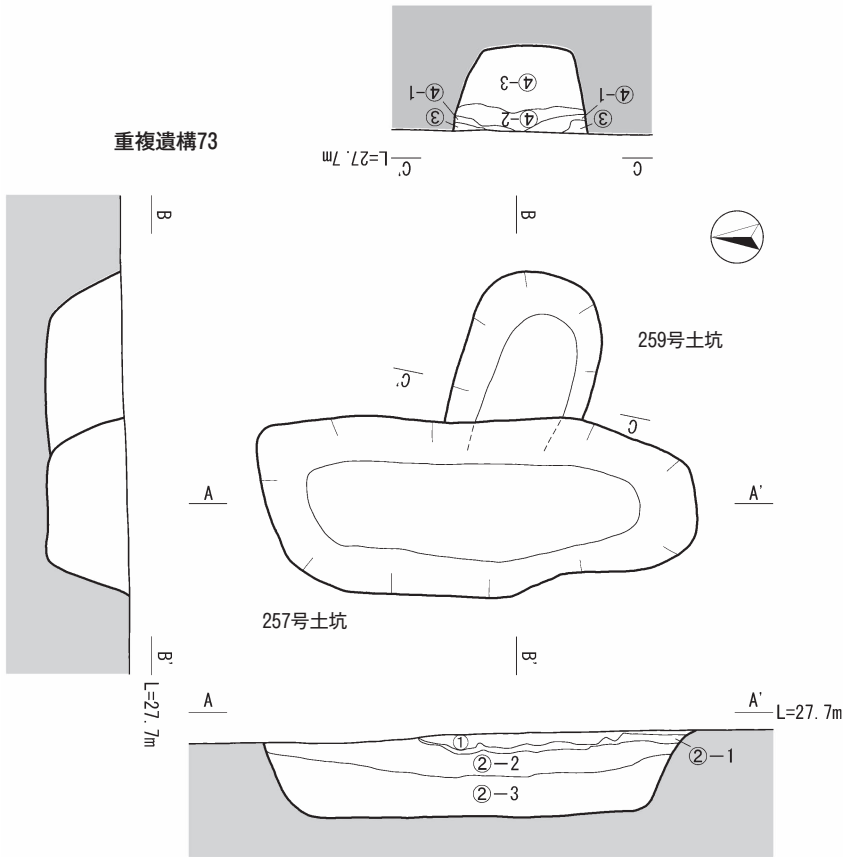
B-39区X層で検出した。261号・262号土坑が重複している。262号土坑が261号土坑に切られているが、床面は262号土坑が深い。両者ともに楕円形プランで、床面は262号土坑がわずかに南側へ傾斜している。調査は新旧関係をつかんだ後、261号土坑を完掘したために埋土情報は模式的に図示した。遺構内遺物と判断したものは261号土坑から土器1点で、22号堅穴建物跡(重複遺構

41)の329と接合した。

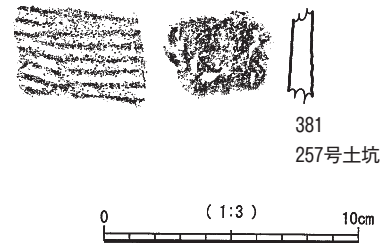
重複遺構75 (第240図)

B-39区X層で検出した。堅穴建物跡・土坑・連穴土坑が計9基重複している。主に、土坑及び連穴土坑が24号堅穴建物跡の四隅を切るように構築される。24号堅穴建物跡は隅丸方形を呈すると考えられ、床面付近からは小礫が出土している。遺構内遺物と判断したものは、24

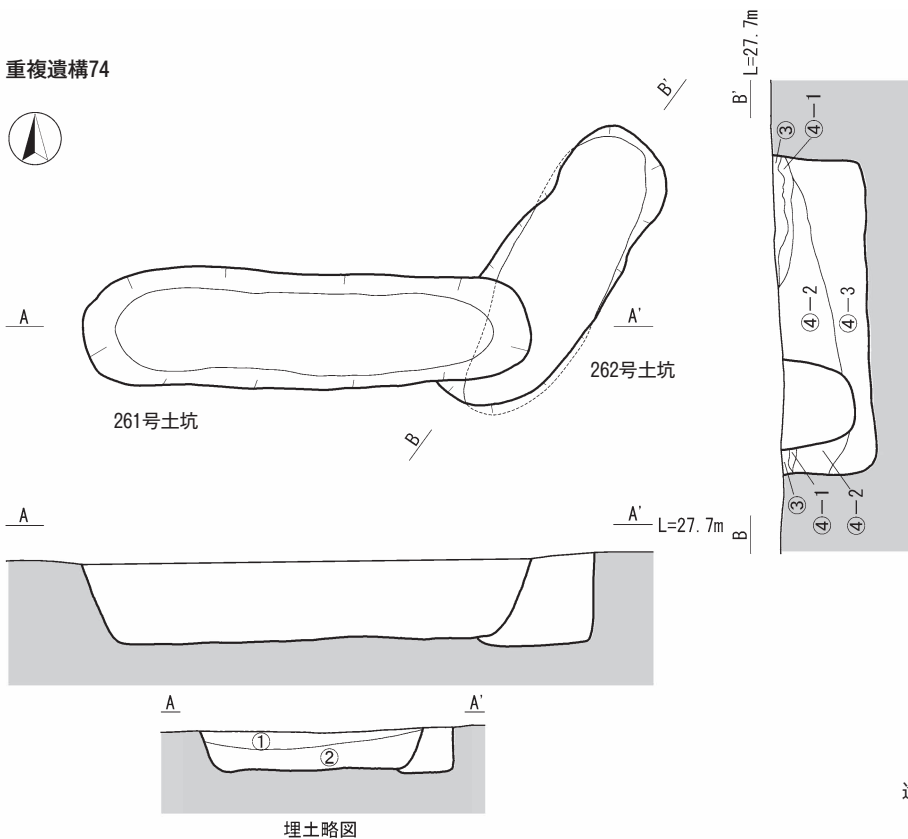
重複遺構73



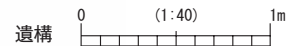
- ① 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層中量,白色バミス少量,黄橙色バミスと炭化物を微量含む
- ②-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体,黒褐色砂質シルトと白色バミスを微量含む
- ②-2 灰黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルト,黄橙色バミス,白色バミスを微量含む
- ②-3 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黄橙色バミスと白色バミスを微量含む
- ③ 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り 白色バミス少量,黄橙色バミス,炭化物を微量含む
- ④-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体,黒褐色砂質土,黄橙色バミス,白色バミスを微量含む
- ④-2 褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に白色バミス,2cmの小礫を微量含む
- ④-3 灰黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黄橙色バミス,白色バミス,2cmの小礫を微量含む



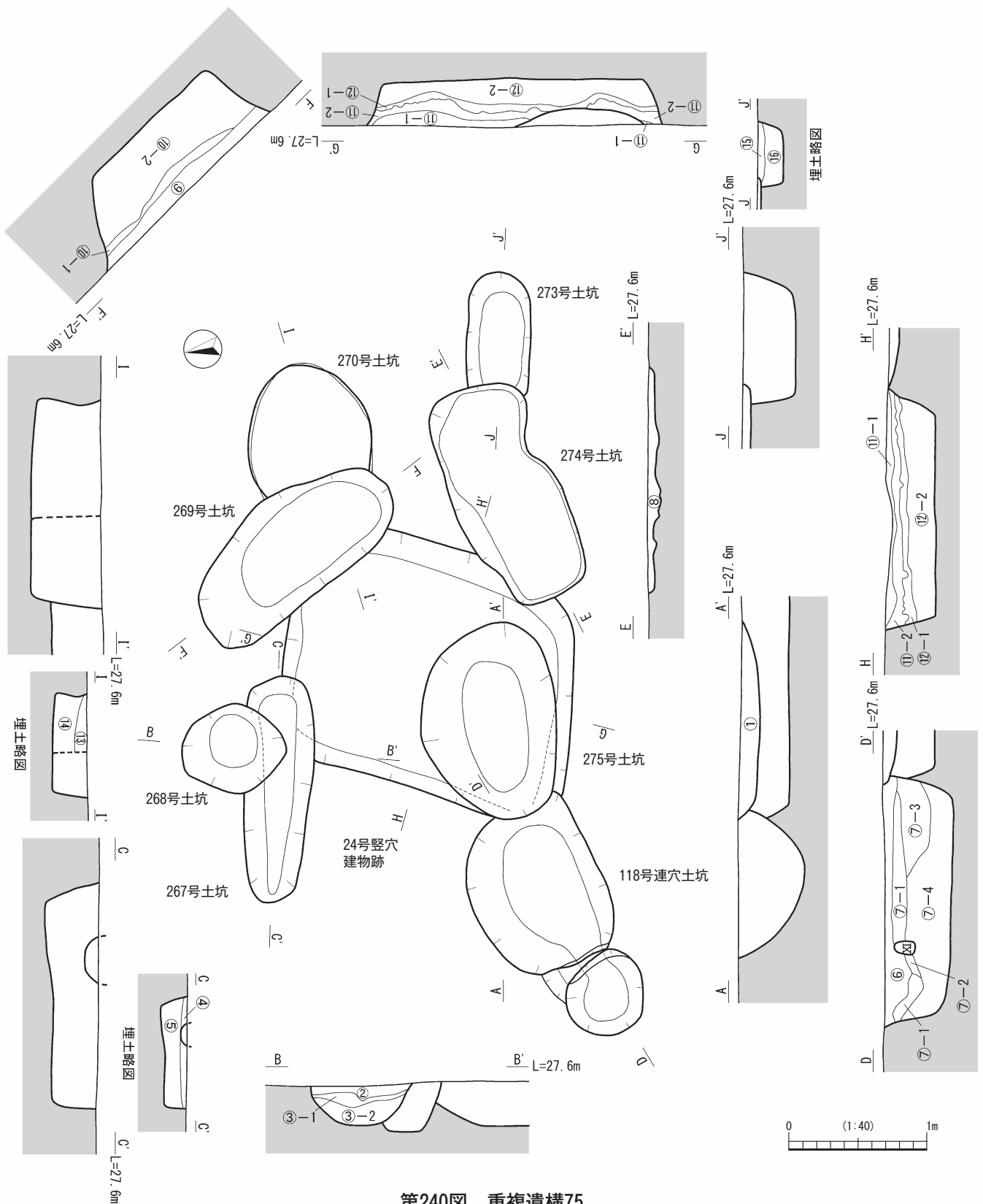
重複遺構74



- ① 暗褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層少量,黄橙色バミスと白色バミスを微量含む
- ② 褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に暗褐色砂質シルトを少量,黄橙色バミスと白色バミスを微量含む
- ③ 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層と白色バミスを少量含む
- ④-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルトと白色バミスを微量含む
- ④-2 暗褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルトを少量,白色バミスを微量含む
- ④-3 灰黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルト,白色バミス,炭化物を微量含む



第239図 重複遺構73, 74・重複遺構73出土遺物

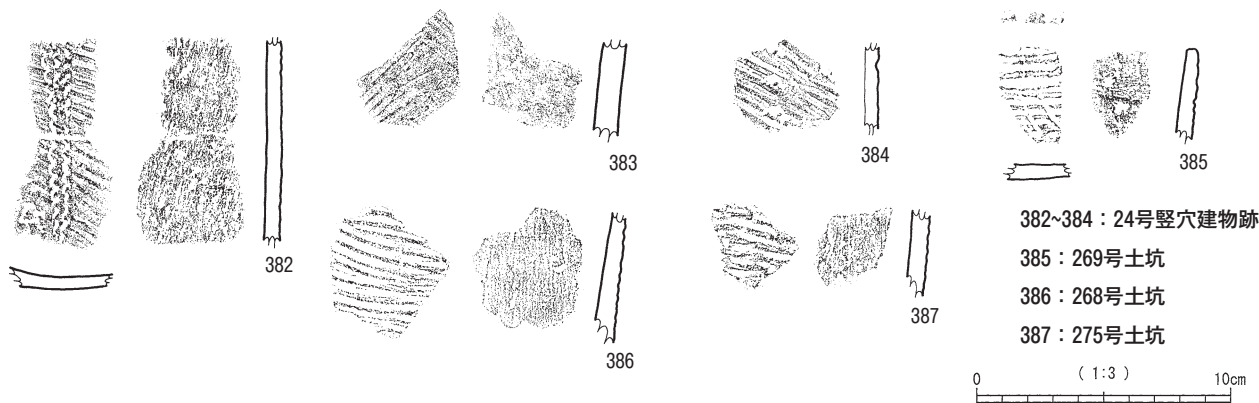


第240図 重複遺構75

号竪穴建物跡から土器5点, 275号土坑から土器2点, 118号連穴土坑から土器1点, 268号土坑から土器2点, 269号土坑から土器3点であり, そのうち24号竪穴建物跡から土器3点, 275号土坑から土器1点, 268号土坑か

ら土器1点, 269号土坑から土器1点を図化した。382は斜位の貝殻条痕文に貝殻刺突文が重なる。横断面の形状から角筒土器と思われる。384は斜位の貝殻条痕文に短い横位の貝殻刺突文を重ねる。

- ①黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り 黄橙色バミス多量,白色バミスを少量含む
- ②黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層を少量,黄橙色バミス,白色バミスを微量含む
- ③-1 にぶい黄褐色粘質土 XI層主体に黒褐色砂質シルト,白色バミスを微量含む
- ③-2 灰黄褐色粘質土 XI層主体に黒褐色砂質シルト,白色バミスを微量含む
- ④黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層中量,黄橙色バミス,白色バミス,炭化物を微量含む
- ⑤褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黄橙色バミス,白色バミスを微量含む
- ⑥黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層少量,黄橙色バミスと白色バミスを微量含む
- ⑦-1 灰黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルトを少量,白色バミスを微量含む
- ⑦-2 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有りXI層主体に炭化物を微量含む
- ⑦-3 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有りXI層主体に黒褐色砂質シルトを少量,黄橙色バミスと白色バミスを微量含む
- ⑦-4 褐色粘質土 締まりやや有り 粘性強い XI層主体に黒褐色砂質シルト,黄橙色バミス,白色バミスを微量含む
- ⑧黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層中量,黄橙色バミス,白色バミス,炭化物を微量含む
- ⑨黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層少量,黄橙色バミスと白色バミスを微量含む
- ⑩-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルトと白色バミスを微量含む
- ⑩-2 灰黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性強い XI層主体に黒褐色砂質シルトと白色バミスを微量含む
- ⑪-1 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り 白色バミス中量,XI層少量,黄橙色バミス微量含む
- ⑪-2 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層中量 白色バミス少量 黄橙色バミス微量含む
- ⑫-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黒褐色砂質シルトを少量,白色バミス,炭化物を微量含む
- ⑫-2 灰黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性強い XI層主体に白色バミス少量,黄橙色バミスを微量含む
- ⑬締まり有り粘性やや有り 白色バミス中量,XI層少量,黄橙色バミス,炭化物を微量含む
- ⑭にぶい黄褐色粘質土 XI層主体に黒褐色砂質シルト,白色バミスを微量含む
- ⑮黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り XI層少量,黄橙色バミス,白色バミス,炭化物を微量含む
- ⑯褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に白色バミス,炭化物を微量含む



第241図 重複遺構75出土遺物

重複遺構76 (第242図)

A・B-39区で検出した。当初、X層上面で276号土坑南端と277号土坑北端とが重複していることを確認したが、調査区境であったため、再度拡張してプランの全体像の把握に努めた。その結果、277号土坑の南側はⅧb層において上面を捉え、土坑外側に掘り込みを確認することが出来た。このことから、277号土坑は連穴土坑の可能性も視野に調査を進めたが、断定するには至らなかった。遺構内遺物と判断したものは、276号土坑から土器3点であり、そのうち土器1点を図化した。

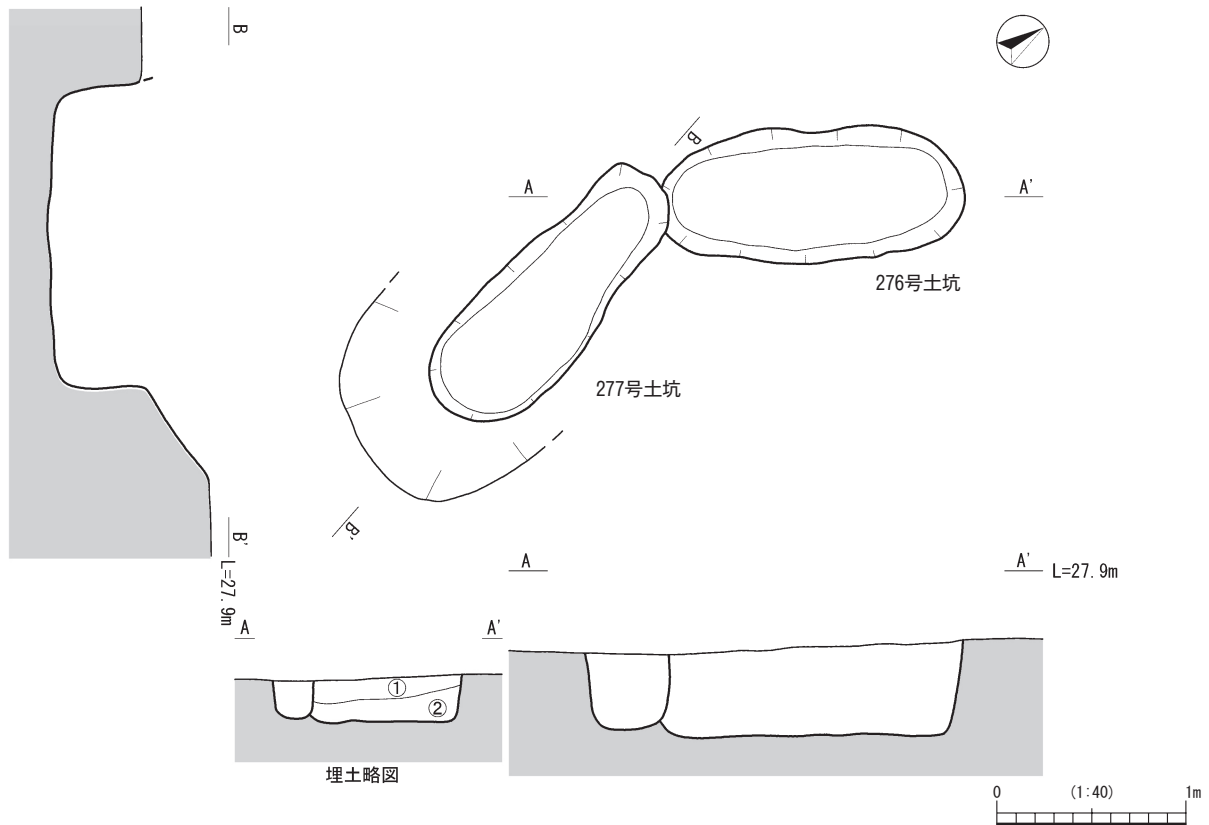
重複遺構77 (第245図)

A・B-39・40区X層で検出した。279号・280号土坑が重複している。埋土の堆積状況等から、280号土坑が279号土坑の東端を切ると判断した。280号土坑は検出面から床面までが約50cmと深く、埋土中位から比較的大きめの土器片が出土している。遺構内遺物と判断したものは、280号土坑から土器14点であり、そのうち土器7点を図化した。392は口唇部が平坦でキザミを施す。口縁

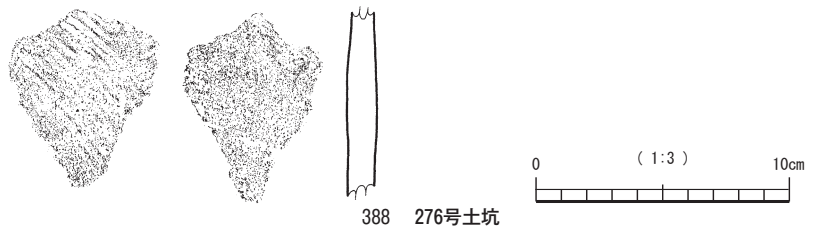
部にもキザミが施され胴部は横位の貝殻条痕文が施される。395は、口縁部に横位の貝殻刺突文が3条めぐり、胴部は綾杉条痕文が施される。

重複遺構78 (第243図)

B-39・40区X層で検出された。連穴土坑1基、土坑7基、集石1基が重複しており、発掘調査段階の位置情報を元に整理作業で復元した。円形プランの小型の土坑が楕円形プランの土坑に切られる傾向にある。121号連穴土坑は焼土や炭化物等は確認されなかったが、わずかにブリッジの痕跡が残存するため連穴土坑として取り扱った。286号土坑は部分的に深く掘り下げられているが、その用途は不明である。281号土坑、284号土坑の埋土中からは礫が出土した。遺構内遺物と判断したものは、287号土坑から土器1点、286号土坑から土器1点、285号土坑から土器1点、288号土坑から土器3点であり、そのうち287号土坑から土器1点、285号土坑から土器1点、288号土坑から土器1点を図化した。390と391は角筒土器である。



- ①暗褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り 白色バミス多量,黄橙色バミス少量含む
- ②にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に黄橙色バミスと白色バミス少量含む



第242図 重複遺構76・出土遺物

重複遺構79 (第246図)

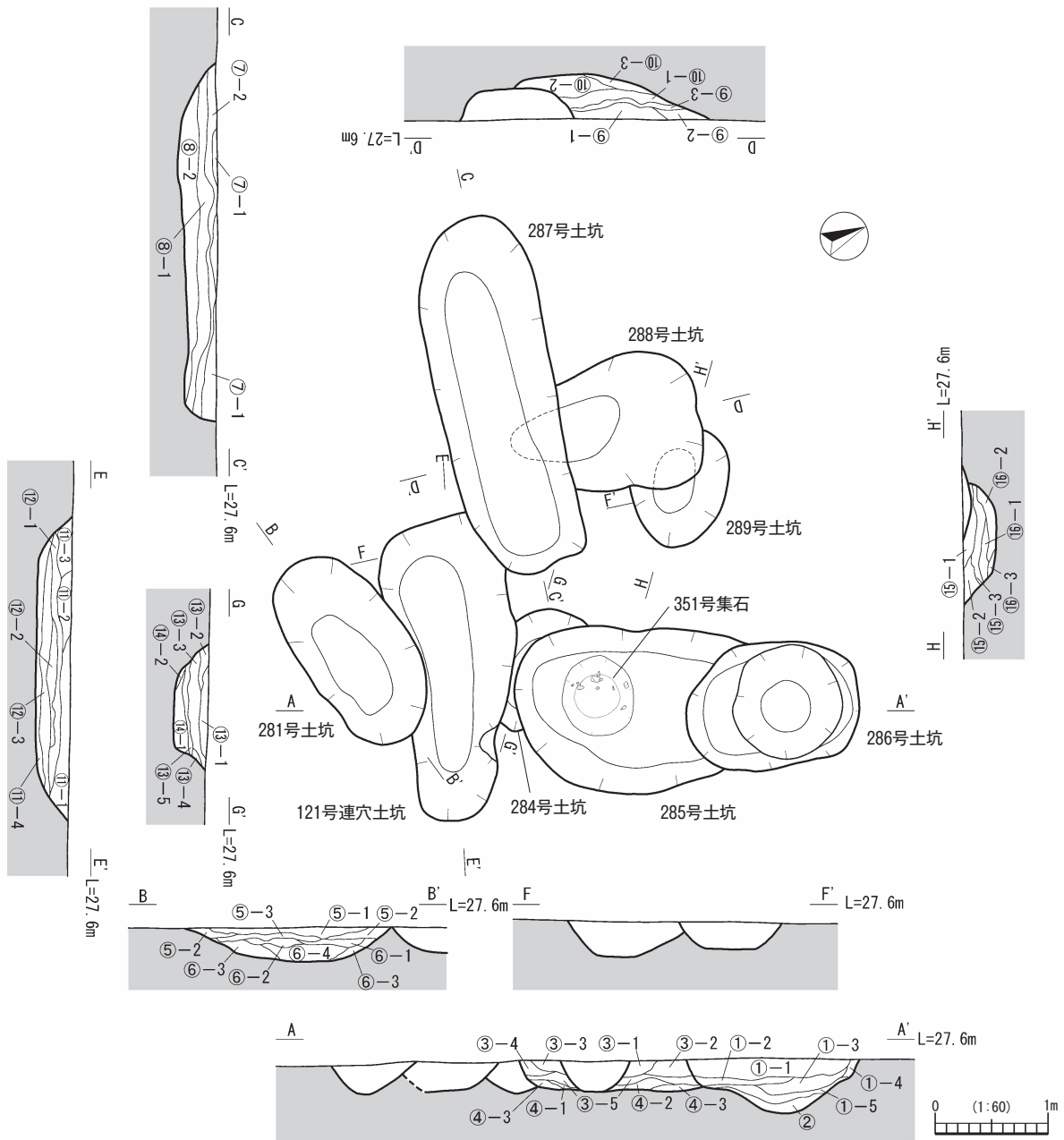
B-40区X層で検出した。291号・292号土坑, 355号集石が重複している。291号土坑が292号土坑南側を浅く切り, 291号土坑の東側を355号集石が切る。遺構内遺物と判断したものは, 292号土坑から土器1点であり, 図化した。

重複遺構80 (第248図)

B-40区X層で検出した。295号土坑と358号集石とが重複している。埋土の堆積状況等から, 295号土坑の南端が358号集石に切られ, また, 中世の堀跡の底面が一部埋土を切っている状況も認められた。床面は, 東側長軸方向に緩やかに傾斜しているが, 一様で無く安定していない。遺構内遺物は確認できなかった。

重複遺構81 (第247図)

B・C-40区X層で検出した。300号~303号土坑が重複しており, 発掘調査段階の位置情報を元に整理作業で復元した。埋土や重複の状況から301号土坑が古く, これを300号土坑と302号土坑が切り, 302号土坑は303号土坑に切られるという新旧関係が見られた。301号土坑は楕円形プランで, 床面は緩やかに北側へ傾斜する。楕円形プランの土坑は連穴土坑の形状に類似するが, ブリッジやその痕跡, 焼土や炭化物等の集中が見られなかったため, いずれも土坑として取り扱った。遺構内遺物と判断したものは, 300号土坑から土器2点, 301号土坑から土器1点であり, そのうち300号土坑から土器1点, 301号土坑から土器1点を図化した。



第243図 重複遺構78

重複遺構82 (第249図)

C-40区X層で検出した。305号土坑と361号集石が重複しており、埋土の堆積状況等から、361号集石が305号土坑の西壁を切ると判断した。遺構内遺物は確認できなかった。

重複遺構83 (第249図)

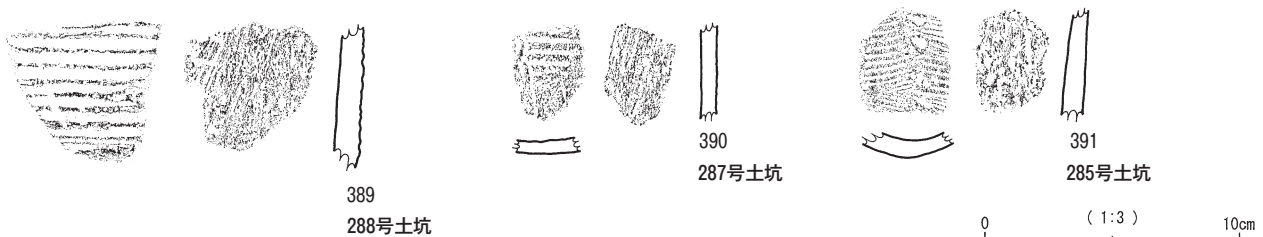
C-40区X層で検出した。308号土坑と309号土坑が重複しており、埋土の堆積状況等から、309号土坑が308号土坑の北西側を切ると判断した。309号土坑の埋土中からは礫が数点出土し、308号土坑の埋土上部からは土器

が出土している。遺構内遺物と判断したものは、309号土坑から土器1点、308号土坑から土器1点であり、そのうち309号土坑から土器1点、308号土坑から土器1点を図化した。

重複遺構84 (第250図)

C-40区X層で検出した。310号土坑と365号集石とが重複している。埋土の堆積状況等から、365号集石が310号土坑の南半分を切ると判断し、365号集石は310号土坑のプランにほぼ収まる。埋土状況とわずかに深い掘り込み状況から別遺構の重複として記録した。遺構内遺物は

- ①-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス多量,1mm大の白色バミス多量含む
- ①-2 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス微量含む
- ①-3 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量,1mm大の白色バミス少量含む
- ①-4 褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い IX層類似 3mm大の黄色バミス微量,1mm大の白色バミス微量,X層を少量含む
- ①-5 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス微量,X層を中量含む
- ② 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似
- ③-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス多量,1mm大の白色バミス多量含む
- ③-2 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス中量 XI層微量 3cm大の軽石含む
- ③-3 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス中量含む
- ③-4 褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い IX層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス微量 XI層微量含む
- ③-5 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量,1mm大の白色バミス少量,XI層多量含む
- ④-1 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似
- ④-2 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 黒褐色土微量含む
- ④-3 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似
- ⑤-1 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス少量含む
- ⑤-2 褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量,1mm大の白色バミス微量,X層中量含む
- ⑤-3 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量,XI層多量含む
- ⑥-1 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 明黄褐色粒子微量含む
- ⑥-2 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子微量含む
- ⑥-3 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似
- ⑥-4 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 黒褐色土少量含む
- ⑦-1 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱いVIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス中量含む
- ⑦-2 暗褐色砂質シルト 締まりあり 粘性あり VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量,1mm大の白色バミス微量,XI層を中量含む
- ⑧-1 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1~3mm大の白色粒子微量,VIIa層をブロック状に微量含む
- ⑧-2 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1~5mm大の明黄褐色粒子微量含む
- ⑨-1 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス少量,XI層微量含む
- ⑨-2 褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い IX層類似 3mm大の黄色バミス微量,1mm大の白色バミス少量,XI層微量含む
- ⑨-3 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性あり VIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス少量,XI層多量含む
- ⑩-1 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 0.5~1cm大の褐色粒子微量,1mm大の白色粒子微量含む
- ⑩-2 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 0.5~1cm大の褐色粒子少量,1mm大の白色粒子微量含む
- ⑩-3 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子微量含む
- ⑪-1 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス多量,1mm大の白色バミス多量含む
- ⑪-2 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス微量含む
- ⑪-3 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス中量含む
- ⑪-4 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量,XI層多量含む
- ⑫-1 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子微量含む
- ⑫-2 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子微量,3~5mm大の褐色粒子微量,赤褐色土微量含む
- ⑫-3 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子微量含む
- ⑬-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス多量,1mm大の白色バミス中量含む
- ⑬-2 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量,1mm大の白色バミス少量含む
- ⑬-3 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス微量,XI層少量含む
- ⑬-4 褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い IX層類似 3mm大の黄色バミス微量,X層微量含む
- ⑬-5 暗褐色砂質シルト 締まり有り 粘性有り VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量,XI層多量含む
- ⑭-1 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の褐色粒子微量,1mm大の白色粒子微量,黒褐色土 (VIIa層) 微量含む
- ⑭-2 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子微量含む
- ⑮-1 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス多量,1mm大の白色バミス多量含む
- ⑮-2 褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い IX層類似 3mm大の黄色バミス多量,1mm大の白色バミス多量含む
- ⑮-3 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量,XI層中量含む
- ⑯-1 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子少量含む
- ⑯-2 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子微量,1mm大の褐色粒子少量,赤褐色土 (XI層) 少量含む
- ⑯-3 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子微量含む



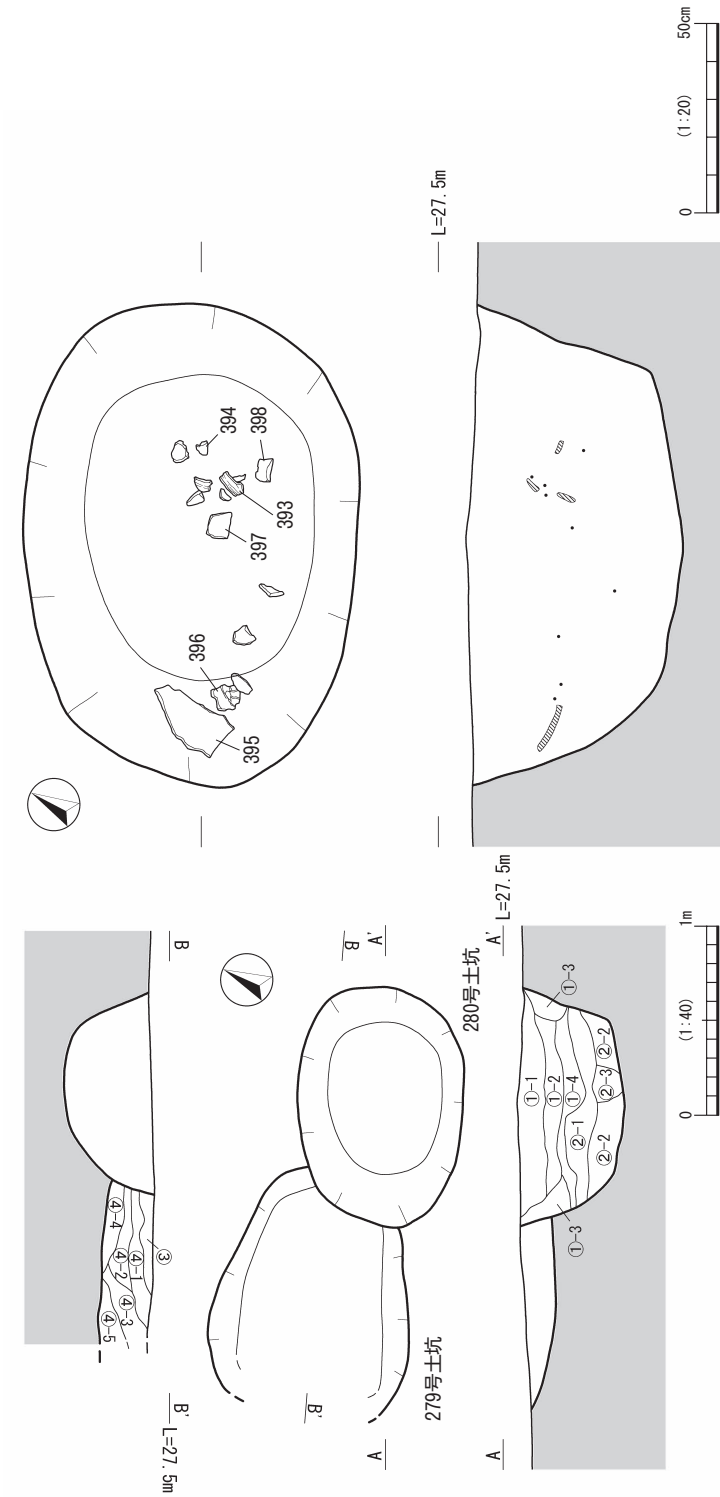
第244図 重複遺構78出土遺物

確認できなかった。

重複遺構85 (第250図)

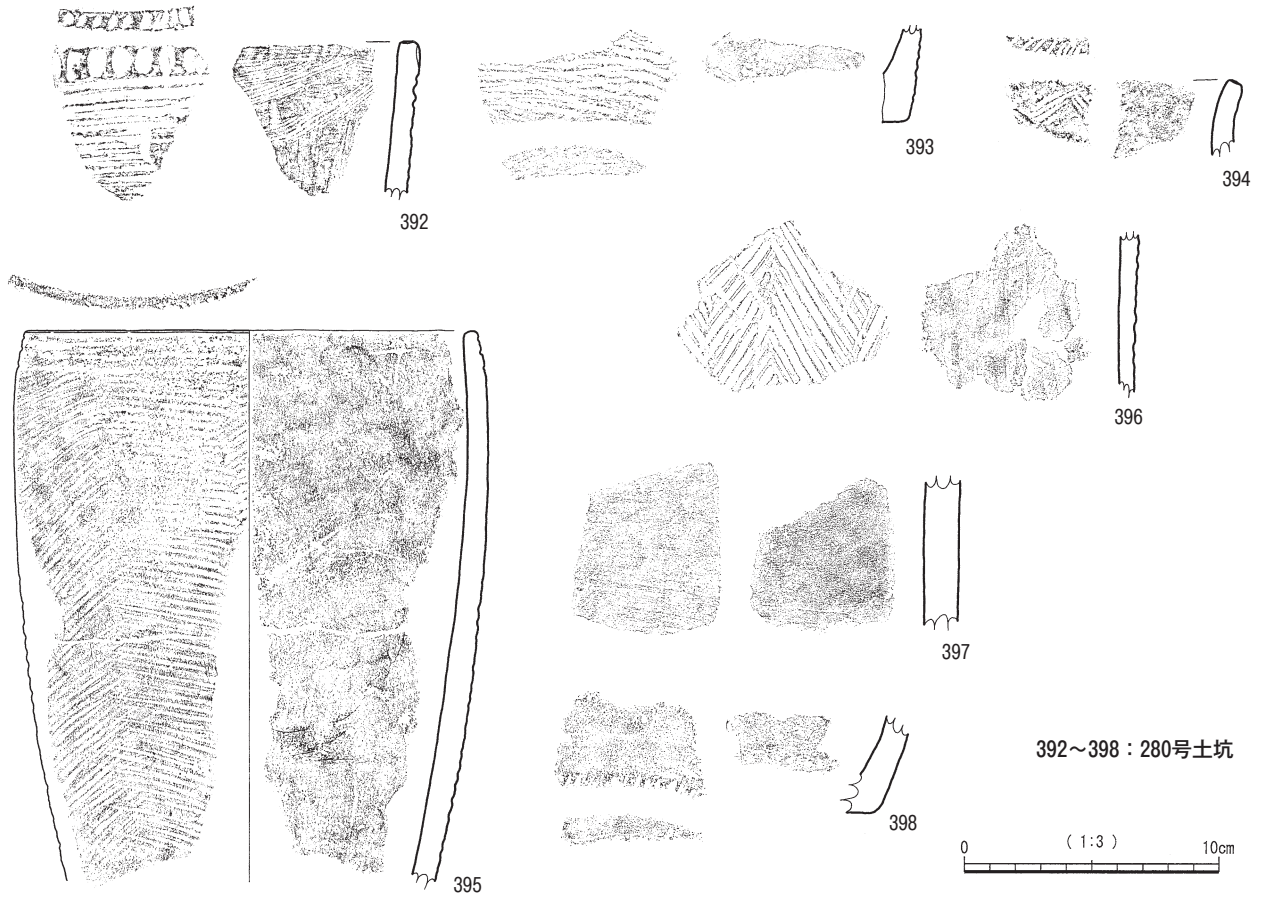
C-40区X層で検出した。313号・314号土坑が重複している。埋土の堆積状況等から、313号土坑の北端が314

号土坑に切られると判断した。両者ともに、埋土は重層的である。遺構内遺物と判断したものは、314号土坑から土器1点であり、図化した。404は胴部に太い貝殻条痕文が施され、底部接地面には編み物圧痕が残る。

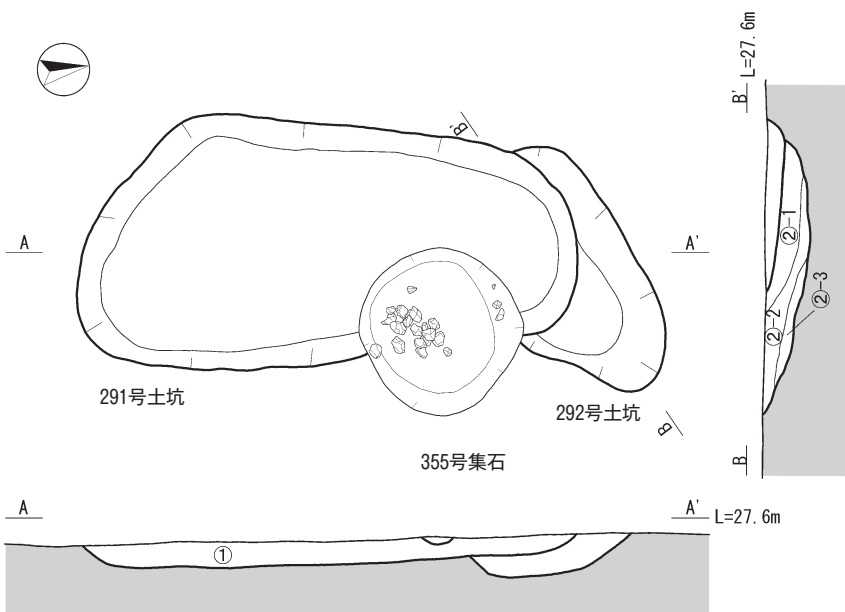


- ①-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 1mm大の白色バミス中量, 3mm大の黄色バミス多量含む
- ①-2 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 1mm大の白色バミス微量, 3mm大の黄色バミス少量, XI層を微量含む
- ①-3 褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い IX層類似 1mm大の白色バミス微量, 1mm大の黄色バミス少量含む
- ①-4 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性有り VIIa層類似 1mm大の白色バミス微量, XI層多量含む
- ②-1 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似
- ②-2 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似
- ②-3 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い VIIa層をブロック状に中量含む
- ③ 暗褐色砂質シルト 締まり有り 粘性有り VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量, XI層を少量含む
- ④-1 赤褐色粘質土 締まりやや強い 粘性やや強い XI層類似
- ④-2 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1cm大の黒褐色土少量含む
- ④-3 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1cm大の赤褐色土少量含む
- ④-4 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子少量含む
- ④-5 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似

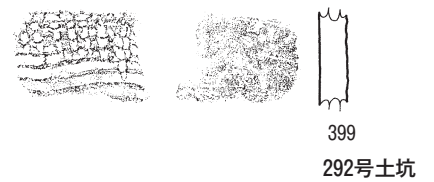
第245図 重複遺構77・280号土坑遺物出土状況



392~398 : 280号土坑

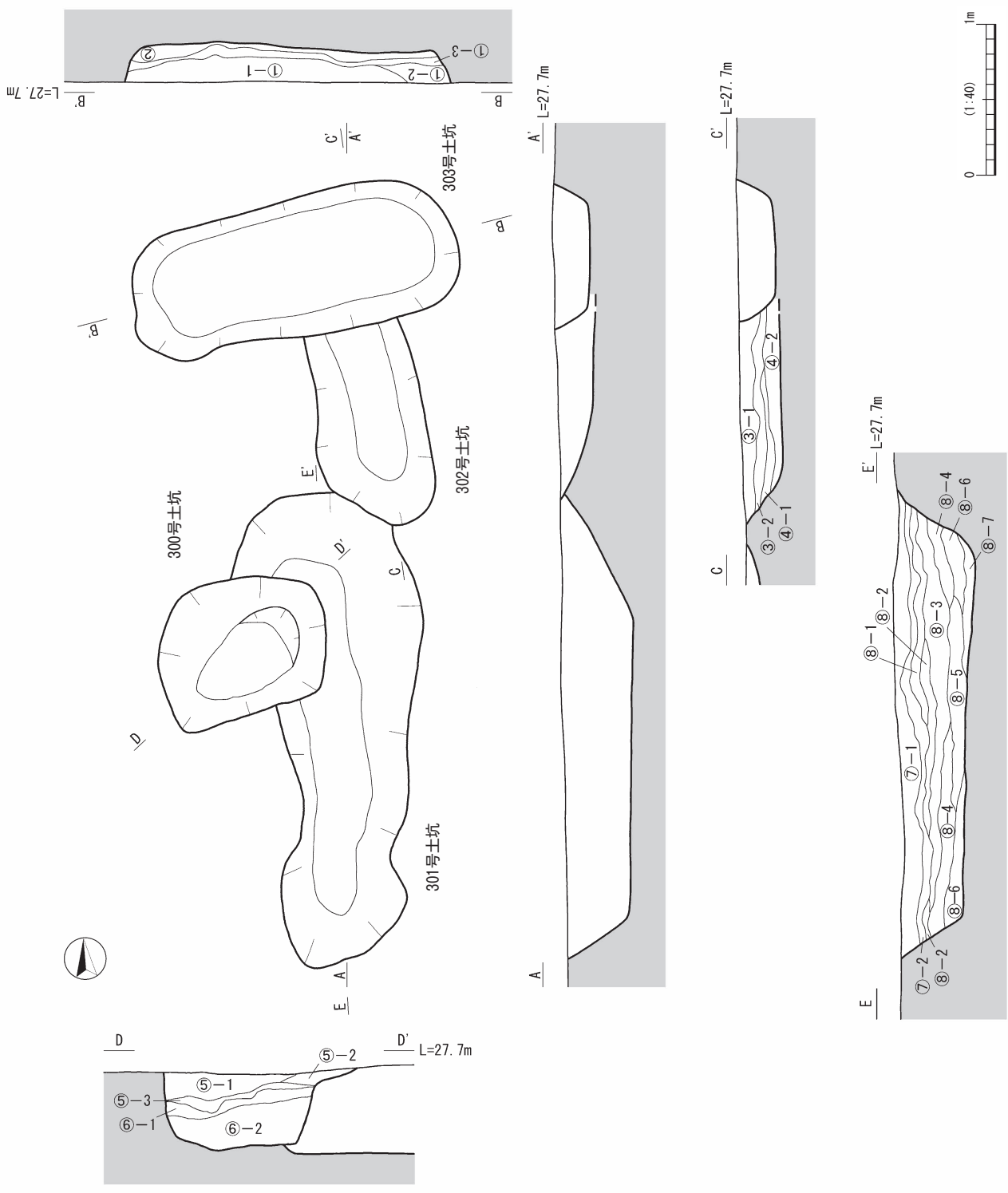


- ① 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス多量, 1mm大の白色バミス多量含む
- ②-1 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス中量, 1mm大の白色バミス少量含む
- ②-2 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量, 1mm大の白色バミス微量含む
- ②-3 褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い IX層類似 3mm大の黄色バミス微量



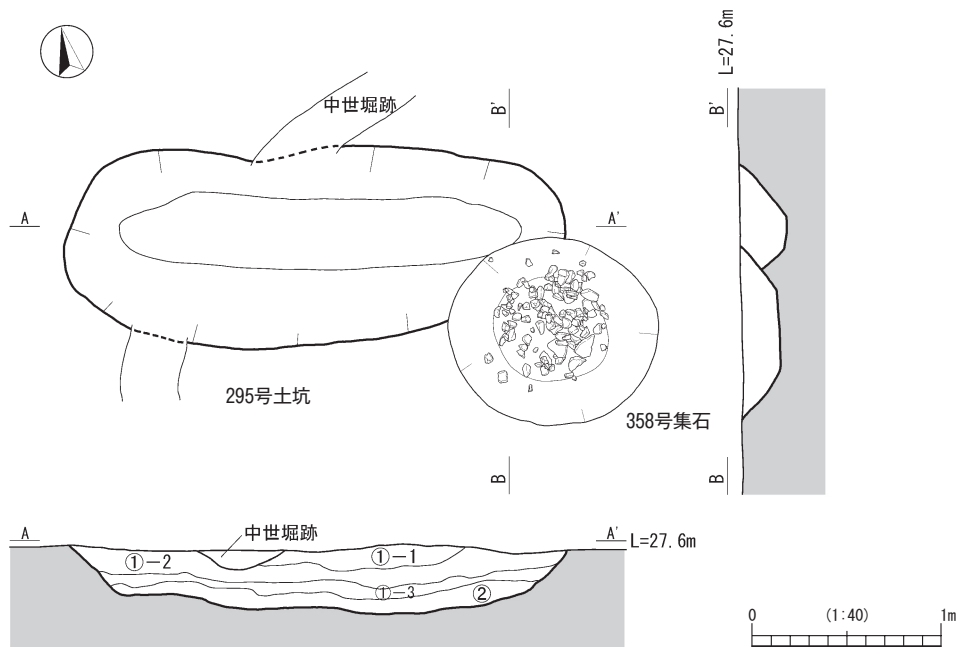
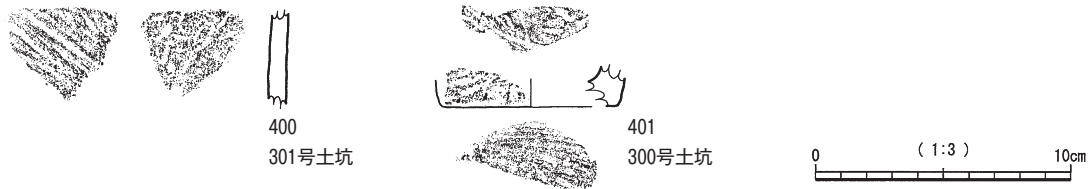
399
292号土坑

第246図 重複遺構79・重複遺構77, 79出土遺物



第247図 重複遺構81

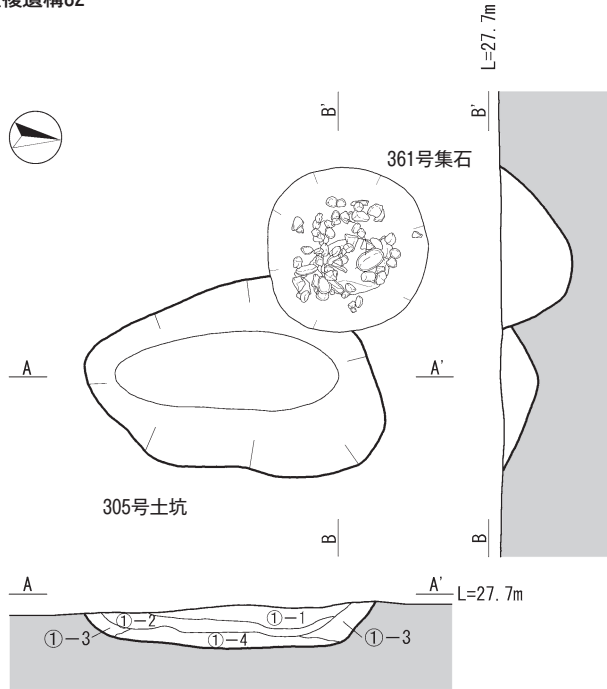
- ①-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス多量,1mm大の白色バミス多量含む
- ①-2 褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い IX層類似 3mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス少量含む
- ①-3 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量,1mm大の白色バミス微量,XI層中量含む
- ② 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似
- ③-1 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス中量含む
- ③-2 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 1mm大の白色バミス微量
- ④-1 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 3mm大の橙色粒子微量含む
- ④-2 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子微量含む
- ⑤-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス中量含む
- ⑤-2 褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い IX層類似 3mm大の黄色バミス微量,1mm大の白色バミス中量含む
- ⑤-3 暗褐色砂質シルト 締まり有り 粘性有り VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量,XI層を中量含む
- ⑥-1 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似
- ⑥-2 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似
- ⑦-1 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3~5mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス中量,X層少量含む
- ⑦-2 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス微量,XI層中量含む
- ⑧-1 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子少量,黒褐色土微量含む
- ⑧-2 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子微量,暗赤褐色土少量含む
- ⑧-3 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1~3mm大の白色粒子少量含む
- ⑧-4 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 赤褐色土少量含む
- ⑧-5 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子微量含む
- ⑧-6 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似
- ⑧-7 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 褐色土微量含む



- ①-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス多量含む
- ①-2 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス多量,1mm大の白色バミス多量,XI層を微量含む
- ①-3 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量,1mm大の白色バミス少量,XI層を中量含む
- ② 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似

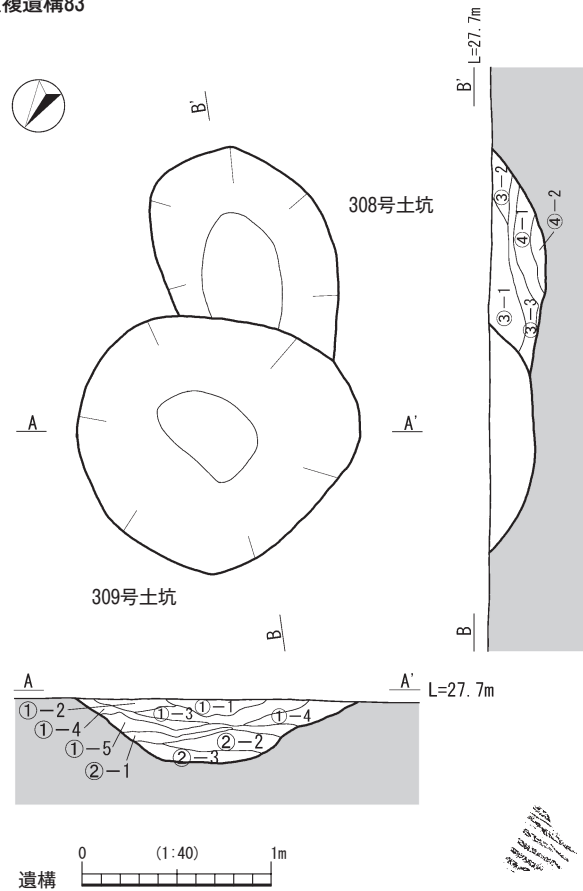
第248図 重複遺構80・重複遺構81出土遺物

重複遺構82

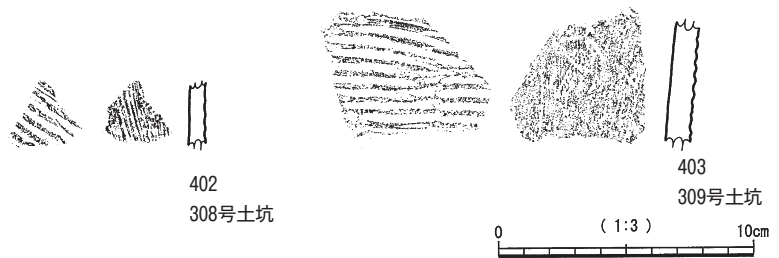


- ①-1 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス多量,1mm大の白色バミス多量含む
- ①-2 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス多量,1mm大の白色バミス多量,XI層中量含む
- ①-3 褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い IX層類似 3mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス少量含む
- ①-4 暗褐色砂質シルト 締まりあり 粘性あり VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量,1mm大の白色バミス少量,XI層多量含む

重複遺構83

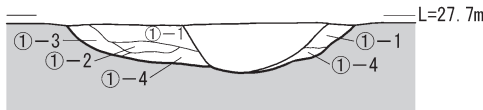
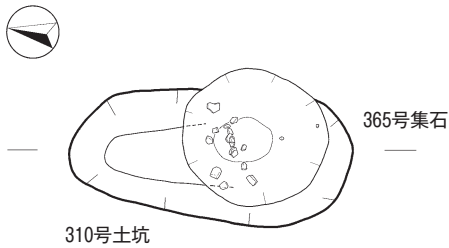


- ①-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス多量,1mm大の白色バミス中量,炭化物多量含む
- ①-2 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス微量含む
- ①-3 褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い IX層類似 0.3~1cm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス少量含む
- ①-4 褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い IX層類似 1mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス微量含む
- ①-5 褐色砂質シルト 締まり有り 粘性有り IX層類似 1mm大の黄色バミス微量,IX層を中量含む
- ②-1 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似
- ②-2 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似
- ②-3 暗赤褐色粘質土 締まり有り 粘性やや強い XI層類似 ②-2より締まり強い
- ③-1 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス中量含む
- ③-2 褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い IX層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス少量含む
- ③-3 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量,1mm大の白色バミス少量,XI層中量含む
- ④-1 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 3mm大の褐色粒子微量,1mm大の白色粒子微量含む
- ④-2 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子微量含む

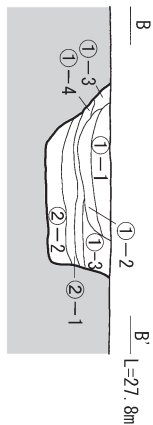


第249図 重複遺構82, 83・重複遺構83出土遺物

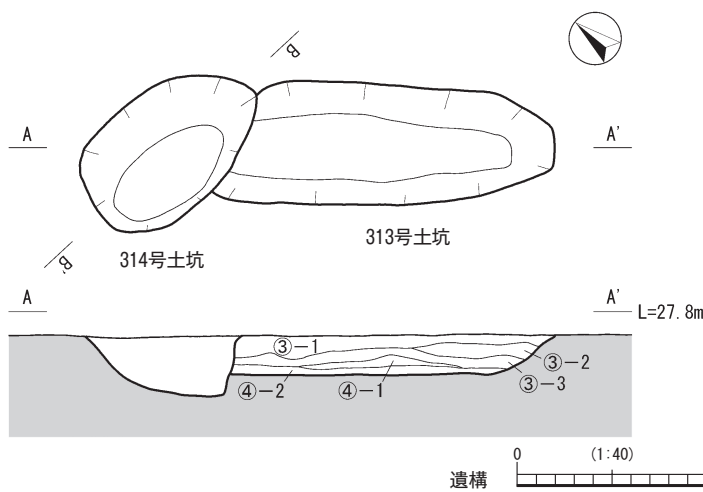
重複遺構84



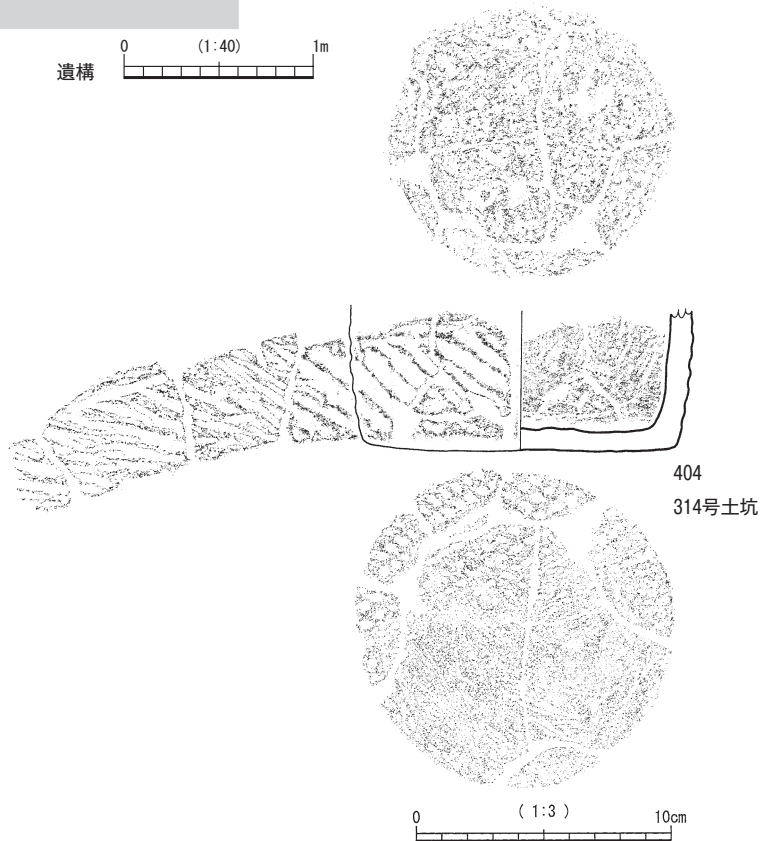
- ①-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIIa層類似 3mm大の黄色バミス中量, 1mm大の白色バミス多量含む
- ①-2 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量, 1mm大の白色バミス少量含む
- ①-3 褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い IX層類似 3mm大の黄色バミス少量, 1mm大の白色バミス少量, X層多量含む
- ①-4 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量, 1mm大の白色バミス微量, XI層多量含む



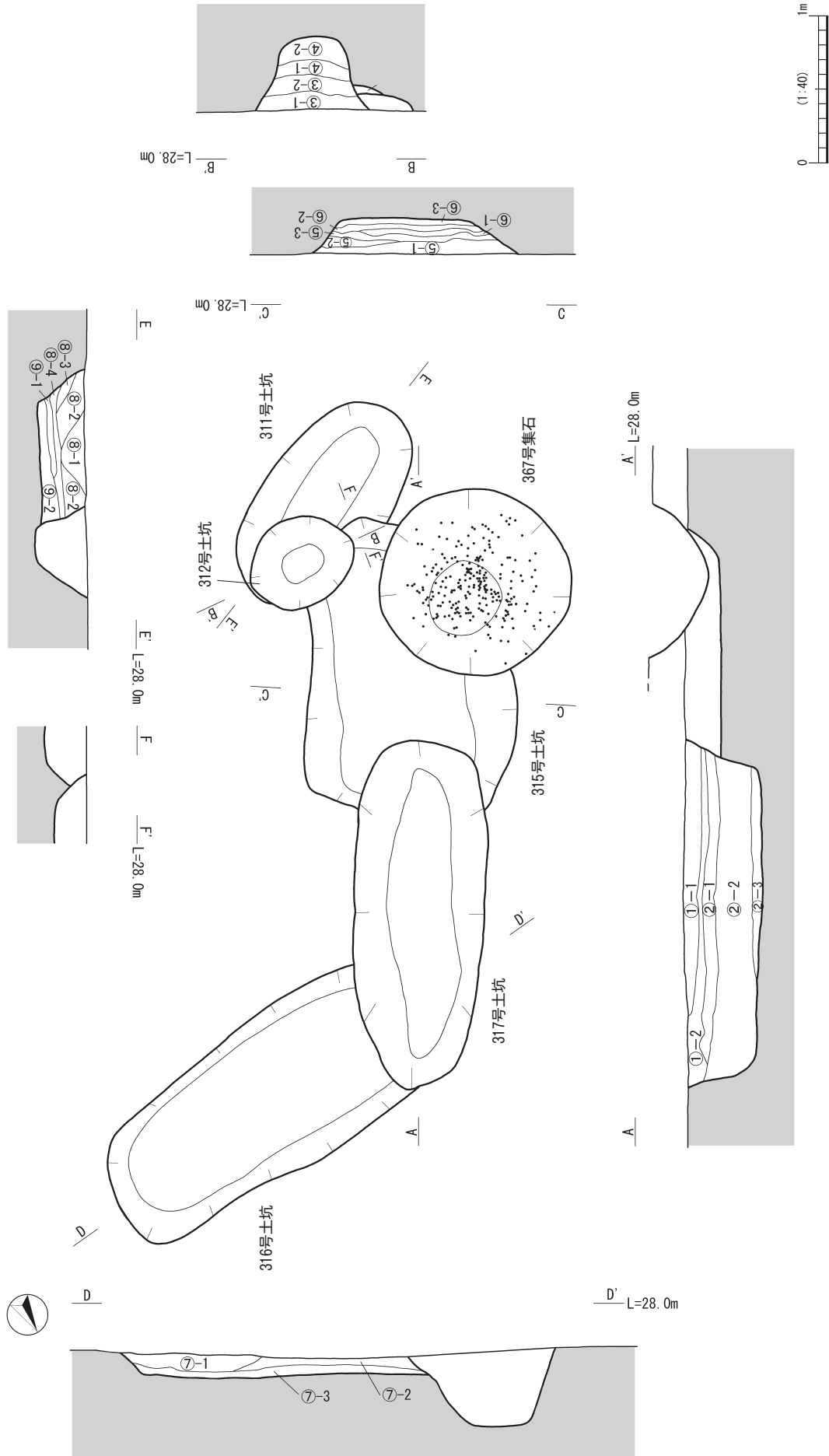
重複遺構85



- ①-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIIa層類似 3mm大の黄色バミス中量, 1mm大の白色バミス少量含む
- ①-2 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量, 1mm大の白色バミス少量含む
- ①-3 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量, 1mm大の白色バミス微量含む
- ①-4 記載なし
- ②-1 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似
- ②-2 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似
- ③-1 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量, 1mm大の白色バミス中量含む
- ③-2 褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い IX層類似 3~5mm大の黄色バミス少量, 1mm大の白色バミス中量, X層中量含む
- ③-3 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量, 1mm大の白色バミス少量, XI層中量含む
- ④-1 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子微量, 黒褐色土微量含む
- ④-2 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1~3mm大の白色粒子少量, 赤褐色土微量含む

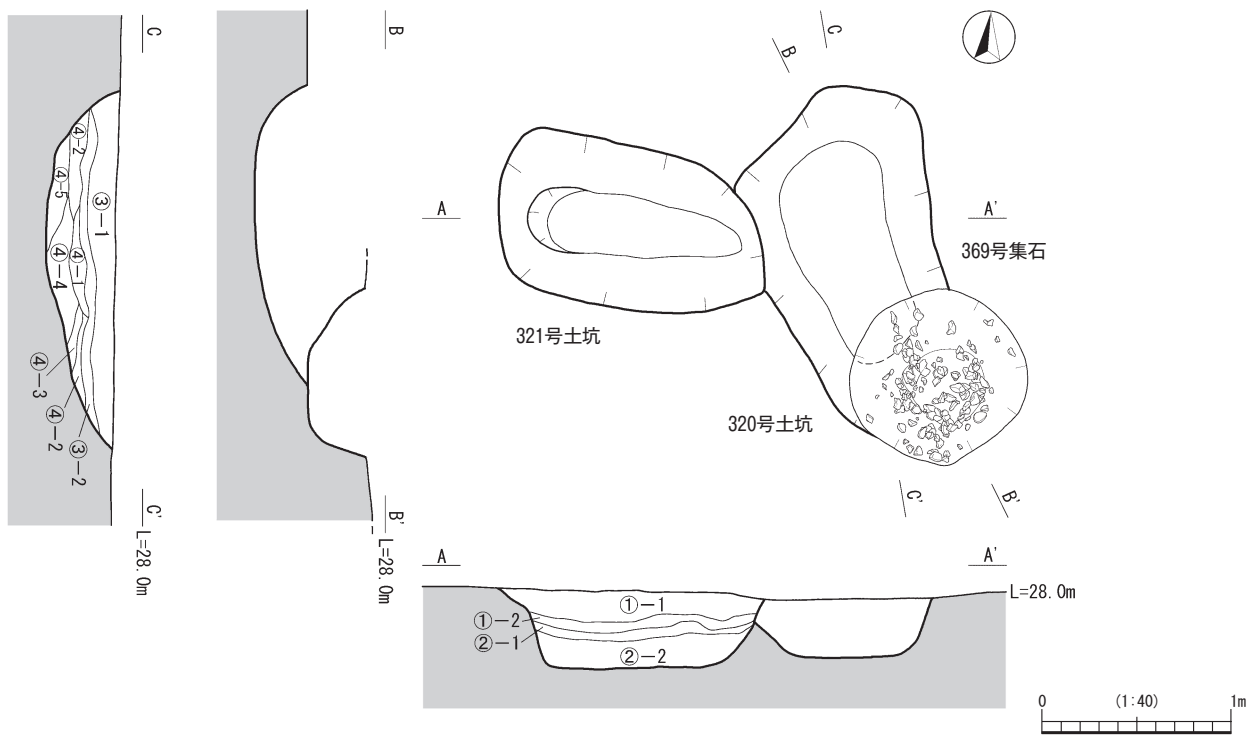


第250図 重複遺構84・85・重複遺構85出土遺物

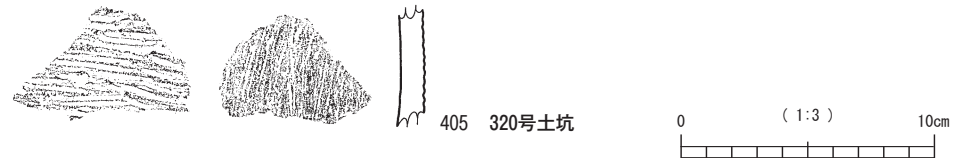


第251图 重複遺構86

- ①-1 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス中量含む
- ①-2 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス少量,XI層を中量含む
- ②-1 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似
- ②-2 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似
- ②-3 黄褐色粘質土 締まりあり 粘性あり XI層類似 XIII層をブロック状に少量含む
- ③-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 1~3mm大の黄色バミス多量,1mm大の白色バミス中量含む
- ③-2 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス少量含む
- ④-1 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似
- ④-2 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似
- ⑤-1 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス中量含む
- ⑤-2 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス少量,XI層を微量含む
- ⑤-3 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量,1mm大の白色バミス微量,XI層を多量含む
- ⑥-1 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子少量,橙色粒子微量含む
- ⑥-2 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子微量,赤褐色土(XI層)を微量含む
- ⑥-3 暗褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似
- ⑦-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス多量,1mm大の白色バミス多量含む
- ⑦-2 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス中量,XI層微量含む
- ⑦-3 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量,XI層多量含む
- ⑧-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス中量,5~10cm大の軽石微量含む
- ⑧-2 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス少量含む
- ⑧-3 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 1mm大の白色バミス微量含む
- ⑧-4 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量,XI層中量含む
- ⑨-1 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子微量含む
- ⑨-2 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子少量含む

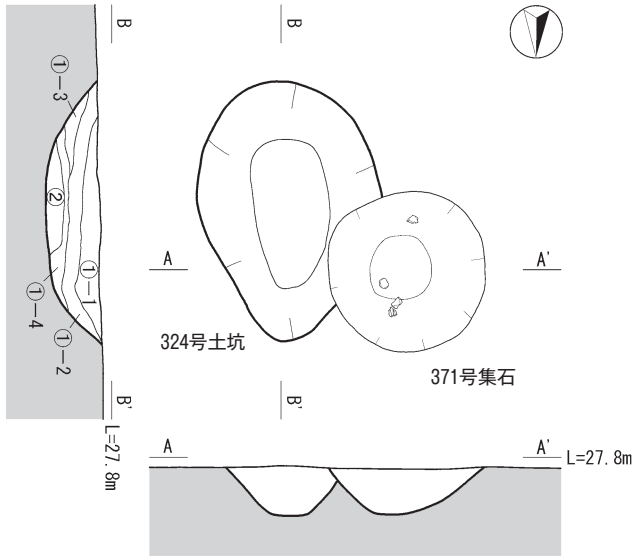


- ①-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 1mm大の白色バミス多量,3mm大の黄色バミス多量を含む
- ①-2 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 1mm大の白色バミス中量,3mm大の黄色バミス微量を含む
- ②-1 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似
- ②-2 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似
- ③-1 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 1mm大の白色バミス多量,3~5mm大の黄色バミス多量含む
- ③-2 暗褐色粘質土 締まり有り 粘性有り VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量とXI層多量含む
- ④-1 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子少量,黒褐色土少量含む
- ④-2 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子少量含む
- ④-3 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子微量,黒褐色土少量含む
- ④-4 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子微量,1~3mm大の褐色粒子少量含む
- ④-5 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子少量含む

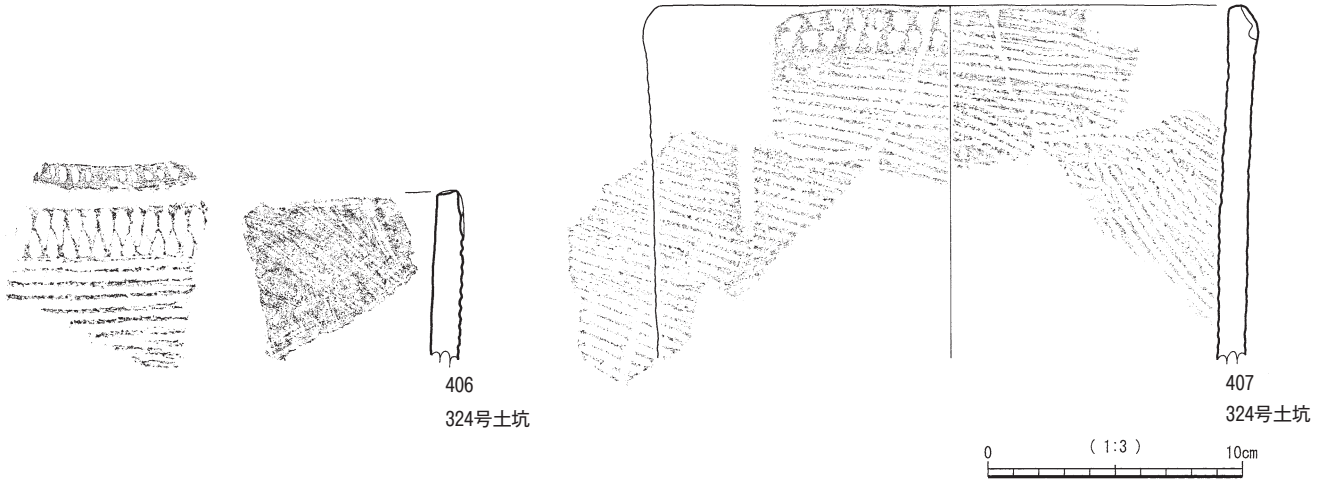


第252図 重複遺構87・出土遺物

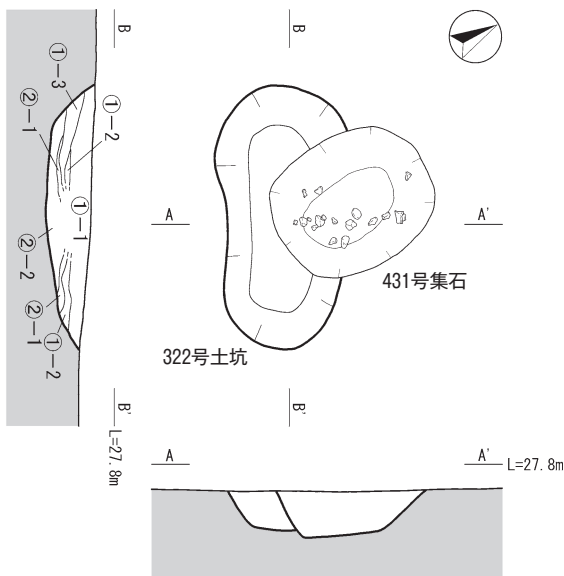
重複遺構88



- ①-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIIa層類似 3mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス多量含む
- ①-2 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス中量含む
- ①-3 褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い IX層類似 3mm大の黄色バミス微量,1mm大の白色バミス微量X層中量含む
- ①-4 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性有り VIIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量,1mm大の白色バミス微量XI層多量含む
- ② 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子少量,赤褐色土(XI層)微量含む



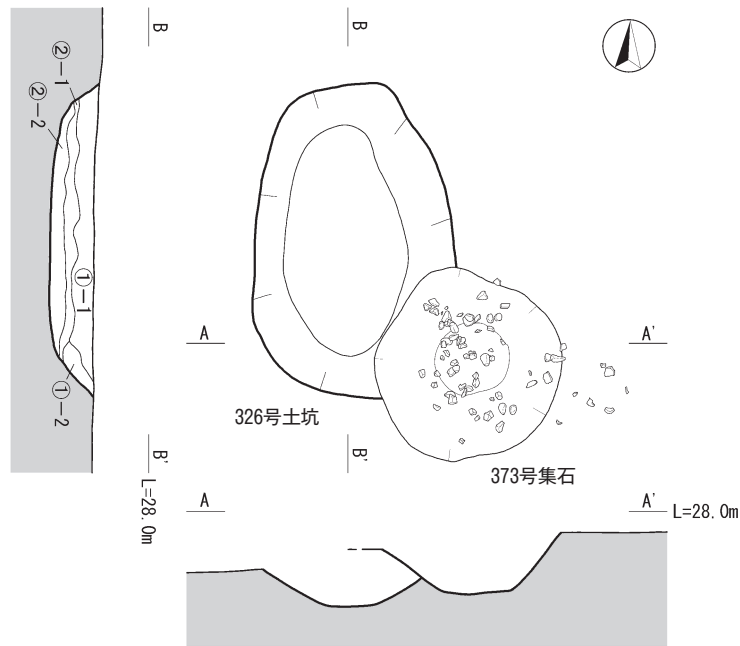
重複遺構89



- ①-1 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIIa層類似 3mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス多量含む
- ①-2 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIIa層類似 1mm大の白色バミス少量,XI層少量含む
- ①-3 暗褐色砂質シルト 締まりやや有り 粘性有り VIIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス少量,XI層多量含む
- ②-1 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の橙色粒子微量含む
- ②-2 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子少量

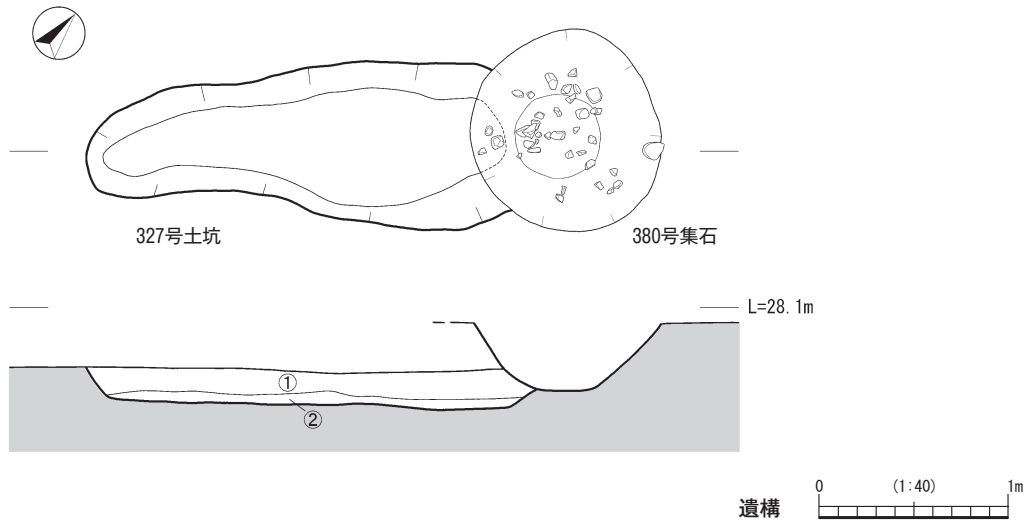
第253図 重複遺構88, 89・重複遺構88出土遺物

重複遺構90

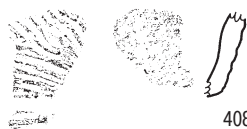


- ①-1 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス中量含む
- ①-2 褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い IX層類似 3mm大の黄色バミス微量,X層中量含む
- ②-1 赤褐色粘質土 締まり有り 粘性有り XI層類似 3mm大の黄色バミス微量,VIIa層をブロック状に少量含む
- ②-2 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1cm大の黒褐色土少量含む

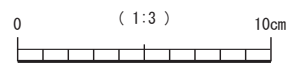
重複遺構91



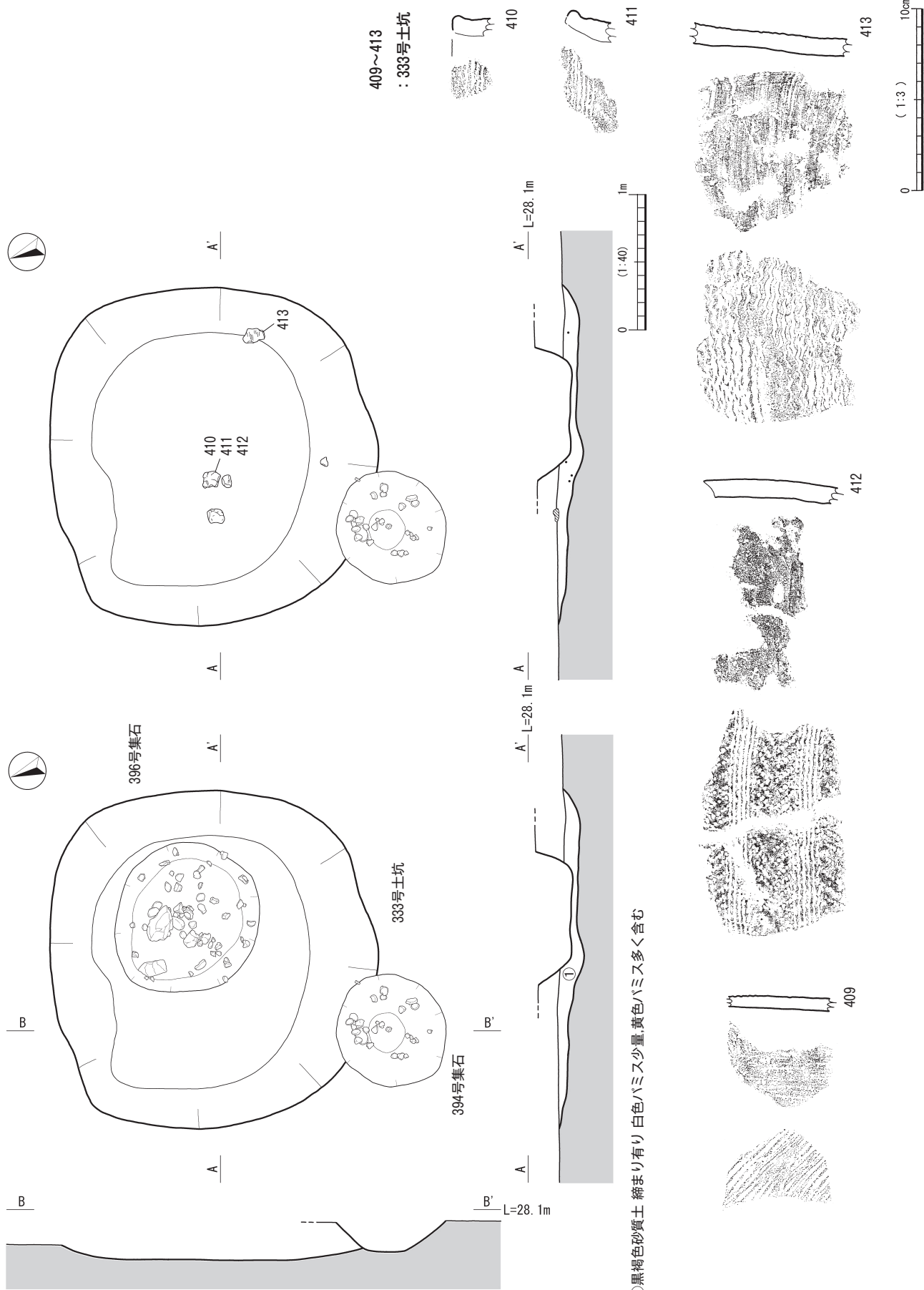
- ①暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い 3mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス少量,XI層少量含む
- ②赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い 1mm大の白色粒子微量,黒褐色土微量含む



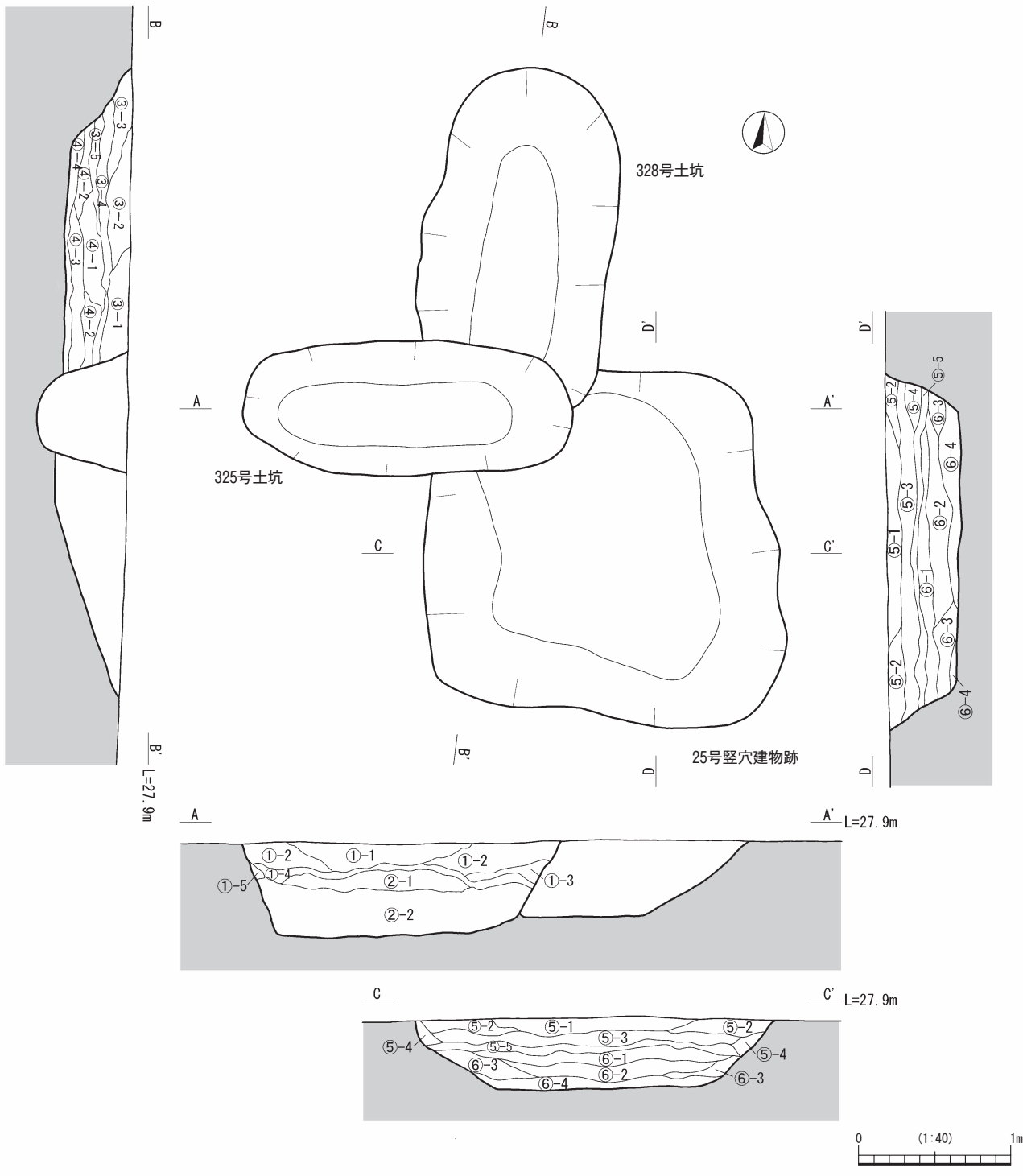
408
327号土坑



第254図 重複遺構90, 91・重複遺構91出土遺物

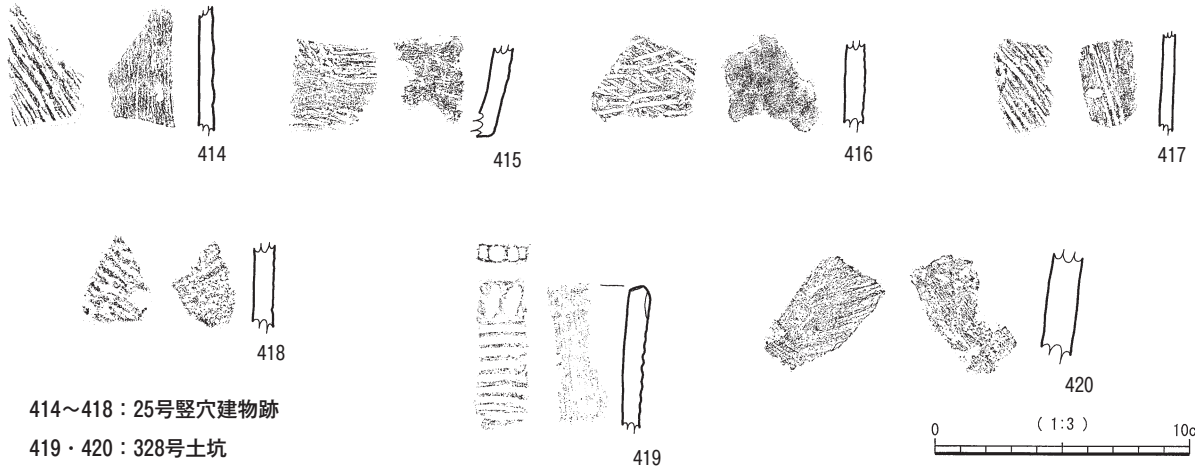


第255図 重複遺構93・出土遺物

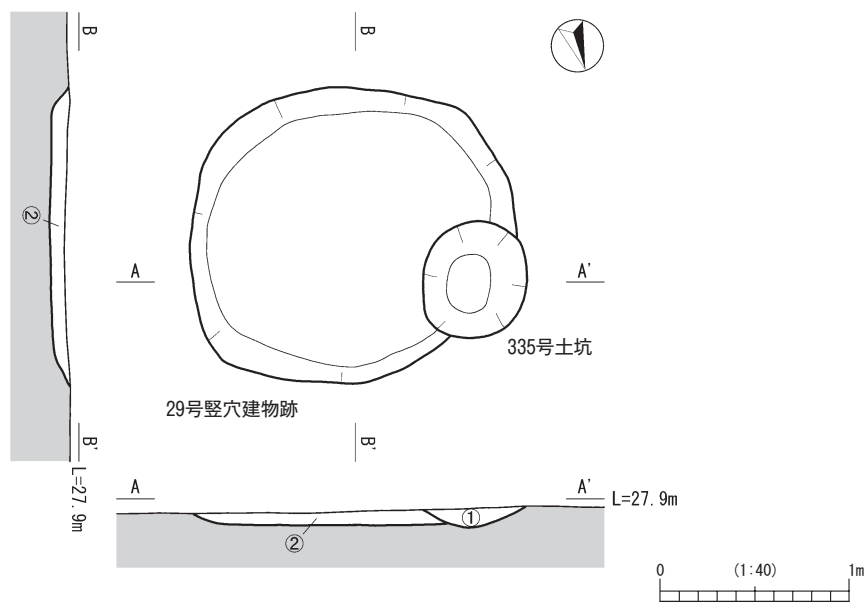


第256图 重複遺構92

- ①-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス多量,1mm大の白色バミス中量含む
- ①-2 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス少量含む
- ①-3 褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い IX層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス中量含む
- ①-4 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量,XI層中量含む
- ①-5 記述なし
- ②-1 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似
- ②-2 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似
- ③-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス多量,1mm大の白色バミス多量含む
- ③-2 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス中量含む
- ③-3 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量,1mm大の白色バミス少量含む,X層(褐色土)少量含む
- ③-4 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い,VIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス少量含む XI層少量含む
- ④-5 暗褐色砂質シルト 締まり有り 粘性有り VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量,XI層多量含む
- ④-1 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子少量含む
- ④-2 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 ④-1をブロック状に少量含む
- ④-3 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 明黄褐色粒子少量含む
- ④-4 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 ④-3より締まりが強い
- ⑤-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス多量,1mm大の白色バミス多量含む
- ⑤-2 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス多量,1mm大の白色バミス多量,X層少量含む
- ⑤-3 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス中量,X層微量含む
- ⑤-4 褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い IX層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス微量,X層多量含む
- ⑤-5 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量,XI層中量含む
- ⑥-1 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子少量含む
- ⑥-2 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子少量,赤褐色土微量含む
- ⑥-3 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子中量含む
- ⑥-4 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子微量含む

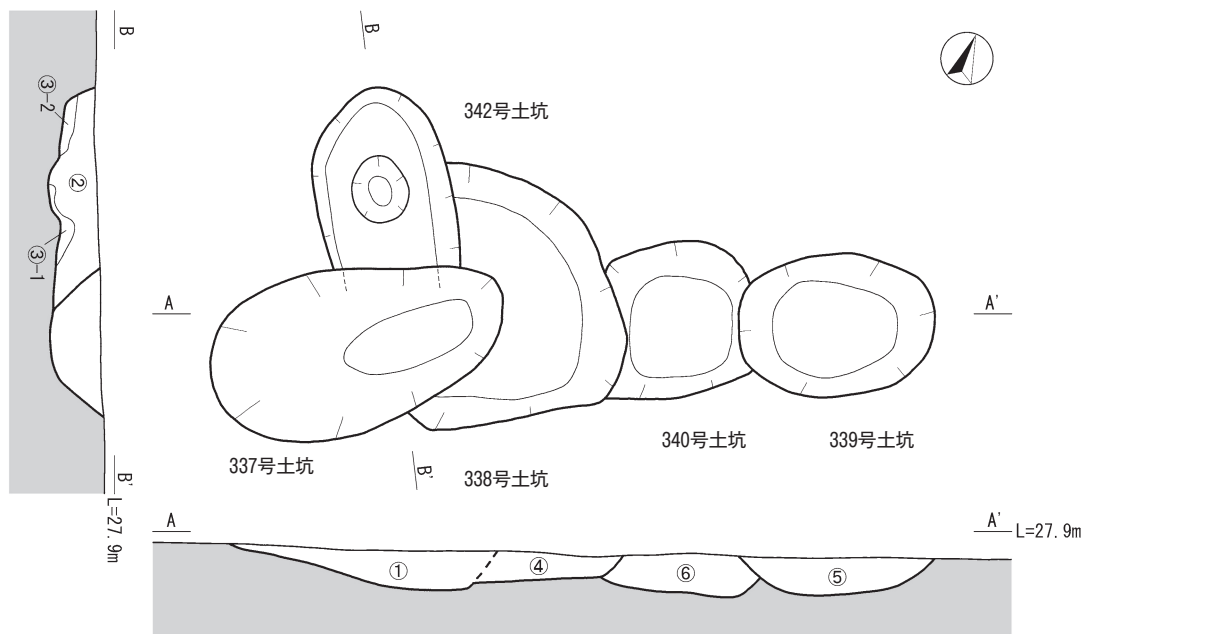


414~418 : 25号竪穴建物跡
419・420 : 328号土坑

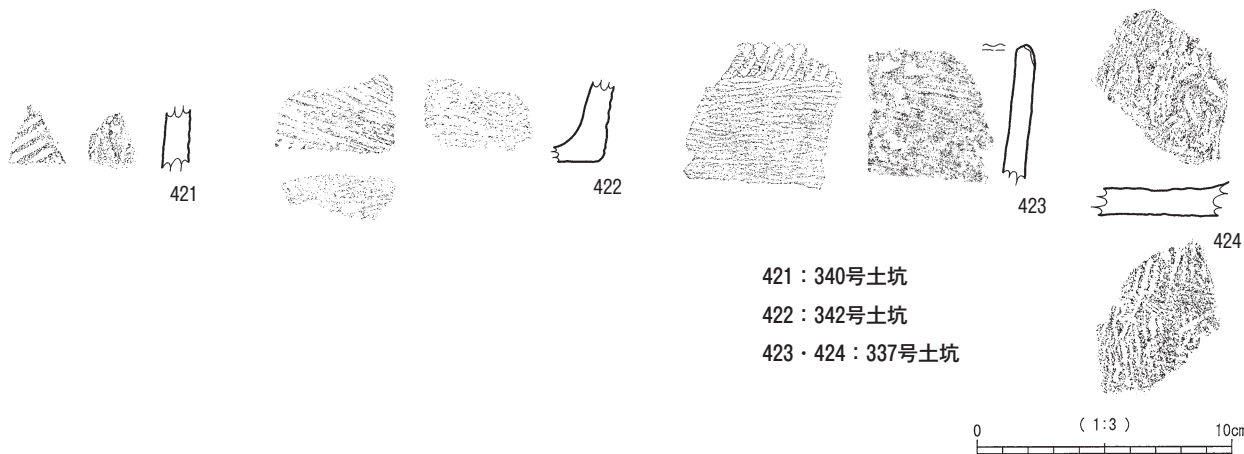
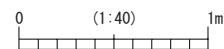


①黒褐色土 黄色バミス微量
②黒色砂質土 白色バミス少量,黄色バミス微量 締まり有り

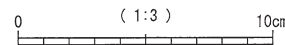
第257図 重複遺構94・重複遺構92出土遺物



- ① 黒褐色砂質土 白色バミス少量,黄色バミス微量炭粒含む
- ② 黒褐色砂質土 白色バミス多量,黄色バミス微量
- ③-1 褐色粘質土 ①層とブロック少量 締まり弱い
- ③-2 暗褐色粘質土 締まり弱い 土器出土
- ④ 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量,2~3mm大の黄色バミス少量含む
- ⑤ 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1~2mm大の白色バミス少量,5mm大の橙色バミス微量,0.5~1cm大の軽石碎片少量含む
- ⑥ 黒褐色砂質土 2mm大の黄褐色・白色バミス少量含む



421 : 340号土坑
 422 : 342号土坑
 423・424 : 337号土坑



第258図 重複遺構95・出土遺物

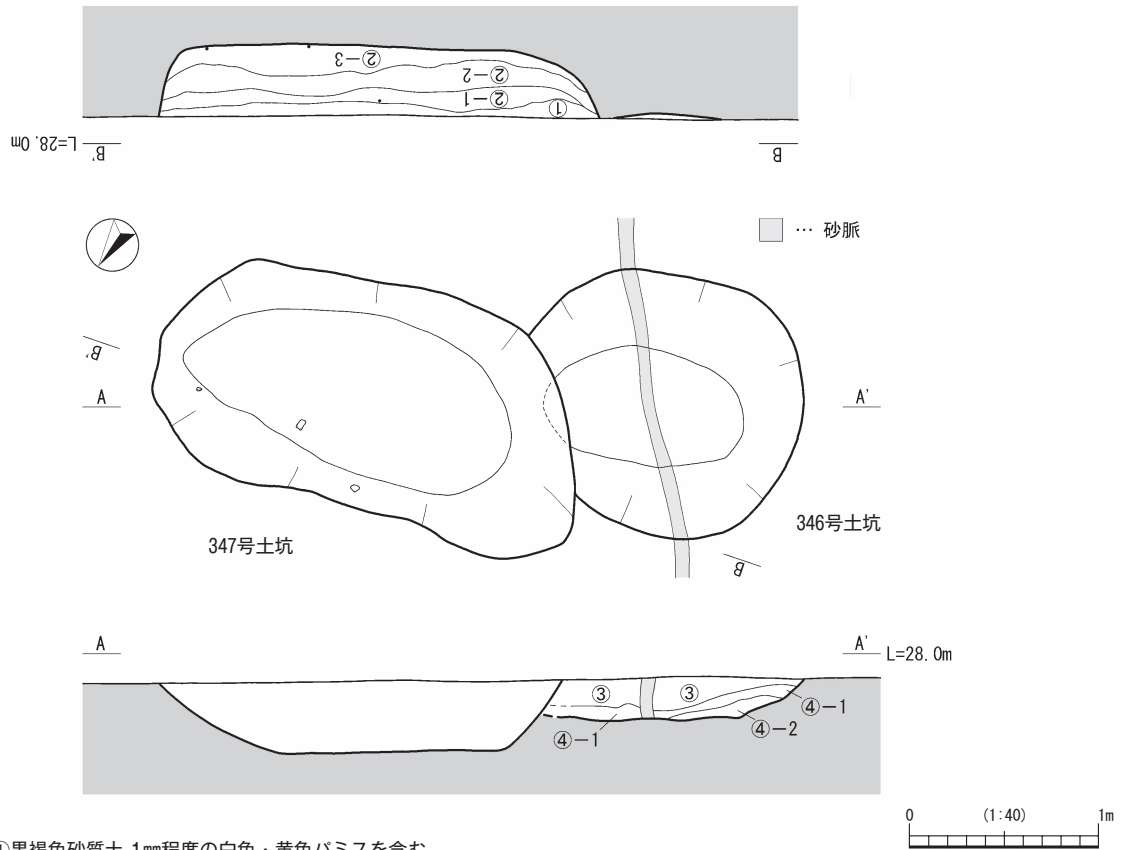
重複遺構86 (第251図)

C-40・41区から検出され、土坑5基、集石1基が南北に広がりながら重複している。367号集石はⅧb層、その他の土坑はⅩ層で検出した。埋土の堆積状況等から、367号集石が最も新しく、土坑では317号土坑や312号土坑が新しいと判断したが、この土坑2基の新旧関係を検討することは困難であった。312号土坑は円形を呈する小型の土坑で、検出面から底面までは約50cmと深い。315号土坑は他の土坑の重複により平面形がすべて観察できず、不定形プランとした。また、この重複遺構内では検出面から床面までが最も浅い。遺構内遺物は確認で

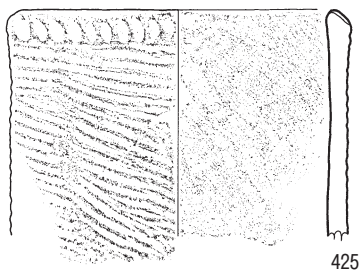
きなかった。

重複遺構87 (第252図)

C・D-40区で検出され、320号・321号土坑はⅩ層、369号集石はⅨ層で検出した。埋土の堆積状況等から、369号集石は320号土坑の南端を、321号土坑は320号土坑の西側を切ると判断した。遺構内遺物と判断したものは、320号土坑から土器2点であり、そのうち土器1点を図化した。

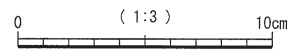


- ① 黒褐色砂質土 1mm程度の白色・黄色バミスを含む
- ②-1 暗褐色砂質土 締まりは弱く上部に①の土が混ざる
- ②-2 褐色粘質土 ②-3に比べて白色バミスを含み、締まりは有る
- ②-3 褐色粘質土 ②-2に比べて粘性は強い
- ③ 黒褐色砂質土 白色バミス中量、黄色バミス微量 層下部に褐色粘質土ブロック含む
- ④-1 暗褐色粘質土 白色バミス微量
- ④-2 暗褐色粘質土 白色・橙色バミス微量



425 : 346号土坑
 (28号竪穴建物跡)
 出土土器片と接合

426 : 347号土坑



第259図 重複遺構96・出土遺物

重複遺構88 (第253図)

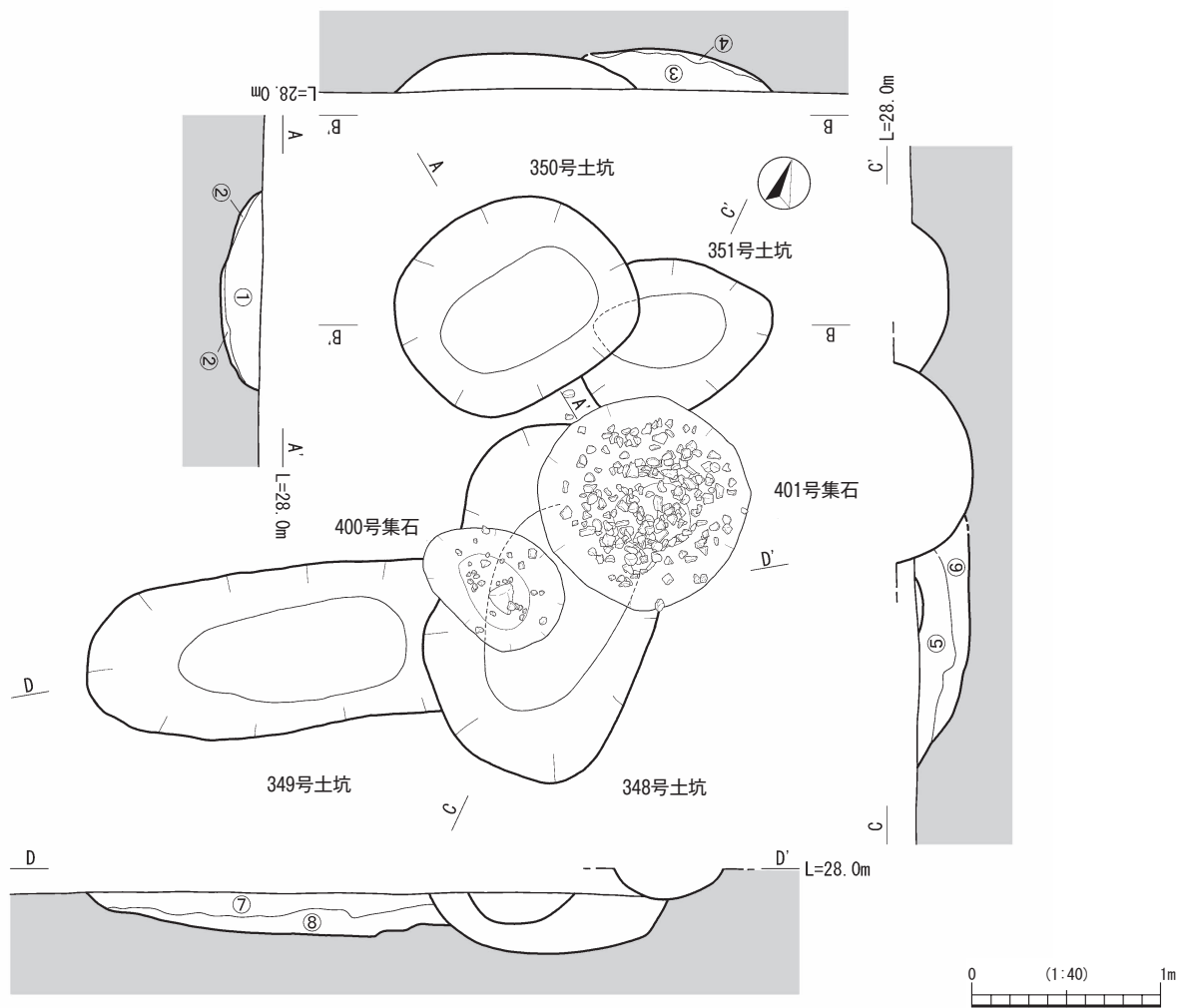
D-40区X層で検出した。324号土坑と371号集石とが重複している。埋土の堆積状況等から、371号集石が新しいと判断した。371号集石は集石とするには構成礫が少なく疑問も残るが、上部が掘削されたものとの発掘調査段階の所見に基づいて集石として報告している。遺構内遺物と判断したものは、324号土坑から土器2点であり、全て図化した。407は口縁部にキザミが2段施され、胴部は内外面共に貝殻条痕文が残る。

重複遺構89 (第253図)

D-40・41区X層で検出した。322号土坑と431号集石とが重複しており、埋土の堆積状況等から、431号集石が322号土坑の北側を切ると判断した。最終的な床面は、431号集石の方が深い。遺構内遺物は確認できなかった。

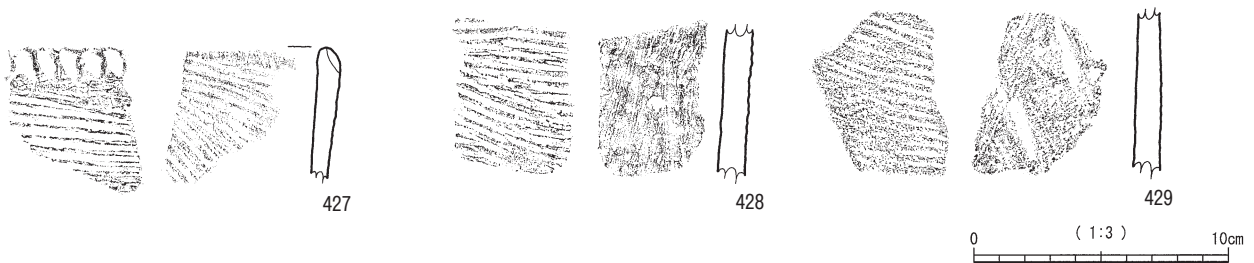
重複遺構90 (第254図)

D-40区で検出され、326号土坑はX層、373号集石はⅧb層で検出した。373号集石が326号土坑の南東端を切る。373号集石のほう若干上位で検出された。遺構内



- ① 黒褐色砂質土 2mm大の黄色バミス少量含む
- ② 灰黄褐色砂質土 ①の土が混ざりやや粘性が高い
- ③ 暗褐色砂質土 2~5mm大の黄色・白色バミスを含む
- ④ 褐色粘質土 やや粘性がある 微量の黄色バミスを含む
- ⑤ 黒褐色砂質土 白色バミス少量,黄色バミス微量,炭粒含む
- ⑥ 暗褐色粘質土 白色バミス微量,炭粒含む
- ⑦ 黒褐色砂質土 5mm大の黄色バミス,1~2mm大の白色バミス含む
- ⑧ にぶい黄褐色粘質土 全体的に浅黒く,1~2mm大の白色バミスを含む

427 : 348号土坑
 428 : 349号土坑
 429 : 350号土坑



第260図 重複遺構97・出土遺物

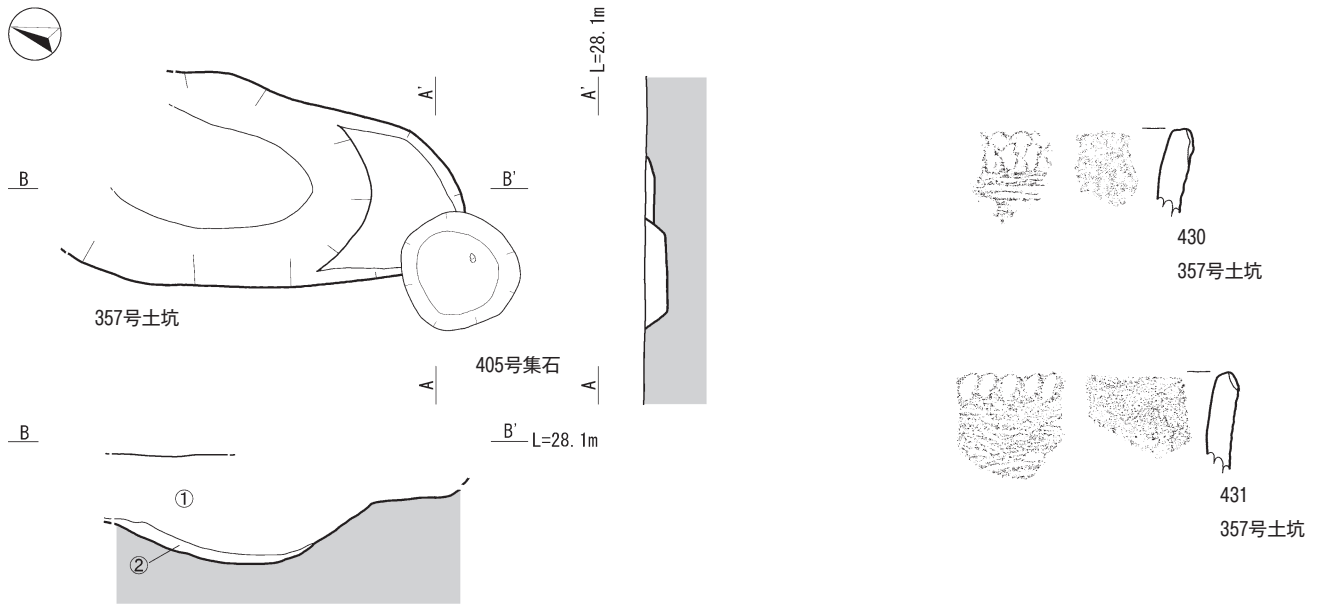
遺物は確認できなかった。

重複遺構91 (第254図)

D-40区で検出した。327号土坑と380号集石とが重複

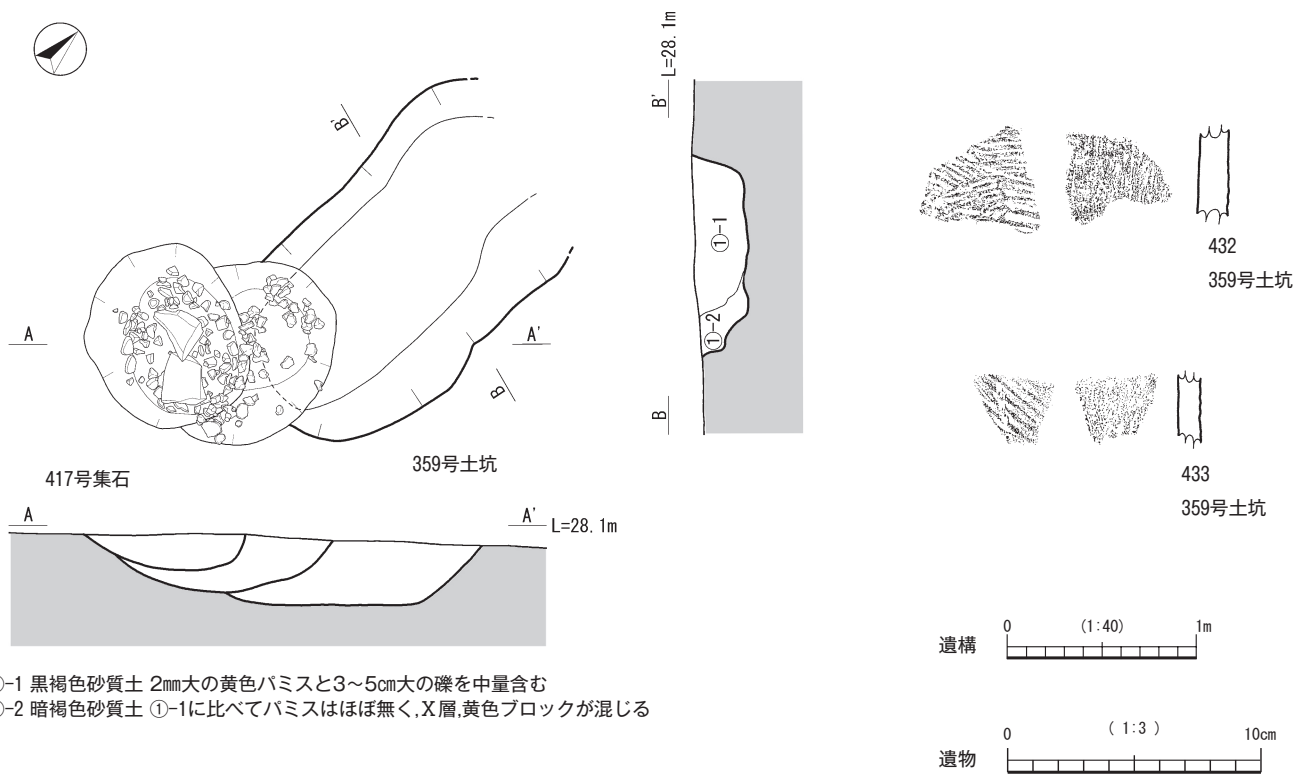
している。両者は検出面に差があり、380号集石がⅧ層中に、327号土坑がⅩ層正面で検出された。すなわち、当初は380号集石が単独で確認され、その後の掘り下げによって327号土坑のプランが確認され、長軸側での切

重複遺構98



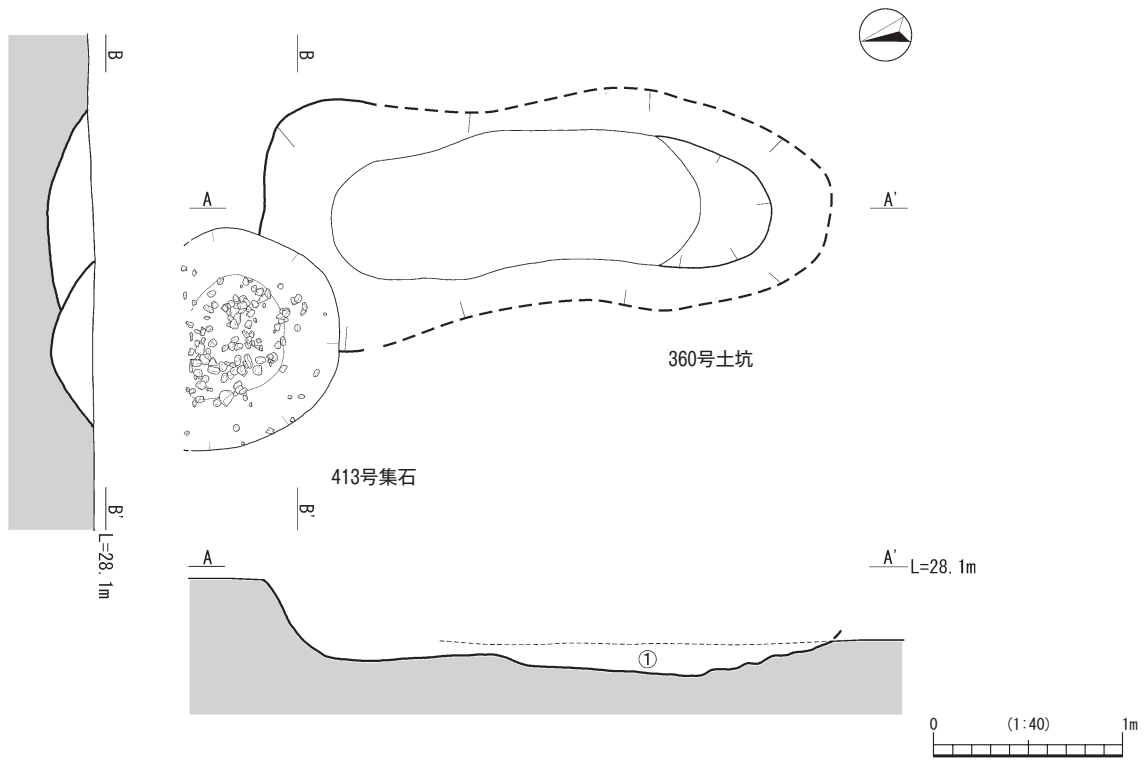
- ①黒褐色砂質土 白色・黄色バミス多量,炭多く含む 締まり強い
- ②暗褐色粘質土 黄色バミス少量,炭粒微量

重複遺構99

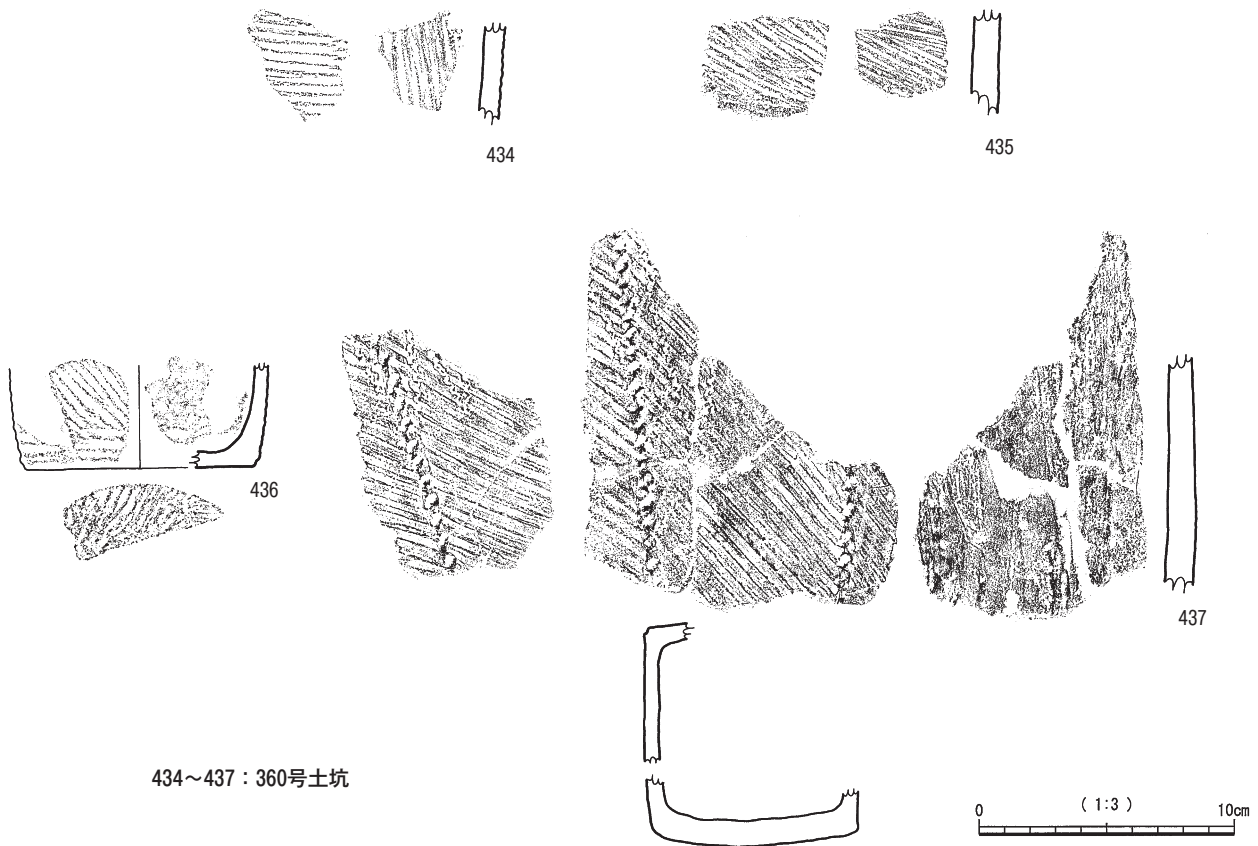


- ①-1 黒褐色砂質土 2mm大の黄色バミスと3~5cm大の礫を中量含む
- ①-2 暗褐色砂質土 ①-1に比べてバミスはほぼ無く,X層,黄色ブロックが混じる

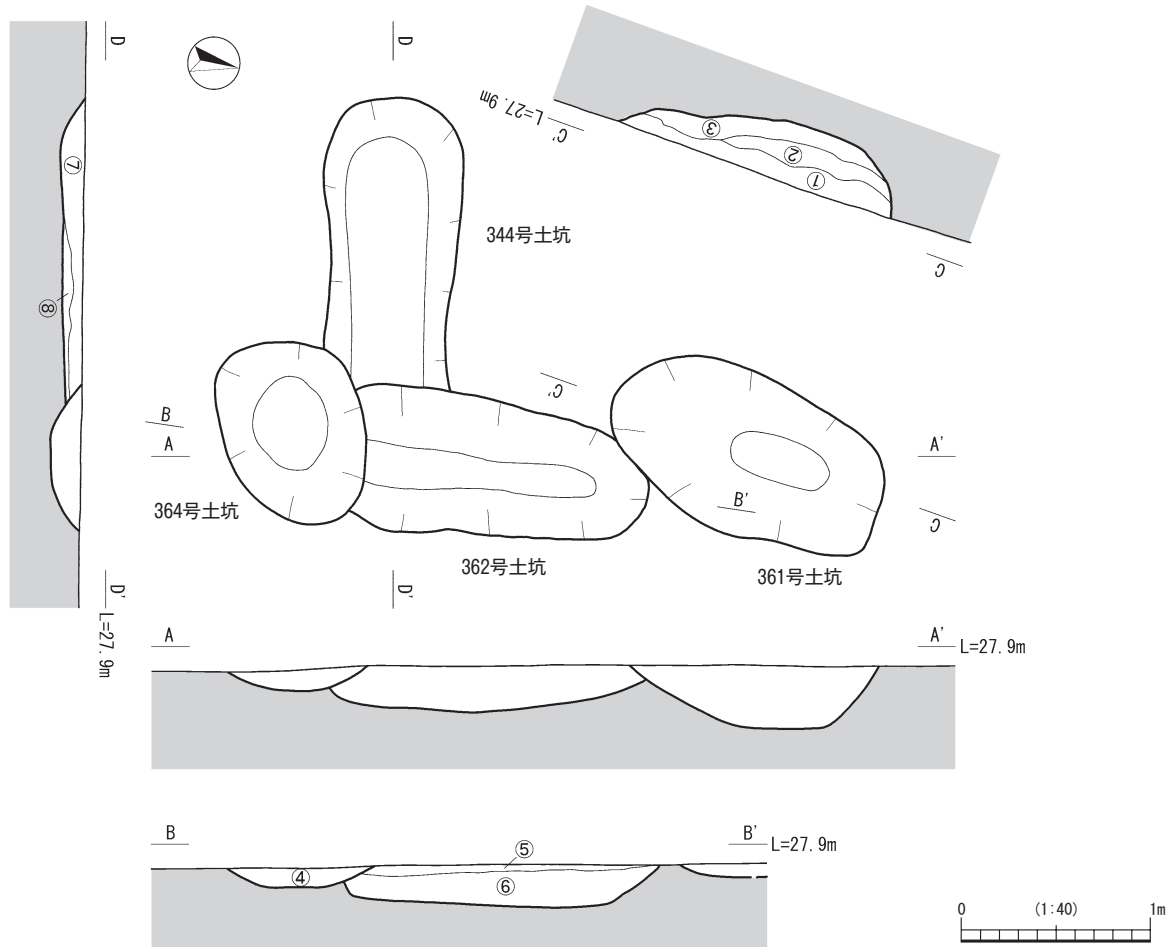
第261図 重複遺構98, 99・出土遺物



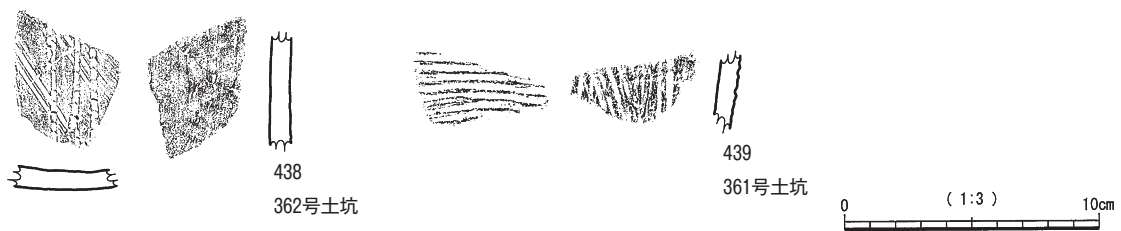
①暗褐色砂質土 2mm大の黄色バミスが点在し,全体的に白色バミスを含む



第262図 重複遺構100・出土遺物



- ①黒褐色土 締まり強い 粘性やや有り 3~5cm大の暗赤褐色粘土ブロックを30%含む 黒褐色土中に2mm大の白色バミス少量,2~3mm大の橙色バミス少量,5mm大の炭化物粒極微量含む
- ②極暗赤褐色粘土 締まり有り 粘性やや強い 5mm大の炭化物粒微量,2mm大の赤色焼土粒極微量含む XI層と色調異なり,立ち上がり明確
- ③極暗赤褐色粘土 締まりやや強い 粘性やや強い 含有物量②と同じ
- ④黒褐色砂質土 白色バミス少量,黄色バミス微量,炭粒微量
- ⑤黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量,2~3mm大の橙色バミス中量含む
- ⑥暗赤褐色粘土 締まりやや強い 粘性強い 1mm大の白色バミス微量,5mm大の炭化物粒微量含む
- ⑦暗褐色砂質土 1~2mm大の白色バミス,0.5~1cm大の黄色バミスを少量含む,⑧の暗褐色土が混ざる
- ⑧暗褐色砂質土 浅黒くやや粘性があるが,締まりがない

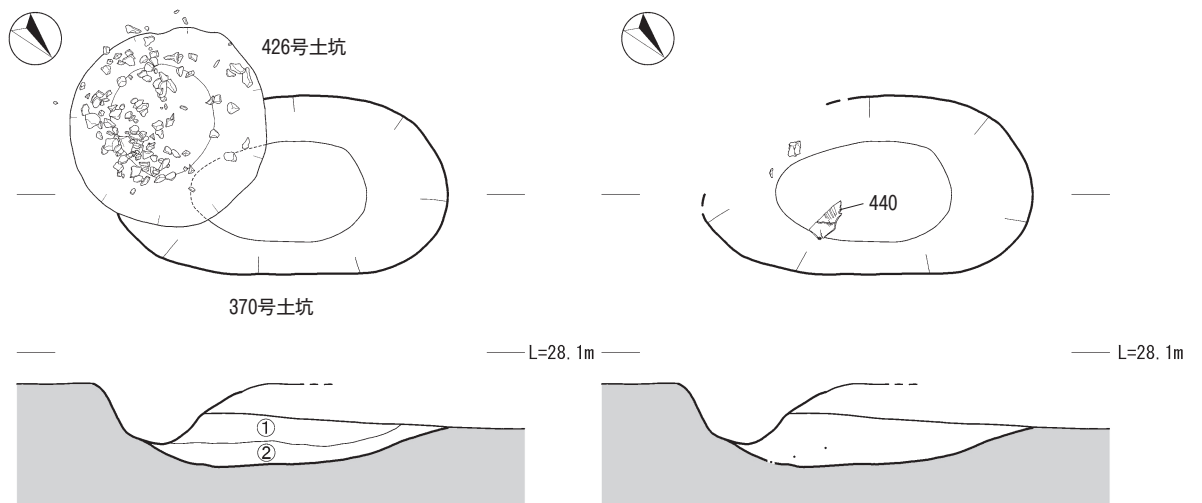


第263図 重複遺構101・出土遺物

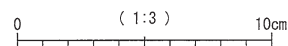
り合いが判明した。両者のレベル差は10cm程度である。327号土坑はやや大きめの楕円形プランで、床面は比較的平坦である。遺構内遺物と判断したものは327号土坑から土器3点であり、そのうち土器1点を図化した。

重複遺構92（第256図）

D-40区X層で検出した。25号竪穴建物跡、325号・328号土坑が重複しており、埋土の堆積状況等から、325号土坑が最も新しいと判断した。325号・328号土坑はいずれも25号竪穴建物跡の北側角を切る。325号土坑は検出面から床面までが約64cmであり、この重複遺構の中で



- ① 黒褐色砂質土 白色バミス少量 黄色バミス微量
- ② 暗褐色粘質土 締め弱い 白色・黄色バミス微量



第264図 重複遺構102・出土遺物

は最も深い。遺構内遺物と判断したものは、25号竪穴建物跡から土器11点、328号土坑から土器3点であり、そのうち25号竪穴建物跡から土器5点、328号土坑から土器2点図化した。

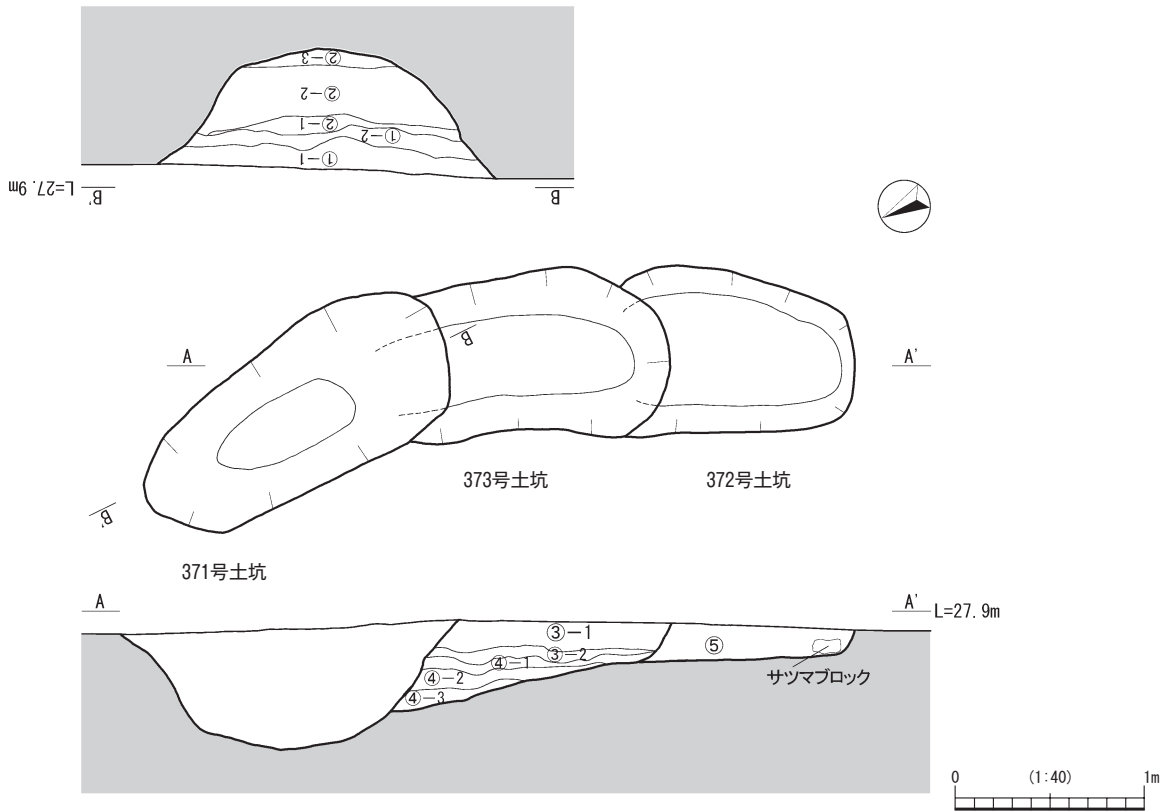
重複遺構93 (第255図)

E-40区で検出され、333号土坑はX層、396号集石及び394号集石はⅧb層で検出した。333号土坑が396号集石と394号集石とに切られているが、集石同士の新旧関係は不明である。なお、333号土坑は発掘調査段階で重複の確認は出来ず、整理作業段階で判明したものである。このため、333号土坑を切り込む396号集石及び394号集石の掘り込みは、整理作業時点での合成図である。333号土坑は略円形ないし隅丸形状のプランを呈し、中央部がやや不安定な床面から緩やかに壁面が立ち上がる。

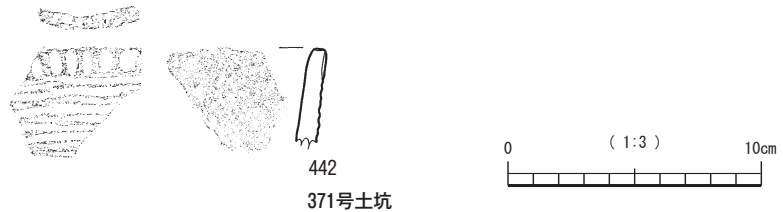
遺構内遺物と判断したものは、333号土坑から土器15点であり、そのうち土器5点を図化した。410と411は口縁部が外反して肥厚する。文様は、口縁部に小波状の条痕を横位に施文しその下に斜位の貝殻刺突文を施す。412は410・411の同一個体と思われる。小波状の横位貝殻条痕文の間に羽状貝殻刺突文を施文し、これらが横縞状に連続する。413は太くやや間延びした横位の山形押型文が施されている。

重複遺構94 (第257図)

E-40区X層で検出した。335号土坑と29号竪穴建物跡とが重複している。29号竪穴建物跡は隣接する28号竪穴建物跡と335号土坑に類似し、略円形で長軸が約160cm程度ある。竪穴となる可能性も考えられたが、小規模であるため土坑として取り扱った。床面は平坦で壁面は緩



- ①-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス中量, 1mm大の白色バミス多量含む
- ①-2 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量, 1mm大の白色バミス微量 XI層中量含む
- ②-1 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似
- ②-2 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似
- ②-3 黄褐色粘質土 締まり有り 粘性有り XI層類似 XⅢ層をブロック状に中量含む
- ③-1 黒褐色砂質土 2mm大の黄色バミスを含む 締まりが強い
- ③-2 暗褐色砂質土 ④の土が混ざる, バミスは少ない
- ④-1 にぶい黄褐色砂質土 やや柔らかく, 砂質ではあるが粘性は強い
- ④-2 暗褐色粘質土 ④-1に比べて柔らかく粘性は高い
- ④-3 暗褐色粘質土 ④-2に比べて粘性が強い
- ⑤ 黒褐色砂質土 ③-1に比べてバミスが少ない



第265図 重複遺構103・出土遺物

やかに立ち上がる。なお、335号土坑が29号竪穴建物跡を切る。遺構内遺物は確認できなかった。

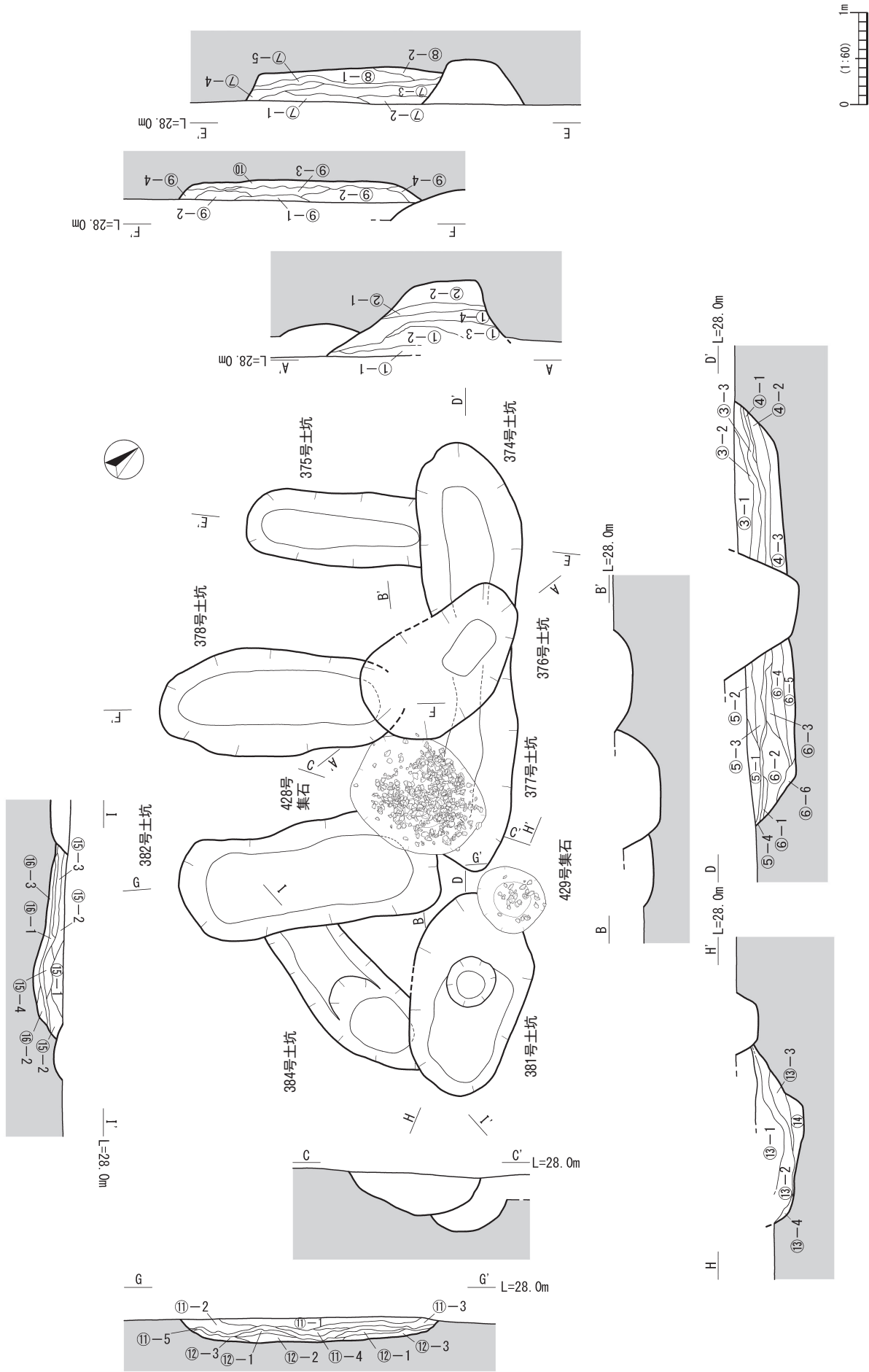
重複遺構95 (第258図)

E-40・41区X層で検出した。土坑5基が東西に広がりながら重複しており、発掘調査段階の位置情報を元に整理作業で復元した。埋土の堆積状況等から337号土坑が最も新しいと判断した。342号土坑は部分的にやや深く掘り下げられているが、その用途は不明である。遺構

内遺物と判断したものは、337号土坑から土器2点、342号土坑から土器1点、340号土坑から土器1点であり、全て図化した。423は口唇部上端にキザミが施されて小波状を呈する。口縁部外端に斜位の貝殻刺突文が施され、胴部は横位の貝殻条痕文である。

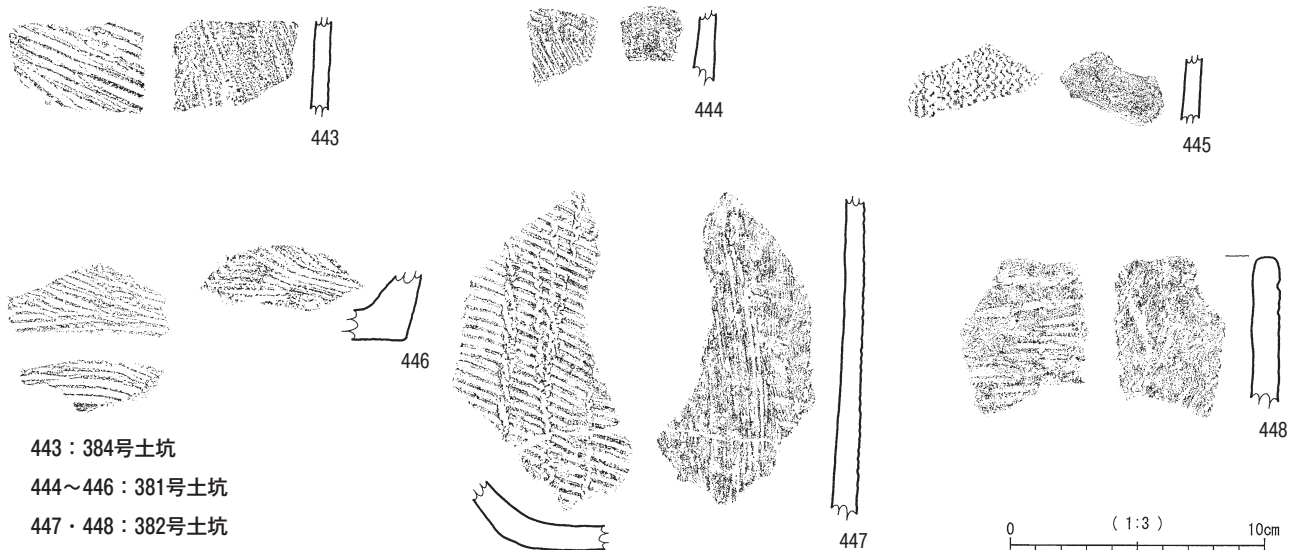
重複遺構96 (第259図)

E-40区X層で検出した。346号・347号土坑が重複している。埋土の堆積状況等から、347号土坑が346号土坑



第266图 重複遺構104

- ①-1 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス微量,2mm大の橙色バミス微量含む
- ①-2 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス微量,2~4mm大の橙色バミス中量含む,バミス含有量増加
- ①-3 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス多量,2~4mm大の橙色バミス中量,2~4mm大の炭化物少量含む
- ①-4 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス少量,2mm大の橙色バミス中量含む
- ②-1 暗赤褐色粘土 締まり強い 粘性非常に強い 1mm大の白色バミス微量,5mm大の黄色バミス多量,1mm大の白色バミス多量含む
- ②-2 灰褐色粘土 締まり強い 粘性非常に強い 1mm大の白色バミス微量
- ③-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3~5mm大の黄色バミス多量,1mm大の白色バミス多量含む
- ③-2 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3~5mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス少量,X層微量含む
- ③-3 暗褐色砂質シルト 締まり有り 粘性有り VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量,XI層多量含む
- ④-1 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 黒褐色土(VIIa層)微量含む
- ④-2 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子少量,1mm大の白色粒子微量含む
- ④-3 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子微量含む
- ⑤-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス多量,1mm大の白色バミス多量含む
- ⑤-2 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス多量含む
- ⑤-3 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量,1mm大の白色バミス微量,XI層微量含む
- ⑤-4 暗褐色砂質シルト 締まり有り 粘性有り VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量,XI層多量含む
- ⑥-1 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 黒褐色土(VIIa層)微量含む
- ⑥-2 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子中量,赤褐色土(XI層)少量含む
- ⑥-3 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子少量,赤褐色土(XI層)中量含む
- ⑥-4 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1~5mm大の白色粒子少量,1mm大の白色粒子微量,赤褐色土(XI層)微量含む
- ⑥-5 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子少量含む
- ⑥-6 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似
- ⑦-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス多量,1mm大の白色バミス多量含む
- ⑦-2 黒褐色粘質土 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス中量含む
- ⑦-3 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス中量,1mm大の白色バミス中量,3mm大の軽石,XI層少量含む
- ⑦-4 褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い IX層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス中量,XI層中量含む
- ⑦-5 暗褐色砂質シルト 締まり有り 粘性有り VIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス微量,XI層大量含む
- ⑧-1 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1~3mm大の白色粒子少量,赤褐色土(XI層)少量含む
- ⑧-2 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子微量含む
- ⑨-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス少量含む
- ⑨-2 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス多量,1mm大の白色バミス多量含む
- ⑨-3 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 1mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス少量,XI層を微量含む
- ⑨-4 褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い IX層類似 3mm大の黄色バミス微量,1mm大の白色バミス微量,XI層を微量含む
- ⑩ 赤褐色粘質土 締まり弱い 粘性強い XI層類似 黒褐色土多量含む
- ⑪-1 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3~5mm大の黄色バミス中量,5mm大の橙色バミス微量,1mm大の白色バミス微量含む
- ⑪-2 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス多量,1mm大の白色バミス多量含む
- ⑪-3 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量含む
- ⑪-4 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量,XI層少量含む
- ⑪-5 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量,XI層多量含む
- ⑫-1 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の黄色バミス微量含む
- ⑫-2 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1~5mm大の白色粒子微量,黒褐色土少量含む
- ⑫-3 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 黒褐色土少量含む
- ⑬-1 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1~2mm大の白色バミス微量,2~5mm大の橙色バミス少量,5mm大の炭化物少量含む
- ⑬-2 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1~2mm大の白色バミス少量,2~5mm大の黄色・橙色バミス多量,0.5~2cm大の炭化物多量含む
- ⑬-3 黒褐色土 締まり強い 粘性弱い 1~2mm大の白色バミス少量,2~5mm大の黄色・橙色バミス多量,0.5~2cm大の炭化物多量含む
- ⑬-4 暗褐色土 締まり強い 粘性弱い 1mm大の白色バミス微量,黄色・橙色バミスは一切含まず
- ⑭ 暗赤褐色粘土 締まり強い 粘性弱い 炭化物粒が浸透し黒色強い
- ⑮-1 黒褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス中量含む
- ⑮-2 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス少量含む
- ⑮-3 褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い IX層類似 3mm大の黄色バミス少量,1mm大の白色バミス中量含む
- ⑮-4 暗褐色砂質シルト 締まりやや強い 粘性やや弱い VIIa層類似 3mm大の黄色バミス微量,XI層中量含む
- ⑯-1 赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子少量含む
- ⑯-2 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 赤褐色土(XI層)少量,1mm大の白色粒子少量含む
- ⑯-3 暗赤褐色粘質土 締まりやや弱い 粘性やや強い XI層類似 1mm大の白色粒子微量含む

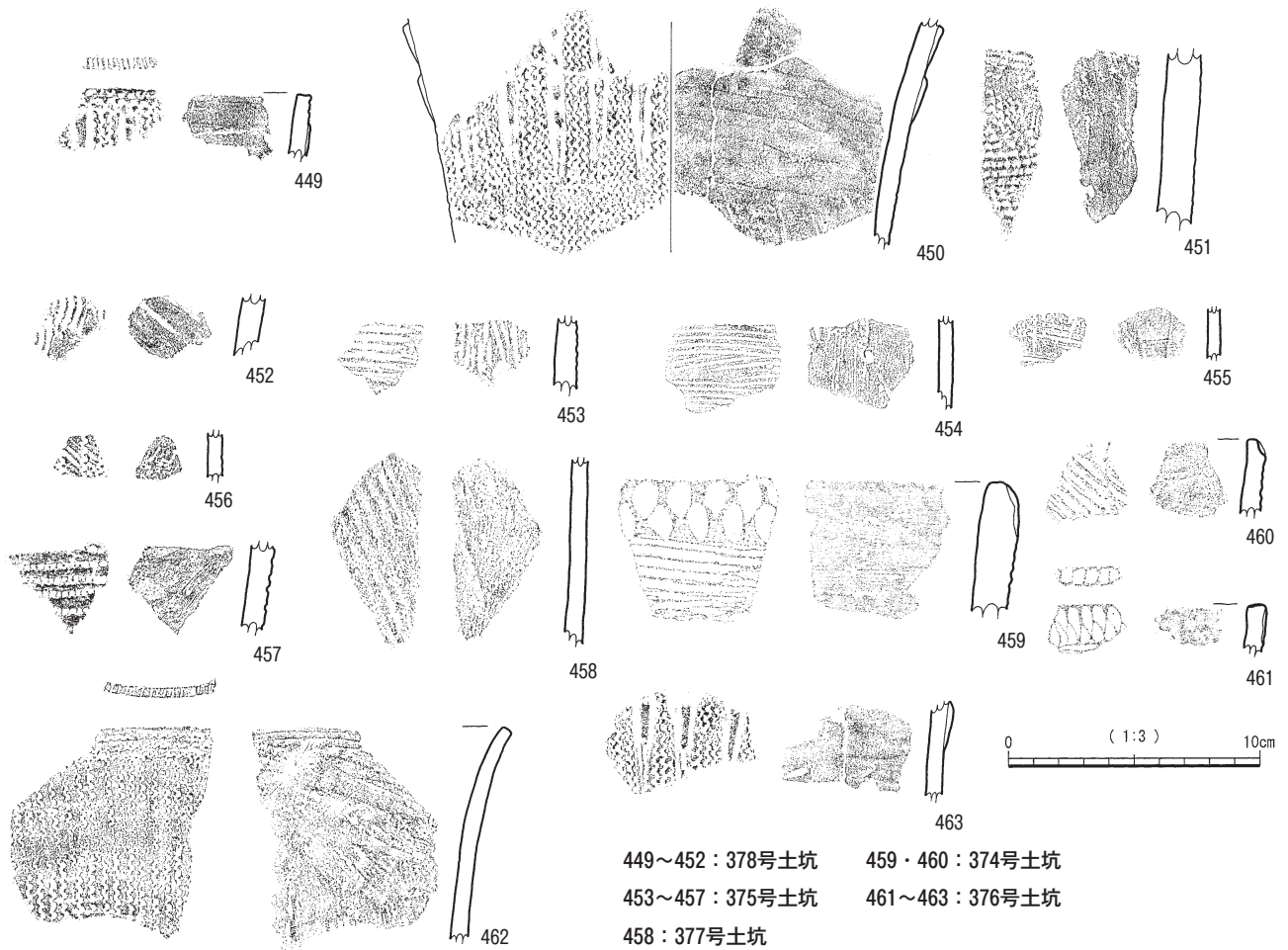


443 : 384号土坑

444~446 : 381号土坑

447・448 : 382号土坑

第267図 重複遺構104出土遺物①



第268図 重複遺構104出土遺物②

の東壁を切ると判断した。347号土坑は埋土中及び床面付近から礫や土器が出土している。また、346号土坑は噴砂によって一部攪乱を受けている。遺構内遺物と判断したものは、347号土坑から土器7点、346号土坑から土器2点であり、そのうち347号土坑から土器1点、346号土坑から土器1点を図化した。

重複遺構97 (第260図)

E・F-40区で検出され、401号集石はⅧb層、それ以外の遺構はⅩ層で検出され、発掘調査段階の位置情報を元に整理作業で復元した。土坑4基と集石2基が重複しており、集石2基が主に348号土坑を切る。350号土坑は隅丸方形を呈し、その他の土坑はおよそ楕円形プランを呈する。348号土坑の埋土⑤・⑥の境目付近からは礫が出土している。遺構内遺物と判断したものは、349号土坑から土器1点、348号土坑から土器2点、350号土坑から土器2点であり、そのうち349号土坑から土器1点、348号土坑から土器1点、350号土坑から土器1点を図化した。

重複遺構98 (第261図)

F-40・41区Ⅹ層で検出した。357号土坑と405号集石とが重複している。405号集石が357号土坑の南端を切る。357号土坑は、楕円形プランで、南側に検出面から浅い掘り込みを有して北側が深くなる。この2段掘りについては、北側が調査区外へと延びているため全体の形状は判断できなかったが、調査区境付近で床面が浅く立ち上がるため、連穴土坑や落とし穴などとは異なると判断できる。遺構内遺物と判断したものは、357号土坑から土器3点であり、そのうち土器2点を図化した。

重複遺構99 (第261図)

F-41区で検出され、359号土坑はⅨ層上面からⅩ層にかけて、417号集石はⅧb層で検出した。発掘調査時は集石を先に確認し、これらを調査した後に359号土坑を確認した。359号土坑は調査区境へと東側の短軸が延びており全体形状は不明であるが、およそ楕円形プランを呈すると思われる。遺構内遺物と判断したものは、

359号土坑から土器2点であり、全て図化した。

重複遺構100 (第262図)

E・F-41区で検出され、360号土坑はX層、413号集石はⅧb層で検出した。ただし、360号土坑の北側はⅧb層で検出している。埋土の堆積状況等から413号集石が新しいと判断した。調査区境で南側部分が検出されたため、可能な限り拡張して全体形状の把握に努めた。その結果、北側では検出面(Ⅷb層)から床面まで約40cmの深さがあることがわかったが、南側の大部分はX層上面での検出であったために、検出面から床面までが10cm程度と浅い。また、360号土坑の埋土中からは3～5cm大の凝灰岩破碎礫が出土している。遺構内遺物と判断したものは、360号土坑から土器6点であり、そのうち土器4点を図化した。437は、角筒形を呈する。斜位の貝殻条痕文の上に貝殻刺突文を重ねる。この貝殻刺突文は胴部下半には及ばない。角部には短い貝殻刺突文が施される。

重複遺構101 (第263図)

E・F-40・41区X層で検出した。344号・361号・362号・364号土坑の4基の土坑が重複している。364号土坑は略円形プランであるが他の土坑は楕円形プランを呈する。344号土坑が古く、これを362号土坑が切り、さらに、364号土坑と361号土坑とが切る。361号土坑は北側へ床面が若干傾斜しているが、床面等には焼土や炭化物等が見られなかったため、土坑として取り扱った。遺構内遺物と判断したものは、361号土坑から土器1点、362号土坑から土器4点であり、そのうち361号土坑から土器1点、362号土坑から土器1点を図化した。

重複遺構102 (第264図)

E-41区で検出され、370号土坑はX層、426号集石はⅧa層で検出した。埋土の堆積状況等から、426号集石が370号土坑の南側を切ると判断した。370号土坑は楕円形プランで上下2層の埋土を有する。壁面の立ち上がりは緩やかで、床面よりやや上位に土器片が出土している。遺構内遺物と判断したものは、370号土坑から土器16点であり、そのうち土器2点を図化した。440は口縁部に縦位の貝殻刺突文を施し、胴部は斜位の貝殻条痕文の上に貝殻刺突文を重ねる。

重複遺構103 (第265図)

D-40・41区X層で検出した。371号～373号土坑が重複している。埋土の堆積状況等から、371号土坑が373号土坑を切り、373号土坑が372号土坑を切ると判断した。373号土坑の床面は北側へ大きく傾斜しており、連穴土坑の特徴を有するが、従穴部が想定される部分を371号

土坑に切られているために断定できず、焼土や炭化物等の集中も確認できなかった。372号土坑の南端には薩摩火山灰が見られたが、出土位置や土坑の規模等からブリッジとは考えにくい。371号土坑は楕円形プランで、検出面から床面までが60cm以上と深い。遺構内遺物と判断したものは、371号土坑から土器1点であり、図化した。

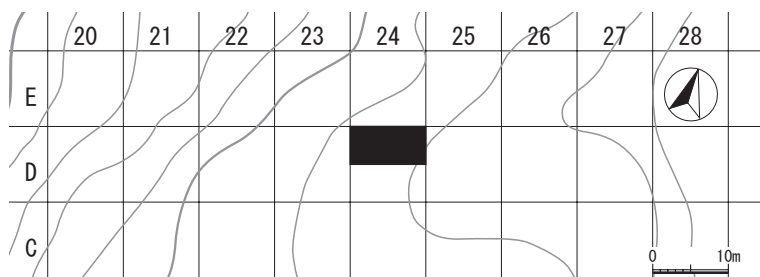
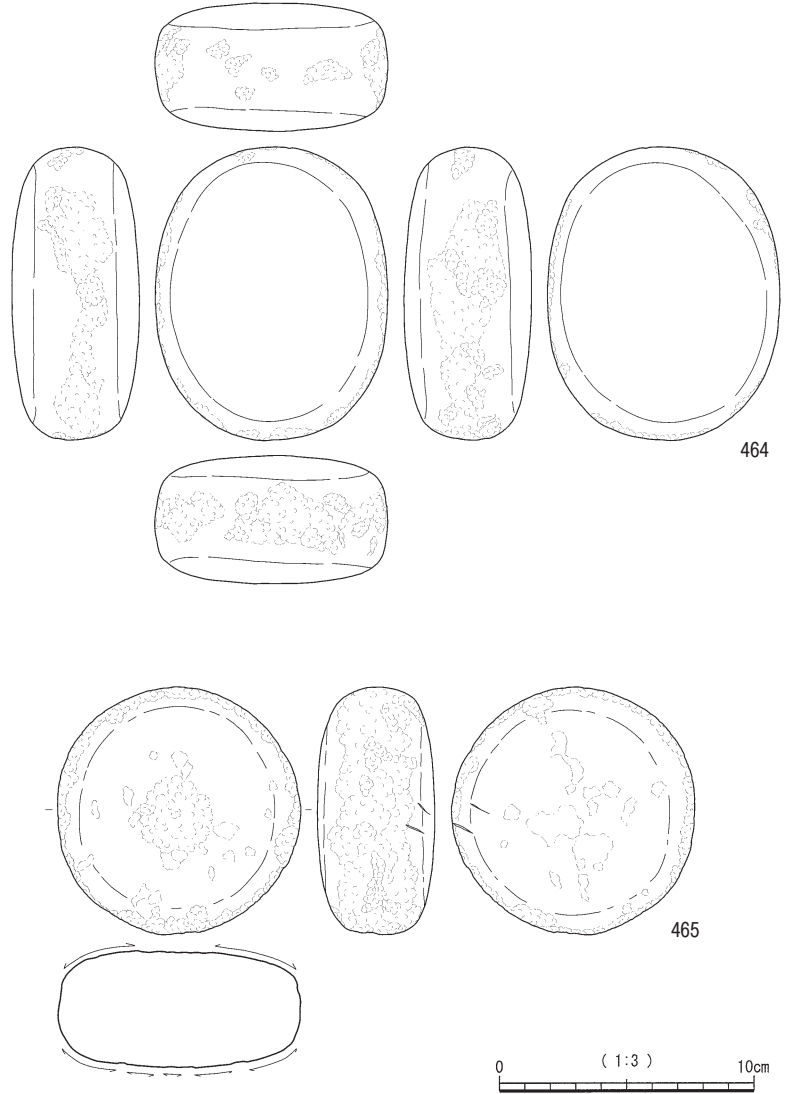
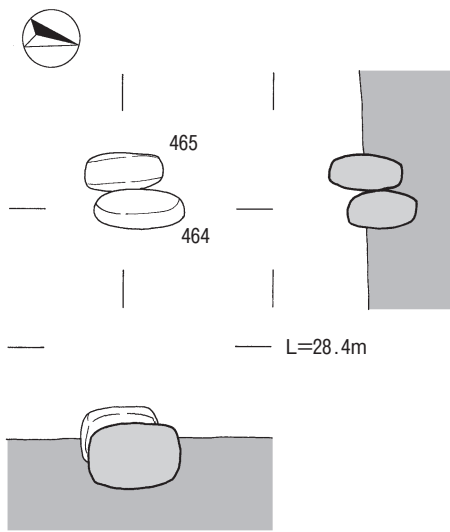
重複遺構104 (第266図)

D-40・41区で検出され、集石と376号・381号土坑はⅧb層、その他の土坑はX層で検出した。土坑8基と集石2基が重複しており、発掘調査段階の位置情報を元に整理作業で復元した。埋土の堆積状況等から、集石2基が最も新しいと判断した。土坑は全て楕円形プランで、381号土坑は部分的に深く掘るがその用途は不明である。また、376号土坑は埋土上部から、381号土坑は埋土中から礫が出土している。377号土坑と374号土坑は、調査当時は同一遺構の可能性も考えられたが、埋土の堆積状況が異なること、中央を376号土坑に切られて新旧関係の検討が困難であること等から、それぞれ別の土坑として取り扱った。383号土坑は埋土中から礫が多数出土し、集石の土坑である可能性も考えられたが、埋土堆積状況等から土坑であると判断した。遺構内遺物と判断したものは、376号土坑から土器5点、381号土坑から土器4点、378号土坑から土器7点、382号土坑から土器5点と石器1点、377号土坑から土器3点、384号土坑から土器2点、374号土坑から土器3点、375号土坑から土器5点であり、そのうち376号土坑から土器3点、381号土坑から土器3点、378号土坑から土器4点、382号土坑から土器2点、377号土坑から土器1点、384号土坑から土器1点、374号土坑から土器2点、375号土坑から土器5点を図化した。450は逆三角形形状のクサビが2段貼付され、胴部は密接した貝殻刺突文が施される。327の口唇部は平坦でキザミが施される。口縁部は貝殻刺突文が横位に3条めぐり、胴部は、ナデ調整が行われた後に密接した縦位の貝殻刺突文が施される。

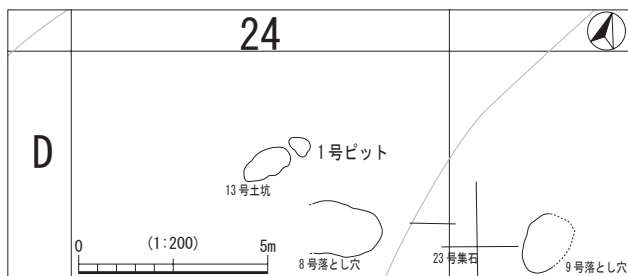
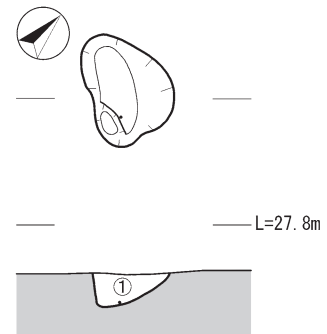
7 その他の遺構

①集積

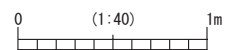
E-32・33区Ⅷb層で検出された。2点の磨石が立位で検出されたが、掘り込み等を確認することは出来なかった。類別できる土器等を含まないことから、詳細な時期については不明である。464は、やや六面体磨石に近い。465は、円形を呈する。側面部と表面中央に敲打痕が残る。



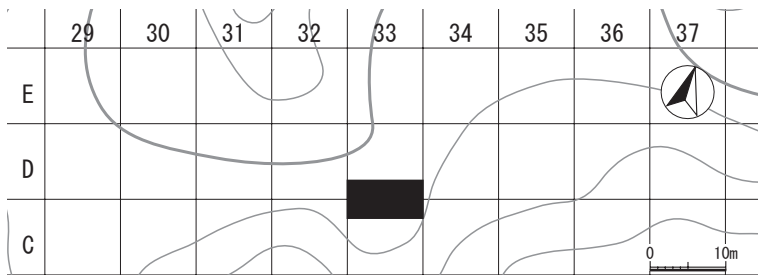
1号ピット



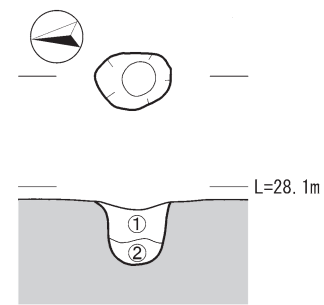
①暗褐色土 締まりやや弱い 粘性やや強い Ⅷ層とⅪ層の混土層、中心部にⅪ層が集中する13号土坑の④に比べてⅪ層が多くなる 5mm大の黄色バミスを少量、1mm大の白色バミスを多量に含む



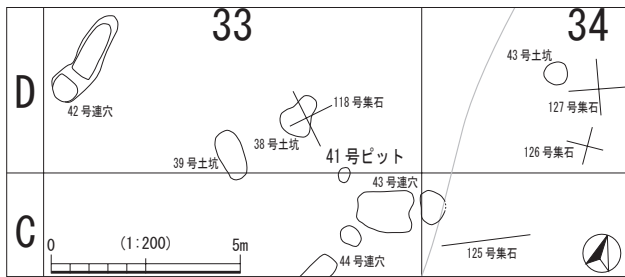
第269図 集積, 1号ピット, 集積出土遺物



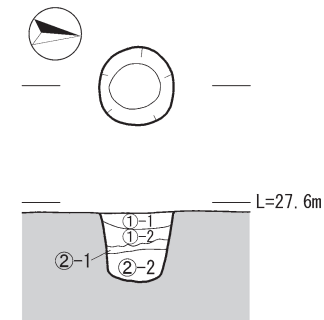
41号ピット



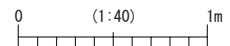
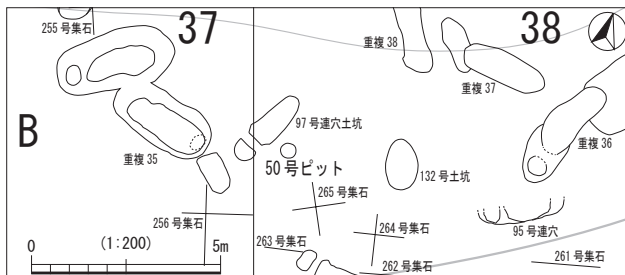
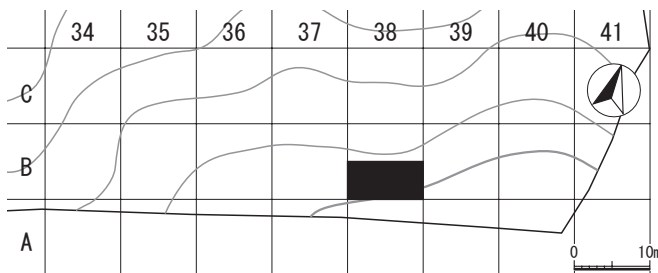
- ① 黒色砂質土 白色パミス多量, X層ブロック多量, 炭化物粒少量含む
- ② 暗赤褐色粘質土 黒色砂質土粒少量含む



50号ピット



- ①-1 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り 黄褐色パミス少量, 白色パミスを微量含む
- ①-2 黒褐色砂質シルト 締まり有り 粘性やや有り X層少量, 黄褐色パミス・白色パミスを微量含む
- ②-1 にぶい黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り XI層主体に白色パミスと炭化物を微量含む
- ②-2 灰黄褐色粘質土 締まりやや有り 粘性有り? 層主体に白色パミスと炭化物を微量含む



第270図 41号, 50号ピット

②ピット

1号ピット (第269図)

D-24区X層上面で検出した。長軸56cm, 短軸44cmを測り, 南壁が底面から垂直に立ち上がる。13号土坑に隣接し, 約1.2m南東には8号落とし穴が検出されている。炭化物・焼土・遺物の出土は確認されなかった。

41号ピット (第270図)

C・D-33区X層で検出した。43号連穴土坑の西側に位置する。長軸40cm, 短軸30cmを測る。炭化物・焼土・遺物の出土は確認されなかった。

50号ピット (第270図)

B-38区X層で検出した。西側に連穴土坑, 南側に集石が多く見られる。長軸41cm, 短軸38cmを測る。炭化物・焼土・遺物の出土は確認されなかった。

公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（48）
東九州自動車道建設（志布志IC～鹿屋串良JCT間）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

春日堀遺跡 2（縄文時代早期編） 第 2 分冊

発行年月 2022年3月

編集・発行 鹿児島県教育委員会
公益財団法人鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号
TEL 0995-70-0574 FAX 0995-70-0576

印 刷 株式会社 トライ社
〒892-0834 鹿児島市南林寺町12-6
TEL 099-226-0815 FAX 099-225-7933

